近世国学の展開と荷田春満の史料的研究

課題番号15320086

平成15年度～平成18年度科学研究費補助金
（基盤研究（B）（2））研究成果報告書

平成19年３月

研究代表者　根岸　茂夫
國學院大學文学部　教授

はしがき

戦後における国学の研究は、国学者の思想や著作のテキスト論が主流となって水準が高められてきた。家や地域に根ざした新たな史料の発掘や地道な整理が注目されるようになったのは、近年になってからである。宮地正人氏を中心とした中津川の国学者関係史料の調査や平田家文書の調査などは、注目された大きな成果といえよう。本研究「近世国学の展開と荷田春満の史料的研究」も、史料の地道な整理と基礎的な研究を目的としたものである。

本研究は、『新編荷田春満全集』編纂の過程で、京都市伏見区に鎮座する東丸神社所蔵の東羽倉家文書を拝見できたことにより開始された。膨大な史料群を目の辺りにし、本格的な整理と調査を行わなければ、その全貌が把握できないだけでなく、全集編纂に必要と思われる史料だけを抜き取り調査をすると、史料群が崩れることにもなるからである。整理の過程で 1 点ずつ中性紙の封筒に入れ、破損の激しい史料は裏打ちを施し、桐箱 120 箱に収納して保存措置をとりながら調査を行った。史料は 7000 点を超えたが、改めて 1 点ずつの史料を確認し検討する調査を重ねるごとに、荷田春満の自筆と判定できる史料が増えていき、国学の範疇に入る神道・文学・歴史・故実関係や、春満の業績として知られている律令研究だけではなく、漢学や軍学・武術にまで春満の研究が及んでいるさまを確認できた。

かつ、春満を生んだ伏見稲荷社御殿預りという東羽倉家の由緒や家伝の神道、神職としての職掌に関わる史料も、国学成立の問題を考える上で無視できないことを認識した。以後の東羽倉家の代々も、学統を守りながら時代の展開に従って学問を発展させており、史料群を保存しながら編纂し、新たな史料を作成していた。これらすべての史料の整理とその把握に時間を費やしたが、この基礎的な作業により、国学研究にとって貴重な史料群の保存措置に貢献できた意義は大きい。本報告書では、基礎的な作業として作成した史料目録と、研究会を開きながら解読し、国学成立の社会的背景を検討した門人書状の一部を翻刻した。書状からは享保期の学問や政治の問題、春満を中心とした多様な人間関係と情報のネットワークが、従来の認識とは異なる姿で浮かび上がってくる。さらに調査の途中で作成し，参考になると考えられる系図や備要の一部を収録した。研究報告はすでに多くを発表しており、一覧にするに止めた。

本研究は、さまざまな機関の方々の御配慮を賜ったが、とりわけ貴重な史料群の調査と整理を許可された東丸神社松村準二御夫妻の御理解と御支援の賜物であり、また伏見稲荷大社にもさまざまな御高配を賜った。衷心より感謝の意を表する次第である。

目　次

はしがき

研究組織 i

交付決定額 i

研究の計画と概要 ii

研究発表 v

口頭発表 vii

出版物 viii

研究会活動 x

研究報告 1

東丸神社所蔵荷田信郷関係漢詩詠草群について　一戸　渉 7

荷田家（東羽倉家）系図　谷川　愛 15

東丸神社所蔵　東羽倉家文書 19

荷田春満宛書状一覧 173

史料　荷田春満宛書状 ..... (1)

研究組織

研究代表者: 根岸茂夫 (國學院大學文学部教授)

研究分担者: 青木周平 (國學院大學文学部教授)

研究分担者: 西岡和彦 (國學院大學神道文化学部講師)

研究分担者: 鈴木淳 (国文学研究資料館副館長)

研究分担者: 古相正美 (中村学園大学人間発達学部教授)

交付決定額(配分額)

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
平成15年度	5,200,000	0	5,200,000
平成16年度	3,200,000	0	3,200,000
平成17年度	1,200,000	0	1,200,000
平成18年度	700,000	0	700,000
総　計	10,300,000	0	10,300,000

研究の計画と概要

1 本研究の内容

本研究は、近世国学の基礎を構築した荷田春満(寛文9年<1669>～元文元年<1736>)研究の基礎的資料を蒐集整理し、彼の著作を蒐集し、その過程で京都市伏見区の東丸神社(祭神荷田春満)所蔵の東羽倉家文書(荷田春満の生家)を調査・整理し、史料の全貌を明らかにするとともに、歴史学・文学・神道史・法制史・書誌学など、多様な方面から学際的な考察を加え、その成果を『新編荷田春満全集』に、反映させようとするものである。

2 本研究の意義と当該領域の研究に貢献できる点

荷田春満(羽倉信盛)は、近世前期に山城国伏見稲荷社の御殿預り羽倉(荷田)信詮(近世以前の伏見稲荷社において、羽倉家には御殿預りの東羽倉家と目代の西羽倉家があり、また分家も存在した。正式には羽倉家であるが、西羽倉家と区別するため、以下東羽倉家と称する。)の二男として生まれ、和漢の書を好んで神祇・文学・歴史・有職・法制など多岐にわたる研究を志し、和歌を古道の復活として位置づけ、復古的精神と国学の研究を唱えた。元禄13年(1700)以降しばしば江戸に下向し、幕府に近づき、享保改革における書籍蒐集や律令研究に携わり、また荷田在満・杉浦国頭・賀茂真淵をはじめ多くの門人を育成し、後の国学の発展に大きな影響を与えた。彼の業績は、近世の和学・国学さらに学問・思想などにわたり、近世の文化・社会を考える上で無視することはできない。

ただ、国学の四大人と称される荷田春満・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤のうち、春満のみが著作集が完成していないことに象徴されるように、研究も少なく基本史料が最も知られていないのが春満であった。荷田春満の著作は、昭和3年～7年に『荷田全集』7巻にまとめられたが、著作のすべてを網羅したものではなかった。昭和19年『荷田春満全集』10巻が計画されたが、第4～7巻、第10巻の4巻分を出版したまま、戦争中の状況の中で刊行が中止されてしまった。その後春満の著作は、『日本思想大系』39(岩波書店、1972)、『神道大系』論説編、復古神道I(神道大系編纂会、1983)などに掲載されたものの、新たな史料の発掘はなかった。それは研究の進展にも影響しており、荷田春満の研究に取り組んだのは、戦前からの研究者三宅清氏、羽倉敬尚氏など僅かに過ぎなかった。

荷田春満関係史料が最も現存するのは、東丸神社所蔵の東羽倉家文書である。かつて『荷田全集』等の編纂には、春満の養子在満の家に伝来した麻布氷川神社所蔵の史料が一部用いられていたが、昭和20年の東京大空襲により焼失した。関係史料が各地の図書館・資料館などに所蔵されているとはいえ、春満の生家東羽倉家に伝来した史料が最も基本的な史料である。東羽倉家文書は、『荷田全集』等の編纂にもその一部が使用されたものの、戦前に三宅清氏等一部の研究者が利用したのみで、諸般の事情から見ることはできなかった。今回、東丸神社宮司松村準二御夫妻の多大の御協力のもとに、史料全般にわたる調査が許され、荷田春満研究の基礎的な作業として、その全貌を把握することが可能となったのである。それは、近世における前期国学の研究に新史料を提供するとともに、研究の新たな

発展を促すことになると確信している。

3 成果と課題

本研究の第一の成果は、東羽倉(荷田)家文書 7283 点(目録番号として 5207 件)の史料の全貌を確認できたことである。史料からは、従来知られていない荷田春満関係史料が膨大に発見された。自筆の草稿・写本を始め、弟子たちが講義を筆記した箚記、和歌詠草・懐紙・短冊などであり、『荷田全集』などの底本以外の史料が多く見出せた。特に注目されるのは、春満の著作『万葉童子問』『伊勢物語童子問』の草稿が、享保期の弟子たちの書状の紙背に執筆されていたことである。そこからは、江戸における門人たちの活動、春満の指導と教育のあり方、幕府の書物蒐集政策に対する春満の関与、春満を取り巻く大名・旗本から神主・商人などを含むネットワークの存在などが浮かび上がってくる。また、東羽倉家文書は春満関係史料のみが注目されていたが、その学統に連なる門人たち、弟の羽倉信名、その子信章、伏見稲荷社の社務大西親盛などの関係史料、さらに近世後期の東羽倉家の当主である信郷と、彼を取り巻く上方文人たちのネットワークを物語る和歌詠草・漢詩文などが大量に見出せ、春満以降の学統の継承や、近世後期の新たな展開の様子を知ることができた。かつ、東羽倉家が伏見稲荷社の御殿預かりという社殿や社領の管理を担当する家柄という事情から、中近世の伏見稲荷社の関係史料および寛文から明治まで 200 年余におよぶ東羽倉家日記、荷田家の由緒を示す伝来の神道関係史料などが存在している。これらの史料から荷田春満を生んだ東羽倉家の由緒や伝統、伏見稲荷社における職掌と春満を取り巻く学問や社会・政治の特質、彼の学統と近世後期の上方文人社会の様相など、多様な問題点が膨大な史料から浮かび上がってきたのが、第一の成果である。

第二の成果は、東羽倉家文書に見えない史料を含めて、春満関係史料を各地の所蔵機関で調査、対校することができたことである。國學院大學図書館、無窮会、浜松市立賀茂真淵記念館、浜松市縣居神社、天理図書館、京都大学図書館、伏見稲荷大社、土佐山内家宝物資料館の春満関係史料を収集しながら、東羽倉家文書と比較検討することができた。

第三の成果は、以上の調査・検討を『新編荷田春満全集』の編纂に反映することができたことである。いままで出版された第六巻までに、60 点の史料が集録されているが、うち 52 点が東羽倉家文書であり、他の史料も調査・検討、東羽倉家文書との比較検討を経て他機関の史料を採用したものであり、近世国学についての基礎的な文献の公開に寄与したといえる。

第四の成果は、ホームページ(www2kokugakuin.ac.jp/kada/)「近世国学の展開と荷田春満の史料的研究」を作成し、調査・研究の成果の一部を公開できたことである。科学研究費による研究期間が終了した後も、ホームページをさらに充実させ研究を公開するつもりである。

以上の課題として、東羽倉家文書の分析・検討を重ねることにより、第一に、春満の学問をさらに掘り下げ、その業績を国学の黎明期の中で位置づけると同時に、近世の前期国

学の発展を総合的に研究することである。今後各地の史料の調査を続け、学問・文化の伝播と発展を位置づけることが必要である。

第二に、近世後期の上方文人たちの文化・学問を荷田信郷の史料を中心に分析し、春満以来の学統の継承と、新たな学問・文化の発展を、社会の展開の中で位置づけていくことである。

第三に研究の成果をさらに公表し、編纂途中の『新編荷田春満全集』に反映させていくと同時に、ホームページなどを充実させていくことが重要と考えている。

謝辞

本研究にあたり、特に東丸神社および松村準二宮司御夫妻に、多大な御高配と御協力を賜った。また伏見稲荷大社坪原喜三郎前宮司、中村陽宮司をはじめ職員の方々、浜松市縣居神社、浜松市立賀茂真淵記念館、土佐山内氏宝物資料館、京都大学図書館、天理図書館、無窮会、國學院大學図書館に御高配と御協力を賜った。記して深謝の意を表する次第である。

研究発表

学会誌

執筆者名	論 文 名	学会誌名	出版年月日
青木周平	「荷田春満『倭学校啓草稿』の意義」	日本文学 文化と表象 第1集	平成15年8月30日
青木周平	「荷田春満の風土記研究ー自筆稿本『出雲風土記考』を中心にー」	風土記研究 第29号	平成16年9月30日
青木周平	「荷田春満の日本書紀歌謡研究ー天智紀を例としてー」	國學院雑誌 第107巻11号	平成18年11月15日
石岡康子	「享保7年春満の江戸出府と門人たち」	國學院雑誌 第107巻11号	平成18年11月15日
一戸渉	「荷田信郷の雅交と『間斎慢吟』の出版」	國學院雑誌 第107巻11号	平成18年11月15日
岩原真代	「荷田春満の物語史観とその影響ー『伊勢物語』注釈と『源氏物語』注釈の間ー」	國學院雑誌 第107巻11号	平成18年11月15日
早乙女牧人	「「斉明紀の童謡」解釈ー荷田春満説の位置付けー」	國學院雑誌 第107巻11号	平成18年11月15日
城﨑陽子	「山名政胤筆『富士山行記』の翻刻と考察」	國學院大學紀要 第43巻	平成17年2月14日
城﨑陽子	「契沖と荷田春満の万葉集研究」	國學院大學日本文化研究所紀要 第95輯	平成17年3月31日
城﨑陽子	「荷田春満の万葉集研究ー『万葉問答』から『万葉集童子問』へー」	國學院大學日本文化研究所紀要 第96輯	平成17年9月30日
城﨑陽子	「荷田春満の万葉集研究ー『万葉問答』にみる神祇道学的解釈ー」	国文学 言語と文芸 第122号	平成17年12月15日
城﨑陽子	「近世国学における万葉集享受」	院友学術振興会会報 第41号	平成18年6月1日
城﨑陽子	「荷田春満の万葉集編纂論」	國學院大學日本文化研究所紀要 第98輯	平成18年9月30日
城﨑陽子	「荷田春満の万葉集研究とその享受ー『万葉問答』から『万葉集打聞』へー」	國學院雑誌 第107巻11号	平成18年11月15日
城﨑陽子	「荷田春満の万葉集研究とその継承『万葉集信名講談』の位置づけ」	國學院大學日本文化研究所紀要 第99輯	平成19年3月31日
鈴木淳	「みやびを考」	國學院雑誌 第107巻11号	平成18年11月15日
新山春道	「荷田春満の和歌研究ー『古今和歌六帖』をめぐってー」	國學院雑誌 第107巻11号	平成18年11月15日
西岡和彦	「神在祭と近世出雲大社」	國學院雑誌 第104巻11号	平成15年11月15日
西岡和彦	「梧陰文庫所蔵「伝谷川士清書入校正本『日本書紀』(青木信寅旧蔵書)」愚見」	大倉山論集 50	平成16年3月31日
西岡和彦	「大倉邦彦の神道論」	大社町史紀要 5	平成16年3月25日

西岡和彦	「近世出雲大社の造営遷宮」	しまねの古代文化　11	平成16年3月31日
西岡和彦	「寛文度の造営遷宮以後ー近世出雲大社の造営遷宮(承前)ー」	大社町史紀要　6	平成17年3月7日
西岡和彦	「大国神像考ー出雲大社と垂加神道との関係からー」	神道文化　第17号	平成17年11月25日
西岡和彦	「玉木正英と出雲大社ー出雲大社参拝を示す書状を補足してー」	國學院雑誌　第107巻11号	平成18年11月25日
古相正美	「江戸期の地方文人小千谷吉沢東五郎の和歌」	國學院雑誌　第107巻11号	平成18年11月15日
松本久史	「稲荷社祠官の由緒記と荷田春満の神代巻解釈」	朱(伏見稲荷大社)　48号	平成17年3月11日
宮部香織	「令集解箚記」に関する若干の考察ー荷田春満の令集解講義によせてー」	國學院雑誌　第107巻11号	平成18年11月15日
吉岡孝	「享保期和学御用の再検討」	國學院雑誌　第107巻11号	平成18年11月15日
渡邉卓	「荷田春満と賀茂真淵の『日本書紀』研究ー訓読研究を中心にー」	國學院雑誌　第107巻11号	平成18年11月15日
渡邉卓	「荷田春満自筆漢字仮名交じり「仮名日本紀」の位置づけー諸本との比較からー」	文学研究科論集　第34号	平成19年3月31日

口頭発表

発表者名	テーマ	学会名	年月日
青木周平	荷田春満の紀記歌謡研究	國學院大學院友学術振興会研究報告	平成16年12月11日
城﨑陽子	契沖と春満の万葉研究	神道宗教学会大会	平成15年12月7日
城﨑陽子	万葉集享受の一展開ー荷田春満における万葉集研究・『万葉問答』を中心にー	上代文学会12月例会	平成16年12月11日
城﨑陽子	荷田春満の万葉集研究ー『万葉問答』にみる神祇道学的解釈ー	国文学　言語と文芸の会　3月例会	平成17年3月19日
城﨑陽子	荷田春満の万葉集研究ー『万葉問答』から『万葉集童子問』へー	上代文学会大会	平成17年5月15日
城﨑陽子	近世国学における万葉集享受ー荷田春満を中心にー	全国大学国語国文学会50周年記念大会	平成18年6月4日
新山春道	『古今和歌六帖』春満攷ー青海原説をめぐってー	平安文芸研究会夏期研究発表会	平成18年9月14日
西岡和彦	近世の政治と祭祀・儀礼	國學院大學COEプログラム	平成18年6月24日
渡邉卓	荷田春満の『仮名日本紀』の特徴ー東丸神社所蔵本の検討を通して	國學院大學國文學會秋季大会	平成16年11月21日
渡邉卓	荷田春満と賀茂真淵の『日本書紀』研究ー訓読研究を中心にー	古事記学会4月例会	平成18年4月22日

出版物

著者名	書名	出版社名	刊行年月日
相澤京子	『新編荷田春満全集第4巻』「東丸神社所蔵『万葉問答譬喩譌』の特徴」	おうふう	平成17年11月4日
青木周平	『新編荷田春満全集第3巻』「東丸神社所蔵『仮名日本紀』の諸本」	おうふう	平成17年5月20日
青木周平	『新編荷田春満全集第3巻』「『出雲風土記　春満考』(自筆稿本)と『出雲風土記考』(成稿本)」	おうふう	平成17年5月20日
青木周平	『新編荷田春満全集第4巻』「静嘉堂文庫所蔵『日本書紀神代六首和歌古伝』」	おうふう	平成17年11月4日
青木周平	『新編荷田春満全集第4巻』「無窮会神習文庫所蔵『神代和歌釈』」	おうふう	平成17年11月4日
青木周平	『新編荷田春満全集第4巻』「縣居神社蔵『日本紀歌割記』」	おうふう	平成17年11月4日
倉住薫	『新編荷田春満全集第5巻』「東丸神社所蔵『万葉集歌語分類草稿』にみる春満の訓読」	おうふう	平成18年5月20日
城﨑陽子	『新編荷田春満全集第4巻』「春満の万葉集研究」	おうふう	平成17年11月4日
城﨑陽子	『新編荷田春満全集第4巻』「東丸神社所蔵『万葉問答』の諸本」	おうふう	平成17年11月4日
城﨑陽子	『新編荷田春満全集第4巻』「東丸神社所蔵『万葉集和仮名訓』における訓読」	おうふう	平成17年11月4日
城﨑陽子	『新編荷田春満全集第4巻』「東丸神社所蔵『万葉集訓釈』における春満説」	おうふう	平成17年11月4日
城﨑陽子	『新編荷田春満全集第5巻』「東丸神社蔵『万葉集童子問』における春満の注釈とその傾向」	おうふう	平成18年5月20日
城﨑陽子	『新編荷田春満全集第5巻』「東丸神社蔵『万葉集僻案抄』にみる春満の注釈姿勢ー『万葉集童子問』から『万葉集僻案抄』へー」	おうふう	平成18年5月20日
城﨑陽子	『新編荷田春満全集第5巻』「東丸神社蔵『万葉集改訓抄』における春満の訓読と改訓」	おうふう	平成18年5月20日
城﨑陽子	『新編荷田春満全集第5巻』「春満の万葉集研究とその継承ー東丸神社蔵『万葉剳記』・『万葉集信名講談』・『万葉集打聞』・『当流奥秘問答』の位置づけ」	おうふう	平成18年5月20日
鈴木淳	『新編荷田春満全集第6巻』「荷田春満と古今和歌集」	おうふう	平成18年11月30日
鈴木淳	『新編荷田春満全集第6巻』「収載著作解題」	おうふう	平成18年11月30日
西岡和彦	『新編荷田春満全集第2巻』「『祝詞式和解』『祝詞式聞記』」	おうふう	平成16年11月4日

舟木勇治	『新編荷田春満全集第3巻』「植垣節也氏蔵本『出雲風土記考』の位置」	おうふう	平成17年5月20日
松本久史	『新編荷田春満全集第2巻』『日本書紀』神代巻講義の聞書および問答書類について」	おうふう	平成16年11月4日
松本久史	『新編荷田春満全集第3巻』「『日本書紀神代巻訓釈伝類語』について」	おうふう	平成17年5月20日
松本久史	『荷田春満の国学と神道史』	弘文堂	平成17年10月15日
渡邉卓	『新編荷田春満全集第3巻』「荷田春満の仮名日本紀一東丸神社所蔵「春満著述親盛本」を中心に」	おうふう	平成17年5月20日

研究会活動

回数	開催年月日	タイトル	担当者
1	15. 10. 17	荷田春満の門人とその位置づけ	松本久史
		近世書簡の基礎知識	根岸茂夫
2	15. 10. 28	荷田春満と神田明神	松本久史
		近世史料の草書体の基礎知識	根岸茂夫
		春満宛て芝崎好高の書簡を読む 1月15日付	清水正彦
		春満宛て芝崎好高の書簡を読む 2月28日付	石岡康子
3	15. 12. 26	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 2月10日付	宇野淳子
		春満宛て芝崎好高の書簡を読む 12月24日付	宮部香織
4	16. 1. 23	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 4月22日付	吉岡孝
5	16. 2. 6	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 3月7日付	竹宮鉄平
		春満宛て芝崎好高の書簡を読む 8月22日付	谷川愛
6	16. 4. 23	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 1月12日付	岩原真代
		春満宛て芝崎好高の書簡を読む 1月3日付	中村正明
7	16. 6. 25	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 2月11日付	早乙女牧人
8	16. 8. 24	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 2月1日付	渡邉卓
		春満宛て芝崎好高の書簡を読む 4月晦日付	相澤京子
9	16. 9. 24	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 孟夏22日付	舟木勇治
10	16. 10. 22	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 正月21日付	和田奈穂隆
		仮名日本紀(東丸神社蔵)の調査報告	渡邉卓
11	16. 12. 17	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 2月8日付	新山春道
12	17. 1. 28	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 9月3日付	倉住薫
		春満宛て芝崎好高の書簡を読む 臘月17日	種村威史
13	17. 3. 18	春満宛て芝崎好高の書簡を読む 3月3日付	河野まきこ
14	17. 4. 22	『日本書紀神代巻訓釈伝類語』の意義およびその周辺	松本久史
15	17. 5. 27	春満宛て杉浦国頭の書簡を読む 10月9日付	石岡康子
16	17. 6. 24	春満宛て松平権之助の書簡を読む 10月3日付	種村威史
17	17. 7. 29	近世仮名遣い研究史	諸星美智直
18	17. 9. 2	春満宛て杉浦国頭の書簡を読む 10月12日付	宮部香織
19	17. 9. 30	春満宛て杉浦国頭の書簡を読む 12月24日付	岩原真代
20	17. 10. 28	春満宛てしんせいいんの書簡を読む 3月28日付	中村正明
21	17. 11. 25	春満宛てしんせいいんの書簡を読む 5月24日付	早乙女牧人
22	17. 12. 16	春満自筆『仮名日本紀』の位置付け―諸本との比較―	渡邉卓
23	18. 1. 27	春満の和学―在満とあわせて―	古相正美
24	18. 4. 28	荷田信郷の雅交	一戸渉
		伏見稲荷大社をめぐる諸問題についての古文書学的考察	種村威史
25	18. 5. 26	荷田春満と『源氏物語』―『伊勢物語童子問』の物語引用から	岩原真代
		芝崎氏書簡差し出し時期について	石岡康子
26	18. 6. 30	春満の和歌研究―古今和歌六帖をめぐって―	新山春道
		「斉明紀の童謡」解釈―荷田春満説の位置付け―	早乙女牧人
27	18. 7. 28	「令集解箚記」に関する一考察	宮部香織
		享保期における書物政策と荷田春満	吉岡孝

研究協力者：　相澤京子（國學院大學幼児教育専門学校専任教員）
（五十音順）　荒張智之（國學院大學大学院文学研究科聴講生）
石岡康子（春日部市庄和町史編集調査員）
一戸渉（総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程後期）
岩原真代（國學院大學大学院文学研究科博士課程後期）
宇野淳子（元國學院大學日本文化研究所臨時雇員）
海老原昌宏（國學院大學大学院文学研究科聴講生）
岡田裕香（國學院大學大学院博士課程前期）
大館真晴（國學院大學栃木高等学校非常勤講師）
木野主計（元國學院大學文学部兼任講師）
久保田裕道（國學院大學文学部兼任講師）
倉住薫（國學院大學大学院文学研究科博士課程後期）
河野まきこ（一橋大学付属図書館非常勤職員）
早乙女牧人（東海大学大学院文学研究科博士課程後期）
實松昌子（元千葉県栄町史編さん古文書解読筆耕者）
清水正彦（國學院大學大学院文学研究科博士課程前期修了）
城﨑陽子（國學院大學文学部兼任講師）
高塩博（國學院大學日本文化研究所教授）
竹宮鉄平（國學院大學大学院文学研究科博士課程前期修了）
谷川愛（東京大学総合研究博物館研究員）
種村威史（國學院大學大学院文学研究科博士課程後期）
千賀万左江（國學院大學大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学）
中村啓信（國學院大學名誉教授）
中村正明（國學院大學文学部兼任講師）
長又高夫（國學院大學日本文化研究所兼任講師）
新山春道（國學院大學大学院文学研究科博士課程前期修了）
舟木勇治（國學院大學大学院文学研究科博士課程後期）
松本久史（國學院大學日本文化研究所講師）
宮沢道代（國學院大學特別研究生）
宮原一郎（國學院大學兼任講師）
宮原智子（元埼玉県小川町史嘱託）
宮部香織（國學院大學日本文化研究所兼任講師）
諸星美智直（國學院大學文学部教授）
吉岡孝（國學院大學文学部講師）
和田奈穂隆（國學院大學大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学）
渡邉卓（國學院大學大学院文学研究科博士課程後期）
記録：堀口裕美子（國學院大學文学部資料室）

研究報告

荷田春満をめぐる諸問題の史料的考察—東丸神社所蔵東羽倉家文書を中心に—

根岸　茂夫

はじめに

荷田春満の研究で現在でも人口に膾炙され、古典的な研究として引用されるのは三宅清氏の『荷田春満の古典学』である。戦前から東羽倉家文書を調査し、史料を引用しながら春満に関する最初の大著をものしたが、本書では春満を国学者として認めないのみならず、その学説や思想を独創性のない意見として切り捨て、一部に恣意的な解釈も見られる。一方、伏見稲荷社の目代西羽倉家の後裔に当たる羽倉敬尚氏は、春満を敬慕しながらていねいな考証を数多く著作され、その業績はのち鈴木淳氏によって『近世学芸論考』にまとめられた。史料としては『荷田全集』や刊行が中途になった『荷田春満全集』、菟田俊彦氏によって編纂された『神道大系』論説編 復古神道Ⅰ、『日本思想大系』39などがあるものの、研究の多くは戦前の水準にとどまるものであったといえる。本研究の開始と同時期に刊行が始まった『新編荷田春満全集』12巻により、『荷田全集』以来数十年ぶりに新たな史料が公開されるようになったといっても過言ではない。それは東羽倉家文書の本格的な調査が本研究によって開始された成果である。かつ調査にかかわり、本研究の協力者でもある松本久史氏が『荷田春満の国学と神道史』を刊行され、荷田春満の研究は新たな段階に入ったといえる。その基礎的な作業は、東羽倉家文書の調査と整理から構築されたものであり、その調査と概要、史料的な問題点をまとめておくことは、今後の研究に有用であろう。

1　東羽倉家文書の調査と概要

東羽倉家文書は、同家の宗廟を継承された東丸神社宮司松村準二御夫妻の御理解と御協力により、平成14年8月から事前調査に入り史料を確認していたが、平成15年度科学研究費の交付を受け、本格的な調査と整理に着手した。

史料は、松村宮司宅の金庫に荷田春満自筆の史料を中心とした巻子・軸類約50点が、天袋に春満の『伊勢物語童子問』自筆草稿が木箱に収納されて置かれており、押入れに荷田春満自筆の草稿や写本・近世の書籍および近世文書が、一部は慳貪箱に収納されて配架されており、なかには、近代に裏打ちを施したり厚紙で表紙を付け直したりした史料もあり、東羽倉家の後裔に当たる東丸神社の代々の宮司が、史料の保存と整理に当たっていた事実を確認することができた。また宮司宅には衣装箱や紙箱に状物の春満自筆草稿や弟子の箚記・講義録・書状、近世文書などが、一部封筒に整理されて保存されており、これも東羽倉家の後裔による史料保存の努力を物語るものといえる。さらに敷地内の倉庫に木箱や慳貪箱に収納された史料があり、その中心は東羽倉家の寛文期から明治期に当たる日記であり、その他近世・近代史料、『荷田全集』編纂資料やその草稿なども存在した。

本格的な調査は、平成15年7月から開始し、これらの史料を一点ずつ中性紙の封筒に収納し、表に分類番号・整理番号・年代・表題・差出(作成)・宛所・形態・点数・備考を注記した。虫損などが甚だしい史料についてはその場で裏打ちを施しながら整理を続け、整理後に封筒に入れた史料を桐箱 120 箱に収納し、軸物など一部は金庫や衣装箱に収納した。平成18年12月に一応の整理が完了し、東羽倉家文書7283点(目録番号として5207件)の史料の全貌を把握できた。その全貌は後掲の目録の通りである。

封筒の表書および目録の記載は以下の通りである。

分類番号は、後述する分類に従って史料を並べたものである。膨大な史料群であるため、整理番号は、原則として金庫・押入れ・天袋・箱入りの史料、ついで倉庫内の史料と、整理した順に一連番号を付し、一括されていた史料については枝番を付して関連を示した。ただし、別に配架されていても関連があったり、途中で発見されたりした箱などもあり、必ずしも上の順に番号が並んでいない例もある。史料の中には枝番がさらに細分されているもの、一括されているものの必ずしも関連が見いだせず、他の史料に貼り合わされた史料もあったため、適宜剥がして貼り合わせたものもある。

年代は、文書は作成の時期、写本・書籍は書写や版行の時期をとり、原則として干支などもそのまま記入した。年代が推定できるものは(　　)で示し、(近世)(近代)の区別も付した。なお一般の古文書整理に従い、近世は明治5年3月まで、近代は明治5年4月からとした。

表題は原則として原題を採り、原題のみでは内容が不明な場合や原題がない史料には(　　)を付して適宜内容を注記した。書籍の場合には、内題を原則としつつも適宜内容を考えながら注記した。

差出(作成)は原則として記述のままを採り、連名の場合は上位者一名を記して「他何名」と注記した。印鑑は㊞などとし、花押は(花押)とした。宛所も同様に連名の場合上位者一名を記し、「他何名」と注記した。また様・殿などの敬称もそのまま記した。

形態は、状物は竪紙・切紙・続紙・切続紙、冊子は竪冊・横冊・横半冊、冊子で表紙がなくコヨリなどで簡単に綴じているものを仮綴、別個の史料を合綴したものを綴とした。絵図など畳めるものを舗、近代の賞状・葉書類などを葉とし、ほかに巻子・軸・まくりはそのまま記した。数量は数で示した。

備考には、端裏書・奥書、落款・蔵書印、一括の様子・史料の状態などを記した。

2　東羽倉家文書の分類

史料は次のような分類項目を立て、各項目ごとに原則として編年に並べたが、書冊類などが多い項目のなかには、同種の史料を集めたため編年の原則に従わないものもある。

A　荷田春満関係史料

A－1　稿本・著作写本

A－1－1　書状

Ａ－１－２　著作・草稿
Ａ－１－３　和歌・詠草
Ａ－１－４　祝詞
Ａ－１－５　書入本
Ａ－１－６　自筆写本
Ａ－２　門人・学説
Ａ－３　春満宛書状
Ｂ　羽倉家関係史料
Ｂ―１　家系・相続
Ｂ－１－１　家譜・系図・古伝
Ｂ－１－２　口宣案
Ｂ－１－３　伯家御教書
Ｂ－１－４　相続・勤仕
Ｂ－１－５　居宅・家計
Ｂ－１－６　その他
Ｂ－２　日記
Ｃ　社家・社務
Ｃ―１　神事
Ｃ－1－１　縁起・社伝
Ｃ－1－２　祭式・秘儀
Ｃ－1－３　祝詞
Ｃ－1－４　遷宮
Ｃ―２　社家
Ｃ－２－１　家系・勤役
Ｃ－２－２　日記
Ｃ―３　社務・社領
Ｃ－３－１　触書・達・幕府・所司代・伏見奉行
Ｃ－３－２　社法・愛染寺一件
Ｃ－３－３　社領・財政
Ｃ－３－４　稲荷山・松茸
Ｃ－３－５　社殿修復・神具・調達
Ｃ－３－６　東丸神社
Ｃ―４　朝廷・神祇伯
Ｃ－４－１　朝廷・官幣
Ｃ－４－２　綸旨
Ｃ－４－３　神祇伯

Ｃ－４－４　伯家御教書
Ｃ―５　信仰・安鎮
Ｃ－５－１　初穂・参詣・奉納
Ｃ－５－２　勧請・安鎮
Ｃ―６　その他
Ｄ　学芸
Ｄ―１　書状
Ｄ―２　詠草・詩歌・文芸
Ｄ－２－１　荷田一門
Ｄ－２－２　他氏
Ｄ－２－３　不明・その他
Ｄ―３　諸芸
Ｅ　書籍・刷物
Ｅ―１　神書・国学
Ｅ－１－１　神書
Ｅ－１－２　和学・国学
Ｅ－１－３　仏書
Ｅ―２　漢籍
Ｅ―３　和書
Ｅ－３－１　歴史
Ｅ－３－２　故実
Ｅ－３－３　文学
Ｅ―４　近代・印刷物
Ｅ－４－１　春満伝･目録稿・東丸神社関係
Ｅ－４－２　春満著作等写本
Ｅ－４－３　荷田全集等編纂資料
Ｅ－４－４　一般図書他

以上のように分類を施したのは、次のように考えたからである。東羽倉家文書は、伏見稲荷社の御殿預り東羽倉家に伝来した史料群である。同家は荷田春満の生家でその学統を継承しながら史料の作成・保存・整理と編纂に当たり、近代に建立された東丸神社の宮司を歴任しており、同家の代々が近代に行った史料の整理からは、祭神である荷田春満の威徳を顕彰しようとする姿勢が窺える。そのため項目の最初に「Ａ　荷田春満関係史料」を立て、関係史料とともに門人に関する史料も収めた。門人が講義録をまとめた箚記も多く、門人の著作にも春満の学説を伝える内容が含まれていたからである。次に春満が誕生し、その伝統を伝えた東羽倉家の家に関する史料を「Ｂ　羽倉家関係史料」として項目を立て

た。かつ同家は伏見稲荷社の御殿預りとして神事に携わる一方、社殿や社領を管理し、社中の経営にも大きな力を持っており、稲荷社の神事や社中取締、経営に関する史料も膨大に存する。これらの史料をまとめて「C　社家・社務」の項目を作った。一方、春満の学統を継承した東羽倉家は、近世後期の信郷のころ上方の文人社会の中心の一人となり、文芸を通して多様な文人たちとの交流が見え、彼らの書状をはじめ漢詩や和歌の贈答などの史料が膨大に存する。このような動向を示す史料と東羽倉家が学んだ諸芸の伝授に関する史料を「D　学芸」としてまとめた。その他東羽倉家代々の蔵書、および近代に春満を顕彰するための史料を「E　書籍・刷物」と項目を立てた。

以上の項目の下にさらに細目を立て、東丸神社所蔵である東羽倉家文書の伝来のあり方、史料の概要と特徴を見出せる分類を試みたのである。

3　春満関係史料について

東羽倉家文書のうち「A　荷田春満関係史料」として整理したのは約 650 件であり、A－1稿本・著作写本(1書状　2著作・草稿　3和歌・詠草　4祝詞　5書入本　6自筆写本)　A－2門人・学説　A－3春満宛書状に分類している。A－1のうち1書状は6件と少ないが、本来東羽倉家に残るものではなく、のちに東羽倉家あるいは東丸神社に奉納されたものと思われる。2著作・草稿は 260 件にのぼり、春満の著作の大半が存するという意味で、最も注目される部分である。この項は史料を『古事記』『日本書紀』『風土記』『万葉集』『古今集』『伊勢物語』『百人一首』・有職・『律令』『六国史』・語釈・その他の順に並べてある。

著作のうち最も件数の多いのは『万葉集』に関する注釈であり、ついで『古今集』『伊勢物語』など和歌に対する意識を物語っている。自筆写本の中には契沖の『万葉代匠記』もあり、歌を中心に古代精神の復興を試みた春満の姿勢を窺うことができよう。ついで注目されるのは『日本書紀』関係であり、細かな字の講義録などが目に付く。一方で『古事記』『風土記』は僅かであり、中世から近世中期にいたるまで、吉田神道の伝授の関係もあって『古事記』より『日本書紀』のほうが大事にされており、春満の段階もこの風潮を踏襲していたことが判明しよう。

それとともに『職原抄』など有職、『令義解箚記』など律令関係の史料が多いことも特徴といえる。『職原抄』自筆書入本も伝わっており、箚記の存在からも春満の研究の柱の一つとなっているさまを示している。同書は近世前期の朝儀の復興の教科書となったものであり、朝廷と密接なかかわりを持つ伏見稲荷社の社家に生まれた春満の国学が、朝廷の制度や儀式を視野に入れて形成されていたことを窺わせる。また律令研究の史料は、享保期の江戸幕府が律令研究とその蒐集を春満に命じ、その提出が途中で中止されたためであるが、春満の著作・草稿のなかには『論語覚書』『左伝箚記』など漢学に関するものも存在し、春満が和学・国学だけでなく漢学や律令にいたるまで幅広い知識を持っていたことを物語っている。自筆写本などのなかには、古典だけでなく香道や弓馬の史料などもあり、

門人の書状のなかには春満が武術を好んだという記述も見え、多芸の才能を見せていたことが判明する。

春満は、歌会を通じて門人たちと結びつき、江戸をはじめ遠隔地の門人たちを歌の添削を返信して指導しており、その姿は３和歌・詠草に収録の史料をはじめ、『万葉童子問』『伊勢物語童子問』の紙背文書にある門人たちの書状から明らかである。

また独自に作成した祝詞から、彼の知識や神に関する観念を窺うことができよう。

Ａ－２門人・学説のなかには娘の直子、養子の在満、在満の妹蒼生子をはじめ、在満らの父で春満の弟の多賀高惟、同じく弟で東羽倉家を継いだ信名、信名の子信章など縁戚に連なる人々と、稲荷社社家の大西親盛、浜松の弟子杉浦国頭・賀茂真淵などの史料が見える。賀茂真淵の史料は後世に奉納されたと考えられ、春満在世中に取り交わした史料は見当たらない。却って杉浦国頭との交流は、『伊勢物語童子問』の紙背文書から克明に浮かび上がってくる。かつ大西親盛は春満の学統を受け継ぎながら、それをさらに発展させようと試みた観があり、彼の書入本は春満の説とともに親盛独自の書入も見られ貴重である。

春満の縁戚に連なる人々からは、娘の直子、姪の蒼生子、母の貝子など女性の消息や歌が注目される。ことに春満の学統を継承・発展させようと努めたのは、養子の在満と弟の信名であろう。ただ東羽倉家に残る二人の史料の性格は異なっている。在満の史料は『大嘗会便蒙』など大嘗会関係を中心に完成した著作が多いように見受けられる。在満は春満の後継者として幕府に仕え八代将軍吉宗の子田安宗武の師となるが、のち宗武と対立し賀茂真淵に職を譲って退く人物である。彼の後裔は江戸に居住し麻布氷川神社の神職となったが、同家に伝来した史料は東京大空襲で焼失した。在満のもとにあった史料の写本を検討すると、東羽倉家の同系統の史料とは若干異なるように感じられる。在満が春満の説を継承するだけではなく、自身の説を述べるようになったのではあるまいか。

江戸の在満に対し、京都で学統を継承したのが弟の信名である。東羽倉家の当主となった信名が残した史料は、春満の講義を筆記した箚記に特徴付けられる。講義の場で筆記しており走り書きで難解かつ当て字も多い文字が並んでいるが、講義の場の臨場感にあふれている。信名はその臨場感を大切にした記録を多く残しており、春満の学統を忠実に継承しようと試みたに違いない。在満と信名の二人の史料を整理・検討し、基礎的な分析を行うことが、前期国学の展開を考察する新たな道筋となるはずであるし、現存するその基本的な史料こそ東羽倉家文書といえよう。

東丸神社所蔵荷田信郷関係漢詩詠草群について

一戸　渉

1．荷田信郷関係漢詩詠草群の位置

東丸神社（東羽倉家）に現蔵されている資料群において、最も注意されるものに荷田春満の自筆草稿、及びそれに関連した講義録など、時代的には元禄から享保年間頃の諸資料が存することは、夙に知られている事実である。だが、少なくともそれに次ぐ、従来知られていない注目すべき資料群に、宝暦から寛政年間にかけ、ちょうど十八世紀後半の五十年間における、荷田信郷（元文五年〔一七四〇〕～寛政十二年〔一八〇〇〕）関係の漢詩・和歌の詠草を中心とする一連の学芸資料がある。

目録ではDに分類されている書簡・詠草類のうち、その約半数近くが荷田信郷及びその子である信言・延年による漢詩・和歌の詠草や稿本、また彼らへと当時の京都・大阪の文人諸家が贈った漢詩文・和歌の自筆詠草・刷り物の類である。ことに信郷が漢詩文を通じた交友を好んだこともあり、約三〇〇点を数える諸家による詩箋・刷り物類は、その伝来が明瞭であることも含めて、近世中期における京阪文人の動向を探る上での研究的価値は極めて高いものと言える。

2．荷田信郷について

荷田信郷については、従来、羽倉敬尚「荷田信郷」（『近世学芸論考』、明治書院、平成四年）があるのみで、その伝には多く検討の余地を残している。東丸神社所蔵の漢詩詠草群の位置を見定めるためにも、以下に略伝を掲げる。

> 字子晟、使君、号三峰、松圃。また堂号を幽松亭、七松居、間斎という。元文五年に生まれ、寛政十二年閏四月二十九日に六十一歳で没す。父は荷田春満の弟で丹波並河家の養子となった宗武の息、羽倉左仲信満。母は大舎人助神田祐世の次女石子。のち羽倉信名の養子となり、寛延四年四月二十四日の信名没後、御殿預として東羽倉本家を継ぎ、従五位下摂津守に叙せられる。安永六年従四位上筑前介、翌七年十二月御殿預の職を退き、以後は風雅の道に遊ぶ（羽倉敬尚氏「荷田信郷」「稲荷社社家系図」参照）。初め羽倉延武の女仁和子を妻とし、一子駒麿と一女を儲けたが、仁和子は病のため明和二年五月七日に二十七歳で没す。駒麿も次いで明和三年三月八日に夭折する。明和四年頃か、後妻伊場氏を迎え、息に信言、延年等があったが、信言は寛政二年十月十日、延年は寛政十一年七月二十一日に、共に二十三歳で没す。伊場氏は寛政四年十二月十四日に没している。他に、息として出家して天台僧となり、円教院に住した朕然がある（秋成「北野加茂に詣づる記」参照）。
>
> その学は和漢に渡り、漢学は初め（宝暦九年以前）京の古文辞学派宇野明霞門の武田梅龍（正徳五年～明和三年）に学び（『間斎漫吟』村瀬栲亭序参照）、また同じ明霞門（『先哲叢談続編』参照）の龍草廬（正徳四年～寛政四年）に学ぶ。和歌は、明和四年五月二十八日、閑院宮典仁親王に入門。また江戸に下った折、賀茂真淵（元禄十年～明和六年）とも師弟に近い交わりを持ち、後に小沢蘆庵（享保八年～享和元年）の門に入る（中野稽雪氏『小沢蘆庵』所収「小沢翁門人録」参照）。その交友は甚だ広く、和学者では伴蒿蹊、橘本経亮、上田秋成など、漢学者では岩垣竜渓、香山適園、木村蒹葭堂、中井竹山、細合半斎など多くの当代名流と交わる。墓碑は稲荷山の麓、蟻（阿里）山の羽倉家墓所にあるが、碑面も新

しく、近年になって改修されたものと思しい。前面に「前正預正四位下筑前介荷田信郷宿祢之墓」、背面に「寛政十二辛酉年後四月廿九日卒」と刻す。

著書に『日章斎碑』(明和四年正月刊)、『稲荷山十二境図詩』(明和八年七月刊)、『詠百首和歌』(安永二年三月晦日成)、『集句闔情百詠』(安永九年春頃刊)、『崇国一家言』(寛政四年十一月冬至成)、『国事八論』(寛政五年初夏成)、『春葉集』(寛政十年秋刊)、『錦堆一日百首詩』(寛政十一年夏刊)、『間斎満吟』(寛政十二年四月以降刊) がある。(以上、拙稿「荷田信郷の雅交と『間斎漫吟』の出版」を補訂)

3．漢詩詠草群の分類

これまでに判明しえた限りで、これら漢詩文詠草群の筆者を分類すれば、概ね以下の通りとなる。

① 京都における詩社グループ

※ 幽蘭社(主宰：龍草廬)・時習塾(主宰：大江玄圃)・松蘿館社(主宰：岩垣龍渓) グループ・再興後の賜杖堂詩社(主宰：江村北海)・琴詩堂(主宰：余易) など

② 伏見稲荷社周辺の学僧

③ ①のグループとも交渉のある公卿。

④ 大阪の詩社混沌社、及びその周辺の文人・医師

ただし、これらの詩箋類には今日では無名の人物も多く含まれており、詳細な検討は今後の研究に俟つ所が少なくない。ここでは、その伝記をある程度把握しうる人物に関して、分類を試みた。

4．諸家の姓名・略伝

以下、これまでに判明した人物に関する略伝を記し、目録に従って文書番号を記す。本表では、漢詩文の詠草・刷り物類のみを対象とし、和歌・和文、書簡及び資料名に名が見えるもの、また明らかに幕末・近代期と判断されるものに関しては除外した。

姓名	略伝	文書番号
龍公美	字、君玉、子明、子玉、号、草廬、竹翁、松菊など。彦根藩文学。伏見の人。安永三年の致仕後は洛東に住す。詩文、和歌、書を能くす。別集『草廬集』のほか著述多し。寛政四年(1792)没、七十八歳。	2535,3183-1
龍世華	字、子春、号、玉淵。また銕笛道人、不知哉子という。称、一郎。龍草廬の嫡男で、父を継で、彦根藩の儒学教授となる。文政三年(1820)没、七十一歳。	691-72

大江資衡	字、稼圭、号、玄圃。京の人。俗称、久川靭負。石田梅岩、龍草廬、岡田白駒などに師事。詩社時習塾主宰。別集に『玄圃集』(初編明和六・二編天明二刊)があるほか、著書多数。寛政六年(1794)没、六十六歳。	640,691-36,691-48
大江維翰	字、伯祺、号、東陽、また藍田。俗称、久川玄蕃。大江資衡の男。別集に『藍田遺稿』(寛政四刊)あり。	639,691-14,691-63
餘弘璥	字、伯玉、居卿。号、東郭、皐蘭。平安ノ人。俗称、青木十(重)衛門。詩社琴詩堂、三反堂主宰。『平安人物志』には明和五年版、天明二年版に名が見え「二条西洞院東へ入丁」(明和五年版)、「衣店御池上ル町」(天明二年版)に住した。宋詩並びに狂詩を好んだ。著書は伝わらないが、龍草廬など当時の京阪文人諸家と広く交友のあった人物。生没年未詳。	621,622,625,633,645,691-102,648,660,667,671,691-9,691-53,691-54,691-55,691-56,691-61,691-82,691-83,691-106,691-114,691-115,2952,2953,618,691-51,691-77,2532,691-44,3310
菅元容	字、子允、号、松琴。彦藩石居市ノ丞。草廬門。生没年未詳。	611, 661
釋日高	字、如峰、号、栖雲、朴(撲)堂。伏見の久我妙法寺の僧。『平安人物志』明和五、安永四、天明二年版「書家」項に記載あり。生没年未詳。	2130
釋養真	字、逸宗、号、香山。深草の真宗院の僧。『平安人物志』天明二年版「学者」の項に名あり。生没年未詳。	628,691-6,691-80,691-96,691-108,2959,3111-6-1,3111-6-2,3111-6-3,3111-6-4,3119,3120,3121,3122,3124,3125,3127,3128,3204,3205,3206,3207,3208,3209
釋義諦	字、法真、号、松渓。小松谷正林寺の僧。『続近世畸人伝』(寛政十年刊)巻之三「僧学信」の伴蒿蹊による補注に「小松谷義柳和尚の弟子義諦師に聞所の話左に掲ぐ」とあり、蒿蹊とも相識であった。生没年未詳。	691-71,691-76,691-91
大神景貫	字、子一、号、青霞。姓、山井。山井は楽人の家。別集『青霞稿』(安永九年刊)、また『匿名詩』(京都大学平松文庫蔵)あり。備中介。寛政七年没、八十八歳。	1122

伊藤善韶	字、忠蔵、号、東所、施政堂。伊藤東涯の三男。文化元年(1804)没、七十五歳。	1122
柴野栗山	字、彦輔、名、邦彦。阿波国藩儒、昌平黌教授。文化四年(1807)没、七十二歳。	3190,3328-8
岩垣彦明	字、孟厚、号、龍渓、又号松蘿館。長門介。漢詩集に『竜渓先生詩稿』(写本)などあり。文化五年(1808)没、六十八歳。	659,691-39,624,691-18,691-24,691-70,684,678
太田賀象	字伯魏、号玩鷗。近江介。『玩鴎先生詠物百首注解』(天明三刊)の著作あり。文化元年(1804)没、六十歳。	691-86,691-113
伊藤君嶺	字、士善、名、榮吉。称、文四郎。伊藤錦里の養子。清田儋叟の甥。福井藩藩儒。別集に『自怡堂詩稿』(寛政七年刊)。寛政八年(1796)没、五十歳。	691-19
清田龍川	字、公績、名、勲。称、清田大太郎。江村北海の三男。『龍川先生詩抄』(寛政元年刊)あり。文化八年(1811)没、六十二歳。	3328-7
細合半斎	字、麗王、号、斗南。大坂の人。通称、江嶋屋八郎右(左)衛門。著述多し。享和三年(1803)没、七十七歳。	2954, 612,631,632,654
岩恭	字、敬甫、号、嵩臺。通称、帯刀。京の人。医を吉益東洞に受け、『建殊録』(宝暦十三年刊)の医書の編があるほか、漢詩集『海籌集』(明和五年刊)などの著がある。『平安風雅』『平安人物志』(明和五・安永四・天明ニ年版)に記載あり。生没年未詳。	3310
香山彰	字、吉甫、号、適園、三楽。称、大学。武田梅竜門。同門の村瀬栲亭を継いで妙法院侍読を務める。別集『東隴菴集』(寛政四年刊)あり。寛政七年(1795)没、四十七歳。	642,691-29,691-33,534,691-69,3126,3312-7,3123,171
永田忠誠	字、子實、号、西河。本姓、源。称、主書。永田観鷲の孫。生没年未詳。	691-85,615
柚木太淳	字、尭民、号、鶴橋。眼科医。『解体瑣言』(寛政十一年)などの医書のほか、巌垣竜渓の漢詩集『竜渓先生詩稿』(写本)の編あり。香山彰『東隴菴集』に後序を寄せる。享和三年(1803)没、四十二歳。	691-84,691-93,616,691-34,691-38,3310

春政美	字、子済、号、蘭州。通称、春日亀弥太郎。『平安風雅』『平安人物誌』(天明ニ、文化十年版)に記載あり。四条小橋西に住す。明和五年版『平安人物志』に春日亀敬斎と同所に住む。縁者か。没年未詳。	2532, 2958,688-1,688-2,688-3,688-4,688-5,688-6,688-7,688-8,688-9,688-10,688-11,688-12,688-13,688-14,688-15,647,673
杉岡道啓	字明卿、号東嶺。『平安人物志』文化十年版「詩」の項に「杉岡道啓、号暾桑、字公曙、堺町二条南、杉岡道啓」とある。別集に『嚢荷渓詩集』(文政七年刊)あり。香山彰『東隴菴集』に跋を寄せる。文政五年(1822)没、年齢不詳。	691-111,613,691-59,691-7,691-32,673
山本正臣	字、欽若、号、清渓。本姓藤原。近江守。巌垣竜渓門。京の人。のち江戸に下り、岸本由豆流、本間游清など諸家と交わる。編著に、『論語折衷』(天明三年・猪飼敬所等と共編)、『元明史略』(享和三年序)、『歌仙絵抄』(喜多武清画、文化七年序)など。文政六年(1823)没、七十歳。	623,658,691-64,691-65
源惟忠	字士孝、号、石梁。通称、河合理右衛門。巌垣竜渓門。	3310
村山維益	字、士謙、号、穆如、称、以文。巌垣竜渓門。	691-88
藤原正剛	字、伯貌、号、筠渓。通称、橘本伯耆守。巌垣竜渓門。	691-89
源聖農	字、尭夫、号、南畝。通称、吉田文鳴。巌垣竜渓門。	620,634,650,691-57
岡崎信好	字、師古、号、盧門。称、平太。本姓平氏。竜草廬門。編著は多く、『平安風雅』(天明六年刊)、『麗沢詩集』(安永八年刊)、『盧門詩集』など。天明七年(一七八七)没、五十四歳。	691-1
早崎伯機	名、之衡。浪華人。『仙人介壽』(安永五年刊)、『花魁風什』(安永四年刊)に詩あり。	691-43,691-27,691-81
六如	法号、慈周。天台僧。別集『六如奄詩鈔』ほか、著書多し。享和元年(1801)没、六十八歳。	171
天華	学僧。号冷然。691-58の端裏書に「江戸一向宗」とあり、江戸の人カ。生没年未詳。	691-58 ,1162

朝倉荊山	字、琢卿。俗称、朝倉玄蕃。姉小路両替町東に住す。『平安人物志』(文化十年版)に記事あり。『孟子文階』(文化十四年刊)の著述あり。文政元年(1818)没、六十四歳。	641, 630
善和順	僧。法号、能脱。生没年未詳。	666,691-2,691-78
羽峰生草湖	姓、藤田。生没年未詳。	3202
月仙	月僊(画僧、文化六年、六十九歳没)カ。	619
釋日祐	字、寿考、号、竹山、雲臥堂。深草瑞光寺第八世。『平安人物志』天明二年版「学者」項に名あり。『雲臥堂稿』などの遺著は瑞光寺に伝存す(『国書総目録』)。天明四年(1784) 没、五十九歳。	685,691-68,655
白文戝	691-23 端裏書に「京　白井正義」とあり。	691-23
春暉	橘南谿(姓、宮川。文化五年没、五十三歳)カ	674
猪飼敬所	字、希文、文卿。称、三郎右衛門。名、彦博。巌垣竜渓門。『論語折衷』(天明三年・山本正臣等と共編)ほか、著述多し。弘化二年没、八十五歳。	691-47
葛子琴	号、蠡庵等。本姓、葛城。通称、貞元。大坂の人。詩社混沌社の中心的な漢詩人。天明四年(1784)没、四十六歳。	691-52
北谷良明	号、松雨、字、憲章。俗称、北谷憲章。聖護院村に住す。『平安人物志』天明二年版に名あり。生没年未詳。	2955, 3231,691-17
藤近光	勘解由小路家七代。本姓、藤原。従四位上、左京権大夫。大神景貫の『青霞稿』(安永九年刊)に跋を寄せる。天明四年(1784 1)歿、二十九才。	2534,2951,691-13
香居敬	伏見の人。龍草廬送別詩集『綰柳編』(宝暦九年刊)の編者。幽蘭社の十才子の一(『先哲叢談』)	691-46
畑柳泰	号橘洲。六如『葛原詩話後編』(文化元年刊)序者、同『六如菴詩鈔遺編』(文政六年)の撰者。享和二年の馬琴上京記『羇旅漫録』にも名が見える。	679,691-20,3189,3186,3310

高葛坡	名、峻。字、伯起、維岳、道昂。通称、嘉右衛門、小左衛門。草廬ら、京の文人諸家と交わる。大江玄圃別集『玄圃集』に序を寄せる。安永五年(1776)没、五十三歳。	457,691-8
村瀬栲亭	字、君績、号、栲亭、また神州。名、之熙。俗称、村瀬掃部。本姓、源。儒学を武田梅龍に学ぶ。秋田藩儒。文政元年(1818)没、七十五歳。	614
松友軒幸化	俳人。享保年間後半に俳書を版行。	3526

【以下、伝未詳者】

論近		691-87,691-31
源臨		691-98
久野暠		691-112
井深解		691-109
義龍		691-110
善如		691-105
藤原彊		691-103,2533
飯田明夫訪印穫玉翁八十載		662
栄貫		691-22
岩拝		3328-5
篁亭暠		629
向良翰		644
釈孤岸		664
鷲峰玄諦		675
真周		691-35
正高		3201
石斎脩		657
之謹		691-41
瀬尾教延		2956 ,3310
雪亭		691-75
義白		626
行賢		2950
巌蘭		627
通志		691-40
藤重定		637

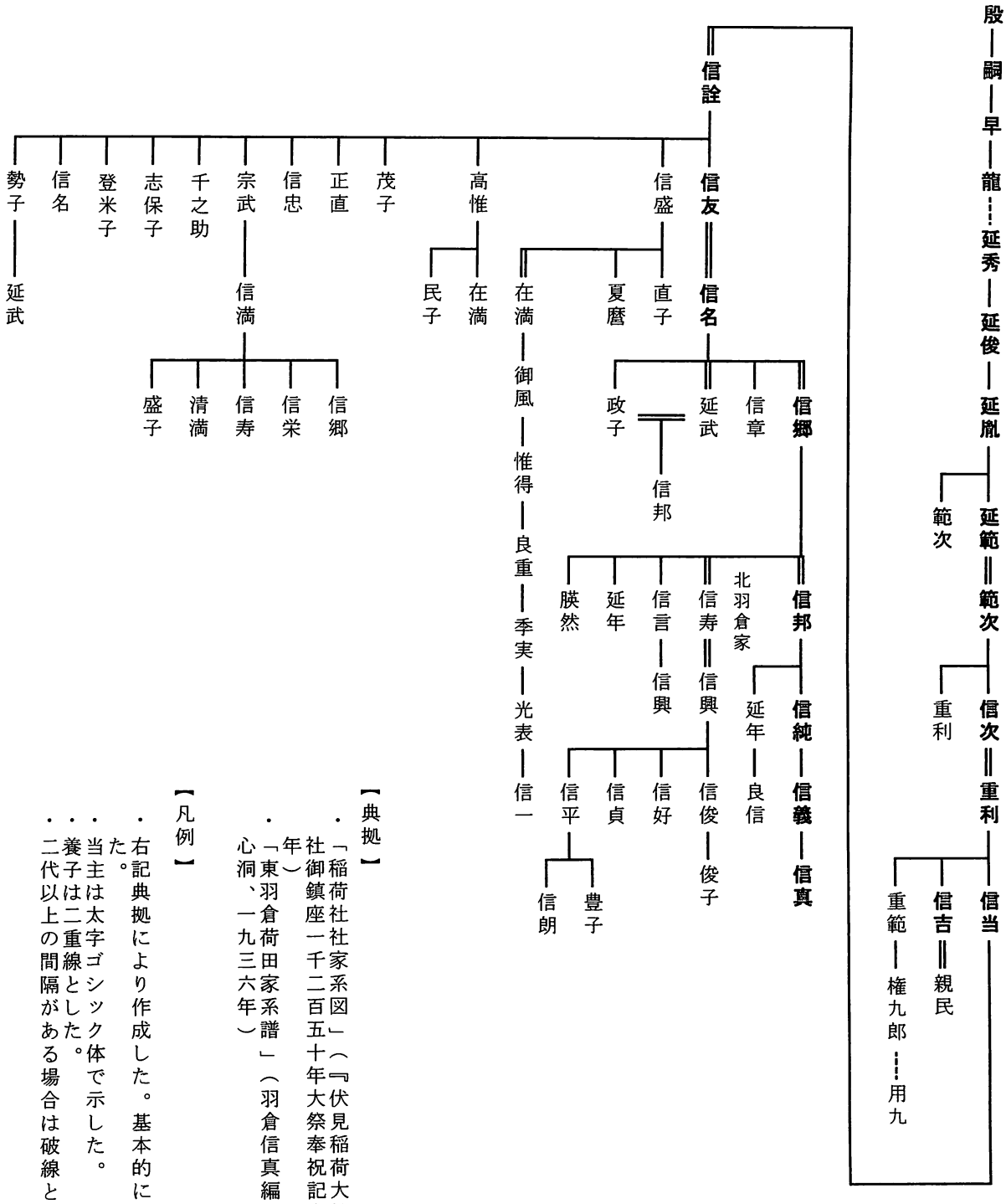
道光頭院		643
堂山		681 ,682
醐山桃寿翁朋夫		691-45
善啄		691-62
中邨貞義		3180-1
野瀬方雅		635
瓊浦処士原頑翁		652
東陽武世春元郷		691-60
春原重胤		691-79,691-49
藤原右功		3118
不破秀葉百		668
源明夫		663,669
西峩無着陳人		691-42
釈不染		646
来躬直		638
十三童号山		677
亀井隠士大癡		691-95

５．課題

以上、本稿で「東丸神社所蔵荷田信郷関係漢詩文詠草群」と呼んできた一連の資料群は、その質・量ともに、近世中期における京阪学芸資料としては有数のものと言ってよい。上記の表からも了解されるように、『平安人物志』など、当時刊行された人名録などに名が見えるだけの、ほぼ無名に近い人物を多く含むことは、むしろ当時の京阪文人社会の実像を反映している筈である。東丸神社所蔵のこれら詠草群の詳細な検討は、そうした今日伝記を知ることの困難な人物も含めた京阪の学芸活動の具体を解明してゆく端緒となりうるものと考える。

ただし、今回の調査では各々の詠草の内容についての詳細な検討にまでは至ることができず、また各人物の伝記情報についても、今後の増補・訂正の余地を多く残している。また、大半が当時の文人達の自筆資料であることから、墨蹟資料としての側面からも検討されてしかるべきであろう。ともあれ、如上のことからも、この十八世紀後半期の京都文人社会において、伏見稲荷社社家の東羽倉家頭首である荷田信郷の居宅でしばしば詩会が催され、そこに周辺の寺院に住する学僧や京阪の文人たちなど多種多様な人物が集い、文雅に興じていたという、従来ほとんど知られていなかった京阪学芸史の一側面を、これらの詠草群が示していることは明白であると言える。

荷田家（東羽倉家）系図



【典拠】

・「稲荷社社家系図」（『伏見稲荷大社年表』、伏見稲荷大社御鎮座一千二百五十年大祭奉祝記念奉賛会、一九六二年）

・「東羽倉荷田家系譜」（羽倉信真編『荷田春満歌集』、淡心洞、一九三六年）

【凡例】

・右記典拠により作成した。基本的に改名後の名前を使用した。

・当主は太字ゴシック体で示した。

・養子は二重線とした。

・二代以上の間隔がある場合は破線とした。

東羽倉荷田家系譜

名前	称号	生年月日	補職	没年月日	実父	実母	妻	養父	備考
オホ **殷**			和銅四年稲荷神鎮座の時仕ふと言伝ふ(二月七日稲荷大神御鎮座之時為祠官[ii])		雄略天皇				磐城皇子の裔、稲荷山の地主
ツグ **嗣**			天平年中						
ハヤ **早**			延暦年中						
リウ **龍**	荷田太夫[ii]、俗云龍頭太夫		嵯峨天皇御宇	伝弘仁8年(7年[ii])12月13日					
延秀	修理亮		文明17年9月(明応年間[ii])	明応9年8月					伝38世、以下世襲
延俊	修理亮		文亀元年9月5日						
延胤	亀千世丸、修理亮		永正2年7月28日	天文7年6月10日(47歳、48歳[ii])					
ノブノリ **延範**	岩福丸又宮千代、主膳正		天文8年7月23日	永禄2年8月(30歳、33歳[ii])					
ノリツグ **範次**	新三郎、隼人正		永禄3年9月8日	文禄2年9月7日(6日[ii])(47歳)	延胤			延範	
信次	藤蔵、木工頭		文禄3年10月7日(19歳[ii])	慶長10年3月8日(4日[ii])(25歳、30歳[ii])	範次	目代延忠女			
重利	初藤吉、藤十郎、後重次又信久、主膳正		慶長10年7月4日(25歳[ii])	慶長18年5月17日(27歳、33歳[ii])	範次二男	目代延忠女		信次	
ノブマサ **信当**	藤蔵、主膳正[ii]		寛永2年3月16日(18歳[ii])	慶安元年2月13日(41歳)	重利	飯田家長女・松本高経妻の妹	三宝院門主家司山科南小栗栖村八幡宮社司飯田左近家長女[ii]		元和4年1月補権職(11歳)[ii]
信吉	藤吉、主馬、摂津守		慶安元年6月25日(39歳)[ii]	貞享4年7月4日(78歳、79歳[ii])	重利	飯田家長女・松本高経妻の妹	下久我安田氏女(下久我妙真寺に葬る)		元和9年正月兼非蔵人出仕[ii]、寛文3年正月26日聴上北面[ii]、後秦親民為子[ii]、従五位下
親民	宝永7年幸親				祓川親賢	目代延次女		信吉	非蔵人出仕、元禄7年3月8日安田と改姓、宝永7年幸親と改め下久我安田家創立、神主家となる
重範	初新蔵[ii]、後弥平兵衛[ii]				重利、範次三男[ii]				寛永年中東行し、江戸に一家を立てて幕府に仕ふ、外記簡堂(名は用丸)の家祖。江戸羽倉権九郎組[ii]、慶長年門為幕府旗下臣[ii]、慶安3年奥書院与力[ii]
権九郎									大阪豊前相模ノ代官[ii]
用九	簡堂宇士乾[ii]、通称外記[ii]、別号天則[ii]、又可也[ii]								
ノブアキ **信詮**	始信秀、多門[ii]、主膳正、摂津守[ii]		明暦3年12月26日(16歳)	元禄9年3月13日(54歳、55歳[ii])	祓川親賢嫡男	目代延次女	松本為利女以智子(長男信友生、没)[ii]、後室深尾長兵衛盛長女貝子(享保4年正月20日(73歳))[ii]		正五位下、古来の例を破り、秦姓より荷田姓に養子せるは父親賢の母飯田氏が親賢の父大西親尚に嫁ぐ前に羽倉重利の妻にて信当の母なる縁に依る。
信友	始左門[ii]、主膳正、豊前介、摂津守[ii.iii]		元禄10年4月9日[ii]	享保2年8月9日(58歳、57歳[ii.iii])	信詮長男	松本為利女いち子	深尾休意斎女ナベ子[ii](智光院[iv])		非蔵人、寛文9年11月28日補権預(9歳)[ii]、正五位下
信盛	幼名鶴丸(香久丸)[ii]、後東丸、東麻呂、春満、通称斎	寛文9年正月3日[ii]		元文元年7月2日(68歳)	信詮次男	細川家臣深尾長兵衛盛長女貝子			大正8年贈従三位
直子[ii]	改辻子、中秀			明和2年7月14日	信盛				江戸神田芝崎豊後守好紀室

名前	称号	生年月日	補職	没年月日	実父	実母	妻	養父	備考
夏暦ii				早世	信盛				
在満	藤之進、東之進ii、初大学ii、字持之ii、号仁良斎ii			寛延4年8月4日(26日ii.iii)(46歳)	高惟			信盛	江戸に出て一家を立つ(住江戸 仕田安家ii)、江戸浅草金龍寺に葬る、大正4年11月10日贈従四位
高惟	幼名久馬介ii、始信近、称道員			元文3年7月14日(68歳)ii	信詮三男				養寿院道作門弟多賀(乙島ともいふ)道勺の養子となり医を業とし、道員と号す、坂本延暦寺中北谷華王院住(為多賀道句養子業医ii)
民子ii	蒼生子、初名逸、或楓里			天明6年2月2日(65歳)	高惟				
ノリカゼ御風ii	字子玄、通称東蔵、始長次郎			天明4年8月16日(57歳)	在満				
惟得ii	又惟徳、字子馨、通称東之進								
良重ii									
季実ii									
光表ii									
信一ii									東京麻布本村町氷川神社神職
茂子ii				元禄15年7月2日	信詮長女				目代西羽倉信元妻、信舎・真崎之母
正直ii	大蔵少輔			元禄13年6月13日	信詮四男			大炊御門家諸大夫山本内匠助	
信忠ii	一学			元禄13年6月30	信詮五男				
宗武	初名宗信、友之進			享保13年4月10日	信詮六男			丹波並河宗直(郷士並河孫左衛門宗直ii)	
信満	初名宗基、左仲			明和6年9月6日(62歳)ii	宗武		石子		実家に帰り羽倉を称し、伏見に住む
石子ii				明和元年8月25日	大舎人助神田祐世次女(江戸神田神主祐世女ii)			丹波並河宗勝	
千之助ii				早世	信詮七男				
志保子ii				早世	信詮次女				
登米子ii				早世	信詮三女				
信名	主馬、民部ii、主膳正ii、摂津守		享保2年10月5日ii	寛延4年4月24日(67歳)	信詮八男	細川家臣深尾長兵衛盛長女貝子	弁子iv	信友	宝永2年6月5日補権預(21歳)ii、従四位下
勢子ii				正徳5年11月25日	信詮四女				目代西羽倉信元後室、延武母
ノブノリiv信章	茂丸ii、初名信理、民部ii、石見守			享保20年11月17日(29歳)	信名	信友女いさ子			享保3年5月8日権預(12歳)ii、同15年6月26日石見守ii、従五位上
延武	左門ii、豊前守ii、豊後守			延享3年(13年ii.iii)6月19日(39歳)	目代信元末男	勢子	政子	信名	元文元年6月17日権預(29歳)ii、同2年2月19日豊前守ii、従五位上
政子ii				享和2年7月14日	信名				松尾日向相春室
信郷	摂津守、後筑前介、号子晟、間斎			寛政12年閏4月29日(62歳、61歳ii)	信満	石子		信名	寛延4年4月24日権預ii、同年10月1日摂津守ii、正四位下
信栄	宗成				信満				並河氏に復姓する
清満					信満			神人尾崎帯刀	
盛子	染川			寛政4年3月27日(51歳)	信満				鷹司関白輔平准上臈、染川と称す、昌子を生む、昌子は伏見邦頼親王妃、瓔珠院さが二尊院、鷹司家墓域に墓あり

名前	称号	生年月日	補職	没年月日	実父	実母	妻	養父	備考
信邦	摂津守		安永7年12月26日	文化6年2月21日(64歳)(1月13日ii)	延武	政子		信郷	宝暦6年11月7日権職(11歳)、安永6年6月29日摂津守、正四位下
信寿	始信昌、河内介			文化5年3月29日(55歳)	信郷二男				分家北羽倉家祖、明和5年12月19日河内介、安永5年12月25日非蔵人、兼勤、尾張、従四位下
信言	常陸介			寛政2年10月10日(23歳)	信郷				氏人、従五位下
信興	下野守、上総			安政6年3月25日(75歳)	信言			信昌	従四位下、非蔵人
信俊	河内守、対馬			天保12年6月25日(35歳)	信興	非蔵人松尾相春女滝子	ミカ(静寿院兼子)iv		従四位下、非蔵人
俊子	歌野			大正14年1月8日(92歳)					鷹司太閤政通その男関白輔熙に仕え歌野と称す、政通次男摂信興正寺(真宗本願寺分家、後の花園男爵)へ入寺、その男法嗣沢称の室ツネ子は輔熙女、ツネ子入寺の際従ふ、但し終生有髪の侭
信好	泰次郎			弘化5年2月25日(25歳)				後南山域小倉村宮本	無位
信貞	筑前守、尾張			弘化4年8月7日(24歳)					従五位下、非蔵人
信平	石見守、播磨				洛北修学院高野住の院蔵人松室重佳			信興	表面上同族氏人信充の次男として入家(重佳の父重村は同族羽倉信美の末子)、従四位下、非蔵人明治4年廃官
豊子	緑の命婦			明治11年(19歳)					昭憲皇后に仕え、緑の命婦と云、権命婦、正八位
信朗	盈丸				信平				
延年	茂丸ii、石見守			寛政11年7月21日(23歳)	信郷末子		下田氏恵子	信邦	天明6年閏10月18日権預(10歳)ii、同年12月19日石見守ii
良信	信秋、駿河守、近江、号可亭			明治20年8月12日(89歳)	延年			目代信資	非蔵人、文政5年6月24日官位辞職、可亭と号す
信純	摂津守		文化6年2月20日	万延元年4月19日(62歳)	信邦	上田氏幾子又玉江			文化6年2月18日権預(11歳)ii、同年6月8日摂津守ii、正四位下
信義	保丸ii、摂津守	安政3年	万延元年閏3月7日	大正6年2月25日(61歳)	信純二男				万延元年3月27日権預(5歳)ii、文久元年10月10日摂津守ii、明治4年廃官、明治23年5月東丸神社々掌ii、明治36年12月社司ii、従五位上
信真					信義二男				

【典拠】

i「稲荷社社家系図」(『伏見稲荷大社年表』、伏見稲荷大社御鎮座一千二百五十年大祭奉祝記念奉賛会、1962年)

ii「東羽倉荷田家系譜」(羽倉信真編『荷田春満歌集』、淡心洞、1936年)

iii「東羽倉荷田家略系譜」(『宝永四年日次記并書翰集』、荷田春満大人二百年記念会、1937年)

iv 東丸神社所蔵文書

【凡例】

・注記しない限り、典拠 i に拠り、適宜補足を加えた。
・名前のフリガナは、注記しない限り、典拠 ii に拠った。
・当主は太字ゴシック体で示した。

谷川 愛

東丸神社所蔵

東 羽 倉 家 文 書

凡　例

1　東羽倉家文書は、荷田春満の生家で、近世まで伏見稲荷社の御殿預りを世襲した羽倉(荷田)家に伝来した史料であり、現在京都市伏見区東丸神社が所蔵する。

2　目録の凡例は研究報告を参照すること。

3　本目録について史料閲覧などの希望は、まず國學院大學文学部史学科根岸研究室あるいは文学部資料室に問い合わせていただきたい。史料の写真の一部は、同研究室および資料室に収蔵されている。

4　本目録の作成にあたり、東丸神社および松村準二宮司御夫妻に、多大な御高配と御協力を賜った。記して深謝の意を表わす次第である。

東丸神社文書目録分類項目

A　荷田春満関係史料
- A－1　稿本・著作写本
  - A－1－1　書翰
  - A－1－2　著作・草稿
  - A－1－3　和歌・詠草
  - A－1－4　祝詞
  - A－1－5　書入本
  - A－1－6　自筆写本
- A－2　門人・学説
- A－3　春満宛書状

B　羽倉家関係史料
- B—1　家系・相続
  - B－1－1　家譜・系図・古伝
  - B－1－2　口宣案
  - B－1－3　伯家御教書
  - B－1－4　相続・勤仕
  - B－1－5　居宅・家計
  - B－1－6　その他
- B－2　日記

C　社家・社務
- C—1　神事
  - C－1－1　縁起・社伝
  - C－1－2　祭式・秘儀
  - C－1－3　祝詞
  - C－1－4　遷宮
- C—2　社家
  - C－2－1　家系・勤役
  - C－2－2　日記
- C—3　社務・社領
  - C－3－1　触書・達・幕府・所司代・伏見奉行
  - C－3－2　社法・愛染寺一件
  - C－3－3　社領・財政
  - C－3－4　稲荷山・松茸
  - C－3－5　社殿修復・神具・調達
  - C－3－6　東丸神社
- C—4　朝廷・神祇伯
  - C－4－1　朝廷・官幣
  - C－4－2　綸旨
  - C－4－3　神祇伯
  - C－4－4　伯家御教書
- C—5　信仰・安鎮
  - C－5－1　初穂・参詣・奉納
  - C－5－2　勧請・安鎮
- C—6　その他

D　学芸
- D—1　書状
- D—2　詠草・詩歌・文芸
  - D－2－1　荷田一門
  - D－2－2　他氏
  - D－2－3　不明・その他
- D—3　諸芸

E　書籍・刷物
- E—1　神書・国学
  - E－1－1　神書
  - E－1－2　和学・国学
  - E－1－3　仏書
- E—2　漢籍
- E—3　和書
  - E－3－1　歴史
  - E－3－2　故実
  - E－3－3　文学
- E—4　近代・印刷物
  - E－4－1　春満伝・目録稿・東丸神社関係
  - E－4－2　春満著作等写本
  - E－4－3　荷田全集等編纂資料
  - E－4－4　一般図書他

A　荷田春満関係史料

A－１稿本・著作写本

A－１－１ 書 状

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年　代	表　題	差出(作成)	宛　所	形態	数量	備　考
1	7				8月18日	(東丸書翰)	斎	左仲殿 奉復春日若宮	軸	1	
2	53	1				(東丸書翰)	荷田宿祢信盛	神社式部権少輔中臣祐字几下	続紙	1	
3	53	2				(文車についての東丸書翰)			続紙	1	
4	884					(下田氏伝来と定義ニ付書状)			続紙	1	
5	880					本朝花押之故実			折紙	3	袋書「本朝花押之故実春満筆」、綴られている
6	3535	1			11月28日	(伝書残八冊出来等ニ付東丸書簡写)	羽倉斎	村井久右衛門様	竪紙	1	

A－１－２著作・草稿

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年　代	表　題	差出(作成)	宛　所	形態	数量	備　考
1	301					古事紀箚記上中下全部	信章筆		竪帳	1	厚紙表紙「信章筆記」
2	579					古事記抜粋			竪帳	1	
3	1490					古事記中之巻(古事記等語句註)			竪帳	1	ボール紙表紙・裏表紙付
4	573					日本書紀童子問、日本書紀語釈稿	春満筆か		竪帳	1	2冊合綴、裏表紙扉「昭和二年七月装背ス」、春満
5	242					日本書紀問答抄巻第一	春満筆か		竪帳	1	(第二巻底本)
6	1657				元禄4年11月19日	神代聞書			竪帳	1	仮綴
7	586					神代師説聞書	信章		竪帳	1	表紙に鉛筆にて「荷田信章筆記」とあり
8	583					神代師説聞書	平宗基(荷田信満)		竪帳	1	「田中〔　〕」蔵書印あり
9	585					神代師説聞書			竪帳	1	
10	914					(神代巻講義)	信名か		竪帳	1	
11	901					(神代巻上下釈)	信名か		横半帳	1	
12	303					神代聞書			竪帳	1	
13	290					神代ノ二	信名か		竪帳	1	語注、神代巻註釈
14	2627				享保10年5月24日	師傳神代巻聞書(神代巻古傳私解下)	大西親盛		竪帳	1	親盛蔵書印、
15	269					「日本書紀惑問不次雑記第二」、門答雑記、「舊事記古事記の事」			竪帳	1	厚紙表紙に「或問随筆」とあり、(第九巻)
16	280					東丸神代答記			竪帳	1	
17	278					日本書紀神代巻箚記　初・二・三上	信名か		竪帳	1	合綴
18	279					日本書紀神代巻箚記　下初・下二	信名か		竪帳	1	合綴
19	1508					神代巻箚記	信名か		竪帳	1	ボール紙の表紙・裏表紙
20	1013					(日本書紀神代上一書)	信名か		竪紙	1	断簡、信名筆カ
21	1659					日本書紀抜捽	信名か		竪帳	1	崇神17～推古36年まで。注釈もあり。表題は貼紙
22	910					日本紀講釈備忘			横半帳	1	雄略13～敏達5年まで
23	85	1				日本書紀巻第一(神代巻)	春満筆か		竪帳	1	目録のみ
24	85	2				日本書紀巻四、六、八、十二、十七	春満筆か		竪帳	1	目録のみ、合綴
25	91					假名日本書紀第三巻、第十巻	春満筆		竪帳	1	合綴、「自筆本　仮名日本紀　巻三　巻十」(第三巻)
26	90					日本書紀巻第四、第五、第六、第九			竪帳	1	合綴、カナ訓、**「カタカナ本　日本書紀　巻四　巻五　巻六　巻九」(第三巻)**
27	1488					假名日本紀第三	春満先生著述		竪帳	1	**「春満著述親盛本　仮名日本紀　巻三」(第三巻)**
28	1489					假名日本紀第五・六	東丸先生著述		竪帳	1	**「春満著述親盛本　仮名日本紀　巻五　巻六」(第三巻)**
29	12					東丸遺墨(仮名日本紀断簡焼け焦げ)			軸	1	焼け残りか、「毛利様からのお預り」
30	18					餘燼(仮名日本紀断簡焼け焦げ)	荷田春満		軸	1	餘燼一丁を表装

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
31	38					東丸大人燼餘遺墨			巻子	1	仮名日本書記か
32	900					日本書紀訓読伝			竪帳	1	後欠か
33	574					日本書紀訓釈、日本書紀古語集釈			竪帳	1	2冊合綴、裏表紙扉「昭和二年七月装背ス」
34	580					神号訓釈傳	荷田宿祢春満		横半帳	1	
35	244					家蔵神代紀訓釈傳類語上之上			竪帳	1	「日本書紀神代巻訓釈伝類語(上)」(第三巻)
36	245					神代紀訓釈傳類語	春満大人著編		竪帳	1	「日本書紀神代巻訓釈伝類語(下)」(第三巻)
37	125					神號傳			竪帳	1	
38	375					神号傳	在満筆		竪帳	1	
39	3018					日本書紀斉明紀童謡訓義伝(注釈文)			続紙	1	
40	23					出雲風土記	春満考		竪帳	1	草稿、「自筆本出雲風土記考」(第三巻)
41	571					万葉問答一			竪帳	1	「万葉問答 一」(第四巻)
42	570					万葉問答二			竪帳	1	「万葉問答 二」(第四巻)
43	563					万葉問答三			竪帳	1	「万葉問答 三」(第四巻)
44	231	1				万葉問答			竪帳	1	帥大伴卿歌五首から、「万葉問答 四」(第四巻)
45	231	2				万葉問答			竪帳	1	萬葉集巻第四、「万葉問答 五」(第四巻)
46	565					万葉問答			竪帳	1	「万葉問答 譬喩歌」(第四巻)
47	569					万葉集和仮名訓七・九・十・十一・十二・十三	荷田宿祢信盛訓		竪帳	1	6冊合綴、「万葉和仮名訓七」「万葉和仮名訓九」「万葉和仮名訓十」「万葉和仮名訓十三」(第四巻)
48	593					万葉集訓釈			竪帳	1	2冊合綴、「万葉集訓釈」(第四巻)
49	962	1			7月15日	(近況伺いにつき書状)	母	はくらいつき殿	折紙	1	封筒「荷田貝子書翰二通」、裏面は万葉童子問草稿、「万葉集童子問 荷田貝子書翰紙背」(第五巻)
50	962	2				(書状)			折紙	1	裏面は万葉童子問草稿、「万葉集童子問 荷田貝子書翰紙背」(第五巻)
51	1638					万葉集童子問第二乙三			竪帳	1	裏に詠草、書簡等あり、「万葉集童子問 巻第二」(第五巻)
52	550					万葉集童子問巻第三ノ一			横半帳	1	一部に裏書あり、「万葉集童子問 巻三ノ一 子」「万葉集歌語分類草稿」
53	916					万葉集童子問(三ノ二)			綴	1	横帳を開いて綴っている、「万葉集童子問 巻三ノ二 丑」「万葉集歌語分類草稿」(第五巻)
54	552					万葉集巻第三ノ三 童子問			折紙	1	裏書「冬日同詠二首和歌 源信光」、「万葉集童子問 巻三ノ三 寅」(第五巻)
55	4					(東丸三のともしひ和歌)			軸	1	裏面が「万葉集童子問 巻第二」(第五巻)
56	893					(万葉集童子問)			巻子	1	裏は春満宛書翰
57	954					(万葉童子問他断簡)			仮綴	1	一綴七通、折紙を開いて裏に書く
58	241					万葉集僻案抄第一下			竪帳	1	「万葉集僻案抄 第一下」(第五巻)
59	230					万葉十七巻箚記			竪帳	1	厚紙表紙「萬葉集十七巻箚記一巻、十八巻一冊、十九巻一冊、二十巻甲乙二冊」、「万葉十七巻剳記」「万葉十八巻剳記」「万葉十九巻剳記」「万葉二十巻剳記 甲」「万葉二十巻剳記 乙」(第五巻)
60	289					万葉集改訓抄四、十一			竪帳	1	「万葉集改訓抄 巻四、巻十、巻十一、巻十二、巻十三、巻十六」(第五巻)
61	551					語釈草稿(万葉集童子問)			横半帳	1	裏は日本書紀訓釈伝、(第五巻)

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年　　代	表　　題	差出(作成)	宛　所	形態	数量	備　　考
62	285				寅2月27日	万葉集			竪帳	1	「信名講談東丸先生之説也、撰者ノ説多し」とあり、**「万葉集信名講談」(第五巻)**
63	82					万葉集内聞　初捌			竪帳	1	**「万葉集打聞」(第五巻)「本集巻第四」**
64	270					(万葉集諸説抜粋、第一巻當流奥秘問答、第二巻万葉中名所抜粋)			竪帳	1	合綴、**「当流奥秘問答」(第五巻)**
65	77	1				万葉集童蒙抄一			竪帳	1	「本集巻第二」
66	77	2				万葉童蒙抄第二巻			竪帳	1	「本集巻第二」
67	77	3				万葉童蒙抄参			竪帳	1	「本集巻第二」
68	77	4				万葉童蒙抄肆			竪帳	1	「本集巻第参」
69	77	5				万葉童蒙抄伍			竪帳	1	「本集巻第三之内」
70	77	6				万葉童蒙抄陸			竪帳	1	「本集巻第三之内」
71	77	7				万葉集童蒙抄七			竪帳	1	「本集巻第三之内」
72	77	8				万葉童蒙抄玖			竪帳	1	「本集巻第四之内弐」
73	77	9				万葉童蒙抄拾			竪帳	1	「本集巻第四の三」
74	77	10				万葉童蒙抄拾壹			竪帳	1	「本集巻第四終」
75	77	11				万葉童蒙抄拾貳			竪帳	1	「本集巻第五初」
76	77	12				万葉童蒙抄拾参			竪帳	1	「本集巻第五末」
77	77	13				万葉童蒙抄拾四			竪帳	1	「本集巻第六初」
78	77	14				万葉童蒙抄拾五			竪帳	1	「本集巻第六弐終」
79	77	15				万葉童蒙抄拾陸			竪帳	1	「本集巻第七初」
80	77	16				万葉童蒙抄拾七			竪帳	1	「本集巻第七次」
81	77	45				万葉童蒙抄拾捌			竪帳	1	「本集巻第七三」
82	77	17				万葉童蒙抄拾玖			竪帳	1	「本集巻第七肆」
83	77	18				万葉童蒙抄貳拾			竪帳	1	「本集巻第八初」
84	77	19				万葉童蒙抄貳拾壱			竪帳	1	「本集巻第八二」
85	77	20				万葉童蒙抄廿貳			竪帳	1	「本集巻第八終三」
86	77	21				万葉童蒙抄貳什参			竪帳	1	「本集巻第九初」
87	77	22				万葉集童蒙抄貳拾肆			竪帳	1	「本集巻第九終二」
88	77	23				万葉集童蒙抄貳拾伍			竪帳	1	「本集巻第十初」
89	77	24				万葉童蒙抄貳拾陸			竪帳	1	「本集巻第十次」
90	77	25				万葉童蒙抄貳拾七			竪帳	1	「本集巻第十参」
91	77	26				万葉童蒙抄貳拾捌			竪帳	1	「本集巻第十終」
92	77	27				万葉童蒙抄貳拾玖			竪帳	1	「本集巻第十一之初」
93	77	28				万葉童蒙抄参什			竪帳	1	「本集巻第十一之次」
94	77	29				万葉童蒙抄参拾壱			竪帳	1	「本集巻第十一巻之三」
95	77	30				万葉童蒙抄参拾貳			竪帳	1	「本集巻第十一巻之肆」
96	77	31				万葉童蒙抄参拾参			竪帳	1	「本集巻第十二初」
97	77	32				万葉童蒙抄参拾肆			竪帳	1	「本集巻第十二巻之次」
98	77	33				万葉童蒙抄参什五			竪帳	1	「本集巻第十二巻之終
99	77	34				万葉童蒙抄参什陸			竪帳	1	「本集巻第十三之初」
100	77	35				万葉童蒙抄参什七			竪帳	1	「本集巻第十三之次」
101	77	36				万葉童蒙抄参拾捌			竪帳	1	「本集巻第十三之終」
102	77	37				万葉童蒙抄参拾玖			竪帳	1	「本集巻第十四之初」
103	77	38				万葉童蒙抄肆什			竪帳	1	「本集巻第十四之次」
104	77	39				万葉童蒙抄四十一			竪帳	1	「本集巻第十四之内三
105	77	40				万葉童蒙抄肆什貳			竪帳	1	「本集巻第十五之初」
106	77	41				万葉童蒙抄肆什参			竪帳	1	「本集巻第十五之次」
107	77	42				万葉童蒙抄肆什四			竪帳	1	「本集巻第十六之初」
108	77	43				万葉童蒙抄四十五			竪帳	1	「本集巻第十六之二」
109	77	44				万葉童蒙抄四十六			竪帳	1	「本集巻第十七初」
110	1042					万葉巻第一上			竪帳	1	翻刻原稿5枚挿入あり
111	243					萬葉集	荷田信忠		竪帳	1	厚紙表紙「信忠筆萬葉集巻四・七・八・九(全六拾八枚)信真昭和2年8月12日」
112	246					なつのかつら一、二(万葉集注釈書)			竪帳	1	原稿15枚同封
113	247					万葉管見一～四			竪帳	1	合綴、一のみ自筆
114	271					万葉集巻第二目録上			竪帳	1	目録のみではなく、語注も付してある
115	288					万葉集十八、十七、十五、十四、十四巻二、十九、二十巻			竪帳	1	合綴、語注
116	971					恵具(万葉集注釈・春満頭注)			竪紙	1	綴跡あり
117	1374					(万葉集歌語別分類)			竪帳	1	五冊合綴、「伊」「文」「植」「預」「蘭」
118	1375					(万葉集歌語別分類)			竪帳	1	二冊合綴、「万歌抜水発」「万抜　次」
119	287					万葉集　東丸訓点			竪帳	1	万葉集歌人名を記したも
120	286					万葉集聞書			竪帳	1	外題「万葉集私抄」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
121	3063					(万葉箚記合綴)			竪帳	1	「万葉十九巻箚記」「万葉二十巻箚記甲」「万葉二十巻箚記」の三冊合綴
122	581					古今和歌集序分			竪帳	1	(第六巻)
123	578					古今集序注			竪帳	1	(第六巻)
124	566					古今集序註			竪帳	1	裏表紙扉「昭和二年七月裏打ス」、「青楓館」「稲荷山麓」「羽倉蔵書」朱印、(第六巻)
125	599					古今和歌集箚記			竪帳	1	(第六巻)、春満筆
126	590					古今和歌集巻第一伝			竪帳	1	(第六巻)
127	597					古今和歌集巻第十一、第十二、第四			竪帳	1	(第六巻)
128	567					古今和歌六帖	東丸考		竪帳	1	「古今和歌六帖考」(第六巻)
129	568					古今六帖	東丸考		竪帳	1	春満筆、「古今六帖考」(第六巻)
130	587					古今六帖	東丸考		竪帳	1	裏表紙裏「昭和二年七月裏打了」の書き込みあり、春満筆、「古今六帖考」(第六巻)
131	106					古今秘説一			竪帳	1	「古今和歌集家会之箚記」(第六巻)、荷田信名筆か
132	592				享保5年庚子5月22日	古今和歌集聞書	親盛		竪帳	1	朱あり、(第六巻)
133	598					古今抄			竪帳	1	(第六巻)
134	589					古今集 春上			竪帳	1	表紙裏「古今集教誡」鉛筆の題箋あり、(第六巻)
135	164					(古今和歌集童子問等童子問・箚記断簡綴)			竪帳	1	春満筆か、「雑用帳」とあり「童子問残欠」(第六巻)
136	588					古今集藤澤伝			竪帳	1	「羽倉蔵書」「稲荷山麓」朱印、付箋「東丸公筆」
137	572					古今秘訣条々、古今清濁、古今口伝、古今和歌集大伝受三ヶ秘授、伊勢物語七ヶ之秘訣			竪帳	1	5冊合綴(第七巻)
138	107					古今集聞書	信名(荷田信名)		竪帳	1	合綴(「古今三」他)
139	577					古今集箚記二			竪帳	1	信名筆か、綴紐なし
140	1088					(古今和歌集巻第十二～十			竪帳	1	巻十一の途中からか
141	238					和歌童蒙抄抜粋 二冊			竪帳	1	春満筆か
142	154					割記			竪帳	1	春満筆か、和歌の解釈が記されている
143	167					(和歌解釈書)			竪帳	1	春満筆、人麿の「ほのぼのとあかしの浦の…」の歌から
144	141					名目上・下			竪帳	1	合綴、イロハ順に語義等がならぶ
145	1496					後撰集聞書	信名		竪帳	1	(第六巻)「後撰和歌集聞書」
146	564					歌林類葉巻第一	稲麓散人荷田春満		竪帳	1	春満筆、(第六巻)
147	31					歌よむ心得	春満筆		巻子	1	「荷田東麿真蹟也、荷田信郷(花押)」
148	3528				(近世)	和歌詠方			竪帳	1	厚紙改装表紙、春満筆か
149	293					伊勢物語童子問	春満筆か		竪帳	1	二冊合綴、(第七巻)
150	296					伊勢物語童子問			竪帳	1	表紙「上十一」、(第七巻)
151	548					童子問(伊勢物語童子問草稿)			折紙	1	裏はしんせう院・勝見木工之介等より羽倉斎宛書状、(第七巻)
152	549					童子問(伊勢物語童子問草稿)			折紙	1	裏は芝崎宮内少輔好(花押)より羽倉斎宛書状、(第七巻)
153	553					下三 伊勢物語童子問			切継紙	1	裏に和歌漢詩あり、巻いてこよりでしばってある、(第七巻)
154	554					伊勢物語童子問			切継紙	1	裏に和歌あり、巻いてこよりでしばってある、(第七巻)
155	557					辰 伊勢物語童子問			竪綴	1	裏は入江伝蔵、木村隼人等より羽倉斎宛書状等、(第七巻)
156	558					伊勢物語童子問			竪綴	1	裏は和歌・漢詩、松浦勘解由等より羽倉斎宛書状等、(第七巻)

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
157	559					伊勢物語童子問			竪綴	1	裏「元禄十丁巳十一月十二日甲府中納言殿江御成之節被下物等」、(第七巻)
158	562					下四　伊勢物語童子問			竪綴	1	裏は山口寿斎より羽倉斎宛書状等、(第七巻)
159	120					百人一首師説	大西親盛筆		竪帳	1	
160	233					百人一首傳、百人一首発起傳一・二	倉麿(荷田信名)		仮綴	1	合綴、箚記草案(研究会之留)、「百人一首評会控」「百人一首発起伝一・二」(第七巻)
161	240					百人一首発起之傳　三			竪帳	1	厚紙表紙「百人一首発起伝三・四」、(第七巻)
162	3531				天明5年仲夏	東丸仮字遣百人一首	稲荷中社神主親臣(花		竪帳	1	「稲荷本宮神主家」罫紙使用
163	283					有職懐中抄巻之一～巻之四、有職童子問	春満筆か		竪帳	1	巻之一前半欠
164	108	6			元禄4年未8月7日～閏8月17日	職原抄問答			竪帳	1	春満の講義か
165	108	3			己亥(享保4)年9月4日	職原抄箚記一～三	信名		竪帳	1	仮表紙に鉛筆で「荷田春満之講義ヲ筆録セル者也」、3冊合綴
166	108	5				職原抄(職原抄可考事別にあり)			竪帳	1	信名筆か、「享保四年九月四日春満之講義ヲ筆記セルモノナリ」とのメモあり
167	108	2				職原抄箚記			竪帳	1	「信名筆記」との鉛筆書あり
168	108	1				職原抄箚記			竪帳	1	「信名筆記」との鉛筆書あり
169	277					江家次第箚記自第壱至	信章か		竪帳	1	
170	1212					(江家次第箚記)			竪帳	1	裏より「源氏物語巻之名」「青楓館印」、信名筆
171	469					江次第　第六巻			竪帳	1	
172	110	1				偽類聚三代格考上・下	荷田宿禰春満		竪帳	1	合綴
173	110	2				偽本類聚三代格巻第九・第十・第十二			竪帳	1	
174	113					賊盗律第七			竪帳	1	「在満加筆」、コゲあり
175	114					無外題(職員令関係)			仮綴	1	
176	115					無外題(職員令関係)			仮綴	1	
177	118					故唐律疎議(巻第三、四、五、六)			竪帳	1	合綴、春満筆
178	224				(享保12年7月27日～)	令義解箚記案一	暗万		竪帳	1	
179	225					令義解箚記二	暗万		竪帳	1	
180	226					令義解箚記案三	暗万		竪帳	1	
181	227					令義解箚記草案	暗万		竪帳	1	表紙「第六巻義制令」
182	228					令義解箚記　禄令			竪帳	1	
183	229					令集解箚記一			竪帳	1	
184	232					令集解箚記草案、令抄	暗満(荷田信名)		仮綴	1	7点
185	236					令集解箚記　貳			竪帳	1	
186	237					令集解箚記　参			竪帳	1	
187	239					令義解箚記　官職令/職員令一戸令俗解			竪帳	1	
188	276								竪帳	1	
189	302	1				令義解箚記一、二	信章筆か		竪帳	1	合綴
190	302	2				令義解箚記三、四、五	信章筆か		竪帳	1	合綴
191	493				享和元年季秋	偽類聚三代挌考巻第一～第四	正四位下秦宿祢親寓(花押)写		竪帳	1	外題「偽類聚三代挌一二三四　上」
192	494				享和元年季秋	偽類聚三代挌考巻第七～第十二	(正四位下秦宿祢親寓(花押)写)		竪帳	1	外題「偽類聚三代挌七八九十十一十二　下」
193	911					延喜式箚紀　自神祇式至太政官式			竪帳	1	
194	922					主税式内問			竪帳	1	下田師古から春満への問写
195	1487					令義解聞書　自官位令至家令職員令終　壹			竪帳	1	(第九巻)
196	3290					延喜式私考(上延喜格式表・歴運記等ニ付私考・断簡)			竪紙	1	蔵書印「荷田氏珍蔵」
197	94					続日本紀聞記一之二、三之四　全	近守		竪帳	1	合綴、表紙に「親盛之印」朱印
198	1658					淳和天皇勅語(日本後紀箚記)			竪帳	1	仮綴
199	95				②享保11年丙午2月14日	①續日本後紀聞書　自巻第一至第十終②續日本後紀聞書　自第十一至(第十二)			竪帳	1	親盛自筆、合綴

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
200	99				享保11年4月24日	文徳實録 自第一巻至(第十)聞書	(親盛)		竪帳	1	語釈、「親盛之印」朱印
201	98					文徳實録巻第一(文徳實録巻第一～十・三代實録巻第一～九他)	(荷田信名筆記)		竪帳	1	箚記、語釈、合綴
202	103					日本三代實録考(第一、二、三、四、十、十一)			竪帳	1	春満筆、合綴
203	104					日本三代實録考			竪帳	1	春満筆
204	1500					姓名部一(三代實録姓名部抜萃)			竪帳	1	春満筆か、注釈、ボール紙の表紙・裏表紙付
205	105	1				日本三代實録箚記 自壹至廿二			竪帳	1	語注、2冊合綴
206	105	2			(享保12年未7月5日)	日本三代實録箚記 自廿至五十終			竪帳	1	語注、末尾に「享保十二年未七月五日会訖、惣百三十会」、2冊合綴
207	100	1				三代實録聞記 自第一巻至第十八終	(親盛)		竪帳	1	親盛自筆「親盛之印」朱印
208	100	2				三代實録聞記 自第十九巻至第五十終	(親盛)		竪帳	1	
209	102					日本三代實録序(第一～十六巻)			竪帳	1	語釈、親盛自筆か
210	140				享保10年乙巳8月8日	日本逸史聞記 自三十二巻至四十巻終			竪帳	1	末尾に「享保十年乙巳八月八会終」、親盛自筆「親盛之印」朱印
211	460					日本逸史 自三十巻至四十巻三	(荷田信章筆記)		竪帳	1	箚記、語釈、「史記評林巻之一」断簡挿入
212	123					荷田宿祢東満古語音義傳	荷田春満		竪帳	1	
213	124					四季国語傳、四方国語傳	春満筆か		竪帳	1	訓釈を国語に改めている。筆者はこの二説は「非也」としている
214	126				寅(宝永7年)11月14日～正徳2年12月朔夜	日本音義 言語部	春満筆か		竪帳	1	「神國音義」を「日本音義」に改める
215	127					神國音義一、二	(荷田宿祢東丸述)		竪帳	1	合綴、天部「あめ」から以降の音義、自筆か
216	128					圀語類聚 安部(五十七枚)、伊部(三十二枚)			竪帳	1	合綴、書型が異なる、用語集、堅紙表紙に「信真」の朱印あり
217	130					国語類聚	荷田春満か		竪帳	1	自筆か、安類からはじまる字類聚、紙背に「延喜式字類」断簡あり
218	131					無外題(國語音義の一部か)			竪帳	1	
219	132	1				無外題(「い」から始まる辞書か)	荷田宿禰春満		竪帳	1	表紙なし
220	132	2				千言釈随筆、千言音義随筆、本邦名義集稿、本邦語釈、神語一字傳	荷田宿禰春満		竪帳	1	1～2丁程度のものの合綴
221	273					古語雑釈	荷田宿祢春満按		竪帳	1	春満筆
222	274					語釈	自筆か		竪帳	1	
223	275					語釈	自筆か		竪帳	1	神代巻の訓
224	284				正徳2年8月9日	真名假字音義傳 稿			竪帳	1	春満筆か
225	297					東丸語釈			竪帳	1	
226	298					東丸語釈			竪帳	1	
227	299					語釈草稿			竪帳	1	二冊合綴
228	300					語釈草稿			竪帳	1	五冊合綴
229	881					(語釈草稿断)			切紙	1	あま鯛、いそこ、おひミ、こすい、てこ、あかたけ
230	909					語学之記			横半帳	1	神代巻冒頭部の語釈
231	1153				宝永5年9月1日	(歌語分類注釈・「たちまちのつき」等語句漢文解釈)			竪帳	2	仮綴、包紙・紐あり、「日本書紀」と記す紙片あり、上去声表記、
232	3292					(古語解釈覚書)			切紙	1	断簡
233	29	1				東麿大人國學校創造啓文草稿弐通	社弟荷田宿祢春満頓首再拝	大嶋雲平大兄閣下		1	
234	555					(雑書綴)			竪綴	1	56通1綴
235	949					(春満草稿焼残り)			葉	166	裏打分
236	42					(往復記の春満等の草稿)	(春満、在満、御風)		軸	3	
237	892					東丸翁草案敗紙四枚之内(春満草稿反故貼込12点)			続紙	1	
238	179					稲荷社日供再興記序	荷田春満		竪帳	1	春満筆

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
239	2731				正月13日	(神前御料殿献上神供書付綴)			横帳	1	整理用封筒に「春満筆」とあり
240	1017					(陰神に関する断簡)			竪紙	1	竪帳の断簡1枚、信名筆か
241	2336					いなり社雑事割記			竪帳	1	外題「伊奈利雑事割記」
242	32					和書真偽考	春満筆か		巻子	1	金庫に別置
243	1018					論語聞書　自序至			竪帳	1	表紙に「親盛之印」朱印
244	1019					春秋経伝聞記	親盛		竪帳	1	
245	1016					左荘公覚書(左伝箚記)	(信名筆)		竪帳	1	裏表紙に記述あり
246	1045					左傳箚記	信名		竪帳	1	
247	1351					左伝二(箚記)			竪帳	1	信名筆
248	272					或問随筆(「としをつミて」他問答)			竪帳	1	厚紙表紙に「或問随筆」
249	3647				(近世)	(日本の文字に関する問答)	東丸直筆		折紙	1	童猛抄の類の断簡、別置されていた
250	108	4				箚記(「狩衣之事」の解釈他)			竪帳	1	
251	129					國書字類寮、國書字類司			竪帳	1	合綴、字書(例えば寮部には「図書寮」の解説が記されている)
252	146					國書所見記、所見随筆			竪帳	1	合綴、語注のような内容、春満筆か
253	147					群書抜粋			竪帳	1	種々の物覚え書きか、春満筆か
254	149					新旧雑記			竪帳	1	用語の解説か、表紙に「信真」の印あり、春満筆か
255	133	1				日本姓名録稿一、二			竪帳	1	合綴、春満筆
256	133	2				日本姓名録稿三、四			竪帳	1	合綴、春満筆
257	143					雑書(見聞雑記、「諭唐山併各州府船主及客目稍等知悉」、甲冑目録他)			横半帳	1	合綴、見聞雑記・「諭唐山併各州府船主及客目稍等知悉」・甲冑目録は春満筆か
258	1350					袖中抄師説聞書			竪帳	1	「里暦」と表紙に朱印
259	2992				正徳2・3年	門葉(春満門人等の和歌集)・見聞雑記(荘子注疏・古今伝授等聞書)			横半帳	1	二冊合綴
260	711				(宝永2年2月19日～11月19日)	東丸君門下武城会歌寄書	東丸直筆		竪帳	1	信盛、好高、直定ほか。内表紙「東丸大人真筆武城会歌寄書」、「東丸君門下武城会歌寄書」。「羽倉蔵書」朱印

A－1－3　和歌・詠草

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	694				(宝永3月戊正月～卯月29日)	(新庄土佐守五十賀等和歌会留書)			竪帳	1	越智正番、荷田信盛ほか
2	710				宝永5年2月13日	歌合(一日千首歌合)			竪帳	1	松堂、信盛、好高、五十丸ほか、表紙朱書「宝永五年二月十三日神田明神柴崎好高宅ニテ一日千首歌合」
3	695				正徳4年午3月23	和歌留書			竪帳	1	東丸、信元、国頭ほか
4	712				(享保6年正月23日～閏7月13日)	享保六年月并和歌会留	秦親盛		竪帳	1	信名、東麻呂ほか
5	708				(享保6年4月4日～享保7年12月8	(当座百首和歌会留書)			竪帳	1	信名、信舎、為胤、東丸、信章ほか、3冊合綴
6	713				(享保8年8月23日～享保9年8月22日)	享保八年月次和歌会留	親盛評		竪帳	1	東丸、信名、信舎ほか
7	707				(享保10年7月22日、享保11年6月22日)	(長楽寺会、勤句百首当座和歌会留書)			竪帳	1	東麻呂、信名、信舎ほか、2冊合綴、2冊目は表紙に「荷田信舎」とあり
8	706				享保11年午6月22日	(東山双林寺当座和歌会留書)			竪帳	1	東丸、親芳、親盛ほか
9	698				(享保18年3月16日～20年8月16日)	和歌稽古会詠草綴			竪帳	1	春満、在満、真淵ほか、直子筆、在満筆とあるものあり、重要、万葉仮名の和歌あり、7冊を裏打し合綴
10	697				享保19年寅	春満門人詠草添削			竪帳	1	春満、直子、博芳、親盛、真淵ほか、歳旦から残暑まで、末尾から天地逆にて「雑或問」(古万葉集序の事)、「口号或問雑記」合綴、「青楓館」「羽倉蔵書」「稲荷山竈」朱印

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
11	2760				寛政10年戊午孟秋	春葉集 本・末(合綴)	平安書肆吉田四郎右衛門他5書肆		竪帳	1	木版、2冊合綴、蔵書印「青楓館印」「荷田信義」、奥付に「寛政乙卯之秋稲荷祠官正四位下荷田信郷識、孫従五位上延年敬書」
12	2255					春葉集 本			竪帳	1	「青楓館印」「荷田信義」朱印
13	2229					春葉集 末			竪帳	1	奥書「明治九年丙子一月写之、杉生園信義(朱印)」「青楓館印」(朱印)
14	10					「閑庭露滋」(荷田春満筆詠草)	東丸		軸	1	表紙打付書「東丸大人閑庭露滋和歌 稲麓青楓館蔵」、裏は春満筆童子問、箱横書「東丸大人閑庭露滋和歌」
15	19					「十二支をかくして」(荷田春満筆詠草)	東万侶		軸	1	箱蓋上書「東丸和歌 一幅」、蓋裏書「丙申三月青楓館」、表紙打付書「東万侶大人十二支和歌」
16	39					「魚名」「鳥名」「木名」(荷田春満筆詠草三首)	(荷田春満)		軸	1	箱蓋上書「荷田東丸大人和歌詠草」、蓋裏書「荷田信真謹題」、表紙打付書「東丸魚鳥木和歌」、「荷田信義」朱印
17	60					(「志ほの山…」等荷田春満筆詠草三首)	(荷田春満)		軸	1	表紙打付書「東丸大人和歌」、「荷田信義」朱印、奥書「荷田東麿真蹟也 後裔荷田信義謹誌」
18	65					(荷田春満筆詠草)	(荷田春満)		軸	1	燃え残り1丁分、評あり
19	66					「垣夕顔」(荷田春満筆詠草)	(荷田春満)		軸	1	評あり
20	34					(荷田春満筆詠草)			続紙	1	裏は荷田貝子刀自書翰、なかに春満宛書状あり、包紙「荷田春満大人母堂荷田貝子刀自書翰 春満宛 裏春満筆詠草」、書状箱に別置
21	883	1				(荷田春満筆詠草)			切紙	1	
22	955					(春満・信名等の詠草)			状	1	竪帳の断簡か
23	87					和歌題詠			竪帳	1	春満筆か。日本書紀巻第一神代上注釈書合綴
24	715					「荷田東麿歌集 二」、「荷田先生〔東麻呂〕作歌」、(宝永五年信盛和歌集)			竪帳	1	3冊合綴、荷田東麿歌集は焼け残り、荷田先生〔東麻呂〕作歌奥朱書「朱印有之は真渕撰出也」、3冊目は宝永五年子二月十三日の詠草
25	709					東丸哥集 雑上案五			竪帳	1	蔵書印「羽倉蔵書」、封紙上書「東丸様歌集 弥栄
26	700					春満歌集大策 九冊之内			竪帳	1	4冊合綴、草稿、表紙「春満歌集大策」
27	714					春満歌集大策 九冊之内、春満歌集短策四冊之内、(荷田春満和歌集)			竪帳	1	3冊合綴、表紙「春満歌集大策」、後装表紙に「直子筆」とあり
28	1041				(近代)	荷田東麿詠歌集			竪帳	1	青色罫紙使用
29	885					浜松月次会兼題			状	1	封筒「浜松月次会兼題題者荷田春満筆」
30	878					定(和歌会開催次第の定書)			状	1	封筒「和歌会 定」

A－1－4 祝詞

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2964	1			元禄13年辰1月8日	霊祭斎詞	荷田宿祢信盛		竪紙	1	包紙あり
2	13				元禄13辰年1月18日	(霊祭斎詞、霊祭戒詞)	荷田宿祢信盛		軸	1	箱蓋上書「霊祭斎詞 東丸大人筆」、蓋裏書「荷田信真謹」、箱横書「東丸大人筆霊祭祝詞」、表紙打付書「霊祭祝詞 東丸大人筆」、箱中に「稲荷文化展目録」(主催伏見稲荷大社、昭和27年11月2日～4日)
3	1141	1			(元禄13辰2月8日～明和4年正月28日)	祝詞、霊祭斎詞			竪帳	1	「霊祭斎詞」(元禄13辰2月8日～16年未三月朔日)と2冊合綴、写、元禄13辰2月8日荷田宿祢信盛作の「霊祭戒詞」あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
4	15				宝永6年正月23日	(故源綱吉公贈官位之祝詞草稿)			軸	1	荷田春満筆、箱蓋裏書「明治三拾七年二月十四日昇格奉告祭之節信徒総代尾崎潔次寄附之 但宝永六年正月二十三日故源綱吉公へ贈官位之祝詞草稿 東丸神社社司荷田信義謹書」、箱蓋上書「祭神之御遺墨 府社東丸神社所蔵」、表紙打付書「荷田東丸翁直筆」
5	560	3			宝永6年11月朔日	神象之法(目録)	(荷田春満)		折紙	1	封筒上書「荷田家相伝之秘法、地鎮斎・奉太玉串次第・神象之法、荷田春満筆」
6	872				(享保12丁未年9月26日)	有栖川宮地奉稲荷五社神鎮坐祝詞	(正五位下行伯耆守荷田宿祢信元)		続紙	1	付箋に「春満筆」と万年筆書
7	1493					大祓祝詞和解 上			竪帳	1	表紙「大祓祝詞和解 天」
8	1494				延享3年9月	大祓祝詞和解 下	稲荷社権祢宜従四位下行相模守秦宿祢親盛謹書(印)(印)		竪帳	1	表紙「大祓祝詞和解 地」
9	561					祝詞式和解二			竪帳	1	
10	912					祝詞式聞記			竪帳	1	(第二巻)
11	268					東丸大人ノ筆解除之次第			竪帳	1	春満筆
12	887					神供祝詞			竪紙	1	端裏書「神供祝詞」、封筒に「春満筆」
13	560	1				地鎮斎(次第)	(荷田春満)		折紙	1	封筒上書「荷田家相伝之秘法、地鎮斎・奉太玉串次第・神象之法、荷田春満筆」
14	560	2				奉太玉串次第	(荷田春満)		折紙	1	封筒上書「荷田家相伝之秘法、地鎮斎・奉太玉串次第・神象之法、荷田春満筆」

A－1－5　書入本

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	984	1			(寛永21年甲申歳孟夏)	古事記上巻	(洛陽書林前川茂右衛門開板)		竪帳	1	朱にて春満の書き込みあり、親盛蔵印、木版
2	984	2			(寛永21年甲申歳孟夏)	古事記中巻	(洛陽書林前川茂右衛門開板)		竪帳	1	朱にて春満の書き込みあり、親盛蔵印、木版
3	985				寛永21年甲申歳孟夏	古事記下巻	洛陽書林前川茂右衛門開板		竪帳	1	朱にて春満の書き込みあり、親盛蔵印、木版
4	1495				元禄8歳次乙亥仲夏吉旦	日本書紀(一・二巻)	西村市郎右衛門他3名		竪帳	1	木版、外題「神代巻完」、松下見林の後書あり、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印、書込あり
5	92	1			(寛文9己酉正月)	日本書紀(三～八巻)	(竹村市兵衛昌常他3名)		竪帳	1	外題「日本書記木」、木版に朱にて「荷田東麻呂訓」が記されている
6	92	2			(寛文9己酉正月)	日本書紀(九～十四巻)	(竹村市兵衛昌常他3名)		竪帳	1	外題「日本書記火」、木版に朱にて「荷田東麻呂訓」が記されている
7	92	3			(寛文9己酉正月)	日本書紀(十五～二十一巻)	(竹村市兵衛昌常他3名)		竪帳	1	外題「日本書記土」、木版に朱にて「荷田東麻呂訓」が記されている
8	92	4			(寛文9己酉正月)	日本書紀(二十二～二十六巻)	(竹村市兵衛昌常他3名)		竪帳	1	外題「日本書記金」、木版に朱にて「荷田東麻呂訓」が記されている
9	92	5			寛文9己酉正月	日本書紀(二十七～三十巻)	(竹村市兵衛昌常他3名)		竪帳	1	外題「日本書記水」、木版に朱にて「荷田東麻呂訓」が記されている
10	30	1				職源抄上			竪帳	1	外題「職該上巻」、木版、慶長勅版覆版春満書入
11	30	2				職源抄下			竪帳	1	外題「職該下巻」、木版、慶長勅版覆版春満書入
12	294				寛永20癸未歳9月吉日	真名伊勢物語	二條通澤田庄左衛門板行		竪帳	1	木版、(第七巻)

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
13	338					百人一首抄 上巻(刊一冊)			竪帳	1	書入れ、春満筆か

A－1－6自筆写本

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	50					稲荷社荷田氏両家之傳	春満か		折紙	1	
2	210					風土記 山城・伊賀・豊後・肥前 全			竪帳	1	「伊賀 東丸公筆、肥前在満公筆」
3	249					万葉集注抄、万葉集第一～第二十			竪帳	1	合綴、奥書「文明十八年三月日 右衛門督藤為広判」
4	250					万二中(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
5	251					万二下(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
6	252					万三(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
7	253					万三中(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
8	254					万三下(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
9	255					万四(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
10	256					万四下(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
11	257					万五(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
12	258					万六(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
13	259					万六下(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆
14	260					万七(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆、表紙に「信真」の印
15	261					万七下(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆か
16	262					万八(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆か
17	263					万九(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆か
18	264					万九下(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆か
19	265					万十(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆か
20	266					万十下(万葉代匠記)			竪帳	1	春満筆か
21	78	1				万葉集巻十一(万葉代匠記)			竪帳	1	表紙「十一」、表紙破損あり、春満筆ではない
22	78	2				万葉集第十一代匠記下			竪帳	1	表紙「万十一下」、春満筆ではない
23	78	3				万葉集第十二(万葉代匠記)			竪帳	1	表紙「万十二」、春満筆ではない
24	78	4				万葉集第十三(万葉代匠記)			竪帳	1	表紙「万十三」、春満筆ではない
25	78	5				万葉集第十四代匠記			竪帳	1	表紙「万十四」、春満筆ではない
26	78	6				万葉集第十五代匠記			竪帳	1	表紙「万十五」、春満筆ではない
27	78	7				万葉集巻第十六(万葉代匠記)			竪帳	1	表紙「万十六」、春満筆ではない
28	78	8				万葉集巻第十七(万葉代匠記)			竪帳	1	表紙「万十七」、春満筆ではない
29	78	9				万葉集巻第十八(万葉代匠記)			竪帳	1	表紙「万十八」、春満筆ではない
30	78	10				万葉集巻第十九(万葉代匠記)			竪帳	1	表紙「万十九」、春満筆ではない
31	882	1				(山部宿祢赤人の和歌三首)			続紙	1	春満筆、封筒「荷田春満真筆断片」
32	93					続日本紀抜粋			竪帳	2	「信真」の朱印が改装された表紙にある、春満筆か
33	134					日本記略抜粋一			竪帳	1	厚紙の表紙に「九代記所見一本日本記略抜粋一」、春満筆
34	26					栄花物語	東丸筆		巻子	1	
35	135					盛衰記抜粋、康冨記抄抜粋			竪帳	1	厚紙の表紙には「呉竹集抜粋」も記載、春満筆
36	136					後鳥羽院御巡禮記			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」「青楓館院」、春満筆
37	137					吾妻鏡抜粋			竪帳	1	厚紙の表紙「諸社ニ関する事項抜粋、いろは順」、春満筆
38	305					明日香井和歌集(雅経集)	春満筆		竪帳	2	東丸大人筆、「荷田氏珍蔵」朱印
39	883	2				(通城公・基長卿他和歌詠草断簡)			切紙	1	荷田春満筆
40	155					愚見抄	春満筆か		竪帳	1	奥に「建保四年十月遣老藤原定家」、「荷田氏珍蔵」朱印
41	156					新撰髄脳、毎月抄、詠歌一躰、未来記、俊成卿女消息、假名つかひの事	春満筆		竪帳	1	合綴

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
42	216				元禄10年8月中旬	難後拾遺	愈誠宗沙門契沖		竪帳	1	
43	1497					和歌之部(制の詞の事、山舘山家之事等)			竪帳	1	「見聞雑記九章の事」もあり
44	178	1				神道署名目全			竪帳	1	合綴、「荷田氏珍蔵」、奥書「写本云右以吉田二位殿自筆之本令書写畢、寛永十八年六月日」
45	178	2				神道名目抄全			竪帳	1	合綴、「荷田氏珍蔵」朱印
46	139					犬追物之記、犬追物手組故実少々			竪帳	1	合綴、薩州家老嶋津久通に尋ねたもの、春満筆か
47	214					的秘密書 全	春満筆か		竪帳	1	
48	1505					十炷香記録之次第	荷田直子書		横半帳	1	ボール紙の表紙・裏表紙付、稲荷安鎮の木箱中、「名香録」の文箱に入っていた
49	1506					香之伝 十炷香之記	(春満筆)		竪帳	1	稲荷安鎮の木箱中、「名香録」の文箱に入っていた
50	1507					名香録	(春満筆)		横半帳	1	稲荷安鎮の木箱中、「名香録」の文箱に入っていた、巻子10巻とも
51	3535	5			享保11年午11月28日	(古今伝授一紙近代転写)	荷田宿祢東花押(写)	村井政方殿	竪紙	1	包紙上書「伝授一紙」、「校了」の朱印あり
52	3287				(文化元年)夏5月甲子	(荷田春満碑文写)	稲荷前正預正四位下荷田信郷謹識、孫正五位下延年謹書		状	1	まくり、貼札あり

A－2　門人・学説

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	44				元禄13庚辰年11月朔日～宝永2年乙酉2月23日	蒙神学正伝之契約(東丸門人契約姓名簿)			巻子	1	端裏書「蒙神学正伝之約契門人連名」、箱横書「東丸大人門人契約姓名録」
2	335				正徳6年4月	神道伝授	牧野駿河守忠辰	羽倉斎殿		1	
3	3298	1			享保16歳次辛亥新夏	誓約之事(神躰安鎮等三ヶ条相伝ニ付誓約)	上社祝秦為寛(花押)	御殿預荷田信名殿	竪紙	1	3298-1～2まで入った包紙上書「誓盟 為寛・直親・国満」、但し国満分なし
4	3298	2			元文元年丙辰10月22日	誓盟(日本書紀解釈伝授ニ付起請誓盟)	祓川宮内直(親)(花押)	荷田延武殿	竪紙	1	3298-1～2まで入った包紙上書「誓盟 為寛・直親・国満」、但し国満分なし
5	696				享保11年6月11日	一日二百首(和歌会留書)			竪帳	1	暗満、信舎、親盛ほか
6	699				(享保12年3月、享保13年)	(春満門人詠草添削)			竪帳	1	芝崎好安、西東直定ほか
7	693				(享保13年8月～14年己酉正月)	添削歌(春満門人詠草添削)			竪帳	1	国頭、方塾、政春、真崎ほか
8	874				享保戊申(13)年	門人詠草添削(三首)			状	1	袋書「荷田春満筆門人詠草添削」、柴崎好安、好全、直定
9	27				元文元年辰10月13日	春満先生霊詞(春満門人詠草留書)			軸	1	国頭、真渕、暉昌ほか、奉行藤原国頭、読師藤原然丸、講師加茂真渕、発声藤原暉昌、会主篭口方塾
10	701					山家初雁和歌群評、行路夕立和歌群評			竪帳	1	信名、信舎、在満ほか、2冊合綴、行路夕立味歌群評は表紙に「在満鳩誌」とあり
11	37					短冊はりこみ			折本	1	信名、親盛等短冊多数
12	1144					(詩歌詠草留書)			横半帳	1	信満、石子、たみ、子晟ほか
13	3114					八月十五夜兼題(和歌詠草)	国頭・真崎		巻子	1	
14	3116					(申年試筆、未年歳暮、小崎・国満等和歌詠草)			折紙	1	
15	3295					(真崎帰国ニ付暗満等詠草)			続紙	1	暗満、弁、信章ほか、裏打紙に宝暦六年正月稲荷勧進式目録あり
16	960	39			(近世)9月16日	(荷田直子消息)	(直子カ)	(御弁さまカ)	切続紙	1	後欠、襖下張の跡
17	960	15			(近世)無神月9日	(荷田直子・いし消息)	両人より	御弁さま	切続紙	1	後欠、襖下張の跡
18	960	12			(近世)10月12日	(荷田直子消息)		(御弁さまカ)	切紙	1	襖下張の跡
19	960	35			(近世)5日	(荷田直子消息)	(直子カ)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前欠、襖下張の跡

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
20	960	30			(近世)13日	(荷田直子消息)	なほ	摂津守様御うもじさま	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
21	960	36			(近世)15日	(荷田直子消息)	(直子カ)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
22	960	57			(近世)17日	(荷田直子消息断簡)	(直子カ)		断簡	1	後欠、襖下張の跡
23	960	1			(近世)	(荷田直子消息)	なほ	御弁さま	切続紙	1	襖下張の跡
24	960	2			(近世)	(荷田直子消息)	なほ	御弁さま	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
25	960	3			(近世)	(荷田直子消息)	直	御べんさま	切続紙	1	襖下張の跡
26	960	6			(近世)	(荷田直子・いし消息)	いし・なほ	御弁さま	切続紙	1	薄藍染の料紙
27	960	7			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	切続紙	1	襖下張の跡
28	960	8			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	切続紙	1	襖下張の跡
29	960	10			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	切紙	1	襖下張の跡
30	960	18			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	切紙	1	襖下張の跡
31	960	20			(近世)	(荷田直子・いし消息)	いし・なほ	御弁さま	切続紙	1	前欠、襖下張の跡、破損
32	960	22			(近世)	(荷田直子消息)	なほ	御弁さま	切続紙	1	後欠、襖下張の跡
33	960	25			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	断簡	1	前欠、襖下張の跡
34	960	26			(近世)	(荷田直子・いし消息)	両人より	御弁さま	切紙	1	前欠、襖下張の跡
35	960	27			(近世)	(荷田直子・いし消息)	いし・なほ	摂津守様御うもじさま	断簡	1	前欠、襖下張の跡
36	960	28			(近世)	(荷田直子消息)	直	伯父様御うもじさま	断簡	1	後欠、襖下張の跡
37	960	29			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	断簡	1	後欠、襖下張の跡
38	960	31			(近世)	(荷田直子消息)	直	伯母様	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
39	960	32			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
40	960	34			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	切続紙	1	後欠、襖下張の跡
41	960	40			(近世)	(荷田直子消息)	中秀(直子)	御弁さま・御政さま	切続紙	1	後欠、襖下張の跡
42	960	43			(近世)	(荷田直子消息)	なほ	御弁さま	断簡	1	後欠、襖下張の跡
43	960	45			(近世)	(荷田直子消息)	中ひで(直子)	(御弁さまカ)	断簡	1	後欠、襖下張の跡
44	960	46			(近世)	(荷田直子・いし消息)	いし・なほ	御弁さま	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
45	960	47			(近世)	(荷田直子消息)	直	御弁さま	切続紙	1	後欠、襖下張の跡
46	960	53			(近世)	(荷田直子・いし消息)	いし・なほ	御弁さま	断簡	1	後欠、襖下張の跡
47	948	20			(近世)	(荷田直子消息)	直	おち様　御かもし様	折紙	1	
48	960	4			(近世)	(荷田直子消息)			切続紙	1	後欠、襖下張の跡
49	960	5			(近世)	(荷田直子消息)			切続紙	1	後欠、襖下張の跡
50	960	9			(近世)	(荷田直子消息・追而書)		(御弁さまカ)	断簡	1	襖下張の跡
51	960	11			(近世)	(荷田直子消息)			切紙	1	襖下張の跡
52	960	13			(近世)	(荷田直子消息)		(御弁さまカ)	切続紙	1	前後欠、襖下張の跡
53	960	14			(近世)	(荷田直子消息)		(御弁さまカ)	断簡	1	前欠、襖下張の跡
54	960	16			(近世)	(荷田直子消息)		(御弁さまカ)	続紙	1	前欠、襖下張の跡あり
55	960	19			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	襖下張の跡、類字名所・和歌分類・類聚点取・義政公百首取寄せニ付書状
56	960	23			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前後欠、襖下張の跡
57	960	24			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
58	960	33			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
59	960	37			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
60	960	38			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前欠、襖下張の跡
61	960	41			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	後欠、襖下張の跡

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
62	960	42			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	後欠、襖下張の跡
63	960	44			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前後欠、襖下張の跡
64	960	48			(近世)	(荷田直子消息・追而書)	(直子)	(御弁さまカ)	切紙	1	襖下張の跡
65	960	49			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前後欠、襖下張の跡
66	960	50			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	切続紙	1	前後欠、襖下張の跡
67	960	51			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)		断簡	1	前後欠、襖下張の跡
68	960	52			(近世)	(荷田直子消息)	(直子)	(御弁さまカ)	断簡	1	前後欠、襖下張の跡
69	960	58			(近世)	(荷田直子消息断簡)	(直子)		切続紙	5	襖下張の跡
70	960	59			(近世)	(荷田直子消息断簡)	(直子)		断簡	3	襖下張の跡
71	327				享保19年4月20日	詠残花何在和歌(荷田直子詠草)	東丸女		軸	1	表紙打付書「残花何在和歌 東丸大人女直子筆 青楓館蔵」、貼紙「享保十九年四月廿日和歌稽古会詠草」
72	336					詠名所擣衣和歌(荷田直子詠草)	東丸女		軸	1	表紙打付書「名所擣衣和歌 東丸大人女直子筆 青楓館蔵」、箱横書「荷田直子名所擣衣和歌」
73	2030					歳旦(荷田信満・直子詠草)	信満・東丸女		切紙	1	
74	2023					(荷田直子和歌詠草)	(荷田直子)		竪紙	1	
75	1214					随毫			竪帳	1	表紙貼紙「直子筆」、改装表紙上書「直子書 随毫」
76	57					荷田道員和歌詠草			巻子	1	
77	314					道員(高惟)三首和歌	(荷田高惟)		軸	1	
78	3266					(和歌懐紙綴)	道員		竪綴	1	10枚1綴
79	3343					詠蛍火透簾和歌(和歌懐紙)	道員		竪紙	1	
80	948	11			(享保19年8月)	詠名所擣衣和歌(和歌懐紙)	在満母		竪紙	1	裏打、年代は鉛筆の書き込みによる
81	948	13				詠霜草虫吟和歌(和歌懐紙)	在満母		竪紙	1	裏打
82	1289				享保3戊戌年10月23日	朔旦冬至本座記	多賀長之丞高林		竪帳	1	「壺井先生之写本」
83	16				亥2月6日	(荷田在満書状)	羽倉藤之進有満(花押)	羽倉斎様	軸	1	
84	948	1			2月27日	(荷田在満書状)	同藤之進	羽倉摂津守様、御たもし様	折紙	1	裏打
85	56					(荷田在満書状)	(荷田在満)		巻子	1	「荷田在満君書翰」
86	961	1				(荷田在満消息)	大かく	おへんさま	切続紙	1	
87	961	2				(荷田在満書状)			切続紙	1	後欠
88	961	3				(荷田在満消息)			切続紙	1	料紙は青・赤の色紙を継ぐ
89	198				元文2年7月21日	清少納言夜乎籠天之歌釈案	荷田在満		竪帳	1	
90	281				享保壬戌(2)年8月4日	國歌八論 全	荷田在満		竪帳	1	在満筆か、「青楓館印」朱印
91	201				文化6年12月	荷田在満家歌合 完			竪帳	1	木版、序清水浜臣、跋村田春海「清楓館」原稿用紙に筆写あり
92	200					荷田在満家歌合 完			竪帳	1	「月林主人千種顕允」の写本、原稿5枚あり
93	207					大嘗會便蒙(上・下)	(荷田在満)		竪帳	1	合綴、木版、無刊記
94	208				天明丁未(7)年初秋	大嘗會便蒙(上・下)	(荷田在満)		竪帳	1	外題「大嘗会便覧完」、春葩堂主人写本
95	1318					大嘗会便蒙下			竪帳	1	木版、表紙に「共二」、「稲荷神主大西文倉」朱印
96	209					大嘗會儀式具釈(巻第一～六)	(荷田在満)		竪帳	1	外題「大嘗会儀式具釈乾」、荷田信平が松室家本から写した、「青楓館印」朱印
97	2013					(大嘗会起し絵図)			鋪	1	彩色、人形調度等紙片あり
98	217	1				(大嘗会儀式具釈目録及び本文)	在満か		仮綴	1	焼焦げ、217-2も同封
99	217	2				(大臣大饗等覚)	在満か		仮綴	1	焼焦げ、217-1も同封
100	202					名目抄紬繹草稿 中			竪帳	1	
101	1014				(元文2年)	丁巳歳雑歌			竪帳	1	表紙に「元文二年」の付箋貼付
102	40					春日同詠柳絲隋風和歌(和歌懐紙)	在満		軸	1	
103	52					盧橘驚夢歌	菅原在満愚		巻子	1	
104	199					歌合			竪帳	1	後装表紙に「筆者在満」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
105	702					(歌集)			竪帳	1	真淵、在満の青・朱点あり、「筆者在満」と後年の貼紙あり
106	197					艸紙			竪帳	1	文字に関する考察、「享保乙巳九月」の日時あり、後装表紙に「在満筆」
107	203					賦光源氏物語詩			竪帳	1	後装表紙に「在満筆」、金沢文庫本の写
108	204					杜氏通典車服制度			竪帳	1	後装表紙に「筆者在満」、「荷田氏珍蔵」朱印
109	212					大政官謹奏之文 菅家文章抄出 全			竪帳	1	「享保八年初夏下澣」壺井義知の勘案あり、表紙に「在満筆」と貼紙、「青楓館」朱印
110	213					大膳職内蔵寮調進図			竪帳	1	表紙に「在満筆」と貼紙
111	234					風土記 山城・伊賀・伊勢・尾張 完			竪帳	1	表紙に「在満君筆」と貼紙、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
112	948	15			弥生18日	(荷田蒼生子書状)	つや	摂津守様御おく様	折紙	1	
113	948	16			弥生17日	(荷田蒼生子書状)	風狸	御をは様	折紙	1	
114	948	19			元文5年	(荷田蒼生子書翰)		(荷田弁子)	折紙	1	元文五年か
115	980	1			7月3日	(荷田蒼生子書状)	つや	おへんさま	続紙	1	封筒「荷田蒼生子書翰」
116	980	2			きさらき27日	(荷田蒼生子書状)	つや	おへんさま	切続紙	1	封筒「荷田蒼生子書翰」
117	980	3			6月28日	(荷田蒼生子書状)	風狸	御叔父様	切続紙	1	前欠、(奥に「ふり」あり)、封筒「荷田蒼生子(ふり)書翰」
118	981					(荷田蒼生子書状)	ふり	御をはさま	切続紙	1	封筒「荷田蒼生子(ふり)書翰」
119	982					(荷田蒼生子書状断簡)	(つや)		切続紙	1	封筒「荷田蒼生子書簡(つや)」
120	9					荷田蒼生子和歌入書翰	かたの蒼生子	荷田信栄ぬしにまいる	軸	1	
121	21					荷田民子和歌			軸	1	箱書「荷田蒼生子短冊」
122	33					荷田蒼生子詠草	楓里		巻子	1	
123	165	1				蒼生子家集 杉のしつえ	蒼生子		竪帳	1	木版
124	165	2			文化7年庚午12月	すきのしつ枝 下	蒼生子		竪帳	1	木版、江戸書林萬笈堂英平吉蔵板
125	2331					杉のしつえ上	蒼生子		竪帳	1	木版、
126	2332					(杉のしつえ 下)	蒼生子		竪帳	1	木版、桑門自寛の後記あり、無刊記、外題剥落
127	2335					杉のしつえ上	蒼生子		竪帳	1	木版
128	2334					杉のしつえ下	蒼生子		竪帳	1	木版、刊記「京寺町松原下ル 勝村次右衛門 大坂心斎橋安堂寺町 大野木兵衛 江戸室町三丁目須原屋文助」
129	71					荷田信名和歌入り書翰	信名	母人公、お弁殿	軸	1	「春満公」と文中にあり
130	972	2				(荷田信名消息)			折紙	1	檀紙、中絶の官幣済むとあり
131	972	3				(荷田信名消息)	のぶ名	をは様	折紙	1	檀紙
132	972	4				(荷田信名消息)			折紙	1	檀紙
133	967				8月6日	(書状)	羽倉暗丸(花押)	青山先生雅伯	続紙	1	前欠、稲荷社祭神等の質問への回答
134	966	2				(書状写)	(荷田信名)	(山本広満カ)	続紙	1	神代巻や稲荷社の対する質問への回答
135	966	1				(荷田信名書状)	(荷田信名)		切紙	1	前後欠もあり
136	3535	6			(近世)10月10日	(古今伝授の儀等ニ付書状近代写)	羽倉暗丸	村井三郎左衛門様	続紙	1	包紙上書「暗丸書翰」貼紙あり、「校了」の朱印あり
137	177	3			宝永3年正月17日	(脚絆・小袴など武家装束、兵法口伝箚記)	(荷田信名筆)		竪帳	1	
138	142					金言玉葉録一、二、三			竪帳	1	信名筆記、合綴、各用語の解説が載る
139	307					荷田暗丸(信名)和歌	(荷田信名)		軸	1	孫庭子を子に遣しけるに、信舎宿祢より…
140	318					詠名所擣衣和歌	荷田信名		軸	1	万葉仮名
141	331					荷田信名(暗満)和歌 夏日同詠	(荷田信名)		軸	1	
142	3315				(近世)	(古池菖蒲他信名和歌詠草)	(信名)		巻子	1	裏に稲荷勧請式目録あり
143	873				享保11年6月22日	(独吟 一日八十首)	信名 上		折紙	1	春満添削と袋書にあり
144	975					(八十賀詞)	従四位下荷田信名		横綴	1	青山敏文八十の賀。長歌及び短歌。朱の書き込みあり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
145	1610				(近世)	伯母公の身まかり給ふいたミに(信名和歌詠草断簡)	信名		切紙	1	後欠
146	2943	1				詠沙月忘夏和歌	正五位下荷田信名		竪紙	1	
147	3026					穐日同詠田家初秋和歌(和歌懐紙)	暗満		竪紙	1	
148	3042					詠家々納涼和歌(和歌懐紙)	正五位下荷田信名		竪紙	1	
149	3270					(暗満和歌懐紙綴)	暗満		綴	1	竪紙・折紙等28枚1綴
150	3299					(信名并妻詠草)			続紙	1	15枚張継
151	3300					(信名詠草)	従四位下荷田信名		切紙	2	ほぼ同文の詠草2枚
152	3319				(近世)	夜深聞萩(和歌詠草3首)	信名上		切紙	1	裏打
153	3342				(近世)	和歌(詠草4首)	信名他1名		折紙	1	裏打
154	3274				霜月	(犬和羅飛読後文并和歌)	蘭川(印)		横仮綴	1	印文は暗満
155	3276				(近世)	御所くるま(戯文ならびに狂歌九首)	(印)		横切紙	1	印文は暗満、竹内式部についての狂歌も詠み込まれている
156	3113	10			寛延3年2月23日	寛延三年二月廿二日水無瀬洞中御影供之御歌(和歌15首)	(荷田信名)		折紙	1	
157	1046					雑歌	信名		竪帳	1	歌会の記録。享保五年以前(年不詳)、享保五年、六年。信名のほか、妙寿院、信舎、定長、高惟など
158	3269				(享保18年5～9月)	(信名妻弁消息並びに和歌懐紙綴)	(信名妻弁)		綴	1	竪紙・折紙等8枚1綴
159	972	1			たつ9月19日	(信名妻弁文並びに和歌)	信名妻弁		折紙	1	檀紙
160	315					伴菊延齢(和歌詠草)	弁子		軸	1	裏に「信名室弁子詠草」と墨書
161	3268					(二星遇逢など和歌詠草3首)	(信名妻弁)		折紙	1	
162	83					日本書紀抜粋			竪帳	1	
163	84					日本紀字訓抄出			竪帳	1	
164	960	54			(近世)	(荷田信満書状)	はくら左ちう	御弁さま	切紙	1	後欠、襖下張の跡
165	960	55			(近世)	(荷田信満書状)	はくら左中	御弁さま	切紙	1	後欠、襖下張の跡
166	960	60			(近世)	(荷田信満書状)	(はくら左ちうカ)		続紙	1	前欠、襖下張の跡
167	2233				(明和6年春)	和起見日記(大和国芳野山へ花見の紀行文)	閑月窩老人樗夫荷田信満(花押)		横半帳	1	
168	3074					荷田延武悼辞	信満		折紙	1	
169	609					(私家集)			折紙	1	断簡、信満の名がみえる。六才になる娘の病に伏せる時の詠作等
170	310					(六十の賀を喜ぶ文並びに和歌)	六十翁荷田信満		軸	1	裏に「荷田信満筆　青楓館蔵」と墨書
171	2531					(六十の賀を喜ぶ文並びに和歌)	六十翁荷田信満		竪紙	1	
172	3053					(六十の賀を喜ぶ文並びに和歌)	六十翁樗史斎荷田信満		続紙	1	
173	3054					(六十の賀を喜ぶ文並びに和歌)	六十翁荷田信満		竪紙	1	
174	3059					(六十の賀を喜ぶ文並びに和歌)	荷田信満		竪紙	1	
175	3052					盛黄葉をよめる(和歌詠草)	荷田信満		竪紙	1	
176	3055					詠名所擣衣和謌(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
177	3056					詠紅梅遅和歌(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
178	3057					雪中残鴈をよめる(和歌詠	荷田信満		竪紙	1	
179	3058					詠閑居初冬和歌(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
180	3060					(和歌詠草)	信満		切紙	1	
181	3061					詠霧中聞鶉和歌(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
182	3068					詠二首和歌(和歌懐紙)	荷田信満		竪紙	1	
183	3069					詠卯苍焼家倭哥(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
184	3070					詠霜草虫吟和歌(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
185	3071					詠蛍火透簾和歌(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
186	3072					詠子規数声和歌(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
187	3073					詠白梅盛和歌(和歌懐紙)	信満		竪紙	1	
188	2964	2				霊祭祭詞	(荷田宿祢信盛母)		竪紙	1	
189	306					(荷田貝子和歌詠草「むま子なりけるものゝにわかに…」)	(荷田貝子)		軸	1	裏に「荷田貝子刀自詠草」と墨書
190	328					(信名母和歌詠草)	信名母		軸	1	金庫に別置

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
191	333					荷田貝子和歌		はくらいつき様	軸	1	いなり坂…、ブルーボックスに別置
192	1020	4			安永4年7月初秋	(仮名日本紀につき覚書)	従三位秦親		切紙	1	
193	703				(元文3年～宝暦5年)	松葉集第一			竪帳	1	秦親盛の歌集
194	704				(宝暦6年～明和2年)	松葉集第二			竪帳	1	秦親盛の歌集
195	1006				明和9年4月22日	先妣五十回供進倭歌留	秦親盛		横半帳	1	
196	1278					池朝菖蒲(和歌集)	親盛評		竪帳	1	
197	1279					澗底蛍火(和歌集)	親盛評		竪帳	1	
198	3023					(和歌懐紙)	従三位親盛		竪紙	1	
199	915					日本紀和歌略註上			竪帳	1	親盛蔵書印、頭注は親盛筆
200	1443					日本紀和歌畧註下			竪帳	1	写本、書込あり、「親盛之印」
201	1134					古語拾遺(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、裏表紙裏「稲荷本宮神主大西家秘蔵(花押)」
202	1242					百人一首拾穂抄(大西親盛書入)	季吟述		竪帳	1	木版、1オに「親盛之印」
203	1314					百人一首拾穂抄上之二			竪帳	1	木版、題箋剥がれ、題箋に「共四」とあり、「親盛之印」
204	1243					百人一首拾穂抄下之一(大西親盛書入)			竪帳	1	木版,1オに「親盛之印」
205	1244					百人一首拾穂抄下之二(大西親盛書入)			竪帳	1	木版,1オに「親盛之印」
206	394					延喜式 神祇巻第一(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式一 神祇一四時祭上」、「親盛之印」
207	395					延喜式 神祇巻第二(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式二 神祇二四時祭下」、「親盛之印」
208	396					延喜式 神祇巻第三(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式三 神祇三臨時祭」、「親盛之印」
209	1140					延喜式 神祇巻第四(大西親盛書入)			竪帳	1	題箋「延喜式四 神祇四 伊勢太神宮」、「親盛之印」
210	397					延喜式 神祇巻第五(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式五 神祇五斎宮寮」、「親盛之印」
211	398					延喜式 神祇巻第六(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式六 神祇六斎院司」、「親盛之印」
212	399					延喜式 神祇巻第七(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式七 神祇七践祚大嘗祭」、「親盛之
213	400					延喜式 神祇巻第八(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式八 神祇八祝詞」、「親盛之印」
214	401					延喜式 神祇巻第九(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式九 神祇九神名帳上」、「親盛之印」
215	402					延喜式 神祇巻第十(大西親盛書入)			竪帳	1	木版、「延喜式十 神祇十神名帳下」、「親盛之印」
216	2565				宝暦10年4月写	同文通考 完(大西親臣書入)			竪帳	1	写、奥書「右者御殿預羽倉摂津守因勧令書写并一考訖 宝暦十年四月 稲荷上社祢宜従五位上秦親臣(印)」
217	1433					百人一首抄上(大西親憲書			竪帳	1	木版
218	1432					百人一首抄下(大西親憲書入)	丹山隠士		竪帳	1	木版、表紙「百人一首抄 三 共三冊」、奥書「右者(中略)也、文政元年九月 従三位秦親憲(花押)」
219	1156				(享保5年)	法皇詩歌御会	親盛		竪帳	1	内題「法皇七首御会」
220	1263				宝暦2年11月	東松本家歌会留	親(花押)		竪帳	1	宝暦二年十一月廿八日会～宝暦十年八月十五日会
221	2114					鶯為春友(詠草)	親盛		竪紙	1	
222	3112	16			(9月13日)	(「陪栄花宴」(七言律詩)・和歌5首)	ちか盛他4名		折紙	1	大西親方邸の花見の際の歌詩
223	3296				(近世)	詠稲荷山十二景(詠草十二	従三位秦親		折紙	1	
224	3297	1			(近世)	(詠草二首)	親盛		折紙	1	花山殿に正森ぬしミやつかへ給ひけれはよみて送り侍る
225	3297	2			(近世)	(詠草一首)	親盛		竪紙	1	
226	267				享保20乙卯年2月初午日	神書乞解 信名信章待高説	諏訪大祝		竪帳	1	杉浦国頭カ
227	1328					神代巻箚記講義鈔巻五	杉浦国頭		竪帳	1	一部焼損、「荷田氏珍蔵」朱印
228	1326					神代巻箚記講義鈔巻六	杉浦国頭		竪帳	1	一部焼損、「荷田氏珍蔵」朱印

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年　代	表　題	差出(作成)	宛　所	形態	数量	備　考
229	1327					神代巻箚記講義鈔巻七	杉浦国頭		竪帳	1	一部焼損、「荷田氏珍蔵」朱印
230	1323					神代巻箚記講義鈔巻八	杉浦国頭		竪帳	1	一部焼損、「荷田氏珍蔵」朱印
231	1325					神代巻箚記講義鈔巻九	杉浦国頭		竪帳	1	一部焼損、「荷田氏珍蔵」朱印
232	1324					神代巻箚記講義鈔巻十一	杉浦国頭		竪帳	1	一部焼損、「荷田氏珍蔵」朱印
233	882	2				谷卯花(国頭・真崎他詠草)			切紙	1	元「荷田春満真筆断片」封筒入、荷田春満筆か
234	17				5月20日	(賀茂真淵書翰)	賀茂真渕	羽倉摂津守様	軸	1	表紙打付書「賀茂真渕翁書翰」
235	72					菊之文章	賀茂真淵		軸	1	表紙打付書「賀茂真渕翁菊之文章」、箱蓋上書「県居翁真蹟菊之文章」、蓋裏書「宗族子孫岡部譲拝鑑謹題」
236	221					賀茂真淵文案(延喜祝詞式解序、みくさのひちりきのことば、他)			竪帳	1	渡会吉風所蔵本を秦親憲が転写
237	438					縣居雑録補抄	江戸本石町十軒店書林万笈堂英平		竪帳	1	木版
238	2317					(語意考)	賀茂真淵考		竪帳	1	奥書「公溟所持」、注釈あり
239	5					名所路(賀茂真淵万葉仮名和歌短冊)	春栖		軸	1	箱蓋上書「県居翁〔初名春栖〕短冊」、箱蓋裏書に宗族子孫岡部譲謹題和歌あり、箱横書「県居翁短冊」
240	3318				(近世)	待郭公(賀茂真渕和歌詠草)	賀茂真渕		切紙	1	封筒「賀茂真渕詠草　筆者筆者荷田蒼生子」
241	11				寛延2年8月18日	真淵祝詞			巻子	1	奥書「右寛延二年八月十八日夜友人在田貞好之要　賀茂真淵於武蔵国江門都下撰」、箱横書「賀茂真渕翁祝詞」、箱内に「奉安鎮稲荷神璽祝詞之一」
242	3115	2			(元文元年丙辰10月22日)	誓盟(日本紀解釈伝授ニ付誓盟)	遠州敷智郡諏方権祝杉浦大学國(花押)	荷田延武殿	竪紙	1	差出は國満、3115-1とともに巻子仕立
243	2825				明和2年秋7月	(上総国市原郡菊麻郷八幡祠官根本胤満墓碑写)	東海平徳胤印		竪帳	1	
244	876				2月5日	(年頭祝儀状)	芝崎美作守好寛(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	
245	968				9月10日	(丹波守悔状の返状)	杉浦若狭守正直(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	
246	969				10月3日	(白人胡久美のことにつき書状)	敏久	親盛君	切続紙	1	
247	1499				(近世)	職原家伝秘録	信忠		竪帳	1	ボール紙の表紙・裏表紙
248	3112	14			(近世)	春日社記	亡兄信忠筆		横帳	1	
249	471				(近世)	箚記	(深尾)孝長		竪帳	1	
250	1015				(近世)	続日本紀抜粋	権預		竪帳	1	
251	1301				(近世)	(や行語釈)	然満案		横半帳	1	
252	1498				(近世)	職原聞書上巻	山本正直		竪帳	1	元禄四年十二月廿一日勅許、官位従六位上内匠助藤原朝臣正直
253	3115	1			(近世)	(のぶや・とめ女への返歌2首)	真崎		折紙	1	3115-2とともに巻子仕立
254	3275				(近世)	(立秋露等和歌詠草4首)	光上(深尾休意斎女信友妻ナベ子)		横切紙	1	裏打
255	29	2			(近代)癸酉1月10日	(東丸大人伝取調につき書状写)	紀良豊	御三人様		1	金庫に別置

A－3　春満宛書状

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年　代	表　題	差出(作成)	宛　所	形態	数量	備　考
1	70					書翰三通(荷田春満宛牧野駿河守書状)	牧野駿河守	春満	軸	1	金庫に別置、①正月十二日差出:牧野駿河守(花押)　宛名:羽倉斎殿②十一月三日牧野駿河守忠辰(花押)　羽倉斎殿③十月十二日　牧野駿河守(花押)　羽倉斎様:近代の付紙あり、正徳四年かとする。①のみ軸装。②③は各折紙1枚。ともに巻き込まれている。

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
2	970				(享保4年)2月21日	(書状)	牧野駿河守忠辰(花押)	羽倉斎様	折紙	1	近代の付紙に享保4年と推定
3	891				正月29日	(書状)	牧野駿河守(花押)	羽倉斎様	折紙	1	
4	950				(享保8年)6月23日	(書状)	稲垣太郎左衛門(花押)	羽倉斎様	折紙	1	
5	886	1			(享保9年)4月28日	(書状)	松平権之助信冨(花押)	羽倉斎様	折紙	1	
6	886	2			(享保10年)正月14日	(書状)	松平権之助信冨(花押)	羽倉斎様	折紙	1	
7	886	5			(享保11年)霜月14日	(書状)	松平権之助信冨(花押)	羽倉先生様	折紙	1	「享保十五年一月八日中風差度」付箋貼付
8	886	4			(享保12年)正月3日	(書状)	松平権之助信冨(花押)	羽倉斎様	折紙	1	
9	886	3			(享保12年)14日	(書状)	権之助	先生様	折紙	1	
10	889				(享保10年)4月29日	(書状)	松平権之助信冨(花押)	羽倉斎様	折紙	2	破損
11	890					(書状)	(下田幸太夫)	(春満)	折紙、続紙	4	折紙1点、続紙3点
12	877				(享保14年)正月17日	(書状)	稲垣太郎左衛門(花押)	羽倉東丸様回章	折紙	1	袋書「羽倉東丸宛　稲垣太郎左衛門書翰」
13	888				(享保13年)2月23日	(書状)	芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	折紙	1	
14	958				7月3日	(書状)	柳瀬小左衛門方塾(花押)	羽斎様玉案下	折紙	1	裏に歌の草案あり
15	879				7月5日	(岡部氏系図問い合わせにつき書状)	連久	羽倉斎様	続紙	1	袋書「岡部氏系図」
16	875				8月23日	(書状)	公文所法眼院立(花押)	羽倉斎様御報	折紙	1	袋書「羽倉斎宛　公文所法眼書翰」
17	974				12月24日	(書状)	(山村源八)	(羽倉斎様)	状	1	

B　羽倉家関係史料

B—1　家系・相続

B－1－1　家譜・系図・古伝

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2680	4			寛文10年戌正月	権御殿預・権目代大神供之大床御手長役之事	御殿預信詮(花押)他3名		竪紙	1	包紙あり
2	61	1			庚午元禄3年6月13日	(口伝書)	荷田宿祢信友		折紙	1	包紙表「口伝授来秘記」裏「安永十年正月廿日口宣案(中略)従四位下荷田信邦」
3	334				元禄7年	稲荷社奥秘口伝	荷田信詮、荷田信友		巻子	1	木箱入
4	2986				正徳2年壬辰9月	稲荷社日供再興之序文	正官御殿預正五位下荷田宿祢信他1名		竪帳	1	
5	1115	6			享保14年8月	(御殿預家系図)			状	1	延秀から信章まで、親茂による綴
6	2732	1			享保17年壬子7月	稲荷社五社合祭神号并摂社神号等抜粋	稲荷田中社祠官正預正五位下荷田宿祢信名(花押)		竪紙	1	「荷田家奥秘之伝」、包紙あり
7	2732	2			享保17年壬子10月	稲荷社本縁鎮座奥秘家伝之抜粋	稲荷社正預——守、荷田———(花押)		折紙	1	2732-1～2とも「信名筆」と書かれた整理用封筒入
8	3307				享保19年歳次甲寅仲秋穀日	山城国紀伊郡稲荷本山正官御殿預竈家由来之略記	稲荷本山正官御殿預竈正五位下行摂津守荷田宿祢信名	仁科内蔵助殿	切続紙	1	
9	3335	1			享保19歳次甲寅年仲秋穀日	山城国紀伊郡稲荷本山正官御殿預竈家由来之略記	稲荷本山正官御殿預竈正五位下行摂津守荷田宿祢信名花押	仁科内蔵助殿	竪続紙	1	
10	3335	2			享保19年歳次甲寅仲秋豊日	山城国紀伊郡稲荷本山正官御殿預竈家由来之畧記(草稿)	稲荷本山御殿預正官御殿預正五位下摂津守荷田宿祢信(花押)(印)		竪続紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
11	3335	3			享保19年歳次甲寅仲秋豊日	山城国紀伊郡稲荷本山正官御殿預竈家由来之畧記	稲荷本山正官御殿預正五位下行摂津守荷田宿祢信(花押)(印)		竪紙	1	
12	957				(近世)	(荷田家由来ニ付書状草稿)	(信名か)		折紙	1	後欠
13	64				(近世)9月23日	荷田家伝条々	同信(花押)	荷田信名丈	巻子	1	
14	61	2			寛延4年未4月17日	荷田家伝来奥秘之神符	信舎	荷田信郷	折紙	1	
15	1641				宝暦2歳時壬申5月良辰	稲荷社奥秘之記(荷田家伝条々)	正預摂津守従五位下荷田宿祢信郷(印)		竪帳	1	表紙「御殿預竈家」
16	2322				宝暦4年戌11月	伯家江上ル控(荷田家任官叙位先例書上)	御殿預信郷印		竪帳	1	
17	1359				宝暦4年戌11月	稲荷社司譜代職万御殿預家(正預叙任歴書出)	御殿預信郷		竪帳	1	表紙に「御殿預家」
18	758				(宝暦7年)丑5月	稲荷社司預方荷田氏両家伝来之社式家格之条々			横半帳	1	
19	777				(宝暦7年5月)	稲荷社司預方荷田氏両家之輩伝来之社式家格之条々	稲荷社正預信郷他1名		横半帳	1	
20	22	1			明和4年丁亥正月	正預家霊舎號	荷田信郷勤誌		竪帳	1	木箱蓋「稲荷社正預家中古以来系譜」
21	1567	1			明和4年亥2月	稲荷社荷田家秘伝之条々	正預信郷(花押)		横半帳	1	神符の秘伝書、包紙あり、竹榊一本付
22	22	3			(明和4年丁亥5	稲荷社正預家中古以来系譜	正預荷田信郷		竪帳	1	
23	1048				明和4年6月15日	家伝秘記	正預信郷(花押)		横半帳	1	
24	2078				(明和頃)	(稲荷由緒并荷田信名四品昇進嘆願)			横帳	1	仮綴
25	2949				寛政元年己酉5月	羽倉家略系譜	羽倉摂津守信邦(花押)	羽倉権九郎殿	続紙	1	
26	1562				寛政3年辛亥正月	羽倉家略年譜	羽倉摂津守信邦(花押)	羽倉梁助殿	続紙	1	殿から信邦までの系図
27	1259				(寛政5年8月)	稲荷社両家竈・惣目代系譜	公枸(花押)写		竪帳	1	
28	2122				寛政5年8月	(信郷・親臣・荷田氏祖先等ニ付問答記)			切続紙	1	
29	1362				(寛政7年7月17日～寛政8年3月26日)	荷田氏申出之一件雑記(命婦社一件ニ付覚書)	(花押)		竪帳	1	
30	2994	5			(文政元年)	(蓮貞院・春耀院没年等覚)			切紙	1	
31	1160				(文政10亥年9月～10月24日)	玉江嫁一件帳(東組与力上田弥右衛門倅へ縁談一件)			竪帳	1	
32	22	2			天保15辰年改	霊舎號　玉附	信純		竪帳	1	
33	1115	2			(弘化5年2月27日以降)	(信俊妻ミカ他四名卒年月日書付)			罫紙	1	
34	1587				6月8日	(御殿預荷田信純叙爵ニ付書状)	隆純	伯三位殿	竪紙	1	
35	1567	2			明治元年9月19日	御守相伝口伝	目代信度(花押)		折紙	1	
36	1545				明治3年8月10日	(荷田氏由緒草稿)			竪紙	5	コヨリ一括
37	791				明治3年庚午8月	神祇官江差出十ヶ条之一家系草案	竈家		竪帳	1	
38	22	9			(近世)	(有隣性徳居士忌日書上)			切紙	1	
39	22	10			(近世)	(深尾家照月道光信士并浄真信士忌日書付)			切紙	1	
40	61	3			(近世)	神璽修封之家法大祀本式	正預		折紙	1	
41	61	4			(近世)	荷田家伝来奥秘之神符			折紙	1	端書「正預家伝」
42	61	5			(近世)	神璽修封之家法			折紙	1	
43	61	6			(近世)	(口伝書)			横半	1	
44	2994	7			(近世)	(荷田家殿・嗣等没年等覚書)			切紙	1	
45	2994	3			(近世)	(荷田家先祖書)			切続紙	1	荷田殿より延次まで
46	3173				(近世)	(戒名・没年書上)			折紙	1	明和四年十二月廿八日没の荷田信満女の戒名あり
47	1948				明治19年	備忘(荷田社由来等)	羽倉信義		竪帳	1	桃色罫紙使用、差紙5枚あり
48	2947				(明治)	(祖父信邦以降忌年等覚書)			切紙	1	青罫紙使用
49	22	4			(近代)	稲荷社元御殿預家荷田氏系譜并春満譜伝			竪帳	1	表紙に「扣」朱書とあり
50	22	7			(近代)	御殿預家荷田氏系譜及東麿系譜并伝			竪帳	1	
51	22	8			(近代)	東麻呂伝并系譜			竪帳	1	仮綴、赤罫紙使用

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
52	22	5			(近代)	(霊舎號)			竪帳	1	金庫に別置
53	22	6			(近代)	卒去諡之記 深尾			竪帳	1	金庫に別置
54	1115	1			(近代)	荷田家系譜			竪綴	1	荷田信吉・信友年譜、分家御願、羽倉有信戸籍謄本、荷田目代家系譜等綴り
55	2938				(近代)	(お尋ねの花押ニ付返答書)			竪紙	1	青罫紙使用
56	2945				(近代)	荷田社退供直会次第			切紙	1	後欠、赤罫紙使用
57	2946				(近代)	(忌日書上)			切紙	1	延秀より信功までの忌日が記載、青罫紙使用
58	3281				(近代)	(信寿等北羽倉家略歴書上)			続切紙	1	
59	2802				(近代)	(荷田信興縁者書上)			竪紙	1	「羽倉用箋」使用、略系図も書上げている
60	1347	3				(信名次配弁子碑文拓本)			切紙	1	6分割されている
61	1347	2				(並河氏碑文拓本)			切紙	1	
62	1347	1				(信満碑文拓本)			切紙	1	3分割されている
63	2444					山城国紀伊郡稲荷本山五社之祠官御殿預由来之事			切紙	1	後欠
64	2793					(「稲荷社神供物正官御殿預」版木)			版木	1	

B－1－2 口宣案

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2585	2	1		明暦3年12月28日	口宣案(荷田信詮叙従五位下口宣案)	蔵人頭右大弁藤原資熙	荷田信詮	竪紙	1	宿紙、4通(2585-2-1～4)が封入されていた包紙あり
2	2585	2	2		明暦3年12月28日	口宣案写(荷田信詮叙従五位下口宣案写)	蔵人頭右大弁藤原資熙	荷田信詮	竪紙	1	
3	2574	1			明暦3年12月28日	(荷田延重叙従五位下口宣案写)	蔵人頭右大弁藤原資熙	荷田延重	竪紙	1	楮紙、包紙あり、包紙上書「明暦三年稲荷社司正官五人之位階御再興之時惣目代荷田延重頂戴 口宣案 写」
4	2585	2	3		寛文2年12月14日	口宣案(従五位下荷田信詮叙従五位上口宣案)	蔵人頭右大弁藤原頼孝	荷田信詮	竪紙	1	宿紙
5	2580	1			寛文3年2月16日	口宣案(正六位上荷田信吉叙従五位下口宣案)	蔵人頭左中弁藤原経慶	荷田信吉	竪紙	1	宿紙、3通(2580-1～3)が封入されていた包紙あり
6	2585	2	4		元禄3年12月26日	口宣案(従五位上荷田信詮叙正五位下口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原定経	荷田信詮	竪紙	1	宿紙
7	2572	1			元禄5年12月28日	口宣案(荷田信友叙従五位下口宣案)	蔵人右中弁藤原俊清	荷田信友	竪紙	1	宿紙、3通(2572-1～3)が封入されていた包紙あり
8	2572	2			元禄12年12月28日	口宣案(従五位下荷田信友叙従五位上口宣案)	蔵人左少弁藤原尚房	荷田信友	竪紙	1	宿紙
9	2574	2			元禄14年11月26日	(正五位下荷田信辰叙従四位下ニ付口宣案写)	蔵人頭右大弁藤原輝光	荷田信辰	竪紙	1	楮紙、包紙あり、包紙上書「元禄十四年荷田信辰四品之時 口宣案 写」
10	923				(元禄17年申5月)	稲荷社職官位等言上之一儀次第書并御願書(荷田家社職上昇願)	羽倉駿河(印)他1名		横帳	1	
11	2568	1	1		宝永2年12月18日	口宣案(荷田信名叙従五位下口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原兼親	荷田信名	竪紙	1	宿紙、4通(2568-1-1～4)が封入してあった包紙こよりあり
12	2572	3			宝永8年3月25日	口宣案(従五位上荷田信友叙正五位下口宣案)	蔵人頭左近衛権中将藤原基香	荷田信友	竪紙	1	宿紙
13	2568	1	2		享保2年12月25日	口宣案(従五位下荷田信名叙従五位上口宣案)	蔵人権右中弁藤原敬孝	荷田信名	竪紙	1	宿紙
14	2567	4	1		享保4年3月1日	口宣案(荷田信章叙従五位下口宣案)	蔵人権右中弁兼左衛門権佐藤原頼	荷田信章	竪紙	1	宿紙、2通(2567-4-1～2)が封入してあった包紙あり
15	2567	4	2		享保14年12月24日	口宣案(従五位下荷田信章叙従五位上口宣案)	蔵人権右少弁兼春宮権大進藤原光	荷田信章	竪紙	1	宿紙
16	2568	2	1		享保8年2月13日	口宣案(従五位上荷田信名任河内守口宣案)	蔵人頭左中弁藤原頼胤	荷田信名	竪紙	1	宿紙、2通(2568-2-1～2)が封入してあった包紙あり
17	2568	2	2		享保13年10月14日	口宣案(河内守荷田信名任摂津守口宣案)	蔵人右少弁藤原秀定	荷田信名	竪紙	1	
18	2568	1	3		享保10年2月1日	口宣案(従五位上荷田信名叙正五位下口宣案)	蔵人頭右大弁藤原俊将	荷田信名	竪紙	1	宿紙
19	2567	3			享保15年6月26日	口宣案(従五位上荷田信章任石見守口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原定種	荷田信章	竪紙	1	宿紙、端裏「口宣案」、包紙上書「口宣案 石見守荷田信章」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
20	2568	1	4		元文5年8月25日	口宣案(正五位下荷田信名叙従四位下口宣案)	蔵人権右中弁藤原清胤	荷田信名	竪紙	1	宿紙
21	2567	2	1		元文元年12月29日	口宣案(荷田延武叙従五位下口宣案)	蔵人頭権左中弁藤原兼胤	荷田延武	竪紙	1	宿紙、2通(2567-2-1～2)が封入されていた包紙あり
22	2567	1			元文2年2月19日	口宣案(従五位下荷田延武任豊前守口宣案)	蔵人頭権左中弁藤原兼胤	荷田延武	竪紙	1	宿紙、8通(2567-1～5)が括られていたこより・包紙あり
23	792				元文3午年6月18日	位階受領叙目年月等伯殿へ差出し候留	目代羽倉出羽守印他4名	御伝奏雑掌中	竪帳	1	
24	2567	2	2		寛保元年7月9日	口宣案(従五位下荷田延武叙従五位上口宣案)	蔵人頭左近衛権中将藤原隆熙	荷田延武	竪紙	1	宿紙、
25	2586	2	1		寛延4年7月21日	口宣案(荷田信郷叙従五位下口宣案)	蔵人権右少弁藤原資望	荷田信郷	竪紙	1	宿紙、6通(2568-2-1～6)が封入されていた包紙あり
26	2586	3	1		寛延4年10月1日	口宣案(従五位下荷田信郷任摂津守口宣案)	蔵人権右少弁藤原資望	荷田信郷	竪紙	1	宿紙、2通(2586-3-1～2)が封入されていた包紙あり
27	2586	2	2		宝暦6年3月27日	口宣案(従五位下荷田信郷叙従五位上口宣案)	蔵人右中弁藤原韶房	荷田信郷	竪紙	1	宿紙
28	2573	2	1		宝暦8年3月29日	口宣案(荷田信邦叙従五位下口宣案)	蔵人頭右大弁藤原韶房	荷田信邦	竪紙	1	宿紙、6通(2573-2-1～2573-2-6)が封入されていた包紙あり
29	2573	1	1		宝暦8年6月20日	口宣案(従五位下荷田信邦任石見守口宣案)	蔵人頭右大弁藤原韶房	荷田信邦	竪紙	1	宿紙、2573-1-1～2573-3-2-2まで11通を括っていたこより・包紙あり
30	2573	2	2		宝暦13年2月25日	口宣案(従五位下荷田信邦叙従五位上口宣案)	蔵人左少弁藤原光房	荷田信邦	竪紙	1	宿紙
31	2586	2	3		明和4年正月16日	口宣案(従五位上荷田信郷叙正五位下口宣案)	蔵人権右中弁藤原光祖	荷田信郷	竪紙	1	宿紙
32	2581	2	1		明和5年11月4日	口宣案(荷田信昌叙従五位下口宣案)	蔵人頭右大弁藤原伊光	荷田信昌	竪紙	1	宿紙、5通(2581-2-1～5)が封入されていた包紙あり
33	2581	2	2		明和5年12月19日	口宣案(従五位下荷田信昌任河内介口宣案)	蔵人頭左中弁藤原紀光	荷田信昌	竪紙	1	宿紙
34	2573	2	3		安永3年正月8日	口宣案(従五位上荷田信邦叙正五位下口宣案)	蔵人左少弁兼左衛門権佐藤原篤長	荷田信邦	竪紙	1	宿紙
35	2586	2	4		安永3年10月24日	口宣案(正五位下荷田信郷叙従四位下口宣案)	蔵人頭左大弁藤原光祖	荷田信郷	竪紙	1	宿紙
36	2586	3	2		安永6年6月23日	口宣案(摂津守荷田信郷宿祢筑前介口宣案)	蔵人右中弁兼左衛門権佐藤原篤長	荷田信郷宿祢	竪紙	1	宿紙
37	2573	1	2		安永6年6月29日	口宣案(石見守荷田信邦遷任摂津守口宣案)	蔵人右中弁兼左衛門権佐藤原為長	荷田信邦	竪紙	1	宿紙
38	2586	2	5		安永7年後7月4日	口宣案(従四位下荷田信郷宿祢叙従四位上口宣案)	蔵人頭右中弁藤原篤長	荷田信郷	竪紙	1	宿紙
39	2581	2	3		安永9年12月27日	口宣案(従五位下荷田信寿叙従五位上口宣案)	蔵人頭右大弁藤原為長	荷田信寿	竪紙	1	宿紙
40	2573	2	4		安永10年正月20日	口宣案(正五位下荷田信邦叙従四位下口宣案)	蔵人右中弁兼右衛門権佐藤原頼熙	荷田信邦	竪紙	1	宿紙
41	2581	1	1		天明3年3月3日	口宣案(荷田信言叙従五位下口宣案)	蔵人権右中弁兼右衛門権佐藤原文房	荷田信言	竪紙	1	宿紙、2通(2581-1～2)が封入されていた包紙・こよりあり
42	2581	1	2		天明3年3月3日	口宣案(従五位下荷田信言任常陸介口宣案)	蔵人権右中弁兼右衛門権佐藤原文房	荷田信言	竪紙	1	宿紙
43	2586	2	6		天明3年12月22日	口宣案(従四位上荷田信郷宿祢叙正四位下口宣案)	蔵人左中弁兼左衛門権佐藤原俊親	荷田信郷	竪紙	1	宿紙
44	2573	2	5		天明6年2月3日	口宣案(従四位下荷田信邦宿祢叙従四位上口宣案)	蔵人右中弁兼右衛門権佐藤原昶定	荷田信邦宿祢	竪紙	1	宿紙
45	2581	2	4		天明6年2月17日	口宣案(従五位上荷田信寿叙正五位下口宣案)	蔵人右中弁兼右衛門権佐藤原昶定	荷田信寿	竪紙	1	宿紙
46	2582	1	1		天明6年後10月7日	口宣案(荷田延年叙従五位下口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原基理	荷田延年	竪紙	1	宿紙、5通(2582-1-1～2582-2)が括られていたこよりあり、4通(2582-1-1～4)が封入されていた上包と2582-1のみが入っていた包紙あり
47	2582	1	2		天明6年12月19日	口宣案(荷田延年任石見守口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原基理	荷田延年	竪紙	1	宿紙、包紙あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
48	2573	2	6		寛政2年10月7日	口宣案(従四位上荷田信邦宿祢叙正四位下口宣案)	蔵人左少弁兼右衛門権佐藤原均光	荷田信邦宿祢	竪紙	1	宿紙
49	2582	1	3		寛政3年2月10日	口宣案(従五位下荷田延年叙従五位上口宣案)	蔵人左少弁兼右衛門権佐藤原均光	従五位下荷田延年	竪紙	1	宿紙、包紙あり
50	2581	2	5		寛政4年後2月26日	口宣案(正五位下荷田信寿叙従四位下口宣案)	蔵人左少弁兼右衛門権佐藤原均光	荷田信寿	竪紙	1	宿紙
51	2583	1			寛政6年2月6日	口宣案(荷田信興叙従五位下口宣案)	蔵人右中弁兼右衛門権佐藤原均光	荷田信興	竪紙	1	宿紙、6通(2583-1～6)が封入されていた包紙あり、こよりあり
52	2583	2			寛政6年2月6日	口宣案(従五位下荷田信興任下野権介口宣案)	蔵人右中弁兼右衛門権佐藤原均光	荷田信興	竪紙	1	宿紙
53	2582	1	4		寛政10年12月9日	口宣案(従五位上荷田延年叙正五位下口宣案)	蔵人頭左大弁藤原均光	従五位上荷田延年	竪紙	1	宿紙、包紙あり
54	2583	3			寛政11年5月8日	口宣案(下野権介荷田信興転任下野守口宣案)	蔵人権右中弁藤原延光	荷田信興	竪紙	1	宿紙
55	2583	5			寛政12年12月22日	口宣案(従五位下荷田信興叙従五位上口宣案)	蔵人頭左中弁藤原資董	荷田信興	竪紙	1	宿紙
56	2577	3	1		文化6年6月8日	口宣案(荷田信純叙従五位下口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原隆純	荷田信純	竪紙	1	宿紙、2通(2577-3-1～2)が封入されていた中包と2577-1-1のみが封入されていた包紙
57	2577	3	2		文化6年6月8日	口宣案(従五位下荷田信純任摂津守口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原隆純	従五位下荷田信純	竪紙	1	宿紙、包紙あり
58	2583	4			文化7年3月26日	口宣案(従五位上荷田信興叙正五位下口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原隆純	荷田信興	竪紙	1	宿紙
59	2577	4			文化11年3月2日	口宣案(従五位下荷田信純叙従五位上口宣案)	蔵人頭右近衛権中将藤原定成	荷田信純	竪紙	1	宿紙、包紙あり
60	2583	6			文化15年3月17日	口宣案(正五位下荷田信興叙従四位下口宣案)	蔵人右中弁兼左衛門権佐中宮大進藤原光成	荷田信興	竪紙	1	宿紙
61	2575	2	1		文政2年後4月7日	口宣案(荷田信俊叙従五位下任河内守口宣案)	蔵人右中弁兼左衛門権佐中宮大進藤原光成	荷田信俊	竪紙	1	宿紙、包紙あり
62	2577	5			文政4年4月8日	口宣案(従五位上荷田信純叙正五位下口宣案)	蔵人頭左中弁兼皇太后宮亮藤原光成	荷田信純	竪紙	1	宿紙、包紙あり
63	2575	2	2		文政9年2月29日	口宣案(従五位下荷田信俊叙従五位上口宣案)	蔵人左少弁兼左衛門権佐皇太后宮権大進藤原正房	荷田信俊	竪紙	1	宿紙
64	2577	6			文政10年4月7日	口宣案(正五位下荷田信純叙従四位下口宣案)	蔵人左少弁兼左衛門権佐皇太后宮権大進藤原正房	荷田信純	竪紙	1	宿紙、包紙あり
65	789				天保3壬辰年5月	補職叙位任官案	御殿預信純印		竪帳	1	表紙「羽倉家」
66	793				天保3辰年5月	(叙位案)	御殿預家控		竪帳	1	羽倉家信郷、信邦、延年、信純他分家3人
67	2575	1			天保4年12月19日	口宣案(従五位上荷田信俊叙正五位下口宣案)	蔵人頭左中弁藤原正房	荷田信俊	竪紙	1	宿紙、包紙こよりあり
68	2577	7			天保4年12月19日	口宣案(従四位下荷田信純宿祢叙従四位上口宣案)	蔵人頭左中弁藤原正房	荷田信純宿祢	竪紙	1	宿紙、包紙あり
69	2577	8			天保9年12月22日	口宣案(従四位上荷田信純宿祢叙正四位下口宣案)	蔵人右中弁兼右衛門権佐皇太后宮大進藤原愛長	荷田信純宿祢	竪紙	1	宿紙、包紙あり
70	2575	3			天保10年4月8日	口宣案(正五位下荷田信俊叙従四位下口宣案)	蔵人頭右近衛権中将兼皇太后宮権亮藤原忠能	荷田信俊	竪紙	1	宿紙、包紙あり
71	2575	4	1		天保13年2月20日	口宣案(荷田信貞叙従五位下口宣案)	蔵人右中弁兼左衛門権佐藤原俊克	荷田信貞	竪紙	1	宿紙、2通(2575-4-1～2)が封入されていた上包と2575-4-1のみが封入されていた包紙あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
72	2575	4	2		天保13年2月20日	口宣案(従五位下荷田信貞任筑前守口宣案)	蔵人右中弁兼左衛門権佐藤原俊克	荷田信貞	竪紙	1	宿紙
73	2576	1	1		嘉永2年6月24日	口宣案(荷田信平叙従五位下口宣案)	蔵人頭右大弁藤原俊克	荷田信平	竪紙	1	宿紙、2通(2576-1-1～2)が封入されていた包紙あり、こよりあり
74	2576	1	2		嘉永2年6月24日	口宣案(従五位下荷田信平任石見守口宣案)	蔵人頭右大弁藤原俊克	荷田信平	竪紙	1	宿紙
75	2576	2			安政3年12月22日	口宣案(従五位下荷田信平叙従五位上口宣案)	蔵人頭右中弁藤原胤保	荷田信平	竪紙	1	宿紙、中包・包紙あり
76	2584	4			万延元年10月17日	口宣案(荷田信義叙従五位下口宣案)	蔵人頭右大弁藤原長順	荷田信義	竪紙	1	宿紙
77	2584	5			文久元年10月10日	口宣案(従五位下荷田信義任摂津守口宣案)	蔵人右中弁兼左衛門権佐藤原豊房	荷田信義	竪紙	1	宿紙
78	2576	3	1		文久3年11月28日	口宣案(従五位上荷田信平叙正五位下口宣案)	蔵人頭左中弁藤原豊房	荷田信平	竪紙	1	宿紙、2通(2576-3-1～2)が封入されていた包紙あり
79	2584	6			慶応元年11月28日	口宣案(従五位下荷田信義叙従五位上口宣案)	蔵人頭右大弁藤原豊房	荷田信義	竪紙	1	宿紙
80	726				明治2巳年11月	叙位案(荷田信義叙位書上)	荷田信義控		竪帳	1	
81	790				明治2年11月	叙位案(信平叙位書上)	荷田信平		竪帳	1	
82	795				明治2己巳年11月	(叙位案)	信義		竪帳	1	信義・信度・信可・信平、別紙あり
83	2576	3	2		(近代)3月6日	(正五位下荷田信平叙従四位下宣下申渡)		荷田信平	横切紙	1	楮紙

B－1－3　伯家御教書

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2571	1			慶長10年10月14日	(稲荷社竈職補任ニ付伯家御教書)	和泉守英永(花押)	稲荷社竈殿	竪紙	1	2通(2571-1～2)が封入されていた包紙あり、上書「正預補任　後重次荷田重利二十五歳」
2	2571	2			慶長10年10月14日	(御殿預席次ニ付伯家御教書)	和泉守英永(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	
3	1598	2	1		慶長10年10月	(稲荷社竈職補任ニ付奉書)	—	稲荷社竈殿	切紙	1	
4	1598	2	2		慶長10年10月	(稲荷社竈職補任ニ付奉書)	—	稲荷社竈殿	竪紙	1	
5	2569	2			寛永2年3月16日	(御殿預席次ニ付伯家御教書)	左衛門尉時久(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	
6	2569	1			寛永2年3月16日	(荷田信賢御殿預補任ニ付伯家御教書)	左衛門尉時久(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	2通(2569-1～2)が封入されていた包紙あり
7	2578	1			慶安元年6月25日	(荷田宿祢信吉稲荷社御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	白川家雑掌左衛門尉光久(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	2通(2578-1～2)が封入されていた上包と2578-1のみが入っていた包紙あり
8	2578	2			慶安元年6月25日	(稲荷社御殿預席次ニ付伯家袖判御教書)	白川家雑掌左衛門尉光久(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
9	2585	1	1		明暦3年12月26日	(荷田宿祢信秀稲荷社御殿預職補任伯家袖判御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	6通(2585-1-1～2585-2-4)が括られていたこよりと、2通(2585-1～2)が封入されていた上包と2585-1-1のみが入っていた包紙あり
10	2585	1	2		明暦3年12月26日	(稲荷社御殿預席次ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
11	2579	1			寛文9年11月26日	(荷田信友権御殿預補任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉勝久(花押)	稲荷社権御殿預殿	竪紙	1	3通(2579-1～3)が封入されていた上包と2579-1のみが入っていた包紙あり
12	1568	2	2		元禄7年10月30日	(荷田社正遷宮ニ付伯家御教書)	伯家雑掌直久	稲荷御殿預殿	折紙	1	
13	1568	2	1		元禄7年11月2日	(清祓勤仕ニ付伯家御教書)	白川家雑掌	稲荷御殿預家	折紙	1	3通(1568-2-1～3)が封入されていた上包と1568-2-1～2が入っていた包紙あり、「羽倉主膳殿　白川殿家荒木土佐」
14	2579	2			元禄10年4月5日	(権御殿預荷田信友御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉直久(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
15	2579	3			元禄10年4月5日	(御殿預席次ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉直久(花押)	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
16	2568	3	1		宝永2年6月5日	(氏人荷田信名権御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	左兵衛尉永久	稲荷社権御殿預殿	竪紙	1	2568-3-1～3が入っていた上包と2568-3-1のみが入っていた包紙あり
17	2568	3	2		享保2年10月5日	(権御殿預荷田信名御殿預転任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
18	2568	3	3		享保2年10月5日	(御殿預席次ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
19	2567	5	1		享保3年9月8日	(氏人荷田信章権御殿預職転任ニ伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社権御殿預殿	竪紙	1	宿紙、2567-5-1～2が入っていた上包と2567-5-1のみが入っていた包紙あり
20	2567	5	2		元文元年6月17日	(氏人荷田延武権御殿預職転任ニ伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社権御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
21	2706	3			延享元年8月11日	(大鳥居清祓勤仕ニ付伯家袖判御教書写)	伯家雑掌	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	
22	2706	4			延享元年8月11日	(大鳥居清祓勤仕ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙二つあり、「大鳥居清祓伯家之御下知状壱通」
23	1568	2	3		延享元年子5月20日	(仮鳥居清祓御殿預勤仕ニ付伯家御教書)	伯家雑掌	下社神主殿他4名	折紙	1	
24	2586	1	1		寛延4年4月24日	(氏人荷田信郷権御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社権御殿預殿	竪紙	1	宿紙、11通(2586-1-1～2586-3-2)が括られていたこよりと、3通(2586-1-1～3)が封入されていた包紙あり
25	2586	1	2		寛延4年6月23日	(権御殿預荷田信郷御殿預職転ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
26	2586	1	3		寛延4年6月23日	(御殿預席次ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
27	2573	3	1		宝暦6年11月7日	(氏人荷田信邦稲荷社御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社権御殿預殿	竪紙	1	3通(2573-3-1～2573-3-2-2)が封入されていた上包と、2573-3-1のみが入っていた包紙あり
28	2573	3	2	1	安永7年12月26日	(権御殿預荷田信邦御殿預転任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌薩摩守綱平	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	2通(2573-3-2-1～2)が入っていた上包と、2573-3-2-1のみが入っていた包紙あり
29	2573	3	2	2	安永7年12月26日	(稲荷社御殿預席次ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌薩摩守綱平	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
30	2582	2			天明6年後10月18日	(荷田延年権御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌薩摩守総平	稲荷社権御殿預殿	竪紙	1	上包・包紙あり
31	2577	1			文化6年2月18日	(氏人信純稲荷社権御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	10通(2577-1～8)が括られていたこよりと、中包・包紙あり、捻封
32	2577	2	1		文化6年2月20日	(権御殿預荷田信純御殿預職転任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	2通(2577-1～2)が封入されていた上包と2577-2-1のみが入っていた包紙あり、包紙は捻封
33	2577	2	2		文化6年2月20日	(御殿預席次ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	中包・包紙あり、中包は捻封、包紙上書「白川殿ヨリ御下知状壱通」
34	2584	1			万延元年3月27日	(氏人荷田信義権御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌神祇少史茂郁	稲荷社権御殿預殿	竪紙	1	6通(2584-1～6)が封入されていた上包と2584-1のみが入っていた包紙あり、捻封
35	2584	2			万延元年後3月7日	(権御殿預荷田信義御殿預職補任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌神祇少史茂郁	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙捻封
36	2584	3			万延元年後3月7日	(御殿預席次ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌神祇少史茂郁	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	包紙捻封

B－1－4　相続・勤仕

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1560	1			延宝5歳巳12月27日	神文之式(地鎮祭伝授)	成光(花押)他2名	稲荷御殿預信詮殿	折紙	1	
2	3113	1	3		天和3辛亥年卯月9日	(城州乙訓郡築山村神社菱妻大明神遷宮奉仕役名前書付)	稲荷監殿五位上荷田宿祢信詮他2名		竪紙	1	次官役荷田信友、荷田信盛
3	3113	1	4		天和3辛亥年卯月9日	(城州乙訓郡築山村神社菱妻大明神遷宮奉仕役名前書付)	稲荷監殿五位上荷田宿祢信詮他2名		竪紙	1	次官役荷田信友、荷田信盛
4	1560	5			貞享4年卯3月28日	(遷宮式・奉幣伝授ニ付誓約文)	片岡左兵衛成光(花押)	羽倉主膳正	竪紙	1	
5	1560	2			元禄3年午6月13日	信文之事(霊符守等相伝ニ付神文)	御殿預羽倉豊前介荷田信友(花押)	御殿預荷田宿祢信詮公	竪紙	1	
6	1560	3			元禄3年6月13日	信文之事(霊符守等相伝ニ付神文)	荷田信元(花押)	御殿預荷田信詮	竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
7	3253				(宝永2年)6月2日	(権御殿預補任ニ付出頭之旨書付)	伯家左兵衛	下神主殿他4名	折紙	1	
8	1560	4			宝永2歳6月28日	信文之事(霊符守等相伝ニ付神文)	権御殿預羽倉民部信(花押)	御殿預荷田信友尊公	竪紙	1	
9	2314				(享保20年正月4日以降)	(西羽倉家非蔵人記録)			竪帳	1	荷田延次から信舎まで
10	2047				元文元年辰6月	謹而言上(氏人荷田延武入職披露願及び叙爵受領願控)	稲荷下社神主親友印他4名	御伝奏御雑掌中	竪紙	1	端裏書「延武権預職并従五位下　元文元年六月惣官親友」
11	2048				元文5年申後7月	謹而奉願言上書(御殿預荷田信名を四品に奏上願)	下社神主親友(印)他4名	白川侍従殿雑掌中	竪紙	1	裏に稲荷社家惣中差出の願書あり
12	2049				延享4年卯11月	謹而言上(御殿預荷田信名を従四位上に奏上願)	下社神主親友他4名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	
13	3259				(寛延元年)閏10月	口上之覚(荷田信名四位加級願)	羽倉出羽守		切続紙	1	
14	2050				寛延元年辰12月	謹而言上(御殿預荷田信名を従四位上に奏上願)	稲荷下社神主親友印他3名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	
15	2811				宝暦壬申(2)年夏5月穀日	信郷初参嘉儀一式覚記	正預信郷(花押)		竪帳	1	
16	2164				宝暦6年丙子11月朔日	信邦元服入職嘉儀饗応一式之記	正預家蔵		竪帳	1	
17	2052				宝暦12年午	謹而言上(御殿預信郷目代荷田信之を正五位下に奏上願)	下社神主親盛他4名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	
18	2053				明和元年申11月	謹而言上(御殿預信郷目代荷田信之を正五位下に奏上願)	下社神主親盛(印)他4名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	連印のうち中社神主高任と目代信之の印を墨にて抹消
19	2054				明和元年申12月	謹而言上(御殿預信郷目代荷田信之を正五位下に奏上願)	下社神主親盛他4名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	
20	2055				明和元年申閏12月	謹而言上(御殿預信郷目代荷田信之を正五位下に奏上願)	下社神主親盛他4名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	控、端書「ひかへ」
21	2056				明和3年戌10月	謹而言上(御殿預荷田信郷等を正五位下に奏上願)	下社神主親盛他4名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	
22	2057				明和3年戌12月	謹而言上(御殿預荷田信郷等を正五位下に奏上願)	下社神主親盛(印)他4名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	
23	2058				明和4年亥正月	謹而言上(御殿預荷田信郷等を正五位下に奏上願)	下社神主親盛(印)他4名	白川三位殿御雑掌中	竪紙	1	
24	2708	7	1	1	明和4年亥正月	謹而言上(御殿預荷田信郷目代荷田信之従四位下の勅許蒙りたき旨披露願)	稲荷下社神主親盛印他4名	白川三位殿御雑掌中	折紙	1	2708-7-1-1～3が入っていた包紙あり、包紙上書「官幣使之節式位階中置四年願之事下書」、こよりあり
25	2746				(明和5年12月19日～)	稲荷本宮荷田氏両家任官叙位近例	正官御殿預家		竪帳	1	
26	2737	19	2		寛政2戊年8月	(稲荷三社神主故障神事代官届書)	稲荷社御殿預信邦他4名	御伝奏御雑掌中	折紙	1	
27	1035				(文化4年5月)	備忘			横半帳	1	挿入紙あり
28	3244	2	6		(文化6年)正月26日	(権御殿預職相続一件ニ付申上書)	羽倉伯耆守	民部様	折紙	1	2枚1組、端裏「廿六日出扣」
29	3244	2	5		文化6年正月28日	(信純・信秋権御殿預職入職ニ付人選願)	信賢(印)他3名	上神主殿他2名	折紙	1	2枚1組
30	3244	2	2		文化6年正月	(信純・信秋権御殿預職入職ニ付人選願)	目代信賢	上社神主殿他2名	折紙	1	2枚1組
31	3244	2	3	1	文化6年正月	口上之覚(権御殿預補職ニ付、信純・信秋人選願)	信賢他3名	上神主殿他2名	折紙	1	
32	3244	2	4		(文化6年)正月	(信純・信秋権御殿預職入職ニ付人選願)	目代信賢	上神主殿他2名	折紙	1	3244-2-2の略文
33	3244	2	3	2	文化6年2月	口上之覚(権御殿預補職ニ付、内命願)	信賢(印)他4名	上神主殿他2名	折紙	1	
34	3244	2	3	3	文化6年2月	口上之覚(権御殿預補職ニ付、信純・信秋人選願)	信賢他4名	上神主殿他2名	折紙	1	
35	3244	2	3	4	文化6年2月	口上之覚(権御殿預補職ニ付人選願)	信賢(印)他4名	上神主殿他2名	折紙	1	
36	3244	2	1		文化6年2月	口上覚(信純・信秋、権御殿預補職ニ付人選願)	信賢他4名	上神主殿他2名	折紙	1	反故、3244-2を一括する包紙として使用されていた
37	2163				文化6巳5月	来午三月七日信純之元服諸式入用之品々并備用諸道具類心控	竈家美保控		竪帳	1	
38	3244	1			(文化6年)	(信純・信秋権御殿預補入職ニ付一件綴)			綴	1	19枚1綴、3244-1～3244-2-6までが入っていた包紙上書「文化六己巳年正月御殿預入職一件扣」
39	2813				文化庚午(7)3月	信純元服嘉儀扣			竪帳	1	
40	1553	3			嘉永元申年9月	口述(信興養子差遣わすニ付一札)	信興他1名	御殿預殿	切紙	1	15通こより一括の内

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
41	2827				(万延元年以降)	竈家年中執事控			竪帳	1	
42	2788				(文久元年正月元日～明治3年閏10月)	稲荷竈家年中記事			竪帳	1	
43	1645				(元治元年)	秘記(年中行事儀式書)	前田健蔵正隆(花押)		竪帳	1	絵入、彩色あり、前田正隆は羽倉信義の役人、元治元年2月改正「正一位稲荷大明神御安鎮帛料定式」
44	691	104			明治2巳年11月	(官位昇進略歴)	信平		竪切紙	1	安政三年十二月廿二日廿歳等年齢がみえる
45	2207				(明治5年4月15日～明治9年6月20日)	東家留守中諸事出入牒			横帳	1	
46	1553	11			壬申(明治5年)9月7日	(羽倉信義御用ニ付出頭通達)	教部省	稲荷神社一社中	竪紙	1	15通こより一括の内
47	1626				(近世)卯月27日	乍恐言上仕候(竈家跡職出入ニ付相続願)	稲荷社人竈羽倉藤十郎他1名	御奉行様	続紙	1	
48	1553	6			(近世)巳5月朔日	(御殿預荷田信郷・目代荷田信之を正五位下に奏上ニ付願書)			折紙	1	15通こより一括の内
49	2079				(近世)丑4月	(四品昇進嘆願書案)	羽倉筑前		折紙	1	2枚1組
50	1633	2			(近世)8月朔日	(藤若丸荷田宗信氏人入覚書)			切紙	1	7通こより一括の内
51	547				(近世)	権預元服次第			竪帳	1	朱の書き入れあり
52	775				(近世)	(荷田家社格につき願書)			横半帳	1	
53	2165				(近世)	年中行事草案			竪帳	1	信邦関係
54	3113	3			(近世)	御殿預家非蔵人之例(御殿預荷田信吉他)			切続紙	1	
55	3530				(近世)	年中覚帳(年中献立覚帳)	重子		横半帳	1	
56	2833				(明治7年7月24日～明治8年3月24日)	(資禄下賜願)	紀伊郡第二区福稲村羽倉信義	京都府知事長谷信篤殿	竪帳	1	稲荷社領分配の覚書などあり
57	2939				(近代)	(稲荷神社正官御殿預　従五位下羽倉摂津守　荷田宿祢信吉等履歴覚書)			竪紙	1	赤罫紙使用

B－1－5居宅・家計

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3064				宝暦14年申4月20日	普請御願(長屋門・物置新築願)	稲荷社御殿預羽倉摂津守	御奉行所	続紙	1	
2	2729	2			天明8年申12月	(羽倉摂津守家隠居家建直し願並びに絵図)	羽倉摂津守	御奉行所	続紙	1	端裏あり、こよりあり
3	1569				寛政11年4月	御願申上候普請絵図(隠居家普請願)	稲荷社司羽倉摂津守(印)	御奉行所	続紙	1	
4	2729	1			寛政11年未4月	御願申上候普請絵図(境内所持屋敷地の隠居家建直し願)	稲荷社司羽倉摂津守(印)	御奉行所	竪続紙	1	端裏あり
5	2729	3				(羽倉摂津守家隠居家絵図)			切紙	1	
6	2723	7			文化4丁卯年5月	御礼一紙之事(拙宅土蔵蟄羽、貴家地内へ出張承知ニ付)	森豊後守印他1名	羽倉摂津守様	竪紙	1	
7	2441				文政11年子4月	覚(稲荷御殿預羽倉家助力講銀預証文)	世話方称覚屋長兵衛(印)他2名	近江屋次兵衛殿他2名	竪切紙	1	
8	2442				文政11年子4月	覚(稲荷御殿預羽倉家助力講銀預証文)	世話方称覚屋長兵衛(印)他2名	近江屋次兵衛殿他2名	竪切紙	1	
9	2975				文政12丑年11月	奉願修復絵図(居宅等破損ニ付修復許可願)	稲荷社御殿預願主羽倉摂津守(印)	御奉行所	竪続紙	1	端裏「上」、墨引絵図の上に朱引絵図貼紙あり
10	2960				安政4巳年3月	普請模様替御願(屋敷増築願)	稲荷社社司羽倉摂津守(印)	御奉行所	竪続紙	1	図面に貼紙あり、端裏あり
11	3134				明治4年5月19日	証(家来召抱証)	東羽倉家執事代大石貴兵衛(印)	川上龍三殿他1名	竪紙	1	
12	1612				(近世)	東羽倉屋敷惣図			鋪	2	朱書「明治四辛未十月六改」
13	2021	16			(近世)	羽倉家南屋敷隠居家之図	正預		鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
14	2021	17			(近世)	(羽倉家南屋敷隠居家絵図)			鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
15	2021	18			(近世)	(屋敷絵図)			鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内、朱書
16	2021	19			(近世)	座敷北側庇差出絵図			鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
17	691	16			明治7戌年10月5	覚(金銭関係相談の覚書)	信平(印)	すまや	折紙	1	

B－1－6　その他

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2373				安永9年子5月	寺請状之事(羽倉尾張儀大和屋九兵衛方借家ニ付寺請状)	浄花院末寺稲荷境内西光寺	冨小路夷川上ル大炊町年寄権右衛門殿、町中	竪切紙	1	
2	2994	1			天明8申年11月	明細書(羽倉権九郎家譜)	羽倉権九郎		横半帳	1	外包紙「明細書入り羽倉弥三郎慶応三年羽倉鋼三郎入連」内包紙「書付羽倉弥三郎」こよりあり、2994-1～7まで一括
3	1358				(天保13壬寅年12月～天保15甲辰年4月)	親類書　遠類書	羽倉内記	酒井肥前守殿、久貝又三郎殿	竪帳	1	
4	1356	1			天保15甲辰年2月	先祖書、切支丹宗門改証文控	羽倉外記(花押)	近藤織部殿	竪帳	1	裏表紙「天保十五甲辰年二月調之、御支配筋江差出ス、和泉橘通藤堂西門前羽倉用所」
5	2994	2	2		(天保15年)辰4月	覚(羽倉権九郎親類書)	御鳥見羽倉弥三郎		切続紙	1	下部付箋あり「御代々御由緒書何卒乍御面倒此御切紙之振合ニ承知仕度事」
6	2994	2	3		(天保15年)辰4月	覚(羽倉弥三郎玄祖父より養父までの家譜)	御鳥見羽倉弥三郎		切紙	1	下部付箋あり「御鳥見役御勤仕羽倉弥三郎ト申御方いつ之御代ニ候哉、委細ニ承知仕度候、尤別紙懸ヶ紙ノ趣此御方茂□□□度奉願上候事」
7	2994	4			(天保15年)辰6月13日	(羽倉新蔵重範家系ニ付書上)			切紙	1	奥書「右之通弥三郎方へ申遣候也」
8	2994	2	4		(天保15年)辰6月	覚(羽倉弥平兵衛等戒名忌日調)			切紙	1	
9	2994	2	1		(天保15年)辰6月	親類書・遠類書	羽倉外記		切続紙	1	2994-2-1～4が入っていた包紙上書「親遠願書」
10	1546				慶応4戊辰年5月	(田井秀亭儀羽倉伊織家名相続ニ付一札)	信平	羽倉摂津守殿	折紙	1	包紙あり
11	2494				(近世)丑年10月2日	口上之覚(奉公人不始末ニ付金子にて弁済の旨請書)	笹や喜右衛門(印)	羽倉摂津守様御雑掌中	竪切紙	1	
12	1154				巳12月	(下田菅五郎妹縁談の儀につき返答書)	羽倉下野守	鈴木可一郎殿	横帳	1	紐あり
13	1356	2			(近世)6月	(暑中見舞状)	羽倉外記用九(花押)他1名	羽倉摂津守様	折紙	1	
14	1176				(近世)	目録	羽倉全之介		折紙	1	婚礼か
15	2994	6				(先代執筆の帳面返却ニ付信純付箋)			切紙	1	「御先代御執筆帳面壱冊・切紙二通御□候、御一覧之後御返却奉願上候」
16	2971				(近世)	藤若丸　荷田宗信(人名書付)			切紙	1	反故紙使用
17	2972				(近世)	藤若丸　荷田宗信(人名書付)			切紙	1	反故紙使用
18	3311	3			(近世)	(羽倉与三等知行分之事ニ付書状三通写)	(晴国他)	(羽倉千々代とのへ)	切続紙	1	
19	3112	8			(近世)	(羽倉用九之墓拓本)			切紙	1	
20	3534	19			(近世)	(贈物添状)	とし子		竪紙	1	
21	1356	3			(近代)12年1月10日	(信純と羽倉権九郎家との交流ニ付私信)	敬尚	京都市伏見稲荷羽倉信真様	葉	1	

B－2　日記

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	907				(万治3年正月朔日～2月4日)	万治年中日記帳	従五位下荷田氏羽倉主膳正信詮		竪帳	1	後装表紙「万治三年家記」
2	903				(寛文2年5月朔日～13日)	(家記)			竪帳	1	原表紙白紙、後装表紙「寛文二年五月家記」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
3	904				(寛文3年正月朔日～晦日)	(家記)	御殿預従五位上荷田宿祢信詮		竪帳	1	、寛文3年12月6日～14日分一枚挿入、原表紙なし、後装表紙「寛文三歳正月家記」
4	905				(寛文4年正月朔日～4月11日)	日記	荷田信詮		竪帳	1	後装表紙「寛文四年正月家記」
5	849				(寛文5年正月晦日～21日)	寛文五年日記	従五位上荷田信詮		竪帳	1	後装表紙「寛文五年家記」
6	906				(寛文5年正月晦日～21日)	寛文五年日記	従五位上荷田信詮		竪帳	1	後装表紙「寛文五年家記」
7	850				(寛文5年正月22日～8月2日)	(家記)			竪帳	1	原表紙なし、後装表紙「寛文五年正月家記」
8	851				(寛文6年正月元旦～2月3日)	寛文六年日記			竪帳	1	後装表紙「寛文六年家記」
9	919				(寛文9年2月4日～8月29日)	(家記)	御殿預竈主膳正荷田信詮		竪帳	1	原表紙「寛文九年」、後装表紙「家記」
10	920				(寛文9年12月7日～27日)	家記			竪帳	1	
11	852				(寛文10年正月朔日～2月晦日)	家記	御殿預従五位上荷田宿祢信詮		竪帳	1	
12	853				(寛文10年3月朔日～8月30日)	家記			竪帳	1	原稿用紙
13	854				(寛文10年9月朔日～12月23日)	家記	御殿預従五位上荷田宿祢信詮		竪帳	1	文政4年修補
14	3005				(寛文11年正月朔日～12月25日)	寛文十一暦日次	羽倉信詮		竪帳	1	後装表紙「家記」
15	857				(元禄7年4月22日～5月27日)	日次(家記)	荷田宿祢信友		竪帳	1	
16	858				(元禄7年4月22日～9月21日)	家記			竪帳	1	
17	810				(元禄7年3月13日～11月16日)	信友信光日記抜書			横帳	1	
18	859				(元禄7年12月11日～8年正月29	江戸逗留之中日次	信友(花押)		竪綴	1	
19	860				(元禄8年7月16日～10月晦日)	家記			竪綴	1	
20	861				(元禄9年正月朔日～3月4日)	日次記(家記)	荷田宿祢信友		竪帳	1	
21	862				(元禄10年4月朔～8日)	日次記			竪帳	1	
22	863				(元禄12年2月15日～11月29日)	家記			竪帳	1	
23	864				(元禄13年8月9日～12月13日)	日次(家記)	荷田宿祢信□		竪帳	1	
24	865				(元禄14年正月1日～12月13日)	(家記)	荷田宿祢信友		竪帳	1	
25	867				(元禄16年5月～11月)	公用之日記(家記)	竈		竪帳	1	
26	868				(元禄17年正月1日～7月晦日)	要門之家記			竪帳	1	表紙なし
27	1969				(元禄頃カ)(11～18日)	(日記断簡)			竪紙	1	
28	869				(宝永元年8月3日～12月28日)	家記	御殿預竈		竪帳	1	
29	871				(宝永2年6月5日～12月)	要門之家記	荷田宿祢信友		竪帳	1	
30	870				(宝永2年4月朔日～6月5日)	宝永二年之記			竪帳	1	
31	917				(宝永3年正月～12月)	要門之家記	荷田宿祢信友		竪帳	1	
32	918				(宝永4年正月6日～12月22日)	要門之家記	荷田宿祢信友		竪帳	1	
33	894				(宝永5年正月～6月26日)	要門之家記上	荷田宿祢信友		竪帳	1	
34	895				(宝永5年7月朔日～12月23日)	要門之家記下			竪帳	1	
35	896				(宝永5年正月1日～12月25日)	要門之家記	荷田宿祢信友		竪帳	1	万治・寛文の抜書
36	897				(宝永7年正月1日～12月23日)	要門之家記	荷田宿祢信友		竪帳	1	慶安年中の秦親賢の日記抜粋

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
37	924				(宝永8辛卯年正月1日～12月25日)	宝永八辛卯年之家記	正預従五位上荷田宿祢信友		竪帳	1	
38	925				(正徳元年5月14日～7月24日)	(家記)			竪帳	1	抜書
39	1516				(正徳元年5月19日～7月25日)	江戸参府日記	信名		袖珍本	1	
40	926				(正徳2壬辰年5月元日～12月25日)	正徳二壬辰之家記	正預正五位下荷田宿祢信友		竪帳	1	
41	927				(正徳3癸巳年正月元日～12月30日)	正徳三癸巳年之家記	正預正五位下荷田宿祢信友		竪帳	1	
42	928				(正徳4甲午年正月元日～12月18日)	正徳四甲午年之家記	正預正五位下荷田宿祢信友		竪帳	1	
43	929				(正徳5乙未年正月元日～12月29日)	正徳五乙未歳家記	正預正五位下荷田宿祢信友		竪帳	1	
44	930				(正徳6丙申年正月元日～12月23日)	正徳六丙申歳家記	正預正五位下荷田宿祢信友		竪帳	1	
45	932				(享保2年正月元日～12月27日)	要門之家記	正預信□		竪帳	1	「享保二年正月廿九日関東下向之抜粋」合綴
46	3014				(享保2年3月7日～16日)	(旅日記)	(荷田信名か)		竪帳	1	江戸～尾張宮迄、竪帳の紐がとれている、前後欠
47	933				(享保3年正月朔日～12月23日)	家記	正官信名		竪帳	1	
48	934				(享保4年正月朔日～12月24日)	家記	荷田宿祢信名		竪帳	1	
49	935				(享保5年正月朔日～12月29日)	家録	正預信名		竪帳	1	
50	936				(享保6年正月元日～12月25日)	家記	荷田宿祢信名		竪帳	1	
51	937				(享保7年正月元日～12月26日)	家記	正預信名		竪帳	1	
52	938				(享保8年正月朔日～12月晦日)	家記	正預信名		竪帳	1	
53	939				(享保9年正月朔日～10年正月3日)	家録	正預信名		竪帳	1	
54	940				(享保10年正月元日～6月29日)	要門之家記上	正預信名		竪帳	1	
55	941				(享保10年7月朔日～12月晦日)	家記下	正預信名		竪帳	1	
56	942				(享保11年正月元日～12月晦日)	家録	権預信章		竪帳	1	
57	943				(享保12年正月元日～12月24日)	家譜	荷田宿祢信章		竪帳	1	
58	944				(享保13年正月朔日～11月晦日)	家記	正預信名		竪帳	1	
59	945				(享保13年12月朔日～26日)	家記	正預信名		竪帳	1	
60	946				(享保14年正月朔日～12月29日)	日録	正預信名		竪帳	1	
61	947				(享保15年正月朔日～12月27日)	日録	正預信名		竪帳	1	
62	986				(享保16年正月朔日～12月29日)	日録	正預信名		竪帳	1	
63	987				(享保17年正月朔日～6月14日)	日録上	正預信名		竪帳	1	
64	988				(享保17年6月15日～12月23日)	日録下			竪帳	1	
65	989				(享保18年正月朔日～12月25日)	日録	権預信章		竪帳	1	
66	990				(享保19年正月元日～12月28日)	日録	正預信名		竪帳	1	
67	991				(享保20年正月朔日～11月8日)	日録	正預信名		竪帳	1	内題「家記」
68	992				(享保20年)4月3日～17日	信名信章関東留守中日記	信舎		竪帳	1	
69	1519				(享保20卯年夏4月13日～6月29日)	江戸在府中要門之日記(壱)	稲荷正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
70	1520				(享保20卯年秋7月朔日～9月晦日)	江戸在府中要門之日記(貳)	稲荷正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
71	1521				(享保20卯年冬10月朔日～12月晦日)	江戸在府中要門之日記(参)	稲荷正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
72	1517				(享保20年4月3日～5月22日)	江戸参府道中日記	信名		横半帳	1	
73	1518				享保20卯年首夏15日	在府中御奉行所上書付之留(別記)	信名		竪帳	1	
74	993				(享保21年正月朔日～12月晦日)	日録			竪帳	1	内題「家記」、貼紙「著者延武」
75	1522				(享保21歳次丙辰春正月朔日～2月晦日)	江戸在府日記(四)	稲荷正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
76	1523				(享保21年春3月朔日～5月晦日)	江戸在府之日記(五)	稲荷正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
77	1524				(元文元歳次丙辰夏6月朔日～9月29日)	江戸在府之日記(六)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
78	1020	22			(元文元年7月朔日～11月16日)	家記抜萃			竪帳	1	仮綴、原稿用紙使用
79	1525				(元文元歳次丙辰冬10月朔日～12月晦日)	江戸在府之日記(七)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
80	1690				(元文2年正月朔日～12月晦日)	家記			竪帳	1	
81	1526				(元文2年歳次丁巳春正月朔日～4月晦日)	江戸在府之日記(八)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
82	1970				(元文2巳年4月12日～9月5日)	中御門院崩御之御時権預延武日記抜粋			竪帳	1	
83	1527				(元文2年歳次丁巳5月朔日～6月晦日)	江府要門之日記(九)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
84	1528				(元文2年歳次丁巳秋7月朔日～9月晦日)	江府要門之日記(拾)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
85	1529				(元文2年歳次丁巳冬10月朔日～12月晦日)	江府要門之日記(十一)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
86	1691				(元文3年正月朔日～12月晦日)	家記	従五位下行豊前守荷田延武書之		竪帳	1	
87	1530				(元文3年歳次戊午春正月朔日～3月晦日)	江府要門之日記(十二)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
88	1531				(元文3年歳次戊午夏4月朔日～6月29日)	江府要門之日記(十三)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
89	1539				(元文3年歳次戊午秋7月朔日～9月晦日)	江戸要門之日記(十四)	稲荷正預正五位下行摂津守荷田宿		竪帳	1	
90	1532				(元文3年歳次戊午冬10月朔日～12月29日)	江府要門之日録(十五)	正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	
91	1692				(元文4年正月朔日～12月晦日)	家記			竪帳	1	原稿用紙(釈文)4枚挿入
92	1533				(元文4己未歳春正月朔日～3月晦日)	江府要門之日録(十六)	稲荷正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	
93	1534				(元文4年歳次己未夏4月朔日～6月晦日)	江府要門之日録(十七)	稲荷正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
94	1535				(元文4己未年秋7月朔日～9月29日)	江府要門之日録(十八)	正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
95	1536				(元文4年歳次己未冬10月朔日～12月晦日)	江府要門之日録(十九)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	
96	1693				(元文5年正月朔日～閏7月15日)	家記上	従五位下行豊前守荷田宿祢延武		竪帳	1	ここまで箱16-1(1689から)
97	1540				(元文5年歳次庚申春正月朔日～3月12日)	江府要門之日録(二拾)	稲荷社正預正五位下行摂津守荷田宿祢信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
98	1541				(元文5年3月10日～4月2日)	在府之内元文五庚申年三月十三ヨリ之日記并道中之記四月二日京着迄之記(二十	正預信名		竪帳	1	
99	1537				(元文5年歳次庚申夏4月2日～5月晦日)	帰京到着後之記(二十二)	正預信名		竪帳	1	5月まで
100	1538				(元文5年歳次庚申夏6月朔日～8月8日)	要門之家記　到着後之記第弐中ノ上(二十三)	正預信名		竪帳	1	7月まで
101	1542				(元文5年歳次庚申秋8月11日～9月29日)	要門之日録　中ノ下(二十四)	正預信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
102	1543				(元文5年歳次庚申冬10月朔日～11月晦日)	要門之日録　下(二十五)	正預信名		竪帳	1	「俗文俗字可憚他見者也」
103	1694				(元文6年正月元日～寛保元年6月29日)	(日記上)			竪帳	1	
104	1695				(寛保元年11月朔日～12月29日)	(日記下)	信(花押)		竪帳	1	
105	1696				(寛保2年正月朔日～9月29日)	寛保弐年歳次壬戌日録	信(花押)		竪帳	1	外題「日録」
106	1697				(寛保2年10月朔日～12月晦日)	日録	信(花押)		竪帳	1	「弐冊之内」
107	1698				(寛保3年正月元日～6月晦日)	要門之日録	正預信名宿祢(花押)		竪帳	1	「弐冊之内上」
108	1707				(寛保3年7月朔日～12月晦日)	要門之日録	正預信名宿祢		竪帳	1	「弐冊之内下」、「俗文俗字可憚他見」
109	1699				(寛保4年正月元日～延享元年3月29日)	要門之日録	正預従四位下行摂津守荷田信名宿祢(花押)		竪帳	1	
110	1700				(延享元年4月朔日～7月7日)	要門之日録	正預(花押)		竪帳	1	外題「夏之日記」
111	1701				(延享元年7月朔日～9月29日)	要門之日録	正預信(花押)		竪帳	1	
112	1702				(延享元年10月朔日～12月29日)	要門之日録	正預信(花押)		竪帳	1	
113	1704				(延享2年正月元旦～6月29日)	要門之日録	正預信名宿祢(花押)		竪帳	1	
114	1703				(延享2年7月朔日～閏12月25日)	要門之日録	正預信名宿祢(花押)		竪帳	1	
115	1705				(延享3年正月朔日～3月22日)	延享三年歳次丙寅正月ヨリ之日記	従五位上権預延武		竪帳	1	
116	1706				(延享3年6月19日～12月晦日)	要門之家録	正預信(花押)		竪帳	1	
117	1708				(延享4年正月朔日～12月29日)	要門之家記	正預信名宿祢(花押)		竪帳	1	内表紙「俗文俗字可憚他見」
118	1709				(延享5年正月元日～9月29日)	要門之日録	正預信(花押)		竪帳	1	内表紙「不可許他見」
119	1710				(寛延元年10月朔日～11月4日)	要門之日録	正預信(花押)		竪帳	1	内表紙「不可許他見」
120	1711				(寛延2年3月15日～10月晦日)	要門之日録	正預信(花押)		竪帳	1	内表紙「乍病床記之不可許他見」
121	1712				(寛延2年霜月朔日～12月晦日)	日録	信(花押)		竪帳	1	「弐冊之内」
122	1713				(寛延3年正月元日～6月29日)	要門之日録	正預信(花押)		竪帳	1	表紙「俗文俗字不可許他見也」
123	1714				(寛延3年7月朔日～12月16日)	要門之日記	正預信(花押)		竪帳	1	表紙「俗文俗字不可許他見也」
124	1966				(寛延3年8月25日～9月6日)	御留守中日録	荷田信(花押)		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
125	1715				(寛延4年正月元日～4月29日)	日録 上			竪帳	1	
126	1967				(寛延4年5月朔日～29日)	日記	権御殿預荷田宿祢信郷		竪帳	1	一紙挿入
127	1716				(寛延4年6月朔日～12月朔日)	要門家記	正預荷田信郷(花押)		竪帳	1	
128	1717				(宝暦2年正月朔日～4月29日)	要門家記 上	正預従五位下信(花押)		竪帳	1	
129	1718				(宝暦2年5月朔日～10月2日)	要門家譜記録 中	正官御殿預摂津守従五位下荷田宿祢信郷(印)		竪帳	1	
130	1719				(宝暦2年10月朔日～臘月晦日)	要門之家記 下之巻	正預荷田信郷記		竪帳	1	「二冊之内下」
131	1720				(宝暦3年正月朔日～6月晦日)	要門之家記	正官信郷		竪帳	1	「四冊之内上」
132	1721				(宝暦3年8月朔日～8月29日)	家記	正預		竪帳	1	「四冊之内中」
133	1722				(宝暦3年9月朔日～10月晦日)	要門之家記	正預信郷		竪帳	1	「四冊之内下」
134	1723				(宝暦3年11月朔日～12月29日)	要門之家記	稲荷社正預摂津守従五位下荷田宿祢信郷		竪帳	1	「四冊之内下之下」
135	1724				(宝暦4年正月朔日～6月29日)	要門之日記	正預信郷		竪帳	1	
136	1725				(宝暦4年7月朔日～12月27日)	日記	正預摂津守従五位下宿祢信郷		竪帳	1	「四年下」
137	1727				(宝暦5年正月朔日～7月29日)	要門之家記	正官御殿預荷田信郷		竪帳	1	
138	1728				(宝暦5年正月朔日～12月11日)	要門之家記	正官御殿預荷田信郷		竪帳	1	
139	1729				(宝暦5年12月12日～12月29日)	家記 下	正預信郷		竪帳	1	
140	1730				(宝暦6年正月朔日～10月29日)	要門之日記	正預荷田信郷		竪帳	1	
141	1731				(宝暦6年11月朔日～12月29日)	要門之日記	正預荷田信郷		竪帳	1	
142	1732				(宝暦7年正月朔日～12月29日)	要門之日録	正官御殿預従五位上行摂津守荷田宿祢信郷誌		竪帳	1	
143	1733				(宝暦8年正月朔日～10月晦日)	要録	正預信郷誌		竪帳	1	
144	1734				(宝暦9年正月朔日～11月30日)	要門之日録	正預信郷誌		竪帳	1	
145	1735				(宝暦9年12月朔日～12月30日)	日記	正預信郷		竪帳	1	
146	1736				(宝暦10年正月朔日～11年正月6日)	要門之日記	正預従五位上荷田信郷		竪帳	1	
147	1737				(宝暦10年12月15日～12月30日)	親父在府中日記	従五位下荷田信邦		竪帳	1	
148	1965	1			(宝暦10年12月15日～宝暦11年正月9日)	東行日記			竪帳	1	三冊合綴
149	1965	2			(宝暦10年12月15日～27日)	東行随筆					
150	1965	3			(明和9年正月27日～3月3日)	東行日譜	信郷誌				
151	1739				(宝暦11年正月朔日～□月7日)	日記	従五位下荷田信邦		竪帳	1	
152	1738				(宝暦11年2月9日～12月晦日)	帰京後日記	正預信(花押)		竪帳	1	
153	1740				(宝暦12年正月朔日～12月晦日)	日記	稲荷正預荷田信郷誌		竪帳	1	
154	1741				(宝暦13年正月朔日～12月30日)	日記	正預信郷誌		竪帳	1	
155	1742				(明和元年正月朔日～閏12月晦日)	日記	稲荷本宮正預荷田信郷		竪帳	1	
156	1747				(明和2年正月朔日～12月29日)	日録	稲荷本宮正預荷田信郷		竪帳	1	
157	716				(明和2年酉年8月9日～9月朔日)	御祈之節日記(親王御祈被仰出候節日記書抜)	正宮御殿預荷田信郷		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
158	1748				(明和3年正月朔日～12月29日)	日譜	稲荷本宮正預荷田信郷(印)		竪帳	1	
159	1749				(明和4年正月朔日～12月29日)	日譜	稲荷本宮正預荷田信郷		竪帳	1	
160	1750				(明和5年正月朔日～12月晦日)	日譜	稲荷本宮正預荷田信郷		竪帳	1	
161	1751				(明和6年正月朔日～12月晦日)	日記	稲荷本宮正預荷田信郷		竪帳	1	
162	1752				(明和6年正月朔日～12月晦日)	日記案	権預信邦		竪帳	1	
163	1754				(明和7年正月朔日～6月21日)	日記	権預信邦		竪帳	1	
164	1753				(明和7年正月朔日～12月晦日)	日譜	稲荷本宮正預荷田信郷		竪帳	1	
165	1755				(明和8年正月朔日～12月晦日)	日譜	稲荷本宮正預荷田信郷		竪帳	1	
166	1757				(明和9年正月27日～4月8日)	日記	権預信邦		竪帳	1	
167	1756				(安永元年正月朔日～12月30日)	日録	稲荷本宮正預荷田信郷		竪帳	1	
168	1744				(安永2年正月朔日～2月24日)	日記	権預信邦		竪帳	1	
169	1743				(安永2年正月朔日～12月晦日)	日記	稲荷本宮正預荷田信郷誌		竪帳	1	
170	1745				(安永3年正月朔日～7月晦日)	日録	稲荷本宮正預荷田信郷誌		竪帳	1	
171	1746				(安永3年8月朔日～12月29日)	日録	稲荷本宮荷田信郷誌		竪帳	1	
172	1758				(安永4年正月朔日～閏12月29日)	日録	本宮正預荷田信郷誌		竪帳	1	
173	1759				(安永5年正月朔日～12月29日)	日録	正預荷田信郷誌		竪帳	1	
174	1760				(安永6年正月朔日～12月29日)	日記	正預荷田信郷誌		竪帳	1	
175	1761				(安永7年正月朔日～12月29日)	日記	正預荷田信郷誌		竪帳	1	
176	1762				(安永8年正月朔日～4月18日)	日録	正預信邦(花押)		竪帳	1	
177	1763				(安永8年6月朔日～安永10年4月6日)	(日記)			横帳	1	10月～12月24日の日記(横帳)あり
178	1764				(安永8年8月8日～9月12日)	日記案	信郷		竪帳	1	
179	1765				(安永9年正月朔日～2月晦日)	日記案	正預信(花押)		竪帳	1	
180	1766				(安永10年正月朔日～2月10日)	日記案	稲荷本宮正預荷田信邦(花押)		竪帳	1	
181	1056	2			(明和～安永頃)(14～16日)	(日記断簡)			竪紙	1	竪帳断簡1枚
182	1767				(天明元年5月朔日～8月朔日)	(日記)			竪帳	1	
183	1768				(天明2年正月朔日～正月晦日)	日記	正預信(花押)		竪帳	1	
184	1769				(天明2年3月朔日～10月23日)	日記			竪帳	1	
185	1770				(天明3年正月朔日～正月18日)	日記案	正預信(花押)		竪帳	1	
186	1772				(天明3年4月20日～25日)	日記			竪帳	1	仮綴
187	1773				(天明3年10月朔日～天明4年4月3日)	(日記)			竪帳	1	
188	1774				(天明4年正月25日～天明6年3月13日)	(日記)			横帳	1	
189	1776				(天明4年12月朔日～天明5年6月16日)	日記案	正預(花押)		竪帳	1	
190	1775				(天明5年正月朔日～2月2日)	日記	正預従四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
191	1780				(天明5年2月8日～天明6年後10月26日)	(日記)			横帳	1	
192	1777				(天明5年9月朔日～天明5年10月22日)	(日記)			竪帳	1	仮綴
193	1778				(天明5年11月朔日～天明6年8月17日)	(日記)			竪帳	1	
194	1779				(天明6年正月朔日～2月24日)	日記案	稲荷本宮正預従四位下行摂津守荷田信邦(花押)		竪紙	1	
195	1781				(天明6年9月朔日～10月3日)	(日記)			竪帳	1	
196	1782				(天明7年正月朔日～2月6日)	日記案	稲荷本宮正預従四位上行摂津守荷田信邦		竪帳	1	
197	1783				(天明7年7月朔日～10月13日)	(日記)			横帳	1	
198	1784				(天明8年正月朔日～正月23日)	日記案	本宮正預従四位下行摂津守荷田宿祢信邦(花押)		竪帳	1	
199	1973				(天明8申年2月晦日～4月8日)	(日記)	信邦		竪帳	1	前後欠、途中記載なし
200	1786				(天明8年4月25日～7月13日)	東行日記	荷田信邦(花押)		竪帳	1	
201	1787				(天明8年4月25日～8月14日)	日記	権預延年		竪帳	1	
202	1785				(天明8年5月10日～7月28日)	在府中日記	正預信邦		竪帳	1	
203	1788				(天明8年文月20日～8月29日)	東道雑記	信邦		横半帳	1	
204	1790				(天明8年10月朔日～寛政元年3月10日)	(日記)			横帳	1	仮綴、紙背に書状あり
205	1789				(天明8年)	東行雑記	信邦		横半帳	1	
206	1791				(天明9年正月朔日～24日)	日記案	稲荷本宮従四位上行摂津守荷田宿祢信邦(花押)		竪帳	1	
207	1793				(寛政元年6月朔日～12日)	日記	本宮正官従四位上行摂津守荷田宿祢信邦(花押)		竪帳	1	
208	1792				(寛政元年6月朔日～12月3日)	(日記)			横帳	1	紙背に「安鎮授与之名譜」他あり
209	1794				(寛政2年2月24日～4月26日)	日記仮書			横帳	1	仮綴、紙背に書状あり
210	1795				(寛政2年6月朔日～6月13日)	(日記)			横帳	1	仮綴
211	1797				(寛政3年3月朔日～15日)	(日記)			横帳	1	仮綴
212	1796				(寛政3年6月朔日～5日)	日記案	本宮正官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦(花押)		竪帳	1	
213	1798				(寛政3年10月朔日～12月15日)	(日記)			横帳	1	仮綴
214	1600				(寛政4年正月2日～28日)	(日記)	羽倉摂津守		横帳	1	仮綴
215	1799				(寛政4年3月朔日～10月30日)	日記案 上	本宮正官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	
216	1800				(寛政4年11月朔日～11月11日)	日記 下	本宮正官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	
217	2004				(寛政4子年12月朔日～5日)	(日記覚)			横帳	1	仮綴
218	1801				(寛政5年6月1日～29日)	(日記)			竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
219	1802				(寛政5年8月朔日～12月21日)	日記 下	本宮正預		竪帳	1	
220	1803				(寛政6年5月10日～6月22日)	(日記)			竪帳	1	
221	1804				(寛政6年8月24日～11月28日)	日記	正四位下摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	
222	1805				(寛政6年後11月朔日～12月29日)	日記	正四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	
223	1806				(寛政7年正月元日～6月30日)	日記 上	本宮正官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	
224	1807				(寛政7年7月朔日～8月29日)	日記 下	本宮正官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	
225	1983				(寛政7年9月21～26日)	(日記)			竪帳	1	紐なし
226	1808				(寛政8年正月朔日～3月4日)	日記	稲荷本宮正預(花押)		竪帳	1	
227	1809				(寛政8年正月元日～5月10日)	日記	権御殿預従五位下行石見守荷田延年		竪帳	1	
228	1853				(寛政8年正月元日～文化4年12月29日)	(日記)	信邦		横帳	1	
229	1810				(寛政8年6月24日～9月3日)	(日記)			横帳	1	
230	1811				(寛政9年5月朔日～後7月29日)	日記案 上	本宮正預信邦		竪帳	1	
231	1812				(寛政9年8月朔日～8月20日)	日記案 下	正預信邦		竪帳	1	
232	1815				(寛政10年正月元日～12月30日)	日記	権御殿預従五位上行石見守荷田延年		竪帳	1	
233	1816				(寛政11年正月元日～10月2日)	日記	権御殿預正五位下行石見守荷田延年		竪帳	1	
234	1814				(寛政11年10月3日～12月30日)	日記	稲荷本宮正預信邦		竪帳	1	
235	1817				(寛政12年正月朔日～4月14日)	日記 上	稲荷本宮正預信邦		竪帳	1	
236	1818				(寛政12年4月15日～7月30日)	日記 中	本宮正官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	
237	1819				(寛政12年8月朔日～12月29日)	日記 下	稲荷本宮正預		竪帳	1	
238	1820				(寛政13年正月朔日～享和元年10月14日)	日記 上	稲荷本宮正預		竪帳	1	
239	1822				(寛政13年正月元日～享和元年12月晦日)	日記	竈家今村数馬正敦		竪帳	1	
240	1974				(天明～寛政頃)	(日記)			竪帳	1	日付は順不同、前欠
241	1823				(享和元年10月15日～12月30日)	日記 下	正預		竪帳	1	
242	1824				(享和2年正月朔日～5月2日)	日記 上	本宮正官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	紙片あり
243	1825				(享和2年正月朔日～9月30日)	日記案 中	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
244	1826				(享和2年10月朔日～12月29日)	日記 下	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	日記抜書の紙片あり
245	1827				(享和3年正月朔日～5月30日)	日記 上	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
246	1828				(享和3年6月朔日～10月30日)	日記 中	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
247	1829				(享和3年11月朔日～12月29日)	日記 下	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
248	1830				(文化元年正月朔日～6月30日)	日記 上	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
249	1831				(文化元年3月朔日～)	(日記)			綴	1	横帳を開き裏を見せて綴じる、乱丁あるか、

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
250	1834	1			(文化元年7月朔日～9月29日)	日記 中	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	「下ノ上」抹消
251	1835	1			(文化元年10月朔日～12月30日)	日記 下	正預荷田信邦		竪帳	1	下の下部に「ノ下」が抹消
252	1834	2			(文化子年10月8日～11月15日)	(日記)			横帳	1	仮綴、文化元年か、紙背に書状あり
253	1835	2			(文化2年正月朔日～12月30日)	日記	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
254	1838				(文化2年正月4日～6月15日)	(日記)			竪帳	1	後欠
255	1839				(文化2年2月14日～30日)	日記案			竪帳	1	仮綴、綴紐破損
256	1840				(文化2年4月朔日～30日)	日記案			竪帳	1	仮綴
257	1986				(文化2年6月3日)	(日記)			竪帳	1	錯簡か
258	1975				(文化2年6月5日～7月28日)	(日記)			竪帳	1	前後欠
259	1836				(文化2年8月朔日～11月30日)	日記 中	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
260	1841				(文化2年9月28日～10月30日)	(日記)			竪帳	1	
261	1837				(文化2年12月朔日～24日)	日記 下	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
262	1843				(文化2年12月24日～文化3年正月16日)	(日記)	(信邦)		竪帳	1	
263	1842				(文化2年12月24日～文化3年7月9日)	(日記)			竪帳	1	仮綴
264	1844				(文化3年正月元日～文化5年2月)	信邦宿祢日記	信邦宿祢		竪帳	1	一両年入交
265	1845				(文化3年正月10日～5月1日)	(日記)			竪帳	1	仮綴
266	1846				(文化3年4月朔日～7月27日)	日記	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
267	1847				(文化3年8月朔日～10月29日)	日記	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
268	1848				(文化3年11月朔日～24日)	日記 下	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
269	1849				(文化4年正月朔日～12月27日)	日記 上	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
270	1850				(文化4年2月2日～5月20日)	日記案	信寿		竪帳	1	
271	1851				(文化4年6月7日～29日)	日記案仮帳			竪帳	1	
272	1852				(文化4年7月21日～11月30日)	日記仮帳	(花押)		竪帳	1	
273	341				(文化5年戊辰正月元日～2月16日)	日記	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	裏表紙「竈家」
274	1854				(文化5年3月朔日～4月30日)	(日記)			竪帳	1	
275	342				(文化5年4月朔日～5月6日)	(日記)			竪帳	1	裏表紙「竈家用」
276	1855				(文化5年6月朔日～11月30日)	日記案	稲荷本宮正預荷田信邦		竪帳	1	
277	1856				(文化5年12月朔日～27日)	日記 下	荷田信邦		竪帳	1	
278	1857				(文化6年2月1日～12月29日)	日記	御殿預家		竪帳	1	
279	1858				(文化10年正月元日～8月18日)	につき(日記)	竈家		竪帳	1	
280	1859				(文化11年正月21～27日)	日記	竈家		竪帳	1	
281	1860				(文化11年9月26～12月30日)	日記	正五位下荷田信興		竪帳	1	
282	1861				(文化12年正月1日～12月30日)	日記	氏人正五位下行下野守荷田信興		竪帳	1	
283	1862				(文化13年後8月4日～11月30日)	日記			竪帳	1	
284	1863				(文化14年正月元日～4月26日)	日記 上	本宮御殿預信純		竪帳	1	
285	343				(文化14年4月27日～5月28日)	(日記)			竪帳	1	封筒上書「天保十一子年信純宿祢日記草稿通計三冊」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
286	344				(文化15年戊寅正月元日～7月30日)	日記 上	御殿預(印)正預荷田信邦		竪帳	1	
287	1968				(文化頃)	(日記断簡)			竪紙	5	錯簡
288	1864				(文政2年正月元日～10月24日)	日記 上	従五位上行摂津守荷田信純		竪帳	1	
289	1865				(文政2年10月25日～12月29日)	日記	従五位上摂津守		竪帳	1	
290	1866				(文政3年正月朔日～6月17日)	日記 上	従五位上摂津守		竪帳	1	
291	1867				(文政3年6月18日～7月23日)	日記 下	摂津守荷田信純		竪帳	1	
292	1868				(文政4年正月元日～3月11日)	日記 乾	正官御殿預荷田信純(花押)		竪帳	1	
293	1869				(文政4年3月11日～10月11日)	日記 坤	正官御殿預荷田信純		竪帳	1	
294	1870				(文政5年正月朔日～5月29日)	日記 上	正預荷田信純		竪帳	1	
295	1871				(文政5年6月朔日～8月朔日)	日記 中	正五位下荷田信純		竪帳	1	
296	1872				(文政8年正月元日～12月27日)	日記	本宮正官正五位下行摂津守荷田信純		竪帳	1	
297	1873				(文政9年正月元日～12月29日)	日記	本宮御殿預正五位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
298	1874				(文政10年正月元日～12月29日)	日記	正官正五位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
299	1875				(文政11年正月元日～12月29日)	日記	正官従四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
300	1876				(文政12年正月元日～12月29日)	日記	正官御殿預従四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
301	1877				(文政13年正月元日～7月10日)	日記 甲	正官御殿預従四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
302	1878				(文政13年7月11日～天保元年12月晦日)	日記 乙	正官御殿預従四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
303	1879				(天保2年正月元日～7月18日)	日記 甲	正官御殿預従四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
304	1880				(天保2年7月18日～12月晦日)	日記 乙	正官御殿預従四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
305	1881				(天保2年正月元日～12月晦日)	日記	本宮正官御殿預従四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
306	1882				(天保4年正月元日～8月28日)	日記 坤	本宮正官従四位下摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
307	1883				(天保4年8月29日～12月30日)	日記 乾	本宮御殿預従四位下摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
308	1884				(天保5年正月元日～6月29日)	日記 乾	本宮御殿預従四位上摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
309	1885				(天保5年7月朔日～12月29日)	日記 坤	本宮正官従四位上摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	裏表紙「正預」
310	1886				(天保6年正月元日～7月29日)	日記 上	正官御殿預従四位上行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	切紙あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
311	1887				(天保6年後7月朔日～12月30日)	日記 下	正官御殿預従四位上行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
312	1888				(天保7年正月元日～7月晦日)	日記 甲	正官御殿預従四位上行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
313	1889				(天保7年8月朔日～12月29日)	日記 乙	正官御殿預従四位上行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
314	1890				(天保8年正月元日～7月晦日)	日記 甲	正官御殿預従四位上摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
315	1891				(天保8年8月朔日～12月晦日)	日記 乙	正官御殿預従四位上摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
316	1892				(天保9年正月元日～4月29日)	日記 甲	正官御殿預従四位上行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
317	1893				(天保9年5月朔日～12月晦日)	日記 乙	正預正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
318	1894	1			(天保9年6月朔日～9月晦日)	(東行雑記甲、乙)	信純		竪帳	1	甲乙二冊合綴
319	1894	2			(天保9戊年)	東行諸入用勘定帳	信純		横帳	1	
320	1895				(天保10年正月元日～3月15日)	日記	正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	「初巻」(朱書)
321	1896				(天保10年3月16日～3月29日)	日記 上	信純		竪帳	1	「上巻一」(朱書)
322	1897				(天保10年4月朔日～4月20日)	(日記)			竪帳	1	仮綴、「二」(朱書)
323	1898				(天保10年4月20日～7月7日)	(日記)			竪帳	1	仮綴
324	1899				(天保10年7月8日～8月22日)	(日記)			竪帳	1	仮綴、「四」(朱書)
325	345	1			(天保11年霜月～12月)	日記	正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	345-1～3まで包紙一括、包紙上書「天保十二丑年信純宿祢日記草稿通計三冊」
326	345	2			(天保11年正月～7月29日)	(日記)			竪帳	1	表紙「五」
327	345	3			(天保11子年8月朔日～霜月16日)	日記	正四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	表紙「六」
328	1900				(天保12年正月元日～3月27日)	上(日記)			竪帳	1	仮綴、末尾に「甲」
329	347				(天保12丑年3月27日～9月9日)	(日記)			竪帳	1	
330	346	1			(天保12丑年8月23日～10月22日)	(日記)			竪帳	1	表紙「七」、346-1～4まで包紙一括、包紙上書「天保十二丑年信純宿祢草稿通計四計四冊
331	346	2			(天保12丑年10月22日～12月4日)	(日記)			竪帳	1	
332	346	3			(天保12丑年12月4日～12月29日)	(日記)			竪帳	1	
333	346	4			(24日～26日)	(日記)			竪帳	1	
334	1901				(天保12年9月10日～11月18日)	日記 次	信純		竪帳	1	表紙に「乙」
335	1902				(天保12年11月18日～29日)	(日記)			竪帳	1	仮綴
336	1903				(天保13年正月朔日～4月29日)	日記 甲	御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
337	1904				(天保13年7月朔日～12月29日)	日記 乙	御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
338	1906				(天保14年正月元日～6月29日)	日記 甲	正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
339	1907				(天保14年7月朔日～10月4日)	日記 乙	信純		竪帳	1	
340	1908				(天保15年正月元日～6月29日)	日記 甲上	御殿預正四位下摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
341	1909				(天保15年7月朔日～12月10日)	日記 乙中	御殿預正四位下摂津守行荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
342	1910				(天保15年12月11日～12月29日)	日記 乙下	正預正四位下行摂津守行荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
343	1912				(弘化2年正月～4月4日)	日記 甲	御殿預正四位下摂津守行荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
344	1913				(弘化2年4月5日～12月28日)	日記 乙	正預正四位下行摂津守行荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
345	1914				(弘化3年正月元日～閏5月29日)	日記 甲	正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
346	1915				(弘化3年6月朔日～12月29日)	日記 乙	正預正四位下行摂津守行荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
347	1916				(弘化4年正月元日～30日)	日記	正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
348	1971				(嘉永元年カ)(11～28日)	(日記断簡)			竪紙	3	
349	1917				(嘉永2年正月元日～3月6日)	日記	正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
350	1918				(嘉永3年9月朔日～12月晦日)	日記	正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
351	1919				(嘉永4年正月元日～12月29日)	日記	本宮正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
352	1920	1			(嘉永5年正月元日～6月29日)	日記 乾	本宮正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
353	1920	2			(嘉永5年7月朔日～12月29日)	日記 坤	本宮正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪帳	1	
354	1921				(嘉永6年正月元日～2月17日)	日記	正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	嘉永七年八月「宗門人別改帳」合綴
355	1922				(嘉永6年7月朔日～12月27日)	日記 乙	本宮正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
356	1923				(嘉永7年正月元日～7月28日)	日記	正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
357	1925				(安政2年5月朔日～9月26日)	日記 乙	正官御殿預正四位下行摂津守荷田宿祢信純(花押)		竪帳	1	
358	1926				(安政5年3月9日～3月12日)	日記	従五位上行石見守荷田宿祢信(花押)		竪帳	1	
359	1927				(安政6年7月3日～7月10日)	雑記案	荷田信平従五位上石見守留		竪帳	1	10日条は「安政限空院」と題されている
360	1928				(安政6年7月20日～12月大晦日)	正預家 雑記仮書	氏人従五位上石見守荷田宿祢信平(花押)		竪帳	1	差紙あり
361	1979				(近世)(閏11月朔日～5日)	(日記)			竪紙	1	断簡、信純の名あり
362	1929				(万延元年後3月11日～12月30日)	日記	正官御殿預荷田信義、信功		竪帳	1	十一月大鳥居拝役一件
363	1930				(万延2年正月元日～文久元年12月30日)	日記	正預		竪帳	1	
364	348				(文久2壬戌正月～12月)	日記	正預		竪帳	1	
365	349				(文久3亥年正月元日～12月30日)	日記	正預		竪帳	1	
366	350				(文久4甲子年正月～元治元年2月20日)	日記	正預		竪帳	1	
367	1924				(元治元年8月朔日～12月30日)	日記	御殿預		竪帳	1	
368	382				(元治2年乙丑正月1日～12月29日)	日記	正預		竪帳	1	
369	383				(慶応2丙寅年正月元日～12月30日)	日記	正預		竪帳	1	
370	1931				(慶応3年正月元日～12月30日)	日記	正預		竪帳	1	
371	1932				(慶応4年正月元日～明治元年12月29日)	日記	正預		竪帳	1	挿入紙あり
372	1984				(近世)(辰2月20日～22日)	(日記)			竪帳	1	
373	1972				(近世)(正月朔日～3月4日)	(日記)			竪帳	1	
374	1976				(近世)(6月7日～8月25日)	(日記)			竪帳	1	前欠
375	1978				(近世)(8月朔日～2日)	(日記)			折紙	1	
376	1020	6			(近世)(9月朔日)	(日記断簡)			竪紙	1	竪帳断簡
377	1977				(近世)(10月朔日～29日)	(日記)			竪帳	1	前後欠
378	1981				(近世)(11月朔日～30日)	(日記)			竪帳	1	仮綴
379	1982				(近世)(11月)	(日記)			竪帳	1	仮綴
380	1414				(近世)(2～28日)	(日記断簡)			竪帳	1	仮綴
381	1158				(近世)(10日)	(日記断簡)			竪紙	1	竪帳断簡1枚
382	1413				(近世)(28～30日)	(日記断簡)			竪帳	1	仮綴
383	898				(近世)	(古日記抜粋)			竪帳	1	
384	1980				(近世)	(日記断簡)			断簡	1	
385	1985				(近世)	(日記断簡)			竪紙	4	
386	1020	5			(近世)	(日記断簡)			竪紙	1	竪帳断簡
387	3534	18			(近世)	社門之記并家格之記(断簡)			竪帳	1	
388	3534	20			(近世)	(酒造制限ニ付触書写他日記断簡)			竪帳	1	
389	1933				(明治2年正月元日～12月30日)	日記	正預		竪帳	1	
390	386				明治3辛午年正月	雑記 案	従四位下荷田信義		竪帳	1	
391	384				(明治3年庚午正月元旦～6月29	日記	正預		竪帳	1	
392	385				(明治3年庚午7月1日～12月29日)	日記下	正預		竪帳	1	
393	1934				(明治4年正月元日～12月28日)	日記	正預		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
394	1935				(明治4年正月元日～5月21日)	日記	従五位御殿預荷田信義		竪帳	1	
395	1936				(明治5年正月元日～3月9日)	日記	荷田信義		竪帳	1	
396	1937				(明治5年正月元日～9月18日)	日記	正預信義		竪帳	1	二冊合綴
397	1938				(明治7年4月6日～明治8年5月25日)	在勤中日記並ニ東京在留中日記簿	志波彦神社主典兼訓導羽倉信義		竪帳	1	一部青色罫紙使用
398	1939				(明治8年5月25日～明治9年12月31日)	日記	教導職訓導信義(花押)		竪帳	1	表紙「荷田信義」
399	1940				(明治10年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	
400	1941				(明治11年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	青色罫紙使用
401	1942				(明治12年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	青色罫紙使用
402	1943				(明治13年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	青色罫紙使用
403	1944				(明治14年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
404	2171				(明治15年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
405	1945				(明治16年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
406	1946				(明治17年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
407	1947				(明治18年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
408	2172				(明治19年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
409	2173				(明治20年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
410	2174				(明治21年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
411	2175				(明治22年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
412	2177				(明治22年5月17日～明治24年12月31日)	東丸神社創立ニ付日誌	東丸神社受持神官荷田信義		竪帳	1	青色罫紙使用
413	2176				(明治23年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
414	1949				(明治24年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
415	1950				(明治25年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用、手紙を挿入
416	1951				(明治26年1月1日～12月31日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	青色罫紙使用
417	1952				(明治27年1月1日～12月29日)	日記	羽倉荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
418	1953				(明治28年1月1日～12月29日)	日記	荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用、名刺を挿入
419	1954				(明治29年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
420	2178				(明治30年1月1日～12月31日)	日記	羽倉信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
421	1955				(明治31年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
422	2179				(明治32年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
423	1956				(明治33年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
424	1957				(明治34年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
425	1958				(明治35年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用
426	1959				(明治36年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
427	1960				(明治37年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
428	2180				(明治38年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
429	1961				(明治39年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
430	1962				(明治40年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
431	1963				(明治41年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
432	1964				(明治42年1月1日～12月31日)	日記	荷田信義		竪帳	1	赤色罫紙使用
433	1290				(明治43年1月1日～12月31日)	紀元弐千五百七拾年 明治四拾参年庚戌壱月日記	荷田信義		竪帳	1	桃色罫紙使用、京都帝国大学文化大学長松本三郎よりの所蔵遺稿閲覧願あり
434	1291				(明治44年1月1日～12月28日)	日記	荷田信義		竪帳	1	桃・青色罫紙使用、大葬儀関係新聞切抜あり
435	1292				(明治45年1月1日～大正元年12月23日)	日記	荷田信義(花押)		竪帳	1	桃色罫紙使用
436	1293				(大正2年1月1日～12月29日)	日記	荷田信義(花押)		竪帳	1	桃色罫紙使用
437	1294				(大正3年1月1日～12月25日)	日記	荷田信義(花押)		竪帳	1	桃色罫紙使用
438	1295				(大正4年1月1日～12月29日)	日記	荷田信義(花押)		竪帳	1	桃色罫紙使用
439	1296				(大正5年1月1日～12月11日)	日記	荷田信義(花押)		竪帳	1	桃色罫紙使用
440	1297				(大正6年1月1日～1月23日)	日記	荷田信義(花押)		竪帳	1	桃色罫紙使用
441	1298				(大正6年1月1日～1月23日)	日記	府社東丸神社社司荷田		竪帳	1	青色罫紙使用、金受領書あり
442	1987				(近世)	信邦君記 草			横帳	1	表紙「年号不分」
443	2885				明治7年3月15日	道中記(東京より日光道中記)	羽倉荷田信義		横半帳	1	
444	1355				明治2巳年8月	万治以来家記控	稲山竈家執事		横半帳	1	
445	931				(安政6年7月以降)	羽倉家家記書物歌書詠草切紙惣目録(家記目録)			竪帳	1	

C社家・社務

C—1 神事

C－1－1 縁起・社伝

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1423				元禄7季冬在甲戌	水台記 秘巻	稲荷社司秦忌寸公政		竪帳	1	
2	2942				元禄11年寅6月24日	口上之覚(稲荷社神宝并山内旧跡)	稲荷一社中		継紙	1	奥に荷田信友の奥書あり、包紙に「春満代筆」
3	2139				享保9甲辰年卯月	(稲荷社祭神書上)	従四位上社務秦親夏	正祢宜公広丈	続紙	1	
4	727				享保17年7月	山城国紀伊郡稲荷社記(神社明細記)	正官御殿預羽倉摂津守		竪帳	1	
5	2922				享保17壬子年中秋	稲荷谷響記上下	稲荷上社祢宜従五位上行相模守秦親盛(印)		竪帳	1	奥書「無寸暇以他筆今書之、重而可清書者也」
6	772				元文二巳年三月	証明之別記(稲荷関係古記録抜粋)	京稲荷社司惣代羽倉摂津守他1名	京都町奉行所	竪帳	1	一條禅閤兼良公記、長秋記等
7	2747				宝暦14年甲申春2月	稲荷社年中行事祓川家本(写)	正預荷田信郷(印)(花押)		竪帳	1	享保十一丙午歳四月十六日上社祝従五位下秦親茂が作成したものの写
8	814				天明4年2月11日	稲魂感応文	襲山島直彦		竪帳	1	外題「稲荷感応文」、表紙に「稲荷山竈」印、一丁目に「青楓館」印あり
9	369				寛政元年5月	稲荷社旧儀考證記	正祢宜正四位下秦宿祢親業(花押)		竪帳	1	明治35年付、稲荷山についての返答書あり
10	921				壬子(寛政4年)12月	稲荷山内古来作法書	信邦		竪帳	1	貼り込みあり、表紙「正預控」
11	1003				享和3年3月	(稲荷神社守護神のこと等お尋ねにつき答申)	稲荷神主秦親臣		横半帳	1	表紙「可秘」、奥朱書「于時文政四季冬十一月従四位下秦公枸(花押)」
12	833				享和3年亥8月	就御尋口上書(菊之紋所寄付の由来)	六人連印	御奉行所	竪帳	1	表紙「案」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
13	831				享和3亥年9月4日	就御尋口上書(菊の紋所寄付の由来)	六人連印	御奉行所	竪帳	1	表紙「正預控」
14	2140				文化2年	(稲荷祭由緒略記)	中社祝従四位上秦宿祢公麻		横帳	1	仮綴
15	1382				文政6年9月16日夜	谷響記	正四位下秦公枸(花押)		竪帳	1	享保17年8月に秦親盛が著わしたものに注釈等を付した
16	1395				嘉永2年3月10日	稲荷社神社考附釈	六人部是香		竪帳	1	近代写か
17	1337				明治元年辰12月	就御改正注進書(山城国社寺録改正につき注進書)	稲荷社目代羽倉伯耆守他4名	京都府御役所	竪帳	1	表紙「山城国紀伊郡稲荷社」
18	2121				6月16日	(藤尾社由緒ニ付回答)	親盛	藤野井遠州公	折紙	1	
19	145				(近世)	雑記(雑記①、雑記②、諸社部)			竪帳	1	合綴
20	190				(近世)	(伊奈利社記、三箇峯三座秘説、五座御事、田中殿忌鳥事他)			竪帳	1	
21	378				(近世)	家傳稿			竪帳	1	裏表紙「神拝家式」
22	461				(近世)	(神社書上)			竪帳	1	畿内中心、伊勢他
23	776				(近世)	(京都稲荷本山唯一社法格式之略記等留書)			横帳	1	享保頃か
24	783				(近世)	当社神霊勧請所々鎮祭起元之事			竪帳	1	コクヨ原稿用紙を挿入
25	832				(近世)	就御尋口上書(神社由緒書)	稲荷社惣代羽倉摂津守印	御奉行所	竪帳	1	表紙「稲荷社」
26	1047				(近世)	稲荷社本縁鎮座奥秘家伝之記			竪帳	1	
27	1179				(近世)	(儀式次第断簡)			竪紙	1	竪帳の断簡1枚
28	1187				(近世)	巳三月依御尋差上候書付(稲荷社鎮座記)			竪帳	1	表紙「弐」
29	1550				(近世)	社号之伝			切紙	1	断簡
30	1571				(近世)	稲荷社奥秘口伝			竪紙	1	後欠か
31	1605	5			(近世)	当社惣末社(末社一覧)			竪紙	1	五通こより一括の内、後欠
32	1656				(近世)	稲荷社雑事記(古記録抜書)			竪帳	1	
33	2037				(近世)	始祖社略伝の記	始祖霊神四拾五世之嫡流大西家正四位下秦親篤謹誌(印)		竪紙	1	
34	2074				(近世)	(稲荷社由緒神事等古記録書抜)			竪綴	1	
35	2120				(近世)	稲荷社鎮座略記			竪紙	1	
36	2559				(近世)	田中社由来記			竪帳	1	
37	2944				(近世)	稲荷社奥秘口伝(本社相殿五座・当社惣末社等書上ニ付口伝書)			続紙	1	
38	3113	14			(近世)	稲荷大明神縁起			続紙	1	後欠
39	3291				(近世)	(城州久世郡久里古山之神宮ニ付覚書)			竪紙	1	後欠
40	3337				(近世)	(稲荷社由緒書断簡)			切紙	1	後欠
41	3339				(近世)	稲荷社本縁鎮座奥秘家伝之記			竪帳	1	

C－1－2　祭式・秘儀

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3113	15			(承応2年～寛文13年)	(斉夜神供目代家旧例大略抜書)			続紙	1	
2	2723	8			明暦2丙申年卯月	稲荷社御祈祷之事(征夷大将軍疱瘡祈祷平癒祈祷ニ付)	社中		竪紙	1	こよりあり
3	182				寛文2年9月	靈印　全	稲荷御殿預従五位上荷田宿祢信詮		竪帳	1	写
4	3250	11			寛文5年6月朔日	(将軍家武運長久他祈祷請状)	社中上		竪紙	1	
5	2702	1			(寛文7年)霜月10日	(忌中のため物仕に出座出来ざるニ書状)	御殿預信詮	社務公慶公	竪紙	1	2702-1～12が入っていた包紙・こよりあり
6	2702	6			(寛文頃)正月12日	(御膳請取、六丸殿に仰せ付けられ献上ニ付書状)	毛三河(花押)	羽主膳正	切紙	1	
7	2702	4			(寛文頃)正月20日	(神供調進のため六丸殿へ御手長願ニ付書状)	対馬(花押)	主膳正様	切紙	1	
8	2702	7			(寛文頃)正月20日	(廿五日の夕供調進などニ付書状)	毛三河介(花押)	羽主膳正様	横切紙	1	
9	2702	12			(寛文頃)正月23日	(簾外之御供献上成され下さるべきニ付書状)	松本大膳(花押)	竈主膳正様	切紙	1	
10	2702	2			(寛文頃)正月28日	(上使参内のため廿五日の朝調進願ニ付書状)	毛三河(花押)	羽主膳様	竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
11	2702	9			(寛文頃)2月1日	口上(御見舞の御人下さるなどニ付口上)	親栄	羽主膳正様	切紙	1	
12	2702	5			(寛文頃)2月13日	(外陣御供調進献上ニ付書状)	橋本右門(花押)	羽倉主膳様	切紙	1	
13	2702	3			(寛文頃)2月26日	(後刻御餅差上などニ付書	毛三河(花押)	羽主膳様	切紙	1	
14	2702	11			(寛文頃)3月12日	口上之覚(外陣ノ神供調進申したきニ付口上之覚)	親国	信詮様	切紙	1	
15	2702	8			(寛文頃)7月14日	(明日外陣御供調進の儀、六丸殿へ仰せ付けらるニ付書状)	右門(花押)	羽主膳様	横切紙	1	
16	2702	10			(寛文頃)15日	(延引の外陣御供調進執行の時期などニ付書状)	(花押)右門	羽倉主膳様	横切紙	1	
17	1997				寛文9酉年正月	(御神楽代銀取扱ニ付連判一札)	神楽元松木(ママ)大膳為起(花押)他5名		続紙	1	
18	2119				寛文10年4月16日	誓紙之事(御当家代々神秘之古伝伝授ニ付誓紙)	藤森社神主民部春原時命(花押)	稲荷社務大西伊豆殿	竪紙	1	包紙入り、包紙上書「御請状之留」
19	803				(元禄7戌年)閏5月	稲荷社御道具目録	社務松本信濃高広(印)他4名		竪帳	1	江戸入用費受取等あり
20	799				(元禄7戌年)閏5月	稲荷社御道具目録	社務松本信濃他4名		竪帳	1	
21	800				元禄7年閏5月	稲荷社御神宝目録	行事官印判	稲荷御社社家御中	竪帳	1	稲荷社御神服目録綴込
22	2722	1			元禄7年戌6月26日	本殿釿初 同社司行列(図)			続紙	1	2722-1～2はこよりで一括
23	2722	2			元禄7年6月26日	(本殿釿初ニ付殿上着座次第・進上物等覚書)			続紙	1	前欠
24	3019				元禄7年7月29日	(吉田家祓伝授覚書)	(花押)		折紙	1	
25	1617				元禄7年戌11月	覚(稲荷社年中行事并神供等掟書)	小出淡路守在判		続紙	1	
26	2103				元禄7年戌11月	覚(稲荷社年中行事并神供等掟書)	小出淡路守御判		続紙	1	包紙「元禄七稲荷社御修理之節条目」、兵部宛封紙を包紙に転用
27	3329	2			元禄7年戌11月吉日	稲荷社御祈祷之巻数 中臣祓一万座(将軍家武運長久等祈祷請状)			竪紙	1	包紙あり
28	813				元禄11年卯正月13日	武射神供調進之覚			竪帳	1	表紙「竈」
29	731				元禄16癸未年12月	従 公儀今度一七箇日御祈祷被仰付候用脚微細帳	社務橋本将監公健(花押)(印)他4名		竪帳	1	黒カビあり
30	3333				正徳2壬辰年正月吉日	山城国紀伊郡稲荷社永代月次己午卯日毎之神供再興之記	神供再興講中祈祷所従五位上荷田宿祢信元他1名		竪紙	1	
31	953				正徳2壬辰年9月(16)日	(永代の日供、再興の記)	正官御殿預正五位下荷田宿祢信友他1名		竪紙	1	裏打あり、3枚に分離
32	1552				(正徳5年～寛政2年)	(稲荷社祭礼延引記録)			横帳	1	仮綴
33	2736	7	1		享保9年正月18日	御触(御祈祷始ニ付触状留)	月番信名	羽倉筑前殿他9名	続紙	1	包紙上書「稲荷社務殿 伯家雑掌」、端裏・こよりあり
34	3325				享保12歳次丁未初夏	神拝之次第	稲荷正預正五位下河内守荷田宿祢信(花押)	(稲垣氏)	折紙	1	包紙あり、差出は信名
35	2736	7	3		享保13年戊申正月	(御祈祷始ニ付触状留)	月番御殿預	下社神主殿他14名	折紙	1	端裏あり
36	2736	7	2		享保15戌年正月20日	(御祈祷始ニ付触状留)	月番御殿預	下社神主殿他13名	折続紙	1	
37	371				元文3年戊午4月25日	稲荷社奥秘之口訣	下社祢宜正五位下秦親盛		竪帳	1	
38	2059				延享元年子10月	誓約之事(清祓伝授ニ付誓約書)	松本甲斐守(花押)	大西三位殿	続紙	1	寛政2年6月朔日、嘉永2年3月12日の誓約を奥に貼付、包紙あり
39	2737	5			(延享2丑年)正月20日	(御祈祷始ニ付触状)	月番御殿預	下社神主殿他13名	折紙	1	端裏「正月廿日延享弐丑年御祈祷始廿一也触状廻ス」
40	2060				寛延2年巳2月9日	(清祓・地鎮祭伝授ニ付誓約)	氏人松本駿河守秦為雄(花押)他1名	大西相模守殿	竪紙	1	包紙「上 為雄公英連署」
41	3113	2			(寛延2年)	奉幣式(次第書)			折紙	1	包紙上書「奉幣本社務親夏ヨリ伝授」、挿入紙あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
42	2061				宝暦3年酉2月	誓約之事(奥秘伝授ニ付誓約)	安田安芸守親教(花押)	大西相模守殿	続紙	1	文化5年正月2日、文政6年正月、弘化2年6月11日、嘉永7年3月の誓詞を奥に書き継ぐ、包紙「誓詞 親教・親宙・親睦・永親」
43	2112				宝暦8年寅2月	口上之覚(神供土器之土拝領ニ付願)	尾崎帯刀印	御月番羽倉出羽守様	竪紙	1	端裏書「宝暦八年二月神人尾崎帯刀神供土器之土拝領之願書之写 中神主親盛」
44	2062				宝暦13年未3月12日	誓約(勅裁奉幣式伝授ニ付誓約)	上社祝為(花押)他5名	下社神主殿	続紙	1	包紙「誓詞 直親・為勝・公林・親元・公満・為兼連署」
45	2737	3			(明和4年)亥6月(9日)	(伏見宮様御斎服拝領願書)	稲荷社御殿正預信郷		折紙	1	奥書「右明和四年亥六月九日九条左府公へ差出諸大夫並大蔵権少輔へ差出之」
46	2737	10			(明和5年)11月11日	(御帖紙遣わせれるニ付沙汰状)	牧甲斐守	羽倉摂津守様	折紙	1	包紙上書「明和五年子十一月官幣使之節鷹司右大臣輔平公御帖拝領之書状」
47	1107				(安永2年巳11月～安永3年午4月2日)	稲荷社祭礼供奉再興御願方之次第覚書	稲荷社家五人連印	御奉行所	竪帳	1	
48	798				安永3年3月17日	稲荷社神幸祭礼記(行列表)			横帳	1	
49	2042				安永3年4月	(祭礼復興ニ付神事講頭人へ感謝之旨書付)	稲荷祠官摂津守信郷(花押)他3名	速水箕凪翁	竪紙	1	端裏「神事講頭人新町五条上ル町速水彦三郎へ遣控」
50	601	13			(安永4年)	祭礼供奉御再興御教書之写(祭礼執行 伯家御教書・綸旨・祭礼図・祭礼道具図写)			巻物	1	行列の絵・大江資衡唐鞍図記他あり
51	2063				安永8亥年10月24日	盟諾之証紙(口受十五か条伝授ニ付誓約及び諸行事誓詞)	上社祝秦為房(花押)	上社神主殿	続紙	1	包紙「盟諾之証紙 上社祝秦為房」天明7年7月6日まで書き継ぐ
52	2066				天明2年6月21日	盟約之事(神主家伝来神事行事伝授ニ付誓約)	新権祢宜秦親業(花押)	竹林亭神主殿	続紙	1	奥に文化9年9月9日、文久3年正月12日の誓約を書き継ぐ、包紙「庶流家ヨリ取置一紙」
53	2065				天明2壬寅年6月22日	盟約之事(神事行事伝授ニ付誓約)	新権祝秦公府(花押)	竹林亭中神主殿	続紙	1	奥に嘉永元年6月29日までの誓約を書き継ぐ
54	2064				天明2年6月22日	盟約之事(神事行事伝授ニ付誓約)	新権祢宜為熙(花押)	大西神主殿	続紙	1	奥に文政3年3月27日までの誓約を書き継ぐ
55	2067	1			天明2年6月28日	盟約之事(神事行事伝授ニ付誓約)	上社祝秦宿祢高督(花押)	大西中社神主殿	竪続紙	1	67-1～4同封の包紙あり、包紙「謹上 中神主殿 公府高督ああ」
56	2067	2			天明2年7月18日	誓約(勅裁奉幣伝授ニ付誓約)	上社祝秦宿祢高督(花押)他1名	大西中神主殿	竪紙	1	
57	2067	3			天明2年9月10日	誓約(神号伝授外口伝十五箇条伝授ニ付誓約)	上社祝秦宿祢高督(花押)他1名	大西中神主殿	竪紙	1	
58	2067	4			天明4年初秋1日	誓約(当社神璽修封并神符御守修封伝授ニ付誓約)	上社祝秦宿祢高督(花押)他1名	竹林亭中神主殿	竪紙	1	
59	1559				天明5年10月28日	盟諾之證紙(諸病平癒神符伝授)	上社禰宜秦為房(花押)	前御殿預殿	竪紙	1	包紙入り、包紙上書「誓約本紙 三通」
60	2039	1			寛政2年6月	盟約之事(神事行事伝授ニ付誓約)	田中社祝秦公始(花押)	社務三位殿	竪紙	1	包紙上書「上 公始公 溟」
61	2039	2			寛政2年6月	盟約之事(神事行事伝授ニ付誓約)	田中社祝秦公始(花押)	社務三位殿	竪紙	1	
62	841				(寛政3年辛亥12月10～28日)	大鳥居清祓雑誌	正預正四位下行摂津守荷田宿祢信邦		竪帳	1	
63	846				寛政3年	大鳥居清祓次第細記			横半帳	1	
64	843				寛政8辰年11月	冬季御祭礼一式覚悟			竪帳	1	表紙「再興」
65	2006				寛政8年丙辰冬	(冬御祭再興雑記等合綴)			竪帳	1	四冊合綴
66	2737	6	2		寛政10午年4月8日	覚(烏丸前大納言御幣物請取状)	公府	御殿預殿	切紙	1	
67	735				享和2年戌10月	冬季祭雑記(日記)			竪帳	1	表紙「年預正預控」
68	2041				享和3亥年11月	盟約之事(神事行事伝授ニ付誓約)	氏人秦宿祢高方	社務三位殿	竪紙	1	包紙入り、包紙上書「高方」
69	1311				(文化元年～)	両祭供奉(社人名前書上)			竪帳	1	
70	2039	3			文化2年7月29日	盟約之事(神事行事伝授ニ付誓約)	田中社祝公溟(花押)	社務神主三位殿	続紙	1	三通一括包紙入り、奥に文化3年4月10日「拝賀次第 申詞祝詞」の記載あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
71	1114				文化8年初冬25日	(恒例神供御盤立書上)	稲荷社権祝従四位上行出雲守秦宿祢公滇		竪帳	1	写
72	771				(文化11年正月～天保15辰年)	奉射一式雑記(奉射関係日記)			竪帳	1	文政11年正月・文政12年正月・天保5年正月・天保15年正月四冊合綴
73	1202				文政3庚辰秋日	神主家恒例并新神供調進記	朝議大夫秦公(花押)		竪帳	1	文化8年初冬25日写の写
74	1054				天保5年	神事行事会襍記			竪帳	1	
75	769				(天保3辰年正月2日～12月28日)	御神祭方雑記			竪帳	1	表紙「年預御殿預」
76	1905				(天保13年5～11月	(冬季祭神供用留、神事講中神酒神供用之留合綴)	年預竈家		竪帳	1	二冊合綴
77	723				文久3癸亥年9月	勧請式則(稲荷勧請の節神璽・文書書式等覚書)			竪帳	1	表紙「竈家秘記」
78	3254				明治庚午(3)年4月	内々奉歎願口上書(奉幣祭典総而五前へ被為立候ニ付口上書)	稲荷社正官羽倉御殿預、同正官、羽倉目代	(白川大副様)	横帳	1	受取は包紙の記載より判断、包紙には東京に出頭し白川へ書付を渡した旨が記されている
79	2675				(近世)子ノ2月3日	覚(初午ニ神輿を拝殿へ出し勧進ニ付詫状)	本願(花押)	竈殿	竪紙	1	包紙上書「神輿被参候ニ付本願より取置証文之本帋」
80	3312	5	1		(近世)正月3日	(御膳之義相談ニ付書状)	毛利三河介(花押)	羽倉主膳正殿	切紙	1	
81	3283	1			(近世)正月29日	(改年ニ付書状)	根本河内邦(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	紙背に愛染寺一件関連記事がある
82	3312	4			(近世)正月吉日	(御祈祷執行ニ付書状)	善法院泰順(花押)		折紙	1	一部切取
83	2737	4			(近世)3月20日	(御祝詞御祈祷之御札受取状)	垂水伊織雅(花押)他4名	羽倉摂津守殿	折紙	1	
84	2737	18			(近世)4月13日	(御初穂金百疋神納ニ付書状)	南部弥六郎済賢(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	包紙上書「羽倉摂津守様南部弥六郎」
85	3283	2			(近世)7月28日	(出羽守安否御尋ニ付書状)	垂水伊織雅忠(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	紙背に愛染寺一件関連記事がある
86	3341				(近世)8月5日	(稲荷社仮殿遷宮奉幣之事等ニ付覚書)			折紙	1	
87	2155				(近世)9月8日	(社職并節供神事ニ付書状)	伊地知仁兵衛重(花押)	左近殿	折紙	1	
88	187				(近世)	(勧請行事の呪文等書上)	(荷田信詮か)		折紙	1	
89	188				(近世)	倉稲魂祭式(勧請次第、三種加持、祭文、六根加持等)、日待大事并天門秘術法			折本	1	
90	459				(近世)	鳥居清祓次第			横帳	1	
91	511				(近世)	神璽修封之口伝			折本	1	
92	575	1			(近世)	(清祓次第、解除之次第、神祇正宗等合綴)			竪帳	1	三冊合綴
93	575	2			(近世)	祓具口伝			竪帳	1	
94	691	116			(近世)	(儀式作法書)			断簡	1	竪帳の一丁か
95	691	117			(近世)	(社家神事規式等に関する文章)			断簡	1	竪帳の一丁か
96	756				(近世)	掌燈点検(神事の節灯篭提灯松明等覚書)			竪帳	1	
97	848				(近世)	六月祓次第			横帳	1	
98	1057				(近世)	(御祈祷月番等書出)			竪紙	1	竪帳断簡1枚
99	1060	1			(近世)	六月祓次第			折紙	1	
100	1060	2			(近世)	(儀式次第)			折紙	1	
101	1161				(近世)	(稲荷祭社頭次第)			竪帳	1	
102	1143				(近世)	神供式記　全	正預家蔵		横半帳	1	
103	1201				(近世)	稲荷社大神供記			竪帳	1	
104	1205				(近世)	雑集一(神事秘伝)	深尾定長		竪帳	1	表紙に「行事書」とあり
105	1308				(近世)	当社御守神符修封之詞			横半帳	1	
106	1557				(近世)	田袋伝授禁之事(腫物・虫さされ禁忌箇条)			切継紙	1	
107	1588				(近世)	稲荷社両祭行列			続紙	1	
108	1618				(近世)	冬季祭祀之儀(祭祀次第覚書)			折紙	1	紙背に「自讃歌筆者目録」あり
109	1992				(近世)	(稲荷勧請仕来り)			竪紙	2	
110	2160				(近世)	内案文(祓執行次第)			続紙	1	
111	2166				(近世)	恒例毎日次第(神事次第有職書箚記)			竪帳	1	
112	2713	3			(近世)	稲荷社旅所格式之略記			続紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
113	2737	11			(近世)	(神供献上等式次第書付)			切続紙	1	包紙あり
114	2812				(近世)	(清祓等神事口伝書上)			横半帳	1	
115	2814				(近世)	首服次第			折紙	1	
116	3041				(近世)	(稲荷祭神幸の覚)			横帳	1	延年他の歌も記載
117	3113	11			(近世)	(稲荷社神輿遷宮之次第)			折紙	1	
118	3113	12			(近世)	神拝之次第			折紙	1	
119	3279	2			(近世)	五月四日斎夜神供祭祀之儀			折紙	1	3279-1と同封
120	3302				(近世)	地鎮斎之次第			折紙	1	
121	3308				(近世)	神璽修封之家法	(荷田信名		折紙	1	差出人は茶封筒上書による
122	3313				(近世)	(神供明細書)			続紙	1	
123	3534	5			(近世)	(水無月供進物如例年等写断簡)			竪帳	1	二枚一組
124	3534	7			(近世)	(餅の供方古例抜書断簡)			竪紙	1	二枚一組
125	3534	16			(近世)	(藤森斎夜之神供供進他日記断簡)			竪帳	1	
126	2902				明治5壬申年10月	教職心得 講社心得 講席設方 神拝詞	羽倉信義(印)		竪帳	1	明治5年11月7日、信義が書写
127	3255				(明治初年)	就御尋口上之覚(稲荷社祭礼の節神輿東寺ニ奉成の儀廃止ニ付返答書)			切紙	1	
128	2980				(近代)	(遷霊式次第書)			竪帳	1	仮綴、稲荷神社赤罫紙使用

C－1－3　祝詞

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3048				(元禄12年9月5日)	祭静崎霊斎詞	従五位下荷田宿祢信友		竪紙	1	裏打
2	3050				元禄16暦3月2日	祭豊倉霊斎詞(祝詞)			竪紙	1	
3	3250	8			宝永2乙酉年4月	(酒井雅楽頭参詣ニ付祝詞)	荷田信之		竪紙	1	
4	1616				宝永3丙戌年11月	遷宮斎詞	正五位下荷田宿祢信友		竪紙	1	
5	3271				(近世)	地鎮斎詞	従五位下荷田宿祢信友		竪紙	1	裏打、信友は享保2年死亡
6	3008	1			享保12年丁未9月26日	有栖川宮地奉稲荷五社神鎮坐祝詞	荷田宿祢信元		続紙	1	
7	3008	2			(享保13年)	(有栖川宮地奉斎稲荷社神祝詞)	荷田宿祢信舎		続紙	1	
8	1377				(享保13年5月～寛政9年9月)	臨時御祈之祝詞 乾	権祢宜正四位下秦宿祢公枸拝輯		竪帳	1	
9	323				享保14年	祈願祝詞	荷田真崎筆		軸	1	
10	1994				元文2年5月中旬	古伝清祓并地鎮祭次第草稿	稲荷社下社禰宜正五位下秦親盛		竪帳	1	奥書によれば天保6年中秋秦公枸の写
11	3250	6			元文4年5月28日	(正一位幾穂稲荷五柱太神修封ニ付祭詞)	荷田信舎		竪紙	1	
12	1115	3			(宝暦12年6月11日)	外遷宮祝詞(一品職仁親王御所改造ニ付祝詞)	正預従五位上荷田信郷		竪紙	1	端裏書「五」
13	3250	9			明和2歳酉8月24日	御祈祷之祝詞	従五位上荷田信之		竪紙	1	
14	2839				明和3年11月吉旦	稲荷社祭祀供進之諄辞	神主秦宿祢親盛(花押)		折本	1	
15	222				明和4年4月24日	詠四時天象地儀植物動物祝詞	荷田信郷		軸	1	
16	509				(明和4～5年)	(月次御祈祷祓之辞他祝詞集)	(正四位下秦宿祢親臣等)		折本	1	前欠
17	520				(明和5年5月～安永2年3月)	御祈諄辞(御即位御祈等祝詞)	(秦宿祢親臣)		折本	1	裏表紙欠
18	2716				明和7年閏6月28日	(神祇伯資顕王より宣伝七ヶ日豊日吉日日定ニ付祝詞)			竪紙	1	
19	351				(明和8年辛卯3月癸亥～天明2年8月)	(祝詞集)	(神主秦親盛他)		折本	1	前欠
20	2840				(近世)	稲荷社奥秘諄辞	神主従三位秦親盛		折本	1	親盛は安永7年に死亡
21	2116				天明6丙午年3月14日	神幸奉幣之辞(祝詞)	中社神主従三位秦宿祢親臣		竪紙	1	
22	2141				天明6年閏10月26日	祝詞	権御殿預荷田延年		折紙	1	
23	2110				天明8年2月	臨時御祈(この度洛中回禄ニ付祈祷祝詞)	正祝従四位上秦宿祢吉親		竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
24	515				(寛政6甲寅年2月～寛政12年庚申年4月2日)	臨時御祈祝詞	正預正四位下荷田宿祢信邦		折本	1	
25	2118				寛政9年3月30日	神幸奉幣祝詞	従三位秦宿祢親臣		竪紙	1	
26	1549				(享和4年)	(信興加冠の祝詞)			折紙	1	信興は安政6年75歳で死亡
27	1623				文化4年丁卯12月13日	(祝詞草稿)	正預正四位下荷田信邦		竪紙	1	
28	504				(文政5年11月10日～明治4年4月)	(御祈古今叡覧御傳書)	(正五位下行御殿預荷田宿祢信純他)		折本	1	祝詞集
29	352				(文政9丙戌年6月23日～天保11庚子年29日)	祝詞	(正祝秦宿祢公枸等)		折本	1	
30	2797				(文政13年7月11日～天保5午年2月)	(祝詞集)	正祝秦宿祢親寔他1名		折紙	1	
31	2794				天保5午年10月	改正大道神祇祓祝詞ノ大意	(作成)吉田殿学舘守護職玉田永教、(書肆)皇都菱屋儀兵衛他6名		折本	1	木版、「羽倉文庫」の蔵書印あり、版元は「御殿御書物所三条通御幸町河南置版」
32	353				(天保14年～文久元年9月25日)	臨時御祈之祝詞	正祝秦為邑他2名		折本	1	裏表紙「稲荷本宮大西家」
33	3532				弘化2乙巳年6月	有栖川宮地奉稲荷五社神鎮坐祝詞	従四位下行安芸守秦親睦(印)		横帳	1	奥書「弘化二乙巳年六月写之、毛利家秘蔵公溟宿祢御執筆一帖令備用、従四位下行安芸守秦親睦(印)」
34	2142				弘化4未年8月	御祈　御即位(祝詞)	正祝安邑		折紙	1	
35	2143				弘化4未年10月	皇太后宮御恙ニ付御祈(祝詞)	正宿秦為邑		折紙	1	
36	2144				嘉永6丑年5月朔日	(大明神の舎、造改ニ付祝詞)	信純		折紙	1	
37	2145				嘉永7寅年2月	御祈(異国船渡来ニ祝詞)			折紙	1	
38	2146				嘉永7寅年4月	御祈(天下泰平・玉体安穏・万民娯楽ニ付祝詞)	正祝秦為邑		折紙	1	
39	2147				嘉永7年9月	御祈(異国船払退ニ付祝詞)	権祝秦親敬		折紙	1	
40	1061				嘉永7庚辰11月	御祈(地震津波ニ付祝詞)	下祝秦為邑		折紙	1	
41	2148				安政2卯年11月	御祈(新内裏に遷幸ニ付祝	正祝秦為邑		折紙	1	
42	2149				安政3年5月	御祈(夷賊の舩の騒ぎニ付祝詞)	権祝秦親敬		折紙	1	
43	2150				安政3年9月	御祈(夷賊の舩の騒ぎニ付祝詞)	正祝秦親篤		折紙	1	
44	2151				安政4年11月	御祈(去月アメリカ人江戸登城ニ祝詞)	正祝秦親篤		折紙	1	
45	2152				安政5年4月	御祈(夷類下田に来留して商い企むニ付祝詞)			折紙	1	
46	2153				安政5午年5月	御祈(夷類下田に来留して商い企むニ付祝詞)	正祝親篤		折紙	1	
47	2137				安政5年9月	御祈(祝詞)	正祝秦親篤		折紙	1	
48	518				(近世)	月次御祈之祝詞	正預御殿預荷田宿祢信純		折本	1	信純は万延元年に死亡
49	507				(近世)	稲荷社祭祀之諄辞(上巻)	(稲荷祠官正四位下秦親篤)		折本	1	親篤は慶応2年死亡
50	506				(近世)	(稲荷社祭祀之諄辞下巻)	稲荷祠官正四位下秦親篤		折本	1	親篤は慶応2年死亡
51	3113	8			慶応4年3月11日	御祈(皇大后宮奉進祝詞)	祝秦親敬		折紙	1	
52	3017	2			(慶応4年)	(鳥羽伏見之戦松尾稲荷祈祷文覚書)			切紙	1	
53	1547				(近世)	御祈(異国払退祈願祝詞草稿)	正祝秦為名		折紙	1	
54	2894				(近世)	祝詞草(父の埋葬詞等祝詞集)	羽倉信義(印)		竪帳	1	
55	3112	17			(近世)	(祝詞)	目代従四位下荷田信度		続紙	1	
56	365				(近世)	(元日神供之詞他祝詞集)			折本	1	
57	516				(近世)	祝詞(三月三日神供之祝辞他祝詞集)			折本	1	
58	517				(近世)	連日祝詞			折紙	1	切紙を折紙にしたもの
59	525				(近世)	(奉迎天神詞他祝詞集)			折本	1	
60	541				(近世)	諸作法口伝(祝詞集)			折本	1	朱筆あり、題箋「祝詞　臨時御祈」
61	1062				(近世)	(清祓祝詞)			竪紙	1	竪帳の断簡か
62	1164				(近世)	(中臣祓注釈)			竪帳	1	
63	1349				(近世)	稲荷社祭祀供進之諄辞			竪帳	1	題箋「祝詞上」
64	1664				(近世)	清祓草案(正遷宮清祓次第)			横半帳	1	表紙に「惣目代」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
65	2038				(近世)	八月八日始祖祭祝詞	(秦氏)		折紙	1	
66	3144				(近世)	太祓祝詞			切紙	1	
67	3178				(近世)	祭川神詞			竪紙	1	下書
68	3250	12			(近世)	(鶴田氏稲荷勧請祝詞)			折紙	1	
69	3314				(近世)	靈祭戒詞			竪紙	1	裏打
70	2864				明治7年1月20日	(祝詞書留)			竪帳	1	仮綴、青色罫紙使用
71	1063				明治7年3月8日	(祝詞)			罫紙	2	青色罫紙使用
72	1069				明治7年3月29日	祝詞			罫紙	1	草稿、青色罫紙使用
73	2865				明治7年4月	諸祝詞扣(祭伊達正宗卿之神霊祝詞等)	稚桜廼屋(印)		竪帳	1	印は羽倉
74	59				明治12年巳卯2月1日	荷田神社祭典他祝詞	教導職訓導羽倉荷田信義		巻子	1	各祝詞同筆
75	367				(近代)	祝辞集			竪帳	1	「稲荷神社」青色罫紙使用
76	1064				(近代)	祈病詞			罫紙	1	青色罫紙使用
77	2895				(近代)	祝詞(拝日神詞・祭山神詞・祈雨詞・病癒後賽詞・祈病詞・祭川神詞)			竪綴	1	朱筆書き込みあり、青色罫紙使用
78	3345				(近代)	(稲荷勧請祝詞雛形)			罫紙	1	赤色罫紙使用

C－1－4　遷宮

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1614	1			(文明年中)	当社遷宮記録	御殿預荷田宿祢修理亮延秀在判他1名		続紙	1	包紙あり、4通こよりで一括の内
2	1614	2			(文明年中)	当社遷宮記録			続紙	1	4通こよりで一括の内、1624-1の写カ
3	1614	3			5月10日	(目代家所持の遷宮記、重ねて御用に立て申すべきニ付書状)	雅元	花山院殿	竪紙	1	4通こよりで一括の内
4	1614	4			2月16日	(御殿預所持の遷宮記、重ねて御用に立て申すべきニ付書状)	雅元	花山院殿	竪紙	1	4通こよりで一括の内
5	3251				(元禄7年)戊閏5月25日	(遷宮之節旧例ニ付勅使・神馬・楽人支度願)	社務松本信濃他4名		折紙	1	
6	3252				(元禄7年か)9月29日	口上之覚(正遷宮時日披露、勅使等願ニ付口上書)	稲荷社中	白川三位様雑掌中	竪紙	1	
7	3332				(元禄7年か)9月	口上之覚(稲荷社正遷宮等ニ付願)	稲荷社中	白川三位様雑掌中	竪紙	1	
8	1601	1			元禄7年戌11月4日	本殿正迁宮社頭次第同社司行列			続紙	1	包紙「元禄七年正迁宮式荷田信友筆」
9	3329	1			元禄7年戌11月4日	稲荷社御祈祷之巻数(遷宮の時巻数の草案)	社司上		竪帳	1	3329-1～2が入っていた包紙上書「謹上稲荷社御祈祷之巻数社司中」、端裏あり
10	1568	6			(元禄7年)11月7日	(正遷宮の祝儀頂き、中井主水正礼状)	正□(花押)	(羽倉主膳様、同豊前守	竪紙	1	
11	175				元禄7年11月	正遷宮社頭次第	社務松本信濃他5名		横半帳	1	
12	1601	2			元禄7甲戌年	仮殿遷宮次第	社務松本信濃他5名		続紙	1	末尾に信名の署名
13	3113	13			元禄7甲戌年11月	(元禄七甲戌年稲荷社正遷宮之記)			続紙	1	
14	1553	14			(近世)	(稲荷社修理・迁宮のため権禰宜補任等ニ付覚書)			竪紙	1	15通こより一括の内
15	1553	15			(近世)	(稲荷上社神主職に関する長慶三年綸旨等覚書)			竪紙	1	15通こより一括の内
16	1568	3			(近世)	遷宮之時行列			横帳	1	
17	1625				(近世)	遷宮之作法・遷宮次第			切紙	1	後欠
18	2987				(近世)	遷宮次第書			竪帳	1	後装表紙あり
19	2988				(近世)	(遷宮次第書)			竪帳	1	後装表紙あり

C—2　社家

C－2－1　家系・勤役

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1631				天正18年4月2日	(上社神主補任状)	左衛門尉(花押)	稲荷上社神主殿	竪紙	1	後年の写か、こよりに「天正」とあり
2	1252				(元和6年3月13日～天保7年2月17日)	非蔵人家伝	森家		竪帳	1	表紙「書続注進之事　文政八年九月　天保四年四月　同九年四月」、毛利公慶～森公枸まで
3	1628				寛永21年極月朔日	(伏見稲荷社家社人覚書)			続紙	1	
4	2710	3			(寛文7年後如月)	当社神人入職補任式之事			続紙	1	包紙上書「神人職之式信詮筆」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
5	2117				寛文8年戊申霜月28日	(隠居ニ付惣領対馬、妻等之事頼証文)	大西伊豆親修(花押)	羽倉主膳正殿	竪紙	1	捻封、端裏書「羽倉主膳正殿下 親修」
6	2737	9			元禄11年寅8月17日	稲荷社家社僧人数之覚	神人尾崎外記(印)	松尾左兵衛殿	折紙	1	
7	1592				元禄16年11月	乍恐言上(稲荷社職官位等ニ付願)	御殿預羽倉主膳荷田信友	白川三位様御雑掌中	続紙	1	
8	1627				宝永元申年5月	乍恐言上(正祢宜安田美作社法破一件赦免請書)	羽倉主膳(印)他1名		続紙	1	
9	2099				宝永元申年6月	乍恐言上(正祢宜安田美作社法破一件赦免ニ付請書)	稲荷社御殿預羽倉主膳荷田信友(印)他1名	白川三位様御雑掌中	続紙	1	
10	1605	3			宝永元申年10月	乍恐言上(社職官位ニ付願)	羽倉主膳荷田信友他1名	白川三位様御雑掌中	竪紙	1	五通こより一括の内、端裏書「宝永元申十月三位様へ差上候控
11	2740				(正徳2年)辰3月	覚(稲荷旅所神人生嶋隼人他1名と田中兵部遷宮奉幣出入ニ付裁許状)			竪紙	1	包紙上書「正徳二年辰三月稲荷旅所役人出入之節被仰渡候書付本紙 稲荷社司」、端裏貼紙「同州葛野郡西九条当社旅所神人生嶋隼人同采女与田中兵部与遷宮奉幣出入於京都町奉行所口(虫損)御糺之上正徳二辰年三月当社用中江被御渡置候被仰渡書御本紙 城州紀伊郡稲荷社」
12	1049				(正徳3年7月7日以降)	(稲荷社神主系図)			竪帳	1	正徳三年七月七日までの記載
13	363				正徳3癸巳年8月	宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	社務祓川佐渡(印)他5名	御奉行様	竪帳	1	
14	360				(正徳4年5月～)	明和六年正月稲荷社職之次第、同年三月同当時氏人之次第、従正徳四年五月同社司家氏人入名簿	社務従三位秦親盛		横半帳	1	
15	362				(正徳4甲午年5月23日～天明8戊申年6月15日)	稲荷社氏人次第			横半帳	1	
16	361				(正徳4年～明和6年)	山城国紀伊郡稲荷社氏人入之名簿	惣官秦親友		横半帳	1	
17	773				(享保8卯年10月以降)	稲荷社職之次第 但南都春日社格同前			横帳	1	控
18	364				享保12丁未年9月	宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	社務安田安芸守(印)他5名1寺	御奉行様	竪帳	1	
19	366				享保14己酉年9月	宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	社務安田安芸守(印)他5名1寺	御奉行様	竪帳	1	
20	2044				享保13年申12月15日	謹而言上(中社祝等位階奏上願)	下社神主親夏他4名	白川少将様御雑掌中	竪紙	1	控、裏に享保十四年酉十一月十四日「謹而言上(下社神主等位階奏上願)」(御伝奏御雑掌中宛、下社神主親夏差出)控あり、端裏書「享保十三年十二月親安信章信舎位階十四年十一月親夏親友親冬公広親信章信舎位階 位階言上書之留 尤表包美濃紙ニ而上字書之 惣官秦親夏」
21	1589				享保13年12月21日	(目代荷田信元官位ニ付書状)	宣誠	伯少将殿	竪紙	1	
22	355				享保14己酉年5月28日	稲荷社司転任記(寛永17年正月10日～安永7年7月6日)	田中社祝従五位下秦宿祢親盛(朱印)		横半帳	1	表紙に「親盛之印」朱印記
23	1115	5			享保14年8月	目代家(系図)	親茂		鋪	1	延幹から信舎まで、端書「享保十四八親茂綴之」
24	2045				享保15戌年3月	謹而言上(中社祝等受領執奏願)	下社神主親夏他4名	御伝奏御雑掌中	竪紙	1	端裏書「享保十五年三月中祝親茂上祝親盛権預信章権目代信舎受領 田中祝親方従五位下等 中社神主秦親友」
25	2046				享保17戌年12月	口上之覚(正祝辞職ニ付再任之節執成願)	稲荷下社神主親友他4名	御伝奏御雑掌中	竪紙	1	端裏書「享保十七十二月」
26	2319				元文3年午6月18日	(稲荷社神職任官叙位先例書上)	社務大西三位印他4名	御伝奏雑掌中	竪帳	1	控

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
27	3286				寛保3癸亥年9月吉日	安田家〔上久我邑〕略系譜	春原成允		続紙	1	「親寛写之」とあり
28	1309				延享5年2月1日	社家次第			横半帳	1	神官以下主要神社の官位姓名書
29	1072				宝暦3年6月	山城国紀伊郡稲荷社祀官大西本家伝案第一	伊呂具秦公四拾世孫正四位下秦宿祢親盛		竪帳	1	
30	908				宝暦3癸酉年9月	宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	社務松本三位(印)他5名	御奉行様	竪帳	1	
31	2051				宝暦6年子11月	謹而言上(田中社祝秦公満出雲守に任官等奏上等願)	下社神主親安他4名	白川二位殿御雑掌中	竪紙	1	端裏書「宝暦六年十一月十六日上神主高任御殿預信郷同道□(虫損)上留」
32	1093				宝暦7年8月	家伝(東大西家家伝書)	稲荷社氏人秦宿祢親業(花押)		竪帳	1	
33	1261				宝暦9年2月念8日	毛利氏略譜	前田菊洞藤原維祺記		竪帳	1	
34	2318				宝暦9年己卯年9月20日	稲荷社職転任　祓川家書牒之写	中社祝秦公林		竪帳	1	写、奥書「右一冊者故正祢宜親茂宿祢之書牒也、今度従直親宿祢借之書写置者也　宝暦九己卯年九月廿日　中社祝秦公林」
35	2228				明和丁亥(4)之春	稲荷宮祠官官位之譜	正預信郷(花押)		横半帳	1	祓川家から本を借りて、明和丁亥に信郷が写した、「青楓館印」朱印記
36	762				(明和8卯年6月～安永8亥年5月)	稲荷社御旅所神楽方友田一統ヨリ本社社司中江差出候帳面之写			竪帳	1	
37	2375				安永3年午2月8日	覚(神事相談ニ付別心なき旨内密申入状)	生島伊豆泰盛(花押)	羽倉摂津守殿	竪紙	1	
38	3013	1			安永4年未5月	謹而言上(中社神主秦高任正三位へ上階勅許執達の儀披露願)	下社神主親盛印他4名	白川二位殿御雑掌中	折紙	1	裏に稲荷中社神主秦高任叙任歴あり
39	3288				(安永7年12月1日以降)	安田家(安田家朝廷出仕歴)			竪帳	1	荷田信吉から安田吉親まで
40	2725				天明5年巳9月	一紙(藤尾社森内に別家建立ニ付)	信美(印)	一社御中	竪紙	1	包紙上書「信美」
41	2021	15			天明7年丁未5月	(屋敷土手垣普請箇所絵図写)	松本陸奥守(花押)他1名		鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
42	2021	14			天明7年未5月	(屋敷土手垣普請箇所絵図)	松本陸奥守(花押)他1名		鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
43	1163				(天明7年未11月以降)	(称号毛利改森につき届)			竪帳	1	
44	3534	3			(天明)	(御神居御修理願により東へおもむく刻の旅行記)			竪帳	1	天明の記述あり
45	2735	7	2		寛政2戌年8月14日	(神主故障ニ付神事代官勤の届書)	稲荷社御殿預信邦他4名	御伝奏御雑掌中	折紙	1	包紙上書「寛政二戌年八月十四日　中社神主親元宿祢上社祢宜親久田中社公始等着服届書并伯家江差出候書附写」、こよりあり
46	2735	6	2	3	寛政2庚戌年9月	定(稲荷社正官無人の際の定書)	社務親臣判他17名		折紙	1	裏に寛政2年9月「謹而言上(御殿預荷田信邦等正四位下新権祢宜秦為房等従四位下叙位につき披露願)」(伯少将殿御雑掌中宛、稲荷下社神主親臣他4名差出)あり
47	2735	6	2	1	寛政2年申(ママ)9月	定(稲荷社正官無人の際の定書)	一社連印		折紙	1	包紙上書「一社定書写」
48	2735	6	2	2	寛政2年申(ママ)9月	定(稲荷社正官無人の際の定書)	一社連印		折紙	1	
49	3013	2			寛政4子年2月	謹而言上(新権祢宜秦高督従四位上等叙位勅許ニ付披露願)	稲荷下社神主親臣印他4名	伯少将殿御雑掌中	折紙	1	
50	2247				(寛政5丑年～寛政6寅年)	南毛利家相続公始一件	(花押)		竪帳	1	
51	2108				寛政6甲寅年後11月	家系中津瀬家(中津瀬家系図)	為房(花押)	大西殿	竪紙	1	
52	2976				寛政6甲寅年後11月	家系中津瀬家(中津瀬家系図)	為房(花押)	羽倉殿	竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
53	2068	1			寛政7年卯	亀鑑(社家氏人誓約書案)	当職輩連印		竪紙	1	二通一括包紙入り、包紙上書「亀鑑草案神主家草案親寧宿祢執筆荷田氏草案延年執筆此時聊因子細為是幸荷田氏企我意之趣有之示談之上亀鑑之一紙可為取替荷田氏忘趣依之相互草案成尤親寧執筆ニ而一通荷田氏へ遣有之後無何与延引仍亀鑑不整雖然納匣中置也　社務親臣」、端裏貼紙「神主家草案親寧筆」
54	2068	2			寛政7年卯	亀鑑(社家氏人誓約書案)	当職連印		竪紙	1	二通一括包紙入り、下書、端裏貼紙「荷田氏草案延年筆」
55	1556	1			寛政未(11)年11月	覚　鈴木要人親類書			折紙	1	1556一括(2点)包紙入り
56	1556	2			寛政11未年11月	親類書	とせ		折紙	1	
57	1260				(寛政12年9月24日以降)	飯田家系図			竪帳	1	仮綴
58	2210				寛政12年3月	泰忠院殿五十年配物名前覚			横帳	1	
59	2735	7	1		寛政2年戌8月14日	口状(中神主親元他2名暇服届)	親元他2名	御殿預殿	折紙	1	包紙上書「寛政二年戌八月十四日中神主親元宿祢上神主親久田中祝公始等忌服届書」
60	2443				文化5年辰12月9日	口上(尾崎甚之丞忌服届)	一藤　尾崎右兵衛(印)	羽倉摂津守殿	竪紙	1	
61	1052				(文化6年10月13日以降)	稲荷本宮惣官社務神主家神胤紹嗣録			竪帳	1	寛政7年8月5日死去の「神敬豊清辺霊(菅原豊子非蔵人菅原正名女)」まで
62	1421				(文化頃)	年中行事	権祝秦宿祢親実誌		竪帳	1	
63	1254				文政3年正月13日	氏人名簿(稲荷社)	中社祝秦公		竪帳	1	写
64	1383				文政4辛巳年晩冬	稲荷社神主系譜	正四位下秦公枸(花押)		竪帳	1	「稲荷社神主家系譜大綱録」「稲荷社神主森家碁系譜」合綴、「稲荷山森家」朱印、朱書にて訓点等あり、写、秦系祠官家の系譜のみ
65	1255				(天保3年)	叙位任官補職案	稲荷社森家		竪帳	1	表紙に「補職官位任叙案」、奥書「天保三辰年　公枸」
66	1572	1			天保6年11月	加冠之寿詞(権目代信敬元服加冠之寿詞)	従三位秦忠絢	摂津守殿	折紙	1	1572一括(2点)包紙入り
67	1572	2			天保6未年11月9日	盟誓之證紙(権目代元服加冠ニ付奥秘伝授控)	御殿預荷田信純	社務三位殿	切紙	1	端裏書「控」
68	2735	6	1		天保13寅年8月29日	神主三人御殿預預目代共不参之節神事奉仕代官進退已下之事	信純(花押)		折紙	1	包紙上書「正官無人ニ付幼年向約定三通左之通り　寛政二年九月約定書弐通　天保十三年八月同断一通　尤祢宜祝代官一件也　信純」
69	717				天保14年9月	門徒宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	
70	718				天保14年9月	浄土宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社境内浄安寺)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	
71	839	1			(弘化2乙巳年3月23日～8月24日)	上神主公枸宿祢失錯一件	正預控		竪帳	1	839は包紙に包まれていた、包紙上書「弘化二乙巳年三月　上神主公枸宿祢失錯一件帳并ニ書附類　正預控」
72	839	2			巳(弘化2年)4月	口上覚(上神主公枸失錯一件につき口上書)			切続紙	1	端裏書「四月十一日下野守持来由殿下へ差出ス」
73	839	3			4月22日	(稲荷社神幸之節麁忽之進退につき差控御請の旨上申書)	公枸	羽倉上総殿他3名	切紙	1	
74	839	4				(森美作稲荷社神幸之節麁忽之進退につき差控仰付書)		森美作	切紙	1	
75	839	5			4月22日	(大和守一条につき申入書)	(為綱)	(御殿預殿)	切紙	1	端裏書「御殿預殿　年役御答　為綱」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
76	719	1			嘉永2酉年9月	神道人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	8-1の箱、嘉永3年2月の訂正あり。719一括(5冊)封紙入り。封紙上書「嘉永二酉年九月(朱書)「嘉永三戌年二月」宗門人別改帳(朱書)「一社控」山城国紀伊郡稲荷社」裏書「六冊内一袋入／東羽倉控」
77	719	2			嘉永2酉年9月	日蓮宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	嘉永3年2月の訂正あり
78	719	3			嘉永2酉年9月	門徒宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	嘉永3年2月の訂正あり
79	719	4			嘉永2酉年9月	浄土宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	嘉永3年2月の訂正あり
80	719	5			嘉永2酉年9月	真言宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	嘉永3年2月の訂正あり
81	1633	3			未(安政6年)正月26日	(養父羽倉信興忌服届)	信平	社務殿	折紙	1	七通こより一括の内
82	2035				万延元年庚申閏3月	定(社職相続ニ付連判定)	社務為紘縞(花押)他15名		続紙	1	
83	720	1			(文久元酉年7月)	(宗旨人別改注進綴)			綴	1	720一括(2冊)封紙入、封紙上書「文久元酉年九月 宗門注進帳類入 東羽倉家」
84	720	2			文久元酉年7月	浄土宗本願寺宗日蓮宗宗門人別改帳(城州紀伊郡稲荷社御境内百姓中)	御境内年寄代 六左衛門(印)	御社御当番様	竪帳	1	
85	721	1			慶応3卯年9月	神道人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	721一括(5冊)封紙入り、封紙上書「慶応三卯年九月 宗門人別改帳 山城国紀伊郡稲荷社」
86	721	2			慶応3卯年9月	日蓮宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	
87	721	3			慶応3卯年9月	浄土宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	
88	721	4			慶応3卯年9月	真言宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	
89	721	5			慶応3卯年9月	門徒宗門人別改帳(山城国紀伊郡稲荷社)	稲荷社務松本三位(印)他5名1寺	御奉行所	竪帳	1	
90	842				明治元年辰12月	今度山城全国社寺録御改正ニ付奉注進候(氏人神人由緒書上)	稲荷社務松本三位印他4名	京都府御役所	竪帳	1	控
91	2708	7	5		(明治2年)6月7日	(着服届)	為鎮、為邑	御殿預殿	折紙	1	包紙上書「明治二巳年六月七日中神主為邑宿祢より彼差出着服届 三神主故障之節正官順席出ル旧例也」
92	1334				午(明治3カ)3月20日	稲荷一社中姓名居所等之御届ヶ書 控	稲荷一社惣代大西正五位印	神祇官御役所	竪帳	1	
93	2088				明治3庚午年閏10月24日	御請一札(神葬祭禁止ニ付請書)	重田準造(印)	尾崎翁輔殿	竪紙	1	包紙入り、包紙上書「上至十月廿五日隠涼軒受取」、包紙貼紙「是ハ月番箱へ御納り」
94	1335				午(明治3カ)3月	召遣家来居所姓名書	稲荷社一社		竪帳	1	
95	1256				明治4辛未年3月	神人系譜	一臈尾崎潔秀(印)他7名	羽倉御殿預殿	竪帳	1	
96	722				明治4辛未9月	社籍帳(稲荷社)	稲荷社社司中(印写)		竪帳	1	表紙「御殿預家控」
97	368				明治4年	十四箇條区別廉書	稲荷社一社中印		竪帳	1	表紙上書「御殿預家控」
98	2115				(近世)子9月	奉指上口上書(稲荷宗門改帳ニ付口上書)	稲荷社社家中(印)	御奉行様	竪紙	1	
99	2713	2			(近世)辰3月	覚(稲荷旅所奉幣出入ニ付申渡書)			竪紙	1	
100	1633	6			(近世)午2月	口上書(稲荷社修復助力願)	稲荷本社社司中(印)他1寺、氏地講中		横綴	1	七通こより一括の内

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
101	2158				(近世)2月27日	(中神主秦公林従三位勅許下知状)	基理	伯少将殿	竪紙	1	
102	2689				(近世)3月21日	口上之覚書(宗門帳の義ニ付宗旨極めざるよう願書)	稲荷社家中	御奉行所御役人御衆中	竪紙	1	包紙、こよりあり、包紙上書「宗門帳之義ニ付先年社中より御公儀江奉差上願書一通」
103	2723	9			(近世)3月21日	口上之覚書(宗門帳の義ニ付宗旨極めざるよう願書)	稲荷社家中	御奉行所御役人御衆中	竪紙	1	享保17年子9月21日の奥書あり、本文は2689と同文
104	3312	11	6		(近世)10月12日	(松本筑後役所へ出頭之儀等ニ付書状)			切紙	1	襖下張、前後欠
105	1553	4			(近世)11月	覚(社家中職官位ニ付取極一札)		稲荷社家中	切紙	1	15通こより一括の内
106	2733	6	1		(近世)12月20日	口上之覚(三神主神役勤之段ニ付)	信友 他1名	為量殿他2名	折紙	1	
107	796				(近世)	叙位任官補職考 稲荷社松本家			竪帳	1	仮綴
108	1253				(近世)	楓葉愚考草	公枸		竪帳	1	
109	1262				(近世)	毛利家系			竪帳	1	幸興まで記載あり
110	1633	1			(近世)	本宮御神号相殿五座			折紙	1	七通こより一括の内、荷田氏系祭神説
111	1633	4			(近世)	仰之趣(美作儀社法破一件申渡)			竪紙	1	七通こより一括の内
112	1633	7			(近世)	へつついいんきよのこと(覚書)			竪紙	1	七通こより一括の内
113	2217				(近世)	非蔵人家伝 上			竪帳	1	
114	2216				(近世)	非蔵人家伝 下			竪帳	1	
115	2234				(近世)	非蔵人家伝 上			竪帳	1	
116	2205				(近世)	非蔵人家伝 下			竪帳	1	本文朱書訂正
117	1245				(近世)	(非蔵人補任)			竪帳	1	表紙に差紙あり
118	2723	2			(近世)	(建久十年七月六日稲荷下社神主死去ニ付社司転任覚)			竪紙	1	

C－2－2　日記

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	899				(慶安元戊子年5月4日～慶安3庚寅年12月12日)	(秦親賢日記抜粋)			竪帳	1	慶安年中の秦親賢の日記抜粋、前書「慶安年中秦親賢日記之抜粋親茂より写シ被呉ニ付当家後証之日記故相写置也」
2	768				(慶安元年5月7日～元禄7年2月12日)	祓川親賢日記抜書(祓川親賢・羽倉延重・毛利公慶日記抜書)			竪帳	1	
3	902				(慶安5年正月1日)	家記	祓川親賢		竪帳	1	
4	2136				承応3甲午年12月8日)	親忠日次貫(抜)書、仙洞野狐ノ符守親忠へ御伝授之次第			竪帳	1	仮綴
5	1058				(承応4乙未年2月21日～23日)	(親賢日記書抜)			折紙	1	
6	1238				(寛文6年正月1日～元禄8年正月25日)	公治記 生艸録抜書	正四位下秦公枸(花押)		竪帳	1	奥書「此一巻逐一閲之間令拾要畢 天保四年巳八月 正四位下秦公枸(花押)」
7	856				(元禄7年正月1日～12月29日)	日録	権目代従五位下荷田宿祢信元		竪帳	1	改装表紙見返し「文政四年五月加焉後世無怠可有秘蔵者也 信資」
8	2337				(元禄7年正月朔日～11月2日)	日次記			横半帳	1	
9	1239				(元禄7年6月1日～宝暦2年4月5日)	公広卿家記拾要			横半帳	1	
10	1419				(元禄13年正月朔日～5月6日)	日記	(公廣)		竪帳	1	外題「元禄十三年公廣卿之日記」
11	866				(元禄14年11月27日～15年12月24日)	(目代家家記伝奏抜書)			竪帳	1	
12	177	2			(元文5年8月29日～12月28日)	(社務日記)			竪帳	1	破損甚だし、前欠、大西日記カ
13	2338				(寛保2壬戌正月元日～12月27日)	大西家日次案記	稲荷下社祢宜正五位行相模守秦親盛		竪帳	1	添付書「大西家日記」
14	2339				(寛保3癸亥正月元日～12月29日)	大西家日次案記	稲荷下社祢宜正五位下行相模守秦親盛		竪帳	1	
15	2340				(寛保4甲子正月元日～12月29日)	大西家日次案記	稲荷下社祢宜従四位下相模守秦親盛		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
16	2341				(延享3丙寅年正月元日～7月3日)	大西家日次案	稲荷社権祢宜従四位下秦親盛		竪帳	1	後欠
17	2343				(延享5戊辰年正月元日～2月23日)	大西家日次案記	秦宿祢親熙(花押)		竪帳	1	「延享五年社職之次第」巻頭にあり、1帖目に蔵書印「秦親臣印」あり、後欠か
18	2342				(延享5戊辰年正月元日～6月27日)	大西家日次案記	稲荷社権祢宜従四位下行相模守秦親盛		竪帳	1	
19	2344				(寛延2年正月元日～8月18日)	大西家日次案記	稲荷社権祢宜従四位下行相模守秦親盛		竪帳	1	
20	2345				(寛延3年正月元日～12月29日)	日記案記	稲荷社権祢宜従四位上秦親盛		竪帳	1	
21	2346				(寛延4年正月元日～閏6月26日)	大西家日次案記	稲荷社権祢宜従四位上行相模守秦親盛		竪帳	1	
22	2230				(宝暦2年正月元日～12月30日)	(大西家日記)	正祝従四位上秦親盛		竪帳	1	
23	2347				(宝暦3癸酉年正月元日～12月29日)	日次案記大西家	上社神主従四位上行相模守秦宿祢親盛		竪帳	1	
24	2348				(宝暦5乙亥年正月元日～12月29日)	日次案記(大西家)	稲荷社神主正四位下秦親盛		竪帳	1	裏表紙に花押あり
25	2349				(宝暦6年子4月～8年9月18日)	宝暦六年子三月御旅所一件之留并諸雑事留記	中社神主親盛		竪帳	1	
26	2350				(宝暦7年正月10日～12月29日)	(大西家日次案記)			竪帳	1	前欠
27	1378				宝暦7年7月4日	故大卿記文取要(秦親友日次案写)	上社祢宜従五位上秦親臣(花押)		竪帳	1	「故社務正三位親友卿之日次案、従元禄七年正月元旦至正徳六年五月十日令抜粋畢」
28	2352				(宝暦8戊寅年正月元日～12月30日)	日次案記(大西家)	稲荷中社神主正四位下秦宿祢親盛		竪帳	1	
29	2351				(宝暦9己卯年正月元日～12月30日)	日次案記(大西家)	稲荷中社神主正四位下秦宿祢親盛		竪帳	1	
30	2354				(宝暦10年12月15日～宝暦11年2月10日)	関東御代始参府旅中日次案記	稲荷中社神主正四位下秦親盛		竪帳	1	奥書「右東行之日記者従宝暦十年十二月十五日至同十一年二月十日畢　宝暦十一年巳二月十日稲荷中社神主正四位下秦親盛(花押)右日記有文章紛乱不能書改故加一二三之点見者可用捨也」
31	2353				宝暦10庚辰年	日次案記(大西家)	稲荷中社神主正四位下秦宿祢親盛		竪帳	1	不開
32	2355				(宝暦11年正月元日～7月14日)	(大西家日次案記)	稲荷上社祢宜正五位上秦親臣		竪帳	1	「家父在府」、後欠
33	2356				(宝暦14年甲申年正月元日～7月29日)	日次案記(大西家)	稲荷社務正四位下行相模守秦親盛		竪帳	1	裏表紙に花押
34	1771				(天明3年正月2日～12月)	御神事方雑記	卯年預目代		竪帳	1	
35	794				天明3癸卯年	日次草案(稲荷本宮毛利家)	新権祝正五位下行三河介秦宿祢公府(花押)		竪帳	1	
36	1813				(寛政9年12月7日～晦日)	日記	従五位上行石見守荷田		竪帳	1	
37	1240				(文化7年11月以降)	毛利家記			竪帳	1	
38	3277				(近世)24日	(先刻御書付吟味下さるニ付公治日記肝要計書抜)	公広	親考公	横切紙	1	
39	1633	5			(近世)	(日記断簡)			横帳	1	7通こより一括のうち

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
40	3534	15			(近世)	(久我弥平次より筆壱把到来他日記断簡)			竪帳	1	

C—3　社務・社領

C－3－1　触書・達・幕府・所司代・伏見奉行

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2983	1			(南北朝)11月20日	(稲荷五社神主清栄尼善阿所領官領すべき旨検非違使別当宣)	豊前守頼親奉	謹上正親町伝士大夫判官殿	竪紙	2	紙背に花押、「康暦元年二月十八日」の年紀あり、包紙上書「別当宣」、裏打ちがしてある、同文の写を入れて2点
2	2983	2			(南北朝)11月20日	(稲荷五社神主清栄尼善阿所領官領すべき旨検非違使別当宣写)	豊前守頼親奉	謹上正親町伝士大夫判官殿	竪紙	1	本紙と同封、
3	3113	9			応永10年12月	(散用状)	周特(花押)		切紙	1	前欠
4	1593				寛正4年5月12日	義政公判物之写			竪紙	1	包紙あり
5	805				(天正9年4月10日～享和2年2月)	(稲荷制札等書留)			竪帳	1	
6	1194	3			天正12年2月15日	(参銭等につき下知状)	玄以(花押)	稲荷竈殿	折紙	1	包紙あり、付箋「羽倉信義家蔵」
7	1598	1			天正16年2月	禁制(稲荷社禁制)	民部卿法印御判	稲荷社	竪紙	1	
8	1199				天正17年11月吉日	稲荷社領目録			竪帳	1	写
9	3235				(近世)3月10日	(造宮米弐千石下付ニ付豊臣家奉行奉書)	増田右衛門尉長盛(花押)、浅野弾正少弼長吉(花押)	稲荷社人中	折紙	1	
10	3241				(近世)7月晦日	(大政所御立願ニ而修理申付状)	民部卿法印玄以(花押)	稲荷社家中	折紙	1	
11	1629	1			(近世)8月9日	(朱印の件ニ付書状)	増田右衛門尉長盛(花押)、浅野弾正少弼長吉(花押)	稲荷社人中	折紙	1	包紙あり、三通の内
12	3240				(近世)8月24日	(島津又七郎高麗在陣武運長久ニ付寄進状)	徳田大助(花押)、三原仲右衛門尉(花押)	稲荷大宮様	折紙	1	
13	3234				(近世)10月4日	(備前中納言簾中狐付ニ付祈祷申付旨豊臣家奉行奉書)	石田治部少輔三成(花押)、増田右衛門尉長盛(花押)	稲荷社人中	折紙	1	
14	1629	3			(近世)極月18日	(松苗の件ニ付書状)	民部卿法印玄以(花押)	稲荷社家中	折紙	1	包紙あり、三通の内
15	1629	2			(近世)12月19日	(年貢皆済催促ニ付前田玄以下知状)	玄以(花押)	稲荷社領在々百姓中	折紙	1	包紙あり、三通の内
16	3236				(近世)12月25日	(大政所様御立願之造宮出来方書上ニ付豊臣家奉行奉書)	御牧勘兵衛景則(花押)	稲荷社人中	折紙	1	
17	1194	2			慶長12年8月20日	(参銭等証文之通り執達につき下知状)	(板倉伊賀守)勝家(花押)	稲荷竈殿	折紙	1	包紙2点あり
18	1194	1			(慶長12年)	京都御諸司代御證文　弐通(包紙)	羽蔵御殿預蔵		包紙	1	枝番1194-2、3の包紙
19	2713	1			(慶長19年3月17日～寛保元年4月23日)	(御旅所関係文書写)			続紙	1	2713-1～5が入っていた包紙上書「旅所之儀二付書付入」
20	730				慶長19甲寅年3月17日、宝暦13年未3月	(旅所関係証文写)			竪帳	1	
21	1573	1			明暦3年3月	禁制(京都所司代禁制)	佐渡守在判	稲荷山	竪紙	1	包紙あり、七通の内
22	2733	1			寛文5年7月11日	定(諸社禰宜神主法度写)			竪紙	1	包紙あり、包紙上書「寛文神主御法度書写」、端裏書「神社御法度書之写」
23	2745				寛文10年2月	(寺院作事に関する寛文八年二月法度順守すべき旨触書)			続紙	1	
24	1573	2			寛文11年7月25日	禁制(京都所司代禁制)	伊賀守大江朝臣在判	稲荷山	竪紙	1	七通の内
25	2735	1			(寛文)	(稲荷社取調帳写)			続紙	1	こよりあり、包紙上紙「寛文年中御改元帳／東御役所寺社帳之写／表立申立間敷至極内密覚悟可有之もの也／寺田官左衛門筆」
26	1573	3			延宝5年6月15日	禁制(京都所司代禁制)	越前守藤原朝臣在判	稲荷山	竪紙	1	七通の内

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
27	1573	4			天和2年7月22日	禁制(京都所司代禁制)	丹後守越智宿祢在判	稲荷山	竪紙	1	七通の内
28	1573	5			貞享3年6月18日	禁制(京都所司代禁制)	相模守源朝臣在判	稲荷山	竪紙	1	七通の内
29	1573	6			元禄4年8月27日	禁制(京都所司代禁制)	因幡守源朝臣御書判	稲荷山	竪紙	1	七通の内
30	3250	2			元禄7戌年11月	(稲荷社規制ニ付小出淡路守下知状写)	小出淡路守御判		竪続紙	1	
31	3311	1			午(享保11)年11月6日	(羽倉藤之進古き書物調査ニ付触書写)	松尾左兵衛	(御社家中)若宮八幡他3社	断簡	1	3311-1～3まで封筒で一括
32	3257				享保14己酉年10月2日	奉願候口上之覚(関所手形発給願)	山城国紀伊郡稲荷社司下シ羽倉伯耆守他1名	御奉行様	竪紙	1	
33	2714	4			享保15年戌2月	一札之事(御法度之犬取捨ニ付証文)	かぎや長右衛門(印)他11名	茶屋御奉行御月番様	続紙	1	
34	1634	1			寛保3亥年4月8日	(関東へ差下す書物返却ニ付証文)	羽倉出羽守(印)	羽倉摂津守殿他1名	竪紙	1	包紙「信名江戸江持参之書物」、六通の内
35	1634	2			(寛保3年)亥4月8日	覚(関東へ差下す書物返却ニ付証文)	松本甲斐守(花押)	羽倉摂津守殿他1名	切紙	1	六通の内
36	1634	3			(享保20年カ)卯6月26日	覚(江戸持参書物借用証文写)	御殿預信名	近江守殿他3名	続紙	1	六通の内
37	1634	4			寛保3年亥4月8日	(関東へ差下す書物返却ニ付証文)	毛利三河守(印)他1名	羽倉摂津守殿他1名	切紙	1	六通の内
38	1634	5			寛保3年亥4月8日	覚(関東へ差下す書物返却ニ付証文)	大西近江守(印)	羽倉摂津守殿他1名	切紙	1	六通の内
39	1634	6				(大西・毛利家略系図)	下社神主大西近江守他1名		続紙	1	六通の内
40	1573	7			宝暦11年9月28日	禁制(京都所司代禁制)	伊予守藤原朝臣	稲荷山	竪紙	1	七通の内
41	1584	1			(明和4年)正月5日	(年頭祝儀ニ付礼状)	酒井六右衛門他3名	羽倉石見守様	切紙	1	
42	1584	2			(明和4年)正月23日	(年頭祝儀ニ付礼状)	石原安右衛門他3名	羽倉摂津守様	切紙		
43	3312	9			(安永2年)巳閏3月27日	(旅中の僧侶江戸迄差送継立依頼)	増上寺会下派重寮旭山(印)	追分宿より板橋宿迄問屋衆中	切紙	1	
44	1821				(寛政)	(寛政年中御触之写)			竪綴	1	
45	765				享和3亥年7月	御朱印高葵御紋并寺社官位御礼序其外御尋之御触且同月十八日東御役所差出ス御答書之留	正預扣		竪帳	1	
46	786				(享和3年9月10～19日)	申廻状(土砂留役人廻村触書留)			竪帳	1	
47	736				享和3年亥9月	所司代初入出札之儀御尋答書并御触書之留	正預扣		竪帳	1	
48	737				享和3年亥10月	(諸国郡名村名文字調査につき御触等写)	稲荷社務大西三位印他4	御勘定所	竪帳	1	
49	1832				(文化元年6月23日～9月6日)	正一位分神勧請并別当号縁起板行用所等之儀ニ付西御役所江差出諸書附対談趣意書留上	正預信邦控		竪帳	1	
50	834				文化2年丑2月	寺社号御改御触状并雛形之留(町村寺社改触書の請書)			竪帳	1	表紙「正預控」
51	2708	9	14		文化6年2月14日	(東奉行社参の際の覚書)			切紙	1	
52	749				(文化6年10月)	御所司代御巡見案	御殿預		竪帳	1	
53	2708	9	9		(天保5年)5月	京都東西町御奉行并在京御目付稲荷社御巡見之節手続書	羽倉摂津守		続紙	1	
54	821				(嘉永7年7～9月)	(雑記帳断簡綴)			竪綴	1	2冊合綴
55	370				慶応4辰年2月	御触状留	月懸 羽倉摂津守		竪帳	1	
56	2708	1	1		(明治2年)6月23日	(御達之勧進之儀取調ニ付差上)	稲荷社惣代大西相摸守印	神祇官御役所	折紙	1	2708が括られていた紐あり、5通(2708-1～5)が封入されていた包紙あり「稲荷社勧請一件」
57	1250				明治3庚午年8月	十箇條区別廉書	稲荷社一社中印	神祇官御役所	竪帳	1	御殿預家控
58	2892				(明治8年頃)	雑集(太政大臣布告写等諸覚)	杉生園		竪帳	1	
59	3243				(近世)子年3月	申渡(社家・愛染寺鳥居木造始出入裁許状)			続紙	1	こよりあり
60	1065				(近世、寅5月2～8日)	(東福寺より到来触書)			竪綴	1	
61	2736	5			(近世)卯7月	口上之覚(代々之御朱印一件ニ付再応御吟味之節差上候書付)	京稲荷社司惣代羽倉摂津守他1名		続紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
62	1068				(近世、卯年10月20～27日)	(町触留)			竪綴	1	
63	3238				(近世)正月28日	(姫君様御祝儀ニ御宮造立之旨書状)	益庵(花押)	いなり御神主人々中	折紙	1	
64	3237				(近世)閏2月17日	(御祈祷之物江戸へ下す儀相談ニ付書状)	祇園執行祐雅(花押)	稲荷社務様	折紙	1	板倉周防守の名が尚々書中に見ゆ
65	3239				(近世)3月25日	(千松病気本復ニ付御初尾銀献上之旨書状)	蜂須賀隼人次喜(花押)	別当様	折紙	1	
66	3246				(近世)3月25日	(千松病気本復ニ付御初尾銀献上之旨書状)	山田丹下名乗(花押)	稲荷別当様	折紙	1	
67	3247				(近世)3月25日	(千松病気本復ニ付御初尾銀献上之旨書状)	長谷川万太郎貞昌(花押)	別当様	折紙	1	
68	3249				(近世)3月25日	(千松病気本復ニ付御初尾銀献上之旨書状)	山田豊前為勝(花押)	稲荷別当様	折紙	1	
69	3248				(近世)4月29日	(年賀返礼ニ付奉書)	早田衛士喜武(花押)他2名	大西摂津守様	折紙	1	
70	3245				(近世)8月19日	(御局方煩ニ付祈念申入書状)	木原二郎兵衛尉(花押)	いなり神主殿	折紙	1	
71	3242				(近世)霜月21日	(刀鍛冶いなり山之刃土乞貰ニ付書状)	渡辺善太夫正(花押)	大宮司様	折紙	1	善太夫は小笠原信濃守家中、出羽守国道の弟子、名朝家
72	456				(近世)	物忌令全			横半帳	1	為常の写し
73	755				(近世)	草案(命婦社俗称上の御殿相止め願状)	稲荷社家御殿預羽倉摂津守他1名	御奉行所	竪帳	1	
74	966	3			(近世)	(出府の節御礼申上につき稲荷社由緒覚書)	(荷田信名)		切紙	1	
75	2677	1			(近世)	(寛永11年～承応4年、稲荷社をめぐる訴訟等ニ付書上)			竪紙	1	こよりあり
76	2677	2			(近世)	(寛永11年～慶安3年、稲荷社をめぐる訴訟等ニ付書上)			竪紙	1	
77	2737	2			(近世)	二条御城正月御飾松指上申覚			続紙	1	包紙上書「例年十二月立松献上之式并書付之控」、051221に種村氏に渡す
78	2876				(近世)	(服忌令抜書)			横帳	1	
79	748					社頭構様之記(境内幕・引砂・立砂・提灯覚)			竪帳	1	

C－3－2　社法・愛染寺一件

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1602	1			文禄3年2月5日	当社本願所被頼置ニ付以一書申入候(修理・掃除役等証文)	地蔵院学円判他1名	尾崎右兵衛尉殿	竪紙	1	包紙「本願所古証文写十通」の内
2	1602	2			文禄3年2月5日	御しやけへやくき之事(地蔵院役義負担一札)	地蔵院かく円判		竪紙	1	「本願所古証文写十通」の内
3	1602	3			寛永4年正月	(本願所預りニ付修理掃除役等請書)	長識(花押影)	御社中様	竪紙	1	「本願所古証文写十通」の内
4	1602	4			寛永4年正月	本願江被仰付候役儀之事	長識(花押	尾崎帯刀殿	竪紙	1	「本願所古証文写十通」の内
5	1602	6			寛永10年4月21日	(本願所役儀請書)	愛染寺宗海(花押影)	尾崎帯刀殿	竪紙	1	「本願所古証文写十通」の内
6	1602	5			寛永6年11月12日	(将軍之御房より御初尾ニ付起請文)	本願長識(花押影)	御社家中各々様	竪紙	1	「本願所古証文写十通」の内
7	1554				慶安5壬辰年3月	(本願所持福院一件覚書)			折紙	1	
8	1602	7			寛文3年9月4日	(本願所住持謹仕請書)	多宝院印	御社中	竪紙	1	「本願所古証文写十通」の内
9	1602	9			天和3癸亥年7月25日	(本願所預りニ付修理掃除役等請書)	愛染寺乗龍判	御社家中様	竪紙	1	「本願所古証文写十通」の内
10	1602	10			天和3癸亥年7月25日	本願所江被仰付候役儀之事(請書)	愛染寺乗龍(花押影)		竪紙	1	「本願所古証文写十通」の内
11	1568	1	1		元禄7年8月	口上之覚(社家中愛染寺和順ニ付証文)			横切続紙	1	4通が紐で一括されていた包紙「元禄御譜證文并和順證文内定之控」
12	2101				元禄7年10月21日	(稲荷社ニ而大般若読誦書付)			折紙	1	
13	1568	1	2		元禄7甲戌年10月	指上申一札之事(公儀より御改被仰付ニ付一札)	松本信濃他23名	小出淡路守様御組入江安右衛門殿他1名	折紙	1	
14	1630				元禄7年11月	覚(稲荷社規制ニ付小出淡路守下知状写)	小出淡路守	御殿預	続紙	1	
15	2696				元禄7年戌11月	覚(御社番人のことなど境内掟書)	淡路守		続紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
16	3256				元禄7戊年11月	(稲荷社規制ニ付小出淡路守下知状写)	小出淡路守判		続紙	1	前欠
17	729				元禄7甲戌	小出淡路守様御下知状写(裁許請書)	毛利掃部他23名	小出淡路守様御組入江安右衛門殿他1名	竪帳	1	ムレ甚だし
18	804				元禄16癸未年	(公儀御尋ねにつき寺社明細書上)	稲荷社務松本将監印他5名		竪帳	1	
19	1597	2			宝永5年戊子10月8日	亀鑑(灌頂執行停止ニ付連署状)	下社神主公建(印)他16名		続紙	1	
20	2739				宝永5年11月	社法格式	稲荷一社中判	御奉行様	続紙	1	こよりあり
21	1597	3			宝永7年閏8月3日	(灌頂執行停止ニ付伯家下知状)	神祇官家学頭臼井左衛門	稲荷社惣坊留守居乗龍	続紙	1	
22	2084				(文録3年2月5日～宝永7年8月11日)	稲荷本願所灌頂之一巻(本願所愛染寺一件古書物写)			竪帳	1	
23	1597	1			宝永7年閏8月13日	口上(灌頂執行停止ニ付下知状)	伯家学頭臼井左忠(印)	下社神主殿、中社神主殿、上社神主殿、御殿預殿、目代殿	折紙	1	包紙あり
24	1597	4			(宝永7年)寅9月9日	下知状請取	愛染寺	安田美作殿、大西播磨殿、	折紙	1	包紙あり
25	2714	3			正徳2辰年正月	覚(法令請文)	八左衛門(印)他2名	御役中様	竪紙	1	
26	2733	2	3		正徳4甲午年8月晦日	覚(位牌破損料受取ニ付請取證文)	稲荷境内西光寺(印)	一社御膳主膳様	切紙	1	
27	2737	13			正徳6年	(位牌殿大破之義ニ付願書)	西光寺	御月番一社御衆中	切紙	1	
28	801				(文禄3年正月15日～享保7年壬寅9月5日)	社中悲歎之条々(愛染寺関係訴書留)			竪帳	1	移動済
29	741				享保16年亥10月	(愛染寺札配出入につき古来証拠書付)	本官御殿預竈羽倉摂津		竪帳	1	
30	835				享保16辛亥年	京稲荷本山社法格式	京稲荷御殿預竈羽倉摂津守(印)		竪帳	1	
31	751				享保17年子3月11日	西御役所本多筑後守様江本願所愛染寺ヨリ別紙二冊之帳面相添差上ル願書同四月六日追訴之願書并社司中ヨリ返答書			竪帳	1	
32	1575				享保17年子3月	三(愛染寺一件願書書留)	稲荷社、愛染寺	御奉行様	竪帳	1	
33	2040				享保17子年3月	誓約之事(愛染寺一件公儀へ訴訟ニ付社家中連判誓約)	大西近江守他16名		続紙	1	
34	742				享保17年壬子4月29日	西御役所本田筑後守様江差上ル社司中嘆之ヶ条書(愛染寺出入訴状)	稲荷社家惣中	御奉行様	竪帳	1	
35	1568	1	3		享保17子年6月	覚(社家中愛染寺出入和順ニ付証文)	稲荷社務大西近江守印他5名	御奉行様	竪継紙	1	
36	2071				享保17年子6月	覚(愛染寺一件和順ニ付連判請書)	稲荷社務大西近江守(印)他5名	御奉行所様	続紙	1	
37	3262				(享保17年6月)	覚(稲荷社出入ニ付済口証文等写)	親(花押)		続紙	1	こよりあり
38	1568	1	4		(享保17年)子年8月	口上之覚(社家中愛染寺出入和順ニ付証文)			折紙	1	奥書あり
39	847				(享保20卯年3月～7月)	(社法新旧混雑之出入につき覚書)			竪帳	1	
40	1566				元文3年2月	差上書付之留(小出淡路守定書之儀お尋ねニ付書付)	同社司惣代羽倉摂津守判、京稲荷社家惣中判	寺社御奉行所	竪帳	1	
41	1585	1			(元文4年)8月	申渡(愛染寺出入ニ付和談遵守之旨申渡)	(寺社奉行)	京稲荷社司惣代羽倉摂津他2名	続紙	1	包紙あり
42	1585	2			(元文4年)8月	申渡(愛染寺出入ニ付和談遵守之旨申渡)	(寺社奉行)	京稲荷社僧愛染寺	切紙	1	
43	3260	1			元文4年未8月	申渡(稲荷社出入裁許状)		京稲荷社僧愛染寺	切紙	1	3260-1～2入りの包紙上書「元文四年未八月江戸寺社御奉行申渡写」、端裏あり
44	3260	2			元文4年未8月	申渡(稲荷社出入裁許状)		京稲荷社司惣代羽倉摂津守他2名	切紙	1	端裏あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
45	2001				元文4未年11月11日	御箱願之控(愛染寺一件古書物書留)			竪帳	1	
46	2678				寛保元年酉11月25日	乍恐奉願口上之覚(稲荷社鳥居造立の儀ニ付愛染寺召喚願)	稲荷社務大西近江守印他4名社家惣中	御奉行所	続紙	1	
47	2684				(寛保元年11月)	(稲荷社と愛染寺争論関係文書留)	(社家惣中他)	(御奉行様他)	続紙	1	
48	2100				寛保3年亥閏4月	乍恐御書付を以御尋之拝答書(社家神式に魚物使用停止願一件返答書)	稲荷愛染寺印	御奉行様	続紙	1	
49	2723	3			寛保3年亥閏4月	乍恐御書付を以御尋之訴答書(元禄七年木作初の神供等御尋ニ付返答書)	稲荷社愛染寺印	御奉行様	続紙	1	こよりあり
50	2104				寛保3年亥6月21日	社法格式(愛染寺一件ニ付願)	稲荷社務下社神主親友他4名	白川三位殿御雑掌中	続紙	1	
51	2138				寛延3年午9月	(愛染寺一件記録断簡他)			竪綴	5	
52	825				宝暦3酉年8月7日	申渡(追放申渡書)		稲荷愛染寺隠居寛盛	竪綴	1	
53	2736	4			寛政10年午10月10日	(愛染寺住職選直弟之旨下知書写)	御名印	愛———	切紙	1	包紙上書「元禄年中愛染寺一分小出淡州下知書写、愛染寺智舜自筆、寛政十午年十月十日」
54	2676				寛政	亀鑑(稲荷祠官勤方心得条々)	当社当職連印		竪紙	1	
55	1833				(文化元年9月6日～12月18日)	四箇条預書対談書留下	正預信邦控		竪帳	1	
56	784				文化元年	信邦君記一件雑記草上(稲荷社と愛染寺出入関係文書留)			竪帳	1	
57	2105				天保5午年3月	例書(天明四年弘法大師九百五十年忌に愛染寺読経護摩執行之例届書)	稲荷社惣代羽倉摂津守	御奉行所	折紙	1	
58	2096				明治元戊辰年12月	(諸国配札差止ニ付請書)	愛川民部(印)	御月番大西三位殿	竪紙	2	配札人名前書上添付、包紙あり、
59	2090				明治3年午2月	乍恐奉願上口上(復飾并隠涼軒留守居任命ニ付請書)	隠涼軒留守居準竹(印)	年寄八左衛門殿	竪紙	1	包紙あり、奥に羽倉御殿預様宛奥書
60	2087				明治3庚午年7月	就御尋御返答書(稲荷社境内西光寺廃止二付返答書)	稲荷社惣代尾崎権内	京都御政府	竪紙	1	
61	2091				明治4辛未年2月	乍恐御請奉申上口上(役料給付ニ付請書)	隠涼軒守宮田準造(印)	職事尾崎翁助殿	竪紙	1	包紙あり、奥に松本社務殿宛奥書
62	2092				明治4辛未年2月	乍恐奉願上口上(隠涼軒へ番小屋取立願)	隠涼軒守宮田準造(印)	職事尾崎翁助殿	竪紙	2	包紙あり、奥に松本社務殿宛奥書、図面添付
63	2750				明治7年10月	稲荷神社教会條例　全	稲荷神社小教院		竪帳	1	木版、表題は題箋
64	724				(近世)子11月	(稲荷社家中と愛染寺座席争論につき申上)			竪帳	1	元文以後の争論
65	2680	2			(近世)酉年ノ正月吉日	(拝殿に参るべき旨申入)	本願(花押)	竈殿	切紙	1	
66	1553	12			(近世)7月	(下知状へ加入の箇条ニ付願)	公建他4名		竪紙	1	15通こより一括の内
67	964				12月22日	口伸	親盛	羽倉出羽守殿他3名	続紙	1	
68	728				(近世)	山城国紀伊郡稲荷社法新規混雑之書付	社家惣中(印)	御奉行様	竪帳	1	破損甚だし
69	747				(近世)	願書草案(秦家社務古例改変につき羽倉摂津守訴状)	稲荷社家御殿預羽倉摂津守他1名	御奉行所	竪帳	1	寛政頃か
70	759				(近世)	(社司惣代と愛染寺の出入文書書出)			横半帳	1	
71	767				(近世)	社法格式之略記			横帳	1	
72	816				(近世)	(愛染寺御請証文書入及び出入等箇条書出)			横帳	1	
73	845				(近世)	社法格式之家記			竪帳	1	外題
74	1216				(近世)	本願所愛染寺より差出シ候願書之返答書(当社修理方之儀等返答書)			竪帳	1	
75	1553	13			(近世)	社法之事(内陣外陣等着座			切紙	1	15通こより一括の内
76	2683	1			(近世)	(稲荷山西光寺開基人名寂年書付)			竪切紙	1	2通(2683-1～2)封入の包紙・こよりあり、包紙上書「西光寺浄安寺開基之年月之書付弐通」、包紙裏書「堂上之筆」、端裏書「西光寺開基之書付」
77	2683	2			(近世)	(稲荷西内浄安寺開基人名寂年書付)			竪切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
78	3250	10			(近世)	稲荷社御祈祷巻数	(愛染寺)		竪紙	1	

C－3－3　社領・財政

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2697				明応2年閏4月16日	預り申稲荷御神領備後国杭庄地頭領家代官職之事(写)	小早川美作守敬平判	稲荷社神主殿	竪紙	1	包紙あり
2	1622				天正17年3月7日	(材木皆済状)	稲荷雑掌宗成(花押)	尼崎町材木屋次兵衛殿	切紙	1	前欠、裏継目花押印
3	2738	3			元和元年7月21日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)		稲荷社家中	続紙	1	従五位上社務毛利左近公度他4名署名の継紙あり
4	2687	8			元和元年7月27日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)	後朱印	稲荷社家中	竪紙	1	包紙あり
5	2687	9			元和元年7月27日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)	御朱印在之	稲荷社家中	竪紙	1	包紙あり
6	2738	1			元和元年7月27日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)		稲荷社家中	続紙	1	包紙上紙「御朱印之写　正官五人連判」、こよりあり、従五位上社務毛利左近公度他4名署名の継紙あり
7	2687	6			元和3年7月21日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)	御朱印	稲荷社家中	竪紙	1	包紙あり
8	2687	7			元和3年7月21日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)	御朱印在之	稲荷社家中	竪紙	1	包紙あり
9	2687	4			寛永13年11月9日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)	御朱印	稲荷社家中	竪紙	1	包紙あり
10	2687	5			寛永13年11月9日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)	御朱印在之	稲荷社家中	竪紙	1	包紙あり
11	2738	2			寛永13年11月9日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)		稲荷社家中	続紙	1	従五位上社務毛利左近公度他4名署名の継紙あり
12	1998				寛永14丁丑年2月11日	(若宮遷宮中之参銭進退ニ付一札)	目代玄蕃延次(花押)	竈殿	竪紙	2	包紙
13	1605	1			慶安3年7月8日	(内外陣之御鍵を後家預りニ付評定願)	御殿預荷田信吉	稲荷社伝奏白川三位様	竪紙	1	五通こより一括の内
14	2723	6			万治3年子ノ12月25日	指上申書物(娘とも当社明神の御子に仰付ニ付書物)	松本左兵衛(花押)	彦十郎江	竪紙	1	
15	2687	3			寛文5年7月11日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)	御朱印		竪紙	1	包紙あり
16	2717				寛文9年酉3月5日	預り申神供領銀子之事(丁銀壱貫目)	祈願所松本大膳為起(花押)他1名	取次羽倉主膳殿他1名	竪紙	1	包紙上書「明神様正月十五日御供領銀之預り手形也　大膳殿」、こよりあり
17	1582	2			延宝2年10月13日	預り申屋敷之事(西内四至方地)	浄安寺玄奥印	松本左太郎様	竪紙	1	乙卯霜月に本家松本家が改た旨あり
18	2687	2			貞享2年6月11日	(山城国稲荷廻百六石朱印状写)	御朱印		竪紙	1	包紙あり
19	1553	1			元禄3年午6月5日	奉差上一札之事(稲荷前狐大切ニ付悪敷犬養育禁止請書写)			竪紙	1	15通こより一括の内
20	1558				元禄3年午6月5日	差上一札之事(稲荷前町々之者大切ニ心得、悪敷犬養置申間敷旨五人組頭連判一札)			竪紙	1	包紙あり
21	1632	2			(元禄7年7月24日～11月3日)	白狐社仮殿散銭員数之帳	羽倉主膳(印)		横帳	1	
22	1632	1			(元禄7年8月10日～11月4日)	本社仮殿散銭員数之帳	目代羽倉玄蕃、御殿預羽倉主膳		横帳	1	包紙あり
23	1568	7			元禄7年10月21日	一札之事(御前町玉屋籠屋證文之写)	稲荷門前町籠屋吉兵衛、玉屋次右衛門、年寄甚兵衛	松本信濃様他5名	竪紙	1	包紙あり
24	1564				元禄7年11月	覚(御社番人の札売等ニ付下知状)	淡路守		続紙	1	
25	3336				元禄9丙子年正月23日	家屋敷買請状之事	買主仁右衛門(印)他5名	稲荷御前町年寄甚之丞殿、同御町中	竪紙	1	
26	1621				元禄13年辰ノ正月28日	古池用木目録(溜池普請用木目録)	庄屋源右衛門判他4名	御社中様	竪紙	1	
27	2693	2			元禄16年未ノ6月	一札之事(着類其外品々失物吟味ニ付一札)	神人壱老尾崎帯刀(印)他1名	御月番羽倉主膳様	竪紙	1	
28	732				元禄16癸未年12月	(召使下部等疑敷者吟味之旨公儀御触につき社家請書)	橋本将監(印)他12名		竪帳	1	
29	2693	1			元禄16年未12月	一札之事(着類其外品々失物吟味ニ付一札)	稲荷社神人尾崎帯刀判他6名	御奉行様	竪紙	1	2通(2693-1～2)封入の包紙あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
30	2713	4			元禄16年未12月	一札之事(着類其外品々失物吟味ニ付一札)	旅所役人生嶋右京印他1名	稲荷山御社家中	竪紙	1	
31	1624				元禄17年申正月26日	一札(地蔵御備田売却証文)	授取院旦那源右衛門(印)他7名	御社中様并愛染寺様	竪紙	1	包紙上書「元禄十五年祓川之内地蔵田買上ケ候節證文　祓取院旦那」
32	2704				宝永6丑年4月7日	御代々稲荷社中為惣代江戸江参府仕候事	稲荷正官御殿預羽倉主膳他1名		続紙	1	包紙あり
33	2711				正徳元卯年5月15日	乍恐言上(御朱印頂戴願書)	稲荷社神人一藤尾崎帯刀(印)他4名	御奉行様	続紙	1	包紙上書「家属神人印形之書付」
34	3331				正徳元年5月晦日	(稲荷社拝領朱印状の手目録)	山城国紀伊郡稲荷社権御殿預羽倉民部少輔他1名		竪紙	1	包紙・手札2点あり、「江戸宿鉄炮洲舩松町壱丁目市郎兵衛店羽倉斎」の記載あり
35	750				(正徳5年未3月13日～12月)	権祝松本兵部秦為長乱心一儀(妻殺害一件)	御殿預家		竪帳	1	
36	2687	1			享保3年7月11日	(山城国紀伊郡稲荷明神領朱印状写)	御朱印		竪紙	1	9通(2687-1～9)が封入されていた上包(「元文五年申十一月二日東御役所へ上候写也」と2687-1のみが入っていた包紙あり、こよりあり
37	2723	4			享保3戊戌年12月21日	口上書(私共困窮ニ付衆評願)	雑仕(印)、神人中(印)	正官御衆中様	竪紙	1	
38	3258				享保6丑年正月	奉差上御断之口状(庄屋年始御礼ニ付口状)	稲荷社司中	御奉行所様	竪紙	1	
39	2707	1			享保7寅年正月	亀鑑(丁子屋寄進により神供料田相定置証文)	正目代羽倉駿河信元(印)他1名	御殿預羽倉主膳殿他1名	竪紙	1	包紙あり
40	2707	2			享保7壬寅年正月	相定置神供料田之事(丁子屋寄進によい神供料田相定置証文)	目代羽倉駿河(印)他5名	御殿預羽倉主膳殿他1名	竪紙	1	
41	1999				享保10年乙巳5月	御社用金銀銭納之記	安田安芸守(印)他5名		竪帳	1	
42	1689				(享保10年正月13日～8月10日)	御社修理産子中寄附之雑記	正預信名(花押)		竪帳	1	
43	1688				享保12年10月	勝手向雑式之簿			竪帳	1	表紙下部破損
44	2714	2			享保17年子ノ6月8日	一札之事(此度町宅仕ニ付)	いつミや市郎兵衛(印)	御月御当番様	竪紙	1	
45	2241				享保17年壬子年中秋	稲荷谷響集　全(稲荷社古書抜書并社領書出)	稲荷社司秦何某(毛利信盛)等		竪帳	1	奥書に安永甲子の冬付荷田信郷の識文あり
46	2714	1			享保19寅5月	乍恐口上書之覚(左兵衛小屋立物之分御払相続願書)	願主かぎや長右衛門(印)	御奉行様	竪紙	1	
47	2714	6			享保19寅年7月	指上申一札之事(鎌屋左兵衛役職相続ニ付)	願主鎌屋長右衛門(印)	大西近江守様他5名	竪紙	1	端裏「弐」
48	1553	2			寛保元年酉8月11日	奉願口上之覚(稲荷山内山荒らし禁止ニ付触流願)	稲荷社務大西他5名		切紙	1	15通こより一括の内
49	2111				寛保2年戌5月2日	覚(御社番人の札売の件等ニ付元禄七年小出淡路守下知状写)	社務		続紙	1	包紙あり
50	2012				(延享元年5月26日)	新稲荷山社頭之略図(官幣使御参向式之図解)	(在満筆)		鋪	1	彩色、官幣式の社家社人の位置を付箋で示す
51	774				延享元年甲子10月	山城国紀伊郡稲荷社境内之図	松本右膳所持		鋪	1	
52	2219				延享3寅年	毛利故三位公広卿関東下向日記、関東御代始御礼之事、同御朱印御改之事	毛利豊後守公林抜粋		竪帳	1	天明の記述もあり
53	2019				延享4丁卯年7月	伏見町絵図			鋪	1	彩色
54	1590				(宝暦～明治3年)	(東羽倉御家領御年貢米納帳綴)			竪帳	1	8冊合綴
55	1726				(宝暦4年正月7日～12月20日)	(御用留)			竪帳	1	表紙欠
56	1135	4			宝暦10年辰3月	御社用出納勘定帳	常用方卯年預羽倉摂津守		竪帳	1	表紙「御社用出納勘定帳　卯年常用方羽倉摂津守」
57	1135	10			宝暦10年辰3月	御社用出納勘定帳　四	常用方卯年預羽倉摂津守(印)		竪帳	1	表紙「卯年常用方羽倉摂津守」
58	1231	3			宝暦10年辰3月	常用方渡目録　三	正預信郷(印)	月代殿	竪帳	1	表紙「卯年常用方羽倉摂津守」
59	1231	4			巳3月	渡目録　四(常用方渡目録)	信之	社務殿	竪帳	1	
60	1135	5			宝暦12年午3月	常用方渡目録	正預信郷	目代殿	竪帳	1	表紙「卯年常用方羽倉摂津守」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
61	1231	5			(宝暦12年)午3月	常用金銀渡目録 六	社務		竪帳	1	表紙「宝暦十二年午三月 常用方金銀銭渡目録 社務」、官幣大社稲荷神社社務所封筒あり
62	2699				明和元年申10月	覚(竈家家領尾崎要人持地境目証文)	尾崎要人(印)他2名		竪紙	1	包紙あり、「仏光寺田田地境目証文」
63	1135	2			明和2酉年3月	御社用出納勘定帳	常用方申年預羽倉摂津		竪帳	1	
64	1135	8			明和2年酉3月	山内刈柴売払勘定	大西相模守他5名		竪帳	1	表紙「申年常用方羽倉摂津守」
65	2712				明和2年酉10月	一札之事(稲荷山社法仰渡百姓連印状写)	稲荷村庄屋藤之丞印他	稲荷御社御月番様	続紙	1	包紙、端裏あり
66	2005				明和4年丁亥正月	稲荷社御朱印御下知状并屋形附年中行事写	正預信郷(花押)		竪帳	1	表紙「御殿預家」、051221種村氏に渡す
67	1200				明和4年丁亥2月5日	稲荷御社領帳	正預信(花押)(印)		竪帳	1	写、戌6月に作成の社領帳を、明和4年2月尾崎外記潔定75歳が写したものを、正預が書写
68	827				(明和5年3月18日～明和6年11月9日)	(太鼓子供張替につき科料申渡等写)			竪帳	1	
69	2701	1			(明和6)丑年11月	口上之覚(尾崎帯刀死去後の役入ニ付覚)	一臈尾崎外記(印)		続紙	1	2通(2701-1～2)封入の包紙あり
70	2701	2			(明和6)丑年11月	口上之覚(役入せず別席を立てる儀承知ニ付覚)	辻権之助(印)		竪紙	1	
71	1135	3			明和7年寅3月	御社納并諸払勘定帳	丑年中常用方羽倉摂津		竪帳	1	
72	1135	11			明和7年寅3月	根堀木并ヶ所内刈柴勘定帳	大西三位他5名		竪帳	1	表紙「丑年中常用方羽倉摂津守」
73	1135	1			(明和7年)	常用方勘定帳控(宝暦十・明和二・七年分)	辰年預・寅年預・丑年預羽倉摂津守		袋	1	包紙あり「東羽倉宗本 在中」
74	2471				安永2年巳3月	奉公人請状之事(奉公人礒平、給銀70匁)	伏見尼崎町丹波橘下町日野屋請人庄八(印)他1名	羽倉摂津守様御役人中	竪紙	1	
75	1582	1			安永8年亥12月	譲り渡申田地之事(字長田稲荷領上田壱反余、銀五百目にて譲渡)	新之丞他2名	稲荷御社中様	竪紙	1	1582を一括した包紙あり
76	2723	1			安永8年亥12月	差上申一札之事(字長田稲荷領の上田一筆請作仰付ニ付)	新之丞(印)他1名	稲荷御社司中様		1	包紙あり
77	837				天明8戊申年2月15日	七箇年倹約定書	正預家控		竪帳	1	
78	2077				寛政元年酉6月	乍恐奉願口上之覚(稲荷社修復大鳥居再建ニ付冨興行願)	山城国紀伊郡稲荷惣代田中内蔵判	寺社御奉行所	竪帳	1	仮綴
79	1050				寛政9年庚申	御旅所神人田中近江秀国相手取公事一件	(花押)		竪帳	1	
80	829				享和元酉年10月	御旅所中友田より指出書附之留			竪帳	1	
81	1053				享和3年亥7月	御朱印高葵御紋并寺社官位御礼席其外御尋之御触	松尾左兵衛		竪帳	1	表紙「稲荷社扣」
82	770				(享和4年子正月18日～2月29日)	雑記			竪帳	1	表紙「享和四年子正月」
83	2242				文化3年9月5日写	谷響記 上下(写、山城国紀伊郡稲荷社古書抜書并社領書出)	田中社祝従四位下行出雲守秦公溟御判		竪帳	1	原本は享保17年中秋毛利信盛作成、天保14年以降毛利公溢が加点をした旨の奥書
84	1583				文化4丁卯年5月	御礼一紙之事(土蔵取立ニ付御礼一札)	森豊後守(印)他1名	羽倉摂津守殿	竪紙	1	包紙あり、日次記書抜1枚添付
85	3534	6			(文化年間)	(近松久左衛門より借用銀子返弁之事日記断簡)			竪帳	1	文化13年の記述あり
86	2007				文政2年	常用方年貢米帳	東羽倉家		竪帳	1	
87	1231	2			文政4年巳2月27日	御本殿仮殿藪銭帳	羽倉摂津守、羽倉伯耆守		横帳	1	
88	1231	1			文政7申年12月改	御社用常用方借財之覚	年番羽倉摂津守		竪帳	1	
89	2700				天保2年8月	口上之覚(境内百姓亀吉宗門差上申さざるニ付届書)	年寄西村源左衛門(印)	御年番羽倉摂津守様御役人中	竪紙	1	包紙あり
90	2009				天保4巳年11月11日	御奉射領御年貢米覚書	年寄源左衛門他1名	羽蔵摂津守様	竪帳	1	
91	782				天保9年12月	五箇年省略定書	信純扣		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
92	3347				5月2日	(夜分之見廻り他五ヶ条触書)	信資	三位殿他3名	続切紙	1	信資は天保8年に卒
93	956				(天保頃)	乍恐以書付奉願上候(諸古銅買集所取立願)	大仏本町八丁目松屋利兵衛他2名		竪帳	1	
94	844				嘉永4亥年11月	御大礼御手当調達金御仕法帳	御室御所御勘定所(印)		横帳	1	
95	738				嘉永5子年5月	持寄勘定頼母子仕法帳	村方中(印)		竪帳	1	
96	2698				嘉永5壬子年9月	人別送り一札(身内元次郎御府内相撲年寄方に同居ニ付一札)	日本惣本宮城州紀伊郡稲荷社羽倉摂津守		竪帳	1	
97	2674	1			嘉永7寅年3月	一札(御役所御用金銀の内40両拝借ニ付一札)	城州紀伊郡稲荷村稲荷社家羽倉摂津守(印)他3名	宮西九郎兵衛殿	続紙	1	
98	2674	2			嘉永7寅年3月	奉預御金之事(御役所御用金銀の内40両拝借ニ付証文)	城州紀伊郡稲荷村稲荷社家借主羽倉摂津守(印)他3名	宮西九郎兵衛殿	続紙	1	端裏あり
99	2674	3			嘉永7寅年3月	奉預御金之事(御役所御用金銀の内10両拝借ニ付証文)	城州紀伊郡稲荷村稲荷社家借主羽倉摂津守(印)他3名	宮西九郎兵衛殿	続紙	1	端裏あり、無利足
100	2708	5	3		(安政4年巳)	(稲荷社大鳥居柱木関係文書控)			竪帳	1	仮綴
101	823				安政6未年3月17日	東羽倉家領御年貢米納帳	庄屋弥四郎他1名	羽蔵摂津守様	竪帳	1	
102	2015				慶応4辰年5月27日	(稲荷社境内仏寺取払箇所絵図)	(竈屋蔵)	(太政官宛)	鋪	1	彩色
103	2018				明治元年辰12月	(稲荷社境内粗絵図)			鋪	1	京都府提出の控
104	830				(文久元酉年12月7日～明治2巳年12月)	(東羽倉家年貢等納入納帳)			竪帳	1	4冊合綴
105	2708	1	3		(明治2年)巳6月23日	覚(稲荷社神人被下物などニ付覚)	稲荷社社司中	神祇官御役所	折紙	1	
106	797				明治3庚午年6月	稲荷社神領高并職領家領神供調進巨細書	稲荷社一社中印	神祇官御役所	竪帳	1	表紙「稲荷社控」
107	2076				明治3庚午年6月	(稲荷社旧領神領高之内職領家領并神供調進巨細書下書)	稲荷社一社中		竪綴	1	仮綴
108	1579				明治3午年9月	乍恐奉願口上之覚(拝借地に物置取立願)	願主多助(印)	御地頭羽倉御殿預様御役人中	竪紙	1	包紙あり
109	766				明治4辛未年9月	当所請地雑記抜草			竪帳	1	
110	1636				(明治7～12年)	(年貢米相場、売却物品写等一括)			切紙・横帳	15	文箱入、切紙14点、横帳1点
111	1111				明治8年6月	稲荷神社従前朱印地収額之内配当受居候米其外取調帳	稲荷神社旧神官御殿預羽倉信義	京都府知事長谷信篤殿	竪帳	1	控と合綴、青色罫紙使用
112	2016				(明治初年)	(稲荷社境内、稲荷山絵図)			鋪	1	境内地を黄色で示す
113	824				子11月	御瓦板延立職人肝煎之者共申立候儀二付奉申上候書付	松田甚兵衛印	(御勘定所)	竪帳	1	
114	1135	6			寅3月	常用方渡目録	丑年中常用方信郷	伯耆守殿	竪帳	1	
115	1135	7			酉3月	常用方渡目録	申歳常用方信郷	目代殿	竪帳	1	
116	3312	11	5		正月12日	(書状断簡)	尼崎屋吉左衛門為光(花押)	羽倉筑前之助様	折紙	1	襖下張、前欠
117	779				(近世)	山城国紀伊郡稲荷社雑記(稲荷社領高等書付)			竪帳	1	
118	1112				(近世)	稲荷山并社頭惣絵図			鋪	1	包紙あり
119	1215				(近世)	稲荷社頭新図			鋪	1	色彩あり
120	1553	10			(近世)	一札之事(小百姓歩役合力ニ付一札)	庄屋たれ他1名	御社中様	竪紙	1	15通こより一括の内
121	1563				(近世)	御社頭間数書(稲荷社間数覚と稲荷山社之図)			続紙	2	
122	2014				(近世)	(稲荷本社周辺粗絵図)			鋪	1	
123	2085					(御朱印頂戴行列書)			続紙	1	
124	2688	1			(近世)	稲荷旅所古殿絵図			鋪	1	2通(2688-1～2)封入の包紙・紐あり
125	2688	2			(近世)	稲荷旅所新殿願之絵図			鋪	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
126	2710	2	2		(近世)	神前御供配領之覚			竪紙	1	包紙上書「退供之書 信詮筆」、端裏「大神供之退供拝領之次第書」
127	2744				(近世)	山城国紀伊郡京都稲荷本山自往古唯一之神社と相立来候処近年新社ニ社格悉混雑仕候儀共乍恐奉達上聞置度奉言上候事			続紙	1	こよりあり
128	3228	1			(近世)	(稲荷社境内絵図)			鋪	1	彩色、一部欠損
129	3228	3			(近世)	(稲荷境内図断簡)			鋪	1	伏見海道、鳥居周辺のみ
130	3285				(近世)	(散銭等金銭書上)			横切紙	1	綴穴あり、紙背に書状あり
131	3534	14			(近世)	(御朱印改め触書等写断簡)			竪帳	1	
132	2102				(近代)	(天正十七年稲荷境内図写)	継長		続紙	1	

C－3－4　稲荷山・松茸

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1565	1			(慶長)10月3日	稲荷社神主謹言上(稲荷山之儀社家進退願)	いなり神主	大久保石見守様	竪紙	1	1565を一括した包紙あり、包紙上書「大久保石見守様」、こよりあり、慶長18年以前
2	1565	2			(慶長)10月8日	稲荷社神主重言上(稲荷山ニ付社家進退願)	いなり神主	大久保石見守様	竪紙		慶長18年以前
3	1602	8			寛文9年酉極月21日	(当山御吟味ニ付山荒らし穿鑿連判一札)	社務大西伊豆新候(花押)他12名		続紙	1	「本願所古証文写十通」の内、竪紙を継いでいる
4	3250	4			寛文9年酉ノ12月21日	差上申一札之事(稲荷山伐荒・盗人禁止ニ付、稲荷神主・東福寺泉涌寺役人・寺社領庄屋連署請書)	稲荷中神主松本主水他17名		竪紙	1	端裏「羽倉主膳信詮筆」
5	2086				寛文9年12月	(稲荷山御吟味山荒らし制禁ニ付社家庄屋肝煎等連判請書)	大西伊豆親修(花押)他		続紙	1	
6	1580				寛文10年戌2月19日	稲荷山盗人見付来ル者ニ褒美之事	稲荷社家中(印)	当所村中	竪紙	1	
7	1606				寛文10年戌2月19日	当山松茸制法之事	社務大西伊豆之介親倶(花押)他27名		続紙	1	
8	2691	1			延宝3年卯小春吉日	苅柴札奉行連判一札之事(山中苅柴ニ付証文)	羽倉主膳信詮(花押)他2名	稲荷社中御衆中	竪紙	1	4通(2691-1～4)封入の包紙・こよりあり
9	186				(延寶6午年8月23日～12月12日)	(延宝六年松茸等献上覚)	松本信濃守(花押)他9名		横帳	1	信詮の時代のもの
10	2691	2			元禄5年申ノ11月9日	承届請状之事(山内払木請負証文)	かい主五条通仏師町市助(印)他1名	稲荷大明神様、肝煎市之丞殿他1名	竪紙	1	
11	2691	3			元禄5年申ノ11月11日	稲荷明神へ指上申神文之事(山内枯木払下請負神文)	肝煎市之丞(花押)他1名	稲荷大明神様	竪紙	1	
12	2691	4			元禄5年壬申ノ11月20日	稲荷御社江指上申信文之事(山内払木請負信文)	尾崎太左衛門(印)	稲荷御社御社家中様	竪紙	1	
13	2730				元禄14年巳9月	当山松茸指上御奉行帳三			横帳	1	享保2年9月5日までの記録あり
14	2673				元禄16年癸未10月	覚(稲荷山下刈取締法度)	一社中		続紙	1	包紙上書「元禄十六歳山内法度書」、こよりで結ぶ
15	1104				正徳2年辰7月	松木穫勘定	尾崎喜六(印)	羽倉主膳様他1名	竪帳	1	
16	2714	5			正徳3癸巳年11月	定(山内法度請書)	かぎや吉兵衛(印)他7名	山御役人西村尉右衛門殿他1名	竪紙	1	
17	2679	1			享保3年戊戌4月29日	乍恐奉願上候(山札不所持にて困窮ニ付山札拝借願)	悴六兵衛(印)1名	御山役人尾崎友之助様	竪紙	1	3通(2679-1～2)封入の包紙あり、包紙上書「掃除加役人證文」
18	2679	2			享保3年戊戌5月7日	指上ヶ申一札之事(山札拝借ニ付一札)	悴六兵衛(印)1名	御山役人尾崎友之助様	竪紙	1	
19	1576				享保3戊戌年12月19日	立故松木穫勘定	尾崎友之助(印)他1名	羽倉主膳様	竪帳	1	
20	2733	2	4		享保4年亥3月8日	杣手形之事(松之根出拝命ニ付杣請状)	本人吉兵衛他2名	御役人衆中様	竪紙	1	
21	2082				寛延4年辛未10月23日	稲荷山ヶ所附	羽倉左門		横帳	1	表紙「権目代」
22	2081				宝暦元年辛未11月7日改之	新改稲荷山ヶ所附牒	正預荷田信賢		横帳	1	表紙「荷田信賢(印)」
23	1135	9			宝暦10年辰3月	根割木并苅柴売払勘定帳	安田三位他5名		竪帳	1	表紙「常用方卯年預御殿預」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
24	1105				宝暦11年巳3月	松葉苅柴売払勘定帳 五	安田三位(印)他5名		竪帳	1	表紙「羽倉伯耆守」
25	2002				宝暦12年午3月10日	御膳ヶ谷栗木谷松木伐銀請取并渡方覚帳	月番大西相模守(印)		竪帳	1	表紙「六ノ下」
26	2003				宝暦12年午3月	松茸ヶ所下刈売払勘定	常用方大西相模守(印)		竪帳	1	
27	828				明和3年戌12月より同4年亥4月	当山内之儀ニ付従御諸司代御尋之一件	御殿預家扣		竪帳	1	
28	3137				明和4年亥正月	就御尋口上書(山内縄張内の枯木根堀ニ付口上書控)	連印		続紙	1	端裏「明和四年亥正月根堀之義ニ付請書扣」
29	781				安永8年6月9日	山内御見分之節差出候書附控	稲荷社松本筑後守他6名	御奉行所	竪帳	1	
30	763				(安永8亥年3月10日～7月)	山内御尋一件諸書附	正預控		竪帳	1	裏表紙に花押あり
31	2727				安永8年亥6月	就御尋口上書(松茸仕来之通社中切ニ取計願)	稲荷社六人連印	御奉行所	続紙	1	包紙・こより・端裏あり
32	787				(安永10年4月～天明6年4月)	(松茸掛申し渡しに関し古格相違につき対応の留)			竪帳	1	文化5年8月の写
33	2378				天明8年申正月13日	奉差上口上書(御所司様銚松六門分運送人足入用代銭願状)	稲荷一社惣代羽倉摂津守(印)	御奉行所	竪紙	1	
34	817				(寛政11未年9月)	(山内松茸出生箇所入込候人取扱方口上書等留)			竪綴	1	
35	740				享和2年戌5月	御所司代土井大炊頭様江差上候願書写(松茸御用につき旧例仕来遵守願)	稲荷社惣代務大西下総守印他2名	土井大炊頭様御役人中	竪帳	1	
36	760				文化4卯年10月	稲荷山内風折木員数之覚控	稲荷社務大西下総守印	御奉行所	竪帳	1	
37	746				文化5年9月	山内松茸御用御取立方定例相違不得御取立一件書付之留	稲荷社		竪帳	1	
38	745				(文政12丑7月22日～10月11日)	松茸中雑記(松茸御用日記)	御殿預		竪帳	1	
39	812				(天保6未年後7月11日～9月24日)	松蕈中雑記	当舎摂津守		竪帳	1	
40	2075				天保12丑年7月	松茸中雑記	当舎竈家		竪帳	1	
41	780				弘化3午年	松茸御用中雑記	当舎中津瀬陸奥守		竪帳	1	
42	2999				(近世6月13日～10月1日)	(山内伐木出入一件日記)			続紙	1	
43	1991				7月6日	口上之覚(変死人一件)	稲荷一社惣代松本能登守無印		竪紙	1	
44	2737	16			9月2日	(松茸取役人派遣ニ付触書)	和田与市他3名	稲荷山一社中	切紙	1	
45	3534	8			(近世)	口上之覚(稲荷山内変死人の事社家より御訴訟不申上訳御尋ニ付返答書)	(稲荷社)		竪紙	1	
46	3534	10			(近世)	(稲荷社小百姓使役之義ニ付詮議書断簡)			竪紙	1	
47	739				(近世)	内々演説書(松茸多産のため立枯風松根堀願)			竪帳	1	宝暦以降か
48	744				(近世)	稲荷山松茸出生ヶ所間数	正預家控		竪帳	1	
49	1553	5			(近世)	(稲荷山松茸一件日記書抜)			続紙	1	15通こより一括の内
50	1988				(近世)	尤御尋口上之覚(二条御飾松献上由緒書上)			竪紙	1	後欠
51	1990				(近世)	(御飾松献上之例捨ニ付請書他御用留断簡一括)			断簡	3	
52	2708	5	4		(近世)	(松茸関係日記断簡)			竪帳	1	綴紐なし
53	3534	1			(近世)	(小出淡路守下知状等稲荷山松木伐取関連書留断簡)			竪帳	1	3534-1～29まで一括
54	3534	2			(近世)	(風折見分ニ付書状等書留断簡)			竪帳	1	稲荷山関連以外の記事あり
55	3534	11			(近世)	(稲荷社山内仕来混雑之訳御尋ニ付返答書断簡)			竪帳	1	
56	3534	17			(近世)	(山ノ口開の事ニ付廻文等日記断簡)			竪帳	1	
57	3228	2			(近世)	(稲荷山絵図)			鋪	1	
58	3228	4			(近世)	(稲荷山絵図)			鋪	1	

C－3－5　社殿修復・神具・調達

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1996				天正16年9月17日	(稲荷大明神本社末社社殿再興書上)	社務長種(花押)他4名		続紙	1	包紙「天正十六年九月正官五人連判之社附之本紙」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
2	2680	1			寛永10年4月21日	(稲荷社修理等油断なく仕るべき旨ニ付一札)	愛染寺実(花押)	御社家中様	切紙	1	4通(2680-1～2)封入の包紙あり、包紙裏に「金弐百疋」、端裏書「愛染寺宗(花押)」
3	1415				寛永14丁丑2月11日	(目代延次若宮建立に関する訴訟文書写)			竪紙	4	
4	2710	5			寛文3暦2月	稲荷社造之式	稲荷御殿預従五位上荷田宿祢信詮		続紙	1	
5	2724				延宝2年寅9月吉日	(延宝二年八月・九月神供調進戸開ニ付覚)	御殿預荷田信詮書之		竪紙	1	包紙上書「御鑑事 信詮公筆」、こよりあり
6	1103				元禄6年酉12月13日	三ヶ所鳥居祢次入用帳	大工権太夫(印)	愛染寺様御納所	竪帳	1	愛染寺奥書あり
7	1568	4	4		(元禄7年)戌3月	覚(稲荷社遷宮ニ付若宮仮殿等調度新調願)	稲荷社中		折紙	1	包紙「御殿内陣并濱床等書付」
8	2011				(元禄7年)戌3月	(稲荷社遷宮ニ付若宮仮殿等調度新調願)	稲荷社中		横帳	1	仮綴
9	1568	4	1		(元禄7年)7月28日	口上(仮殿清祓・遷宮奉幣ニ付口上書)	御殿預羽倉主膳他1名	白川三位様御雑掌中	折紙	1	1568-4を一括していた包紙あり、包紙上書「元禄七年御修理之節書付入」、こよりあり
10	1604				(元禄7年)7月28日	(当社木造始之儀御尋ニ付返答書)			続紙	1	端裏「本願所再答一所ニ御答之留」
11	1568	4	2		(元禄7年)8月5日	(仮殿清祓・遷宮奉幣ニ付口上書)			折紙	1	
12	3250	7			元禄7甲戌年11月	差上申一札之事(稲荷社修復出来ニ付抽勤之旨社家連署請書)	松本信濃他23名	御奉行所	続紙	1	
13	1226				(元禄7年戌11月～12月)	(神人五人番料・炭油料・掃除人両人料請取覚書)	(尾崎外記)	(御月番大西備前様)	竪帳	1	
14	1568	4	3		(元禄7年)	(正遷宮ニ付日時定陣儀等書付)			折紙	1	
15	1568	4	5		(元禄7年)	覚(若宮仮殿構之事等書付)			折紙	1	
16	1568	8			元禄7年戌	稲荷社御修復ニ付命婦社白狐社御仮殿仕様入札帳			竪帳	1	
17	2000				享保16年年亥ノ12月2日	稲荷鏬大鳥居仕様帳	小川山城	稲荷御社中様	竪帳	1	
18	1544				(享保)	稲荷社御修復之覚(修復費用覚)			続紙	1	包紙あり
19	2706	2	1		延享元年9月	乍恐奉願口上書(大鳥居成就ニ付奉納能興行願書)	稲荷社務大西近江守(印)他5名	御奉行様	続紙	1	包紙あり、絵図付
20	2706	2	2		延享元子年9月11日	口上書(大鳥居成就ニ付奉納能興行願書)	土肥藤左衛門(印)門弟	大西近江守様他5名	竪紙	1	
21	1106				延享2年乙丑2月	御社用鳥居方丑・寅・卯・辰勘定帳	大西近江守他5名		竪帳	1	享保18～21年分
22	1137				延享2年乙丑3月	享保拾八癸丑年修理方勘定帳	大西近江守他5名		竪帳	1	表紙に「享保十九年寅四月」
23	2706	1			延享元甲子歳9月27日	稲荷大明神御宝前奉納能番組	世話人田中蔵之丞他6名		続紙	1	
24	2726	5				御本社神宝物寸尺之秘記			竪帳	1	「正預家一子相伝之書信名筆」
25	2708	8			(宝暦10年)辰2月	口上之覚(神事用木取許可願)	稲荷社惣代羽倉伯耆守(印)、同本願所愛染寺(印)	広瀬郷三郎殿、大塚祐左衛門殿	折紙	1	包紙あり
26	761				宝暦10辰年3月	御修覆取退講支度諸雑用帳全	常用方羽倉摂津守(印)、本願所愛染寺(印)		竪帳	1	
27	2708	7	4	1	(宝暦10年辰11月28日)	(御修理成就之砌楽目録)			折紙	1	2708-7-4-1～2入りの包紙あり、包紙上書「宝暦十年辰十一月廿八日御修理成就之砌楽目録出勤連名楽頭多上野助」
28	2708	7	4	2	(宝暦10年辰11月28日)	(御修理成就之砌出勤連名)			折紙	1	
29	2723	5	1		明和3年2月	証文之事(稲荷社神幸道祓川石橋掛直し二付請負証文)	請負 白川石屋治左右衛門(印)	稲荷御役人中様	竪紙	1	こよりあり
30	1553	9			明和3年戌3月	(神幸道祓川石橋修補覚)	正預信(花押)		竪紙	1	15通こより一括の内、修理料の記述あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
31	2723	5	2		(明和3年)戌3月	願上候口上書(稲荷社内神幸道祓川石橋掛直しニ付人足入用増分として銀子増払願)	石屋治左右衛門	羽倉摂津守様	竪紙	1	
32	2167				安永元年丑5月18日	稲荷古御旅所新規普請ニ付旅所神役人共と出入御裁許書之写	稲荷社		竪帳	1	
33	2680	3			安永3年午9月	絵馬舎并物置造立御願	稲荷社務大西三位他5名	御奉行所	続紙	1	絵図あり、端裏「絵馬舎并物置造立御願」
34	2383				天明3年卯7月	預り申銀子之事(銀140匁余)	預り主羽倉摂津守(印)	尾崎帯刀殿、尾崎衛守殿	切紙	1	
35	836				天明7未年9月	稲荷社大鳥居再建絵馬舎造立積書	長谷川権大夫印		竪帳	1	奥書あり
36	785				寛政2戌年9月	大鳥居再健一件之記	正預控		竪帳	1	
37	840				寛政4子年5月	稲荷本社絵馬舎造立元積之覚			竪帳	1	
38	2380				(寛政10年か)午2月2日	覚(絵馬社材木代差引覚書)	尾嶋屋吉左衛門(印)他1名	羽倉筑前之助殿他1名	続紙	1	筑前介任官は信郷のみ
39	3312	11	8		(寛政10年か)7月9日	(大仏殿火災・材木代金等ニ付書状)	真嶋林圭	羽倉筑前介様	切紙	1	襖下張、前後欠
40	2387				寛政10午年8月	証文之事(絵馬舎材木代銀借用証文)	羽倉筑前介(花押)(印)	松屋町他2町御世話方中	竪紙	1	
41	3312	11	7		(寛政10年か)11月16日	(材木代十両尼吉へ受渡之儀ニ付書状)	真嶋林圭	羽倉筑前介様	切紙	1	襖下張、筑前介任官は信郷のみ
42	1989				寛政	口上之覚(大鳥居柱木注文ニ付願書)			竪紙	1	
43	3312	11	1		(近世)4月15日	(材木代催促ニ付書状)	尼崎屋吉左衛門	羽倉筑前介様	続紙	1	襖下張、筑前介任官は信郷のみ
44	3312	11	3		(近世)6月6日	(掛合之件等ニ付書状)	尼崎屋吉左衛門	羽倉筑前介様	切紙	1	襖下張、前欠、筑前介任官は信郷のみ
45	3312	11	4		(近世)7月11日	(材木代等ニ付書状)	尼崎屋吉左衛門	羽倉筑前之助様	続紙	1	襖下張、後欠
46	2384				(近世)午年7月27日	絵馬舎材木代覚	大坂尼崎屋吉左衛門	稲荷御本社御一社中	続紙	1	
47	3312	11	2		(近世)11月15日	(木材代金10両請取ニ付書状)	尼崎屋吉左衛門	羽倉筑前之助様	切紙	1	筑前介任官は信郷のみ
48	2735	5			(近世)12月29日	口状(材木料献上等依頼状)	羽倉筑前介	三ヶ町御行事中	折紙	1	筑前介任官は信郷のみ
49	2715				文政2卯年10月	(惣修復にて本殿間散銭十分一割不受ニ付書付)	目代信資(印)	御殿預殿	竪紙	1	内包・外包・こよりあり
50	2705	1			文政13年12月	奉願口上之覚(祈祷所修復料拝借の御礼ニ付披露状)	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守(印)	中川修理大夫様御用人中	続紙	1	包紙あり
51	2705	2			天保2卯年3月	奉願口上之覚(再応修復料拝借願ニ付披露状)	稲荷社御殿預羽倉摂津守(印)	中川修理大夫様御用人中	続紙	1	
52	2735	4	4		天保15辰年12月	奉願口上之覚(御膳の具等修復銀寄附願ニ付披露状)	稲荷社御殿預羽倉一印	女院御所御取次御中	続紙	1	差出・受取は端裏に記載
53	2735	4	3		(弘化2年)	奉願口上之覚(御膳の具等修復銀寄附願ニ付披露状)		准后御方御取次中	切紙	1	
54	819				嘉永5子年	仕法書(氏社神供料調達講人数及び掛金等仕法帳)	氏社神供講勘定元(印)他5名		竪帳	1	
55	820				嘉永6丑年2月	仕方帳(祈祷所并鎮守修覆の仕方帳)	中津瀬陸奥守(印)他8名		竪帳	1	
56	2706	2	3		(近世)子年9月22日	奉差上御請書(奉納能興行赦免ニ付請書)	稲荷社司羽倉摂津守(印)他1名	御奉行様	竪紙	1	
57	788				(近世)丑正月	御装束御用御積書	河合播磨大掾	羽倉伯耆守様御用	竪帳	1	
58	757				(近世)	(神器・供奉の社司氏人着用の具代銀一覧表)			竪帳	1	
59	818				(近世)	伝法書(伏見稲荷山御産社大破につき修覆講仕法書)	羽倉摂津守勘定元講元伊勢屋惣助他4名		竪帳	1	
60	1574				(近世)	(進物用木箱寸法覚)			折紙	1	
61	1586				(近世)	覚(白狐之扇子入箱埋め成就の後取出等ニ付書付)			竪紙	1	
62	2010				(近世)	御鳥居二ヶ所入用			竪帳	1	裏に権太夫とある
63	2710	1	1		(近世)	稲荷社屋形之覚			折紙	1	2710-1-1～2はこよりで一括
64	2710	1	2		(近世)	(稲荷社・末社屋形等之覚)			続紙	1	
65	2710	2	1		(近世)	退供分配			切紙	1	2710-2-1～2はこよりで一括
66	2726	1			(近世)	御太刀寸法覚			竪紙	1	2726-1～5入りの包紙上書「御社物寸尺之記」
67	2726	2			(近世)	御太刀寸法			切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
68	2726	3			(近世)	寸法之覚(下・中・上三座、田中社、四太神寸法)			切紙	1	
69	2726	4			(近世)	御社諸物寸尺之記(御簾、神輿御衣之寸尺)			竪帳	1	「正預家秘記」
70	2733	2	1		(近世)	覚(田中社瑞垣之屋根板寸尺)			竪紙	1	こよりあり、端裏書「田中社瑞垣之屋根板寸尺之覚」
71	2742	1			(近世)	(田中社他4社木札)			木札	5	こよりあり、2742-2に包まれていた、鍵に付けていたものか
72	3312	11	9		(近世)	(材木之儀等ニ付書状)			切紙	1	襖下張、後欠、紙背は書
73	3338				(近世)	(うちわ代等書出断簡)			切紙	2	
74	2824				(昭和3年～昭和4年)	出願書類控(本殿及各所改築並境内整理願等出願書類			竪帳	1	青罫紙
75	45					奉献の神鏡			面	1	現物
76	1561					稲荷宮神璽并正預職印(印			竪紙	1	朱印二つ

C－3－6　東丸神社

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	8	6			明治14年3月14日	祝詞	権大講義久保悳隣		仮綴	1	
2	8	3	2		明治15年11月28日	羽倉春満・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤等ニ贈位ノ恩典有之度上請	有志者総代長谷川貞男他8名	東京府知事芳川顕正殿	仮綴	1	
3	8	4			明治16年4月12日	(神社創立関係書類綴)			竪綴	1	一部罫紙
4	3668	1			(明治16年4月～明治22年11月23日)	(東丸神社創立・新築関係書類綴)			竪綴	1	一部罫紙使用
5	3668	2			(明治16年)	(東丸神社創立関係書類)			竪綴	1	東丸神社罫紙、境内図あり、3668-1に挿入されていた
6	1020	8			(明治21年11月18日～明治23年7月1日)	(祝詞祭祀料下賜につき達)			竪綴	1	原稿用紙使用
7	2177				(明治22年5月17日～明治24年12月31日)	東丸神社創立ニ付日誌	東丸神社受持神官荷田信義		竪帳	1	青色罫紙使用
8	46	1			明治22年9月27日	(宅地売渡證・登記簿)	紀伊郡深草村大字福稲売主川上龍三(印)他1名	羽倉信度様	仮綴	1	
9	8	2			明治22年12月23日	東丸神社創立工事落成届書	京都府士族信徒惣代近藤芳介他3名	京都府知事北垣國道殿	竪帳	1	
10	1555				明治22年12月	受領証(東丸神社創立ニ付永代社地寄付受領証)	東丸神社神勤受持人羽倉良豊(印)	羽倉信義殿	竪紙	1	包紙あり
11	8	5			明治23年1月	東丸神社へ下賜金願	京都府士族信徒惣代近藤芳介他3名	京都府知事北垣國道閣下	竪帳	1	
12	3540				(明治23年5月17日～大正4年11月15日)	明治弐拾参年五月創立以後臨時諸祭典祝詞集	無格社東丸神社		竪帳	1	「府社東丸神社」の青罫紙使用
13	46	2			明治31年10月29日	土地寄附証書(宅地壱反余東丸神社へ寄付証書)	字福稲小字西ノ内寄附者羽倉信一郎養母羽倉タマ(印)	寄附受主東丸神社社掌羽倉信義殿	竪紙	1	罫紙
14	48				明治34年12月27日	保管證書(公債証書保管証書)	京都府紀伊郡深草村大字福稲大石長兵衛(印)	東丸神社社掌羽倉信義殿	竪紙	1	封筒あり
15	47	1			明治36年8月15日	地所寄附之證(紀伊郡深草村大字福稲小字西ノ内にて壱反余)	紀伊郡深草村大字福稲士族羽倉信一郎(印)	東丸神社々掌羽倉信義殿	仮綴	1	
16	47	4			明治36年10月30日	地所譲渡證(弐百八拾弐円余にて紀伊郡深草村大字福稲小字西ノ内壱反余譲渡證文)	紀伊郡深草村大字福稲譲渡人羽倉信一郎(印)	譲請人東丸神社々掌羽倉信義殿他3名	竪帳	1	
17	25				明治36年12月23日	(無格社東丸神社府社昇格許可指令書)	京都府知事大森鐘一(印)	紀伊郡深草村字福稲無格社東丸神社	罫紙	1	京都府指令7151号、観音開の秩入でさらに木箱に保存、木箱上書「昇格許可指令書府社東丸神社」とあり蓋の裏に「社司荷田信義謹書」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
18	47	2			明治38年6月29日	受領證(地所譲渡金弐百八拾弐円余受領書)	羽倉信一郎(印)	東丸神社社司羽倉信義殿	竪紙	1	
19	2863				明治41年5月10日	府社東丸神社昇格祭献詠集	発行兼編輯人府社東丸神社社司羽倉信義		竪帳	1	活版
20	3654				明治41年5月刊	府社東丸神社昇格祭献詠集	府社東丸神社社司羽倉信義		竪帳	1	活版
21	3541	1			明治43年6月	年中行事	東丸神社		竪帳	1	「府社東丸神社」の青罫紙使用
22	47	3			明治	委任状	府社東丸神社々司羽倉信義(印)他2深草村字福		竪紙	1	罫紙
23	49				大正3年2月14日	土地所有権保存登記申請	稲羽倉信義代人北野六之助(印)	京都区裁判所伏見出張所御中	仮綴	1	
24	3541	2			大正3年3月3日	境内碑文の略解	社司従八位羽倉信義		竪帳	1	「府社東丸神社」の青罫紙使用
25	2981				昭和4年10月1日	(京都皇宮内大礼建造物の一部下賜状)	宮内省(印)	府社東丸神社	竪紙	1	
26	2982				昭和4年10月1日	(京都皇宮内大礼建造物付属の一部宮内省より下付の条伝達書)	京都府知事佐上信一(印)	府社東丸神社	竪紙	1	
27	2127				昭和7年初夏	(荷田信詮大人筆詩文頂戴の記)	十二世秦滋男(祓川氏)誌之		竪紙	1	
28	2828				(昭和8年1月～昭和21年)	(東丸神社税務関係綴)			竪綴	1	
29	3663				昭和9年甲戌5月	皇道皇学春満教育会設立趣旨 附春満教育会規程概要・春満教育会館建設 附属図書館設立			竪綴	1	東丸神社原稿用紙、ペン書
30	2831				昭和9年12月24日	境内障害木採取及史蹟並ニ風致地区内現状変更ノ儀ニ付許可申請	府社東丸神社社司羽倉信真他3名	京都府知事斎藤宗宜殿	竪帳	1	地図あり、罫紙使用
31	3655				昭和14年～15年11月25日)	(府社東丸神社々務所改築関係書類綴)	府社東丸神社々掌羽倉信真	京都市知事赤松小寅殿	竪綴	1	
32	2829				(近代)	仕様書(東丸神社本殿改築等ニ付仕様書)			竪帳	1	罫紙
33	2363				(近代)	府社東丸神社拡築賛助芳名録			竪帳	1	記載なし
34	2830				(近代)	府社東丸神社境内整理并ニ建物改築計画書			竪帳	1	
35	2832				(近代)	東丸神社改築設計書			竪帳	1	

C—4　朝廷・神祇伯

C－4－1　朝廷・官幣

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2733	3			慶安4年8月16日	口宣文法(任摂津守)	上卿三條中納言	藤原某	切紙	1	例文、包紙上書「口宣文法并宣旨」
2	3261				寛文13丑6月7日	謹請 稲荷社御祈祷(禁中御安全祈祷)	社中上		竪紙	1	こよりあり、端裏あり
3	1620				元禄7年7月26日	風記(陰陽寮稲荷社仮殿遷宮日時勘文)	助兼宮内大輔賀茂朝臣		竪紙	1	
4	1022				元禄7申戌年季秋朔日	宣旨類(宣旨案文集)	内匠助		竪帳	1	写、「青楓館印」朱印
5	3250	1	1		元禄14年12月29日	(御下知之一通各拝見ニ付言上状)	上社神主為親他15名	御伝奏雑掌中	継竪紙	1	2501-1～12は紐で一括、3250-1-1～3までを一括していた包紙2枚あり
6	1208				正徳5乙未年初夏	(禁裏院中御料・諸家領・門跡院家女中方比丘尼領目			竪帳	1	「青楓館印」朱印
7	2733	2	2		享保2酉年4月30日	覚(従禁裏御所稲荷社祭礼奉納金拝納ニ付覚書)	稲荷社安田阿波守印他1	伯三位殿御雑掌中	竪紙	1	
8	2181	1			(元文5年)7月18日	(女御御出産平安御祈事、松尾社、稲荷社へ下知之旨綸	豊尚	伯侍従殿	竪紙	1	包紙「元文五年御産御祈之書附写弐通」、五点の内
9	2181	2			(元文5年)7月18日	(上社神主、御殿預へ御祈沙汰の旨直書)	豊尚	伯侍従殿	折紙	1	五点の内
10	2181	3			(元文5年)	御祈配当銀			竪紙	1	中に豆板銀ニ粒が入っている、五点の内
11	2181	4			(元文5年)	御殿預家伝安産之御符			切紙	1	五点の内、包紙二重、「龍」の字を書いた護符2枚がちぎられている

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
12	2181	5			(元文5年)	(木製人形)			人形	1	木製で大きさは12, 5センチの人形、五点の内
13	1412				(延享元甲子年2月2日～5月28日)	官幣使参向一式之日記	正預信名宿祢(花押)		竪帳	1	表紙に「俗文俗語不可許他見也」
14	2043				宝暦12年3月24日	(官幣奉幣之節祝詞)	神主秦宿祢親盛		竪紙	1	
15	354				宝暦13年	御即位御祈			折本	1	後欠
16	2072	1			(明和2年)8月8日	(烏丸家へ入来の旨書状)	烏丸家牧監物他1名	大西相模守様	切紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
17	2072	2			(明和2年)8月8日	(烏丸弁様御召ニ付請書案)			切紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
18	2072	3			(明和2年)8月9日	(上七社へ御祈被仰付ニ付書状)	親盛	和泉守殿他3名	切紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
19	2072	4			(明和2年)8月12日	(烏丸家へ入来の旨書状)	烏丸家牧監物他1名	大西相模守様	切紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
20	2072	5			明和2年酉8月12日	御請書(下社神主親盛一人勤行御祈祷に荷田氏目代加事承知ニ付請書)	稲荷下社神主秦親盛(印)	烏丸弁殿御雑掌中	竪紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
21	2072	6			(明和2年)8月17日	(本日中烏丸家へ入来ニ付書状)	烏丸牧監物他1名	稲荷大西相模守様	切紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
22	2072	7			(明和2年)8月21日	(請書訂正ニ付書状)	烏丸家富田大膳	大西相模守様	切紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
23	2072	8			(明和2年8月)	御請書(下社神主一人勤行之祈祷を荷田氏懇望ニ付承知之旨請書)			切紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
24	2072	9			(明和2年8月)	(祈祷巻数献上日取ニ付覚書)			切紙	1	包紙「一社壱人御祈之事」の9点の内
25	754				(明和5年10月)	勅使御参向につき書附之控			竪帳	1	
26	2708	3	3		(明和5年11月朔日～享和4年正月29日)	(官幣使派遣ニ付明和5年11月朔日信郷記並享和4年正月信邦記書抜)			続紙	1	
27	2708	7	2		(明和5年)11月9日	(五前官幣御奉納ニ付伯家之下文)	伯家雑掌	稲荷社御殿預殿、目代殿	折紙	1	包紙上書「明和五年子十一月官幣使之時従伯家之下シ文　正預家」
28	2682	1			明和5年11月9日	神祇官請石清水賀茂松尾平野稲荷春日幣料之事(請奏写)	従五位下行大祐紀朝臣春昌		竪紙	1	2通(2682-1～2)が封入されていた包紙上書「奉幣使之時神祇官請奏之写」
29	2743	1	1		明和5年11月9日	神祇官請石清水賀茂松尾平野稲荷春日幣料之事(請奏写)	従五位下行大祐記朝臣春昌		竪紙	1	包紙上書「明和五年十一月奉幣使之時神祇官請奏之写二通、従伯家拝受」、こよりあり
30	2682	2			明和5年11月13日	神祇官差進祈奉伊勢太神宮使之事(神祇官宣)	従五位下行大祐紀朝臣春昌		竪紙	1	
31	2743	1	2		明和5年11月13日	神祇官差進祈奉伊勢大神使之事(神祇官宣写)	従五位下行大祐記朝臣春昌		竪紙	1	
32	1332				明和5年戊子12月	官幣使御参向之記	正預信郷(花押)		竪帳	1	表紙「明和五年戊子十一月／絵図二枚別具」
33	2020				(寛政3辛亥年12月27日～元治元甲子年4月)	(官幣使奉幣之節社頭敷設之細図)			鋪	1	包紙あり
34	743				寛政4、5年	御所表、武辺当社神躰勧請之儀御尋答書	正預控		竪帳	1	
35	1249				享和4年甲子年2月24日	官幣勅使御来向ニ付御触状写			竪帳	1	
36	826				(文化2丑年8月2～4日)	一件草案(禁裏仙洞等内願につき社家集会記録)	信邦		竪帳	1	
37	2733	5			(文政3年)辰3月～4月	(安産祈祷近例・御答言上等安産祈祷例書)	稲荷中社神主親憲上		続紙	1	包紙上書「鷹司様へ差出願書壱通　但シ拝借書付壱通写之　文政三辰年五月」
38	2719	8			文政5午年12月	(准后御所様年中祈祷仰付願)	稲荷社御殿預羽倉摂津守(印)		竪紙	1	
39	2719	3			文政8年酉6月	(女御入内ニ付年中祈祷仰付願控)	稲荷社御殿預羽倉摂津守印		切紙	1	
40	2719	9			文政8酉年6月	(女御入内ニ付年中祈祷仰付願)	稲荷社御殿預羽倉摂津守(印)		竪紙	1	
41	2733	4	3		文政8年酉6月	(女御入内之儀ニ付祈祷役拝命願書)	豫―――		切紙	1	
42	2695				天保2卯年6月	奉願口上之覚(有君御方関東へ入輿ニ付祈祷願)	稲荷社御殿預羽倉摂津守印	鷹司様諸太夫御中	竪紙	1	包紙あり、諸太夫は牧野備前守、控
43	2719	6			嘉永元申年6月	(女御入内ニ付年中祈祷役拝命願)	稲荷社御殿預羽倉摂津守	九條様御諸大夫中	竪紙	1	端裏「控」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
44	2733	4	1		嘉永元申年6月	(入内祈祷先例書)	稲荷社御殿預寥――印	九條様御諸大夫中	切紙	1	端裏「中奉書四ツ折ミの紙上包」、2733-4-1～5までが入っていた包紙上書「文政八酉年六月女御様へ差出候願書控二通」
45	2733	4	4		嘉永元申年6月	先例(寛政六年より文政八年女御入内祈祷の例書)	寥――印	九條様御諸大夫中	切紙	1	端裏「中奉書四ツ折ミの紙上包」
46	2733	4	2		(嘉永元年)	例書(文政八年八月女御入内祈祷の件例書)			切紙	1	
47	2733	4	5		(嘉永元年)	(寛政六年三月・文化十四年十二月・文政八年八月女御入内祈祷の例書)			切紙	1	
48	2719	7			嘉永2酉年2月	(女御入内ニ付年中祈祷役拝命願)	稲荷社御殿預羽倉摂津守		竪紙	1	
49	519				嘉永3年	禁中勤番之番組			竪帳	1	裏表紙「城州稲荷社氏人従五位下行石見守荷田信乎所持」
50	2708	3	1		元治元年4月23日	内々奉嘆願(稲荷社へ奉幣使参向の儀ニ付嘆願)	田中社祠官信義他2名		折紙	1	4通(2708-3-1～4)封入の包紙あり
51	2708	3	2		(元治元年)4月25日	(稲荷社へ奉幣使参向の儀ニ付願書添書)	信義他2名		折紙	1	
52	2708	3	4		(元治元年カ)4月29日	(奉幣使発遣に関する稲荷社よりの願書ニ付関白家御教書)	稲田右将監	白川様雑掌御中	切紙	1	
53	1333				元治元年6月26日	官幣使御参向襍記	良信		竪帳	1	稲荷社竈家控
54	2719	1			慶応3卯年7月	先例(准三后御方等女御入内年月ニ付例書控)	稲荷社御殿預羽倉摂津守印	一條様御諸大夫中	切紙	1	2719-1～9入りの包紙上書「唯(准)后様御入内ニ付年中御祈祷出願書控拾五通」、端裏・こよりあり
55	2719	2			慶応3卯年7月	(御入内ニ付御祈祷七ヶ日願書控)	稲荷社御殿預羽倉摂津守印	一條様御諸大夫中	切紙	1	端裏「御入内分御祈祷七ヶ日願書控」
56	2719	4			慶応3卯年7月	(女御入内ニ付祈願願控)	稲荷社御殿預羽倉摂津守印	一條様御諸大夫中	竪紙	1	
57	2719	5			慶応3卯年7月	(女御入内ニ付年中祈祷仰付願控)	稲荷社御殿預羽倉摂津守印	一條様御諸大夫中	竪紙	1	
58	2098				明治3庚午年4月	内々奉嘆願口上書(稲荷社奉幣再興ニ付五社へ奉幣願書)	稲荷社正宮羽倉御殿預他1名		横帳	1	仮綴
59	753				明治3庚午年6月	幣使参向敷設調進図書(机・折敷・箱等図)	稲荷社		竪帳	1	
60	2927				2月11日	(去ル天明五年大女院御不預之節祈祷罷出候人体書付差出ニ付達書)	伯家一		切紙	1	
61	3156				3月16日	(小番代難相調候間、昼之内御参可成候ニ付書状)	信之	松本伊賀守	折紙	1	折紙の半分は明和六年正月廿四日和歌御会始における和歌詠草を記載
62	2735	2	1		(近世)6月11日	(譲位ニ付祈祷勤仕すべき旨達書)	信元他3名	祢宜祝権祝中	折紙	1	こより・包紙あり
63	510					御祈　御譲位			折本	1	後欠
64	1028					御即位次第	一條摂政冬経公作進		横半帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
65	1030					御即位次第			横半帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印
66	1591					抜穂使参向行列			折紙	1	文正度大嘗祭の記録写
67	725					稲荷社雑事記抜粋(勅使奉幣記事抜粋)			竪帳	1	寛仁元年～寛喜三年
68	3279	1			(近世)	今度七社奉幣の事(東宮成長・寿命等ニ付祈祷願)			折紙	1	
69	2708	7	1	2	(近世)	稲荷社官幣使参向社頭之儀			折紙	1	
70	2708	7	1	3	(近世)	官幣使参向社頭次第			折紙	1	
71	2708	7	3	1	(近世)	稲荷社官幣使参向社頭次第			折紙	1	2708-7-3-1～2入りの包紙あり、包紙上書「次第書二通」
72	2708	7	3	2	(近世)	稲荷社官幣使参向社頭次第			折紙	1	
73	1635					覚書(稲荷五社幣物下賜願一件覚書)			続紙	3	3通とも断片、こより一括
74	2080					奉幣次第			折紙	1	
75	2083					奉幣式(奉幣式次第書付)			折紙	1	
76	3534	13			(近世)	(寛保・延享両号奏上書断簡)	九条内大臣禎基		横切折紙	1	
77	2017				(近世)	(官幣使奉幣式絵図)			鋪	1	社家神人等の位置を朱書
78	1073				(近世)	(稲荷社官幣使参向社頭之儀式次第)			折紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
79	2097				(明治カ)	(稲荷社奉幣再興ニ付願)			横半帳	1	

C－4－2　綸旨

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3534	12			慶安元年10月18日	(天阿可為上人之勅請ニ付綸旨写)	右中弁御判	天阿上人御房	竪帳	1	
2	2709	6			(元禄8年)3月21日	(稲荷五社敷地五條以南祭礼役之事ニ付綸旨)	左中弁俊清	伯三位殿	竪紙	1	端裏「勅裁之写」
3	2570	1			(元禄14年)7月10日	(稲荷下社神主職秦公建補任ニ付綸旨写)	左中弁輝光	伯侍従殿	竪紙	1	2通(2570-1～2)封入の上包(上書「毛利家先祖公建　神主宣下綸旨之写」)と、2570のみが入っていた包紙(上書「謹上伯侍従殿　左中弁輝光」)あり
4	2709	7			(享保20年)3月24日	(稲荷五社敷地五條以南祭礼役之事ニ付綸旨)	右中弁規長	伯中将様	竪紙	1	包紙上書「勅裁綸旨之写」
5	2737	7	1		(天保15年)3月15日	(稲荷五社敷地五条以南祭礼役事綸旨写)	左大弁光政	伯少将殿	切紙	1	2737-7-1～2入りの包紙上書「天保十五年三月神事之節論(ママ)旨写壱通并伯殿雑掌より添書写壱通」
6	1581	2			(近世)3月13日	(稲荷社祭礼役綸旨添状)	左衛門尉光久奉	稲荷社一社中	竪紙	1	包紙「勅裁之綸旨伯家之添状」
7	2647				(近世)3月13日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	左少弁資廉	伯二位殿	竪紙	1	宿紙
8	2651				(近世)3月13日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	左中将隆長	伯少将殿	竪紙	1	宿紙
9	2652				(近世)3月13日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	右大弁輝元	伯少将殿	竪紙	1	宿紙、元禄か
10	2661				(近世)3月13日	(稲荷祭礼役宛催ニ付綸旨)	頭右大弁雅房	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
11	2670				(近世)3月13日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	右中弁光雄	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
12	2662				(近世)3月14日	(稲荷祭礼役宛催ニ付綸旨)	右大弁頼孝	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
13	2663				(近世)3月14日	(稲荷祭礼役宛催ニ付綸旨)	右少弁資茂	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
14	2659				(近世)3月15日	(稲荷祭礼役宛催ニ付綸旨)	左大弁賢熙	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
15	2668				(近世)3月15日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	左中弁頼孝	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
16	2660				(近世)3月16日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	左少弁賢熙	白河三位殿	竪紙	1	宿紙
17	2672				(近世)3月16日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	右中弁熙房	白川二位殿	竪紙	1	宿紙
18	1581	1	2		(近世)3月16日	(稲荷五社敷地五条以内祭礼ニ付綸旨)	頭左中将		竪紙	1	
19	2650				(近世)3月17日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	左中弁尚長	伯少将殿	竪紙	1	宿紙
20	2671				(近世)3月17日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	右中弁熙房	白川三位殿	竪紙	1	宿紙
21	2648				(近世)3月19日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	右中将定淳		竪紙	1	宿紙
22	2653				(近世)3月19日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	左中弁兼廉	伯少将殿	竪紙	1	宿紙
23	2664				(近世)3月19日	(稲荷祭礼役宛催ニ付綸旨)	左少弁方長	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
24	2665				(近世)3月19日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	左少弁方長	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
25	2709	9			(近世)3月19日	(稲荷五社敷地五條以南祭礼役之事ニ付綸旨)	左中弁植房	伯中将様	竪紙	1	写、包紙あり
26	2657				(近世)3月20日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	左少弁貞光	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
27	2658				(近世)3月20日	(稲荷祭礼役宛催ニ付綸旨)	右大弁頼孝	伯三位	竪紙	1	宿紙
28	2646				(近世)3月21日	(稲荷五社敷地五条以南祭礼役ニ付綸旨)	左中弁賢熙	白川二位殿	竪紙	1	宿紙
29	2649				(近世)3月21日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	左大弁俊逸	伯二位殿	竪紙	1	宿紙
30	2667				(近世)3月21日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	左少弁昭房	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
31	2669				(近世)3月21日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	左中弁兼茂	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
32	2709	8			(近世)3月21日	(稲荷五社敷地五條以南祭礼役之事ニ付綸旨)	左中弁俊清	伯三位殿	竪紙	1	写、包紙あり
33	2666				(近世)3月22日	(稲荷祭礼役下知ニ付綸旨)	右少弁資熙	白河三位殿	竪紙	1	宿紙
34	1581	1	1		(近世)3月22日	(稲荷五社敷地五条以内祭礼ニ付綸旨)	左少弁光豊	伯三位殿	竪紙	1	包紙あり、慶長ころか
35	2656				(近世)3月23日	(稲荷祭礼役宛催ニ付綸旨)	左中弁益光	伯中将殿	竪紙	1	宿紙
36	2645				(近世)3月24日	(稲荷社五条以内祭礼役ニ付綸旨)	左中弁尚長	伯二位殿	竪紙	1	宿紙
37	2654				(近世)3月24日	(稲荷祭礼役沙汰ニ付綸旨)	右大弁兼廉	伯三位殿	竪紙	1	宿紙
38	2655				(近世)4月24日	(稲荷祭礼役宛催ニ付綸旨)	左少弁治房	伯中将殿	竪紙	1	宿紙
39	2156				(近世)7月5日	(権祢宜公慶上社神主職に補任綸旨之奉書)	伊地知仁兵衛重政(花	稲荷上社神主殿	折紙	1	
40	2710	6			(近世)10月24日	(稲荷田中社祝職事ニ付綸旨)	右大弁経元	白川侍従殿	竪紙	1	包紙上書「田中之祝口宣之写　信詮筆」
41	1241					稲荷三神主綸旨口宣応仁以来因御尋奉注進			竪帳	1	

C－4－3　神祇伯

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1568	5			元禄7年5月9日	伯殿両権職江下知状(補任の件)	伯家雑掌直	両権中	折紙	1	包紙あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
2	1619				宝永元甲申年10月10日	(宝永元申歳十月八日神祇伯之家清祓之記録文書一括)	正官御殿預従五位上羽倉主膳荷田宿祢信友(花押)他1名		続紙	4	包紙あり、書状2通、祝詞1通同封
3	2036				宝永2乙酉年正月28日	御請証文(官位言上ニ付御下知状之旨請書)	下社神主秦公建(印)他15名	御伝奏伯三位様御雑掌中	続紙	1	
4	3049				宝永2乙酉年正月卅日	拝謝(稲荷社職官位等言上一時ニ付)	稲荷御殿預正官従五位上荷田宿祢信友他1名	御伝奏白川三位公	竪紙	1	裏打
5	191				延享元年子4月24日～享和三癸亥年10月5日	延享元子年勅使御参向之節當社取事方之儀松尾左兵衛より聞合ニ付差出例書等写			竪帳	1	合綴
6	1596				延享4年正月19日	御祈祷触	伯家雑掌	稲荷社下社神主殿、中社神主殿、上社神主殿、御殿預殿、目代殿	折紙	2	包紙あり
7	802				明和4亥年2月	宝永元申年十月八日神祇伯之家清祓之記録	正預信(花押)		竪帳	1	写
8	2737	12	1		(明和6年)正月18日	(当年御祈祷初事ニ付大麻献上申入状)	伯家雑掌	稲荷下社神主殿他4名	折紙	1	2737-12-1～2入りの包紙上書「稲荷社伯家社務殿　伯家雑掌」「明和六年丑正月十八日被仰渡月番正預」
9	601	39			安永2巳年11月	謹而書上(稲荷社祭礼神幸還幸之節社司供奉願)	稲荷下社神主親盛他4名社司中	白河三位殿御□□中	竪紙	1	後欠、差出人印鑑抹消
10	1131				安永7年戌6月17日	服暇事	中社祝秦宿祢為熙		竪帳	1	仮綴、神祇伯雅富王の本を寛延4年後6月稲荷社権祢宜秦親盛写、宝暦10年7月14日中社祝秦宿祢公林写、明和6年7月11日田中社祝秦宿祢親業写、安永7年6月11日中社祝秦宿祢為熙写
11	2708	1	5		寛政5年丑8月	就御尋言上書(稲荷社より神階差出の儀御尋ニ付返答)	稲荷社下社神主親臣印他4名	伯少将殿御雑掌中	折紙	1	明治2年の写
12	806				寛政7年卯8月3日	元禄七戌年中伯家役所日記抜粋	前正預信(花押)		竪帳	1	
13	2737	1	2		文政6年12月	(准后御所様御祈祷御沙汰願書)	稲荷社御殿預羽倉摂津守		続紙	1	
14	3250	3			(慶応4年)辰4月8日	(東寺へ稲荷神輿渡御廃止ニ付神祇事務局達書)	(朱印)神祇事務局	稲荷社一社中	続紙	1	包紙あり
15	2737	12	2		卯正月18日	(御祈祷始及び巻数献上日覚書)	伯家雑掌	稲荷下社神主殿他4名	折紙	1	
16	3172				亥10月20日	(伯殿急御用ニ付参殿申付書状写)			折紙	1	野狐災払の祈祷勤行、太麻献上等書状下書
17	2737	17			正月9日	(年礼ニ付御伺公等下知状)	白川殿家石川平右衛門(花押)	羽倉豊前殿他1名	折紙	1	包紙上書「伯殿年礼三神主故障之節来状壱状」、包紙裏書「寛政四年後二月廿六日荷田信寿口宣案」
18	2710	4			(近世)正月17日	(天下病事御祈奉書写)	権右少弁経遠	伯三位殿	竪紙	1	包紙・こよりあり、包紙上書「白川三位殿被仰出候書付　大事ノ物」
19	2708	4			(近世)正月20日	(御祈祷始月日等ニ付申渡)	伯家雑掌	下社神主殿他4名	折紙	1	包紙あり
20	2737	19	1		正月29日	口状(御下知状一社中披露連状)	白川家伯家雑掌	下神主殿他4名	折紙	1	2737-19-1～2が入っていた包紙上書「三神主代官伯殿下知状弐通并印書物入」
21	2736	7	5		(近世)正月	(御祈祷始の日等申入書)	伯家雑掌	稲荷社下社神主殿他4名	折紙	1	
22	2735	2	2		(近世)2月17日	(口宣渡ニ付書状)	白川殿家荒木土佐正久(花押)	羽倉主膳殿	折紙	1	
23	1578				4月3日	(伯殿御隠居病気ニ付祈祷依頼書状)	白川伯家森左兵衛	御殿預殿	竪紙	1	捻封
24	2737	1	1		4月7日	(准后御方薨去ニ付御祈祷止申入書)	土山駿河守	羽倉摂津守殿	折紙	1	奥書あり、2737を一括したこよりあり、2737-1-1～2が入っていた包紙上書「准后様御撫物被止次之御祈祷断書控入」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
25	2735	3	7		(近世)8月23日	口上覚(榊献上すべき旨申入)	森左兵衛	下社神主殿他4名	折紙	1	
26	2735	3	9		(近世)8月26日	(上社神主為親位階の事ニ付申入書)	伯家雑掌	稲荷下社神主殿他4名	折紙	1	
27	1553	7			霜月9日	(社家より伯家へ願相談ニ付書状)	羽倉主膳他1名	樵軒様	切紙	1	15通こより一括の内
28	2733	6	2		(近世)12月29日	(三神主神役御勤之儀ニ付口上之覚等社務関係達書一括)	白川殿家石川平右衛門他3名	羽倉豊後殿・同玄蕃殿他3名	続紙	1	こよりあり、折紙と切紙が継いである
29	1551				12月30日	(来年御元服ニ付玉体安穏祈祷下知覚)		伯三位殿	折紙	1	
30	3282					(白川殿へ願之儀他ニ付書			切続紙	1	後欠
31	3534	4			(近世)	(伯家ニ神主方不調法之義御赦免等日記断簡)			竪帳	1	
32	1605	2				乍恐勤而奉歎口上(官幣勅使再興ニ付稲荷五社へ御幣物奉納願下書)			竪紙	1	五通こより一括の内
33	2280	1				白川日記			竪帳	1	
34	2815					伯家清祓之作法			横帳	1	

C－4－4　伯家御教書

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2977				寛永2(年)3月16日	(稲荷社上社神主補任綸旨ニ付伯家御教書)	左衛門尉時久(花押)	稲荷上社神主殿	折紙	1	外包紙・内包紙・こよりあり
2	2616				寛文4年3月19日	(稲荷社祭礼役ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
3	2617				寛文4年3月19日	(稲荷社祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
4	2618				寛文6年3月13日	(稲荷社祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
5	2619				寛文7年3月14日	(稲荷祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
6	2620				寛文8年3月15日	(稲荷祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
7	2621				寛文9年3月13日	(稲荷祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
8	2735	3	3		元禄7年戌5月9日	(権祢宜以下補任等の儀ニ付伯家御教書)	伯家雑掌直久奉	下社神主殿他4名	折紙	1	
9	2709	4			元禄8年3月21日	(稲荷社祭礼綸旨ニ付伯家雑掌袖判御教書)	左衛門尉直久奉	稲荷社神主殿	竪紙	1	控、包紙あり
10	2709	5			元禄8年3月21日	(稲荷社祭礼綸旨ニ付伯家雑掌袖判御教書)	左衛門尉直久奉	稲荷社神主殿	竪紙	1	端裏「元禄八年勅裁之添文」、包紙あり
11	2570	2			元禄14年7月10日	(稲荷下社神主職秦公建補任ニ付伯家御教書写)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷下社神主殿	竪紙	1	包紙入り、包紙上書「謹上稲荷下社神主殿　左衛門尉忠久　写」
12	2631				元禄16年3月13日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社神主殿	竪紙	1	
13	2632				宝永元年3月19日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社神主殿	竪紙	1	
14	3250	1	2		宝永元年12月22日	(稲荷社々職官位等之儀御下知ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左兵衛尉永久奉	下神主殿他4名	竪紙	1	
15	2681				宝永元年12月22日	(稲荷社々職官位等下知ニ付伯家袖判御教書写)	伯家雑掌左兵衛尉永久	下社神主殿	竪紙	1	包紙、こよりあり
16	3250	1	3		宝永2年3月18日	(稲荷社祠官装束免許ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左兵衛尉永久奉	稲荷下社神主殿他4名	竪紙	1	
17	2721				宝永2年3月18日	(稲荷社祠官装束之儀御教書写)	伯家雑掌左兵衛尉永久奉	稲荷下社神主殿他4名	竪紙	1	包紙上紙「口束之儀伯家之下知状写」
18	2633				宝永2年3月24日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左兵衛尉永久	稲荷社神主殿	竪紙	1	
19	1605	4			宝永2年12月18日	(稲荷社家格式ニ付神祇伯御判御教書写)	左兵衛尉永久奉	下社神主殿他4名	竪紙	1	五通こより一括の内
20	1599	2			(宝永2年)12月26	(御榊献上ニ付伯家御教書)	森左兵衛	御殿預殿	折紙	1	包紙あり
21	1599	1			宝永2年12月28日	(御榊献上ニ付伯家御教書)	伯家雑掌	御殿預殿	折紙	1	
22	2634				宝永3年3月24日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家御教書)	伯家雑掌左兵衛尉永久	稲荷社神主殿	竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
23	2635				宝永4年3月17日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社神主殿	竪紙	1	
24	2636				宝永5年4月24日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社神主殿	竪紙	1	
25	2637				宝永6年3月23日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社神主殿	竪紙	1	
26	3330				正徳2壬辰年9月16日	(稲荷社日供再興ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌同学頭臼井左忠(花押)		竪紙	1	斐紙
27	2709	2			享保16年3月19日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家雑掌御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久奉	稲荷社神主殿	竪紙	1	包紙あり
28	2106				享保17年3月10日	一札(稲荷社神幸祭礼遷宮之儀正徳二年以前に復古ニ付伯家御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久奉	稲荷社下社神主殿他4名	竪紙	1	
29	2735	3	2		享保17年3月10日	(神幸祭礼遷宮の儀ニ付伯家御教書)	左衛門尉忠久奉	稲荷社下社神主殿他4名	折紙	1	
30	2709	1			享保20年3月12日	(譲位受禅ニ付伯家雑掌御教書案文)	伯家雑掌左衛門尉忠久奉	稲荷社神主殿	竪紙	1	2709-1～9入りの包紙上書「勅裁之綸旨御祈御教書写 九通」
31	2709	3			享保20年3月24日	(稲荷社祭礼綸旨ニ付伯家雑掌袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久奉	稲荷社神主殿	竪紙	1	控、包紙あり
32	2736	7	4		寛延元年巳正月20	(御祈祷始ニ付伯家御教書)	伯家雑掌	稲荷社下社神主殿他4名	折紙	1	
33	2643				宝暦2年3月21日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久	稲荷社神主殿	竪帳	1	
34	2580	2			宝暦5年3月23日	(秦親教下社祢宜転任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久(花押)	稲荷下社祢宜殿	竪紙	1	
35	2713	5			宝暦6年正月	(稲荷旅所職分ニ付伯家御教書写)	神祇伯家雑掌中	稲荷旅所社家中	竪紙	1	包紙上書「下知 神祇伯家雑掌中」「松尾ニ而焼捨候書付写」
36	3009				安永3年午5月	(稲荷社祭礼供奉再興ニ付伯家御教書)	伯家雑掌朱印	稲荷社社司中	続紙	1	包紙あり
37	2580	3			天明7年8月10日	(秦吉親正祝職転任ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌薩摩守総平	稲荷社正祝殿	竪紙	1	
38	2686				寛政3年辛亥12月	(稲荷社大鳥居清祓勤仕下知ニ付伯家袖判御教書)	伯家雑掌美濃守質直	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	檀紙、包紙「大鳥居清祓下知状」、ブルーボックスに別置
39	3250	5			文化3年2月	(稲荷勧請を愛染寺へも宥免ニ付伯家御判御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久奉	稲荷社司中	竪紙	1	包紙捻封
40	2737	7	2		(天保15年)3月15日	(当社祭礼綸旨ニ付伯家御教書)	伯家雑掌左衛門尉忠久奉	稲荷社神主殿	切紙	1	
41	2735	2	4		(近世)正月6日	(御所祈祷始の儀ニ付伯家御教書)	伯家雑掌	社務殿	折紙	1	
42	2735	3	5		(近世)正月25日	(請書持参すべき旨伯家御教書)	白川伯家雑掌	稲荷下社神主殿他4名	折紙	1	
43	2736	7	6		(近世)正月	(御祈祷始ニ付伯家御教書)	伯家雑掌	稲荷下社神主殿他4名	折紙	1	
44	2626				(近世)3月14日	(稲荷祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	寛文頃か
45	2625				(近世)3月15日	(稲荷社祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	寛文頃か
46	2628				(近世)3月15日	(稲荷祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	寛文頃か
47	2630				(近世)3月15日	(稲荷祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	寛文頃か
48	2638				(近世)3月16日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家御教書)	白川家雑掌左衛門尉光久	稲荷社神主殿	竪紙	1	
49	2640				(近世)3月16日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家御教書)	白川家雑掌左衛門尉光久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
50	2639				(近世)3月17日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家御教書)	白川家雑掌左衛門尉光久(花押)	稲荷社一社中	竪紙	1	
51	2622				(近世)3月20日	(稲荷社祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	寛文頃か

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
52	2623				(近世)3月20日	(稲荷社祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	寛文頃か
53	2624				(近世)3月21日	(稲荷社祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	寛文頃か
54	2629				(近世)3月21日	(稲荷祭礼ニ付伯家御教書)	伯家雑掌右衛門尉勝久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	寛文頃か
55	2641				(近世)3月21日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家御教書)	白川家雑掌左衛門尉光久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
56	2642				(近世)3月22日	(稲荷祭礼綸旨ニ付伯家御教書)	白川家雑掌左衛門尉光久(花押)	稲荷社神主殿	竪紙	1	
57	2159				(近世)4月26日	(秦親宦等従五位下勅許下知状)	祝定	伯侍従殿	竪紙	1	
58	2735	3	6		(近世)6月16日	(譲位ニ付御祈の祓献上すべき旨伯家御教書)	伯家大脇十助	稲荷下社神主殿他4名	折紙	1	端裏「御譲位之祈祷之御状」
59	2735	3	1		(近世)7月12日	(御尋ニ付参るべき旨伯家御教書)	伯家雑掌	稲荷社下社神主殿他4名	切紙	1	2735-3-1～5入りの外包紙上紙「伯川殿より御下知状九通入」、内包紙・こよりあり
60	2735	3	8		(近世)8月24日	(御用の儀ニ付参るべき旨伯家御教書)	伯家雑掌	御殿預殿	切紙	1	差出・受取は端裏に記載
61	2735	2	3		(近世)9月晦日	口状(即位ニ付祈祷すべき旨伯家御教書)	伯家雑掌	稲荷下社神主殿他4名	切紙	1	
62	2644				(近世)11月4日	(新造内裏遷幸之節供奉ニ付奉書)	右中弁良顕		竪紙	1	宿紙、天明か安政か
63	2743	2			(近世)11月9日	(七社奉幣使の儀ニ付伯家御教書)	伯家雑掌	稲荷社御殿預殿他1名	折紙	1	包紙上書「明和五年子十一月官幣使之時従伯家之下シ文写」
64	2735	3	4		(近世)12月2日	(近年の御下知状并従雑掌之書付持参すべき旨伯家御教書)	白川家雑掌	松本将監殿他4名	折紙	1	

C—5　信仰・安鎮

C－5－1　初穂・参詣・奉納

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1115	4			元禄7甲辰年11月吉祥日	御本殿御内陣台盤之裏書写(中川久恒寄進の品書上)	宿坊愛染寺		竪紙	1	
2	2718				宝永6丑年5月22日	一札之事(米屋作兵衛永々大神供寄進ニ付)	上社祝　毛利豊後(印)他1名	社務橘本将監殿他4名	竪紙	1	封紙上書「(前略)例年霜月七日神供之一件証文壱通入信純封置也」、こよりあり
3	1570				正徳3癸巳年2月	差上申田地之事(稲荷社日供再興のため供田作徳米差上ニ付一札)	田地譲主深尾源六郎(印)他3名	稲荷大明神様、日供調進所御殿預竈殿	続紙	1	
4	1613	1			享保6年辛丑閏7月	(水戸義公編輯扶桑拾葉集を稲荷社神庫に奉納ニ付寄進状)	小池源太右衛門友賢(花押)他1名	羽倉主膳正殿	竪紙	1	包紙あり、六通の内、檀紙
5	1613	2			享保6年辛丑閏7月	(扶桑拾葉集奉納ニ付受取一札)	京都稲荷羽倉主膳正判	大井介右衛門殿他1名	竪紙	1	六通の内
6	1613	3			(享保6年カ)9月20日	(扶桑拾葉集奉納後ニ扇子一箱賜ニ付礼状)	伊藤宮内友益(花押)	羽倉主膳正様	折紙	1	六通の内
7	1613	4			(享保6年カ)9月22日	(扶桑拾葉集奉納後ニ扇子御投恵ニ付礼状)	小池源太右衛門友賢(花押)	羽倉主膳正様	折紙	1	六通の内
8	1613	5			(享保6年カ)9月23日	(扶桑拾葉集奉納助力ニ而摺扇賜ニ付礼状)	大井介右衛門貞廣(花押)	羽倉主膳正様	折紙	1	六通の内
9	1613	6			(享保頃)3月14日	(彰考館より質問回答礼ニ付子籠鮭送付之旨書状)	伊藤玄蕃友益(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	六通の内
10	1637				(寛保3年)閏4月10日	(江戸駿河町両店商事繁栄等之祈祷ニ付礼状)	三井八郎右衛門高美(花押)	羽倉摂津守様	竪紙	1	漆塗文箱入
11	1603	1			(宝暦12年)9月23日	(松平隠岐守心願ニ付初穂米奉納ニ付書状)	河端藤太夫氏処(花押)他2名	羽倉摂津守様	折紙	1	包紙あり、七通の内
12	1603	3			(宝暦12年)午10月7日	覚(松平隠岐守初穂米五十俵代金請取)	稲荷本宮羽倉摂津守(印)	河端藤太夫殿他2名	竪紙	1	七通の内、包紙あり
13	1603	5			(宝暦12年カ)10月8日	(太守御初穂米受納ニ付書状)	(羽倉摂津守カ)		切紙	1	七通の内
14	1603	6			(宝暦12年)10月17日	覚(大神供調進之日取等ニ付依頼状)	河端藤太夫氏処他2名		折紙	1	七通の内

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
15	1603	7			(宝暦12年)10月17日	(金子仙五郎方への書付承知ニ付書状)	河端藤太夫氏処(花押)他2名	羽倉摂津守様	折紙	1	七通の内
16	1603	2			(宝暦12年カ)10月24日	(松平隠岐守用人より別紙送付ニ付書状)	金子仙五郎	羽倉摂津守様	続紙	1	切紙を継いである、七通の内
17	1603	4			(宝暦12年)	覚(松平隠岐守心願初穂米奉納ニ付祈祷之儀書状)			折紙	1	七通の内、差出受取切取
18	2736	6	1		宝暦12年午霜月5日	覚(新神供料として金三百疋社納ニ付覚)	常用方松本和泉守(印)	羽倉摂津守様	切紙	1	封紙上書「新神供社納物受取入 午十一月五日」、こよりで2736-6-1～4迄一括
19	2736	6	3		(宝暦12年)霜月5日	(神供料社納の証紙進上ニ付書状)	高任	御殿預殿	切紙	1	
20	2736	6	2		(宝暦12年)午11月6日	(松平隠岐守自今銀一枚宛相納ニ付覚書)	正預信郷		切紙	1	
21	2694	1			明和4年3月14日	(内陣の御簾、鷹司家より寄進ニ付御教書)	右馬助貞楨	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	檀紙、2通(2694-1～2)封入の包紙「種田信濃守奉」、2694-1のみの包紙もあり、
22	2694	2			明和4年3月14日	(内陣の御簾、鷹司家より寄進ニ付御教書)	右馬助貞楨	稲荷社御殿預殿	竪紙	1	2694-1の写、包紙あり
23	2692	2			(明和4年)4月5日	覚(翠簾五枚代受取書)	御みす所内善兵衛(花押)	羽倉家御内尾崎金吾様	竪切紙	1	包紙あり、「明和四年亥四月五日御内陣翠簾料受取みすや徳介」
24	2692	1			(明和4年)	(鷹司家翠簾寄付ニ付先例等書上)			折紙	1	3通(2692-1～3)が封入されていた包紙あり、「明和四年三月御内陣翠簾調進之一式」
25	2692	3			(明和4年)	(古簾之縁切)			裂	1	御簾の切れ端の現物が包紙の中にある
26	1577				(安永2年)9月18日	(肴一折進上ニ付書状)	貞楨	羽倉摂津守殿	折紙	1	包紙あり
27	2708	6	2		安永3甲午年正月	御例(御剣重貞作一振奉納)			折紙	1	
28	2720				安永6年丁酉3月	(当社祭礼供奉式再興のため永代神事料奉納ニ付一札)	稲荷社司中	五條通新町西江入西銚屋町中	竪紙	1	包紙・こよりあり
29	2379				安永8年亥8月10日	一札之事(七条通西八百屋町川嶋屋源兵衛参籠請状)	七条西八百屋町請人丸屋藤兵衛(印)他1名	稲荷社御役人中	竪紙	1	
30	2073				(寛政4年～文化3年2月)	御所表、武辺御尋、当社神躰勧請之儀御尋御答書			竪帳	1	
31	2736	3			寛政7卯10月11日	覚(常盤井殿よりの初穂料受取書)	為房(印)	御殿預殿	切紙	1	包紙上書「(前略)常盤井殿参詣之節被備候初穂松本筑州江送り遣候ニ付被差越候請取書 壱通」
32	2737	6	1		寛政9巳年正月21日	覚(近衛殿社参備金子請取状)	為房(印)	御殿預殿	切紙	1	2737-6-1～2入りの包紙上書「近衛殿烏丸殿御本殿江御奉納物松本家森家等江相送候受取書弐通、寛政十年午四月」、こよりあり
33	2734				文化8年未9月28日	(御絵馬・白銀寄附ニ付万里幸小路御教書)	万里小路殿雑掌	羽倉摂津守殿	折紙	1	
34	2708	9	11		文化13年8月10日	(造営掛参詣ニ付覚)			切紙	1	
35	822				天保4巳年2月	三嶌講中より神酒神供并太々神楽奉納雑記	御殿預家用部屋		竪帳	1	
36	2708	9	7		(天保5年)5月4日	(遠江守参詣之旨承知請書)			切紙	1	端裏「五月四日寺社方へ之返書」
37	2708	9	10		(天保5年)5月4日	(藤森神事遠江守参詣ニ付諸事取計依頼書状)	棚橋兵左衛門	羽倉摂津守様	横続紙	1	
38	2708	9	1		(天保5年)5月5日	(加納遠江守社参之節遅刻詫入ニ付取成依頼状)	羽倉摂津守(印)	加納遠江守様御用人中	折紙	1	2708-9-1～14入りの包紙上書「天保五午年五月五日伏見奉行加納遠江守殿社参之砌行違一件ニ付差出御書附類十四通入」、端裏あり
39	2708	9	2		(天保5年)5月6日	(加納遠江守社参之節遅刻詫入ニ付取成依頼状)	羽倉摂津守(印)	加納遠江守様御用人中	折紙	1	端裏あり
40	2708	9	6		(天保5年)5月6日	(加納遠江守参詣之節不都合之次第詫入ニ付取成依頼状)	—	—御用人中	横続紙	1	端裏あり
41	2708	9	3		天保5午年5月	(加納遠江守社参之砌不都合之次第詫入ニ付取成依頼状)	羽倉摂津守(印)	加納遠江守様御用人中	折紙	1	端裏あり
42	2708	9	4		(天保5年)5月10日	(加納遠江守参詣之節不行届不調法詫入ニ付取成依頼状)	羽倉摂津守(印)	岡田耕之丞様他2名	折紙	1	端裏あり
43	2708	9	5		(天保5年)5月10日	(加納遠江守参詣之節不都合之次第詫入ニ付取成依頼状)	羽倉河内守他1名	岡田耕之丞様他2名	折紙	1	端裏あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
44	2708	9	12		(天保5年5月)	(加納遠江守参詣之節不都合詫入ニ付取成依頼状)			竪紙	2	
45	2708	9	13		(天保5年)5月12日	覚(封御状受取ニ付覚)	棚橋兵左衛門内竹内太助	御使中	切紙	1	
46	2708	9	8		(天保5年)	(加納遠江守家来人名書上)			切紙	1	
47	838				天保11子年	京都并ニ在方願主名前 甲	竈家用部屋		横半帳	1	
48	2735	4	2		(弘化2年)3月5日	(修復寄附銀の儀ニ付書状)	茨木美濃守	羽倉上総様	横切続紙	1	差出・受取は端裏に記載
49	2735	4	1		(弘化2年)3月13日	(寄附銀差出延期願ニ付書状)	兼田右兵衛権大尉	羽倉摂津守様	切紙	1	包紙「信純」、神宝以下修復関係文書の旨記載あり
50	2736	2	12		(弘化3年)6月18日	(本社預り方ニ而大祝式執行奉希上候ニ付書状)	下村主税	羽倉摂津守様	切紙	1	
51	2736	2	13		(弘化3年)6月19日	(本社預り方ニ而大祝式執行頼申上候ニ付書状)	下村主税	羽倉摂津守様	切紙	1	
52	2690				弘化4未年6月	奉願口上之覚(御即位の上使として上京のため武運長久の祈祷願	稲荷本宮正官羽倉摂津守	松平出羽守様御用人中	竪紙	1	端裏「案」
53	1553	8			弘化4丁未年8月	乍恐以書附奉祈願候事(水戸家老結城寅寿悪人ニ而殿様押込ニ付退散願)	水戸殿御領内百姓惣代		竪紙	1	15通こより一括の内
54	2708	6	1		嘉永5年子12月	奉願口上之覚(書籍寄附願)	稲荷社御殿預羽倉摂津守(印)	鷹司様御諸太夫御中	折紙	1	2708-6-1～2入りの包紙あり、包紙上書「鷹司家学問願壱通、御剣例書壱通」、こよりあり
55	811				元治2乙丑年正月	願主名前簿(御札料等書付)	霜家		竪帳	1	挿入あり
56	807				慶応2丙寅年正月	願主名前簿(御札料等書付)	竈家執事		竪帳	1	
57	2748				慶応4戊辰年正月	願主君名簿	竈家執事		竪帳	1	
58	2749				明治2己巳年正月	願主君名簿	竈家執事		竪帳	1	
59	2312				明治3庚午年正月	願主名前簿(祈祷料初穂料等)			竪帳	1	
60	2089				(明治3)庚午6月	奉願口上之覚(不埒の配札人取調願)	愛川多真城(印)	御月番羽倉御殿預殿	竪紙	1	包紙あり
61	2093				(明治3年)庚午6月	御断一札(配札差止ニ而路頭ニ迷ニ付配札存続願)	配札人仲間惣代木村仁志喜(印)他3名	愛川家御役人中	竪続紙	1	包紙あり
62	2094				(明治3年)庚午6月	奉願口上之覚(不埒の神札の板木取上ニ付願)	愛川多真城(印)	御社司中	竪紙	3	廻状2点添付、包紙あり
63	2095				(明治3年)庚午6月26日	御届ヶ口上之覚(配札人一同和順ニ付届書)	愛川多真城(印)他4人	御月番羽倉御殿預殿	竪帳	1	包紙あり
64	2708	2			(明治4年)辛未7月22日	奉伺口上覚(諸社撫物御廃ニ付大宮御所撫物ハ如何仕るべきや伺書)	稲荷社羽倉御殿預(印)(印影信義)	京都御政府	折紙	1	付札あり「聞届候事」
65	2436				丑6月12日	一札(江州信楽後藤友悦参籠ニ付請状)	五条通西大谷口大黒屋重兵衛(印)	稲荷御社御役人中	竪紙	1	
66	2381				卯年正月7日	(七里村福田甚右衛門方稲荷官金相登候ニ付書状)	日光西町袋町世話人西村市郎兵衛	羽倉摂津守様御内辻右内様、重松一学様	折紙	1	
67	3227	3			卯7月7日	證(御供料百疋・書状壱通代金三両ニ付証)	白川殿御役所(印)	大山与四郎殿	切紙	1	
68	607				(申9月)	(大沢稲荷大明神神宮ノ御初穂料目録)	武蔵国比企郡畑中村大沢小右衛門		折紙	1	「申九月安鎮」とあり
69	2736	6	4		亥12月17日	覚(新神供料銀一枚社納ニ付覚)	常用方高任(印)	御殿預殿	切紙	1	
70	2741	2			(近世)3月13日	(御家門奏慶催ニ付祈祷依頼の旨九条家諸大夫奉書)	(芝兵部権大輔)正直他2名	羽倉摂津守殿	竪紙	1	差出・受取は端裏に記載
71	2741	6			(近世)3月26日	(御幸ニ付祈祷依頼の旨九条家諸大夫奉書)	(矢野左馬頭)泰長他1名	羽倉主膳様他1名	竪紙	1	差出・受取は端裏に記載
72	2741	3			(近世)3月7日	(御家門元服催ニ付祈祷依頼の旨九条家諸大夫奉書)	(矢野若狭守)泰長他1名	羽倉摂津守殿	竪紙	1	差出・受取は端裏に記載
73	2741	1			(近世)8月26日	(摂政宣下の為相詰の儀依頼二付九条家諸大夫奉書)	芝式部権少輔他2名	羽倉主膳様	竪紙	1	こよりに「九條殿諸大夫中書状」とあり、差出・受取は端裏に記載
74	2741	7			(近世)9月6日	(尾張姫君不快ニ付祈祷依頼の旨九条家諸大夫奉書)	石井右衛門尉金利(花押)	羽倉主膳殿	折紙	1	異筆「九条殿より御祈祷被頼状」
75	2741	5			(近世)10月5日	(九条殿奏慶催ニ付祈祷依頼の旨九条家諸大夫奉書)	(矢野左馬頭)泰長他1名	羽倉摂津守殿	竪紙	1	差出・受取は端裏に記載
76	2741	4			(近世)11月21日	(九条殿元服ニ付祈祷依頼の旨九条家諸大夫奉書)	(矢野左馬頭)泰長他1名	羽倉河内守殿	竪紙	1	差出・受取は端裏に記載
77	2737	8			(近世)2月19日	(寛保二年三月寄附書付)	親臣	摂津守殿	続紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
78	2736	1			(近世)2月20日	覚(寛保二年三月廿三日寄附書付)	親業	羽倉摂津守殿	切紙	1	こよりあり
79	3113	7			3月22日	(両祭正官不参の先例ニ付書状)	(松本)為縞	可亭様	切紙	1	
80	3113	5			4月15日	(御初穂金百疋神納ニ付書状)	南部弥六郎済賢(花押)	羽倉摂津守様	切紙	1	
81	2737	14			(近世)8月12日	(烏丸家御入来ニ付雑掌申付状)	烏丸家牧監物他1名	羽倉摂津家様	切紙	1	包紙上書「親王御祈之節召状 烏丸家雑掌より」、端裏「羽倉摂津守様 烏丸家牧監物・富田大膳」
82	3113	6			(近世)12月18日	(寒中見舞礼状)	中嶋四郎次郎延(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	紙背に日記あり
83	1051					荷田氏一件ニ付廣橋前大納言殿江内々差出書附			竪帳	1	
84	3289				(近代)	(御神饌料包紙)	富岡春子		包紙	2	「金壱円」とあり

C－5－2　勧請・安鎮

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2466				享保20年乙卯11月7日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	寺嶋嘉右衛門(印)	稲荷本山正官御殿預殿	竪切紙	1	
2	2458				元文5年申3月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	遠州豊田郡白鳥村法性寺当住祥運(印)	稲荷御本山羽倉摂津守殿	竪紙	1	
3	2462				宝暦4年甲戌12月15日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	信濃国高井郡須坂町浄念寺(印)	稲荷御本山正官御殿御預御家御雑掌中	竪紙	1	
4	2367				宝暦4年甲戌12月15日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	信濃国水内郡善光寺町西方寺(印)	稲荷御本山正官御殿御預御家御雑掌中	竪紙	1	
5	2485				宝暦4年甲戌12月15日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	信濃国高井郡須坂町願主七郎右衛門(印)他2名	稲荷御本山正官御殿御預羽倉摂津守様御雑掌衆中	竪紙	1	
6	2456				宝暦5年亥8月19日	証状(筑後国三池郡分山領之内地蔵院修封頼込ニ付証文)	江戸深川冨谷町観國庵(朱印)	稲荷本山竈家衆中	竪紙	1	
7	2478				宝暦7歳丑10月5日	証紙之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州秋田大阿仁七十牧山願主石田久太郎他1名	稲荷本山正官御殿預家雑掌中	竪紙	1	
8	2476				宝暦7丁丑年12月	以書付奉願候事(当寺鎮守稲荷大明神へ正一位授与願)	遠江国磐田郡見附宿省光寺(印)	京都稲荷山羽倉摂津守様	竪切紙	1	
9	2480				宝暦7丁丑年12月	証紙之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	播州明石郡伊川庄内東開発村安藤玄立兼次(印)(花押)	稲荷本山御殿預家雑掌中	竪紙	1	
10	2411				宝暦8戊寅年正月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州津軽堀五郎左衛門内小田桐丈左衛門(印)	稲荷本山正官御殿預家雑掌中	竪紙	1	
11	2502				宝暦8戊寅年4月20日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	信州高井郡八町村法心庵(印)	稲荷御本山正官御殿御預り御雑掌中	竪紙	1	
12	2389				宝暦8寅4月晦日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	願主高木左内(印)	本山御殿預羽倉摂津守様御雑掌衆中	竪切紙	1	
13	2490				宝暦8戊寅年4月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	信州埴科郡西条村恵明寺(印)	稲荷御本山正官御殿預御雑掌中	竪紙	1	
14	2464				宝暦8年寅5月5日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	長州萩玉江泉ヶ池毛利七郎兵衛他1名	本山御殿預羽倉摂津守様御雑掌中	竪切紙	1	
15	2403				宝暦8年寅5月7日	證文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	長州萩桧青梅村西分ヶ国司主税取次坂本安左衛門(印)	本山御殿預羽倉摂津守様御雑掌中	竪切紙	1	
16	2425				宝暦8年寅5月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州田川郡押切村加藤与三郎(印)	本山御殿預羽倉摂津守様御雑掌衆中	竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
17	2460				宝暦8年寅6月11日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州庄内鶴岡五日町地主長右衛門(印)	本山御殿預羽倉摂津守様御雑掌衆中	竪紙	1	
18	2365				宝暦8戊寅年6月15日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州秋田比内郡大舘町喜楽院(花押)	本山御殿預羽倉摂津守様御雑掌衆中	竪切紙	1	
19	2474				宝暦8歳寅6月	差上申一札之事(鎮守稲荷大明神祠へ正一位授与願ニ付脇より障りなき旨証文)	越後国魚沼郡藤原村別当正福院(印)他4名	京都藤森羽倉摂津守様御役人中様	竪紙	1	
20	2473				宝暦8寅	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州南部鹿角郡寺坂村万兵衛	本山御殿預羽倉摂津守様御雑掌衆中	竪切紙	1	
21	2484				宝暦8戊寅年正月	覚(常陸国行方郡相賀生根小屋村稲荷古来より鎮座覚)	久保右膳内永峯団右衛門盛隆(印)(花押)		竪紙	1	
22	2370				宝暦9年卯2月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常陸国茨城郡泉村土屋能登守知行所中山玄好則茂(花押)	本宮御公文所御殿御預家御雑掌衆中様	竪紙	1	桜本稲荷大明神・廿八社稲荷大明神の2社への安鎮
23	2382				宝暦9年己卯2月	差上申一札之事(鎮守稲荷大明神正一位願上障無き旨証文)	越後国魚沼郡山口村名主弥左衛門(印)他3名	羽倉摂津守様御役人中様	竪紙	1	
24	2505	1			宝暦9卯年3月29日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	出羽最上山野部町橘石藤兵衛(印)他1名	本宮御公文所御殿預家御雑掌衆中	竪紙	1	
25	2390				宝暦9年卯4月	差上申一札之事(鎮守稲荷大明神官位願上障無き旨証文)	越後国魚沼郡船ヶ沢村名主庄左衛門(印)他2名	羽倉摂津守様	竪切紙	1	
26	2433				宝暦9年卯ノ7月	證文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	因州知頭町金剛院(花押)	本山御公文所御殿預家御雑掌中	竪切紙	1	
27	2414				宝暦9卯年8月	以書付奉願候(本山正一位神霊安鎮願)	鳳閣寺支配下当山修験赤坂寺町鈴降稲荷別当願性院(印)	稲荷山御公文所	竪紙	1	
28	2399				宝暦9年卯12月	覚(筑前那珂郡福岡鎮守稲荷大明神正一位之官位申請願状)	野村太郎兵衛(花押)	羽倉摂津守様	竪切紙	1	
29	2483				宝暦9年卯ノ12月	覚(筑前那河郡福岡居屋敷鎮守稲荷宮へ正一位授与願)	林平兵衛直寛(花押)	羽倉摂津守様	竪切紙	1	
30	2416				宝暦10年辰3月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	中立売通西洞院角後藤縫殿助内久松栄治(印)	稲荷本山御公文所	竪切紙	1	
31	2491				宝暦11年辛巳2月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常陸国茨城郡泉村願人中山玄好則義(印)(花押)他4名	本山御公文所御殿御預家御雑掌衆中	竪紙	1	
32	2479				宝暦11巳3月朔日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	豆州田方郡大仁村洞泉院(花押)	本山御公文所御殿預家御雑掌衆中	竪紙	1	
33	2468				宝暦11辛巳年5月	差上申官位願之事(鎮守稲荷明神祠へ正一位授与願)	常陸国筑波郡西酒丸村久松金右衛門吉次(印)(花押)		竪切紙	1	
34	2374				宝暦11辛巳歳5月	差上申官位願之事(鎮守稲荷明神祠へ正一位願書)	常陸国筑波郡上口ノ堀村真一山成就院(印)宥範(花押)		竪紙	1	
35	2401				宝暦11辛巳年6月朔日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	大村新八郎用達大黒屋源兵衛(印)	本宮御公文所御殿預家雑掌中	竪紙	1	
36	2503				宝暦12壬午年7月26日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	紀伊国西名草郡大野庄升田村地蔵寺善澄(印)	稲荷本山御殿預家雑掌中	竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
37	2439				宝暦12年午11月朔日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	長崎今町松本左平太(花押)	御殿預家神役人中	竪紙	1	
38	2472				宝暦12年午霜月8日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	高倉五条下町宗仙寺他1名	本山御公文所御殿預家雑掌中	竪紙	1	
39	2368				宝暦13未年3月7日	証紙之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	筑後柳川上町願主後藤忠兵衛(印)他1名	稲荷本山御殿預家雑掌御衆中	竪紙	1	
40	2457				宝暦13年未6月25日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	遠州引佐郡伊井庄奥ノ山村願主深奥山三生院京六角前もち屋宿惣左衛門(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
41	2504				宝暦13癸未7月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	豆州賀茂郡長津宮正眼寺(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
42	2461				宝暦13年未11月25日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	堺町通錦小路上ル松本清兵衛(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
43	2402	2			宝暦13年未11月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州庄内鍛冶町阿部円太(印)	本宮御公文所御殿預家御役人中	竪紙	1	
44	2477				宝暦14年申正月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	吉野郡狭戸村武右衛門(印)他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
45	2489				宝暦14年申2月11日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	京都住人大坂銀座役人辻傳蔵(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
46	2400				宝暦14年申3月4日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	伊豆国柏久保天桂寺(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
47	2447				宝暦14年甲申年3月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州村山郡陣場村斎藤市重郎景憑(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
48	2417				宝暦14年申5月10日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州仙台玉造郡鳴子村願主嘉右衛門(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
49	2419				明和元年甲申ノ11月	(常陸国筑波郡筑波西山町清水鎮守稲荷大明神宮社地間数書上)	同国(常陸国)同郡(筑波郡)護持院領筑波町名主左紋治(印)他6名		竪紙	1	
50	2413				明和2年酉正月17日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	立花八太夫武貞(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人御中	竪紙	1	
51	2395				明和2年酉正月28日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	信州下伊奈郡嶋田村惣代小林平左衛門(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
52	2465				明和2年酉2月18日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	甲州鶴郡郡内戸野上村佐藤太郎右衛門(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
53	2406				明和2年乙酉2月	(所書)	願主大寂		竪切紙	1	「正一位稲荷大明神越後古志郡栃尾西中之俣村宝林山大栄寺鎮守」
54	2408				明和2年酉2月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	播州明石郡伊川庄長坂村九兵衛(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
55	2412				明和2年酉3月9日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	京蛸薬師烏丸東江入ル町取次亀屋半兵衛(印)、江戸本庄大川端通番場町遠州秋葉山願主宿坊	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
56	2430				明和2年酉4月	覚(相州足柄上郡田中村鎮守稲荷大明神正一位神官願	願主諏訪部氏		折紙	1	
57	2371				明和2年酉7月21日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州南部閉位郡横田村取次佐々木平次郎(印)他2名	本宮御公文所御殿預り家神役人中	竪切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
58	2385				明和2年7月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	高野山奥院不動院代智積院内浄眼(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
59	2487				明和2乙酉歳9月28日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	願主喜兵衛(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
60	2407				明和2年酉11月28日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	筑前西之浦願主五次郎、同国取次次三郎	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
61	2470				明和2乙酉年12月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	大坂北新町三丁目掛屋敷地主釘屋重兵衛(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
62	2402	1			明和3年戌正月26日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	新町通竹屋町下ル田原屋茂兵衛(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
63	2398				明和3年戌2月14日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常州水戸吉願村神照院(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
64	2467				明和3戌年3月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州田村郡三春領狐田村功徳院(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
65	2486				明和3丙戌年3月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州二本松城下竹田町別当神宮寺(印)他4名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
66	2418				明和3丙戌4月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	日光山円祐坊専明(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
67	2496				明和3丙戌年4月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	日光山林教坊了典(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
68	2405				明和3年戌ノ6月29日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常州新治郡小井戸村惣村中江橋儀右衛門印	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
69	2427				明和3年戌7月21日	證文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	相州小田原宿清水伊兵衛取次錦通油小路西へ入ル玉屋源兵衛(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	切紙	1	
70	2446				明和4年亥正月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常陸国茨城郡泉村中山玄好(印)	本山御公文所御殿預家御雑掌衆中	竪紙	1	
71	2455				明和4年亥正月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	別当三宝山円明院(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
72	2498				明和4年亥2月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常陸国鹿嶋郡大和田村願人井川善蔵代塙武八(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
73	2501				明和4年亥2月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常州茨城郡馬場村赤塚信濃(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
74	2453				明和4亥4月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常陸茨城郡友部村百性弥十郎、磯辺村磯辺太膳(印)他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
75	2492				明和4丁亥年5月25日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州能代西福寺代喜三郎(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
76	2481				明和4亥年6月12日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州南部二戸郡浄法寺町彦吉(印)他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
77	2404				明和4年亥6月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	室町通今出川下ル町願主渚屋善右衛門(印)他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
78	2364				明和4年7月8日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	江州甲賀郡三田村中嶋利八(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
79	2495				明和4年亥8月19日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州仙台大町十七屋茂兵衛他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
80	2396				明和4年亥11月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	筑前福岡大手町稲荷請主茂田孫之丞他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
81	2397				明和4丁亥11月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	高野山萱堂上池院名代清涼院(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
82	2469				明和4年亥11月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	筑前福岡因幡町稲荷請主鎌田要人他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
83	2388				明和5年子2月13日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州秋田湊加賀町鈴木伯耆守庸貞(印)(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
84	2497				明和5年子3月21日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	信州埴科郡松城願主北村幸助政廟(花押)他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
85	2369				明和5年子ノ3月29日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	摂州池田東本町願主荒木九郎右衛門、同所田中丁取次汐見元治(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
86	2463				明和5年子4月25日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州南部磐手郡森岡川原町願主森善治郎他1名	本宮御公文所御殿預家神役中	竪切紙	1	
87	2366				明和5年子ノ4月29日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	筑前博多浜口浜立石又六(花押)	本宮御公文所御殿預家神役人中様	竪切紙	1	
88	2415				明和5年子5月14日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	濃州関九日町宗休寺廣瀬新太郎(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
89	2475				明和5年子6月15日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州会津若松北小路安養院(印)他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
90	2500				明和5年子12月2日	証紙之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	甲州都留郡下暮地村百姓八左衛門(印)	稲荷本山正官御殿預竈家雑掌中	竪紙	1	
91	2392				明和6年丑2月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	石不動明王院稲荷講中(印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	上部破損
92	2452				明和6丑年4月29日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	丹波氷上郡竹田村信楽寺秀山(花押)	稲荷本宮御殿預家神役人中	竪切紙	1	
93	2260				(明和6年丑4月～安永5年3月)	当社安鎮修封并添簡證紙等之留一式	稲荷社新権祢宜寮公林		竪帳	1	
94	2434				明和6年丑7月14日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常州行方郡串引村高野伝兵衛(花押)他1名	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守殿神役人中	竪切紙	1	
95	2428				明和6年丑8月21日	證文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	濃州山県郡梅原村願主榎並勘四郎(印)	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守殿神役人中	竪切紙	1	
96	2450				明和6年丑10月3日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	願主九條村島屋伊右衛門(印)他1名	稲荷社羽倉摂津守様神役人中	竪切紙	1	
97	2499				明和6年丑	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常州筑波郡酒丸村七兵衛(印)他1名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪紙	1	
98	2376				明和7年正月28日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	信州佐久郡御馬寄村大円寺代冨右衛門	稲荷本山御殿預家神役人中	竪切紙	1	
99	2431				明和7年寅正月	覚(奥州伊達郡光明寺村鎮守御瀧稲荷大明神名所書	別当玉宝院(印)他2名		竪切紙	1	
100	2445				明和7年寅2月23日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州田村郡三春領過足村木幡文左衛門他1名	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守殿神役人中	竪切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
101	2394				明和7年寅4月3日	乍恐以口上書ヲ奉願上候御口上(鎮守神官免許ニ付願)	羽州秋田湊加賀町鈴木伯耆守(印)	羽倉摂津守様御社内御神役衆中	竪紙	1	
102	2451				明和7年寅4月21日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常州水戸坂戸村江幡治衛門他1名	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守殿神役人中	竪切紙	1	
103	2393				明和7年寅4月25日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常陸国河内郡生坂村願主高橋隼人(印)他2名	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
104	2438				明和7年寅5月25日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	奥州南部鹿角郡下新田村沢井庄兵衛(花押)	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守殿神役人中	竪切紙	1	
105	2432				明和7年寅6月14日	證文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州秋田谷地中村佐藤善右衛門盛(花押)代善之助盛(印)	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守殿神役人中	竪切紙	1	
106	2410				明和7年寅閏6月7日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州庄内鶴岡八間町願主若松彦七(印)他1名	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守殿神役人中	竪切紙	1	
107	2426				明和7年寅12月	奉願候御安鎮之事(稲荷安鎮勧進ニ付証文)	常州鹿嶋郡大船津村名主願人善右衛門(印)他1名	羽倉摂津守様御役人衆中	竪切紙	1	
108	2423				明和8卯年4月2日	(羽州秋田雄勝郡上到米村稲荷明神他2社へ正一位稲荷大明神神官奉納願)	長松寺他1か寺	御取次様	続紙	1	
109	2421				明和8卯年5月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	常州河内郡馴馬村別当来迎院、取次蔦屋九兵衛(印)	稲荷本宮御殿預家神役人中	竪切紙	1	
110	2459				明和8年卯6月3日	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	房州長狭郡前原村中、勢州取次小久保斧右衛門(印)	稲荷本宮御殿預羽倉摂津守殿	竪紙	1	
111	2420				明和8年卯6月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州庄内中村栄之助(印)	本宮御公文所御殿預家御役人中	竪切紙	1	
112	2435				明和8年卯6月	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	羽州庄内宮坂栄蔵(印)	本宮御公文所御殿預家御役人中	竪切紙	1	
113	2449				明和8年卯7月	覚(奥州南部閉伊郡山田浦屋敷稲荷大明神官位頂載願)	前川次郎右衛門(印)	竹屋喜兵衛様	竪紙	1	
114	2391				明和8年卯8月	奉願覚(屋敷鎮守稲荷一社官位ニ付願)	越後蒲原郡一之木戸村願主彦左衛門(印)		竪切紙	1	
115	2386				明和9年辰2月17日	一札(御安鎮御修封ニ付礼状)	常州水戸茨城郡千波屋敷福田常右衛門(印)	本宮御殿預家尾崎金吾殿	竪切紙	1	
116	2429				明和	證文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	植松藤次郎	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	
117	2448				明和	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	越後国神原郡福岡村塚野藤七郎(拇印)	本宮御公文所御殿預家神役人中	竪切紙	1	下書か
118	2963				天明4年4月豊日	正一位王守稲荷大明神安鎮之事	正官御殿預従四位下行摂津守荷田宿祢信邦(印)	長嵜本田諸右衛門殿	竪紙	1	檀紙
119	2069				寛政12年10月豊日	正一位稲荷大明神安鎮之事	本宮本官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦(印)	大坂安土町野田屋宇右衛門殿他1名	竪紙	1	檀紙
120	2742	2			文政4巳年3月豊日	正一位稲荷大明神安鎮之事	本宮御殿預従五位上行摂津荷田宿祢信純		竪紙	1	檀紙、包紙として使用
121	2926				(文政9年)戌年2月(29日)	覚(御安鎮御幣物神納ニ付)	祓川佐渡守神役人(印)	善福寺様	竪切紙	1	奥書「文政九戌年二月廿九日」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
122	2008				文政10亥年12月豊日	正一位九重稲荷五社大明神安鎮事(阿波藩江戸屋敷稲荷安鎮許状)	正官御殿預従四位下行摂津守荷田宿祢信純		竪紙	1	檀紙
123	601	38			天保9戊戌年	正一位山田稲荷大明神安鎮之事	日本稲荷惣本官愛染寺知山(朱印)(花押)	山田鐵次郎殿	竪紙	1	
124	3227	9			天保11年5月17日	(正一位稲荷大明神神璽授与達書)	神祇官統領神祇伯王殿公文所(朱印)	願主清水屋丈七(筑前博多古小路町)	竪紙	1	
125	808				弘化4未年	御安鎮授与証文帳	御殿預家神役人		竪帳	1	
126	3227	6			嘉永元年4月豊日	正一位稲荷大明神安鎮之事	従五位上行伯耆守荷田信友(朱印)	筑州大山丈七殿	竪紙	1	
127	734				嘉永3戌年正月	御安鎮授与証文帳	本官正官御殿預家		竪帳	1	
128	601	9			安政3年仲春吉辰	正一位稲荷大明神安鎮之事	城州紀伊郡稲荷本宮正四位下行陸奥守秦宿祢忠紀	(出羽国庄内酒田田中氏)	竪紙	1	
129	809				安政5午年正月	御安鎮授与名前帳	本官正官御殿預羽倉摂津守神役人		竪帳	1	
130	3227	7			安政6年4月21日	(筑前国博多古小路町鎮守へ稲荷社神璽伝授達書)	神祇官統領神祇伯王殿公文所(朱印)	願主大山丈七	竪紙	1	
131	3227	8			安政6年4月21日	(筑前国博多古小路町鎮守へ稲荷社神璽伝授達書)	神祇官統領神祇伯王殿公文所(朱印)	願主大山丈七	竪紙	1	
132	601	10			安政6未年6月豊日	正一位三吉稲荷大明神安鎮之事	正宮正四位下行摂津守荷田宿祢信純(印)(花押)	三州岡崎藩中吉田奏悦殿	竪紙	1	
133	601	12			文久2年5月豊日	正一位稲荷大明神安鎮之事	惣本宮正官御殿預従五位下行摂津守荷田信義(印)	越前坂井郡中野村城戸佐五右衛門殿	竪紙	1	
134	601	11			文久2年8月豊日	正一位稲荷大明神安鎮之事	惣本宮正官御殿預従五位下行摂津守荷田信義(朱印)	肥後國天草井手村祐右衛門殿	竪紙	1	
135	1110				元治元年甲子2月	正一位稲荷大明神御安鎮幣料定式	本宮正官御殿預羽倉家神役人		横切紙	1	木版
136	1548				元治2年3月	(稲荷安鎮許状)	惣本宮正官御殿預従五位下行摂津守荷田信義(朱印)	備後福山蓑田郡府中藤井仙右衛門□	竪紙	1	
137	3227	1	1		慶応2年4月	(松風大明神神璽授与副翰)	神祇伯王家令出雲守源朝臣(花押)		竪紙	1	檀紙、内包紙・外包紙あり、ともに「副翰　大山与四郎」とあり、こよりあり
138	3227	2			慶応4年2月	(稲荷大明神神璽授与副翰)	神祇伯王家令備前守大江朝臣(花押)奉		竪紙	1	
139	3227	4			慶応2年4月	(松梅大明神神璽授与副翰)	神祇伯王家令出雲守源朝臣(花押)		竪紙	1	
140	3227	12			慶応3年7月	(松風大明神神璽授与副翰)	神祇伯王家令出雲守源朝臣(花押)		竪紙	1	
141	3227	13			慶応3年7月	(松梅大明神神璽授与副翰)	神祇伯王家令出雲守源朝臣(花押)		竪紙	1	
142	3227	5			慶応4年2月	(稲荷大明神神璽授与副翰)	神祇伯王家令備前守大江朝臣(花押)		竪紙	1	
143	601	3			慶応4年4月15日	正一位稲荷大明神安鎮之事	正官御殿預従五位上行摂津守荷田信義(朱印)	姉小路寺町西八文字屋庄三郎殿	竪紙	1	檀紙、包紙に「許書」の上書あり
144	2708	1	2		(明治2年)6月23日	(稲荷勧請ニ付申上)	羽倉摂津守印	江州大津松本村百姓重次郎	横切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
145	2708	1	4		(明治2年)巳6月23日	覚(稲荷社分神勧請猥りに取扱いまじくニ付覚)	稲荷社社司中	神祇官御役所	折紙	1	
146	733				(明治2己巳年7月～9月)	御安鎮授与証文	御殿預家神役人		竪帳	1	7～9月、76件の安鎮願
147	3227	1	2		(近世)子年5月17日	証(御供料収納証)	白川殿御役所(印)	清水屋丈七殿	竪切紙	1	
148	2737	15			(近世)子5月	(藤森稲荷由来覚書)	稲生八郎右衛門		続紙	1	包紙上書「覚書　稲生八郎右衛門」
149	2424				(近世)寅正月14日	乍恐以願書申上候事(御真書の正一位の額拝領願)	羽州最上郡小戸沢大頻久兵衛他2名	羽倉摂津守様	竪紙	1	
150	3312	11	10		(近世)2月3日	(星野久五郎鎮守勧請依頼ニ付書状)	修学院権僧正栄範(花押)	羽倉[　]様	切紙	1	襖下張、前後欠
151	2454				(近世)4月24日	(奥州会津福良村布引稲荷大明神正一位霊勧請依頼取次ニ付書状)	古橋弾正義倫(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	
152	2493				(近世)4月29日	覚(常州水戸城下稲荷三社へ正一位授与願)	水戸屋敷大久保兵右衛門	羽倉摂津守様	竪切紙	1	
153	2125				(近世)8月18日	(大湊筑屋敷紀州御役所境内稲荷ニ御璽相納度旨書状)	綿屋太夫文(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	
154	2482				(近世)10月15日	(相州津久井県又野村施主和田七郎右衛門他14名初尾金奉納ニ付添状)	世話人安藤忠右衛門		竪紙	1	
155	2124				(近世)閏10月15日	(稲荷社増官願ニ付書状)	野州日光鉢形町大類九兵衛	羽倉摂津守様御内尾崎一学殿	折紙	1	
156	2109				(近世)	稲荷明神勧請之縁起(安鎮広告刷物)	本願所愛染寺		竪紙	1	木版、包紙あり、他に書状3通
157	2372				(近世)年号	証文之事(正一位稲荷大明神安鎮修封ニ付証文)	長崎外浦町中村百大夫泉屋取次本田甚次郎(花押)	本山御公文所御殿預家御雑掌衆中	竪切紙	1	雛形、異筆で差出人を記入
158	2377				(近世)	(和州宇智郡表野村寺尾山安口寺名所書付)			竪切紙	1	
159	2409				(近世)	(願主名所書付)			竪切紙	1	「相州鎌倉小山郷宿谷行時山光則寺鎮守愛教稲荷大明神願主武郷坂田左重郎」
160	2422				(近世)	覚書(嶋田八郎左衛門他全額書出)			断簡	1	後欠
161	2437				(近世)	(常陸国河内郡生坂村子安稲荷大明神施主人書上)			竪切紙	1	上部破損
162	2440				(近世)	(正一位官施主願主名書出)			竪切紙	1	
163	2488				(近世)	(奥州仙台磐井郡東山大篭村佐藤与兵衛、所姓名書)			竪切紙	1	
164	2728	1			(近世)	稲荷小社改仕方内定書			竪帳	1	封紙上書「稲荷小社改仕方内定書并願書　弐冊入」
165	2728	2			(近世)	稲荷小社改願書案	稲荷本社惣代願人印	寺社御奉行所	竪帳	1	
166	3166				(近世)	(越後州蒲原郡水原稲荷大明神正一位神爵願書)	願主小笠原友右衛門源照羽		切紙	1	
167	3227	10			明治19年10月1日	授与之証(稲荷神璽授与之証)	稲荷神社祭典掛(印)	筑前国博多古小路町大山与四郎殿	竪紙	1	檀紙
168	3227	11			明治19年10月1日	授与之証(稲荷神璽授与証)	山城国稲荷山稲荷神社祭典掛(印)	筑前国博多古小路町大山与四郎殿	竪紙	1	檀紙、包紙上書「稲荷神璽授与之證」
169	3227	14			明治19年10月1日	中式第二六八九号　証(幣帛料・祈祷料領収証)	稲荷神社宮司近藤芳介(印)	筑前国博多古小路町大山与四郎殿	竪紙	1	
170	3227	15			明治19年10月1日	中式第二六九〇号　証(幣帛料祈祷料領収証)	稲荷神社宮司近藤芳介(印)	大山与四郎殿	竪紙	1	木版
171	601	7			明治	正一位稲荷大明神安鎮之事	惣本宮正宮御殿預従五位荷田信義(印)		竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
172	601	8			明治	正一位稲荷大明神安鎮之事	惣本宮正宮御殿預従五位荷田信義(印)		竪紙	1	

C—6　その他

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1029				元禄11戊寅年4月17日	葵祭行列			横半帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印
2	3113	1	1		天和3辛亥年卯月3日	(城州乙訓郡築山村菱妻社棟札)	稲荷社大工棟梁長谷川権太夫藤原芳昌他7名			1	3113-1-1～4が入っていた包紙上紙「城州乙訓郡築山村菱妻社迁宮之記、天和三辛亥年四月九日」、3113-1-1～15は紐で一括
3	3113	1	2		天和3辛亥年卯月9日	(菱妻社勧請ニ付祝詞)	荷田宿祢信詮		竪紙	1	
4	3306				元文2年巳正月	上方諸社奉納木刀之覚	信名	延武殿	続紙	1	
5	2685				宝暦14年正月14日	(家内繁栄之祈祷ニ付右大臣御教書写)	筑前守光祐	御師禰宜泉亭	竪紙	1	
6	764				(明和8年7月7日～文政3年5月1日)	(諸社修復等文書書留)	信資		横半帳	1	
7	1059				文化3丙寅年12月	(神事方勘定書付)			竪紙	1	
8	2708	5	5		嘉永7年寅11月	分水一件御訴詔并正徳度御訴詔延享度済証文之写〆三通			横半帳	1	和州平群郡椎木村等の事例
9	2708	5	2		安政2年9月8日	乍恐口上書(和州平群郡椎木村・同郡今国府村より筒井村・小林村相手取用水妨出入願書)	和州平群郡椎木村庄屋吉兵衛他3名	御奉行様	竪帳	1	和州平群郡椎木村等の事例
10	2123				慶応4年辰閏4月	乍恐奉嘆願候覚(飛鳥田神社再興取立願)	山城国紀伊郡横大路庄飛鳥田神社神主小畑大和守		続紙	1	
11	176				(近世)	上　賀茂社神殿舎屋神器神領等			竪帳	1	
12	2708	5	1		(近世)	乍恐双方連印済届(和州平群郡椎木村・今国府村・同州添下郡小林村・筒井村用水引取之義ニ付)			竪帳	1	2708-5-1～5が入っていた包紙あり、包紙上紙「雑記書新屋敷山一条次第書都合四通」、こよりあり
13	3111	7			(近世)	卜病□(兆＋卜、イワヒ)(一家病気卜)			切続紙	1	卜病□は「四十七子年生女儀」、周年吉凶□は「二十壬申生壮男」後欠
14	3140				(近世)	(彦根藩中山九郎の年譜覚			竪紙	1	
15	3218				(近世)	(羽倉摂津守宛証文等綴)			横綴	1	61通、後欠多し、こよりあり
16	3284				(近世)	(くすり取に遣し候件等ニ付書状断簡)			横切紙	1	3枚1組、襖貼りのものの断簡、3285と同封されていた
17	2979				(明治44年4月)	(藤森神社移転関係書類綴)			竪綴	1	青罫紙使用

D　学　芸

D—1　書　状

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3112	10			6月16日	(暑中見舞ニ付書状)	羽倉権九郎秘救(花押)	羽倉摂津守様	折紙	1	裏に会所集会一件の出入日記あり
2	3112	11			(近世)11月25日	(つつがなき旨ニ付書状)	羽倉権九郎秘救(花押)	羽倉摂津守様	切紙	1	冒頭部分欠
3	3112	15			6月25日	(御差越之書類返却いたし候ニ付書状)	羽倉外記用九(花押)	羽倉摂津守様	切続紙	1	封筒あり
4	330				天和3年11月	(荷田信詮書状)	荷田信詮	深尾休意宛	軸	1	此度了銀六貫目御合力
5	960	17			(近世)	(いし消息・追而書)	いし	御弁さま	切紙	1	襖下張の跡
6	960	21			(近世)	(いし消息)	いし	御弁さま	切続紙	1	中欠、襖下張の跡
7	960	56			(近世)	(いし消息)	いし	御弁さま	切続紙	1	後欠、襖下張の跡
8	965				2月7日	(荷田御風書状)	羽倉東蔵御風	羽倉摂津守様(信郷)	続紙	1	
9	680				(安永4カ)閏11月16日	(漢文)「沍寒道候…」	信郷	香山道人猊座下	半折	1	一部破損
10	690	16			つちのへとらの夏5月6日	(野辺の若菜摘承諾に関する礼状)	従五位下荷田信郷	龍草盧先生	切紙	1	前欠
11	2516				(近世)3月6日	(帰京出立延引等ニ付書状)	信郷	石見守殿	折紙	1	石見守は「延年」と貼紙あり
12	2517				(近世)3月14日	(病気により上京延引等ニ付書状)	信郷	石見守殿	折紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
13	3112	12			(寛政10年か)文月14日	(二条城雷火にて焼失の事等覚書)	のふ年(延年)		横綴	1	
14	3324	6				(例年之通ほしまつり頼ミ遣わす等ニ付書状)	延年		折紙	1	
15	2736	2	1		(弘化3年)6月25日	(已後粗忽ニ疑ヶ間敷儀失礼ニ不申出候ニ付書状)	信純	讃州殿	続切紙	1	2736-2-1～13迄が入っていた包紙上書「尾州知多郡寺本村神主下村主税大祝式一件ニ付松平讃岐守ト懸合書□入」、こよりあり
16	3				幕末～近代	(荷田信義書状等綴)	信義		続紙	1	書状箱に別置
17	2031				霜降月13日	(荷田正子消息)	正子	織子様(荷田織子)	切続紙	1	前欠
18	8	1			明治17年4月13日	(羽倉光表書状)	東京府麻布区麻布本村町氷川神社境内羽倉光表	山城国紀伊郡稲荷山稲荷神社境内羽倉信義様	切紙	1	
19	8	3	1		明治16年3月5日	(羽倉光表書状)	羽倉光表	羽倉信義様	切続紙	1	
20	3112	9			8月26日	(養子之儀等ニ付書状)	(荷田)信興		切紙	1	
21	979	2				(暑中見舞)	うたの	東羽倉さま	切紙	1	
22	979	5				(荷田俊子書状)	うたの	おちかさま	切紙	1	
23	979	3				(荷田俊子書状)	俊子	羽倉信真さま	切紙	1	
24	2962				6月7日	(先日推参御礼につき書状)	俊	羽倉信真様、お千加さま	続紙	1	明治末・大正頃カ
25	979	1				(荷田俊子書状)	(荷田俊子カ)		切紙	1	封筒「荷田俊子書翰」
26	979	6				(荷田俊子書状包紙)	(荷田俊子カ)		包紙	1	封筒「荷田俊子書翰」
27	976					(荷田豊子書状)	豊子	御かもしさま	折紙	1	前欠
28	2798				(2月23日他)	(羽倉可亭書状綴)	可亭	歌野様	巻子	1	
29	2				近代	(羽倉可亭書状綴)	羽倉可亭		続紙	1	書状箱に別置
30	20				近代	(羽倉可亭書状等綴)	可亭	信義	軸	1	書状箱に別置
31	3139				明治33年4月2日	(明治十年来の父子無沙汰の謝状並びに交誼願ニ付書状)	羽倉泰	羽倉家御中	続紙	1	
32	321					(羽倉益尾書状)	羽倉益尾	いし崎阿もじ様	軸	1	新玉の御寿限なふ祝詞まゐさせ候…
33	3179				17日	(久濶を叙する書状付和歌)	(大西)親典	摂津守殿	切続紙	1	
34	2736	2	8		(弘化3年)6月18日	(貴殿方へ被参候侍之人名前・所等御聞せ被下度ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切紙	1	
35	2736	2	5		(弘化3年)6月19日	(御手紙之趣承候等ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切紙	1	
36	2736	2	6		(弘化3年)6月19日	(御尋之今一人之処私未承候ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切紙	1	
37	2736	2	2		(近世)6月21日	(金子之義等宜様吟味願入候ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切紙	1	
38	2736	2	7		(近世)6月21日	(参上御咄し可申上ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切紙	1	
39	2736	2	11		(近世)6月21日	(鳥居南家へ申参り候物貴殿より御尋可被下候等ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切紙	1	「安鎮之義御心配も無之様」とあり、端裏に「延引御答」
40	2736	2	10		6月22日	(中之町藤兵衛并八兵衛吟味之趣承度候等ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切紙	1	端裏「先刻之御答」
41	2736	2	3		(近世)6月23日	(貴殿方疑義一切無御座候等ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切紙	1	
42	2736	2	9		(近世)6月23日	(御触并御回文等拝借仕度候ニ付書状)	(松本)為名	摂州公	切紙	1	
43	2736	2	4		(近世)	(拝領之品返上等ニ付書状)	(松本)為名	摂津守殿	切続紙	1	端裏「延引御答□書状壱通添」
44	2032				38877	(消息)	まつ山	おへんさま(荷田弁子)	折紙	2	
45	665				甲午10月20日	(漢文)「陰風…」	彦城菅元□	稲荷山子晟荷田君	状	1	端裏書「彦根石井半之允」
46	670				11月28日	(漢文書状)	源承根	大碩彦荷子晟老先生	状	1	端裏書「阿波足利又太郎」
47	691	11			2月11日	(病気に関する書状)	養真合爪	三峯田君	切継紙	1	漢文
48	963				(正月29日～7月朔日)	(書状)	杉浦摂津守菅満(花押)	羽倉摂津守様参人々御中	折紙	4	
49	1615				子12月	(西之丸御普請御用済帰京等ニ付書状)	松田甚兵衛	摂津守様	切続紙	1	切紙を継いである
50	2984	1			2月28日	(上田より妹子様縁談之儀ニ付書状)	下田菅五郎	羽倉摂津守様	切続紙	1	
51	1607				11月5日	(借入方等之儀ニ付書状)	菅五郎	摂津守様	切続紙	1	
52	3523				3月24日	(杣雇人取計方催促ニ付書	上田俊之助	羽倉摂津守様	続紙	1	印刷渋引
53	54				9月19日	(書状)	義順	羽倉摂津守殿	巻子	1	書状箱に別置

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
54	601	15			2月28日	(年始の祝詞として扇子料白銀壱封進上)	幸小左衛門正栄(花押)	羽倉間斎様	折紙	1	
55	601	16			11月9日	(免状差上げの御肴料に対する御礼状)	幸小左衛門正栄(花押)他1名	羽倉間斎様	折紙	1	
56	601	17			10月9日	(許状指上の御肴代金子頂戴につき礼状)	幸小左衛門正栄(花押)他1名	羽倉間斎様	折紙	1	
57	2024					(消息)	玉沢	羽倉摂津守様	折紙	1	
58	2028					(消息)	ミほ	つの守さま	折紙	1	
59	3320				(近世)	(使札の趣三木氏へ伝達の儀等ニ付書状)	香川柳拝	羽倉筑前介様	切続紙	1	
60	3321	1				(信郷書斎へ諸君の詩・詠草等求ニ付尺牘)			竪紙	1	
61	3323				(近世)2月24日	(近況報告ニ付書状)	佐土原九左衛門妻もよ	羽倉摂津守様、羽倉岩見守様	切続紙	1	2枚1組(元折紙)
62	3312	6			3月17日	(歌題ニ付書状)	元広	石見守様	切紙	1	
63	3327				(近世)8月16日	(用事相済み出京ニ付書状)	大伴前大宮司	羽倉石見守様他1名	折紙	1	
64	3312	3			(近世)正月9日	(歌合に詠進之旨書状)	親重	石州公	切紙	1	
65	691	10			孟夏11日	(蔵書をめぐる論争・書状)	朕然	石州別駕	切紙	1	漢文
66	3312	11	13		12月30日	(拝借之書物返上ニ付書状)	釈寧	石見守様	切紙	1	襖下張
67	73				7月11日	(小沢盧庵書状)	小沢盧庵	羽倉石見守殿	軸	1	金庫に別置
68	308					(小沢盧庵書状)	小沢蘆庵	常陸介(信言)様	軸	1	
69	3111	11				(品物依頼等につき消息)	民部	河内介さま(荷田信昌)	折紙	1	民部卿局(信舎三女、女蔵人)カ
70	3111	12			9月晦日	(茸御礼状)	龍草廬	羽倉常陸介(信言)様	切続紙	1	
71	2130				10月3日	(如峯山人漢詩・小沢蘆庵書状)	(小沢蘆庵・如峯山人)	羽常陸介(信言)様	切紙	2	裏打1紙、如峯山人七言絶句あり
72	3193				正月7日	(肴代進上ニ付書状)	季鷹	播磨介殿	切紙	1	
73	3159				3月吉日	(御令嬢文尾様・御良様婚儀祝状)	成瀬日俊	羽倉信義様	折紙	1	
74	3167				丑6月5日	(金子借用願ニ付書状)	経師屋次助	羽倉檀那様	切紙	1	
75	3188				10月9日	(扇子三握被贈下ニ付礼状)	義根	羽倉老大人	竪紙	1	
76	2034					(年賀消息)	寿美	はぐら御益糸様	切続紙	1	
77	3311	2				(姪母様御長命いわい入申候ニ付書状)	草□□	羽くら御おもしさま	切続紙	1	
78	2970				(近世)正月5日	(新年の挨拶ニ付書状)	杉浦伊勢守葛満(花押)	羽倉伯耆守様	折紙	1	新皇嘉門院死去ニ付触穢記事あり
79	3111	5			(近世)	(津の守殿来訪ニ付礼状)	円妙院	ゆふそのさま	折紙	1	
80	3324	1				(手紙頂戴御礼ニ付書状)	亭山	ゆふそのさま	切紙	1	
81	3324	5			(近世)	(新年挨拶等ニ付書状)	亭山	ゆふそのさま	切紙	1	前欠
82	3324	4				(あきほつの守へ文差遣等ニ付書状)	青源院	ゆふそのさま	折紙	1	
83	3324	8				(書状断簡)	しらを	木綿園さま	切紙	1	
84	952					(書状)	つほね	御三保様江人々御申上まいらせ候	切紙	1	袋書「つほね書簡」
85	973				初春	(書状)	瀬山	お美保さま	折紙	1	
86	979	4				(書状)	初万	お末さま	切続紙	1	包紙入り、包紙上書「故お初万さまの御ふみ見当り御座候信よし様へ　とし子」
87	2801					口上(御用ハ広瀬浅蔵江御申出候ニ付)	松尾なる	哥野さま	切続紙	1	
88	3111	4				(寒中見舞)	こま	おみとさま、おらくさま	折紙	1	
89	36					(書状)	菅野	お羅具様	巻子	1	書状箱に別置
90	951					(書状)	たか	お庭様	折紙	1	袋書「たか書簡」
91	41					本居宣長翁書翰	(本居宣長)	大平公	軸	1	「十五日十六日両度之御状致拝見候…」、金庫に別置
92	55					(書状)	田鶴	中儀(本居宣長)	巻子	1	書状箱に別置
93	2984	2			9月5日	(結納日取極、女子名前の例等ニ付書状)	上田弥右衛門	下田菅五郎様	続紙	1	
94	3187				極月19日	(鹿苑和尚持参の菓子珍敷被思召候由等ニ付書状)	芳春院玉舟	園池治部卿殿	竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
95	3311	4			(昭和5年)11月11日	(浅野内匠頭長直事績の問合せに対する返状)	広島市小町浅野図書館三井大作	京都市外伏見町官幣大社稲荷神社宮司高山昇殿	用箋	1	2枚1組、封筒あり、忠臣蔵関係記事の切り抜きあり(3点)
96	1				近代	書状綴	羽倉信平内川上龍蔵		続紙	1	書状箱に別置
97	3312	11	12		正月11日	(書状断簡)	垂水伊織雅(花押)		断簡	1	襖下張、前後欠
98	1609				霜月10日	(書状断簡)	戸田文四郎(花押)		断簡	1	前後欠
99	3142	6				(御いのこの御祝儀被下ニ付返状)		お八重さま	竪紙	1	ちらし文
100	3143					(盆之御祝ニ付消息)		お茂さま	竪紙	1	ちらし文
101	3011				(近世)6月5日	(松かせの日記借用願等ニ付書状)			折紙	1	紙背に和歌詠草3首あり
102	3162				13日	(まつ山よりの品受取等ニ付消息)			折紙	1	
103	3309				(近世)	(御所へ召出される等ニ付書状)			折紙	1	後欠
104	3020					口上(名酒送付礼状)			続紙	1	
105	3168				(近世)	(消息断簡)			切紙	1	
106	3312	8			(近世)	(出納家養子ニ付消息)			折紙	1	上部破損
107	1608				(近世)	(消息断簡)			切紙	1	前後欠、襖下張の跡
108	3312	11	11		(近世)	(年賀ニ付書状)			切紙	1	襖下張、後欠
109	3312	11	14			(書状断簡)			切紙	1	襖下張、前後欠
110	3312	11	15		(近世)	(書状断簡)			切紙	2	襖下張
111	3312	12				(書状断簡)			切紙	1	襖下張
112	3324	2				(病気之義等ニ付書状)			切紙	1	断簡
113	3324	3				(御越年目出度等ニ付書状)			折紙	1	後欠
114	3324	7				(御越年悦入等ニ付書状)			折紙	1	前欠
115	3322					(百人一首抄一冊返進ニ付書状)			竪紙	1	後欠

D—2　詠草・詩歌・文芸

D－2－1　荷田一門

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2969					得迹字(七言絶句)	信詮		切紙	1	
2	74					(漢詩)	荷田信詮		軸	1	金庫に別置
3	329					荷田信詮漢詩(得林字)			軸	1	元政上人吟社詩巻所載荷田信郷識語、
4	1267				宝暦2年10月19日	和歌会兼題当座留記愚亭之執行	従五位下荷田信郷他		竪帳	1	
5	1396				宝暦10年辰9月3日	詠草(神祇伯雅喬王詠草)	稲荷正預信郷(花押)		竪帳	1	写、内容は寛永10年9月28日～天和2年、自筆本を資頭親王より拝借
6	2512				(明和3年カ)	夏月涼(和歌詠草添削)	信郷		続紙	1	大西親友17回忌和歌あり、明和3年か
7	1400				明和4年5月28日～安永2年正月	幽松亭咏藻(信邦和歌詠草)	荷田信郷		竪帳	1	「閑院帥典仁親王御点、明和四年五月二十八日入門」とあり、「青楓館印」朱印
8	2554				明和4年7月	早凉到(法楽和歌詠草)	信郷		竪紙	1	
9	2551				明和4年10月	氷初結(法楽和歌法楽)	信郷		竪紙	1	
10	2550				明和5年5月	当社法楽五月雨(和歌詠草)	信郷		竪紙	1	
11	2529				明和5年6月	六月法楽夕立雲(和歌詠草)	信郷				
12	2537				(明和5年8月)	当社法楽霧中雁(和歌二首添削)	信郷		竪紙	1	年代は貼紙による
13	2538				明和5年9月	九月当社法楽菊帯露(和歌詠草)	信郷		竪紙	1	
14	2539				(明和6年正月)	当月当社法楽鶯和万春(信郷和歌詠草)	信郷上		竪紙	1	年代は貼紙による
15	2540				明和6年5月	当社法楽五月郭公(和歌詠草)	信郷		竪紙	1	
16	2541				(明和6年7月)	当社法楽新秋夕露(和歌二首)	信郷上		竪紙	1	年代は貼紙による
17	2542				明和6年8月	当社法楽山月初登(和歌詠草)	信郷		竪紙	1	
18	2543				(明和7年11～12月)	当社法楽雪中残雁(信郷和歌詠草)	信郷上		竪紙	1	年代は貼紙による
19	2544				明和8年3月	当社法楽花有遅速(和歌詠草)	信郷		竪紙	1	
20	3080				明和8年4月	当社法楽舟路卯花(和歌詠草)	信郷上		竪紙	1	
21	2545				(明和9年正～2月)	当社法楽春来日暖(信郷和歌詠草)	信郷上		竪紙	1	年代は貼紙による
22	2546				明和9年5月	当社法楽滝下蛍(和歌詠草)	信郷				
23	2547				(安永2年3～閏3月)	当社法楽苗代(信郷和歌詠草)	信郷上		竪紙	1	年代は貼紙による

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
24	2548				安永2年8月	当社法楽野鹿(和歌詠草)	信郷		竪紙	1	
25	2293				(天明5年乙巳正月元～7日)	詠千首和歌上下	荷田信郷		竪帳	1	二冊合綴、ここまで箱5-2(2227から)
26	2518				(寛政8年春)	(蕎渓翁、伏見山への紀行巻物作成の由来書)	正四位下荷田信郷		折紙	1	添削あり、年代は紀行を実施した年
27	1124					奉納二拾二社四季和歌	正四位下信郷上		折紙	1	
28	2292					唫哦雑稿(和歌集)	七松主人(荷田信郷)		竪帳	1	
29	2505	2			(近世)	御会始霞中聞鶯(信郷和歌詠草)	信郷		続紙	1	
30	2506	1			(近世)	稽古三吟百首之内(和歌草稿添削)	信郷		続紙	1	2506-1と2は紐で括られていた
31	2506	2			(近世)	月信院当座之内(信郷和歌詠草添削)	信郷		続紙	1	
32	2507				(近世)	御月次始摘若菜(月次和歌詠草添削)	信郷		続紙	1	
33	2508				(近世)	御月次梅花久芳(信郷和歌詠草添削)	信郷		続紙	1	石川丈山百回忌の詠草があり明和8年か
34	2509				(近世)	御月次青柳風静(信郷和歌詠草添削)	信郷		続紙	1	
35	2510				(近世)	千首之内立秋日(信郷和歌詠草)	信郷		続紙	1	こよりあり
36	2511				(近世)	若菜契追年(信郷和歌詠草)	信郷		続紙	1	後欠、「対松年齢、七十賀、木村正養勧進」
37	2513				(近世)	松色春久(信郷和歌詠草添削)	信郷		竪紙	1	
38	2514				(近世)	(和歌詠草添削)	能帰郷		折紙	1	
39	2515				(近世)	飛鳥井家出題懐旧(和歌詠草添削)	信郷		続紙	1	故下野守信允七回忌和歌あり
40	2519				(近世)	春日詠二首和歌(和歌懐紙)	正五位下荷田信郷		竪紙	1	檀紙
41	2520				(近世)	(九十翁亨安ぬしの賀ニ付和歌懐紙)	信郷		竪紙	1	
42	2521				(近世)	秋籬菊(和歌詠草)	信郷		折紙	1	
43	2522				(近世)	古寺鐘(和歌詠草)	信郷		折紙	1	
44	2523				(近世)	身まかりつる女子の霊をまつりて朋直の霊となつけ其もしを初におきて手むけによミ侍る(和歌八首)	のふ郷		竪紙	1	「同し事を 庭子」
45	2524				(近世)	雨後夏月(和歌詠草)	信郷		折紙	1	
46	2525				(近世)	追慕荷田信舎宿祢星夕言志(和歌詠草)	信郷		竪紙	1	檀紙
47	2526				(近世)	嫡孫延年か首服を加ふるとて(信郷和歌詠草)	信郷		竪紙	1	
48	2527				(近世)	名取月(信郷和歌詠草)	信郷		折紙	1	
49	2528				(近世)	静直霊三めくりの年五月の七日手むけの言葉(和歌詠草三十首)	のふさと		続紙	1	檀紙
50	2549				(近世)	詠江寒蘆(信郷和歌詠草)	正五位下荷田信郷		竪紙	1	
51	3027					(「氷室」2首他和歌詠草4首)	信郷		折紙	1	
52	3079					(信郷・信寿等和歌詠草)			折紙	1	
53	3111	2				(前句付)	子晟他4名昌伯(花押)(判者)			1	端裏書「前句附」
54	3112	18				静直霊三回の年五月の七日手向乃辞	のふさと(荷田信郷)		竪紙	1	断簡、合計4枚
55	3294					萩映水(詠草)	信郷		竪紙	1	
56	3521					社頭雪(和歌詠草)	信郷上		竪紙	1	貼紙「明和四年十一月法楽」とあり
57	3522					早梅匂(詠草)	信郷上		竪紙	1	貼紙「明和四年十二月法楽」とあり
58	2941				寛政甲寅(6年)之冬	春葉集後序	稲荷祠官正四位下荷田信郷		続紙	1	
59	2284				(元文2～3年か)	詩稿	荷田信郷		竪帳	1	外題「詩稿 丁巳戊午七」、漢詩
60	2285				(元文4年か)	己未詩稿	荷田信郷		竪帳	1	漢詩
61	1116				明和6年巳丑12月	(信郷漢詩集)			竪帳	1	
62	2113				明和庚寅(7)年5月	(漢詩文、霞谷十二景)	幽松亭主人荷田信郷		切紙	12	
63	2553				庚寅(明和7年)之初冬	(五言律詩)	三峯荷田信郷		竪紙	1	朱書「白栄堂」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
64	2257				(天明乙巳-5-年仲冬～寛政2年庚戌8月5日)	(梅花楼会等歌会漢詩集)	荷田信郷他		竪帳	1	「時習堂蔵」黒罫紙使用、所載人名の多くは「平安風雅」に見える
65	1221				寛政5年8月15日～同年12月16日	間斎会稿(漢詩集)			竪帳	1	信郷邸での月次歌会記録。蘆庵、経亮など。
66	690	1			寛政乙卯(7)年元日	(五言律詩)咏竹	三峰荷田信郷	小野君	竪紙	1	690を包んでいた紙(「信郷」)と紐を入れる
67	690	4			乙卯中秋	乙卯中秋霽雨連夕殆不見月旦有□恙伏枕無聊賦此自慰	三峰信郷		切紙	1	
68	690	18			寛政乙卯(7)年嘉平月	題間斎壁上(七言律詩墨書)	三峯信郷		状	1	まくり
69	2282				乙卯(寛政7年)	乙卯詩稿	荷田信郷拝		竪帳	1	外題「詩稿　乙卯　上三」、漢詩、朱点等あり
70	2283				乙卯(寛政7年)	詩稿	荷田信郷拝		竪帳	1	外題「詩稿　乙卯　中四」、漢詩、朱点等あり
71	2259				寛政己未(11)年正月28日	詠物百絶	間斎 荷田信郷		竪帳	1	等陣・詩瓢他漢詩集、「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
72	1119				寛政己未(11)年11月17日	冬蘭十首(七言絶句)・舟暁五種(七言絶句)	荷田信郷草		竪綴	1	「荷田氏蔵書」入黒罫紙使用
73	690	13			9月	(九月授衣の漢詩)	三峯[　]		竪紙	1	一部破損
74	656					(漢文)□児信言忌日作	三峯老生		竪紙	1	
75	683					(五言絶句二首)	三峯生題、延年		竪紙	1	
76	687					(五言律詩三首)	信郷、養真		竪紙	1	
77	690	2				(五言律詩)新築七夕	間斎信郷		竪紙	1	
78	690	3				(五言律詩)癸丑除夜	信郷		竪紙	1	
79	690	5				(五言律詩二首)「訪蘭州新築」	三峯		切紙	1	
80	690	6				(七言律詩)冬日山居次韻蘭州	三峯信郷		竪切紙	1	
81	690	7				(七言律詩)秋尽集飲分体	信郷		切紙	1	
82	690	8				得朕然北越客中書詳悉起居不堪抃喜詩以代書答之　四首限卦韵	三峰生		竪紙	1	
83	690	9				中秋無月、二更初晴(七言律詩二首)	三峯荷田信郷		竪紙	1	春翁蘭州之高韻
84	690	10				(五言律詩)病起作	間斎信郷		竪紙	1	
85	690	11				元日口号	三峯生		竪紙	1	
86	690	12				(七言律詩)咏楓　方俗称楓曰紅葉戯借本邦之故事作句	三峰信郷		竪紙	1	
87	690	14				(漢詩)雷雨吟	子晟		竪切紙	1	
88	690	15				(新詩喜同調朗吟の漢詩)	三峯信郷		切紙	1	前欠
89	690	17				寄題酔自舎(七言律詩墨書)	三峯荷田信		状	1	まくり
90	690	19				(水銃に関する戯賦一律)	三峰信郷		切紙	1	
91	690	20				雪意勤韻雪朝散武勒韻(五言絶句二首)	三峰信□		切紙	1	
92	690	21				(漢文)哭香山吉甫	三峰信郷		切紙	1	
93	690	22				(七言律詩二首)河亭冬景、残菊	信郷		切紙	1	
94	690	23				賀并河賢契新冠(七言絶句)	三峰荷田信		切紙	1	
95	690	24				(五言絶句)適園八咏之一	間斎信郷		竪切紙	1	
96	690	25				義良上人帰住宝円精舎(七言絶句)	三峰荷田信郷		状	1	
97	690	26				村居秋雨次陳簡斎韻記隣翁之語(漢文)	間斎信郷		竪切紙	1	
98	690	27				(五言絶句)臥龍橘	三峯信郷	(適園主人)	竪切紙	1	
99	690	28				(七言絶句)□鷺	三峯信郷		竪切紙	1	
100	690	29				寒夜作(五言律詩)	三峰		竪切紙	1	
101	690	30				(五言律詩)戯題	信郷		竪切紙	1	
102	690	31				(七言律詩)梅雨得七陽	信郷		竪切紙	1	
103	690	32				(七言律詩)山在雪	荷田信郷		竪切紙	1	
104	690	33				(七言律詩墨書)	三峯信郷		状	1	まくり、上部破損
105	690	34				(七言絶句二首)中秋見月口号、後夕無月用前韻	三峰信郷		竪紙	1	
106	690	35				早春郭外次韻(七言律詩)	三峯生		竪紙	1	
107	690	36				来青楼期南嶺不至(七言律詩)	三峯信郷		竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
108	690	37				(五言律詩)春水	三峯荷田信郷		竪切紙	1	
109	690	38				(五言律詩)滄洲翁見過閑居賦謝	信郷		切紙	1	
110	690	39				(七言絶句)客中看杜鵑花	三峯		竪切紙	1	上欠
111	690	40				得暁季(五言長詩)	信郷		竪紙	1	前欠
112	690	41				雪日遊山亭(七言律詩)	三峰郷		竪切紙	1	
113	690	42				(五言絶句三首)寄題香山氏小舟窩	三峯信郷		竪切紙	1	
114	690	43				咏堕栗(七言律詩)	三峰信郷		竪紙	1	
115	691	74				(七言律詩)初冬山行	子晟		竪切紙	1	
116	1120					有芳菌観菊引	信郷		罫紙	1	黒罫紙使用
117	1272					(七言律詩三首)	信郷		竪紙	1	「東山賞花・哭草□先生・春社雨」、黒罫紙
118	1391					(漢詩詠草)	信郷他8名		竪帳	1	「山家雪　信郷」など、絵入罫紙使用
119	1392					悼凶詩	幽松主人草(三峯、信郷之印)		竪帳	1	仮綴、絵入罫紙使用、印は信郷のものか
120	2132					(霞峯散人他漢詩文)	三峯(信郷)他5名		竪紙	4	信郷関係漢詩詠草
121	2235					七松居詩稿初編	三峰荷田信郷著		竪帳	1	外題「詩稿初稿完」、「青楓館印」朱印、「荷田氏蔵書」の罫紙使用
122	2248					松圃会稿(和歌集)			竪帳	1	「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
123	2249					松圃詩鈔　巻之上、中、下(漢詩集)	平安荷田信郷子晟著		竪帳	1	上中下揃い
124	2262					間斎漫唫巻之一(漢詩集)	平安荷田信郷子晟著、孫延年大齢輯		竪帳	1	「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
125	2263					詩稿	信郷		竪帳	1	早梅、寒江夜泊等漢詩
126	2267					松圃詩鈔巻之上	平安荷田信郷子晟著		竪帳	1	「青楓館印」朱印、「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
127	2273					十五家雪詩稿	三峰荷田信郷		竪帳	1	儒家雪等七言律詩集
128	2274					七松居詩鈔　全(漢詩集)	作者荷田信郷著		竪帳	1	「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
129	2280	2				詩稿　自壬子之冬至癸丑之	荷田信郷拝草		竪帳	1	朱点等あり
130	2281					詩稿亭詩集拾遺	三峰荷田信郷他1名		竪帳	1	漢詩
131	2286					詩稿(幽松亭詩集など荷田信郷漢詩集草稿)	荷田信郷(荷田信言編)		竪帳	1	「青楓館印」朱印、「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
132	2287					松圃詩稿(漢詩集)	三峯荷田信郷子晟著		竪帳	1	「青楓館印」朱印、「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
133	2288					七松居詩稿初編拾遺	三峯荷田信郷著		竪帳	1	「青楓館印」朱印、「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
134	2290					間斎漫吟三編巻之一　巻之二	平安荷田信郷子晟著孫延年大齢輯		竪帳	1	記述が途中で終わっている。「青楓館印」朱印、「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
135	2291					囂囂舎詩草　完	三峯荷田信郷子晟著		竪帳	1	「青楓館印」朱印、「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用、表題墨消あり
136	2530				(近世)	賦得東風解凍(七言絶句)	三峯荷田信			1	まくり
137	2536				(近世)	相州秦使君閑亭牡丹(七言絶句二首)	従五位荷信郷拝		竪紙	1	
138	2552				(近世)	重遊梅渓秦江州有詩□韻(七言絶句)	三峯荷田信郷		竪紙	1	
139	2957					分題得喜雨(七言絶句試作)	信郷		切紙	1	
140	3112	2				錦堆墓下作(漢詩試作添削)	(荷田)信郷		竪紙	1	
141	3321	2				(七言律詩)	信郷		竪紙	1	
142	3321	3				(漢詩)	荷田信郷		竪紙	1	
143	1220					閑居十適(漢詩集)	荷田信郷草		竪綴	1	「荷田氏蔵書」黒罫紙使用、差出抹消あり
144	311					荷田子晟書漢詩			軸	1	
145	312					荷田信郷漢詩			軸	1	梅天雨色満山青…
146	337					荷田信郷漢詩			軸	1	
147	691	25				(五言律詩五首)次蘭州春老兄病中雑題三十首之韻	(荷田信郷カ)	(蘭洲春老兄)	罫紙	1	版心に「荷田氏蔵書」688-1の次韻カ

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
148	2329					(七松居近体詩鈔 巻上下)	荷田信郷子晟著、男信言士行校		竪帳	1	二冊合綴、「青楓館印」、信郷漢詩集の稿本
149	3096					詠子規数声和歌(和歌懐紙)	荷田信理		竪紙	1	
150	3097					詠霜草虫吟倭歌(和歌懐紙)	荷田信理		竪紙	1	
151	1192				明和庚寅(7)之秋9月	稲荷山十二景記并伊藤東所詩	稲荷祠官正五位下荷田信郷		竪帳	1	赤色罫紙使用、写か
152	1186					稲荷山十二境詩			竪帳	1	「荷田氏蔵書」罫紙使用
153	1188					稲荷山十二景			竪帳	1	
154	1189					稲荷十二景			竪帳	1	「竈家蔵書」印あり、後序「明和庚寅之秋九月稲荷祀官正五位下荷田信郷謹識」
155	1190					稲荷山十二景記			竪帳	1	木版、墨書「明和己丑之春稲荷祀官正五位荷田信郷謹識」、朱書にて書き込みあり
156	2240					咏叢	幽峯亭(朱印)		竪帳	1	朱印は「三峯」
157	309					荷田信章和歌 御□□東丸雅公大宮司			軸	1	おもひやる…
158	319					荷田信章和歌 春日同詠余寒月			軸	1	さえかへり…
159	3326				(近世)	(夏湖等和歌詠草7首)	信章上		続紙	1	
160	3304				(近世)	杜五月雨之評	信章評		竪帳	1	
161	3112	13				(三峯翠黛他五言絶句詠草)	信栄艸		続切紙	1	封筒には「詩藻」と記載
162	948	24				(咏草添削)	盛子		折紙	1	
163	1269					(忍草)	盛子		横帳	1	
164	2974					詠都春曙和歌	荷田延武		竪紙	1	
165	3043					詠紅梅遅和哥(和歌懐紙)	荷田延武		竪紙	1	
166	3044					詠子規数声和歌(和歌懐紙)	荷田延武		竪紙	1	
167	3045					詠霧中聞鶉和歌(和歌懐紙)	荷田延武		竪紙	1	
168	3046					詠卯花続家和歌(和歌懐紙)	荷田延武		竪紙	1	
169	3047					詠蛍火透簾和歌(和歌懐紙)	荷田延武		竪紙	1	
170	3112	5	1			月前鹿(詠草)	信武		竪紙	1	
171	3112	5	2			雹(詠草)	延武		竪紙	1	
172	1491				安永2年巳正月	詠草	荷田信邦		竪帳	1	「青楓館印」朱印
173	2357	65				夕鹿(詠草)	信邦		折紙	1	
174	2357	79				停年月(詠草)	信邦		折紙	1	紙背に「秋田」などの詠草あり
175	2357	80				(「秋田」など詠草11首)	信邦		折紙	1	
176	2357	81				(「聞鹿」など詠草4首)	信邦		折紙	1	
177	2357	82				停年月(詠草2首)	信邦		折紙	1	
178	2357	83				(「秋田」など詠草5首)	信邦		折紙	1	
179	2357	84				蔦(詠草3首)	信邦		折紙	1	
180	2357	85				落葉(詠草)	信邦		折紙	1	
181	2357	86				蔦(詠草)	信邦		折紙	1	
182	2357	87				(「雲雀」など詠草5首)	信邦上		折紙	1	
183	2360	1				枯野(詠草6首)	信邦		折紙	1	
184	2360	2				立春(詠草2首)	信邦		折紙	1	
185	2360	3				落葉(詠草2首)	信邦		折紙	1	
186	2360	4				寄鳥恋(詠草2首)	信邦		折紙	1	
187	2360	5				(「蚊遣火」など詠草9首)	信邦		折紙	1	
188	2360	6				春月(詠草)	信邦		折紙	1	
189	2360	7				恨恋(詠草2首)	信邦		折紙	1	
190	2360	8				寄鳥恋(詠草3首)	信邦		折紙	1	
191	2360	9				(詠草三首)	のふ邦		折紙	1	ぬし米栄おハしまさんことを視て他二種
192	2360	10				早苗(詠草2首)	信邦		折紙	1	
193	2360	13				(「若菜」など詠草六首)	信邦		折紙	1	添削あり
194	2360	14				(「当座更衣」など詠草六首)	信邦上		折紙	1	添削あり
195	2360	15				(「会始兼題江上霞」など詠草六首)	信邦上		折紙	1	添削あり
196	2360	17				(「杜花」など詠草六首)	信邦上		折紙	1	添削あり
197	2360	18				(「岡新樹」など詠草六首)	信邦上		折紙	1	添削あり
198	2360	20				(初花二首・開月二首詠草)	信邦上		折紙	1	添削あり
199	2360	21				(「橘辺霞」など詠草六首)	信邦上		折紙	1	添削あり
200	2360	23				(「梅盛」など詠草六首)	信邦上		折紙	1	「月次会始兼題」、添削あり
201	2360	24				(「当座夕鶯」など詠草六首)	信邦上		折紙	1	添削あり
202	2360	25				(「初春」など詠草六首)	信邦上		折紙	1	添削あり
203	3016					(詠草)	荷田信邦		切紙	1	
204	3076					(当座疑冬他和歌詠草添削)	信邦上		折紙	1	
205	3077					寄道祝(和歌詠草)	信邦上		折紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
206	3093					秋日詠二首和歌	正四位下荷田信邦		竪紙	1	「秋月勝春花」「深更雁」の二首を収める
207	3100					詠江寒芦和歌(和歌懐紙)	従五位上荷田信邦		竪紙	1	
208	3101					秋日詠月多秋友和歌(和歌懐紙)	正四位下荷田信邦		竪紙	1	
209	3102					冬日同詠初冬時雨和歌(和歌懐紙)	従四位上荷田信邦		竪紙	1	
210	3103					春日同詠春嶺杉和歌(和歌懐紙)	従五位上荷田信邦		竪紙	1	
211	3263					御会始兼題　鶴馴砌(信邦和歌詠草)	信邦上		竪紙	1	
212	3264					静明の霊の三めくりに成給ひぬれハ　御霊の広前によミて奉る(和歌詠草)	のぶ邦		竪紙	1	
213	3265					(大西新大夫のうゐ冠を祝う和歌詠草)	正四位下荷田信邦		竪紙	1	
214	3527					(荷田信邦書「稲荷大明神」)	正宮正官正四位下行摂津守荷田宿祢信邦謹書		掛軸	1	
215	325					荷田信邦和歌			軸	1	試筆、ピンクケースに別置
216	2261				(寛政2年9月11日～寛政3年9月29日)	(潤暄堂会等漢詩集)	荷田信言、余易他		竪帳	1	「汲古閣」黒色罫紙使用、所載人物の多くは『平安風雅』に見える
217	1123				寛政11年己未孟夏	捽錦堆一日百首詩	京六条通富小路角書林八幡屋市郎兵衛、荷田信言行著		竪帳	1	木版、「源重随印」朱印、荷田氏蔵本
218	1219				寛政11年己未孟夏	錦堆一日百首詩	京六角通富小路角八幡屋市郎兵衛、荷田信言行著		竪帳	1	木版、荷田氏蔵版
219	3108					いなりの御神の太前にぬかつきて(詠草添作)	信言		竪紙	1	
220	3112	3			(近世)	川花(和歌添削2首)	信言上		切紙	1	
221	3112	4	2			(「紅葉」2首他和歌詠草2首)	信言上		折紙	1	
222	651					(七言律詩二首)暮春游西岡	荷田信言		横切紙	1	
223	691	66				(五言律詩)賦得鳥宿池中樹得七虞	荷田信言		切紙	1	
224	691	67				(五言律詩)初冬郊行	荷田信言		切紙	1	
225	691	94				(七言絶句)分題得釣鱸	荷田信言草		竪切紙	1	
226	691	97				(七言律詩)書窓雪	信言		竪切紙	1	
227	2264					錦堆遺稿　上(漢詩集)	荷田信言士行著		竪帳	1	「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
228	2268					錦堆遺稿　下(漢詩集)	(荷田信言士行著)		竪帳	1	「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
229	1224					錦堆遺稿　下(漢詩集)	荷田信言士行著		竪帳	1	木版
230	2289					一日詠百首詩(漢詩集)	青楓荷田信言著		竪帳	1	奥書「天明壬寅2月14日龍渓巌彦明」「青楓館印」
231	3106					半再梅(七言律詩)	荷田信言		切紙	1	落款「清楓」
232	3107					詠夢(七言律詩試作)	荷田信言		竪紙	1	
233	3109					賦得気口風梳新柳髪(七言絶句)	従五位下荷田信言		竪紙	1	
234	3112	4	1			(「酒旗」他漢詩2首)	荷田信言		切紙	1	
235	3112	4	3			召事(七言律詩)	荷田信言草		切紙	1	
236	3321	4				(荷田信言七言律詩)	(荷田信言)		竪紙	1	所蔵印「青楓」、「荷田信
237	1331					詠藻(和歌集)	信言上		横半帳	1	
238	316					荷田信言漢文　観稲荷祭儀			軸	1	
239	691	15				傷世作歌(和歌一首)	延年		状	1	まくり、万葉仮名
240	2357	1				閑中春雨・夜帰鴈(詠草2首)	延年		折紙	1	破損あり、添削あり、荷田氏蔵書罫紙使用
241	2357	2				閑庭花(詠草)	延年		折紙	1	
242	2357	3				雨中花(詠草)	延年		折紙	1	添削あり
243	2357	4				三月三日(詠草2首)	延年		折紙	1	添削あり
244	2357	5				花洛月(詠草)	延年		折紙	1	添削あり
245	2357	6				早春山(詠草)	延年		折紙	1	閲了、講評あり
246	2357	7				春のおちけるこゝろを(詠草)	延年		折紙	1	添削あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
247	2357	8				桃花、風閑花香(詠草2首)	延年		折紙	1	添削あり
248	2357	9				隣家桜(詠草2首)	延年		折紙	1	添削あり
249	2357	10				柳、蘭(詠草2首)	延年		折紙	1	閲了
250	2357	11				梅薫風(詠草2首)	延年		折紙	1	閲了、講評あり
251	2357	12				礒春草(詠草2首)	延年		折紙	1	閲了、講評あり
252	2357	13				瀧音知音・雨中鶯(詠草2首)	延年		折紙	1	添削あり
253	2357	14				荷田信里廿五廻信美勧進山家(詠草2首)	延年		折紙	1	添削あり
254	2357	15	1			旅主人のもとにおくらんとてよみ侍る別にそそみて(詠草3首)	延年		折紙	1	添削あり
255	2357	15	2			思(詠草2首)	延年		折紙	1	添削あり
256	2357	16				蹴鞠をよめる・煤はらひのこゝろを(詠草3首)	延年		折紙	1	添削あり
257	2357	17				豊興霊の百歳のまつりに(詠草3首)	延年		折紙	1	添削あり
258	2357	18				身の上をなけきて(詠草2首)	延年		折紙	1	添削あり
259	2357	19				寄鶴祝　八十賀(詠草2首)	延年		折紙	1	閲了、講評あり
260	2357	20	1			寄蹴鞠恋(詠草4首)	延年		折紙	1	
261	2357	20	2			水石契久(詠草3首)	延年		折紙	1	添削あり、講評あり
262	2357	21				橘立の松をうへし人のもとにつかハすとて(詠草2首)	延年		折紙	1	添削あり
263	2357	22				病にふしてねくれねはよミ侍る・月のあかきよ鷹の鳴けれは・虫(詠草4首)	延年		折紙	1	添削あり
264	2357	23				霧隔船(詠草4首)	延年		折紙	1	添削あり
265	2357	24				寄草恋(詠草3首)	延年		折紙	1	閲了
266	2357	25				寄絵恋(詠草4首)	延年		折紙	1	添削あり
267	2357	26				懐旧(詠草)	延年		折紙	1	
268	2357	27				播州医生田道瑞五十賀　寄竹祝(詠草)	延年		折紙	1	
269	2357	28				試筆(詠草)	延年		折紙	1	
270	2357	29				寒草霜(詠草)	延年		折紙	1	
271	2357	30				初雪(詠草)	延年		折紙	1	
272	2357	31				水路新雪(詠草)	延年		折紙	1	
273	2357	32				墨竈・橘雨(詠草)	延年		折紙	1	
274	2357	33				寒樹交杉・春旅行(詠草)	延年		折紙	1	
275	2357	34				庭落葉(詠草)	延年		折紙	1	
276	2357	35				虫・月(詠草)	延年		折紙	1	
277	2357	36				月多秋友・月不撰処(詠草)	延年		折紙	1	
278	2357	37				田家時雨(詠草)	延年		折紙	1	
279	2357	38				望月待月(詠草)	延年		折紙	1	
280	2357	39				擣衣幽・庭菊(詠草)	延年		折紙	1	
281	2357	40				斬荻(詠草)	延年		折紙	1	
282	2357	41				宿煙含白露(詠草)	延年		折紙	1	
283	2357	42				山のもみちのちるところ(詠草)	延年		折紙	1	
284	2357	43				終夜翫月　月分題(詠草)	延年		折紙	1	
285	2357	44				月前聞虫(詠草)	延年		折紙	1	
286	2357	45				蛍過窓(詠草)	延年		折紙	1	
287	2357	46				夏懐旧(詠草)	延年		折紙	1	
288	2357	47				川夏月(詠草)	延年		折紙	1	
289	2357	50				荷田延武五十年　夏懐旧(詠草)	延年		折紙	1	
290	2357	51				夕郭公(詠草)	延年		折紙	1	
291	2357	52				朝更衣・蚊遣火(詠草)	延年		折紙	1	
292	2357	53				川夏祓(詠草)	延年		折紙	1	
293	2357	67				早春水(詠草3首)	延年		折紙	1	
294	2357	68				原上霞(詠草)	延年		折紙	1	
295	2357	69				林間霧(詠草3首)	延年		折紙	1	
296	2357	70				山夕立朝旅(詠草3首)	延年		折紙	1	
297	2357	71				終日尋花(詠草3首)	延年		折紙	1	
298	2357	72				閑庭落花(詠草2首)	延年		折紙	1	講評あり
299	2357	73				(「梅盛」など詠草断簡6首)	延年		折紙	1	添削あり
300	2357	74	1			(「初冬」など詠草5首)	延年		折紙	1	添削あり、講評あり
301	2357	75				(「萩映水・名所月・暁千鳥」など詠草6首)	延年		折紙	1	
302	2357	77				(「寄島恋」など詠草)	延年		折紙	1	
303	2361					(詠草綴)	延年		横帳	1	
304	2362	2				(「稲妻」など詠草五首)	延年		折紙	1	
305	2362	6				(「籬菊如雪」など六首)	延年		折紙	1	添削あり
306	2362	22				(「暮山木枯」など詠草三首)	延年		折紙	1	添削あり
307	2362	23				常盤木雪三首・田家煙三首(詠草)	延年		折紙	1	
308	2362	24				としされに五首(詠草)	延年		折紙	1	添削あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
309	2362	25				(「蚊郷梅」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
310	2362	26				(「雪中鶯」など詠草六首)	延年		折紙	1	
311	2362	29				(「霜夜寒月」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
312	2362	30				(「冬月」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
313	2362	31				(「山居時雨」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
314	2362	32				(「時雨」など詠草六首)	延年上		折紙	1	添削あり
315	2362	33				(「雪をよめる」など詠草五首)	延年		折紙	1	添削あり
316	2362	34				(「雪のうた」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
317	2362	35				(「峯雪」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
318	2362	36				氷上雪二首・夕春雨二首(詠草)	延年		折紙	1	詠評あり
319	2362	38				(「卯月十九夜月のいてける折ふし時鳥の声を聞て」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
320	2362	40				(「雲外郭公」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
321	2362	41				(「袖上菖蒲」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
322	2362	42				(「くれを」など詠草五首)	延年		折紙	1	添削あり
323	2362	43				(「澤辺鴨」など詠草二首)	延年		折紙	1	添削あり
324	2362	45				(「七夕月」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
325	2362	48				(「七夕月」など詠草六首)	延年		折紙	1	
326	2362	49				(「神樹」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
327	2362	50				(「岡邉新樹」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
328	2362	51				(「首夏風」など詠草二首)	延年		折紙	1	添削あり
329	2362	52				(「関路花」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
330	2362	53				(「春祝言」など詠草二首)	延年		折紙	1	添削あり
331	2362	54				(「上弦月」など詠草二首)	延年		折紙	1	添削あり
332	2362	55				(「十五夜月」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
333	2362	56				(「斬荻」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
334	2362	57				(「名月如画」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
335	2362	58				(「蔦」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
336	2?62	59				(「口変」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
337	2362	60				(「杜郭公」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
338	2362	61				(「旅夕立」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
339	2362	62				(「外山鹿」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
340	2362	63				神楽三首・爐火三首(詠草)	延年		折紙	1	添削あり
341	2362	64				(「暮春霞」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
342	2362	65				(「江暖柳條黄」ほか詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
343	2362	66				(「霞」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり、後欠
344	2362	67				(「夕鶯」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
345	2362	68				(「海辺霞」など詠草六首)	延年		折紙	1	詠評あり、後欠
346	2362	69				(「海霞」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
347	2362	70				(「試筆」など詠草十首)	延年		折紙	1	
348	2362	71				梅香移柳三首・春暁月二首(詠草)	延年		折紙	1	添削あり
349	2362	72				(「霞遠山衣」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
350	2362	73				(「瀧音知春」など詠草二首)	延年		折紙	1	詠評あり
351	2362	74				(「山家春草」など詠草六首)	延年		折紙	1	詠評あり
352	2362	77				空如大徳のミの国人にむかへられて常永寺といへるにすまふよしをきゝて馬のはなむけによろこひをかねて申つかハし侍る四首(詠草)	延年		折紙	1	添削あり
353	2362	78				(「秦公麻ぬしの母のおもひにこもりはへるをとふらひて」など詠草三首)	延年		折紙	1	添削あり
354	2362	79				恋のこゝろを七首(詠草)	延年		折紙	1	添削あり
355	2362	80				(「柳先花録」など詠草六首)	延年		折紙	1	添削あり
356	2362	81				五十首分題　花掩澗水(詠草)	延年		折紙	1	
357	2362	82				(「遊原」ほか詠草)	延年		折紙	1	
358	2362	83				(「山花　未遍」ほか詠草)	延年		折紙	1	
359	2362	84				信美亭会始兼題　鶯有慶音	延年		折紙	1	
360	2362	85				(「朝霞」ほか詠草)	延年		折紙	1	
361	2362	86				(「春草短」ほか詠草)	延年		折紙	1	
362	2362	87				(「社頭照山」ほか詠草)	延年		折紙	1	
363	2362	92				(「竹裏鶯」ほか詠草)	延年		折紙	1	
364	2362	93				(「社頭花」ほか詠草)	延年		折紙	1	
365	2362	94				(「春雨」ほか詠草)	延年		折紙	1	
366	2362	95				寄霞懐旧(詠草)	延年		折紙	1	
367	2362	96				(「初冬嵐」ほか詠草)	延年		折紙	1	
368	2928					(詠草「月前遂涼」)	延年		切紙	1	
369	2930					(詠草「里郭公」)	延年		切紙	1	
370	3031					(任四品の賀を祝う文并和歌)	延年		折紙	1	
371	3032					紅夏月(和歌詠草2首)	延年		折紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
372	3062					漁夫(和歌詠草)	延年		切紙	1	
373	3078					(延年・信寿等和歌詠草)	延年、信寿、尚誠		折紙	1	
374	3081					(和歌詠草)	延年		折紙	1	
375	3083					詠二首和歌	従五位下荷田延年		竪紙	1	
376	3084					秋日詠句多秋友和歌(和歌懐紙)	従五位上延年		竪紙	1	
377	3112	1	1			荷田信詮百回十首組題之内春河(和歌詠草)	延年		折紙	1	3112-1-1～18まで紐で一括、3112-1-1～4まで袋で一括
378	3112	1	2			信美亭会始兼題　松色添春、百五十回追悼花下誌(和歌詠草)	延年		折紙	1	
379	3112	1	3			(夏暁雪他和歌詠草、湖納添削)	延年		折紙	1	
380	3112	1	4			(寄松祝和歌詠草)	延年上		折紙	1	
381	3132					(暎然・延年・信寿詠草)	延年他2名		続紙	1	前後欠
382	3348	1				(蘭薫風他延年詠草三十九首綴)	延年		横綴	1	3348-1～4までは紐で一括
383	3348	2			(近世)	(延年和歌詠草綴)	延年		折紙綴	1	42枚1綴
384	3348	3				(詠草綴)	延年		横綴	1	
385	3348	4			(近世)	(延年和歌詠草綴)	延年		折紙綴	1	46枚1綴
386	3350				(近世)	月(和歌詠草)	延年		短冊	1	
387	649					(賞梅及び春水の漢詩二首)	荷田延年		竪紙	1	
388	691	5				次秦肥州暮秋郊行之韻(七言絶句二首)	荷田延年		竪紙	1	
389	691	30				(七言絶句・五言絶句)	荷田延年拝稿		竪紙	1	「園中芍薬花」「山館聴子規」
390	3082				寛政9年3月	(稲荷祭礼歌文)	延年		折紙	1	和歌1首あり
391	3150				(寛政9年3月)	(稲荷祭礼歌文)	(延年)		折紙	1	下書
392	602					(漢詩)	荷田延年		状	1	まくり、14字
393	691	118				山家冬	延年		折紙	1	断簡、表題のみ
394	3033				弥生壱の六日	(延年歌文)	延年		折紙	1	和歌1首あり
395	691	26				秋日間居(五言律詩)	朕然		竪紙	1	
396	3034				神無月15日	(「初鶯」2首他和歌詠草1首)	荷田信純上		切紙	1	
397	689					(長歌・反歌)	信純		巻子	1	巻のはじめに「信純」、反歌は軸から裏
398	3029					納涼(和歌詠草2首)	信純上		切紙	1	
399	3030					(「山蝉」2首他和歌詠草他6首)	信純上		折紙	1	
400	3035					(「蓬山初鶯」2首他和歌詠草2首)	信純上		切紙	1	
401	3036					夜野(和歌詠草)	信純		竪紙	1	
402	3037				(近世)11月朔日	春山月(詠草)	信純	羽上野介様	切紙	1	表題下に「信純上」とあり
403	3038					夜月(他3首和歌詠草)	信純上		切紙	1	
404	3039					夜灯・夜糸(和歌詠草)			切紙	1	3038の続きか
405	3075					(和歌三首)	信純		折紙	1	
406	2893				明治5壬申年11月	詩稿　第三	荷田巌翠(印)		竪帳	1	小型
407	2854				明治6癸酉年4月12日	詠草	信義(印)		竪帳	1	印は荷田信義
408	1407				明治6年癸酉7月18日	玉鉾百首并本末歌	羽倉信義(印)		竪帳	1	写、青罫紙使用
409	2851				明治7年甲戌1月	詠草　参	信義(印)		竪帳	1	
410	2836				明治12年3月	作文記(温泉誘引之文・嵐山之景況等)	(羽倉)信義		竪帳	1	「不可不学之説」(羽倉信義)の挿入文書あり
411	2837				明治44年9月14日	都賀廼舎大人撰春葉会詠草			竪帳	1	写本
412	2846				(明治か)	(月並歌集)	(信義)		竪綴	1	
413	691	73			(大正4年7月29日)	(末女にいわれ御代を祝う和歌十首)	荷田信義		竪紙	1	
414	3098				(大正5年1月1日)	今年大正五丙辰は還暦につき元旦の□に(和歌懐紙)	従八位荷田信義		竪紙	1	
415	3099				大正丙辰(5年)の8月14日	(和歌詠草3首)	従八位荷田信義		竪紙	1	
416	653					(信義詠草)	信義		折紙	23	紐で一括されている
417	2359					(玉鮮会四大人祭詠草断簡6首)	信義上		折紙	1	朱筆にて添削あり
418	2835					詠草	(羽倉)信義		竪帳	1	写本、ここから箱A(2921まで)
419	2841					詠草	信義上		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
420	2842					詠草	羽倉荷田宿祢信義、八嶋紀朝臣重明、石井藤原朝臣熊臣		竪帳	1	
421	2848					(信義詠草)	信義上		切紙	1	
422	2855					詠草、二正孝・三信義・一重明、上	(信義他2名)		竪帳	1	
423	2856					旧 詠草	羽倉信義上		竪帳	1	
424	2857					詠草、一点正孝・三点信義・一点重明、上	(信義他2名)		竪帳	1	
425	2878					詠草	信義上		竪帳	1	朱点・添削あり
426	2904					(和歌書上)	信義上		竪帳	1	青罫紙使用、朱筆による添削あり
427	3351					(信義和歌詠草一括)			切紙	259	こよりで一括
428	606					十首(即興和歌)	荷田信義(「稲廼屋あるじ」)		竪紙	1	
429	2852				明治14年1月	詠草	稲廼屋		竪帳	1	
430	2849				明治6年6月	文草	東廼屋(印)		竪帳	1	印は信義
431	2850				明治6年6月	詠草	東廼屋(印)		竪帳	1	
432	977					(和歌)	正子		折紙	1	
433	1644				宝永7年庚寅閏8月27日	(稲荷山和歌詠草)	稲荷山御殿預家		竪帳	1	四冊合綴、一部は「荷田氏蔵書」用紙使用
434	3160					二月廿七日春季御大祭仕奉間をりしも雪のふりたれハ家の役章の古事なとおもひつゝけてよミて奉る(和歌詠草)	荷田光表		竪紙	1	
435	3051					詠江寒蘆和歌(和歌懐紙)	荷田信昌		竪紙	1	
436	3087					春日同詠春嶺杉和歌(和歌懐紙)	従五位下荷田信昌		竪紙	1	
437	3111	9				(一章詠草)	荷田信昌		切紙	1	
438	3089					(和歌詠草)	信寿		竪紙	1	
439	3090					詠草	従五位上信		竪紙	1	
440	3091					(詠草)	信寿		竪紙	1	
441	3092					秋日詠月多秋友和歌(和歌懐紙)	従四位下荷田信寿		竪紙	1	
442	691	12				(五言絶句二首)題扇面芳菊翠竹上寿慈尊六十初度	荷田信昌拝		竪紙	1	
443	151				寛政7年10月16日	聴雪編	信寿		竪帳	1	池秦良作の「聴雪編」を写したもの
444	3028					(和歌詠草)	信俊上		竪紙	1	
445	488				天保9戊年	(漢字墨書集)	信俊(印)		竪帳	1	
446	979	7				(和歌)遠山雪	俊子	信義様	切紙	1	
447	979	8				(和歌)	俊子	東羽倉信真様	切紙	1	
448	2799					(詠草)	荷田俊子八十六尉		切紙	1	
449	2932					(詠草「秋植物等」)	俊子		切紙	1	
450	2933					(詠草「花薄・塩屋」)	俊子		切紙	1	
451	2934					(詠草「歳中樓等」)	俊子		切紙	1	
452	2246				(延享2年)	(和歌集)	信舎		竪帳	1	裏に「信名」
453	3022				寛延3年11月18日	(和歌詠草)	荷田のふや		竪紙	1	詞書「姪なりける人を寛延三年十一月十八日に娘に養とりて」
454	3085					(和歌詠草2首)	荷田信舎		折紙	1	信郷より菊を誉めた和歌が贈られたことに対する返歌の旨記載あり
455	3086					詠菊契多秋和歌(和歌懐紙)	従四位下荷田信舎		竪紙	1	
456	322					荷田信舎和歌 関東御代始ニ付て宝暦十年…			軸	1	
457	2931					のぶ名宿祢三十三回手向(詠草)	荷田信賢		切紙	1	
458	3094					穐日詠月多秋友和歌(和歌懐紙)	正四位下荷田信賢		竪紙	1	
459	3095					詠江寒芦和歌(和歌懐紙)	従五位下荷田信賢		竪紙	1	
460	76				戊辰(明治元年)9月	(秋江雨霽之図)	七十翁可亭		軸	1	
461	2161				明治2年末夏(6月)	(扁額書「鳩功堂」)	稲山可亭書		竪紙	1	
462	67				辛未(明治4)11月19日	(漢詩・五言律詩)	可亭		軸	1	可亭73才の書、まくりを白軸に巻く
463	68				(明治18年)	荷田大神(神号書)	可亭(良信)		軸	1	可亭87才の書、可亭の添状あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
464	69				(明治20年)	(藤森祭走馬図)	可亭		軸	1	可亭89才の絵
465	3210	3			丙午年6月初7日	(七言律詩)	稲山隠士可亭信		切紙	1	
466	2834				壬戌冬	(漢詩)	可亭信		竪帳	1	特小本、蔵書印「羽倉文庫」、箱1-5
467	3665				(明治)	(羽倉可亭懐古集)			竪帳	2	枡形本、帙入り、可亭の写真あり、詩鈔・印譜集・墓誌より構成
468	3112	6	1			閑居養志詩書句娯(一行書)	六十六翁可亭		状	1	まくり
469	3112	6	2			間情対月嘘静味伴玄寝(一行書)	(可亭)		状	1	まくり、後欠カ
470	3112	6	3			(漢文三行書)	(可亭)		状	1	まくり
471	58					(可亭山水墨画)	稲□可亭□□筆		巻子	1	金庫に別置
472	75					(春満「ふみわけよ」歌)	可亭筆		軸	1	
473	35				明治4年未2	可亭翁謹製印影			軸	1	華翁並河鳳来の添書あり
474	948	9				天満宮奉納和歌十首	荷田氏女織子		切紙	1	
475	948	12				天満宮奉納和歌十首	荷田氏女織子		折紙	1	裏打
476	948	10				(詠草添削)	織子		折紙	1	
477	948	21				(詠草)	織子	正子のもとへ	折紙	1	
478	948	22				(詠草)	織子		折紙	1	「深草に…」
479	948	23			きさらき中8月	(詠草添削)	荷田織子、荷田忠子		折紙	1	「奉納拾首和歌」
480	2033					(荷田織子詠草)			折紙	1	他に切紙の詠草1点入
481	2943	2				冬日詠二首和歌	荷田信美		竪紙	1	
482	3024					春日詠二首和歌(躑躅・歎冬和歌詠草)	荷田信美		竪紙	1	
483	3025					納涼長うた并反歌一首	信美		竪紙	1	
484	313					荷田信美和歌(東丸大人三十三回忌和歌)			軸	1	
485	3088					秋日同詠月多秋友和歌(和歌懐紙)	従五位下荷田能信		竪紙	1	
486	2877				明治7年甲戌3月	詠草	杉之屋(印)		竪帳	1	印は羽倉、朱点・添削あり、下敷あり
487	948	2				(詠草添削)	玉琴上		折紙	1	「森霞」「嶋花」
488	948	3				(詠草添削)	玉琴上		折紙	1	「待月」
489	948	4				(詠草添削)聞鹿	玉琴		折紙	1	
490	948	25				(咏草添削)	玉琴		折紙	1	「八月十五夜」
491	948	26				(咏草添削)九月十三夜	玉琴		折紙	1	
492	948	27				(詠草添削)	玉琴上		折紙	1	伴松栄久、落葉浮水他
493	3104				(近世)	遣悶(七言律詩試作)	信庸草		竪紙	1	
494	3105					(七言絶句試作)	信庸		竪紙	1	
495	691	4				九月十四日夜月下青霞先生見訪分字得潰時有懐亡友滄州(七言律詩)	信庸		切紙	1	端裏書「西洞院殿」
496	2804				明治己酉(42)年9月吉日	ふきよせ全(詠草集)	荷田静水生		竪帳	1	墨がついているのは最初の三丁であとは白紙
497	3210	1				咏黄花(五言絶句)	稲老人(祓川親亮)		切紙	1	
498	3210	2				漫嘯(五言絶句)	稲山人(祓川親亮)		切紙	1	

D－2－2　他　氏

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3210	4				再贈羽倉君(五言絶句)			切紙	1	落款「秦氏親亮」
2	3210	5				八月十五夜淀湖賞月(漢詩試作)	(祓川親亮カ)		切紙	1	罫紙、落款「秦氏親亮」
3	3210	7				(和歌抜書)	稲山		竪紙	1	罫紙
4	3210	9			甲子(大正13年カ)1月	甲子一月念八帰家偶顧可亭拝詩ニ云(五言絶句)	亮		竪紙	1	
5	3210	10			(大正カ)11年3月24日	(東丸大人筆保管等ニ付書状)	伏見稲荷境内祓川親亮	京都元誓願寺黒門東入る祓川新之助殿	続紙	1	3210-1～10が入っていた封筒上書「祓川親亮翁墨蹟」
6	3312	5	2		(近世)	(歌合に詠進ニ付書状)	公府	石州公(荷田延年カ)	切紙	1	
7	3163					(信純宿祢東遷の餞の和歌詠草)	公杓		折紙	1	
8	948	5				(詠草添削)	忠子		折紙	1	
9	948	6				(詠草添削)	忠子		折紙	1	
10	948	7				(詠草添削)	忠子		折紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
11	948	8				(詠草添削)	忠子		折紙	1	
12	948	18				(咏草添削)	忠子		折紙	1	「峯花」
13	2025					(興子詠草添削)	興子		折紙	1	八月十五日詠
14	2875					稽古百首和歌	興子		竪帳	1	
15	2022					(伊都和歌詠草)	伊都		竪紙	1	
16	2026					(芳子詠草添削)	芳子		折紙	1	
17	978					(手本散らし文手習)	重子		折紙	1	
18	3328	4				(七言絶句集断簡)	権大納言具通公他		切紙	1	前欠
19	3225				文久紀元辛酉晩	(大根の図)	文麿		巻子	1	
20	2556				永禄5年8月11日	賦何人連歌(連歌五十句)	宗養他		続紙	1	
21	2858				明治16年7月20日	(詠草合綴)	旭桜社		竪帳	1	二冊合綴
22	2847				明治16年8月	当座詠草	旭桜社		竪帳	1	
23	3671					「朝寝髪…」(上田秋成短冊)	無腸		短冊	1	
24	628					奉留別(三峯田先生是正七言絶句)	香山道人養真		状	1	まくり
25	691	6				病中偶成(七言絶句等五首)	香山道人		切紙	1	
26	691	80				(七言絶句二首、七言律詩一首)次韻晩成子遊鍋岡作(他二首)	香山道人		切続紙	1	
27	691	96				(七言絶句二首)与諸子同発石峯寺、上石峰寺訪若沖翁	香山道人		竪切紙	1	
28	691	108			寛政4年壬子春日	(漢文)□(三)峯君同堂清水大然閣大悲台殿従雲中下視	香山道人(印)(印)		竪切紙	1	
29	2959					謹次三峯田君見訪清韻(五言律詩)	養真謹具(印)		切紙	1	
30	3111	6	1			(錦雉子墓下作七言絶句詠草)	香山道人養真謹具(印)(印)		切紙	1	3111-6-1～4まで一括していた封筒あり
31	3111	6	2			(梅雨中賦三呈五言絶句)	香山養真拝		続切紙	1	「田使君座右／是正」とあり。
32	3111	6	3			奉送三峰君之東都(漢詩詠草)	香山道人真頓首		切紙	1	
33	3111	6	4			(秋日訪人隠屋ニ付七言絶句詠草)	香山道人		切紙	1	罫紙使用
34	3119					(七言絶句)	香山道人		切紙	1	
35	3120				天明7年秋	丁未秋日三峯田君見訪余於草山有詩見示賦此答之(七言絶句)	香山道人養真(落款)		竪紙	1	端裏「香山」
36	3121					次韻(子晟田君見贈作七言絶句)	香山真左杜多謹具(印)(印)		竪紙	1	
37	3122					三峯田子見送余還摂此清韻(七言絶句)	香山道人養真敬具		竪紙	1	落款あり
38	3124				明和8年仲春	辛卯仲春游観亭看花慨然成詠(七言絶句)	香山道人筆		竪紙	1	
39	3125					梅雨中奉寄　三峯田使君咲正(七言絶句)	香山養真頓首		竪紙	1	落款あり
40	3127					春雨中奉寄　三峯田先生是正	香山道人養真頓首		竪紙	1	
41	3128				戊子年(明和5年)初夏	奉同　津州田君子晟午□作三首	香山道人真頓首		竪紙	1	破損あり、ここまで箱D(3111-1から)
42	3204					右次韻三峯田君見寄惺(七言律詩)	香山道人養真拝		竪紙	1	落款あり
43	3205					錦堆子墓上作(和歌詠草)	香山道人養真具		竪紙	1	落款あり
44	3206					京州旅寓奉送三峯田君還稲荷山(五言絶句)	香山道人養真		竪紙	1	落款あり
45	3207				明和8年除夜、安永元年元旦	(七言絶句2首)	香山道人漫艸		竪紙	1	
46	3208					(「九日　同　三峯田君遊仙石谷光伝寺」等漢詩2首)	寓摂北幽宿香山養真杜多		切紙	1	落款あり
47	3209					奉答荷田君子晟和余答人韻見再答(七言絶句)	香山道此真		竪紙	1	
48	642					(七言律詩)胡蝶	適園彰(香山彰)		竪紙	1	彩色あり
49	691	29				(七言絶句)題呉自渡福寿草寄石図　名合	彰		竪切紙	1	
50	691	33			寛政壬子(4)年10月17日	小舟窩記	適園香山彰撰并書		竪紙	1	
51	534				寛政壬子(4)10月17日	小舟窩記	適円香山彰撰并書		竪帳	1	
52	691	69				(七言律詩2首、七言絶句1首)久旱喜一雨、久旱苦熱心、七夕篇	彰		切続紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
53	3126				寛政庚戌(2)年冬12月	常陸介錦堆荷田士行墓碣銘并叙	平安香山彰撰并書		竪紙	1	落款あり
54	3312	7			庚戌冬12月	(墓碑銘拓本)	平安香山彰		竪紙	1	上部破損
55	3123					仏生日同余会可登天台二首(七言律詩2首)	香山彰、赤城要		竪紙	1	
56	171				寛政2年秋10日	巻峩山荘閑中詩稿	香山彰、六如		竪帳	1	巻末に「初秋山房雑興十首」(香山彰、寛政5年7月18日)
57	691	92				(五言律詩)初冬郊行	源聖農		竪切紙	1	源聖農は松蘿館社中の人。
58	620					詠龍渓先生夏日遊西郊詩(七言律詩一首、七言絶句二首)	源聖農		竪紙	1	「十里西郊朱景…」。龍渓先生は岩垣竜渓。
59	634					観稲荷祭像(七言律詩)	源聖農		竪紙	1	祭儀新興に際しての漢詩
60	650					(七言律詩)泛菊	源聖農		竪紙	1	
61	691	57				(七言律詩)梅雨乃韻	源聖農		竪切紙	1	
62	691	84				観稲荷祭儀	柚木太淳		切紙	1	漢文
63	691	93				(七言律詩)月下清酌	鶏橘柚木太淳草		竪切紙	1	
64	616					咏西瓜(七言律詩)	柚木太淳		竪紙	1	印が頭に一つ、後に二つあり
65	691	34				手毬引(漢文)	鶴橘柚木太淳		竪紙	1	
66	691	38				(七言律詩)次韻亡友荷田君士行夢蝶作	柚木太淳		竪紙	1	士行は信言
67	691	86				(七言律詩)分題僧菴雪	太田象(太田賀象)		竪切紙	1	賀象は玩鷗と号す
68	691	89				(五言律詩)初冬郊行	藤正剛(藤原正剛)		竪切紙	1	
69	691	90				(五言律詩)楳雨得十四寒	北尾孟軻		切紙	1	
70	691	50				(五言律詩八首)擬于鱗秋日間居八首	釈義諦稿		罫紙	1	左端に「大痴」と墨書
71	691	71				(七言絶句二首)此口唯心上人帰肥之後卜隠湖東作此奉贈)	義諦		切紙	1	
72	691	76				(七言律詩二首)夏日漫成	義諦		竪紙	1	
73	691	91				(七言絶句)東郊惜秋 得一先	義諦		竪切紙	1	
74	691	88				(五言律詩)初冬郊行	村山維益		竪切紙	1	
75	691	87				(五言律詩)右春日閑座	諭近		竪切紙	1	
76	691	31				秋宮怨(七言絶句)	諭近		竪紙	1	
77	691	98				(七言絶句二首)春尽、初夏偶心	源臨		竪紙	1	
78	691	85				初冬郊行(五言律詩)	源忠誠		竪切紙	1	
79	1162					間居雑詠(漢詩二十二首)	天華杜多冷口		竪帳	1	朱点あり
80	691	112				(七言律詩)早春郊外	久野晶草		切紙	1	
81	691	109				(七言律詩)泛菊	井深解拝		竪切紙	1	
82	691	110				(五言律詩)遊月仙楽房奉次子晟君高韻	義龍拝草		竪紙	1	
83	691	105				(五言律詩)対花	善如艸		竪切紙	1	
84	691	103				(五言絶句)賦僧敲月下門	藤彊拝		竪切紙	1	
85	2533				(近世)	泛菊(七言絶句)	藤原彊(印)(印)		竪紙	1	
86	2535				(近世)	鴨水卜屋同韻(七言律詩二	龍草廬(公美)		竪紙	1	
87	3183	1				(七言律詩か)	龍公美		竪紙	1	前欠
88	691	72				(七言律詩)暮春東山作	龍世華		竪紙	1	
89	691	52				三峯積翠(七言絶句)	葛張(葛子琴)		竪紙	1	三峯積翠…、端裏に「大坂葛子琴」
90	621					題錦堆遺篇後(七言律詩二	東郭余易		切紙	1	まくり
91	622					酒旗(七言律詩)	東郭余易		切紙	1	まくり、「閃楽韻科嘆…」
92	625					夏日七松居集得一楽(七言律詩)	東郭余易		竪紙	1	「夏日七松居集得一東…」
93	633					(七言絶句)	東郭余易		竪紙	1	次韻亡友荷田士行春日郊行…
94	645					(漢詩)魚登龍門	皐蘭余易		切紙	1	
95	691	102				(七言律詩)採題得湖荘雪	皐蘭酔叟易艸(余易)		竪切紙	1	
96	648					(七言律詩二首)季夏偶成二首	皐蘭酔叟易		竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
97	660				天明8年早春	戊申早春偶成(七言律詩)	皐蘭酔叟易(余易)		竪紙	1	
98	667					炎後戯倣銅脉先生韻(七言律詩)	皐蘭酔叟		竪紙	1	
99	671					(一律を呈するに付漢文書状)	東郭余易拝	(荷田子晟君)	切紙	1	
100	691	9				(七言律詩)	餘易		切紙	1	
101	691	53				(七言律詩)夏日書懐	東郭狂生易		竪続紙	1	
102	691	54				(七言律詩)堂場前籬菊稍欲開	東郭易草		竪紙	1	
103	691	55				(七言律詩)杉岡公曙長兄咏春蚊	余易		竪紙	1	
104	691	56				(七言絶句)次韻 荷田士行春日郊行	余易		竪紙	1	
105	691	61				(七言律詩)分題得待月	東都易		切紙	1	
106	691	82				(七言律詩)秋夜長喜口集得元韻	餘易		竪切紙	1	
107	691	83				(七言律詩)長喜口集得元韻	東郭餘易		状	1	
108	691	106				(七言律詩)分題得待月	餘易		竪切紙	1	
109	691	114				(七言律詩)咏菊綿	餘易		状	1	
110	691	115				(七言律詩)戯咏龍号尊	餘易		切紙	1	
111	2952					夏日書帳(七言絶句他1)	餘易屮		切紙	1	
112	2953					題団扇塚(七言律詩試作)	東郭酔叟易		切紙	1	
113	618					(七言律詩二首)	琴詩堂主人易(余易)、東郭狂生(余易)		竪紙	1	災害の後仮庵落成を祝しての詠作
114	691	51				(七言律詩二首)仲冬感懐二首	琴詩堂主人易艸(余易)		竪紙	1	
115	691	77				(七言律詩三首)端午後偶成雨晴	琴詩堂主人易(余易)		切紙	1	
116	2532				(近世)	山閣晩秋(漢詩揮毫)	春蘭洲題(印)(印)		竪切紙	1	型押染紙
117	691	44				(七言律詩二首)暮秋書懐二首	三反堂主人易(余易カ)		竪紙	1	
118	3310					(余易他漢詩一括)	余易、源惟忠、岩恭(岩渓帯刀)、瀬尾教延、柚木太淳、琴詩堂、畑橘洲			16	寛政年間頃の信郷・信言関係漢詩詠草
119	2958					己未元日立春・戊午除夕(七言律詩試作)	蘭州政美(春政美)		切紙	1	
120	688	1			寛政10年戊午夏	寛政戊午夏余適病間居将護之暇押上下平三十題随意漫題不敢彫琢曼辞而聊陶写〔彳＋吉〕軫耳	蘭州政美拝草		巻子	1	688を包んでいた紙(「春政美」と記されている)と紐を入れる。印「潜研散人」他、政美は松羅館社中の人
121	688	2				(長喜莽小集得七陽七言絶句)	蘭州政美草		竪切紙	1	「右長喜莽小集御七陽」
122	688	3				(五言律詩二首)訪山寺次韻石鼎、南至作	春政美草		竪切紙	1	「訪山寺次韻石鼎」「南至作」
123	688	4				(七言律詩)	政美		竪切紙	1	和韻
124	688	5				(五言律詩)	蘭州政美		竪切紙	1	「蘭州政美題」
125	688	6				春雪(五言律詩)	政美		竪切紙	1	
126	688	7				(七言律詩)冬日山居	蘭州政美草		竪切紙	1	
127	688	8				山閣晩秋(五言律詩)	春政美		竪切紙	1	
128	688	9				奉和三峯荷君偶成高韻(七言絶句)	春政美		竪切紙	1	三峯は信郷
129	688	10				(七言律詩)中秋二首	政美草		切紙	1	
130	688	11				(七言絶句)春日三峯即事	春政美		竪紙	1	
131	688	12				(七言律詩)三峯詩兄隣家梅高韻	春政美		竪紙	1	三峯は信郷
132	688	13				(七言絶句三首)夏日偶作三首	春政美		竪紙	1	
133	688	14				(五言律詩一首、七言律詩一首)病中作	蘭州政美		竪紙	1	
134	688	15				(五言絶句五首)楼上即目五首	蘭州美草		竪紙	1	
135	647					(七言絶句)蓮淡漁隠	蘭州		竪紙	1	
136	2534				(近世)	遊仙曲(七言絶句)	藤近光		竪紙	1	
137	2951					十日菊(七日絶句)	近光屮		切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
138	691	13				(五言律詩)醫々舎小集得九青	近光		切紙	1	
139	641				(8月26日)	(七言絶句)送僧之海国	荊山朝倉璞		状	1	
140	630					(七言律詩)	朝倉璞		竪紙	1	
141	662				寛政1年己丑春3月	敬賀羽倉筑前長吏信郷主五十寿(七言絶句)	飯田明夫訪印穫玉翁八十載	荷田信郷	続紙	1	
142	691	47				(五言律詩)僧敲月下門	猪飼彦博(敬所)拝		竪紙	1	
143	691	19				秋尽集歌分韻得五律(五言律詩)	伊藤栄吉		竪紙	1	
144	1122					稲荷山十二境詩(漢詩集)	伊藤善韶、大神景貫、菅附鳳、宮奇、村井中漸、福井覧、直井俊		竪帳	1	稲荷山の景を詠じたもの、同題にて各12首、17丁以降白紙
145	2973					(和歌詠草「賛酒倣大津郷」)	芋介		竪紙	1	
146	691	22				(五言律詩)	栄貫		竪紙	1	九月十四日夜の作
147	639					(七言絶句)酒旗	大江維翰		切紙	1	
148	691	14				(七言絶句)分題聞砧	大江維翰		切紙	1	
149	691	63				(七言絶句)十七夜長喜菴集得六麻	維翰		切紙	1	
150	640					(五言律詩)長喜庵小集応荷田君招得七虞	大江資衡		切紙	1	
151	691	36				(六言絶句)秋尽集飲分体得六言絶句十三章	大江資衡		竪紙	1	
152	691	48				(七言律詩)分題得分旦家雪	玄圃草(大江資衡)		竪紙	1	
153	3200					(七言律詩拓本)	太皇太后宮権大臣大江		竪紙	1	
154	2866				大正4年8月	蓮癖戯言草稿	楓の屋主人		竪帳	1	「府社東丸神社」の青罫紙使用
155	3328	5				(独飲酔臥覚而夜半等七言絶句2首)	岩拝(花押)		切紙	1	
156	2955					(七言律詩試作)	華洋(北谷憲章)	三峰荷田君	切紙	1	
157	3231					(漢詩断簡)	華洋北良明		切紙	1	前欠
158	626					(七言律詩)	義白		竪紙	1	「夜静井…」
159	3312	1			元禄8年乙亥7月5日	(岡城主久恒追悼文)	木村清季(花押)上		続紙	1	3312-1～12は紐により一括、紐には「後にする」との紙片あり
160	2950					(七言絶句)	行賢拝		切紙	1	
161	691	46				(七言律詩)星夕光明寺小集分韻	居敬		竪紙	1	「右星夕光明寺小集分韻」
162	3111	3				(漢詩断簡)	慧明		断簡	1	封筒入
163	614					緑篁嬌鶯(七言絶句)	神州元熙		竪紙	1	
164	691	20				(七言律詩)萩花	元禎(畑橘洲)		切紙	1	
165	627					奉和田夫君待長史路君不至見贈之作和其韻(七言律詩)	巌蘭		竪紙	1	「文靈元…」
166	457					(公私之教についての漢文断簡)	伊斉高道昂譔		罫紙	1	竪帳断簡、「荷田氏蔵書」罫紙
167	691	8				(七言律詩)奉和倉使君芳韻	高道昂		竪紙	1	端裏書「江戸高嘉右衛
168	629					仝(五言律詩)	篁亭暑		竪紙	1	
169	326					唐渡天神像	近衛家熙筆		軸	1	
170	644					三峯鍾秀(七言絶句三首)	崎山後学向良翰		竪紙	1	
171	3111	10				花(和歌詠草)	従三位貞直(富小路力)		竪紙	1	
172	2027				明和7年6月27日	(駿和歌詠草)	駿		折紙	1	歌題「奉納の春」
173	3190				己酉3月	(奉賀大婚詩)	柴邦彦書		竪紙	1	
174	3328	8			寛政4年冬十有一月	神武陵(七言律詩)	陪臣無位柴邦彦謹書		切紙	1	
175	1235				嘉永5年壬子春2月24日	聖廟九百五十祀法楽倭歌朗吟句題三十六首	稲荷社以学堂		竪帳	1	松本為縞・羽倉信度・信純・大橋長広らの和歌36首を収む
176	664					題錦堆遺稿後(七言律詩)	釈孤岸		続紙	1	
177	3183	2				(為縞大夫首眼の賀宴に正四位下信郷予か八十のよハひを祝し八十の老の浪分けて仲に出ると詠し給りけれは(和歌詠草)	寂照		竪紙	1	
178	3195					(荷田氏草庵を訪ねて和歌詠草)	沙門寿考上		竪紙	1	
179	675					(和答三峰先生見寄七言詩)	鷲峰玄諦		続紙	1	前欠
180	2900				(大正3～6年)	当座競点綴	春薬会		竪綴	1	挿入紙あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
181	3526					筆張記(高才騒客張徳縁を勧進する文と七言絶句)	松友軒幸化(印)(印)		続紙	1	
182	691	35				擬送遣唐使	真周		竪紙	1	
183	611					二(七言絶句及び漢文)	菅元容		状	1	まくり、「溝流白々…」
184	661					寄懐(五言律詩)	松並主人菅元容	三峯荷田子晟君	便箋	1	「湖北京南相思…」、朱色便箋使用
185	691	111				(七言律詩二首)蝉琴倒押前韻、蝉簫	暾桑杉岡道啓		切紙	1	
186	613					荷田士行贈前村春雨(七言絶句)	杉岡道啓		状	1	まくり、「溝流白々…」
187	691	59				(七言律詩)中秋十七夜長喜亭集得二蕭	杉岡道啓		竪切紙	1	
188	691	7				(七言律詩三首)賦半消雪仏	杉岡道啓		切紙	1	
189	691	32				(七言律詩)月下清酌	東嶺杉岡道		竪紙	1	
190	673					(五言律詩等漢詩二首)	拙亭道啓、春政美		切紙	1	
191	3344					(和歌二行書)	平安墨の香のあるし		状	1	まくり、鍼2つあり
192	3201					(「鳩功堂」書)	七十三翁正高		状	1	まくり
193	672					(五言律詩)同前	石斎脩(印)		切紙	1	
194	2800					和歌詠草(歌野刀自米寿賀すニ付)	七十買羽正随		切紙	1	
195	657					(五日藤森観競馳の五言律詩)	崑山清典卿		竪紙	1	
196	691	41				牡丹(七言律詩)	之謹草		状	1	端裏書「西洞院殿」
197	2956					三峰先生早起高韻(五言絶句試作)	瀬尾教延		切紙	1	
198	3534	22			(近世)	寄国祝(和歌詠草)	(京都市下京区西洞院魚棚下ル西側堀貞治郎方関)義薫上		竪紙	1	
199	317					関思恭漢詩句	関思恭		軸	1	幽人夜無寝、初月御山閣
200	691	75				(七言律詩)過古寺	雪亭		竪紙	1	
201	691	62				(五言律詩)尋花	善啄		切紙	1	
202	666					(七言律詩)	劣弟善和順	(荷田信郷)	竪紙	1	「隣峯荷田信郷…」
203	691	2				(七言絶句七首)原上秋居・江上待月・中秋月・題新雁・秋風・秋雨・賞菊	善和順草		切紙	1	
204	691	78				(七言絶句二首)訪子晟先生不遇	善和順和南		竪紙	1	
205	3202					(竹図)	羽峰生草湖(印)		竪紙	1	印文「日本藤田」
206	3301				(近世)	(稲荷山登山の文并歌)	平郷満		切紙	1	
207	691	1				(五言律詩一首・七言律詩一首)	平信好(岡崎盧門)		竪紙	1	691をまとめていた紐も入れる
208	3303				(近世)辰9月19日	(和歌詠草2首)	大炊(平治胤)		竪紙	1	端裏あり
209	3189					(七言絶句)次韻三峰荷田君冬暁	橘洲畑(畑橘洲)様拝(印)		切紙	1	「西峰落月…」、印文「源顕之印」D-2-2-164の次韻
210	3185				慶応3丁卯年晩春中7日	茶カフキ之記	達歓亭 点茶養雪、執筆観扣		竪紙	1	
211	2935					(和歌詠草「閨扇等」)	中院前大納言通躬他4名		切紙	1	
212	691	40				(七言絶句二首)信郷公被恵鷹瀬川送別之一章因卒次其韻謝芳意云爾行路吟　舟中作	通志		竪紙	1	橘裏書「義順師事通志」
213	637					(七言律詩)	藤重定		竪紙	1	田使君与香山上人同見枉駕猶茅斎分得韻東
214	643					(七言絶句)秋暁	道光頭院		竪紙	1	
215	681				初夏	初夏書適(五言絶句)	堂山		状	1	まくり
216	682					(七言絶句)	堂山正文		状	1	まくり、「芳山五首之一」
217	691	45				(七言律詩)和洛陽故人早春雪韻	醐山桃寿翁朋夫法印七十七歳書草		切紙	1	端裏書「無拠応需鹿吟」
218	617				甲辰元旦	(七言律詩一首、和歌一首、俳句一首)	桃寿翁法印艸		切紙	1	
219	2929					(和歌詠草「十一月分杜春雪」)	杜春		切紙	1	
220	619					奉乞倉君摂州詩箋(五言絶句)	杜多月仙和南		竪紙	1	
221	679					菟道峡記	源元禎(畑橘洲)		罫紙	1	型押印刷、「菟道通円梓」とあり
222	685				寛政乙卯3月	緑毛亀図題言	竹山居士(中井竹山カ)		竪紙	1	木版、2枚1組、木版の一部カ

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
223	691	68				(七言絶句)問津州君疾上呈苦茗壱封聊表問候因語及云々	竹山合十		切紙	1	
224	655					(七言律詩)	竹山祐杜多		竪紙	1	
225	3180	1				間斎君見寄観梅花一律恭奉次高韻(七言律詩)	中邨貞義拝草		竪紙	1	
226	948	14				(詠草添削)	南保他1名		竪紙	1	
227	603					(和歌一首)	日俊		竪紙	1	「さながらに…」
228	635					(七言律詩)	野瀬方雅		竪紙	1	野瀬の母の長寿の祝に対する返礼
229	691	23				(五言律詩)敬甫席上邂逅荷田使君分韻得深賦以奉呈	白文戟拝		竪紙	1	端裏書「京　白井正義」
230	3186					早春軽行(七言絶句)	畑元禎(畑橘洲)		切紙	1	落款「源印元禎」
231	691	43				(七言律詩)田家雑興	早崎之衡		竪紙	1	
232	691	27				(七言律詩)春燕	早之衡		竪紙	1	
233	691	81				(七言絶句二首)初夏即事、過城西水隄	早崎之衡草		竪切紙	1	
234	652					(七言絶句三首)題三峯十二咏	瓊浦処士原頑翁		竪紙	1	
235	674					(梅の詩村瀬先生へ染筆願ニ付書状)	春暉	三峰老先生	竪紙	1	
236	691	60				(七言絶句三首)遥奉寄題稲荷山十二図三章	東陽武世春元郷		切紙	1	
237	3111	8			寛延2年2月	奉納詠拾五首和歌	春興		続紙	1	
238	691	79				(七言絶句)田使君見過弊廬分句各賦得帰字	春原重胤		竪紙	1	
239	691	49				(五言絶句)津州田使君見過草堂分為得詩字	春原重胤拝		切紙	1	「伏乞是正」
240	51					平田篤胤大人真蹟(短冊)「武蔵野に…」	篤胤		軸	1	見返「明治七年五月」「稚櫻迺屋蔵」、ブルーボックスに別置
241	2070					(俊成和歌)	皇太后大夫俊成		竪紙	1	
242	3191					詠新年早梅歌(和歌懐紙)	正七位藤原朝臣芳介		竪紙	1	
243	3118					梅雨(七言絶句)	藤原右功		切紙	1	
244	623					観稲荷祭儀(五言律詩)	藤原正臣		竪紙	1	
245	658					咏夢(七言律詩)	藤原正臣		竪紙	1	
246	691	64				(五言律詩)梅雨得二蕭	藤原正臣		切紙	1	
247	691	65				(五言律詩)初冬郊行	藤原正臣		切紙	1	
248	668				乙卯中冬	奉悼信章賢兄(五言律詩)	不破秀葉百		切紙	1	
249	2954					(七言絶句試作)	半斎方明拝		切紙	1	
250	612					(七言絶句及び漢文)	細合方明		竪紙	1	「錦堆余彩手彩…」
251	631					奉哭三峰荷田君四絶(七言絶句四首)	彦友細合方明		竪紙	1	
252	632					(七言律詩)	半斎細合方明		切紙	1	
253	654					(七言律詩)	半斎細合方明	荷田隠君	竪紙	1	荷田信郷が芳野に遊んだ時に送った
254	3112	7				(和歌詠草)	政武	信名雅君	竪紙	1	
255	663				天明4甲辰年正(月)	敬次韻通議大夫荷田子晟早春高調呈焉(五言律詩)	源明夫法印		続紙	1	
256	669					敬次韻朝散大夫荷信言高雄山看紅葉一律(五言律詩)	源明夫		切紙	1	
257	3007					(擬源氏消息)	源氏郎	柏木や橘姫さ	続紙	1	
258	615					咏声(七言律詩)	源忠誠		竪紙	1	
259	691	42				(七言律詩四首)春日遊堰水代人写所見三首　春日写懐	西峩無着陳人		竪紙	1	罫線あり
260	14					本居大平短冊「布□玉神」	本居大平		軸	1	
261	332					本居大平　桜の文			軸	1	青楓館蔵
262	3293					風前時雨(詠草)	大平(本居カ)		竪紙	1	
263	3138					馭戎慨言を殿下の御出に御覧せさすとてそへて奉ける歌	宣長		竪紙	1	
264	3194					倭健命遠(和歌詠草懐紙)	(本居)豊顕		竪紙	1	
265	2937					東丸神社奉賽歌	後学　森田義郎		竪紙	1	
266	3203					(和歌反歌)	矢嶋重明		竪紙	1	
267	646					(七言絶句一首、五言絶句一首)送子晟荷田君之東都	摂津養静釈不染		竪紙	1	
268	2936				大正4年11月15日	(記念文)	大分県豊後国直入郡竹田町士族大阪府和泉国泉北郡浜寺町住横田真臣		切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
269	638					(五言律詩)	来躬直		竪紙	1	真島医伯家会伏水間斎先生信宿同伯機詞兄見招分韻賦以呈主人
270	659					梅雨(七言律詩)	龍渓		竪紙	1	牡丹等の絵彩色あり
271	691	39				(荷田錦堆一夜百詩序草稿)	龍渓巌垣彦		竪紙	1	前後二巻
272	624					観稲荷祭儀(七言律詩)	龍渓巌彦明		竪紙	1	
273	691	18				(五言律詩)咏炭	龍渓巌彦明		竪切紙	1	
274	691	24				観東山大字火	龍渓巌彦明		竪紙	1	漢文
275	691	70				(七言律詩)歳暮書懐竹賢契	龍渓巌彦明		竪紙	1	
276	684					(七言律詩)泛菊	龍渓巌彦明(印)		切紙	1	
277	678				寛政庚戌(2)年冬11月	題錦堆遺稿首	栗原病叟巌彦明(岩垣竜渓)撰		竪紙	1	3枚1組、「荷田氏蔵書」用紙使用、訓点入り、信言の遺作集へ竜渓が寄せた序の板下書。
278	3328	7				冬日牡丹(漢詩)	龍川(清田龍川カ)		続紙	1	
279	691	17			庚戌元日	(七言律詩)	良明(北谷憲章カ)		竪切紙	1	
280	691	58				(五言律詩)同賦泉声帯玉琴用句中字為韻	冷然		竪切紙	1	端裏書「江戸一向宗」
281	677				戊辰日	(水墨画添銘文)	十三童号山写(印)		状	1	まくり、水墨画部分欠
282	691	95			癸巳仲春	東都劇場歌	亀井隠士大癡		竪切紙	1	七言が連々と続く長詩(漢文)
283	3328	1			(近代)	送早梅(七言絶句)	春水百拝(印)	奉送 岩翠荷田公	切紙	1	
284	3328	2			(近代)	(至日夜作等七言絶句2首)	春拝(花押)(印)		切紙	1	
285	608				(大正11年)	偶成(五言絶句)	正五位平譲		状	1	まくり、落款「壬戌七十四
286	2107				昭和壬申(7)年5月	(扇面揮毫「火之要鎮」)	高山昇書		扇面	1	
287	2029					(国和歌詠草)	国		折紙	1	歌題「梅・柳・桜」
288	3182				(近世)	(和歌一首)	賀茂季鷹		切紙	1	
289	3117	1			(幕末頃)	荷田保麿乃君の産やしなひの賀によミてまいらせたる長歌	平敏仲		竪紙	1	3117-1に短冊3枚が包まれていた
290	3117	2			(幕末頃)	(依花憶音、和歌短冊)	敏仲		短冊	1	
291	3117	3			(幕末頃)	鶯(和歌詠草短冊)	敏仲		短冊	1	
292	3117	4			(幕末頃)	春風暗紛酔干場といふ意をいひてよミハへる(和歌詠草短冊)	敏仲		短冊	1	
293	3535	3			(近代)	(和歌詠草写)	正胤印(写)		竪紙	1	包紙に「正胤歌」とあり、「校了」の朱印あり
294	3535	4			(近代)	記(明治15年和歌詠草写)	源長胤花押(写)		切紙	1	包紙「長胤歌」
295	3524					寄国祝哥并反歌	賀茂懸主譲		竪紙	1	
296	3006					(短冊「秋晴」)	譲		短冊	1	
297	3192				(近代)	新年同詠社頭杉歌(和歌詠草懐紙)	正五位勲六等賀茂縣主		竪紙	1	
298	959					(谷森善臣奉荷田東万呂和歌七首)	谷森善臣		折紙	3	袋紙「谷森善臣翁詠草」、高山昇の大正十四年の由緒書を付す

D－2－3　不明・その他

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1227				(享保6年)	(享保六年歌会記)			竪帳	1	下部欠損
2	2134				享保12年	百首(詠草百首)			巻子	1	「享保十二年重陽被成詠之」
3	2561				(文化5年)	社友稽古月次兼題籬菊(和歌詠草綴)			横綴	1	
4	3196				仲秋20日	(例月兼題和歌二首)			竪紙	1	
5	526					こゝろの花一(和歌短冊集)			折本	1	短冊26点、信名のもの多
6	527					(和歌短冊集)			折本	1	短冊46点に信郷ら荷田家もの多し
7	528					(和歌短冊43点)			折本	1	藤原和光和歌挿入あり
8	529					たち花のかほり二(和歌短冊集)			折本	1	短冊43点、真浦など
9	455					(和歌十首)			竪紙	1	
10	604					初春松(和歌一首)			竪紙	1	「すゑとほき…」
11	948	17				(咏草)			折紙	1	
12	1237					(詠草)			竪帳	1	ここまで箱16-2(1141-1から)
13	1417				(近世)	(和歌詠草)			竪帳	1	仮綴、かの子の名あり、前欠か

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
14	2126					(詠草稿本)			折紙	9	裏に羽倉摂津守等宛書状あり、横綴を開いたもの
15	2129					(詠草)			竪紙	1	裏打ちあり
16	2154					(和歌懐紙認様雛形)			竪紙	1	
17	2311					(稲荷を詠んだ詠草・元政上人漢詩抜書)			横半帳	1	仮綴
18	2357	48				(詠草二首)			折紙	1	「人なみにもれし我身ハ松の名のはつかしなから世をすこす也」他1首
19	2357	49				(詠草一首)			折紙	1	「秋のよの月いつくてふ限りもしらすはてもなし心の行え月にまかせて」
20	2357	54				(「冬灯」など詠草三首)			折紙	1	
21	2357	55				(「寄車恋」など詠草四首)			折紙	1	
22	2357	56				(「冬立」など詠草四首)			折紙	1	
23	2357	57				(詠草一首)			折紙	1	「君か夜のいく久しさにくらへらむ絶霞秋の星のちきりは」
24	2357	58				(「苔の草道」詠草)			折紙	1	「苔の細道山住のおかこふいほりにはみとりの谷に筵をそしく」
25	2357	59				(「寄月神祇」など詠草四首)			折紙	1	
26	2357	60				(岸の陰道など詠草四首)			折紙	1	添削あり
27	2357	61				(「湊頭旅泊」など詠草6首)			折紙	1	添削あり
28	2357	62				(「懐をのふる」など詠草)			折紙	1	
29	2357	63				(「山家水」など詠草4首)			折紙	1	
30	2357	64				秋水(詠草)			折紙	1	
31	2357	66				(「鷹狩」など詠草5首)			折紙	1	添削あり
32	2357	74	2			(「河辺恋」など詠草6首)			折紙	1	閲了
33	2357	76				(「寄国祝」など詠草4首)			折紙	1	
34	2357	78	1			(「軒早梅」など詠草6首)			折紙	1	
35	2357	78	2			停年月(詠草2首)			折紙	1	
36	2358					(「山家木」など詠草11首)			横綴	1	綴がはずれて現状は折紙3枚、朱筆にて添削あり
37	2360	11				(「潤松・暁鐘」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
38	2360	12				(月下擣衣夏単滋河二首・庭紅葉二首詠草)			折紙	1	添削あり
39	2360	16				(「冬暁」など詠草六首)			折紙	1	添削あり
40	2360	19				(「渓余寒」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
41	2360	22				(「岩間氷」など詠草四首)			折紙	1	添削あり
42	2362	1				(「雪中残鷹」など詠草六首)			折紙	1	紐あり
43	2362	3	1			(「炉火」など詠草四首)			折紙	1	
44	2362	3	2			(「舩」など詠草五首)			折紙	1	
45	2362	4				(「野遊」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
46	2362	5				(「寄鳥恋」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
47	2362	7				(「山紅葉」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
48	2362	8	1			(「谷鹿」など詠草七首)			折紙	1	
49	2362	8	2			(「女郎花多」など詠草六首)			折紙	1	添削あり
50	2362	9				(「野径鶉」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
51	2362	10				(「古寺月」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
52	2362	11				(「野外月」など詠草七首)			折紙	1	
53	2362	12				(「月前雁」など詠草六首)			折紙	1	
54	2362	13				(「山家苔」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
55	2362	14				(「恨恋」など詠草七首)			折紙	1	
56	2362	15				(「後朝恋」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
57	2362	16				(「松上藤」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
58	2362	17				(「里雪」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
59	2362	18				(「杜神楽」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
60	2362	19				(「冬恋」など詠草六首)			折紙	1	添削あり
61	2362	20				(「暁灯」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
62	2362	21				(「枯野」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
63	2362	27				(「橘落葉」など詠草六首)			折紙	1	
64	2362	28				(「六月祓」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
65	2362	37				(「樗」など詠草六首)			折紙	1	添削あり
66	2362	39				(「契恋」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
67	2362	44				(詠草七首)			折紙	1	添削あり
68	2362	46				(「朝顔をミて」など詠草六首)			折紙	1	
69	2362	47				(「七夕鳥」など詠草七首)			折紙	1	添削あり
70	2362	75				(「千年川恋」など詠草八首)			折紙	1	
71	2362	76				(「夕菊」ほか詠草十二首)			折紙	1	
72	2362	88				(「苅萱」ほか詠草)			折紙	1	
73	2362	89				(「寄絵恋」ほか詠草)			折紙	1	
74	2362	90				(詠草二首)			折紙	1	「この宿の松もちとせのいろみせて…」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
75	2362	91				(「春草」ほか詠草)			折紙	1	
76	2853					(詠草)			竪綴	1	
77	2924					(詠草「むしの音」)			切続紙	1	
78	3010				(近世)	(「きのふハ栄へおこりてけふは時をうしない…」)			続紙	1	
79	3040					池氷尽開(他四月分題并和歌詠草)			横帳	1	書状の反故紙が使用されている
80	3111	1				(桜花之花注釈)			続紙	1	ここから箱D(3128から)、封筒上書「桜花に就て」、3111-1～12まで紐で一括
81	3133					(端歌)			切紙	1	3135と関連か
82	3135					ゑらみ之曲(和歌詠草)			竪紙	2	3133と関連か
83	3141					(御会始兼題鶴馴砌他和歌詠草)			竪紙	1	
84	3146					(公福等和歌詠草)			折紙	1	
85	3147					(和歌詠草)			竪紙	1	
86	3148					(秋の田の他和歌詠草)			折紙	1	
87	3149					(男子出産祝ニ付和歌詠草)			折紙	1	
88	3151					(和歌詠草)			折紙	1	
89	3152					(山吹のはな他和歌詠草)			折紙	1	
90	3154					(惜花他和歌詠草添削)			折紙	1	
91	3155					(和歌并ニ文)			折紙	1	
92	3161					(塩じりの和歌并ニ反歌)			折紙	1	
93	3171					(和歌詠草)			切紙	1	裏書「四てう」
94	3174					(和歌2首)			切紙	1	「春山に…」
95	3175					(和歌色紙)			切紙	1	裏書「園殿」
96	3177					(和歌色紙)			色紙	1	裏に「兼胤卿」とあり
97	3184					(和歌一首)			竪紙	1	
98	3210	8				(和歌抜書)			竪紙	1	罫紙
99	3232					(和歌断簡)			断簡	1	
100	3233					(詠草断簡か)			切紙	1	後欠
101	3267					依花待人(和歌詠草)			竪紙	1	
102	3273	1				(品川遊覧紀行文并歌)			竪紙	1	
103	3273	2				(紀行文并歌)			竪紙	1	
104	3278					(和歌草稿反古)			竪紙	1	襖の下張、綴穴あり
105	3312	2				水遠梅(詠草)			切紙	1	襖下張か
106	3316				(近世)	(和歌詠草集断簡)			続紙	1	
107	3317				(近世)	(襖下張断簡一括)			断簡	一括	和歌詠草等
108	3525					(歌集序文断簡)			竪紙	1	断簡
109	3534	9			(近世)	(和歌相模守当座催等写断簡)			竪帳	1	
110	3534	24			(近世)	(和歌詠草綴断簡)			竪綴	1	
111	691	3				(五言絶句)靖斉道人之絅戯題			状	1	まくり
112	691	21				(七言律詩)湖荘冬景			竪紙	1	
113	691	28				相撲行			罫紙	1	漢文
114	691	107				(七言絶句)早起			竪切紙	1	
115	691	113				藤玩鷗歳暮書懐(七言律詩五首)			罫紙	1	漢文、版心に「荷田氏蔵書」
116	1118					送豹関公子還松前序			罫紙	1	後欠
117	2131					(漢詩十二首)			切紙	12	
118	2227					(三峰雑咏他漢詩集)			竪帳	1	木版
119	2244					雑著稿(漢詩・和歌雑記留)			竪帳	1	明和庚寅の日付あり
120	2269					(采蘋曲四首他漢詩集)			竪帳	1	「荷田氏蔵書」黒色罫紙使用
121	2903					近稿(「東山ニ花ヲ看ル二首」他)			竪帳	1	
122	3003				(近世)	(「除夜」他漢詩16首)			竪帳	1	仮綴
123	3017	1				夜坐聞雨(七言絶句試作)			切紙	1	
124	3181					将軍(七言律詩)			竪紙	1	
125	3222				(近世)	(漢詩并和歌集)			巻子	1	
126	3328	3				(七言律詩3首)			続紙	1	
127	3328	6				(七言絶句)			続切紙	1	
128	601	20				組代二十首			折紙	1	
129	601	42				稲荷大神(墨書)			状	1	まくり
130	601	43				稲荷大神(墨書)			状	1	まくり
131	610					(竹の水墨画)			状	1	「十三童号山庸上写」とあり、まくり
132	676					(水墨画)			状	1	まくり
133	2128				(近代)	(書画展観覚書)			切紙	1	
134	3145					(藤原俊成・定家略歴他書上)			切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
135	3153					組題十五首			折紙	1	
136	3529				(近世)	見聞隋毫(隋筆)			横半帳	1	
137	3199					(四大人和歌・画像)			状	1	まくり、石版、彩色
138	320					英一蜂図　セキレイ			図	1	
139	324					岷山　八咫烏			軸	1	
140	3211					羽倉用九墓碑拓本			続紙	1	まくり
141	3212					(荷田信言碑拓本(部分))			状	1	一枚のみ
142	3213					(真淵歌碑拓本)			竪紙	1	
143	1310				文政3年卯月6日	(扁額拓本)	秦宿祢公枸		続紙	1	公賡筆「竹林亭」、包紙あり

D—3　諸芸

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1346				嘉元3年7月13日	新撰笙笛譜巻第五	頼胤判		竪帳	1	仮綴、奥書によれば正安四年八月上旬の頃浄智が書き写したものの写
2	1175				元和3年8月日	蹴鞠略記	松下民部大輔以久		竪帳	1	写
3	3224				元和6年申11月吉日	(刀工系統図)	浅香勘兵衛吉勝(花押)(印)	木村大覚殿	状	1	まくり
4	1649				承応3年甲午7月吉日	綸旨御請之事(書札礼)	奥山与左衛門尉忠林(花押)	渡辺七十郎殿	竪帳	1	「荷田氏珍蔵」
5	1010				明暦2年霜月17日	小笠原流香之記	伊藤新五入道桃庵		竪帳	1	永正元年九月七日小笠原備前守正清、天文七年二月八日伊藤又右衛門尉宗家、天正八年六月三日伊藤兵部少輔正家、寛永二年八月十三日伊藤入道桃庵法眼茶竹の写を写したもの
6	546				寛文元年6月	弓之射方第一口傳之書			竪帳	1	「青楓館印」朱印
7	3352	3			寛文4年甲辰正月吉日	止心一流(弓道伝授免状)	真杉三郎兵衛入道三設橋本長門公建(花押)	相伝羽倉主膳正殿	巻子	1	題箋「止心免状」
8	3352	4			寛文4年甲辰正月吉日	止心放格之巻(弓道伝授免状)	真杉三郎兵衛入道三設橋本長門公建(花押)	相伝羽倉主膳殿	巻子	1	
9	3352	5			寛文4年甲辰正月吉日	止心入格之序(弓道伝授免状)	真杉三郎兵衛入道三設橋本長門公建(花押)	相伝羽倉主膳殿	巻子	1	
10	2208				寛文6年6月9日	道策打碁八番(碁譜)			横半帳	1	相手は知哲・山家・無名、朱印あり
11	452				延宝辛酉9年9月12日	万算術	菊地造之		竪帳	1	
12	1379				元禄2年己巳二月	楽目録付舞			竪帳	1	
13	3352	2			元禄15年8月12日	日置流弓目録	吉田若狭守秀雄五世孫吉田康右衛門隆(花押)他2名	羽倉主馬殿	巻子	1	
14	1149				宝永元歳申12月吉日	蹴鞠之書			竪帳	1	「於伏見小畑自閑より借り写所也」、延徳弐年七月日沙弥余雅著、延徳弐年九月日宗世より赤松兵部少輔に授ける旨記載、寛文九歳林鐘上旬良世書写
15	2923	1	1		正徳5年12月2日	(羽倉民部絹戻上他受用ニ付難波家雑掌奉書)	難波家棚橋織部応朝(花押)、河村伊織孝応(花押)	小栗栖雅楽頭殿	切紙	1	2923-1-2の添え状、2923-1-1～2923-9まで入っていた包紙あり、
16	2923	1	2		正徳5年12月2日	(羽倉民部絹戻上他蹴鞠御免状)	市岡監物永(花押)、本多左京季(花押)	小栗栖雅楽頭殿	切紙	1	
17	2923	2	1		正徳5年12月2日	(羽倉河内守絹戻上他受用ニ付難波家雑掌奉書)	難波家棚橋織部応朝(花押)、河村伊織孝応(花押)	松本丹波殿	切紙	1	2923-2-2の添え状、

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
18	2923	2	2		正徳5年12月2日	(羽倉河内守絹戻上蹴鞠御免状)	市岡監物永顕(花押)、本多左京季茂(花押)	松本丹波殿	切紙	1	
19	3334	1			正徳5年12月2日	(蹴鞠之節浅黄葛袴等着用免状)	雅(花押)	羽倉河内守殿	竪紙	1	
20	3334	2			享保8年5月6日	(蹴鞠之節白葛袴等着用免状)	雅(花押)	羽倉民部殿	竪紙	1	3334-1～2が入っていた包紙 上書「羽倉民部殿 飛鳥井」
21	2923	4	2		享保8年5月6日	(羽倉民部絹戻上他受用ニ付蹴鞠御免状)	市岡監物永顕(花押)、本多左京季茂(花押)	松本丹波殿	切紙	1	
22	2923	4	1		享保8年5月6日	(羽倉民部絹戻上他受用ニ付難波家雑掌奉書)	棚橋織部応朝(花押)、河村伊織孝応(花押)	松本丹波殿	切紙	1	2923-4-2の添え状
23	601	24			享保8年卯5月	蹴鞠門義之案内状(包紙)	権預民部信章		包紙	1	
24	601	26			享保8卯年5月	(蹴鞠門義之案内状弐通包紙)			包紙	1	
25	601	25			享保8卯年7月2日	(蹴鞠門義之案内状包紙)	正預河内守信名		包紙	1	
26	601	21			(享保8年卯ノ7月3日)	(門義及び蹴鞠門義之案内状四通包紙)			包紙	1	
27	2923	3	1		享保8年9月11日	(羽倉河内守柿葛袴着用ニ付難波家雑掌奉書)	難波家棚橋織部応朝(花押)、河村伊織孝応(花押)	松本丹波殿	切紙	1	2923-3-2の添え状
28	2923	3	2		享保8年9月11日	(羽倉河内守柿葛袴着用ニ付蹴鞠御免状)	市岡監物永顕(花押)、本多左京季茂(花押)	松本丹波殿	切紙	1	
29	3272				享保8年9月11日	(蹴鞠之節柿葛袴着用免状)	(飛鳥井)雅(花押)	羽倉河内守殿	竪紙	1	大高檀紙使用、包紙あり
30	2923	5			享保9年正月4日	(羽倉民部柿葛袴着用ニ付難波家雑掌奉書)	難波家棚橋織部応朝(花押)、河村伊織孝応(花押)	松本丹波殿	切紙	1	御免状に対する添え状
31	1270				宝暦2年申3月	蹴鞠稽古和歌	山本藤吾	明石 中部藤治郎殿	竪帳	1	
32	1071				宝暦3酉年	秘書態見書(茶道書)			袖珍	1	
33	2923	6			宝暦4年12月21日	(羽倉摂津守絹戻上他着用ニ付蹴鞠免許状)	難波家小森主膳完治(花押)、河村伊織峯久(花押)	鴨脚播磨殿	折紙	1	
34	601	1			宝暦5年正月4日	(蹴鞠門義として免許状)	雅(花押)	羽倉摂津守殿	折紙	1	紐で括られていた
35	2923	7			宝暦5年正月4日	(羽倉摂津守柿葛袴着用ニ付蹴鞠免許状)	難波家小森主膳完治(花押)、河村伊織峯久(花押)	鴨脚播磨殿	折紙	1	
36	601	5			宝暦6年正月4日	(蹴鞠門義として袴着用免許状)	雅(花押)	羽倉摂津守殿	竪紙	1	
37	601	27			(宝暦6年12月)	(門義四色着用免許難波家案内状二通包紙)	正預荷田信郷		包紙	1	
38	601	4			宝暦8年正月4日	(蹴鞠門義として袴着用免許状)	雅(花押)	羽倉摂津守殿	竪紙	1	
39	601	18			宝暦8年正月4日	(蹴鞠免許状目録)		羽倉摂津守殿	折紙	1	
40	601	23			(宝暦8年正月4日カ)	(蹴鞠免状包紙)		羽倉摂津守殿	包紙	1	601-18の包紙か
41	2923	8			宝暦8年正月4日	(羽倉摂津守紅裏着用ニ付蹴鞠免許状)	難波家小森主膳完治(花押)、河村伊織峯久(花押)	鴨脚播磨殿	折紙	1	
42	601	31			宝暦8年3月28日	(御礼の肴進上書の包紙)	信郷		包紙	1	
43	2923	9			宝暦10年正月4日	(羽倉摂津守布羅上着用ニ付蹴鞠免許状)	難波家小森主膳完治(花押)、河村伊織峯久(花押)	羽倉摂津守殿	切紙	1	
44	601	40			宝暦10年庚辰4月21日	(一調鼓相伝書)	五郎次郎(印)	信田靱負殿	折紙	1	
45	601	36			宝暦12年壬午7月上浣	平調五常楽急(荷田信郷鳳笙道伝授ニ付折紙)	正五位下左兵衛大尉狛則安(花押)		竪紙	1	
46	601	2			宝暦13年正月4日	(蹴鞠門義として免許状)	雅(花押)	羽倉摂津守殿	竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
47	601	37			宝暦13年癸未8月上浣	平調五常楽(荷田信邦竜笛伝授ニ付折紙)	正五位上行右近衛将監兼図書権助狛高弘(花押)		折紙	1	
48	3352	7			明和2季3月	弓始礼御巻(弓道伝授免状)	播州明石家臣武道糺方仲新斎一方	羽倉石見守殿	巻子	1	題箋「弓始之巻」
49	3352	6			明和2乙酉暦姑洗後元日	□弦伝(弓道伝授免状)	播州明石家臣武道之糺方仲新斎一方(花押)	羽倉石見守殿	巻子	1	題箋「鳴弦之巻」
50	601	33			明和4丁亥年閏9月27日	許状(装束衣文方免許状)	蒔田図書充祐(花押)	羽倉石見守	折紙	1	
51	601	22			(明和4丁亥年閏9月27日カ)	(蹴鞠免状包紙)		羽倉石見守殿	包紙	1	601-33の包紙か
52	601	34			(明和4丁亥年閏9月27日カ)	許状(装束衣文方免許状)	蒔田図書充祐(花押)他1	羽倉靱負殿	折紙	1	
53	601	28			(近世)	(蹴鞠免状包紙)		羽倉靱負殿	包紙	1	601-34の包紙か
54	514				安永2年癸巳9月	尺牘語式	近江屋庄右衛門他4名		竪帳	1	木版
55	3158				安永4年乙未4月23日	(頭取・置鼓・脇能三ヶ条相伝書)	四郎次郎(印)	羽倉石見殿	折紙	1	
56	601	19			安永4年4月	(許書二通包紙)			包紙	1	
57	3157				安永5年丙申4月朔日	(一調囃相伝書)	幸四郎次郎正文(花押)	羽倉石見守殿	折紙	1	
58	601	35			天明2寅年5月	平調五常楽急(譜)	正四位下行東市正豊原朝臣時習	荷田信吉殿	折紙	1	
59	601	32			天明3癸卯年4月下浣	(荷田信邦に授与の鳳笙道の譜)	従四位上右京亮狛則安(花押)		竪紙	1	
60	1251				寛政11己未晩夏	五節問郢曲事(楽譜)	中社祝従四位下秦公麻		竪帳	1	若宮八幡宮神主佐伯朝臣盛条所持
61	1286				文政3辰年7月30日	茶道具一通并ニ加ケ物ルイ(茶道具目録)	東洞院押小路上ル所茶人松尾宗吾門人羽倉摂		横半帳	1	裏表紙「信(花押)」とあり
62	502				(文政7年甲申秋8月)	消息文鑑　尺牘楷梯巻之二			竪帳	1	木版
63	503				(文政7年甲申秋8月)	消息文鑑　尺牘楷梯巻之三			竪帳	1	木版
64	524				文政7年甲申秋8月	消息文鑑　尺牘楷梯巻之四	須原屋茂兵衛		竪帳	1	木版
65	512				文政8乙酉年8月	浮世古実紀話後巻	塩屋宇兵衛他3名		竪帳	1	木版、書き込みあり
66	1594				(天保2～6年)	入門誓約文控(能楽入門誓紙控)	羽倉摂津守信純	(観世三十郎)		4	能の弟子入り誓約、包紙あり
67	2886				明治5壬申年5月	手紙文言	巌翠		横半帳	1	「荷田氏」朱印、挿入紙あり
68	2021	4			(近世)10月4、5日	(茶会献立)			続紙	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内、切紙を継いである
69	2021	6			(近世)10月27日	(名越浄味七十賀茶会記)			折紙	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
70	163				(近世)	薫凋集			竪帳	1	香道の本、延宝丁巳(5年)応鐘(10月)中旬に書写したものを写したもの
71	194				(近世)	楽譜(雅楽)			横半帳	1	
72	195				(近世)	香式草案	忠子筆		横半帳	1	
73	468				(近世)	福野流柔術総目録	江源定長		竪帳	1	
74	530				(近世)	兵占神易数			竪帳	1	
75	531				(近世)	一井軍鑑			竪帳	1	
76	533				(近世)	(弓術秘伝書)			竪帳	1	
77	1136					第一百首之巻(弓術和歌)			横半帳	1	
78	536				(近世)	(軍法問答集)			竪帳	1	表紙欠、後欠
79	544				(近世)	(小笠原流弓術有職故実書)			竪帳	1	
80	601	29			(近世)	一調一管記(包紙)			包紙	1	
81	601	30			(近世)	(横笛絵図)			包紙	1	
82	691	37			(近世)	(香の種類及び感想覚書)			折紙	1	
83	691	99			(近世)	(書式法式は弘安礼節を本とする旨抜書)			状	1	「万治元年武家或記に見へたり」とあり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
84	1025				(近世)	(台の飾り方ニ付礼法書)			竪帳	1	
85	1056	1			(近世)	生花初心手引抜書	峨随		竪帳	1	
86	1089				(近世)	後小松院御薫物伝			竪帳	1	写、奥書「天正十二年八月上旬(花押)書之」
87	1172				(近世)	薫衣集(香具代金書出)			横半帳	1	
88	1264				(近世)	貫革録巻四・五			竪帳	1	表紙「貫革録　中」、馬
89	1302				(近世)	(楽譜)			横半帳	1	表紙に「荷田氏」「羽倉」朱印
90	2021	1			(近世)	松尾流利休好ニかこゐ絵図寸法書数通入(井筒屋砂糖漬菓子袋)			紙袋	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内、「松尾流利休好ニかこゐ絵図寸法書数通入」
91	2021	2			(近世)	(四畳半茶室起し絵図)			鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
92	2021	3			(近世)	(三畳茶室起し絵図)			鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
93	2021	5			(近世)	(障子寸法覚)			切紙	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
94	2021	7			(近世)	(箪笥造作寸法)			切紙	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
95	2021	8			(近世)	(茶室寸法書付)			横帳	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内、仮
96	2021	9			(近世)	(大坂難波御坊茶釜図)			鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
97	2021	10			(近世)	(不俊斎宗五七回忌二月七日正午初会茶会記)	松尾宗古		折紙	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
98	2021	11			(近世)	(三畳茶室寸法覚)			竪紙	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
99	2021	13			(近世)	(真照禅師教訓)			切紙	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内
100	2266				(近世)	青在堂画学浅説			竪帳	1	
101	2275				(近世)	問伶金玉鈔			竪帳	1	外題「周伶金玉鈔全」、「青楓館印」朱印
102	2276				(近世)	女子訓　上下			竪帳	1	
103	3352	1			(近世)	鳴絃観念之事(弓道伝授免状)			巻子	1	3352-1～8は同じ箱に入っていた
104	3352	8			(近世)	相応之定(弓道伝授免状)	尾関大炊重(花押)	羽倉石見守殿	巻子	1	
105	3534	21			(近世)	(刀の図写)			竪紙	1	彩色あり
106	3131				(近代)	(落款九個)				1	落款のみ試し押しか、「青楓館」「稲荷山竈」「荷田氏」「荷田信義」など
107	3349				(近代)	(琵琶楽譜)			折本	1	
108	3659				(近代)	五雲先醒印箋			竪帳	1	枡形本、印譜集、外題「宥中一味」、「可亭」の落款あり
109	3660				(近代)	(印譜集)			竪帳	1	原稿用紙挿入
110	3661					(印譜集)			折本	1	化粧紙挿入

E書籍・刷物

E—1　神書・国学

E－1－1　神書

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	596				(享和3年癸亥10月)	訂正古訓古事記中	(山口兵助他2書肆)		竪帳	1	木版
2	595				享和3年癸亥10月	訂正古訓古事記下	山口兵助他2書肆		竪帳	1	木版
3	482					日本書紀巻第一			竪帳	1	
4	88					日本書紀神代巻「一書曰天地初判…」			竪帳	1	語注あり、表紙なし
5	1653				延宝甲寅(2)仲春序	神武紀集解　上(日本書紀第三上集解)			竪帳	1	木版、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
6	1502					日本書紀私記(巻上・下)			竪帳	1	外題「日本紀私記」、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
7	474					(日本書紀訓詁)			竪帳	1	
8	248					神代上下巻讀方拾遺			竪帳	1	奥書「右上下巻倭訓所雑暁者親対兼倶校讎焉、幻雲判」
9	89					日本書紀の語釈			仮綴	1	表紙なし
10	2872					(日本書紀箚記抜書写)			竪帳	1	近代の写カ
11	1452					日本紀纂疏上一			竪帳	1	木版

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
12	1453					日本紀纂疏上二			竪帳	1	木版
13	1454					日本紀纂疏上三			竪帳	1	木版
14	1455					日本紀纂疏上四			竪帳	1	木版
15	1447					日本紀纂疏上五			竪帳	1	木版、「親盛之印」朱印
16	1446					日本紀纂疏下一			竪帳	1	木版、「親盛之印」朱印
17	1445					日本紀纂疏下二			竪帳	1	木版、「親盛之印」朱印
18	1444				享保6辛丑年8月	日本紀纂疏下三終	松会三四郎開板		竪帳	1	木版、「親盛之印」
19	2566				(幕末～明治)	日本書紀神代上巻(薄井敏仲手沢本)			竪帳	1	破損あり、宣長・士清の説を書入、「東云」とあるが春満かは未詳、明治12年7月羽倉敬尚氏の由来書を袋に記す、薄井は明治5年没
20	2997					延喜式神名帳頭註			竪帳	1	写本、奥書「文亀三年十二月廿六日神道長上従二位行神祇大副兼侍従卜部朝臣兼倶」、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
21	189					惣神名帳			竪帳	1	最後に「右惣神名帳可秘々々」
22	174					延喜神名式比保古巻第一	(大山為起)		竪帳	1	外題に「全部十五冊也/比保古一宮中/京中」とあり
23	1995				承応2年8月写	旧事本紀玄義巻第四	権神主延良判		竪帳	1	写
24	2764				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第六	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
25	2765				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第七	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
26	2766				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第八	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
27	2767				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第十	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「大成経天神本紀十」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
28	2768				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第十一	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「大成経地祇本紀十一」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
29	2769				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第十二	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「大成経地祇本紀十二」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
30	2770				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第十三	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「大成経皇孫本紀十三」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
31	2771				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第十四	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「大成経皇孫本紀十四」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
32	2772				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第十五	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「大成経天孫本紀十五」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
33	2773				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第十六	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「大成経天孫本紀十六」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
34	2777				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第二十六	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「大政経天皇本紀廿六」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
35	2774				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第三十九	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「経教本紀上之上、上之下」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
36	2775				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第四十一、四十二	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「経教本紀中之上、中之下」、二丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
37	2776				延宝8庚申稔菊月吉祥日	先代旧事本紀　巻第四十三、四十四	江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫		竪帳	1	木版、題箋「経教本紀下之上、下之下」、二丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
38	2778				(延宝7己未年5月吉旦)	先代旧事本紀　巻第五十七	(江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫)		竪帳	1	木版、題箋「[　]上」、一丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
39	2779				延宝7己未年5月吉旦	先代旧事本紀 巻第五十九、六十	江戸室町三丁目戸島惣兵衛刊彫		竪帳	1	木版、題箋「[ ]本紀下」、二丁表「荷田氏珍蔵」「青楓館印」角朱印記
40	1012					神道集巻第七	安居院		竪帳	1	
41	1341				明応7年戊午	神道集 巻十	安居院作		竪帳	1	奥書「明応七年戊午 日吉樹下成康」、「毛利家印」朱印記
42	1595					天口十二代系図	神道上者従三位卜部朝臣兼倶		続紙	1	神代系図、後欠か
43	1055				慶安2丑年4月14	(天神七代他神道関係覚書)	親貞		竪帳	1	写、仮綴
44	1102					(地神五代等神々系譜)			巻子	1	前欠
45	3214				元禄12年4月17日写	(鎌足意美丸之二公系図)			巻子	1	元禄三年と十二年の奥書があり、古事記・日本書紀を参考にして作成した旨が記されている
46	463				応永19年8月22日	(諸社由緒書)			竪帳	1	奥書「応永十九年壬辰八月廿二於土州高岡郡佐河谷地山書写畢弘賢」
47	1232				元和6年7月24日	諸神社本縁起			竪帳	1	
48	815					鎮座記			竪帳	1	表紙右端に「元禄八年」とあり、伊勢・石清水・春日など
49	1209				文化6己巳年仲春吉旦	二十二社註式	稲荷上社祢宜従四位下行出雲守秦宿祢公滇		竪帳	1	写
50	1079					未辨真偽神社雑記巻之中			竪帳	1	後欠
51	997				永享6年卯月21日	心御柱記(内宮御柱)	龍玄(花押)		竪帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印、写か
52	1430				明暦元年12月9日	伊勢大神宮儀式	山崎闇斎序		竪帳	1	奥書「元禄七年甲戌五月正祝従五位下秦宿祢公治」
53	1246				寛政3年仲春写	神宮秘伝問答上下	従四位上行三河権守秦宿祢公府(印)		竪帳	1	写、「従四位下親実宿祢ヨリ借用」「稲荷山森家」
54	1011					豊受皇太神宮御鎮座本紀			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印、朱にて書き込みあり
55	1126				大治4年12月27日	倭姫命世記			竪帳	1	奥書「丁卯歳五月書写之、豊受大神宮禰宜正四位上度会神主章尚判」、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印、
56	1316					大和姫命世記			竪帳	1	奥書「延宝二甲寅歳八月晦日写畢、稲荷中社祝秦公治
57	1481				承応2癸巳年仲春	元元集巻第一			竪帳	1	木版、伊勢神宮を神仏習合の立場から解説
58	1482				承応2癸巳年仲春	元元集巻第五			竪帳	1	木版
59	1483				承応2癸巳年仲春	元元集巻第六			竪帳	1	木版
60	1484				承応2癸巳年仲春	元元集巻第七			竪帳	1	木版
61	1485				承応2癸巳年仲春	元元集巻第八			竪帳	1	木版
62	1004					泉亭家記 賀茂建角身命裔起源	従四位下秦宿祢公枸		竪帳	1	表紙に「公枸(花押)」、「稲荷山森家」朱印あり、祝部氏古系譜抜書一紙挿入」
63	1078				元禄15午年9月朔日	梅宮八幡縁起 上			竪帳	1	
64	1271				延宝2年8月晦日	梅宮記	稲荷中祝秦公治写		竪帳	1	「天正三年天児屋称五十二世孫卜部兼右判、寛文六年正月廿五日自省軒宗因」
65	473					八幡宇佐宮御託宣集			竪帳	1	
66	477					八幡宇佐宮御託宣集			竪帳	1	
67	380					八幡大神託宣奏記			竪帳	1	「宝亀六年七月十三日写書了」和気清麻呂等の名がみえる
68	1276					三社託宣抄			竪帳	1	
69	422				(元和～文化)	藤森社元和注進雑記			竪帳	1	
70	180					寶鏡開始全・元本宗源神宝圖形	卜部兼延		竪帳	1	合綴
71	184					宗源神道根源式			竪帳	1	
72	480				寛永13年2月21日	口人抄	僧都法眼和尚位兼空		竪帳	1	卜部家由来書
73	2564				慶安2年丑3月22日	神道太意(吉田兼倶撰)	松本主水秦為利書写		竪帳	1	写
74	2279				万治元年12月30日	宗源神道万印相并聞書	大司神祇権少副大中臣朝臣精長		横半帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
75	381				延宝2年寅2月	御祓執行長官神前之作法	中祝秦公治		竪帳	1	元和二年二月十一日神龍院梵舜書を延宝二年二月に書写
76	185					神道三科加行次第			横帳	1	
77	192					神道名目抄、唯一神道極秘書、神祇奥義註鈔、宗源抄行初段第一			竪帳	1	合綴、裏表紙「于時寛文四周夏維□初七」
78	995					神社遷宮之次第(忌部流遷宮次第書)			竪帳	1	仮綴、「荷田氏珍蔵」朱印あり
79	376					行事秘傳書	深尾定長		竪帳	1	
80	379					行事秘記	深尾源定長		竪帳	1	
81	377					(三種大祓・三種神宝に関する注釈書)	源定長		竪帳	1	
82	1207				(近世)	清祓伝奥秘	深尾定長		竪帳	1	「定長」印あり
83	193					(呪符・神道秘伝・懐紙短冊作法等聞書)			竪帳	1	
84	183					豊葦原神風和紀　下			竪帳	1	
85	1084					中臣祓			竪帳	1	
86	1380				延享2年丑5月20日	神道名目畧頌	親盛写		竪帳	1	内題「神家略頌」、裏表紙「延享二年丑五月二十日親盛写」表紙「秦親熙」
87	1416					台記別記康治元年十一月十六日中臣寿詞	経亮		竪帳	1	
88	443				寛文8年初秋吉旦	六根清浄大祓浅説	江城後学宮城春意撰		竪帳	1	木版、中野半兵衛開版、裏表紙扉に「八幡神主」とあり
89	1319				寛文6年8月版	中臣祓瑞穂鈔　下			竪帳	1	木版、表紙題箋「中臣祓瑞穂鈔坤」、蔵書印「親盛之印」あり
90	1320				貞享5年9月版	追考　中臣祓瑞穂鈔	度会神主延		竪帳	2	木版、上下合綴
91	1077				永正17年正月14日	中臣祓(二品卜部兼倶卿秘説私抄)	少納言清原宣賢		竪綴	1	写
92	1169					瑚璉集　上			竪帳	1	
93	1023					宗徳経			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」
94	2860	1			正徳4甲午年孟春月吉祥日	神道名目類聚抄	尾陽書肆、文光堂蔵		竪帳	1	木版、序文「元禄己卯六月、城西野殿某序」、「神道名目抄一」後刷
95	2860	2			正徳4甲午年孟春月吉祥日	神道名目類聚抄　巻二	尾陽書肆、文光堂蔵		竪帳	1	木版、題箋「神道名目抄二」後刷
96	2860	3			正徳4甲午年孟春月吉祥日	神道名目類聚抄　巻三	尾陽書肆、文光堂蔵		竪帳	1	木版、題箋「神道名目抄三」後刷
97	2860	4			正徳4甲午年孟春月吉祥日	神道名目類聚抄　巻四	尾陽書肆、文光堂蔵		竪帳	1	木版、題箋「神道名目抄四」後刷
98	2860	5			正徳4甲午年孟春月吉祥日	神道名目類聚抄　巻五	尾陽書肆、文光堂蔵		竪帳	1	木版、題箋「神道名目抄五」後刷
99	2860	6			正徳4甲午年孟春月吉祥日	神道名目類聚抄　巻六	尾陽書肆、文光堂蔵		竪帳	1	木版、題箋「神道名目抄六」後刷
100	1101					天書　全			竪帳	1	破損甚大、不開
101	1265					抜橛録(垂加翁神道学不審問答)			竪帳	1	「青楓館印」朱印
102	1266					抜橛録附録			竪帳	1	
103	1044				宝暦6年6月既望写	玉籤集	玉木正英		竪帳	1	「此書は山崎嘉右衛門之伝説之旨以杉山縫殿書写之本令書写畢、于時宝暦六年六月既望　親(花押)」
104	1155				天明乙巳(5)年春正月	崇天統論	浪華蜑戸山口景徳拝稽		竪帳	1	朱で加筆あり
105	2169					教典部類巻之三上君臣篇			竪帳	1	仮綴、古事記より書抜
106	2816					竈神秘説	神祇管領家学館主玉田永教著		竪帳	1	裏表紙「三橋東鉄安所持」、写本
107	2309					竈神秘説	吉田殿神学館主玉田永		竪帳	1	木版
108	2883					神代文字	羽倉信義(朱印)		竪帳	1	
109	2888				明治5壬申年10月28日	説教施設見込・説教稽古定則伺写	羽倉信義(朱印)		横半帳	1	
110	2889				明治5壬申年11月28日	毎年二月十一日神武天皇遥拝釈	羽倉信義(朱印)		横半帳	1	
111	2907				明治6年6月2日	三條演義	龍田神社大宮司兼大講義大沢清臣		竪帳	1	青罫紙使用、奥書「明治六年六月二十七日写畢羽倉所持(印)」、明治6年4月10日龍田神社大宮司兼大講義大沢清臣」
112	2898				明治6年9月	新定官社勘文　中			竪帳	1	写本、青色罫紙使用

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
113	2908				明治6年神無月30日	くさぐさ抄(神名帳考證山城国之内抜萃他)	あづまの屋		竪帳	1	
114	2906				明治6年癸酉11月27日	神徳要略	八島重明		竪帳	1	青罫紙使用、奥書「明治六年癸酉十一月廿九日写畢　羽倉信義(印)」
115	1211				享和3亥年11月豊日	神家略頌	荷田信資		横半帳	1	裏表紙「荷田信資」
116	2320				慶応3年正月	神家略頌	正官御殿預従五位上行摂津守荷田信義		竪帳	1	表紙「慶応四戊辰年閏四月新調」

E－1－2　和学・国学

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	1680					和字正濫要略　上			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」、周囲焼焦げ
2	1681					和字正濫要略　下	契沖		竪帳	1	「荷田氏珍蔵」、周囲焼焦げ
3	2250					和字正濫鈔巻一			竪帳	1	木版、綴脱、「親盛之印」
4	424				文化9壬申歳11月	円珠菴雑記全	発行書林大坂心斎橋安堂寺町秋田屋太右衛門他1名		竪帳	1	木版、契沖の著作
5	1204				寛政壬子(4)年11月冬至	崇国一家言	松圃老生誌(信郷)		竪帳	1	
6	1203				寛政癸丑(5)年初夏	国事八論	松圃老生誌(信郷)		竪帳	1	
7	2237				天明2年正月12日	真暦考	本居宣長考畢		竪帳		「毛利家印」(朱印)、「公淚所持」あり、天明3年5月荒木田経雅、同年11月荒木田末偶、天明4年3月上田秋成がそれぞれ写した
8	442				寛政11年己未秋	玉鉾百首	柏屋兵助		竪帳	1	木版、本居宣長詠、奥書「香西蔵書守胤書込なり」
9	439				(文政2年正月)	都日記上巻	本居宣長		竪帳	1	木版、外題「鈴屋大人郡日記上」
10	440				文政2年正月	都日記下巻	本居宣長		竪帳	1	木版、外題「鈴屋大人郡日記下」
11	3142	2			文政2己卯年正月2日	(古道学神号)	平篤胤花押		一枚	1	木版、神代文字、封筒上書「古道学神　不許翻刻」
12	3142	3				帝道唯一(和歌)	平篤胤		一枚	1	木版、封筒上書「帝道哥」
13	3142	4				帝道唯一(書)	平篤胤惶謹書花押		一枚	1	木版、封筒上書「帝道唯一」
14	2763				安政2年5月	祠詞正訓	平田篤胤		竪帳	1	木版、上下巻、外題「祠詞正訓上巻」
15	3142	5			元治2乙丑歳4月6日	(医道祖神号)	平阿曽美鋘胤花押		一枚	1	木版、神代文字、封筒上書「医道祖神号」
16	2761				万延元年11月以降	古学二千文	秋田人菅原豊秋		竪帳	1	木版
17	2862					古学二千文	華山生田国秀謹撰		竪帳	1	木版、書袋あり
18	1100				明治2年5月	皇学入門　全			竪帳	1	破損甚だし、木版

E－1－3　仏書

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3216					光明真言講式	行能卿写		巻子	1	
2	3217					光明真言講式	行能卿筆		巻子	1	
3	2845	1			天保4年癸巳夏5月	弘法大師一代讃議　巻上	(書籍経類版行所京都市寺町通五条上ル山城屋藤井佐兵衛)		竪帳	1	題箋「弘法大師一代讃議上」、木版
4	2845	2				弘法大師一代讃議　巻中	(書籍経類版行所京都市寺町通五条上ル山城屋藤井佐兵衛)		竪帳	1	題箋「弘法大師一代讃議中」、木版
5	2845	3				弘法大師一代讃議　巻下	書籍経類版行所京都市寺町通五条上ル山城屋藤井佐兵衛		竪帳	1	題箋「弘法大師一代讃議下」、木版
6	181					(印相帳)			折本	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
7	1222					高野大師 行状起 下	前川茂右衛門		竪帳	1	木版、行状「起」を朱書にて行状「国書」に訂正
8	1223					高野大師 行状起 上			竪帳	1	木版、行状「起」を朱書にて行状「国書」に訂正
9	1067					渓谷拾葉集 記録部			竪綴	1	仏教記録

E—2 漢籍

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	173					詩経集註巻一、二			竪帳	1	木版、書込みあり、「元禄九年丙子八月四日改点 伊藤長胤」「青楓館印」朱印
2	1643	1				詩経集註巻之三・四			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
3	1643	2				詩経集註巻之五・六			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
4	1643	3				詩経集註巻之七・八			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
5	1643	4				詩経集註巻之九			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
6	1643	5				詩経集註巻之十・十一			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
7	1643	6				詩経集註巻之十二・十三			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
8	1643	7				詩経集註巻之十四・十五			竪帳	1	木版、「青楓館印」あり、表紙裏「元禄十一年戊寅五月九日改点、陽月廿九日卒功、享保十三年戊申二月十八日改点了」、書入れ
9	169					周禮註疎巻第一～四十二巻			横半帳	1	漢鄭氏注、唐賈公彦疏
10	170					漢書評林字例			竪帳	1	表紙「漢書評林及字例」
11	2225				(寛政戊午(10)年11月1日)	劉向説苑 第一 第二 第三 第四	漢沛郡劉向著、明新安程栄校		竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印、外題「劉向説苑 壱」、尾張書肆東壁堂蔵
12	2224				(寛政戊午(10)年11月1日)	劉向説苑 第五 第六 第七 第八	漢沛郡劉向著、明新安程栄校		竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印、外題「劉向説苑 弐」
13	2223				(寛政戊午(10)年11月1日)	劉向説苑 第九 第十 第十一 第十二	漢沛郡劉向著、明新安程栄校		竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印、外題「劉向説苑 参」
14	2222				(寛政戊午(10)年11月1日)	劉向説苑 第十三 第十四 第十五 第十六	漢沛郡劉向著、明新安程栄校		竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印、外題「劉向説苑 肆」
15	2220				(寛政戊午(10)年11月1日)	劉向説苑 第十七 第十八 第十九 第二十	漢沛郡劉向著、明新安程栄校		竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印、外題「劉向説苑 伍」、張府書林永楽屋東四郎他1名版
16	2221				寛政戊午(10)年11月1日序	劉向説苑考 全	桃源蔵子深		竪帳	1	雲藩明教館教授桃源蔵序、木版、張府書林永楽屋東四郎他12名版
17	500				天明丙午(6)冬序	詩家必要 乾			竪帳	1	木版、文海堂版、「羽倉蔵書」朱印
18	501					詩家必要 坤			横半帳	1	木版、心斎橋敦賀屋彦七他版、「羽倉蔵書」朱印
19	508				天保	詩韻含英巻一～巻四	山陰劉文蔚豹君輯		竪帳	1	木版、題簽「詩韻含英異同弁一」
20	505				天保2年辛卯6月	詩韻含英巻五			竪帳	1	木版、題簽「詩韻含英異同弁二」、小林新兵衛書肆
21	497				天保2年辛卯6月	詩韻含英巻九			竪帳	1	木版、題簽「詩韻含英異同弁三」
22	172				寛政元年己酉3月自序	明丘瓊山故事必読成語考集註巻上	三宅元信		竪帳	1	木版、こげあり、書込あり
23	1150					大唐太宗文皇帝製三蔵聖教序			竪帳	1	仮綴
24	537					(東坡詩集熟語抜粋等熟語関係綴)			竪帳	1	「荷田氏蔵書」朱印、罫紙使用
25	3346					文天祥正気歌			罫紙	1	
26	1080				天明戊申(8)孟夏	趙文敏公法帖(法帖籠書)	荷田信言摸		竪帳	1	
27	476					出像評点忠義水滸全傳			竪帳	1	写本
28	148					紙上無界			竪帳	1	漢籍からの抜書(見返に「筆不勝意不免強書空評□紙」)
29	2258					随園詩話要語			竪帳	1	黒色罫紙使用、「青楓館印」
30	119					大明律附例註解(巻一、四、六、七、八、九、十)			竪帳	1	合綴、春満筆か
31	117					大明會典			竪帳	1	合綴(二冊)
32	1307					羅山林先生文集巻第一			竪帳	1	
33	1085					(観相関係漢籍抜粋)			竪帳	1	
34	691	101			未正月14日	(論語筆記誤写につき校正願)			竪紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
35	373					孟子十一之十二(注釈)			竪帳	1	片仮名交り、裏表紙に記載あり
36	538					忠義水滸全伝 第一回			竪帳	1	
37	535					忠義水滸全伝 第二回			竪帳	1	
38	1285					(医学書)			竪帳	1	
39	1360					(医学書)	長人長澤市右衛門		横半帳	1	朱にて書き込みあり
40	1361					(薬調合書)			竪紙	5	
41	1394					諸方雑著(医学書)			横半帳	1	

E—3 和書
E—3—1 歴史

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	483					日本書紀巻第八、巻第九、巻第十			竪帳	1	
2	487					日本書紀巻第十一、巻第十二、巻第十三			竪帳	1	
3	485					日本書紀巻第十六、巻第十七、巻第十八			竪帳	1	
4	1198					日本書紀巻第十九			竪帳	1	古活字版、「稲荷宮蔵書記」「青楓館印」朱印
5	1503					日本文徳天皇実録写本巻一(～巻十)			竪帳	1	ボール紙の表紙・裏表紙付表紙「日本文徳天皇実録写本 二冊」、自筆か
6	97					日本後記批考一、二			竪帳	1	
7	96					續日本後記考			竪帳	1	語句・用文の抜粋語釈を試みたか
8	1501					日本三代実録巻第一～五十(抄写本)			竪帳	1	巻一～五十、ボール紙の表紙・裏表紙付。表紙「三代実録写本 二冊」
9	101					三代實録抜萃			横半帳	1	童謡・陰陽寮奏などの記事を抜粋
10	3176					(文徳実録解説覚書断片)			切紙	1	
11	1418				文化3年寅7月	訂正出雲風土記上、下	大阪市南区天王寺堂ヶ浜町百八番地桜薗書院		竪帳	2	木版、包紙「梅之舎大人訂正、訂正出雲風土記櫻園書院蔵板」
12	913				文政8年10月上旬	風土記(山城・伊賀・伊勢・尾張・豊後・肥前)	秦公枸写		竪帳	1	16-1の箱、御殿預本の書写
13	1435					出雲風土記假字書上			竪帳	1	木版
14	1436					出雲風土記假字書中			竪帳	1	木版
15	1427				安政3年8月跋	出雲風土記假字書下	大阪心斎橋通博労町角河内屋茂兵衛		竪帳	1	木版
16	1428					訂正出雲風土記上			竪帳	1	木版、出雲風土記原稿メモあり
17	1429					肥前風土記	浪華書林大坂東区安土町四丁目鹿田静七		竪帳	1	木版、序文は寛政十一年卯月廿二日
18	2294					類聚国史巻第一			竪帳	1	神祇部一 神代上
19	2304					類聚国史 三十二			竪帳	1	
20	2303	1				類聚国史 三十四			竪帳	1	帝王部十四
21	2303	2				類聚国史 六十六			竪帳	1	
22	2780					類聚国史巻第七十一			竪帳	1	写本、「青楓館印」朱印
23	2781					類聚国史巻第七十三			竪帳	1	写本
24	2782					類聚国史巻第七十五			竪帳	1	写本
25	2783					類聚国史巻第七十七			竪帳	1	写本
26	2785					類聚国史巻第百八十六			竪帳	1	写本
27	2787					類聚国史巻第八十八、八十			竪帳	1	写本
28	2786					類聚国史巻第百九十			竪帳	1	写本、「青楓館印」朱印
29	2297					類聚国史巻第百六十五			竪帳	1	瑞祥部上
30	2296					類聚国史巻第百四十七			竪帳	1	文部下、朱書にて書き込みあり
31	2295					類聚国史巻第百七十一			竪帳	1	災異部五
32	2784					類聚国史巻第百八十五			竪帳	1	写本
33	2985					(陸奥出羽地名他写本綴)			竪綴	1	破損
34	446					扶桑略記(朱雀天皇、村上天皇)			竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
35	447					扶桑略記(後一条天皇、後朱雀天皇)			竪帳	1	
36	451					扶桑略記			竪紙	1	表紙のみ
37	449					扶桑略記第四			竪帳	1	
38	86					釈抜五～七、十～十五、二十八～三十、第十六秘訓一、二(釈日本紀抜粋)			竪帳	1	合綴
39	575	3			(近世)	(元亨2年尾張・志磨国分民部省図帳断簡)			竪帳	1	
40	1166				大永4年正月13日	年表(天神七代より後土御門まで)	左大史小槻伊治		竪帳	1	「訓点畢　大永四年正月十三日」、「青楓館印」「國修」朱印
41	1651				享保3季12月21日	皇代略記　全	合山探題僧正厳覚		竪帳	1	写、末尾によれば享保三年十二月廿一日に伏見宮中務卿邦永親王の本を借りて写したとある
42	1121					本朝国史目録			竪帳	1	「青楓館印」朱印
43	1024				寛文10庚戌之夏	本朝通鑑序	弘文院学士林恕		竪帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印
44	532					(大日本史目録)			竪帳	1	
45	2170					(続日本紀等部類書抜)			竪帳	8	仮綴、神事類・帝業類・官職類・人畜類・地理類・器財類・禍福類・仮綴雑類の8冊
46	1005					倭名類聚鈔巻第七～十四			竪帳	1	木版、表紙「倭名類聚鈔中」
47	1113					倭名類聚鈔　中			竪帳	1	表紙は1005のものと判明し、移動、欠番
48	1674					名目鈔			竪帳	1	木版、洛陽今出川林和泉掾時元板行、奥に補写あり、朱書「東山左府実熙公之撰」、「青楓館印」朱印
49	1486					名目鈔	洛陽今出川林和泉掾時元板行		竪帳	1	木版、「慶長元仲冬廿日」(朱字)の書込あり、「元文元年五月中旬稲荷下社祢宜正五位下行相模守秦親盛」の奥書あり、後ろ五丁は親盛による補筆
50	138					玉葉目録　全			竪帳	1	
51	1660					続神皇正統記			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印
52	1125				明和(4)丁亥年正月	続神皇正統記	平安書林武村嘉兵衛・丸屋善六発行		竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
53	1687					続神皇正統記	小槻宿祢判		竪帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
54	1039					万葉緯第四(古記録抜粋)	洛東隠士編輯		竪帳	1	表紙に「祝詞類」表紙裏「出雲守秦公溟」
55	1109					(中右記抜書)			竪帳	1	
56	1099					(長秋記・兵範記等抜書)			竪帳	1	裏より「玉海」の抜書
57	2157					(中右記寛治四年十月三日行幸稲荷祇園両社条抜書)			竪紙	1	
58	2135					御室御相承事、御室御廟所事(山槐記抄録写)			巻子	1	
59	1385					明月記(建仁二年分略記)			竪帳	1	写
60	1388				延宝戊午(6)年冬	明月記(天福元年分略記)			竪帳	1	写
61	2313					名月記　五十三(嘉禎元年4月～6月)					写、奥書「右文暦二年四月至六月以照光記補之、本書ハ行十七字四十七葉」
62	1389					明月記(嘉禄3年正月)			竪帳	1	写
63	1668				元禄2己巳年11月29日	後中記　押小路中納言資頼卿葉室	従四位上藤原朝臣(花		竪帳	1	写、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
64	445				元禄7年季秋	後中記　全(押小路中納言資頼卿記、仁治3年条)	正直(写)		竪帳	1	「元禄二己巳年十二月廿九日従四位上藤原朝臣(花押)」の記述あり
65	2995					中務内侍日記			竪帳	1	写本、北朝崇光院のころの仮名日記文学、蔵書印「青楓館印」「荷田氏珍蔵」
66	1002				文政7年7月下旬	後崇光院　看聞御記　自永享九年到嘉吉二年	秦公枸(花押)		竪帳	1	「此書者伏見宮御蔵記之由、今般令自松室宗重借用書写了」
67	2558				明和元年申11月	三河物語抜粋	大久保彦左衛門		竪帳	1	元和元年六月日の奥書
68	1340					松平崇宗開運録　中			竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
69	2968				寛文10戌年7月25日	知行方目録(知行宛行目録)	浅内匠長直(印)(花押)	浅井縫殿之助殿	折紙	1	大高檀紙
70	1611				寛文10戌年7月25日	知行方目録(八百五十石分知行目録写)	浅内匠長直(印影)(花押影)	浅井縫殿助殿	折紙	1	近代影写本
71	428					瑞光院所蔵義士書翰			竪帳	1	表紙「金子文庫」蔵書印の紙貼付
72	1130				元禄16年2月3日	(十内よりおたんとのへの書状写)			竪帳	1	赤穂浪士関係
73	421					赤穂義人録上下、鳩巣先生義人録後語			竪帳	1	木版、甘雨亭叢書、三冊合綴
74	429					赤穂義士始末記			竪帳	1	巻末に「田宮氏図書印」あり
75	435				嘉永庚戌(3)年	赤穂四十七士傳下	出雲寺文次郎他四名		竪帳	1	木版、「荷田春満ト義士トノ記事アリ」の貼付箋
76	434				(安政2年乙卯秋)	(赤穂義士随筆巻之一)	山崎美成編、(河内屋茂兵衛他12書肆発行)		竪帳	1	木版、表紙に「金子文庫」蔵書印の貼紙付
77	432				(安政2年乙卯秋)	(赤穂義士随筆巻之二)	(河内屋茂兵衛他12書肆発行)		竪帳	1	木版、表紙に「金子文庫」蔵書印の貼紙付
78	433				(安政2年乙卯秋)	(赤穂義士随筆巻之三)	(河内屋茂兵衛他12書肆発行)		竪帳	1	木版、表紙に「金子文庫」蔵書印の貼紙付
79	431				安政2年乙卯秋	赤穂義士随筆巻之四	山崎美成編、河内屋茂兵衛他12書肆発行		竪帳	1	木版、表紙に「金子文庫」蔵書印の貼紙付
80	430				嘉永庚戌(3)年	赤穂四十七士傳上	珮弦斎雑著水府青山延光、珮弦斎蔵版		竪帳	1	木版、435参照、昭和11年11月14日神戸市土井英成寄進
81	1339					新令句解(寛永7年武家諸法度抜粋)			竪帳	1	
82	1128				享保16辛亥年3月中浣	温知政要	参議尾陽侯源宗春著		竪帳	1	「青楓館印」あり、写
83	437					都鄙問答一之二			竪帳	1	木版
84	436				元文4年孟春	都鄙問答巻之三	石田勘平著、門人蔵板、平安弘所書□小川新兵衛他1名		竪帳	1	木版
85	3000				天明元年秋8月21日	國本論	白川世子源定信		竪帳	1	写本、朱の書入あり、「天明八年首夏従四位下秦宿祢親實」書写
86	2253					草茅危言巻之一			竪帳	1	木活字、諡号院号、年号など、題箋「校正草茅危言一」
87	2252					草茅危言巻之二			竪帳	1	木活字、御麾下之事、奉行代官など、題箋「校正草茅危言三」
88	2251					草茅危言巻之二			竪帳	1	木活字、武門元服之事など、題箋「校正草茅危言四」
89	1217					北筑雑藁(久留米地誌)			竪帳	1	「青楓館印」朱印
90	3113	4			(近世)	会津紀行	(吉川)惟足		横半帳	1	
91	2563				明和2年4月	木曽記行(木曽道中和歌日記)	小沢帯刀玄仲		竪帳	1	東照宮150年忌に鷹司右大臣に供奉した小沢の日記を借用書写
92	2562				(明和6年)	南遊草(旅行記)	閑月窩老人樗夫信郷(花押)		竪紙	1	
93	2817					浪花当時人名録	拙亭文夫輯		竪帳	1	木版
94	3669				寛政己未(11年)新鐫	清俗紀聞　全部十三巻	竊恩館蔵版東都書肆翫月堂発兌		竪帳	6	全6冊、木木版、「江都本石町四丁目火拡町西側吉林堀野屋仁兵衛製本之印」落款あり
95	441				(近世後期)	稲荷神社考巻上	菅原(前田)夏陰		竪帳	1	木版、表紙に「天」の文字あり
96	2758	1			(元治元年甲子3月)	再撰花洛名勝図会東山之部一	(四條以北編者晴翁木村明啓他4名)		竪帳	1	木版
97	2758	2			(元治元年甲子3月)	再撰花洛名勝図会東山之部二	(四條以北編者晴翁木村明啓他4名)		竪帳	1	木版

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
98	2758	3			(元治元年甲子3月)	再撰花洛名勝図会東山之部三	(四條以北編者晴翁木村明啓他4名)		竪帳	1	木版
99	2758	4			(元治元年甲子3月)	再撰花洛名勝図会東山之部四	(四條以北編者晴翁木村明啓他4名)		竪帳	1	木版
100	2758	5			(元治元年甲子3月)	再撰花洛名勝図会東山之部五	(四條以北編者晴翁木村明啓他4名)		竪帳	1	木版
101	2758	6			(元治元年甲子3月)	再撰花洛名勝図会東山之部六	(四條以北編者晴翁木村明啓他4名)		竪帳	1	木版
102	2758	7			(元治元年甲子3月)	再撰花洛名勝図会東山之部七	(四條以北編者晴翁木村明啓他4名)		竪帳	1	木版
103	2758	8			元治元年甲子3月	再撰花洛名勝図会東山之部八	四條以北編者晴翁木村明啓他4名		竪帳	1	木版
104	2795				安政5年戊午初冬	五街道中細見記	江戸総元発起人大城屋良助		袖珍本	1	木版
105	2211					日光道中記			横半帳	1	中山道・例幣使道・日光道中の道法・名所付
106	1174					伊勢津阿漕平次之記	阿漕山		竪帳	1	木版、縁起案内記
107	2560				天保14卯年	(日本道中絵図)	京師図者岡田春燈斉抜補、皇都六角堂前丁子屋源次郎板大阪宜英堂		鋪	1	色彩
108	1138				文化13年丙子	和漢年契	葛城長兵衛他5名		竪帳	1	木版、年代は新増補校正の時、寛政九年丁巳初版
109	2818				享和2年壬戌3月	捺印補正巻之二	心斎橋筋順慶町柏原屋清右衛門他1名		横帳	1	木版
110	1234				天保2年辛卯春□	古今校正　新古銭かゝみ	大阪書肆心斎橋筋南本町伏見屋嘉兵衛		竪帳	1	二冊合綴
111	1299					天明四甲辰三月二十四日御本丸於殿中新御番佐野善左衛門若年寄田沼山城守及刃傷一件			竪帳	1	
112	1167				(天明8年)	初午まふで(天明8年京都大火見聞読本)	平安川口好和		竪帳	1	木版、上下合綴
113	1275				万延元年3月	無名氏上書(幕政ニ関スル建白書)			竪帳	1	
114	3164					奉書(朝鮮通信使奉書)	通信趙厳他2名	対馬州太守拾遺平公閣下	切紙	1	2通1点
115	1229					城州伏見其外所々出火之図			鋪	1	木版、彩色あり、台紙に貼付
116	3180	2			(明治初年)	西洋直伝一子□伝月給丸(薬広告をもじった政治批判の落書)			竪帳	1	仮綴
117	2901				(近代)	歴代略記(神武～明治)	羽倉信義		竪帳	1	仮綴、青罫紙使用
118	1157					(「嘉徳」年号勘文断簡)			折紙	1	横半帳断簡1枚

E－3－2　故実

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	28					和歌会式故実			竪帳	1	昭和8年の複製版もあり
2	29	4			慶応2年しも月	荷田大人創學校啓	平鐵胤謹書			1	木版
3	30	3				職原抄上			竪帳	1	
4	30	4				職原抄上			竪帳	1	木版
5	30	5				職原抄下			竪帳	1	木版
6	111	1				「三代格」(内題「類聚三代格巻第一」)			竪帳	1	
7	111	2				「三代格」(内題「類聚三代格巻第三」)			竪帳	1	
8	2301				享和元年初秋	類聚三代格巻第四	秦親憲		竪帳	1	外題「三代格」、年分度者事、朱書にて書き込みあり
9	2302					類聚三代格巻第五			竪帳	1	分量諸国事～交替并解由事、書込あり、奥書「右類聚三代格第四巻以正親町殿公明卿御本補之、予命公麻宿禰書写了、享和元年初秋正四位下秦親憲(花押)」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
10	2300					類聚三代格巻第七			竪帳	1	外題「三代格」、公郷意見事～正倉官舎事
11	116					類聚三代格巻第五			竪帳	1	
12	2299					類聚三代格巻第八			竪帳	1	外題「三代格」、農桑事～鋳銭事
13	2298					類聚三代格巻第十二			竪帳	1	外題「三代格」、禁制事
14	1322					延喜式巻八			竪帳	1	周囲焼損
15	416					延喜式巻第十一、十二			竪帳	1	外題「延喜式十一　十二　太政官　中務　内記　臨物　主鑰」
16	417					延喜式巻第十三、十四			竪帳	1	外題「延喜式十三　十四　中宮　大舎人　図書　縫
17	418					延喜式巻第十五、六			竪帳	1	外題「延喜式十五　十六　内蔵　陰陽」
18	419					延喜式巻十七、十八			竪帳	1	外題「延喜式十七　十八　内匠　式部下」
19	406					延喜式巻第十九、二十			竪帳	1	外題「延喜式廿六、廿七　主税上下」
20	407					延喜式巻第二十一			竪帳	1	外題「延喜式二十一　治
21	403					延喜式巻第二十二、二十三			竪帳	1	外題「延喜式廿二、廿三　民部上下」
22	404					延喜式巻第二十四、二十五			竪帳	1	外題「延喜式廿四、廿五　主計上下」
23	405					延喜式巻第二十六、二十七			竪帳	1	外題「延喜式廿六、廿七　主税上下」
24	408					延喜式巻第二十八、二十九			竪帳	1	外題「延喜式廿八、廿九　兵部　隼人　刑部　判事　囚獄」
25	409					延喜式巻第三十、三十一			竪帳	1	外題「延喜式三十　卅一　大蔵　織部　宮内」
26	410					延喜式巻第三十二、三十三			竪帳	1	外題「延喜式卅二　卅三　大膳上下」
27	411					延喜式巻第三十四、三十五、三十六			竪帳	1	外題「延喜式卅四　卅五　卅六　木工　大炊　主殿」
28	412					延喜式巻第三十七			竪帳	1	外題「延喜式卅七　典薬」
29	413					延喜式巻第三十八			竪帳	1	外題「延喜式卅八　掃部」
30	414					延喜式巻第三十九、四十			竪帳	1	外題「延喜式卅九　四十　正親　内膳　造酒　采女　主水」
31	391				(近代か)	延喜式巻第四十一、四十二、四十三			竪帳	1	
32	392					延喜式巻第四十四、四十五、四十六			竪帳	1	
33	393					延喜式巻第四十七、四十八、四十九			竪帳	1	
34	415				寛政12年2月	延喜式巻第五十	正四位下秦宿祢親寓(花押)写		竪帳	1	外題「延喜式五十　雑式」
35	1315					大嘗会事			竪帳	1	巻頭に「元文三年午八月廿八日国郡卜定仗座公卿列次」あり
36	1646					御即位大嘗会事	左中直経		竪帳	1	吉田兼倶書写本の写、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
37	1647				明応5年12月21日	除目執筆秘抄	(関白左大臣(花押))		竪帳	1	写、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
38	1650					貫首秘抄全(蔵人頭有職解説)	(宰相入道俊憲)		竪帳	1	写、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
39	1021					御衣之図			竪帳	1	「青楓館印」朱印、彩色あ
40	1092					(天皇装束図録)			竪帳	1	彩色朱印、「稲荷山森家」朱印
41	1196				元禄9年11月朔日写	後嵯峨院賀茂上下御幸記、熊野御幸記	正(花押)		竪帳	1	「青楓館印」朱印
42	2989					(諒闇等有職関係記事写本)			竪帳	1	前欠
43	1338				享和3年孟秋28日写	葬□記巻第一	(花押)		竪帳	1	外題「天武天皇朝廷法式本朝葬礼古式」、奥書「永長二年七月廿六日萬寿允常書写(以下略)」、年代は天明8年の佐々盛條の写を更に写した日付
44	1666				天文4年正月	明応凶事記			竪帳	1	内表紙「今度東坊城借用之書写者也」、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
45	465					後柏院崩御菅別記(大永6年4月条)	和長		竪綴	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
46	1665				応永3年	東宮御元服次第、御譲位次第、元日節会次第	従三位行左近衛中将権中将藤原朝臣定親		竪帳	1	慶安3年9月11日諫議羽林藤原実豊によっても写されている、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
47	1669				正治2年	官職秘抄	兵部卿三品基親撰		竪帳	1	元弘元年10月26日冷泉高倉亭主写、大永5年5月18日侍中権左少丞藤写、寛文5年9月権大納言藤写、元禄2年9月左近衛権中将藤原朝臣写
48	1141	2				(上皇行幸次第并永昌記太政大臣拝賀記事写断簡)			横半帳	1	仮綴
49	1132				寛政9年季秋	作法故実(公卿弁官故実)	正五位下秦宿祢公麻(花押)写		竪帳	1	表紙「廻り朱点、可為教合」、寛政5年4月秦親実が写したものを公麻が写した
50	1685				享保17年壬午臘月	日中行事(宮中)	物部宿祢敏文		竪帳	1	写、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
51	1026					内侍所御神楽式随脳			竪帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
52	1686				寛文9年閏10月写	朔旦冬至部類　全(正和五年大外記良枝記等抜書)			竪帳	1	甘露寺親長自筆本の写、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
53	1670				元亨2年正月28日	除目執筆秘抄	掖庭員外監		竪帳	1	元亨4年5月23日、嘉暦4年8月28日、明応5年12月21日関白左大臣、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
54	1671					吉続記　除目部類			竪帳		「天台山兜率渓鶏頭院」、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」
55	1673				明応7年3月2日	縣召除目執筆作法	前左大臣藤原(花押)		竪帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
56	112				延宝戊午(6年)冬写	(源雅頼筆元暦元年叙位次第・藤原定家筆雨降儀叙位次第写)			竪帳	1	「在満筆」の付箋あり
57	1225					位署式私考			竪帳	1	中表紙「位署式　壺井氏秘鈔」、多賀高林蔵書(印)
58	1448				元禄7年6月26日跋	公事根源集釈上			竪帳	1	木版、「稲荷神主大西文倉」朱印
59	1449				元禄7年6月26日跋	公事根源集釈中			竪帳	1	木版、「稲荷神主大西文倉」朱印
60	1450				元禄7年6月26日跋	公事根源集釈下			竪帳	1	木版、松下見林跋、村上勘兵衛版
61	1197				文明10年戊戌卯月17日	裁判至要抄	朝散大夫清原時定		竪帳	1	写、建久2年8月26日、延慶2年12月にも写
62	1233					(玉葉・明月記・兵範記等抜			竪帳	1	周囲焼焦げの跡
63	691	100				(仁平四年正月五日以下の記録抜書)			状	1	漢文
64	1381					神事壱巻、仏事壱巻(兵範記・玉海等古記録抜書)			竪帳	1	
65	1218					永仁連署記　全(公武故実)			竪帳	1	「青楓館印」朱印
66	1317					光成卿纓燕尾之考・着袴之次第・次諸大夫事・冠位濫觴以下事・着袴之事・裕衣俗衣之事			竪帳	1	表紙に花押
67	2996					物具装束抄			竪帳	1	写本、奥書「応永十九年八月廿一日書写之、本者花山院亜相忠定卿自筆也借用西園寺前右大将実益卿本写畢、慶長九」、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」
68	486					当家着用装束抄、装束抄上巻目録			竪帳	1	二冊合綴、奥書「右者房通抜、依有極秘条々也」
69	1145					襲之記(襲色目覚書)			竪帳	1	
70	1282					弘安礼節問答(書札礼)			竪帳	1	
71	1097				元禄5年2月	大槐秘抄　全	左中将公韶		竪帳	1	写、「青楓館印」朱印
72	2232				享保13天冬10月上旬	装束之記(天皇の服装等)	平朝臣宗基(朱印)		竪帳	1	朱印は「高林之印」
73	282					無名□(装)束抄			竪帳	1	
74	1033					近代年中行事			横半帳	1	
75	2212				(元禄11戊寅年)	元禄十一戊寅年補署(公卿名前一覧)			横半帳	1	
76	196					甲辰享保九年補署正月十六日改、享保十年乙巳補署(公卿名前付)			横半帳	1	合綴、「在満筆」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
77	2209					寛保改元難陳			横半帳	1	
78	1306					辛酉革命改元(寛保改元か)	唐崎式部権大輔在廉		横半帳	1	
79	2278				寛政2庚戌年11月26日巳刻	仙洞御所遷幸御行列			横帳	1	
80	1159				元文3年11月1日	大嘗会悠紀主基両国風俗歌、同御屏風十二帖両国之絵和歌	親(花押)		竪帳	1	虫損甚だし
81	484				天明7年丁未霜月	大嘗会記 全	従四位下行参河権守秦公府		竪帳	1	文禄2年6月11日に兼見が書いたものを左衛門大尉藤常成が書写し、天明7年霜月16日に比良不社正視正五位下行大和権守が写したものを秦公府が写したもの、「秦宿祢公府」朱印
82	1288				天明6年12月13日	(山科郷ニ而珍禽白烏捕獲ニ付祥瑞先例抜記献上書)	大外記中原師資他2名		竪帳	1	
83	1305					(紫宸殿障子絵目録)			横半帳	1	
84	1287				寛政2年8月	賢聖障子名臣冠服考證上下	日儒員臣柴邦彦(柴野栗山)記		竪帳	1	
85	2265				文化改元年秋7月28日	古剱之図	延秋縮写		竪帳	1	「冨田家蔵」「延秋之印」朱印、彩色
86	1083				文化8年9月15日	滋草拾露小忌之部	稲荷社権祝従四位上行出雲守秦宿祢公溟		竪帳	1	写
87	177	1			天保7申年8月13日	(朝廷節会次第、節会御膳供進次第)	秦公杓写		竪帳	1	享和4年正月13日大江俊幹本を不詳の人物が写し、天保7年8月13日に秦が写した、「御台盤図」一枚挿入
88	1082				元禄16年11月23日	玉食供進抄	藤原定基		竪帳	1	奥書「天保十一年秋八月既望 正四位下秦宿祢公枸(花押)」写
89	1652				天文14年3月8日	貞治記 全(瞰鞠記録)			竪帳	1	「一条亜相兼冬卿写、柏木卿校合、初夏羽林藤原宗尚写、少府監藤原写」、「青楓館印」朱印
90	1648					思侭之日記全	二条良公撰		竪帳	1	
91	453					東斉随筆	一条禪閤		竪帳	1	
92	1098				明暦3丁酉年仲秋念3日	官位不審 完	定(花押)		竪帳	1	奥書「此一冊雖為或人秘本多年之以重望令書写畢、明暦三丁酉年仲秋念三 定(花押)」「青楓館主」
93	470				明暦3丁酉年仲秋念3日	(官位不審断簡)	定(花押)		竪綴	1	
94	205				宝永6丑年初秋	官職浮説或問 全	(多田義俊)		竪帳	1	「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
95	1210				寛文丙午(6)年冬10月	後京極摂政作庭之記	柳谷書		竪帳	1	「青楓館印」朱印
96	491					皇帝破陣楽(雅楽)			竪帳	1	訓点入
97	492					楽之目録			竪帳	1	
98	1312					條事定并改元定次第(元禄改元か)			竪帳	1	
99	450				延享元子年12月	延喜式略頌、令略頌			竪帳	1	延喜式・令の解題
100	2021	12				(岩清水八幡宮神宝王珮筥蓋文等有職模様写図)			鋪	1	包紙「信純公茶書物南屋敷書物入」19点の内、襖の模様として使用か
101	144					拾記(白鷹記、宣命・延宝八年徳川家綱贈位次第・禁中并公家諸法度・大成経破文要略)			竪帳	1	合綴か、抜書集のようす
102	1152					(西国太平記・信玄全集・東鑑等抄出)			竪帳	1	
103	1081					(晋書志第十五・東鑑・西宮記・江家次第等抜粋)			竪帳	1	「稲荷山森家」朱印
104	1090					礼典記聞			竪帳	1	
105	3220				(慶応2年)	(内侍所神楽次第他儀式次第書)	末葉左監門員外将軍兼秣内給事藤原為親在判		巻子	1	工部尚書藤原親雅書写の旨の奥書
106	3221				慶長10年霜月下旬	車図	前龍作持進藤判		巻子	1	写

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
107	3219					(九条家車等絵巻)			巻子	1	巻頭に「此車絵様等自九条前関白経教公被借送、仍写留之彼家事体敷、至徳二年十一月三日」
108	3215					雲図鈔目録(宮中儀式配置			巻子	1	
109	686					(諸記録抜書)			続紙	1	686を包んでいた紙と紐入れる
110	601	14			安永丙申(5)年6月望日	唐鞍図記	平安大江資衡撰并書		巻物	1	軸に昭和6年8月1日大阪毎日新聞3～6面使用
111	601	41				(宮等移徒作法及び母屋調度の有職並びに配置図)			続紙	1	目次の一部もあり
112	211					建武記(建武式目)			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
113	3002				承応3年甲午7月吉日	書礼(書札礼伝授秘書)	奥山与右衛門尉忠林(花	渡辺七十郎殿	竪帳	1	蔵書印「荷田氏珍蔵」朱印
114	2231				寛文10庚戌暦5月15日	元服次第、酌次第、通次第(小笠原流伝書)	佐々木八右衛門尉元口	小田進之進殿	竪帳	1	背表紙破損
115	2557				明和2乙酉暦晩著吉烏	誕生蟇目礼法巻	播州明石家臣武道許方仲道雪流仲新斉一方(花	羽倉石見守殿	続紙	1	再考
116	206				天正17年6月27日	飾抄			竪帳	1	近世写本、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
117	1357					婚礼手道具図			竪帳	1	
118	1037					万躾方之次第(小笠原流伝書)	小笠原大膳太夫長時他1		竪帳	1	奥に「持主福島左門」
119	1151					三献次第			横半帳	1	仮綴
120	1178				寛文10庚戌暦5月15日	(書札伝)	佐々木八右衛門元口判	小田進之進殿	竪帳	1	写
121	1182					女礼第五　昏礼弐拾三巻之内　貝桶之巻			竪帳	1	「方広監史」表紙にあり
122	2330					(下馬札書札礼断簡)			竪帳	1	綴が切れ2枚になっている
123	3229					(穂長汁由来断簡)			切紙	1	
124	3312	10				(やうかん・かすていら製法断簡)			続紙	1	
125	3230				(近世)	(朝廷儀式書断簡)			切紙	1	
126	1086				天保8年6月上旬	安斎叢書	秦公枸(花		竪帳	1	
127	1303				享禄3年10月18日	(小笠原流軍法書)	大和民部少輔元網		横半帳	1	奥書「建武二年三月五日大和守秀政　同月日尊氏将軍御判　享禄三年十月十八日大和民部少輔元継」
128	1087					(士鑑用法)			竪帳	1	
129	1504					兵法雄鑑　巻三～十八			竪帳	1	書入れ本、ボール紙の表紙・裏表紙付、稲荷安鎮の木箱に入っていた
130	122					軍用第一、第三、甲陽軍法三巻			仮綴	1	3冊合綴
131	2133				明暦丙申(2年)孟夏	(兵法伝書)	山鹿義呂書(印)		巻子	1	前欠、馬術書・剣術綴要・太陽集掲載
132	121				貞享元甲子年仲冬吉辰	(神武集他兵法伝書)	加藤氏素然子真信	大塚氏元義	仮綴	1	
133	1183					武具畧頌			竪帳	1	
134	3228	5			(近世)	尾州桶狭間陣図			鋪	1	一部欠損
135	3228	6			(近世)	明知日向依信長下知於丹波国合戦得勝利也			鋪	1	丹波合戦図彩色
136	3228	7			(近世)	奥州会津合戦			鋪	1	彩色絵図
137	3228	8			(近世)	会津陣図(摺上原合戦図)			鋪	1	彩色
138	3228	9			(近世)	関ヶ原陣図			鋪	1	彩色、断簡
139	3228	10			(近世)	(城郭縄張図雛形)			鋪	1	一部欠損
140	3228	11			(近世)	平城四方正面之取様(城郭縄張図雛形)			鋪	1	
141	3228	12			(近世)	(城郭縄張図雛形)			鋪	1	
142	3228	13			(近世)	(城郭縄張図雛形)			鋪	1	一部欠損
143	3228	14			(近世)	(山城縄張図雛形)	団五郎兵衛(印)		鋪	1	一部欠損
144	3228	15			(近世)	(山城縄張図雛形断簡)			鋪	1	
145	3228	16			(近世)	(山城縄張図雛形断簡)			鋪	1	
146	3228	17			(近世)	金剛山赤坂図(断簡)			鋪	1	彩色
147	3228	18			(近世)	(八陣図説)			続紙	1	
148	3273	3				(徳島藩軍学者妻木貞彦著抜撅録等ニ付覚書)			横綴	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
149	2316					(馬術関係相伝書)			竪帳	1	奥書によれば慶長12年上田但馬守重寿が相伝していた大坪流の書物(粘葉)
150	2321				寛永13年9月吉日	下段(馬術伝授覚書)			竪帳	1	
151	2315					下段(馬術伝授覚書)			竪帳	1	仮綴、後欠
152	1431					馬位法 七形附九馬	今枝伊豆守忠平		竪帳	1	綴葉装、「青桐館主」朱印
153	489					馬位法 七形附九馬	今枝伊豆守忠平		竪帳	1	
154	1177					(騎射次第断簡)			断簡	1	
155	464					(馬術書断簡)			竪折紙	1	竪帳断簡
156	1300				享保9卯年12月吉日	遠笠掛(有職故実書)			竪帳	1	写
157	1171					手綱之巻			竪帳	1	粘葉
158	1091					解龍流馬方第一之書			竪帳	1	彩色あり
159	1321				寛文壬子(12年)3月朔日序	採栃集覧巻第一、巻第二	中川正宣		竪帳	1	
160	1281					採栃集覧巻第三、巻第四(弓術問答、物語)			竪帳	1	
161	1274				享保9年12月吉日	笠懸			竪帳	1	写、永正十三年八月上原豊前守高家写、寛文十三年五月中川勘左衛門政宣写、享保九年十月仲平之丞写
162	999					犬追物記 全			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」あり
163	3001					犬追物巻上下			竪帳	1	写本、奥書「天文十二年八月十七日小笠原大膳大夫長時判」、「荷田氏珍蔵」朱印
164	1683					佐々貴御代々犬追物 上巻	多賀豊後守高忠		横半帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印
165	2991				(近世)	犬追物			竪帳	1	①犬追物②犬追物来歴③犬追物下の合綴、①の奥書に中川勘左衛門他4名の署名、②「享保九辰月九月信辰」③「享保九甲辰年九月日信元写也」
166	1129				享保9辰歳10月日	正保四丁亥年十一月十三日犬追物記	多々良義純		竪帳	1	奥書「元禄三午歳八月八日多々良氏自証」
167	1184				寛文10庚戌暦5月15日	秘伝聞書上(射的)	佐々木八右衛門尉元綱	小田助之進殿	竪帳	1	
168	458					美人草伝授(弓術書、前欠)			竪帳	1	61～87(上)／111～193(下)を収録
169	372					美人草傳授 上下			竪帳	1	
170	2966					(壱尺弐寸的等寸法図)			罫紙	1	赤罫紙使用
171	2555				享保15庚戌年4月	一刀流刀法目録	大塩甚五兵衛尉重直(花押)(印)	并河左仲	巻子	1	金泥草花模様あり
172	2790	1			寛永3丙寅歳9月	将軍様御上落(ママ)御参内御行列記	野々口氏(写)		横半帳	1	袖珍本の体裁、安政4年9月写、袋上書「将軍様御上洛ニ付行列記弐冊」
173	2790	2			安政4年9月写	寛政三丙寅歳九月六日行幸将軍様御上洛ニ付 禁裏御所二条御城江行幸同十日中宮御所還幸御行荘記	野々口氏(写)		横半帳	1	袖珍本の体裁
174	2277				宝永6己丑年五月朔日	家宣公将軍宣下次第			竪帳	1	
175	1139					公事裁許			竪帳	1	
176	2206					日光 御社参御行列書			横半帳	1	安永の社参
177	1195					賊盗律第七			竪帳	1	「青楓館印」朱印

E－3－3 文学

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	582					神詠六首伝授			竪帳	1	
2	1451					日本紀竟宴歌			竪帳	1	「天明三年七月正五位下秦親実」の奥書あり
3	152	1			文政11年季秋既望日	日本紀竟宴和歌	秦公杓		竪帳	1	写本
4	152	2				日本紀竟宴和歌 全			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
5	1206					日本紀和歌集 正字全	源定長		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
6	1640					もとのしつえ(万葉集歌語別分類)			竪帳	1	
7	1038					万葉集巻第三			竪帳	1	
8	3012	2				(万葉集抜書)			切紙	1	万葉集巻十・二二六五、同巻十・一九八四
9	80					萬葉集巻第十第十一難解之歌同十二巻難解之歌			竪帳	1	難訓歌に註をつけようとしたか
10	81					万葉集抜抄　十五枚			竪帳	1	
11	490					第一巻之奥書異本(万葉集写本奥書写)			竪帳	1	
12	591					万葉書例抜粋			竪帳	1	
13	1040				寛文9年臘月下旬	万葉長短歌	清宗川		竪帳	1	奥書朱書「正徳五年未四月十四日令一校了　宗氏」
14	1492					古今集和歌第五之分(注釈書)			竪帳	1	「古今和歌集巻五旧情之附録」、綴紐なし
15	478					(古今和歌集注釈草稿)			竪帳	1	前後欠、朱・墨書入あり、余材抄を批判
16	556					古今和歌集灌頂口伝上			竪帳	1	
17	576					古今和歌集上			竪帳	1	木版、濁点校正入り、「信郷之印」朱印
18	600					古今一			竪紙	1	表紙のみ
19	983				永禄5年3月24日	古今集秘抄			竪帳	1	表紙「古今秘抄全」
20	3169					(古今集断簡)			切紙	1	古今集653の歌
21	1397					八代集秀逸			竪帳	1	「青楓館印」朱印
22	1032					八代集贈答歌中			竪帳	1	裏内表紙に「いなり社東羽倉蔵」とあり、内表紙に「稲荷本宮」朱印
23	1031					八代集贈答歌下			竪帳	1	表紙裏に「東羽倉家」とあり、内表紙に「稲荷本宮」印あり、「明和三年八月廿日のふ郷」
24	1639					新続古今和歌集序	藤原兼良		竪帳	1	外題「新続古今序」
25	1043					抜書三(続古今和歌集下)			竪帳	1	
26	3170					(新古今和歌集断簡)			切紙	1	歌番号715～717古筆切
27	1684					二十一代集贈答和歌抜粋			竪帳	1	表紙破損、東羽倉家蔵
28	2998				明和2乙酉年9月	(竹取物語)	源俊邦写之(花押)		巻子	1	
29	292					伊勢物語愚見抄第一			竪帳	1	
30	291					伊勢物語愚見抄下			竪帳	1	
31	295				元禄2年己巳十二月吉日	伊勢物語注	荷田信春書之		竪帳	1	
32	1283					伊勢拾穂往田抄上下	篠田厚敬		竪帳	1	元禄壬午初秋下旬の跋文あり
33	79					源語系図			竪帳	1	奥書「本云應永十九年十月十六日」、表紙に鉛筆で「信詮筆」
34	109					源義辨引抄抜粋			竪帳	1	
35	374					源氏秘訣			竪帳	1	後欠、内容は桐壺・夕顔・花の宴・榊・明石・玉葛
36	462					(源氏物語注釈書)			竪帳	1	源氏秘訣か、夕顔・明石・乙女・薄雲・藤裏葉
37	479					けいつ小かゝみ(源氏注釈)			竪帳	1	
38	539				(近世)	けいつ小かゝみ			横半帳	1	罫紙使用
39	24					平家物語(第一～九巻)			竪帳	9	
40	1368					百人一首抄　上			竪帳	1	注釈書入本
41	1422				寛永8辛未年孟春吉辰	百人一首抄上	泳湯東内院諏訪町杉田良庵玄与開		竪帳	1	木版、表紙に「講百人一首抄上中下全廿」、(第七巻)
42	1369				宝暦9己卯年初秋	百人一首抄　人	上條氏　女利佐		竪帳	1	下巻
43	994				寛文元年5月6日始之	法皇御講釈聞書(百人一首御講釈聞書)	飛鳥井大納言雅章		竪帳	1	延宝四年五月八日英仲書写、宝永五年五月下旬寛之書写、享保十四歳三月七日親盛書写、「荷田家珍蔵」「親盛之印」朱印
44	1330					帖百人一首	信純(花押)		粘葉綴	1	
45	1354					百人一首拾穂抄　上之一			竪帳	1	木版
46	1353					百人一首拾穂抄　上之二			竪帳	1	木版
47	1363					百人一首抄　中			竪帳	1	注釈も書き込みあり
48	1352					百人一首拾穂抄　下之一			竪帳	1	木版

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
49	1364					百人一首拾穂抄 下之二			竪帳	1	木版
50	1365					新板百人一首抄 上			竪帳	1	木版
51	1366					新板百人一首抄 中			竪帳	1	木版
52	1367					新板百人一首抄 下			竪帳	1	木版
53	3165					(百人一首天智天皇歌講義録書抜)			竪紙	1	後欠
54	158					(定家庚申之夜五首、俊成卿九十賀和歌、十五番歌合等写)			竪帳	1	
55	998					後鳥羽院隠岐波百首			竪帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
56	3535	2			延享5卯(ママ)歳	(後鳥羽院御伝之伝書羽倉□丸系図不書由承ニ付村井政貞短冊写)			切紙	1	包紙は「校了」印あり
57	63				明和7年寅6月念日	暮春白河尚歯会和歌并序、承安二年三月十九日於宝荘厳院行文	九十一翁亭安書		巻子	1	「前套秋内給事藤原清輔六十八」、金庫に別置
58	2310					鴨長明集			竪帳	1	外題「長明御師家集 乾」
59	1398				明和6年5月28日	文明十一年六月三日下御霊社御法楽和歌	稲荷社正預信郷(花押)		竪帳	1	「青楓館印」朱印
60	1228				文禄3年4月27日	散木奇歌集巻第九(注釈書)	顕昭		竪帳	1	写、奥書「文禄三年四月廿七日写之、顕昭親筆之本也」
61	2993					澤庵千首			竪帳	1	写本、「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
62	481					仙洞御着到百首			竪帳	1	
63	1180					法皇御法楽之内(稲荷山法楽和歌集)			横半帳	1	中院通茂など
64	157					(弘資・資慶・通茂題詠和歌綴)			竪綴	1	題詠和歌の添削原稿か
65	356					中院通村卿、通茂卿詠歌			横半帳	1	
66	1404				天和2年正月19日	分葉(和歌集)			竪帳	1	「青楓館印」朱印
67	996				貞享乙丑2年2月17日	新撰集六 全			竪帳	1	「青楓館印」朱印、「以青蓮院尊證法親王之御直筆写之」とあり
68	1682				貞享3年丙寅年3月15日	三院御百首(後鳥羽院遠島御製百首、土御門院百首、順徳院御百首和歌)	家長以斎老		竪帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
69	692				元禄11戊寅年	百首和歌一	中院通茂		竪帳	1	
70	1401				元禄4年初冬10日	和歌式 喜撰式 孫姫式 浜成式	山門横川雞足院住法印大僧都覚深		竪帳	1	写、荷田家蔵、「青楓館印」朱印、外題「和歌三式全」
71	1399				元禄14年9月21日	太神宮法楽千首			竪帳	1	「青楓館印」朱印
72	153				元禄15年6月17日～宝永2年5月	(稲荷社法楽和歌)			竪帳	1	「稲荷社御法楽和歌」の記録
73	1402					正徳年中下御霊社御法楽 全			竪帳	1	「青楓館印」朱印
74	359				享保2年酉正月14日	法皇和歌御会始(和歌集)			横半帳	1	奥書「就南都炎上不被披構」
75	466				享保16年5月某日	御園甘露賦	草莽臣 節		竪綴	1	
76	1406					霊元院御製 享保十七年三百首			竪帳	1	
77	3130				寛延3年2月25日	聖廟御法楽詩歌当座御会			横帳	1	講師資興朝臣、題者冷泉中納言、奉行飛鳥井大納言
78	1411				宝暦2年壬申年重陽	桃薗軒和歌集 全			竪帳	1	「青楓館印」
79	1007				宝暦2壬申重陽	桃薗軒和歌集			竪帳	1	「青楓館印」
80	1470					(宝暦六年正月廿四日 和歌御会始他和歌集)			竪帳	1	写本
81	2306				明和8年2月18日	仙洞 和哥御会始			竪帳	1	
82	358				明和2年8月24日	貞良院小祥忌追悼倭歌			竪帳	1	
83	448				明和4年8月15日	(月見歌会歌集)			竪帳	1	
84	62				寛政11年2月13日	女房艶書合	宣□		巻子	1	歌合の記録、金庫に別置
85	1654				文政2卯年	新玉津嶌御社 五條殿御社□歌留			竪帳	1	
86	2307					堺浦天満宮法楽百首和歌			竪帳	1	
87	2308					拾遺和歌集			竪帳	1	
88	2328					墨取歌合(和歌集)			竪帳	1	外題「小澤盧庵評三十六番歌合」
89	2870					千代之古道	公枸		竪帳	1	
90	1405					道晃法親王御集 完(和歌集)			竪帳	1	
91	1456					和歌布留の山ふみ			竪帳	1	木版、原刻は寛政八年霜月
92	1408					稽古和哥留			竪帳	1	外題「瓊梧歌集」
93	1409					中秋吟			竪帳	1	
94	1410					源氏歌詞抜書			竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
95	3223					(歌集)			巻子	1	前欠、「右一巻天文二年十一月廿七日に江州石山寺観音奉納」とあり
96	150					所見随筆(歌集)	青山敏文筆		竪帳	1	「随筆」とある和歌集か
97	444					勒句二百首	荷田信舎		竪帳	1	「青楓館印」
98	540					名所倭謌			竪帳	1	
99	542					(公宴御当座和歌御会始等歌会関係綴)			竪綴	1	改装表紙
100	543					御所和歌留	荷田延武		竪帳	1	
101	705				子2月3日	(当座和歌評留書)			竪帳	1	
102	1000					八景(和歌、漢詩収集書)			竪帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
103	1036					新撰和歌巻第一～第四			竪帳	1	
104	1070					池朝菖蒲(和歌講評)			竪綴	1	
105	1117					中山道軒家集 全			竪帳	1	
106	1127					(詞林玉英集等和歌集綴)			竪綴	1	
107	1193					瑞烏楼十二景和歌			竪帳	1	
108	1248					妙法院一品法親王御詠(春海・千蔭などの歌も掲載)			竪帳	1	
109	1268					詠百首和歌	露庭軒宗好		竪帳	1	
110	1273					雪玉集巻第五 恋(和歌集)			竪帳	1	
111	1280					五十番歌合			竪帳	1	「青楓館印」朱印
112	1336					稲荷神社集歌	秦宿禰高家		竪帳	1	上部破損
113	1372					同題三百首			竪帳	1	
114	1459					三玉和歌集類題 春部			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印、奥書に「宝暦七年正月調之／全七冊正預家蔵」
115	1460					三玉和歌集類題 夏部			竪帳	1	木版
116	1461					三玉和歌集類題 秋部			竪帳	1	木版、「正預家蔵」、「青楓館印」朱印
117	1462					三玉和歌集類題 冬部			竪帳	1	木版、「正預家蔵」、「青楓館印」朱印
118	1458					三玉和歌集類題 恋部			竪帳	1	木版、「正預家蔵」、「青楓館印」朱印
119	1463					三玉和歌集類題 雑部上			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
120	1457				元禄9年仲陽	三玉和歌集類題 雑部下	書林武村市兵衛、吉田四郎右衛門		竪帳	1	木版、「全七冊 正預家蔵」、「青楓館印」朱印
121	1442					類題和歌集 巻十二 秋部三			竪帳	1	題箋「類題和歌集 秋之三 巻十二」、「青楓館印」朱印
122	1464					類題和歌集 巻第十三 秋部四			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 秋之四 巻十三」、「青楓館印」
123	1465					類題和歌集 巻第十四 秋部五			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 秋之五 巻十四」、「青楓館印」
124	1466					類題和歌集 巻第十五 秋部六			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 秋之六 巻十五」
125	1467					類題和歌集 巻第十六 冬部一			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 冬之一 巻十六」、「青楓館印」
126	1468					類題和歌集 巻第十七 冬部二			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 冬之二 巻十七」、「青楓館印」
127	1469					類題和歌集 巻第十八 冬部三			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 冬之三 巻十八」、「青楓館印」
128	1438					類題和歌集 巻二十 恋部二			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 恋之二 巻二十」、「青楓館印」
129	1437					類題和歌集 巻廿一 恋部三			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 恋之三 巻廿一」、「青楓館印」
130	1441					類題和歌集 巻廿八 雑部五			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 雑之五 巻廿八」、「青楓館印」
131	1440					類題和歌集 巻廿九 雑部六			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 雑之六 巻廿九」、「青楓館印」
132	1439				元禄16年癸未年孟春上旬	類題和歌集 巻三十 雑部七	御書物師出雲寺和泉掾		竪帳	1	木版題箋「類題和歌集 雑之七終 巻三十」、「青楓館印」
133	1343				明和5年む月7日	清輔朝臣尚歯会記	野田弥五兵衛他1名発行、阿波美馬の人源元寛しるす		竪帳	1	木版、表紙裏「青楓館印」朱印
134	2792				寛政4壬午歳後6月	和歌幣袋序	京都村上勘兵衛他4名		袖珍本	1	木版
135	2243					増補和歌題材抄上之一			竪帳	1	木版
136	1471					増補和歌題林抄 巻上之二			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄 春二」
137	1472					増補和歌題林抄 巻上之三			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄 夏三」

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
138	1473					増補和歌題林抄　巻中之一			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄　秋四」
139	1474					増補和歌題林抄　巻中之二			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄　秋五」
140	1475					増補和歌題林抄　巻中之三			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄　冬六」
141	1476					増補和歌題林抄　巻下之一　恋			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄　恋七」
142	1477					増補和歌題林抄　巻下之二　恋			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄　恋八」
143	1478					増補和歌題林抄　巻下之三　雑			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄　雑九」
144	1479					増補和歌題林抄　巻下之四			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄　雑十」
145	1480					増補和歌題林抄　巻下之五			竪帳	1	木版題箋「増補和歌題林抄　雑十一」
146	1509					類題和歌集　巻第廿二　恋部四			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集　恋部四　」
147	1510					類題和歌集　巻第廿三　恋部五			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集　恋部五　」
148	1511					類題和歌集　巻第廿四　雑部一			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集　雑部一　」
149	1512					類題和歌集　巻第廿五　雑部二			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集　雑部二　」
150	1513					類題和歌集　巻第廿六　雑部三			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集　雑部三　」、「青楓館印」
151	1514					類題和歌集　巻第廿七　雑部四			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集　雑部四　」、「青楓館印」
152	1515					類題和歌集　巻第十九　恋部一			竪帳	1	木版題箋「類題和歌集　雑部五　」、「青楓館印」
153	2899				文政2年2月	類題草野集巻一			竪帳	1	木版、蔵書印「青楓館印」「荷田信義」「羽倉文庫」「荷田信義」
154	2910					類題草野集　春下			竪帳	1	木版、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印、内題なし
155	2911					草野集巻三			竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　夏」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
156	2912					草野集巻四			竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　秋上」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
157	2913					草野集巻五			竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　秋下」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
158	2914					草野集巻六	京都三条通枡屋町出雲寺文治郎他5書肆		竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　冬」、表紙に「青楓館印」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
159	2915					草野集巻七			竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　恋上」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
160	2916					草野集巻八			竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　恋中」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
161	2917					草野集巻九			竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　恋下」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
162	2918					草野集巻十			竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　雑上」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
163	2919					草野集巻十一			竪帳	1	木版、題箋「類題春野集　雑中」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
164	2920				文政5年9月	草野集巻十二	京都三条通枡屋町出雲寺文治郎他5書肆		竪帳	1	木版、題箋「類題春野集雑下」、表紙に「青楓館」「羽倉文庫」、1丁表「荷田信義」朱印
165	1676					長秋詠藻　全(久安のころ崇徳院に百首哥めし候時奉之哥)			竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印
166	1677					壬二集　上(百首　六百番哥合等)			竪帳	1	木版
167	1678					壬二集　中(和歌集)			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印
168	1679					壬二集　下(和歌集)			竪帳	1	「荷田氏珍蔵」朱印
169	1425					類題若葉集上巻			竪帳	1	木版
170	1642					式部史生秋篠月清集一(和歌集)			竪帳	1	木版、外題「月清集全」、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印、朱で訂正あり
171	1342				建保5年臘月下旬	玄旨	藤原朝臣定家		竪帳	1	奥書によれば弘長二年七月二日藤原朝臣為氏が相伝、後世の写、「青楓館印」朱印
172	1384					袖中抄			竪帳	1	
173	1345				観応2年9月9日	新撰髄脳	頓阿		竪帳	1	
174	1096				嘉慶元年十一月	近来風躰　全	堤六左衛門板行		竪帳	1	木版、「青楓館印」朱印1オ墨書「荷田先生考訂、石野縁信蔵」
175	161				寛文3年7月6日	六々私抄(三十六歌仙注釈書)	北村季吟		竪帳	1	奥書「寛文三年七月六日追而考畢季吟、右之書季吟生雖為秘書於俳諧之席令懇望写畢」、「青楓館印」朱印
176	235					無外題(内題「古今伝授切帋口傳條々」)			竪帳	1	「延宝戊午六月三月十八日長孝」の写、松永貞徳本の写
177	1344				正徳6年丙申月正月吉日	懐紙短尺式作法	円甫之		竪帳	1	外題「和歌聞書　全」、奥書によれば永正17年の夏に防州山口で写され、大永7年に写され、正徳六年正月に写された、「青楓館印」朱印
178	1403					詠歌一躰　実隆公　全	光胤		竪帳	1	「青楓館印」朱印
179	1672					竹園抄			竪帳	1	和歌講義書、「荷田氏珍蔵」
180	2323				文化10年夏5月	泊洒筆話(歌論書)			竪帳	1	
181	3533					後撰集正義			竪帳	1	桑門昇蓮、源円の奥書あり
182	159					題會庭訓、耕雲口傳			竪帳	1	合綴、人麿影供の図等あり、和歌の作法書、一部焼け、改装表紙「題会庭訓耕雲口伝」
183	160					詞林采葉抄第十			竪帳	1	裏表紙「廿終」
184	162					竹苑抄			竪帳	1	歌論書、表紙「竹苑抄全、荷田信詮筆跡」
185	166					(歌論書、定家偽書カ)			竪帳	1	改装表紙、躬恒の「住吉乃松を秋風…」の歌から
186	1008					和歌口伝秘書			竪帳	1	朱あり
187	1009					林葉累塵集上			竪帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印
188	1133					和歌秘決	東山樋ノ口氏秀長誌写		竪帳	1	
189	1142					梁塵愚案鈔　乾			竪帳	1	中納言秀郷写、康正元年九月十日権中納言有俊写、大永三年十一月廿日中山黄門龍作写、大永三年十二月十五日侍従三位清原朝臣実賢写
190	1147					組題集(歌の題を集成)			横半帳	1	「大樹義政公御集之題」とあり
191	220				寛永15年3且7日～15日	江月松花衛記(奈良漫遊紀行)	南山隠士松花堂		竪帳	1	松花堂昭乗筆か
192	219				貞享3年陽月上澣日	江戸みちゆき	素室子樸稿		竪帳	1	
193	1258					(元禄十四年霜月江戸下り道中歌日記)			竪帳	1	(冒頭)「むかしおとこ京やすみ…」
194	2990				宝永戊子(5年)中秋	大山紀行(「松の葉」他詠草集)	寓愛水亭写		竪帳	1	叙文は菊池武雄・法橋宗祇が記す、奥書「宝永元年孟秋某日、龍洞林息僖甫識」「宝永改元季甲申七月念八　関長敬」「宝永戊子中秋寓愛水亭写」、「荷田氏珍蔵」
195	304				宝永6年己丑夏6月	富士山行記	養蘭斎艸		竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
196	2873				文政6癸未年9月	秋のやまと路(大和紀行)	鴨縣主秀名		竪帳	1	奥書「文政七年閏八月七日秦宿祢公枸(花押)書写」
197	223					東海道の記 上			竪帳	1	
198	357					霧の中			竪帳	1	火事を題材にした物語／記録
199	1076				寛保壬戌さみたれの日	独枕集序跋 二章	塩尻叟露泊・春水		竪帳	1	
200	2239				永正7年3月	多気窓蛍	村親		竪帳	1	天正8年6月基孝、貞享元年12月校尉隆行、元禄元年11月晦日兵庫忠治、宝暦12年12月12日谷川士清、安永3年6月沢田重渕が写す
201	2272				寛政11年己未春三月	年山紀聞 上			竪帳	1	「林内蔵書」朱印、4～6巻、文政13年冬の写
202	2271				寛政11年己未春三月	年山紀聞 下			竪帳	1	「林内蔵書」朱印、1～3巻、文政13年冬の写
203	1230					千年山集第一(稲荷山関係漢詩和歌集成)			竪帳	1	
204	1393					千年山集 第四		藤原為章	竪帳	1	
205	1420					千年山集 栄花物語考	季弟為宣子儀謹志		竪帳	1	
206	3004				天明6丙午秋	つえちかい(杖に関する考察)	(堀川先生)		竪帳	1	一騎音の序文あり
207	1247				天明8年	十二月倭名并年中行事	従四位上秦宿祢公府(印)		竪帳	1	写
208	1094				寛政4年11月	滑川談	塚田多門		竪帳	1	「青楓館印」、「霊蘭館蔵」とあり
209	2843	1				天保改正近世叢語巻一・巻二	角田九華著 浪花書林松根堂蔵梓		竪帳	1	木版、「明倫館印」「安政七改」「明治十四年改」朱印
210	2843	2				近世叢語巻之三・巻之四	豊後岡 角田簡大可撰		竪帳	1	木版、「明倫館印」「安政七改」「明治十四年改」「廿三年改」朱印
211	2843	3				近世叢語巻之五・巻之六	豊後岡 角田簡大可撰		竪帳	1	木版、「明倫館印」「安政七改」「明治十四年改」「廿三年改」朱印
212	2843	4			文政11年戊子春	近世叢語巻之七・巻之八	豊後岡 角田簡大可撰、書林東都芝神明前岡田屋嘉七他2名		竪帳	1	木版、「明倫館印」「安政七改」「明治十四年改」「廿三年改」朱印
213	2844	1			弘化2年乙巳孟陬月	続近世叢語巻之一・巻之二	豊後岡 角田簡大可撰、発行書肆尚古堂梓		竪帳	1	木版、「明倫館印」「安政七改」「明治十四年改」「廿三年改」朱印
214	2844	2				続近世叢語巻之三・巻之四	豊後岡 角田簡大可撰		竪帳	1	木版、「明倫館印」「安政七改」「明治十四年改」「廿三年改」朱印
215	2844	3				続近世叢語巻之五・巻之六	豊後岡 角田簡大可撰		竪帳	1	木版、「明倫館印」「安政七改」「明治十四年改」「廿三年改」朱印
216	2844	4			弘化2乙巳年秋7月	続近世叢語巻之七・巻之八	豊後岡 角田簡大可撰、書肆京都三條通升屋町出雲寺文次郎他6名		竪帳	1	木版、「明倫館印」「安政七改」「明治十四年改」「廿三年改」朱印
217	2884				天保11年3月11日	あえかひ	公枸(花押)		竪帳	1	写本
218	454					きゝかき(阿仏尼かな諷誦など種々聞書)			竪帳	1	
219	2270					和韓拾遺巻之五			竪帳	1	「青楓館印」朱印
220	513				天保4年癸巳正月	人間万事虚誕計 二編	西村屋与八他1名		竪帳	1	
221	1168					人間万事虚誕計	書物并絵入読本所文永堂大嶋屋伝右衛門		竪帳	1	木版
222	1277					古今奇談莠句冊第三巻			竪帳	1	木版・絵入り
223	467					ちょほくれ(飢饉風刺)			竪帳	1	
224	1390					(物語写)			竪帳	1	綴帖装
225	3012	1				(歌物語抜書)			切紙	1	
226	1257					須磨記			竪帳	1	
227	1027					明衡往来 全			竪帳	1	「青楓館印」「荷田氏珍蔵」朱印

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
228	1667				寛永12年	駿牛絵詞			竪帳	1	奥書「寛永十二年官庫虫払之次御本申出以他毫令書写一校也」、「荷田氏珍蔵」「青楓館印」朱印
229	2236					音読要訣、学書要訣	芳洲雨森東識		竪帳	1	「青楓館印」朱印
230	2324				享保癸丑(18年)之秋	比倫教	門人林師之書、平安書林小川多左衛門他1名		竪帳	1	木版、奥書あり、外題「(欠損)附録詩歌」
231	1373					万波都之			竪帳	1	表紙のみ
232	3340				(近世)	(古典抜書)			折紙	1	後欠、「うねめなりける人のはつきみ過しやよひの比よりおもきいたはり…」
233	1236				享保17年季春	営中曲水宴詩歌	成嶋道筑他		竪帳	1	
234	475				癸巳(安永2年カ)5月	平氏幽暢園記	幽暢園平義綱(頼春水)		竪帳	1	木版、春水が平義綱邸を訪問した記事の漢文、義綱は逢坂の人、服部氏
235	495				天保13年壬寅11月	湯泉碑文会全			竪帳	1	木版
236	2762					艸盧集七編巻之二	彦藩前文学伏水龍公美君玉著、彦藩山根規子円輯、越水瀧有裕君緯校		竪帳	1	木版
237	2921					古今詩刪　序目録			竪帳	1	木版、「青楓館印」「荷田□□」の朱印、奥書「宝暦五年夏五月朔日蔵於書庫、荷田信郷謂之、(朱印)」
238	3226					(伊藤若冲墓誌拓本)	貫名苞撰		鋪	1	こよりあり
239	1304					娼妓説			竪帳	1	
240	1370					色葉字類抄			竪帳	1	
241	1371					色葉字類抄			竪帳	1	
242	1675					伊呂波類字抄二			竪帳	1	外題「色葉字類抄二」
243	1329				寛文8戊戌年2月3日	仮名文字遣事			竪帳	1	
244	1146				寛政7年乙卯9月	重刻発字便蒙解	黄龍源公増定、平野幹国体他同輯、太宰春台監定		竪帳	1	木版、東都書肆小川彦九郎他刊
245	1095				寛政8丙辰年3月	ふり分かみ	京都二條通富小路東へ入町吉田四郎右衛門	芦庵	竪帳	1	木版
246	1181					(枕語列記帳)			竪帳	1	
247	1284					本朝和字			竪帳	1	
248	1213					拾菓抄、宴曲抄			竪帳	1	
249	2213					(謡曲集)			横半帳	1	葛城・鍾馗・富士太鼓等、「青楓館印」朱印
250	2214					(謡曲集)			横半帳	1	白楽天・実盛・熊野等、「青楓館印」朱印、東羽倉家蔵
251	2215					(謡曲集)			横半帳	1	是我意・三井寺・芦刈等、「青楓館印」朱印
252	2238					一調譜	子晟		横半帳	1	「三峯」朱印
253	1170					松風乃集　中(小謡)			竪帳	1	表紙に「青楓館印」「羽倉文庫」朱印
254	1173					忠信　古ハ空腹ト云(謡本)			竪帳	1	朱にて書き込みあり
255	1313				文政6癸未年仲春	観世小謡萬声楽	山本長兵衛		竪帳	1	木版

E—4　近代・印刷物

E－4－1　春満伝・目録稿・東丸神社関係

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	6				明治27年3月3日	東丸大人肖像	肖像車折神社富岡百錬、歌稲荷神社宮司近藤芳介		軸	1	
2	3646					(東丸絵文字)			切紙	1	
3	2961	1				荷田東丸命(東丸神社神璽・画像木版)			切紙	1	木版・朱印
4	2961	2				(荷田春満文字絵画像)			切紙	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
5	387					(荷田東丸命、神像図)			一枚	1	東丸神璽神印有
6	2965					(荷田春満大神札及御神像掛軸)			掛軸	1	御神像木版
7	3280					(春満書状複製)	羽倉斎(花押)	羽倉駿河守様他1名	続紙	1	石版
8	390	1				(宝明生画絵馬版画)	府社東丸神(朱印)府社東丸神社		一枚	1	
9	390	2				(宝明生画絵版画)			一枚	1	
10	389					詠遠村雪和歌(荷田東丸和歌)	伏見稲荷神社境内浪花館		一枚	1	印刷(コロタイプ)
11	3537				明治7甲戌年2月23日	明治六年十二月一日三大人御霊祭之節祝詞并歌	京都府貫族士族教導職十三級試補羽倉信義(印)		竪帳	1	青罫紙使用、「西久保広町二番地本居豊穎先生塾ニ於テ写」
12	339				明治34年5月	羽倉在満大人百五十年祭献歌詠歌集	六代孫羽倉光表		竪帳	1	石板
13	3651				明治42年4月20日刊	羽倉春満大人畧伝(遺稿目録)	府社東丸神社社司羽倉信義		竪帳	1	活版
14	388					羽倉春満大人略傳			断簡	1	表紙、扉絵のみ
15	3657				昭和3年7月2日	荷田春満並門人遺墨集(展覧会記録并資料翻刻綴)			竪帳	1	罫紙使用
16	3658				(昭和3年7月)	遺墨集展覧会書類綴(案内発送・展覧目録・芳名簿等)			竪帳	1	罫紙使用、一部孔版
17	2805				昭和4年6月15日印刷	府社東丸神社由緒並荷田東丸大人略伝	発行兼編輯人府社東丸神社社司羽倉信真		竪帳	1	活版、「非売品」、「尊王愛国荷田会設立の趣旨(書)」「学徳成就御守授与ス」という一紙がそれぞれ挟み込まれている、発行は昭和4年6月20日
18	1020	10			昭和8年2月11日	荷田家並荷田春満	荷田光峯稿		竪綴	1	謄写版
19	1020	16			昭和11年	(春満二百年祭和歌献納案内等記録)	京都市伏見稲荷府社東丸神社社務所		竪帳	1	仮綴、原稿用紙使用
20	1074				昭和11年8月5日	荷田春満大人の一生	編輯兼発行人北村和三郎、発行人府社東丸神社社務所		刊本	1	活版
21	3543				昭和11年8月8日	荷田春満大人遺墨展観目録控			竪帳	1	赤罫紙・鉛筆使用、「荷田春満大人二百年祭記念展観品目録」同三通あり
22	2948				(近代)	荷田春満大人二百年祭記念扇の説明(扇の和歌説明文)			切紙	17	活版、封筒上書「東丸神社々務所介羽倉信真様」
23	3485				(近代)	増補荷田春満大人の一生(原稿)	伏見稲荷下社社務所発行		竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、赤鉛筆にて校正、「お茶屋と春満旧宅」パンフレット挿入
24	3488				(近代)	(荷田春満伝記目次)			竪紙	1	二冊合綴、原稿用紙使用、前半は万年筆、後半は鉛筆書
25	3355				(近代)	荷田春満大人年譜			仮綴	1	活版年譜に原稿用紙(万年筆)を貼り増補
26	1020	2			(近代)	(春満略伝講話原稿)			原稿用紙	8	
27	1434				昭和42年4月15日	羽倉春満大人畧伝	発行兼編輯人府社東丸神社社司荷田信義		竪帳	1	活版
28	1387				昭和42年4月20日	羽倉春満大人畧伝	発行兼編輯人府社東丸神社社司荷田信義		竪帳	1	印刷
29	3542					春満遺稿目録控			竪帳	1	青罫紙・原稿用紙・万年筆使用、三宅清の手紙あり
30	3451				(近代)	(文書目録断簡)			罫紙	3	赤罫紙、「瑚璉集上」など
31	3452				(近代)	稲荷神社之部(文書目録)			竪帳	1	「羽倉青楓館」原稿用紙使用
32	3664				(近代)	(書画軸目録)			竪帳	1	荷田氏蔵書用箋、一紙挿入
33	3539				(近代)	(春満稿本等写真帳)			横帳	1	春満展のものか、「創学校啓」その他の写真
34	3666				(近代)	学徳成就・東丸神社参拝之栞(近代原稿)			竪帳	1	原稿用紙使用、ペン書
35	1075					(絵はがき)	京都市伏見稲荷山麓府社東丸神社		葉	4	荷田春満大人之像等

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
36	2808				(近代)	(荷田春満絵はがきセット)	京都市伏見稲荷山麓府社東丸神社		葉	4	4枚1セットでケース入
37	1386					(義士帖所載羽倉斎書状絵はがき)			葉	1	未使用

E－4－2 春満著作等写本

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3620				(近代)	古事記上巻(近代写本)			竪帳	1	こより脱
2	3599				(近代)	古事記中巻(近代写本)			竪帳	1	「永松尋常小学校」原稿用紙、万年筆、仮綴
3	3600				(近代)	古事記中巻(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、ペン書、仮綴
4	3605				(近代)	古事記下巻(近代写本)			竪帳	1	「永松尋常小学校」原稿用紙、万年筆
5	3545					古事記箚記上中下全部(近代写本)			竪帳	1	朱筆書入あり
6	3648				(近代写)	出雲風土記稿			竪帳	1	原稿用紙を貼込み校定
7	3670				(近代)	出雲風土記			竪帳	1	原稿用紙使用、金庫に別置
8	3638				(近代)	荷田春満出雲風土記考	羽倉信真編		竪帳	1	
9	2756					日本書紀仮字			竪帳	1	
10	3399				(近代)	日本紀撰者之事(近代写本)			竪帳	1	「次億岐三子洲」まで(『新編荷田春満全集第二巻』P34に当たる)
11	3434	11			(近代)	日本書紀神代巻抄(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
12	3641	15			(近代)	日本書記神代巻箚記巻第一上			竪帳	1	朱による訂正多し
13	3434	12			(近代)	日本書紀神代巻箚記第一中(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
14	3434	13			(近代)	日本書紀神代巻箚記第一下(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
15	3434	14			(近代)	日本書紀神代巻箚記第二上(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
16	3434	15			(近代)	日本書紀神代巻箚記第二下(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
17	3434	16			(近代)	日本書紀神代巻箚記別本(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
18	3416				(近代)	秘記　五之内　神代巻箚記初(近代写本)			竪帳	1	
19	3464				(近代)	日本書紀巻第四(近代写本)			竪帳	1	B4版400字詰原稿用紙2つ折、万年筆使用、仮名日本紀を平仮名表記
20	3465				(近代)	神代師説聞書(近代写本)			竪帳	1	B4版400字詰原稿用紙2つ折、万年筆使用
21	3466				昭和13年11月17日～	神代巻古伝和解下(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
22	3467				(近代)	春満先生著述仮名日本紀第三(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
23	3468				(近代)	仮名日本書紀巻第十(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
24	3608	1			(近代)	神代師説聞書(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、括り紐あり、「信真」朱印あり
25	3608	2			(近代)	東丸神代答記　神代巻疑問條々(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
26	3608	3			(近代)	日本書記問答抄巻第一(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、ペン書あり、朱で「一巻」
27	3608	4			(近代)	日本書記神代巻箚記巻第一上(刊本校合)			冊子	1	活版、朱の書入、古事記箚記もあり
28	3608	5			(近代)	日本書記神代紀訓釈伝類語下(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙使用、五十音順
29	3583				(近代)	秘記　五之内　神代巻箚記初(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆
30	3584				(近代)	(神代記訓釈伝上巻)(近代写本)			竪帳	1	(朱)「三ノ内ノ弐」、万年筆原稿用紙使用
31	3585				(近代)	(神代記訓釈伝上巻)(近代写本)			竪帳	1	(朱)「三ノ内ノ参」、万年筆原稿用紙使用、仮綴
32	3590				(近代)	宇部(神代巻訓釈伝上巻)(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆、朱で訂正
33	3433	1			(近代)	神号訓釈伝(近代写本)			竪帳	1	表紙「校了」(朱印)、朱筆にて訂正
34	3586				(近代)	東丸神談箚記神代巻疑問条々(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
35	3422				(近代)	日本書紀神代巻訓釈伝類語上(近代写本)			冊子	1	奥書「大正十年五月二十九 写校正了 借用青楓館襲蔵東丸翁自筆校本写畢 杉庵識」
36	3423				(近代)	日本書紀神代巻訓釈伝類語(近代写本)			竪帳	1	外題は「日本書紀神代紀訓釈伝類語下」、表紙に「校了」、信真朱印あり
37	3601				(近代)	(日本書記写本)			竪紙	9	「永松尋常小学校」原稿用紙、ペン書
38	3580				(近代)	日本書紀巻第三巻童子問不次雑事			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙
39	3581				(近代)	神代紀 家蔵 訓釈伝類語上			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、ペン書
40	3433	2			(近代)	日本書紀問答抄(近代写本)			竪帳	1	「弐拾九枚」(万年筆)、朱筆にて校正
41	3415				(近代)	東丸神代答記(近代写本)			竪帳	1	朱書で書入、表紙に「スミ」と鉛筆書きあり、表紙右上に「六巻」とあり
42	3610				(近代)	日本書記神代巻訓釈伝類語			竪帳	1	ペン書、原稿用紙
43	3619				(近代)	日本書記注釈(近代写本)			竪紙	28	包紙入
44	3621				(近代)	神号訓釈伝(近代写本)			竪帳	1	青色原稿用紙使用、朱による書入、割付あり、付札あり
45	3624				(近代)	日本書記巻三古語集釈			竪紙	5	
46	584					神代師説聞書			竪帳	1	鉛筆の書き込みあり、近代写本
47	594					日本書紀語釈稿、日本書紀童子問			竪帳	1	2冊合綴
48	3365				(近代)	万葉童子問巻第二ノ中弐(近代写本)			竪帳	1	
49	3366				(近代)	万葉集問答巻三ノ上甲(近代写本)			竪帳	1	「五冊ノ中第一」
50	3367				(近代)	万葉集問答巻三ノ上乙(近代写本)			竪帳	1	「五冊之中第二」(朱)
51	3368				(近代)	万葉集問答巻三ノ下甲(近代写本)			竪帳	1	「五冊ノ中第三」(朱)
52	3369				(近代)	万葉問答巻三ノ下乙(近代写本)			竪帳	1	「五冊ノ中第四」(朱)
53	3370				(近代)	万葉問答巻四(近代写本)			竪帳	1	
54	3371				(近代)	万葉童蒙抄 本集第六巻全部 百七拾九枚			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
55	3372				(近代)	万葉集童蒙抄 本集第七巻弐冊ノ中上 百拾六枚			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
56	3373				(近代)	万葉集童蒙抄 本集第七巻弐冊ノ中下 百四拾六枚			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
57	3374				(近代)	万葉童蒙抄 第九巻 参冊ノ中第参 四拾八枚			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
58	3375				(近代)	万葉童蒙抄 本集第八巻二冊ノ中壱 百二枚			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
59	3376				(近代)	万葉童蒙抄 第八巻 二冊ノ中弐 百五枚			竪帳	1	朱筆で訂正、割付、裏表紙「昭和二・四・十六校了」
60	3377				(近代)	万葉童蒙抄 本集第十巻参冊ノ参 百拾枚			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
61	3378				(近代)	童蒙抄 本集第十一巻 弐冊ノ中第壱 百七拾枚			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
62	3382				(近代)	(万葉童蒙抄 書入本 巻第十五 近代写本)			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
63	3379				(近代)	(万葉集童蒙抄 書入本 巻第三十三 近代写本)			竪帳	1	朱筆で訂正、割付、「本集第拾弐巻初」
64	3380				(近代)	(万葉集童蒙抄 書入本 巻第三十四 近代写本)			竪帳	1	朱筆で訂正、割付、表紙「第十二巻弐冊ノ中第弐百弐拾枚」
65	3381				(近代)	(万葉集童蒙抄 書入本 巻第三十六近代写本)			竪帳	1	朱筆で訂正、割付、表紙「本集第十三巻二冊ノ中第壱」
66	3557				(近代)	万葉集童蒙抄巻第二十五(近代写本)			竪帳	1	本集第十巻、朱筆書入あり、「昭和二・二・十三校了」
67	3558				(近代)	万葉童蒙抄巻第六(近代写本)			竪帳	1	本集巻三、朱筆書入あり
68	3559				(近代)	万葉童蒙抄(近代原稿)			竪帳	1	「本集第十巻参冊ノ中弐」「昭和六年三月廿日校了」
69	3640	1			(近代)	万葉集抄第三十九巻(近代写本)			竪帳	1	3640-1～18は紐・包紙で一括、包紙上書「荷田全集原稿五」、「本集第十四三冊ノ中第一」、朱筆書入あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
70	3640	2			(近代)	万葉童蒙抄第四十二巻(近代写本)			竪帳	1	「(本集)第十五巻、弐冊ノ中第壱冊」、朱筆・筆書入あり
71	3640	3			(近代)	万葉童蒙抄第四十四巻(近代写本)			竪帳	1	「本集第十六巻、弐冊ノ中第壱」、朱筆・ペン書入あり
72	3640	4			(近代)	萬葉童蒙抄(近代写本)			竪帳	1	「本集第十三巻、二冊ノ中第弐」、「廿二ノ二」「百拾七枚」
73	3640	5			(近代)	萬葉童蒙抄(近代写本)			竪帳	1	「本集第十四巻、二冊ノ中第二、九拾四枚」
74	3640	6			(近代)	萬葉童蒙抄第四十三巻(近代写本)			竪帳	1	「十五巻弐冊ノ中」
75	3640	7			(近代)	萬葉童蒙抄(近代写本)			竪帳	1	「五巻弐冊ノ中第一冊七拾枚」
76	3640	8			(近代)	萬葉童蒙抄巻第八(近代写本)			竪帳	1	「(本集)四巻、参冊ノ内、四巻ノ第壱」ペン・朱筆書入あり
77	3640	9			(近代)	万葉童蒙抄巻第二十三(近代写本)			竪帳	1	「(本集)九巻、三冊ノ中第二」ペン・朱筆書入あり
78	3640	10			(近代)	萬葉童蒙抄(近代写本)			竪帳	1	「第九巻、三冊ノ中第一」、朱筆書入あり
79	3640	11			(近代)	万葉童蒙抄第四十六巻大尾(近代写本)			竪帳	1	「萬葉本集巻第十七」、朱で書入あり
80	3640	12			(近代)	万葉童蒙抄第四十五(近代写本)			竪帳	1	「本集第十六巻弐冊ノ中第弐」、朱で書入あり
81	3640	13			(近代)	万葉童蒙抄第十三(近代写本)			竪帳	1	「本集第五巻弐冊中第弐」、朱で書入あり
82	3640	14			(近代)	万葉童蒙抄巻第七(近代写本)			竪帳	1	「本集第三巻四冊ノ中第四」、朱で書入あり、「校了」の印あり
83	3640	15			(近代)	万葉集巻第三(近代写本)			竪帳	1	「本集第三巻四冊ノ中第壱」、朱で書入あり、「校了」の印あり
84	3640	16			(近代)	万葉童蒙抄巻第九(近代写本)			竪帳	1	「本集第四巻参冊ノ中第弐」、朱で書入あり、「校了」の印あり
85	3640	17			(近代)	万葉童蒙抄巻第十(近代写本)			竪帳	1	「本集第四巻参冊ノ中第参」、朱で書入あり
86	3640	18			(近代)	万葉童蒙抄巻第五(近代写本)			竪帳	1	「本集第参巻四冊ノ中第弐」、朱で書入あり、「万葉集童蒙抄本集第三巻四冊ノ中参」表紙のみあり
87	3434	8			(近代)	万葉童蒙抄　本集第弐巻参冊ノ中第壱　八十六枚(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
88	3434	9			(近代)	万葉童蒙抄　本集第弐巻参冊ノ中弐　壱百弐枚(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
89	3434	10			(近代)	万葉童蒙抄　本集第弐巻参冊ノ中参　壱百四拾弐枚(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
90	3547				(近代)	万葉童蒙抄(近代写本)			竪帳	1	朱筆書入あり
91	3383				(近代)	万葉集和仮名訓巻第七(近代写本)			竪帳	1	一部原稿用紙切紙貼付あり、朱書入は赤色万年筆使用、表紙に「六十二枚」、原稿用紙・包紙あり
92	3384				(近代)	万葉集和仮名訓巻第九(近代写本)			竪帳	1	一部原稿用紙貼付あり、朱書入は赤色万年筆使用、表紙に「四十四枚校訂了」
93	3385				(近代)	万葉集和仮名訓　巻第十(近代写本)			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
94	3386				(近代)	万葉集巻第十一和仮名訓・万葉集和仮名訓巻第十二(近代写本)				1	
95	3387	1			(近代)	万葉集和仮名訓巻第十三(近代写本)			竪帳	1	
96	3387	2			(近代)	万葉集和仮名訓巻第十三(近代写本)			竪帳	1	朱筆で訂正、割付
97	3388				(近代)	万葉集巻十一和仮名訓(近代写本)			竪綴	1	原稿用紙28枚1綴、万年筆使用
98	3426				(近代)	万葉集聞書(近代写本)			竪帳	1	表紙「暗丸信名講説、原本筆者不明」、「参拾参枚」(万年筆)、「校了」(朱印)
99	3427				(近代)	万葉集【私抄】(聞書)(近代写本)				1	表紙「弐拾九枚」(万年筆)、「校了」(朱印)、校訂あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
100	3428				(近代)	万葉集抜抄(近代写本)			竪帳	1	表紙「拾枚」朱筆、朱筆にて訂正あり
101	3429				(近代)	万葉書例抜捽(近代写本)			竪帳	1	表紙「九枚」、朱筆にて訂正あり
102	3430				(近代)	万葉集巻七(近代写本)			竪帳	1	荷田宿祢信盛訓
103	3431				(近代)	万葉集訓釈　二冊合本(近代写本)				1	表紙「合本」(朱筆)、「(五十七枚)」、訓点訂正割付あり
104	3424				(近代)	万葉集巻四(近代写本)			竪帳	1	表紙「校了」、朱筆にて訂正あり、「抄」「弐冊ノ中」は朱書
105	3425				(近代)	万葉集注釈(巻十四、十五、十七、十八、十九、二十)(近代写本)			竪帳	1	
106	3469				(近代)	万葉集　歌人録　東丸訓点(近代写本)			竪帳	1	表紙「羽倉」朱印あり、原稿用紙、万年筆使用
107	3471				(近代)	万葉巻七(箚記)			竪帳	1	243の筆者本
108	3472				(近代)	万葉集(第二箚記)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
109	3473				(近代)	万葉集私抄(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
110	3474				(近代)	万葉問答譬喩譌(別本万葉問答)(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、朱筆で訂正
111	3475				(近代)	万葉問答巻一(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、朱筆で訂正割付
112	3476				(近代)	万葉問答巻二(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、朱筆で訂正割付、表紙に「羽倉」「和鼎」「校了」と朱書
113	3477				(近代)	万葉問答三(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、朱筆で訂正割付、表紙に「羽倉」「和鼎」「校了」と朱書
114	3478				(近代)	万葉問答四(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、朱筆で訂正割付、表紙に「羽倉」「和鼎」「校了」と朱書
115	3479				(近代)	万葉問答五(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、朱筆で訂正割付、表紙に「羽倉」「和鼎」「校了」と朱書
116	3480				(近代)	万葉集巻七仮名字訓(近代写本)			罫紙	##	B4版400字詰原稿用紙2つ折、万年筆使用、朱で訂正
117	3481				(近代)	万葉集巻第十(仮名字訓)(近代写本)			竪帳	1	仮綴、原稿用紙、万年筆使用、朱筆で訂正
118	3482				(近代)	万葉集巻第十二(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
119	3499				(近代)	万葉集訓釈　(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆・鉛筆使用、表紙朱印「羽倉」
120	3500				(近代)	万葉改訓抄其一　巻四・巻十・巻十一(近代写本)			竪帳	1	朱や青で書込あり、表紙に「弐冊ノ中」(朱)、「全集第三巻」(朱)「校了終」(青万年筆)、「晩年」(鉛筆)、「真仁」・「北村」の印あり
121	3501				(近代)	萬葉改訓抄其二　巻十二・巻十三・巻十六(近代写本)			竪帳	1	朱「弐冊ノ中」
122	3502				(近代)	万葉集訓釈(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙・万年筆使用、表紙朱印「真仁」「信真」、朱筆書入、信真校了印あり
123	3503				(近代)	万葉集諸説抜萃、同第一巻当流問答、同名所抜萃(近代写本)			竪帳	1	表紙に「原本信名自筆」
124	3504				(近代)	万葉集抄七・八・九　弐冊ノ中(近代写本)			竪帳	1	
125	3592				(近代)	万葉集僻案抄【巻之一】(上巻)(完本校合)			冊子	1	活版、朱筆他で訂正あり、封筒(羽倉信一殿、国民文庫刊行会)
126	3492				(近代)	万葉集僻案抄巻之一(荷田春満全集　第三巻　校訂原稿)			冊子	1	活版
127	3493				(近代)	万葉集童子問(荷田春満全集　第三巻　校訂原稿)			冊子	1	活版
128	3641	1			(近代)	万葉集箚記第十七巻(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付、表紙に「スミ」、3641-1～33は紐・包紙で一括、
129	3641	2			(近代)	万葉集箚記第十九巻(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付
130	3641	3			(近代)	万葉集箚記第十八巻(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付
131	3641	4			(近代)	万葉集箚記第十廿巻(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付
132	3641	5			(近代)	万葉集童子問巻第三ノ中壱(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
133	3641	6			(近代)	万葉集童子問巻第三中参(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付
134	3641	7			(近代)	万葉集童子問　本巻第二巻ノ中壱　五冊ノ中第壱(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付、「校了」の朱印あり
135	3641	8			(近代)	万葉集巻第三童子問(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付
136	3616				(近代)	万葉集巻第十三(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、朱で書入あり、「荷田宿祢信盛訓」とあり
137	3613				(近代)	万葉集八九			竪帳	1	原稿用紙、鉛筆書
138	3618				(近代)	万葉集巻第九(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、朱で書入あり、「荷田宿祢信盛訓」とあり、改装してあり「万葉仮名字訓九」とあり
139	3645				(近代)	万葉集(寅ノ二月廿七日信名講談)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆、285の筆写
140	1066				(近代)5年5月24日	古今倭歌集序			竪綴	1	享和3年閏正月5日のものの写、羽倉荷田楓廼屋朱色原稿用紙使用
141	472				明治44年7月	古今集序文漫書のしるへ	信義		竪帳	1	上野正聡写
142	1020	7				古今和歌集序(断簡)			竪紙	1	竪帳断簡
143	1020	12			(近代)	古今秘伝集(蔵書目録)			竪帳	1	仮綴、原稿用紙使用
144	3417				(近代)	古今六帖(近代写本)			竪帳	1	表題に桃色鉛筆にて「(一)」
145	3418				(近代)	古今六帖(近代写本)			竪帳	1	表題に桃色鉛筆にて「(一)」
146	3419				(近代)	古今和歌六帖　東丸考			竪帳	1	朱書で書入、表題に朱筆にて「未校訂」「目録」
147	3438				(昭和)	古今和歌集聞書(近代写本)			竪帳	1	「永松尋常小学校」原稿用紙、万年筆使用、「真仁」と印あり
148	3440				(昭和)	古今和歌集　第八　離別(近代写本)			竪帳	1	「永松尋常小学校」原稿用紙、万年筆使用、「真仁」と印あり
149	3441				(昭和)	古今和歌集巻第九　羇旅歌(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、表題に「真仁」と朱印あり
150	3442				(昭和)	古今和歌集巻第十　物名(近代写本)			竪帳	1	「永松尋常小学校」原稿用紙、万年筆使用、「真仁」と印あり
151	3443				(昭和)	古今和歌集巻第十一　恋一(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、表題に「真仁」と朱印あり
152	3444				(昭和)	三部書口伝(近代写本)			竪帳	1	「永松尋常小学校」原稿用紙
153	3445				(昭和)	和歌十躰(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、表題に「真仁」と朱印あり
154	3446				(昭和)	古今和歌集見聞愚記抄(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、表題に「真仁」と朱印あり
155	3447				(昭和)	僻案口決見聞(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、表題に「真仁」と朱印あり
156	3448				(昭和)	口訣一(近代写本)			竪帳	1	「永松尋常小学校」原稿用紙、「真仁」と印あり、「筆者別人」とあり
157	3449				(昭和)	口訣二(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、表題に「真仁」と朱印あり
158	3450				(昭和)	古今和歌安秘抄(近代写本)			竪帳	1	「永松尋常小学校」原稿用紙、表紙に「真仁」と印あり、
159	3462				(近代)	古今和歌集　自巻第一春至第三夏(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
160	3463				(近代)	古今和歌集　四・五・六(近代写本)			竪帳	1	B4版400字詰原稿用紙2つ折、万年筆使用
161	3505				(近代)	釈古今和歌集序(近代写本)			竪帳	1	表紙に「校了」とあり
162	3506				(近代)	古今和歌集自第一春至巻第三夏(釈古今和歌集)(近代写本)				1	表紙に「校了」とあり
163	3507				(近代)	古今和歌集四・五・六(釈古今和歌集)(近代写本)			竪帳	1	
164	3508	1			(近代)	古今和歌集七(釈古今和歌集)(近代写本)			竪帳	1	
165	3508	2			(近代)	古今和歌集巻　第十二恋二(近代写本)			竪帳	1	差紙あり
166	3509				(近代)	古今和歌集巻　第十三恋三(近代写本)			竪帳	1	
167	3510				(近代)	古今和歌集巻　第十四恋四(近代写本)			竪帳	1	
168	3511				(近代)	古今和歌集　巻第十五恋五(近代写本)			竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
169	3512				(近代)	古今和歌集 巻第十六哀傷(近代写本)			竪帳	1	
170	3513				(近代)	古今和歌集 巻第十七雑上(近代写本)			竪帳	1	
171	3514				(近代)	古今和歌集 巻第十八雑下(近代写本)			竪帳	1	
172	3515				(近代)	古今和歌集 巻第十九雑躰(近代写本)			竪帳	1	
173	3516				(近代)	古今和歌集巻第二十(近代写本)			竪帳	1	
174	3636				(近代)	古今集序註(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆、差紙あり
175	3637	1			(近代)	古今和歌集巻第十三恋三(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆、解題「古今抄」、くくり紐あり
176	3637	2			昭和19年9月	古今抄	嘱託南俊三謄写す			1	
177	3644				(近代)	古今和歌集巻第十二恋二(注釈)			竪帳	1	仮綴、「永松尋常小学校」原稿用紙使用、万年筆、「信真」朱印
178	2612				(近代)	古今和歌集見聞愚記抄			竪帳	1	
179	2613				(近代)	僻案口決見聞			竪帳	1	古今集関係
180	2614				(近代)	三部書口伝			竪帳	1	古今伝授関係
181	2615				(近代)	古今和歌安秘抄			竪帳	1	ここまで箱15-2(1567-1から)
182	3456				(近代)	[ ]葉集全(近代写本)			竪帳	1	上部破損、古今和歌集注釈
183	2609				(近代)	口訣一			竪帳	1	和歌関係
184	2610				(近代)	口訣二			竪帳	1	和歌関係、奥書「寛文十一年五月吉祥日慮笑庵見林」
185	2611				(近代)	和歌十体			竪帳	1	奥書に「承久元年七月二日藤原朝臣為家在判」とあり、その後の伝来が記され、末尾に享保十一年春柏亭□直條の奥書あり
186	1020	3			(近代)	(和歌注釈)			原稿用紙	11	後欠か
187	1020	25			(近代)	(和歌集断簡)			竪紙	1	竪帳断簡1枚、謄写版
188	1020	26			(近代)	(和歌注釈断簡)			原稿用紙	2	
189	3641	17			(近代)	百人一首解			竪帳	1	
190	2806				(近代)	東丸仮名遣百人一首			竪帳	1	近代の写本、原本は「天明五年仲夏 稲荷中社神主親臣」、罫紙使用鉛筆
191	3434	1			(近代)	伊勢物語童子問 壱 全八冊(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付、3434-1～16は「荷田全集原稿本」と記された紙に包まれていた
192	3434	2			(近代)	伊勢物語童子問 弐 九十四枚(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
193	3498				(近代)	伊勢物語童子問 参(近代写本)			竪帳	1	「印刷活字同前巻」と朱書、朱の書き込みあり
194	3434	3			(近代)	伊勢物語童子問 四 七拾参枚(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
195	3434	4			(近代)	伊勢物語童子問 伍 五十二枚(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
196	3434	5			(近代)	伊勢物語童子問 陸 九拾四枚(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
197	3434	6			(近代)	伊勢物語童子問 七(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
198	3434	7			(近代)	伊勢物語童子問 八(近代写本)			竪帳	1	朱筆訂正割付
199	3598				(近代)	職該上巻			竪帳	1	「羽倉青楓館」「永松尋常小学校」原稿用紙、万年筆
200	30	6				職該下巻			竪帳	1	原稿用紙使用、金庫に別置
201	30	7				(職原抄原稿断簡一括)			原稿用紙	1	原稿用紙使用、27枚、金庫に別置
202	3413	2			(近代)	職原抄註(近代写本)			竪帳	1	
203	3641	10			(近代)	令義解箚記壱(近代写本)			竪帳	1	「校了」印あり
204	3641	11			(近代)	令義解箚記弐(近代写本)			竪帳	1	「校了」印あり
205	3641	12			(近代)	令義解箚記参(近代写本)			竪帳	1	「校了」印あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
206	3641	13			(近代)	令義解箚記四(近代写本)			竪帳	1	「校了」印あり
207	3641	14			(近代)	令義解箚記五(近代写本)			竪帳	1	「校了」印あり、朱で訂正
208	3395				(近代)	戸令□解(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正
209	3420				(近代)	偽類聚三代格考　上(近代写本)			竪帳	1	表紙「信真」「校了」朱印、「四十七枚」
210	3421				(近代)	偽類聚三代格考　下(近代写本)			竪帳	1	表紙「信真」「校了」朱印、「六十六枚」
211	3389				(近代)	続日本紀抜粋二冊之内(近代写本)			竪帳	1	「全集ニ入レズ」(付箋)
212	3390				(近代)	続日本紀抜粋二冊之内(近代写本)			竪帳	1	「全集ニ入レズ」(付箋)
213	2905					続日本紀			竪帳	1	青罫紙使用、朱筆あり、奥に鉛筆による加筆あり
214	3361				(近代)	日本三代実録箚記　自第壱至十三(近代写本)			原稿用紙	148	B4版400字詰原稿用紙2つ折、万年筆使用
215	3362				(近代)	日本三代実録箚記　自第十四至廿二(近代写本)			原稿用紙	117	B4版400字詰原稿用紙2つ折、万年筆使用
216	3363				(近代)	日本三代実録箚記　自第弐拾三至三十三(近代写本)			原稿用紙	134	B4版400字詰原稿用紙2つ折、万年筆使用
217	3364				(近代)	日本三代実録箚記　自第三十四至五十巻大尾(近代写本)			原稿用紙	300	B4版400字詰原稿用紙2つ折、万年筆使用
218	3517				(近代)	日本三代実録箚記　自第壱至十三(近代写本)				1	
219	3518				(近代)	日本三代実録箚記　自第十四至廿二(近代写本)			竪帳	1	
220	3519				(近代)	日本三代実録箚記　自第弐十至三十三(近代写本)			竪帳	1	
221	3520				(近代)	日本三代実録箚記　自第三十四至五十巻大尾(近代写本)			竪帳	1	
222	3568				(近代)	日本後紀批考(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆、「校了」とあり
223	3617				(近代)	(三代実録等写・近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、紙片挿入
224	3639				(近代)	日本三代実録考			竪帳	1	「羽倉青楓館」原稿用紙
225	3412	1			(近代)	国語類聚　安ノ部(近代写本)			竪帳	1	書入本、未校訂
226	3412	2			(近代)	国語類聚　伊ノ部(近代写本)			竪帳	1	書入本
227	3412	3			(近代)	国語類聚(近代写本)			竪帳	1	別本
228	3413	1			(近代)	図書字類　寮類・司類(近代写本)			竪帳	1	
229	3439				(近代)	国語類聚　其一(近代写本)			竪帳	1	青罫紙、万年筆使用
230	3577				(近代)	四季訓釈伝			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、ペン書
231	3578				(近代)	四季国語伝、四方国語伝			竪帳	1	
232	3579				(近代)	真名仮名音義伝稿			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、ペン書
233	3589				(近代)	(語釈書)			竪帳	1	万年筆原稿用紙使用、仮綴、冒頭に「正徳二年八月九月起筆」とあり
234	3630				(近代)	東丸改音訓抄(近代写本)			竪帳	1	「(万葉集巻第四)(相聞)」、原稿用紙・万年筆・鉛筆使用、朱筆書入あり
235	3631				(近代)	東丸改訓抄(近代写本)			竪帳	1	「(万葉集巻第十)」、原稿用紙・万年筆・鉛筆使用、朱筆書入あり
236	3632				(近代)	東丸改正音訓抄(近代写本)			竪帳	1	「(万葉集巻第十一)」、原稿用紙・万年筆・鉛筆使用、朱筆書入あり
237	3633				(近代)	東丸改正音訓抄(近代写本)			竪帳	1	「(万葉集巻第十三)」、原稿用紙・万年筆・鉛筆使用、朱筆書入あり
238	3634				(近代)	東丸改音訓抄(近代写本)			竪帳	1	「(万葉集巻第十三雑歌)」、原稿用紙・万年筆・鉛筆使用、朱筆書入あり
239	3635				(近代)	東丸改音訓抄(近代写本)			竪帳	1	「万葉集(巻第十八)」、原稿用紙・万年筆・鉛筆使用、朱筆書入あり
240	168	1				語釈			竪帳	1	出版用原稿か
241	168	2				神国音義第一(原稿)			竪帳	1	羽倉青楓館の原稿用紙
242	3608	6			(近代)	(語釈書)				1	五十音順、ペン書、青葉書房用箋

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
243	3608	7			(近代)	(語釈書)			竪帳	1	五十音順、ペン書、青葉書房用箋
244	3643				(近代)	(語釈)			竪帳	1	「羽倉青楓館」原稿用紙、ペン書
245	2755				(近代)	(用語解説断簡)			原稿用紙	1	万年筆使用、鉛筆にて抹消あり
246	3566				(近代)	語釈其一(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆
247	3435				(近代)	語釈草稿の春満大人詠草(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆
248	2752				(近代)	春葉集			竪綴	1	活版、朱万年筆にて書入あり、563～604頁
249	2757				大正2年3月	増補春葉集	従八位荷田信義		竪帳	1	
250	1001				大正2年3月	増補春葉集 荷田大人詠本末	従八位荷田信義しるす		竪帳	1	原稿用紙使用
251	3400				(近代)	歌林類葉巻第一(近代写本)			竪帳	1	表紙「歌林類葉」「ア部ウ部」(鉛筆)、「未校訂」(朱鉛筆)
252	3401				(近代)	荷田東麻呂家集(近代写本)			竪帳	1	詞書省略、「昭和七年四月五日東京三宅清将来」奥書有、ホチキス止
253	3402	1			(近代)	東麻呂歌集上(近代写本)			竪帳	1	「参冊ノ中」(朱書)と表紙にあり、朱で書入、訂正あり
254	3402	2			(近代)	東麻呂歌集中(近代写本)			竪帳	1	「参冊ノ中」(朱書)と表紙にあり、朱で書入、訂正あり
255	3402	3			(近代)	東麻呂歌集下(近代写本)			竪帳	1	「参冊ノ中」(朱書)と表紙にあり、朱で書入、訂正あり
256	3455				(近代)	荷田春満歌集目次			竪帳	1	原稿用紙使用
257	3356				昭和3年9月	荷田春満歌集(近代写本)			竪帳	1	青罫紙・青原稿用紙・茶原稿用紙使用、一部鉛筆書
258	3459				(近代)	荷田春満大人歌集並年譜(原稿)	羽倉信真編		竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
259	3649				(近代)	荷田春満歌集			竪帳	1	孔版、原稿用紙を貼込み増補、書込み(鉛筆)あり
260	3650				(近代写)	東丸歌集			竪帳	1	春195・夏188・秋123・冬83・雑157、計746首
261	2753				(近代)	荷田貝子刀自書簡裏の春満大人詠草			竪帳	1	原稿用紙・万年筆使用
262	2754				(近代)	(詠草書付)			原稿用紙	1	万年筆使用
263	3405				(近代)	東丸歌集 雑上 案五(近代写本)			竪帳	1	朱書で書入
264	2826					春満・蒼生子・在満・信美・信名・信舎・信章歌集	稚桜廼屋(印)		竪帳	1	印は羽倉、罫紙
265	3407				(近代)	荷田東麿歌集秋部冬部、東麿加筆信名信舎詠草、東麿自筆歌合評、遠州浜松月次歌会留書抄(近代写本)			竪帳	1	表紙「歌藻第弐ノ弐」(万年筆)、「五一枚」
266	3470				(昭和)	両吟百首(宝永五年一月廿三日夜羽倉斎旅亭江戸萱場町)(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
267	3454				(近代)	念三記、宝永二年宝永三年和歌会詠草、宝永年間和歌会詠草、正徳四年和歌会詠草、両吟百首於江戸萱場町羽倉斎旅亭(近代写本)			竪綴	1	
268	3408				(近代)	山家初鷹和歌群評春満加評(近代写本)			竪帳	1	
269	3406				(近代)	東山月次歌会留書(近代写本)			竪帳	1	「歌藻第弐ノ壱」(万年筆)
270	3357				(近代)	羽倉斎往復記(近代写本)			仮綴	1	原稿用紙、万年筆使用
271	3358				(近代)	羽倉斎往復記(近代写本)			竪帳	1	「校了」印あり
272	3359				(近代)	(下田幸大夫書簡他四十四通一括)			罫紙	45	青罫紙使用、一部原稿用紙
273	3495				(近代)	書簡集(羽倉斎書簡集・近代写本)			竪帳	1	「原本竹柏園版」、「校了」印あり
274	3496				(近代)	書簡集(羽倉斎書簡集・近代写本)			竪帳	1	
275	3437				(昭和)	(羽倉斎書簡写等書簡写一括)			罫紙	13	「永松尋常小学校」原稿用紙・青罫紙、万年筆使
276	3436				(近代)	(春満書簡断簡写一括)			竪帳	1	綴紐欠、原稿用紙・万年筆使用
277	3550				(近代)	享保八年～九年月次和歌会留(近代写本)			竪帳	1	「羽倉青楓館」青原稿用紙、万年筆使用

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
278	3667	1			(近代)	(荷田信名歌文集)(近代原稿)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、一部ペン書、東丸神社原稿用紙挿入
279	3667	2			(近代)	(荷田家歌文集)(近代原稿)			竪綴	1	クリップ止、元は3367-1に挿入されていた、ペン書
280	3551				(近代)	享保年間和歌草稿(近代写本)			竪綴	1	一部原稿用紙使用、鉛筆・筆・万年筆使用、享保六年～廿年八月
281	1020	34				有栖川宮熾仁親王御筆、贈従三位荷田春満詠歌			切紙	1	活版、「踏みわけよ…」
282	1020	35				(古筆切)			色紙	1	「ふみわきてやまとにはあらぬから島のあとをみるのミひとの道かは」
283	29	3				創学校啓写				1	
284	3546				(近代)	(創学校啓合綴)			竪帳	1	二冊合綴、朱筆書入あり
285	3602				(近代)	霊祭戒詞(近代写本)			竪帳	1	ペン書、朱で「祝詞集」とあり、原稿用紙
286	2245					祝詞集			竪帳	1	原稿用紙・万年筆使用
287	3411				(近代)	祝詞集(近代写本)				1	朱書で訂正あり、「正徳二年九月稲荷社日供再興記」は「自筆本京都祓川滋男氏所蔵」などと書入あり
288	3603				(近代)	稲荷社日供再興記(近代写本)			竪帳	1	ペン書、朱で書入とあり、原稿用紙
289	3604				(近代)	門人契約録(近代写本)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、朱筆書入あり
290	3563				(近代)	神代巻疑問條々(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙
291	3564				(近代)	清祓伝奥秘(近代写本)	深尾定長		竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙
292	3565				(近代)	解除之次第(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆
293	3567				(近代)	稲荷社日供再興記(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、正徳2年9月の年次あり
294	3497				(近代)	荷田家伝条々(近代写本)			竪帳	1	
295	3549				(近代)	荷田家伝條々(近代写本)			竪帳	1	「羽倉青楓館」青原稿用紙、「北羽倉家所蔵巻物一巻」
296	3587				(近代)	日本姓名録稿一			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆
297	3588				(近代)	神詠六首伝授(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆
298	3623				(近代)	(正徳二年正月吉日毎之神供再興写等の写)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
299	3625				(近代)	日本音義			竪帳	1	
300	3410				(近代)	和書真偽考(近代写本)			竪帳	1	表紙「校了五枚」(万年筆)
301	3576				(近代)	問答雑記			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、ペン書
302	3582				(近代)	国書所見記			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙
303	3360				(近代)	(信詮往復書簡写)			竪綴	1	永松尋常小学校原稿用紙、万年筆使用
304	3391				(近代)	荷田在満翁著書(近代写本)			竪帳	1	「寛保三年六月十八日伝令小堀土佐守白襲之事」他)
305	3392				(近代)	行路夕立味歌群評(近代写本)	在満鳩誌		竪帳	1	表紙に「除」(朱筆)
306	3393				(近代)	在満雑事(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正
307	3394				(近代)	奉対案(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正
308	3396				(近代)	江談抄第一至第四(近代写本)			竪帳	1	朱筆にて書入あり、表紙「校了」印あり
309	3397				(近代)	在満翁文集、我国之境を分たれ候事は云々、在満翁詠草、同書簡集(近代写本)			竪帳	1	鉛筆で書入、訂正あり
310	3398				(近代)	新旧雑記(近代写本)			竪帳	1	「要再考」と表紙隅にあり、朱で書入・訂正あり
311	3553				(近代)	在満歌文集(近代写本)			竪帳	1	朱筆書入あり
312	3483				昭和3年7月	(荷田在満弥富破摩雄稿荷田御風五十五年賀詩歌集他諸記録抜粋)			竪帳	1	「羽倉青楓館」原稿用紙使用、厚紙表紙「昭和三年六月荷田在満」
313	3652				(近代)	大嘗会儀式具釈	贈従四位荷田在満撰羽倉家蔵版		竪帳	1	大嘗会便蒙御咎顛末を奥に掲載
314	1663				大正5年11月12日	大嘗会儀式具釈　全	撰者故羽倉在満、相続者羽倉信一、発行兼印刷者阿部		竪帳	1	活版
315	3641	20			(近代)	大嘗祭便蒙上下			竪帳	1	

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
											仮綴、明治42年11月9日
316	3641	21			(近代)	大嘗会図式			竪帳	1	南葵文庫本を羽倉信一写、クリップ止
317	3653				明治14年2月刊	羽倉考 第一・第二	荷田在満我自刊我書		竪帳	2	活版、乙卯之春著作
318	2861				明治14年2月	羽倉考 巻之二	校者甫景山景雄、我自刊我書屋		竪帳	1	活版
319	1661				(明治)	羽倉考第一			竪帳	1	活版
320	1662				明治14年2月	我自刊我 羽倉考 巻二			竪帳	1	活版
321	3432				昭和3年6月	羽倉随筆全(近代写本)				1	奥書「昭和三年六月文学博士松井簡治氏蔵本ヲ写ス」
322	3626				(近代)	白猿物語(入稿原稿)	荷田在満		竪帳	1	写
323	3641	32			(近代)	国歌八論再論			竪帳	1	□染斎扇苒校合
324	3641	33			(近代)	装束色彙三四			竪帳	1	荷田在満、安永七・四・七伊勢貞丈写
325	3641	22			(近代)	名目抄釈上			竪帳	1	
326	3641	23			(近代)	名目抄紬□上 荷田在満考 完			竪帳	1	
327	3641	24			(近代)	本朝度制略考			竪帳	1	寛保元・10・24荷田在満、天明8年12・28松岡辰方の写
328	3641	25			(近代)	令三弁			竪帳	1	元文己未10月7日荷田在満
329	3641	26			(近代)	落合物語			竪帳	1	みつのえいぬのさつき荷田在満、片山賢の写
330	1020	9			(近代)	蘆橘驚夢歌	菅原在満愚		竪帳	1	原稿用紙使用、仮綴
331	3404				(近代)	蒼生子本古今和歌集序並跋(近代写本)			竪帳	1	表題「---及杉のしつ枝刊本補足」(万年筆)、一部原稿用紙使用
332	3409				(近代)	歌集拾遺(近代写本)			竪帳	1	表紙「羽倉信朗氏蔵本」「七拾五枚」、朱筆による訂正割付「校了」印あり
333	3414				(近代)	彗星私弁(近代写本)			竪帳	1	桃色鉛筆書入
334	3460				(近代)	金言玉葉録壱(近代写本)			竪帳	1	表紙「金言玉葉録」(鉛筆)、「信真」(朱印)
335	3641	27			(近代)	百題鄙詠(入稿原稿)			竪帳	1	羽倉惟得
336	3641	28			(近代)	菊着綿考			竪帳	1	羽倉惟得著
337	3641	29			(近代)	貞観儀式鼓吹司試生儀解全			竪帳	1	
338	3641	30			(近代)	狭布攷			竪帳	1	
339	3641	31			(近代)	家記所繋考			竪帳	1	
340	3627				(近代)	大江朝臣之考			竪帳	1	羽倉梁助惟得の著の写
341	3552				(近代)	(荷田惟得歌論近代写本)			竪帳	1	朱筆書入あり
342	3569				(近代)	神祇正宗(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆
343	3570				(近代)	装束抄(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、万年筆、仮綴
344	3571				(近代)	装束抄(近代写本)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、仮綴
345	3572				(近代)	官職浮説或問原稿 全			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙
346	3573				(近代)	豊葦原神風和紀下			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、ペン書
347	3575				(近代)	宗源神道根源元式			竪帳	1	
348	3591				(近代)	荷田翁啓文註解			竪帳	1	朱筆で訂正
349	3595				(近代)	金言玉葉録(近代写本)			竪帳	1	「青葉書房用紙」原稿用紙、「校正済」、万年筆使用、朱書訂正あり
350	3628				大正14年7月(写)	衛府雑録	田辺勝哉		竪帳	1	
351	3641	9			(近代)	装束色彙一二(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正割付
352	3641	16			(近代)	夜乎籠天之歌釈案			竪帳	1	朱による訂正多し、元文2・7・21荷田在満記
353	3641	18			(近代)	田令和解			竪帳	1	天保14・11・22、三中の写
354	3641	19			(近代)	古今集左註論 帝国図書館			竪帳	1	文化13・葉・15、速水行道写
355	3622				(近代)	三元十八神道次第(近代写本)			竪帳	1	神道長上卜部兼連のものの写
356	3642				(近代)	千言釈随筆			竪帳	1	「羽倉青楓館」原稿用紙
357	1020	11			(近代)	羽倉家三代之文章			竪帳	1	
358	855				(近代)	東丸公ニ関也、荷田信詮、信友、日記抜粋			竪帳	1	
359	1020	13			(享保3年9月7日)	享保三戊戌年日記 目代家(近代写)	正五位下荷田信元		竪帳	1	写、仮綴、原稿用紙使用、日記削除箱
360	1020	15			(享保16辛亥年3月12日～4月8日)	大西家日次案記(近代写)	稲荷上社祝従五位上行相模守秦親盛		竪帳	1	写、仮綴、罫紙使用、日記削除箱
361	1020	14			(享保18年11月朔日～12月13日)	(日記)	正預信元		竪帳	1	写、仮綴、原稿用紙使用

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
362	1020	31			(近代)	(信名日記他抜粋)			原稿用紙	35	「羽倉青楓館」原稿用紙
363	1020	21			(明和4年5月25日～8月朔日)	日記正預家(抄)	荷田信郷		竪帳	1	写、仮綴、原稿用紙使用
364	3354				(近代)	大西家日次案記抜粋			冊子	1	原稿用紙、万年筆使用、差紙あり
365	1020	28			(近代)	(荷田家来歴覚書)			原稿用紙	1	
366	1020	29				(春満覚書)			罫紙	2	「東丸神社」罫紙
367	1020	19			(昭和3年)	稲荷社祭祀供進諄辞	神主秦宿祢親盛(花押)		竪帳	1	明和3年11月のものの写、仮綴、原稿用紙使用
368	605				大正4年7月29日	(和歌十首)	荷田信義		状	1	末女賀尾に頼まれ御代を祝う歌十首を戯れにつくった
369	1020	24			(近代)	(和歌18首)			原稿用紙	3	
370	3614				(近代)	(歌集)			竪帳	1	原稿用紙、鉛筆書、改装表紙
371	1020	1				(護符)			護符	1	1020の包紙・紐あり
372	1191					詩稿亭詩集拾遺			原稿用紙	13	信郷の稲荷山十二景」他
373	2254				明治ここの年3月	杉のしつえ 上(和歌集)	杉生園荷田信義(朱印)		竪帳	1	写
374	2256				明治9年丙子4月	すきのしつ枝 下(和歌集)	杉生園荷田信義(朱印)		竪帳	1	
375	3538				明治26年2月23日	文化十三年子五月出来三大人摸像之画之讃	荷田信義		竪帳	1	赤罫紙使用
376	3461				(近代)	春満大人の著書について(羽倉信真講演録)			竪帳	1	青葉書房用箋、万年筆使用
377	1020	17			(近代)	(春満下向に関する考察)			竪帳	1	仮綴、原稿用紙使用
378	545				(昭和)	荷田東丸ト赤穂義士	信(花押)		竪綴	1	「羽倉青楓館」原稿用紙、「東丸神社」罫紙使用
379	2967				(近代)	説明(牧野駿河守忠辰ニ付)			切紙	1	
380	1020	32				(吹黄刀自歌に関する問答)			原稿用紙	2	30、31頁
381	1165				大正14年5月	(荷田東丸筆稲荷社遷宮記録・神祇伯へ注進状写)	七十七翁賀茂縣主		竪帳	1	「官幣大社稲荷神社」赤罫紙使用
382	3609				昭和11年7月	(荷田大人像賛に関する考察)	高山昇		竪帳	1	原稿用紙
383	3536					羽倉厳興之霊大人一百五十年記対杉憶昔之国謌詠進録完			竪帳	1	「崇忠神社」青罫紙使用、「明治十八年」付箋あり

E－4－3　荷田全集等編纂資料

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	3656				大正15年12月	東丸全集編纂往復書綴			竪綴	1	
2	340					春満遺稿目録	信真		竪帳	1	目録三冊合綴、奥に荷田全集目次合綴
3	3490				(近代)	荷田全集(刊行予約パンフレット)	吉川弘文館		冊子	1	活版
4	3554				(近代)	(荷田全集草稿綴)			竪綴	1	一部原稿用紙使用、筆・万年筆使用
5	3486				(近代)	荷田全集第一巻(草稿)			竪帳	1	仮綴、青罫紙・万年筆使用
6	3544				(昭和)	荷田全集第二巻凡例(草稿)			竪帳	1	青罫紙・万年筆使用、朱筆書入あり
7	3494				(近代)	荷田全集第五巻			冊子	1	活版、朱筆書入あり
8	3555				(近代)	荷田全集第五巻凡例(草稿)			仮綴	1	原稿用紙、便箋、筆・万年筆使用
9	3556				(近代)	荷田全集第六巻目次凡例(草稿)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用、朱書書入あり
10	3487				(近代)	荷田春満全集(目録)			竪帳	1	孔版
11	3491				(昭和19年1月8日)	荷田春満全集(荷田春満全集パンフレット)	発行所 六合書院		冊子	1	活版
12	3489				(近代)	荷田春満全集第四巻、同第五巻凡例			竪帳	1	表紙「共ニ万葉集童蒙抄」、万年筆使用
13	3561				(近代)	萬葉集童蒙抄(校正原稿)			竪帳	1	
14	3562				(近代)	萬葉童蒙抄巻第二十七(校正原稿)			竪帳	1	
15	3548				(近代)	伊勢物語童子問第一巻(刊本校合)			冊子	1	活版(部分)、朱筆「春満筆稿本と校合ス」「要再校合」、朱筆書入あり
16	3597				(近代)	令義解箚記(刊本校合)			冊子	1	活版、朱筆書入
17	3607				(近代)	令義解箚記弐(刊本校合)			冊子	1	部分、活版、朱筆書入あり
18	3594				(近代)	国歌八論(刊本校合)			冊子	1	活版、部分

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
19	2809				(昭和11年)	(羽倉信真編『荷田春満歌集』上下広告)			一枚	48	活版、こよりあり、徳富蘇峰の推薦文あり
20	3593				(近代)	春葉集(刊本校合)			冊子	1	活版、部分
21	3560				(近代)	荷田春満歌集正誤表			竪帳	1	
22	3606				(近代)	(荷田信盛日次記刊本)			冊子	1	活版
23	3629				(近代)	(羽倉斎往復記刊本)			竪帳	1	活版、「羽倉斎より来書之記」、朱筆書入あり
24	3596				(近代)	(人名索引資料)			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、仮綴
25	3457				(近代)	(歌人考証)			竪帳	1	仮綴、鉛筆・原稿用紙使用
26	3458				(近代)	(歌人考証)			竪帳	1	仮綴、原稿用紙使用
27	3612				(近代)	(索引原稿)			竪帳	1	「羽倉青楓館原稿用紙」、ペン書
28	3403				(近代)	万葉集歌人録(近代写本)			竪帳	1	朱で訂正あり
29	3615				(近代)	(歌語索引)			竪帳	1	原稿用紙、朱で書入あり
30	3453				(近代)	(上の五句五十音順索引)			竪帳	1	原稿用紙、万年筆使用
31	3021				(近代)	(門人名前覚書)			短冊	1	鉛筆書
32	1376				昭和8年7月1日	(後陽成院添削羽倉荷田信次百首詠草)	編纂兼発行及所 東京市赤坂区青山南町 荷田信也		竪帳	1	題箋「勅点百首詠草」、活版
33	2810				昭和10年5月25日	賀茂真淵翁伝新資料-真淵伝への新資料による補正論-	著作者京都市伏見区深草藪ノ内羽倉信真、発行所京都市下京区寺町通井上文鴻堂書店		書籍	1	活版、19、5センチ×13、2センチ、カバーつき
34	1426					非蔵人文書	編集兼発行者 東京市赤坂区青山南町羽倉敬尚		竪帳	1	活版、表紙裏に編者より荷田信真様へ謹呈あり

E－4－4　一般図書他

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
1	2859				明治3庚午3月	古語拾遺　新刻本	京都大学教授渡辺重石丸拝撰		竪帳	1	木版、蔵書印「稲荷社務局印」、「藤森神社産子」
2	2822				明治3庚午5月	名教楽地帖	仙山口衲栖自誌		竪帳	1	木版、「信義」「岩翠」朱印
3	2203				明治4辛未年秋3月	春秋左氏伝校本　第一　第二			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
4	2204				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第三　第四			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
5	2196				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第五　第六			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
6	2197				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第七　第八			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
7	2198				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第九　第十			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
8	2199				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第十一　第十二			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
9	2201				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第十三　第十四			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
10	2202				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第十五　第十六			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
11	2200				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第十七　第十八			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
12	2218				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第十九　第二十			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
13	2226				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第二十一　第二十二			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
14	2192				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第二十三　第二十四			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
15	2193				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第二十五　第二十六			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
16	2194				(明治4辛未年3月)	春秋左氏伝校本　第二十七　第二十八			竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
17	2195				明治4辛未年3月	春秋左氏伝校本　第二十九　第三十	山内屋五郎助他12書肆発兌		竪帳	1	木版、文化九壬申歳開版、「羽倉蔵書」朱印
18	2807				明治辛(4)年	新聞雑誌(第一号～第十二月合綴)	本局東京小川町今川小路日新堂、売弘所(東京)両国横山和泉屋金右衛門		竪帳	1	木版、蔵書印あり

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
19	2909				明治5申年正月19日	上代衣服考	豊田豊平長敦謹述		横帳	1	木版、彫工木邨喜平房義
20	423				明治壬申(5)年	葬祭略式完	神宮教会蔵版弘所西京柳馬場御池北邨四郎兵衛		竪帳	1	木版
21	2891				明治6年6月	こゝろおほえ(葬式祝詞、文苑玉路写し等覚書)	東の屋(印)		横半帳	1	
22	2896				明治6年癸酉10月10日	宝剣考證	羽倉信義写		竪帳	1	奥書によれば明治6年10月10日に京都府貫属士族教導職十三級試補羽倉信義が本居豊顕塾で写した、慶応3年9月16日杵築宮神官富永芳久
23	2867				明治6年9月23日	新定官社勘文 大	羽倉信義		竪帳	1	写本、青色罫紙使用
24	1148				明治6年11月	説教之一端	京師製本所菅廼舎池邨氏		竪帳	1	稲荷大社蔵板、木版、稲荷神社大宮司兼大講義安江静敬記
25	2882				明治6年12月6日	産那須社古伝抄	羽倉信義写		竪帳	1	奥書によれば明治6年12月6日に京都府貫属士族羽倉信義が本居豊顕塾で写した、安政4年8月、六人部宿祢是香記
26	2874				明治7年1月19日	和事始抜萃(玉勝間抄・憲法類編抄合綴)	興子		竪帳	1	
27	2838				明治7年1月	玉かつま抄	羽倉信義		竪帳	1	写本
28	218				明治7年3月1日	出雲國風土記	連光寺堀江峻定写		竪帳	1	奥書「明治七甲戌三月一日臨写功竟湖西海津蓮光寺堀江峻定」
29	2871				明治7年甲戌3月11日	御歴代御尊号(神武より明治まで諱・諡号)			竪帳	1	奥書「東京本居豊顕塾にて塾生羽前田川郡椙尾神社祠掌宮野鉄鐸所持本を羽倉信義書写」とあり
30	2881				明治7甲戌年5月9日	國學入門 全	羽倉信義(朱印)		竪帳	1	奥書によれば明治7年5月9日に京都府貫属士族志波彦神社主典訓導兼訓導羽倉信義が写した、明治2己巳初夏松菊頑夫
31	2887				明治7年6月15日	大統歌上下	羽倉信義写		竪帳	1	奥書によれば明治7年6月15日に京都府貫属士族志波彦神社主典訓導兼訓導羽倉信義が小泉長善の館で写した
32	2880					皇國千字文			竪帳	1	奥書「仙台医師小泉長善方にて明治七年七月廿日写之、羽倉信義(印)」
33	2879				明治7年甲戌7月24日	稽古要略	緑河 藤好尚謹撰		竪帳	1	奥書「荷田信義仙台医師小泉長善方にて書写」
34	2868				明治7年7月31日	古道訓蒙頌	羽倉信義写		竪帳	1	安政5年5月開刻
35	2869				明治7年8月20日	童蒙入学門			竪帳	1	奥書「明治七年八月廿日仙台北番町小泉長善方ニて写」
36	425				明治8年4月	神社祭式	式部寮編纂御用御書物師山口屋佐七		竪帳	1	木版
37	426				明治8年4月	神社祭式	式部寮編纂御用御書物師山口屋佐七		竪帳	1	木版、彩色あり
38	2890				明治9年丙子10月	洋算記	信義(印)		横半帳	1	
39	2789				明治12年2月3日	紙入日用便	編輯人大阪府大舘利一、出版人府北村宗助(印)、発兌人府森本専助(印)		袖珍本	1	銅板、「売捌書 大阪心斎橋通松村九兵衛、同所大野木市兵衛」
40	521				明治12年	点註文章規範 序、巻一、巻二			竪帳	1	東京山中氏版
41	522					点註正文章規範三・四	宮脇通赫南溪輯補		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印、書き入れあり
42	498					点註続文章規範巻之一、巻之二	宮脇通赫南溪輯補		竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
43	523					点註続文章規範巻之三、巻之四	宮脇通赫南溪輯補		竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
44	499					点註続文章規範巻之五、巻之六、巻之七	宮脇通赫南溪輯補		竪帳	1	木版、「羽倉蔵書」朱印
45	496				明治12年5月8日	点註続文章規範巻之五、巻之六、巻之七	宮脇通赫南溪輯補		竪帳	1	木版
46	1424				明治12年6月30日	島根県管内出雲国地誌略	著者兼出版山口県士族清水清太郎		竪帳	1	木活字(挿絵は銅板)
47	2759				明治12年12月5日	歌合三題集	編者浜松市明神町十一近藤用一、発行所宝林堂書店		竪帳	1	「荷田氏」朱印、編者呈辞あり
48	3142	1			明治13年7月	(健連須佐之男大神等神号)	大教正平朝臣鉄胤斎謹書花押			1	木版、出版人東京府士族本所区柳島横田町平田胤雄
49	427				明治17年6月	瑞穂講社規約	稲荷神社社務所		竪帳	1	活版
50	2925				(明治17年)8月6日	(包紙)	陸前宮城県下仙台北二番町小泉長泉様内羽倉信義	東京芝増上寺中丸山下林松院境内羽倉可亭	包紙	1	
51	2333				明治21年12月25日	支那通史	那珂通世編、発行所神田区表神保町中央堂		竪帳	1	木版、初版は明治21年9月1日、外題「支那通史 那珂通世編 巻一」、序文あり
52	2819				明治22年4月	近世歌人略系	花路広田常善		折紙	1	木版両面刷り、封紙入、「呈上」朱印あり
53	3197				明治24年5月	(平田篤胤詠歌并ニ肖像画)	書作兼印刷者秋田県秋田市大町二丁目三番地小助川厚蔵		まくり	1	
54	2978				明治28年8月17日	京都伏見官幣大社稲荷神社之系図	東京浅草区茅町二丁目三番地印刷兼発行者青山豊太郎		鋪	1	銅版で原図を作成し石版で印刷、袋上書「京都伏見官幣大社稲荷神社境内全図」
55	3198				明治31年11月	(土井征三新池造成の功を顕彰する碑の拓本)	稲荷神社宮司従六位近藤芳介撰、正七位則武正副書		鋪	1	
56	1348				明治33年5月25日	標柱古風土記	著者故栗田寛相続者版権所有者栗田勤		竪帳	1	日付は再版、発行所兼印刷者は大日本図書株式会社
57	2803				明治40年1月25日印刷	稲荷神拝式全	著作兼発行者官幣大社稲荷神社宮司正六位大貫真浦京都府下紀伊郡深草村大字福稲		折紙	1	木版、「非番品」、発行は明治40年1月30日
58	778				(明治42年7月)	平田篤胤先生尾張家ニ奉仕セントスル願意ニ関スル書	荷田信義蔵		竪帳	1	東丸神社罫紙使用
59	3210	6			明治40年11月	復祖忌恩碑(記念碑文写)	主殿頭従四位勲三等小笠原武英撰文		竪紙	1	罫紙
60	2820				明治43年6月5日	平安名家墓所一覧	編纂者山本臨乗、発行所彙文堂書店		竪帳	1	活版
61	2821				明治43年11月11日	続平安名家墓所一覧	編纂者山本臨乗、発行所彙文堂書店		竪帳	1	活版
62	3015				明治44年4月25日	(当山大遠忌参詣御礼ニ付書状)	本願寺門跡伯爵大谷光瑞	奥正寺門跡男爵華園深称殿	続紙	1	
63	2897				(明治)	古事記伝抜萃			竪帳	1	写本、「荷田信義」朱印
64	2305				大正7年11月	縣居翁遺墨	賀茂真淵翁百五十年祭典会		冊子	1	写真版
65	2162				(大正7年)	(富岡鉄斎筆宝船刷物)	京都下嵯峨車折神社社務所		竪紙	1	木版、「八十三歳鉄斎筆」
66	2587					古今和歌集序			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)、2587～2615は同一の装丁

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
67	2588					古今和歌集巻第一　春上			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
68	2589					古今和歌集巻第二　春下			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
69	2590					古今和歌集巻第三　夏			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影
70	2591					古今和歌集巻第四　秋上			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
71	2592					古今和歌集巻第五　秋下			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影
72	2593					古今和歌集巻第六　冬			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
73	2594					古今和歌集巻第七　賀			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
74	2595					古今和歌集巻第八　離別			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
75	2596					古今和歌集巻第九　羇旅			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
76	2597					古今和歌集巻第十　物名			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
77	2598					古今和歌集巻第十一　恋一			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
78	2599					古今和歌集巻第十二　恋二			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
79	2600					古今和歌集巻第十三　恋三			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
80	2601					古今和歌集巻第十四　恋四			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
81	2602					古今和歌集巻第十五　恋五			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
82	2603					古今和歌集巻第十六　哀傷			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
83	2604					古今和歌集巻第十七　雑上			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
84	2605					古今和歌集巻第十八　雑下			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
85	2606					古今和歌集巻第十九　雑体			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
86	2607					古今和歌集巻第二十			竪帳	1	大正15年6月24日図書寮本より勅使河原萬次影写、(2608奥書より)
87	2608					古今和歌集聞書			竪帳	1	奥書「大正十五年六月廿四日図書寮蔵本ニ依リ影写了ぬ、勅使河原萬次(印)」
88	2182				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古　巻第一　巻第二	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印、ここから箱5-1(2226まで)
89	2183				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古　巻第三	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印
90	2184				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古　巻第四	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印
91	2185				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古　巻第五	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印
92	2186				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古　巻第六	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印
93	2187				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古　巻第七　巻第八	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印
94	2188				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古　巻第九　第十	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印
95	2189				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古　巻第十一　第十二	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印

整理番号	文書番号	枝1	枝2	枝3	年代	表題	差出(作成)	宛所	形態	数量	備考
96	2190				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古 巻第十三 第十四	(羽倉信明)		竪帳	1	「羽倉蔵書」朱印
97	2191				(昭和2年7月)	延喜神名式比保古 第十五	(羽倉信明)		竪帳	1	
98	420				昭和4年2月7日	赤穂義士観	民友社蘇峰 徳富猪一郎 著		刊本	1	大きさは18,7㌢×12,7㌢、新聞切抜二葉、絵葉書あり、書き入れあり
99	1185				昭和4年11月20日	校定出雲国風土記	島根県皇典講究分所		竪帳	1	活版、挿入あり
100	1020	20			昭和6年5月11日以降	有徳公功績抄	小林小舟		竪帳	1	「羽倉青楓館」原稿用紙
101	2751				昭和7年7月7日	尽敬千年祀記	狭東		横帳	1	原稿用紙・万年筆使用、鶴岡八幡宮々司秋岡保治購入→引佐郡井伊谷神社宮司大橋朗蔵→狭東写
102	2823				昭和7年11月13日	目録(京都大仏広瀬都巽軒愛蔵品入札目録)	札元京都林新兵衛商店他3名		竪帳	1	活版
103	1034				昭和11年3月11日	国学院雑誌 第四十二巻第三号二百年祭記念 荷田春満	國學院大學		A5判	1	
104	2326				(昭和11年10月31日～昭和12年2月11日)	(『荷田春満歌集』新聞記事抜粋)			竪綴	1	原稿用紙使用
105	752				(昭和13年5月25日～昭和15年5月15日)	真淵翁研究(第一輯～第六輯)	浜松縣居尋常小学校内縣居翁研究会		書籍	7	第三輯二冊あり
106	3662				(昭和19年3月4日)	皇国の教学(近代原稿)	國學院大學教授 文学博士 河野省三		竪帳	1	青葉書房の用箋使用、朱で「昭和十九年三月四日、於新聞会館荷田春満全集出版記念講演会速記」
107	3484				昭和19年3月4日	於新聞会館荷田春満全集出版記念講演会速記(國學院大學教授文学博士河野省三氏講演録)			罫紙	23	200字詰原稿用紙、万年筆使用
108	1020	23			11月11日	山中説法	楚人冠		新聞切抜	1	
109	2796				(近代)	掌中清新詩題	詩仏老人菊厓散人同編、東潭逸士校訂		折紙	1	銅版、善庵居士撰、「青楓館」「荷田氏」朱印
110	2327					説教種本	稚櫻廼屋(朱印)		竪帳	1	青原稿用紙使用
111	3305				(近代)	浅間山の詞	賀茂真渕		竪紙	1	石摺
112	3353				(近代)	(山名靈渕関係記録)			冊子	1	罫紙、原稿用紙、万年筆使用
113	3129					(竹図并ニ文)	平田篤胤(花押)		まくり	1	石版
114	3136					順徳天皇の禁秘御抄の始に	平田篤胤(花押)		竪紙	1	石版、こよりあり
115	2325					平田篤胤全集 全十五巻(目録)			竪帳	1	表紙「羽倉文庫」朱印、「羽倉青楓館」原稿用紙
116	1020	18			(近代)	国文学の諸相(抄)	岩城準太郎		竪帳	1	仮綴、原稿用紙使用
117	1020	27				(国史大辞典抄)			竪紙、便箋	2	用箋片挿入
118	1020	30				(日本宗教大講座第十九巻、復古神道に関する草稿)			切紙	1	
119	1020	33				(漢文注釈書断簡)			原稿用紙	2	
120	3574				(近代)	自稲荷山出現之宝鑑図			竪帳	1	羽倉青楓館原稿用紙、仮綴
121	3611				(近代)	(宝鏡に関する記述)			竪帳	1	「羽倉青楓館」原稿用紙、ペン書
	43					双鳳狻猊八稜鏡			面	1	銅製鏡

荷田春満宛書状一覧

差出名	受取人	年月日	年代推定根拠	特記事項	国学・歌会関係記事	文書番号	形態
青山大炊頭(花押)	羽倉斎様	.5.28		先年の一別以来の疎遠ご機嫌伺い、先年春満帰京の節浜松で当地のものが逢い懇意の伝言、住居を知りたい		A-1-2-157(559)伊	折紙
筑前多賀社祝部事青山大炊頭(花押)	羽倉斎様参人々御中	.5.28	日本音義宝永7～正徳2、万葉訓釈宝永7、(『神道大系論説編』)春満帰京正徳3.4.・4.8.7・5.8.	先年春満帰京時浜松で青山と同郷の医者と出合、京都に住むつもりか聞きたい	先年江戸での日本音儀・万葉之御考は成就したか	A-1-2-159(562)伊	折紙
博芳(秋田民部)	羽倉斎様几下	(享保8～10).12.14	(享保8).9.23芝崎主税留学へ、吉田慎斎享保10.卒	大学殿御所労はいかが、吉田慎斎…先頃剃髪…水戸御簾中より御義被仰進、大学殿主税殿へも宜敷		A-1-2-157(559)伊	折紙
秋田民部博(芳の字の花押)	羽倉斎様机下	(享保11).正.28		母方より真綿進上、主税春満の下で息災に加年、杉浦信濃守御年頭出府そのまま逗留	春満武器考入手、2月古今伝書を吉田の使いに託し秋田氏へ、当月月次会芝崎亭2月は西東亭	A-1-2-157(559)伊	折紙
秋田民部博(芳の字の花押)	羽倉斎様貴下	(享保11).10.28	閏正月28日迎陽文集を返却する秋田民部差出書状の前	春満胸痛・痰快方、主税勤学中	迎陽文集書写済ませ次第返してほしい、代匠記入手を願う、深水集、為家古今抄	A-1-2-155(557)伊	折紙
秋田民部博(芳の字の花押)	羽倉斎様拝復	(享保12).閏正.28	閏正月は享保12年	牡丹入手困難、秋田氏四十賀	春満から秋田氏へ迎陽文集3冊外返却、古今抄は木村方で書写中、当月月次会秋田亭興行芝崎・西東・東湖・木村出席	A-1-2-56(893)万	切続紙
秋田民部博(芳の字の花押)	羽倉斎様拝復	(享保12).4.27	春満の下田幸大夫あて書状(『神道大系論説編』)に対応	作事中・牡丹につき、春満歯痛快復	源氏河海抄所持の者がわかり次第木村隼人へ知らせる。余材抄は外へ渡る	A-1-2-56(893)万	切続紙
秋田民部博(芳の字の花押)	羽倉斎様玉座下	(享保13).正.28	(享保13)正.21芝崎氏書状に杉浦修理亮腫物で年礼御断	息子源左疱瘡…肥立兼、芝崎主税殿へ嘉詞を伝えてほしい、杉浦殿腫れ物で御年礼お断り	かハたれ時…書付被下、秋田氏息子疱瘡で当月会闕座、開始済、春満の歳旦・年内立春の歌木村氏へ	A-1-2-159(562)伊	折紙
芦田大膳保矩(花押)	羽斎様参人々御中	.3.21		田舎へ引込便宜も不自由、在所之物であるので横麻御上下地壱反進上		A-1-2-157(559)伊	折紙
稲垣太郎左衛門之真(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保8).6.23	春満享保8.5.頃帰京	妻当17日病死、御発足之砌も御見廻も不申残念、首尾能御暇白銀御拝領御帰洛	御滞府中ハ寸隙も無御座処御光来御指南被下、当18日に会があったが稲垣氏欠席	A-3-4(950)書	折紙
稲垣太郎左衛門之真(花押)	羽倉東丸様御報	(享保9).11.12	享保9.4.5忠寿越後国公料64000石余の地を預けられる一(『藩史大辞典3』雄山閣1990.)	当年駿河守へ御預地、初年のため用事多い、駿河守方より相変らず金子を頂く事へ丁寧な感謝承知	春満は百人一首抄中巻を見せ八九郎から徒然草の伝書を指示、春満帰京後も芝崎氏は月次会を行っているので詠草を出すよう春満が伝える	A-1-2-56(893)万	切続紙
稲垣太郎左衛門之真(花押)	羽倉東丸様御報	(享保10).正.20	享保9.4.5忠寿越後国公料64000石余の地を預けられる一(『藩史大辞典3』雄山閣1990.)	旦那旧年越後の内に64000石余御預で結構なことであるが多物入多く心遣が多い	春満が今泉八九郎へ伝受の徒然草は世上伝受の説だが望むなら八九郎から伝授を、神書歌書の邪説流布に注意という教えは有難い、歳旦歳暮も見たい	A-1-2-159(562)伊	折紙
稲垣太郎左衛門之真(花押)	羽倉東丸様回章	(享保14).正.17.	享保13. 江戸中屋敷類焼(『長岡市史通史編上』)	旧臘10日御当地出火の節此方中屋敷類焼、御見廻の御紙面の趣は承知		A-3-12(877)書	折紙(包紙)
稲垣太郎左衛門之真(花押)	羽倉東丸様人々御中	.4.17		近年御下向を待っている、此方随身の御用を申し付けてください		A-1-2-159(562)伊	折紙
稲垣太郎左衛門之真(花押)	羽倉斎様御報	.12.12		牧野頼母が10月在所へ帰ったので寒風見舞は拙者が破封おしらせした、駿河守痛所はまだ聢とせず		A-3-4(950)書	折紙
紀大進(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保元).11.19	享保元.11.19隠居北堂亭にて北堂妙寿院公70歳の賀を祝す、千首之歌会興行(『信友家記』)	妙寿院様へよろしく	妙寿院様御年賀にて今晩千首御興行	A-1-2-159(562)伊	折紙
今沢大進台主(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保11).正.27	享保11.正.芝崎氏書状に今沢大進が雅会に出席するようになった記載	支配下出入、去々年より度々出府、理運罷成旧冬より宮内方に逗留、当15日公義御年礼も首尾能相勤帰国又々来月も御用之義在之出府	晩学であるが芝崎宮内が勧めるので当年から月次の会へ愚詠を差出す	A-1-2-157(559)伊	折紙
今沢大進台主(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保12).正.22	(享保11).8.28芝崎氏書状に同様の記事あり	近年打続く出入は皆拙者の利運となり大慶、主税永々在京御世話になり御影で学文堅固に		A-1-2-159(562)伊	折紙

入江伝蔵敬善	羽倉斎宮様	(享保12).10.19	勝見杢之介在坂は河内守快復と同時頃(勝見書状)	僚輩仲新斎とは懇意、大坂の杢之介に紹介されたが急用のため春満に面会は出来ず残念		A-1-2-155(557)伊	折紙
岩佐清純最明(花押)	羽倉斎様	(享保10以前).8.20	享保10.49歳吉田慎斎卒	源六は慥な人柄であり軍学も巧者であろう、今泉・保地彦右・山本甚右とも源六の事を話題にしている	吉田慎斎は天文之儀は今も残念といっている、拙者は天経或問の下書している	A-1-2-159(562)伊	折紙
(岩橋)藤七	斎様貴答	(享保12).10.5	(享保12).10.12勝見書状に藤七殿から北山季庵について聞かれた記事	大坂勝見氏・米倉氏の手紙両通共委曲承知した、北山季庵は大坂住居であろうか	勝見氏のいう風土記が真書であれば御相談したい、政治要略は委曲承知した、あの方へ相談に遣した方がよい	A-1-2-159(562)伊	折紙
大和田平太輔	羽斎様	.7.29		武島長兵衛儀騒動、御手射場の儀については沙汰を聞いていない、初茶進呈	秘書をおかりしてかたじけない…然るべき物を御所持であれば弓書の内重ねて拝借したい	A-1-2-157(559)伊	折紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保6).7.10	(享保6).根本大炊遠州へ行く(宗寿書状)	紅寒菊を東都へ直に送れるように土付送る、姪段々快復、根本殿も浜松へ御無事に到着したであろうか、		A-1-2-157(559)伊	折紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保8以降).7.8	春満は幕府の御用を承っている	春満の下向を待っている、真照院からの文を届ける、干飯進上	頃日玉書東都表結構の御首尾	A-1-2-157(559)伊	折紙
正景	信盛公	(享保8以降).9.5	春満が幕府御用を承り、古書の捜索		岩橋藤七殿来臨古伝の正書所持、生玉神社神主松下掃部へ平岡明神神主水走右京亮旧書所持を尋ねる、御霊明神の新坊方の類聚国史有無未決	A-1-2-56(893)万	切続紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保10).8.8	享保10.7.28水野隼人正忠恒事件	松下源介より御馳走の礼、春情一件、水野隼人正忠恒事件、病気の姪が道員の匙で回復		A-1-2-151(548)伊	折紙
喜多埜隠士正景(花押)(勝見杢之介)	信盛様	(享保10).8.25		白山吹差し上げよう、春満猫所望、春情一件につき道員立腹	紀州家士岩橋藤七書物御用のため在京、20日過ぎに大坂から杢之介方へ	A-1-2-151(548)伊	折紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様貴答	(享保10).9.5		岩橋藤七へ白山吹を無心、春情一件、大学・杢之介への道員の誤解は春満仲介で解決、火縄筒につき		A-1-2-56(893)万	切続紙
正景拝	春満公	(享保10).9.29		杢之介の師匠西条主馬が新式鉄炮を考案、松平権之助の仲介で幕府鉄炮方田付四郎兵衛に採用してほしい		A-1-2-56(893)万	切続紙
(勝見杢之介)		(享保11.6.)	.6.27に春満の腹病回復が分かるので、それ以前	春満腹病泄瀉で床につく、姉(しんせう院)の娘ちよ・まつにつき		A-1-2-56(893)万	切紙
勝見杢之介正景(花押)	羽斎様貴酬	(享保11).6.27		西条主馬鉄砲書付指上、春満腹病回復、真照院より次女義断り	契沖書作之御挨拶御丁寧之御事	A-1-2-56(893)万	切続紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎	(享保11).9.29	河内守、享保10.12.発病→同12.10.朔快復(『信名家記』)	春満胸痛、大学むずかしき病、春満の紹介で松下久米右衛門仕官、河内守今に手足御不自由		A-1-2-56(893)万	切続紙
喜多埜隠士上封	東丸先生	(享保11).12.2	享保11.11.11松平浅五郎卒(『徳川実紀』)	春満痰気御胸疼快復、主君鹿狩に供達、戸田大隅守与力万年源左衛門跡につき内談、京都所司代明きを春満に尋ねてほしい、松平浅五郎殿御早世	芥川古書高槻より連絡なし、余材抄と代匠記を上げる方がよいと申し来る、有馬禅総寺什物其外書込した一冊を春には返してほしい、武家盛衰記欠本を聞合くれるということだが	A-1-2-159(562)伊	折紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保11).12.19	喜多埜隠士.12.2書状に続く内容、河内守回復、閏正.5書状を西条から届けられている	春満の胸痛痰気快復、紅寒菊一枝竹筒ニ入進上、西条主馬鉄炮につき信富公より返事があったか聞きたい、河内守とどこおりなく御肥立ち	高槻へ頼み遣した芥川古書事小嶋十右衛門方へ出入の者へ尋させたが知りかねる	A-1-2-159(562)伊	折紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様拝簡	(享保12).閏正.5	閏月が正月にあるのは享保12年	西条氏から届けられた年賀状を見た		A-1-2-159(562)伊	折紙
喜多埜隠士	東丸様	(享保12).閏.7	.閏正.5勝見杢之介正景書状の下段にこの書状	西条主馬鉄炮口上書は松平権之助へ、杢之介万年源左衛門御吟味になった跡へ就職を願う	芥川古書御事高槻小島十右衛門封…	A-1-2-159(562)伊	折紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保12).3.11	鈴木飛騨守　大坂東町奉行正徳2.6.1～享保14.2.15、河内守快復中	約束の紅寒菊を送る、来16日鈴木飛騨守大坂を出発役替か、松平権之助への手紙は春満の指図通りに認める、河内守病気追日快復		A-1-2-56(893)万	切続紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様拝上	(享保12).3.18	鈴木飛騨守　大坂東町奉行正徳2.6.1～享保14.2.15、河内守快復中	鈴木飛騨守大目付へ役替か、松平権之助へ向寒見舞閏正月尊答、深尾多仲から春満につき知らせ		A-1-2-56(893)万	切続紙

勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎再御報	(享保12).4.27	前に松平権之助へ鉄炮の図を見せた結果	春満口中全快か、松平権之助の指示で西条主馬考案の鉄炮図・木型を差し上げる	江戸から根本殿・大島殿より便宜あるか、	A-1-2-56(893)万	切続紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様御再報御中	(享保12).10.12	河内守回復	白山吹・紫海棠進上、春満病気回復、河内守いよいよ回復	源氏物語、風土記、弓の書、北山季庵、	A-1-2-159(562)伊	折紙
喜多埜隠士正景(花押)	信盛様参人々御中	(享保12)陽月22日	(享保12).10.5岩橋藤七差出書状による	春満病後の様子を藤七から聞く	風土記弥偽書、菅家万葉集真な書必要なら借りるが	A-1-2-56(893)万	切紙
勝見杢之介正景	羽倉斎様参人々御中	(享保13).正.5	(享保10).10.12岩橋藤七から北山季庵について尋ねられて以後	廻鳳并白山吹二本立一株進上、	古代□袋写米倉只右衛門所持、生玉社下掃部書本は悉く板本・九昌院所持の書物大火で焼失、北山季庵の類聚国史は御尋之節指出其後焼失、森民部少輔蹴鞠之書所持	A-1-2-157(559)伊	折紙
勝見杢之介正景(花押)	羽倉斎様参人々御中	.正.3		年改御祝辞、油烟一挺進上、お島殿金蔵殿へもよろしく		A-1-2-159(562)伊	折紙
木村図書成(花押)	羽倉先生玉座下	(享保10以前).霜.17	(享保11).9.隼人に改名する以前		小車之錦はいかなる古事で詠うのか、芥川小野寺から勧進歌依頼、来月月次兼題秋田氏相談、伏見でも此方の題で歌会興行とか	A-1-2-157(559)伊	折紙
木村図書成(花押)	羽倉先生様	(享保10).4.22	享保10.4.9徳川家重元服	3月20日当月7日の御状共に届、御眼病も気遣いないと承る、権之助殿は当月若君様御元服で忙しい、根本氏妹女病気養生同道出府のため御状を届ける、しつも聢せず	先便宮内方への古今伝書紙筆標僉料金1両2分、松平権之助分共に請取富士中務へ渡す、古今集抄秋田氏と11日に参会の筈が延引、芥川亭興行29日に延引	A-1-2-157(559)伊	折紙
木村図書成(花押)	羽倉斎様玉床下	(享保10).12.14	河内守発病前、芝崎主税留学が複数年	壷井安左衛門沙汰よろしからず松平権之助殿下田氏へいまた参会なし	職原抄おわらせ神代巻は当夏迄右門殿へ講ずる、10月秋田氏亭・11月芝崎亭で興行来春会始の兼題「露暖梅開」、権之助殿近来詠出ない	A-1-2-157(559)伊	折紙
木村図書成(花押)	羽倉先生様	(享保11).3.21	旧冬河内守発病	当月中の参宮は僕腫物で延引、社頭修覆願は去年9月寺社奉行から本社の造宮のみ、あとは勧化を仰せ渡されさらに延引した事を主税から貴公様へ申入、今年中上京、主税勤学中、河内守旧冬より御大病	かな日本紀書写はかどらず、いせ物語御抄も書改で延引、松平権之助殿方古今相談に殊の外感心された、柘植伝左衛門殿から書信御説を承わり感心、借用の書を此方へ廻してきたので書写せよと言う事を了承	A-1-2-157(559)伊	折紙
木村図書成(花押)	羽倉先生様几下	(享保11).3.晦	杉浦修理亮折節芝崎宮内少輔方の歌会出席(修復願で長期間江戸滞在中)	吉田使に書状を届けてもらう、根本氏書状は先頃差し上げたと覚えている	古今集かな序あひおひは相生か相老か、筆跡・墨跡という言葉は存生の人には用いないのか、杉浦修理亮在府宮内少輔方で東湖・木村図書と勒句廿首、勒句の意味は、3月は秋田亭興行詠草添削依頼、松平権之介殿詠草書状間違いで延引御届	A-1-2-157(559)伊	折紙
木村隼人成(花押)	羽倉先生玉座下	(享保11).11.8	享保11.木村氏双林寺歌会出席(『神道大系論説編』)	先頃は上京仕久々に拝顔、河内守病気はうち続快方か伺いたい、今日杉浦殿木村方へ	双林寺会出席を宮内に話す	A-1-2-155(557)伊	折紙
木邑隼人成(花押)	羽倉先生様	(享保12).5.29	(享保12).4.春満歯痛、(享保11).9.以降図書→隼人	歯痛はどうか、要助殿より向坂新五兵衛の手紙着、秋田氏母昨29日卒、公儀儒者林又右衛門の子息木村に神書を望む、小普請旗本岡部次郎右衛門の子息を木村の弟子	卯の花くたしの事承知、仏法僧の絵入手できず	A-1-2-56(893)万	切紙
公文所法眼院主(花押)	羽倉斎様御報	.8.23		春満から公文所法眼の江戸出府への餞別を送ったが不在であったための手紙		A-3-16(875)書	折紙
黒田正足雲洲(花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保元).正.15	享保元.6.春満の母荷田貝子70賀のため帰京、享保4.正.22貝子卒	御老母様愈御安全、去年6月高田から供として帰ってきた後…帰京されたと聞いた、信州の姉逗留中大病を煩い取込、本郷へも終に参らなかった	去年11月根本采女が松浦氏書籍講の指引の金子2両弐分持参	A-1-2-159(562)伊	折紙
黒田正足雲洲(花押)	羽倉先生几下	(享保2).4.22	享保4.正.22荷田貝子卒、享保2.正.29羽倉民部信名将軍家代替御礼お目見えのため江戸へ	御老母様其外一家様残らず御平安、本郷の御宅焼失、手前長屋共…四方焼けたが類火同然であった、民部殿先頃此地へ御出の由	神代の分日本音義出来たら拝覧したい…写し取り早々返納する…神代音義もし爰元誰かにあるなら借覧したい	A-1-2-159(562)伊	折紙
鶏頭院	羽倉斎様	.正.28		旧冬お出で下さり感謝、別当代江戸へ下向のため跡役を勤め当6日より下り3月10日頃まで里に、花王院などへ来たら御尋下さい	補任大方仕舞い、去年借用した本で書写を終わらせ返却した分もあるので残の分をお知らせします	A-1-2-157(559)伊	折紙

鶏頭院□(花押)	羽倉斎様人々御中	.3.21		先日南都竜剤を御贈下さり感謝	花王院に託された書物を受納、小右記を御写下さい、公卿補任書写終わった分は21巻、残り19巻、玉詠を御求なされた由	A-1-2-157(559)伊	折紙
鶏頭院□(花押)	羽倉斎先生様	.極.5		昨日里へ下山仕	花王院…南朝紀…、日本記・風土記緩々御校合させて下さい、風土記大学公へ御校合させて下さい	A-1-2-157(559)伊	折紙
鶏頭院□(花押)	羽倉斎様	.12.25		一両日中は殊の外寒気強く山上は難義、書中の印を進上	類聚雑要4巻・儀式10巻合5・明月記8冊・補任6冊返上	A-1-2-157(559)伊	折紙
西条主馬□□(花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保12).正.13	勝見杢之介・喜多隠士書状に続く内容	年末に勝見氏が来て江戸で新式鉄炮採用についてうまく事が進んでいるようだと話してくれた、今年早々に返事が来るかも知れないので成来の書を急ぎ調え勝見氏へ進上するので御覧ください、鴨進上		A-1-2-159(562)伊	折紙
西東中務少輔	羽倉先生様尊下	(享保8).5.21	享保8.5.頃春満帰京	目出度御暇乞された御祝義です	一義調兼これのみ気の毒、打ち続き歌会興行を申し合わせる	A-1-2-156(558)伊	折紙
西東中務少輔	羽倉先生様人々御中	(享保12).12.15	享保12.12.6未のとき表二番より火いでゝ赤坂門にてしづまる(『徳川実紀』)	当月六日昼表二番町より出火糀町五六七丁目焼紀州上屋敷の叢通松平出羽守屋敷焼土伊伊予守殿で止まる、同月10日七つ過又二番町より出火拙宅軒下迄焼大名旗本夥敷焼、今泉外翁類焼	詠草を御目にかける、取り込んでいるので替詠はしない	A-1-2-159(562)伊	折紙
酒巻新助□(花押)	羽倉斎様	.8.5		(前欠)、養子斡旋願		A-1-2-156(558)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様机下	(享保8).9.23		主税上京準備	令集解料物金6両主税に持参させる、点取詠草添削依頼、当月18日瑞泉院亭で興行、次第に人少なくなる	A-1-2-159(562)伊	折紙
芝崎宮内少輔好安(花押)	羽倉斎様貴酬	(享保8).12.朔	享保8.11.22下田幸大夫書物奉行となる(『徳川実紀』)	下田幸大夫書物奉行に役替、主税11月10日学文所へ移る	大学11月17日から日本紀会開始、類聚国史、明年の月次兼題を図書より知らせる	A-1-2-159(562)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様貴酬	(享保8).臘.17		主税が気遣なく緩々逗留し学問一切立つようにしてくださるという春満に対し感謝	大学続日本紀会1627の日開催，主税令集解入手へ、雅経百首題の読みよう、当月会詠兼題点取添削願、当月吉田慎斎亭、来年1年分の兼題を春満へみせる	A-1-2-159(562)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保9).正.3		主税留学初の正月	当月25日秋田氏亭興行、歳旦歳暮の詠歌添削依頼	A-1-2-159(562)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保9).2.11	享保9年牧野駿河守御暇(『享保通鑑』)、享保10.4.22古今伝授書を春満から受け取る以前	今泉八九郎へ見舞外翁と初めて知人になる、八九郎は主人駿河守4月在所へ御越以後でなくては月並会へ出席できない、主税をお頼みします	古今集伝授書今年中に書写させてほしい、百人一首抄などぞ御貸し下さい、当月月次会芝崎亭で興行出席人数次第に減、東湖手跡門弟繁多になる、和歌の会には何とぞ出席をしたい	A-1-2-159(562)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保10).2.朔			主税御書物百人一首書写、芝崎亭吉田使い到来のため去月26日慎斎亭興行、慎斎欠席	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保10).2.3		富士中務5両為替、中務支配下に出入内証に事済にしたい、吉田慎斎病気、主税留学中	去月26日慎斎亭興行、慎斎欠席	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保10).2.8		富士中務為替、吉田使逗留中、主税留学中		A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様机下	(享保10).3.3	享保10.2.29板倉頼母宅より出火(『柳営日次記』)	2月29日湯島天神下板倉屋敷で出火	2月芝崎亭予定を吉田慎斎亭で2月26日病気快気のための臨時会、秋田氏3月興行	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保10).3.7		2月29日湯島天神下で出火	吉田真斎亭臨時会へ芥川小野寺出席	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様貴酬	(享保10).4.22	(享保10).4.木村図書書状に芝崎氏へ古今伝受書が送らた記事	主税のお供平内の代わりに御山伝治が上京	古今御伝授書御下し下され忝い、4月22日の予定を29日芥川亭で興行	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保10).4.晦		主税のお供平内父親の病気で国元へ、主税神書会出席	現存する名月記の冊数は?、4月25日芝崎亭興行、5月吉田慎斎亭興行	A-1-2-157(559)伊	折紙

芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 貴酬	(享保10).9.29	享保10.9.牧野駿河守参府(『柳営日次記』)	只今の寺社奉行黒田豊前守は大成経者、駿河守参府、主税令義解会へ出席	作庭記書写し春満へ、物部神書、9月28日芝崎亭興行秋田・今泉外翁・東湖出席、今泉八九郎・庄三郎主人の用で欠席	A-1-2-152(549)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保10).12.24	主税越年が複数、河内守発病を知る前	同氏主税儀弥宜奉頼候当年も貴亭ニ致逗留朝暮之御厚志難尽筆紙	来年正月兼題「露暖梅開」で芝崎亭で雅会興行	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保11).正.12	河内守、享保10.12.発病→同12.10.朔快復『家記』(信名)	主税留学中、河内守の旧冬発気を知る	当月25日芝崎亭興行	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保11).正.15	享保11・12年小出信濃守正月月番、(小沢文子「寺社奉行考」『幕府制度史の研究』S58.10.1吉川弘文館)、森暉昌書状「修理殿年礼より直に願之義ニ付在府」享保11.2.諏訪社殿修復願	今日例年之通御本丸江御年礼に罷出首尾能御目見仕、杉浦信濃守御年礼番に出府寺社奉行小出信濃守と名が差し合うため信濃守を修理亮へ改名		A-1-2-157(559)伊	折紙
好(花押)	羽倉斎様 貴報	(享保11).初春16日	森暉昌書状「修理殿年礼より直に願之義に付在府」享保11.2.諏訪社殿修復願	河内守保養のため主税学文所から旅宿へ、芝崎宮内少輔当年60歳、杉浦修理亮願に付き在府	山田大助・篠崎金吾が春満の門弟に、当月西東亭興行	A-1-2-155(557)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保11).2.28		今沢大進25日在府今頃は在所、伝奏方24日発駕来月7日江戸表着、吉田使者も来月6日に芝崎宅着、杉浦修理亮在府	25日西東亭興行出席者興津・東湖・杉浦・芝崎、不参今沢・秋田	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保11).6.28		村田忠庵聢と知れず、杉浦修理亮長期在府いづれとも埒明かねる	当月会西東直定亭興行、当座詠16首づつ詠む	A-1-2-56(893)万	切紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保11).8.28	河内守の容態	春満の胸痛回復、神田明神祭礼のため社頭の畳表替、河内守追日快然	柘植から春満への百人一首の抄2冊散木和歌集を芝崎書写、去25日今泉亭→芝崎亭興行杉浦・秋田・東湖・興津が出席、今沢は支配地出入理運になり26日在所へ	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 御報	(享保11).11.8	享保11.木村氏双林寺歌会出席(『神道大系論説編』)	春満の胸痛いよいよ快、木村隼人双林寺歌会出席し一昨日帰府逗留感謝	百人一首抄散木集を木村隼人から柘植氏へ返却	A-1-2-155(557)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保11).12.2		深尾左源治用人になり多仲と改名、木村隼人帰着、春満持病再発、松平権之介春満のために公辺へ運動中、主税旅宿変更届は松平権之助へ頼み北条遠江守へ話しを付ける	去月25日興津亭興行、出席者外翁・水谷・木村・蔵田、来年の月次会兼題杉浦等と相談、春満へ御目にかけたい、当月会芝崎宅	A-1-2-56(893)万	切続紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 閣下	(享保12).正.12		松平権之助が春満の下向につき大変心掛けている、春満の下向を待つが病身で下向出来ない旨は権之助へ伝える、旅宿変更届けは解決へ、去年は杉浦修理亮緩々在府、杉浦式部が留学するので主税留学延長、河内守無事に肥立ち	旧臘芝崎宅興行数歌百首題	A-1-2-152(549)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 閣下	(享保12).正.28	(享保12).秋田氏四十賀	秋田氏当年四十賀、主税伏見奉行所へ旅宿届けへ	森民部旧臘より在府のため披搆助韻をする、当月25日芝崎亭興行	A-1-2-56(893)万	切続紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保12).2.20	(享保12).2.23の代匠記を主税から落手した記事と重複	春満風邪で不快、富士大宮司帰国、森民部在府、木村隼人への包紙は主税方から落手、主税方の伝治を江戸へ戻す、杉浦氏いまだ出府なし	吉田使が代匠記ニ冊届ける、芝崎氏が秋田氏へ届ける	A-1-2-159(562)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 貴酬	(享保12).2.23	.閏正.28秋田民部書状に春満が迎陽文集を返却する記事	春満風邪回復、	練不老帖一冊春満から兵吉へ遣す、秋田氏へ迎陽文集并法帖・代匠記主税から落手	A-3-13(888)書	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 机下	(享保12).2.28	(享保12).秋田氏四十賀	興津氏不快、主税方へ吉田使に頼み春満宛の書状を届ける	先月7日興行、今月25日西東直定亭興行当座題百首題、秋田氏四十賀8日に興行	A-1-2-56(893)万	切続紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様	(享保12).4.3		斎歯痛、伝左衛門からの紙包と一封をおくります、主税留学中	当月会29日今泉正組亭、来月25日興津正辰亭	A-1-2-56(893)万	切紙

芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 貴酬	(12).孟夏(陰暦4月)22日	河内守の全快が近い時期、(享保12).4.諏訪社見分実施	春満胸痛、今沢大進支配下出入、真田伊豆守此間参府屋敷取込、主税不快が快気、河内守快方、杉浦氏は幕府の見分のため奉行所の指示で帰国	興津氏に代り芝崎宅興行	A-1-2-157(559)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 貴酬	(享保12).4.29	(享保12).秋田氏四十賀	春満歯痛快気、芝崎氏肩腕痛む、主税留学中、杉浦修理亮又出府	秋田氏四十賀詠歌添削下され感謝、去25日興津亭当月会興行、杉浦氏のすすめで息子兵吉も詠歌	A-1-2-56(893)万	切続紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 机下	(享保12).7.4		母霊号伝授依頼、村田長庵は忠庵の息子ではないか、主税留学中		A-1-2-152(549)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 机下	(享保12).10.18	(享保12).正.21杉浦氏書状に、息子式部の上京は諏訪社修復落着後に	杉浦式部当10月中旬上京修理殿より聞く、母零号を主税に御伝授、主税留学中	当月は西東亭月次会	A-1-2-152(549)伊	折紙
芝崎宮内少輔好(花押)	羽倉斎様 貴酬	(享保13).正.21		式部上京、主税留学期間延長学文所を又借りる、修理亮腫れ物で年礼不参	当月25日芝崎宅興行	A-1-2-159(562)伊	折紙
芝崎主税好寛(花押)	羽倉斎様	(享保8).6.15	享保8.11.22下田幸大夫書物奉行となり同年同月に芝崎主税が春満の学文所へ入る	春満道中無別条御帰京、主税当秋中に上京したい	恩借仕候御書物共大方写	A-1-2-159(562)伊	折紙
好寛	斎様	.9.20		好寛への返却金の延期了承	春満から好寛へ吉記一冊を持たせる	A-1-2-159(562)伊	折紙
(下田幸大夫)		(享保7).寅.2.8	寅年は享保7年、享保13..卒下田幸大夫		目録	A-3-11(890)書	続紙
(下田幸大夫師古)		(享保8).4.12	享保8.春満が幕府と関係が出来て以後で在府中	弥明日は例之時分御出被下候様仕度		A-3-11(890)書	続紙
(下田幸大夫師古)	(羽倉斎様)	(享保8).5.17	享保8.に春満が帰京する直前	今日登城、貴様御事御暇乞御礼旁雲平殿江御越…必御無用ニ	弓場鞆の図書載候書籍	A-3-11(890)書	続紙
(下田幸大夫師古)		(享保8).5.17	享保8.に春満が帰京する直前	近日御出可被下旨…御私用御取込たるへく候間必御無用	間鞆之義も申達候	A-3-11(890)書	続紙
下田幸大夫師古(花押)	羽倉斎様 貴報	(9～13).2.3	享保8.11.22～同13.4.9下田幸大夫書物奉行期間	木島乍事永々逗留之処御懇意之至御世話罷成		A-3-11(890)書	続紙
(下田幸大夫)		(享保9～12).5.13	享保8.11.22～同13.4.9下田幸大夫書物奉行期間		江次第闕巻書付…相済雲平殿へ遣	A-3-11(890)書	続紙
幸大夫	斎様	(享保9).6.22	『神道大系論説編』p614春満書状		神号釈之事御承知被成・扶桑略記目録落手御釈仕度・百練抄日本紀略恩借仕度・野狐之符之事老母奉願・令義解日本紀歌熟覧不仕	A-3-11(890)書	続紙
幸大夫	斎様	(享保9).8.9	『神道大系論説編』p583春満書状		日本紀自第9巻至30巻文字の誤仮名違い朱書入	A-3-11(890)書	続紙
下田幸大夫師古(花押)	羽倉斎殿	(享保9).12.15	『神道大系論説編』p580春満書状		伊勢祐和家伝は旧記共大島雲平殿一覧白銀七枚祐和へ	A-3-11(890)書	続紙
下田幸大夫	羽倉斎様	(享保10).正.5	『神道大系論説編』p578.580.581春満書状		日本紀略新写・蔵書目録・古事記	A-3-11(890)書	続紙
師古		(享保10).6.26	『神道大系論説編』p586.594.599春満書状		南朝紀伝・薪屋新右衛門所持之書目乱箱・花押・本朝世記	A-3-11(890)書	続紙
幸大夫	斎様	(享保10).6.29	『神道大系論説編』p599春満書状		国史之内六巻所持・民部主計主税不審之条々	A-3-11(890)書	続紙
(下田幸大夫)	羽倉斎殿	(享保10).8.13	『神道大系論説編』p577春満書状		類聚国史・弓馬其外古書・肥前国風土記稀有一本取出	A-3-11(890)書	続紙
下田幸大夫		(享保10.11.頃)	『神道大系論説編』p597・607春満書状	10月29日之御状覚書致拝見	類聚国史157巻所持の者有	A-3-11(890)書	続紙

師古	斎様	(享保11).2.4	『神道大系論説編』p644.645.650、享保12.3.28春満から大学の病で延引したが此度回答		小児之深除とは、河海抄致恩借度、大系図之肩書の冊と察し、喪葬令ニ凡三位以上とは	A-3-11(890)書	続紙
幸大夫	斎様	(享保11).4.24	『神道大系論説編』p558春満書状		去年七月類聚国史之内86.88.89.190.193.199	A-3-11(890)書	続紙
下田幸大夫	羽倉斎様	(享保11).6.18	『神道大系論説編』P625享保11.7.8春満名目抄落手,P650同12.7.2名目抄の内不審の条々先達而懸御目		名目鈔返進不書之条々御考被仰聞可被下候	A-3-11(890)書	続紙
幸大夫	斎様	(享保11).6.29	『神道大系論説編』p627春満書状		神武紀ニ自天祖降…、日本紀之内下御霊社之版と有之候神武之巻	A-3-11(890)書	続紙
師古		(享保11).6.	『神道大系論説編』p636～638春満書状		嬪・命婦・主殿司・女孺・半物・刀祢…(名目抄)	A-3-11(890)書	続紙
下田幸大夫	羽倉斎様	(享保11).9.18	『神道体系論説編』P586.624.628.636春満書状		職原抄書入本請取、根本世鏡抄承知、弘安礼節承知、念人称宜之儀落掌、政事要略・南朝紀伝・類聚雑用返進	A-3-11(890)書	続紙
下田幸大夫	羽倉斎様	(享保11).10.3	『神道大系論説編』p638享保11.12.21春満書状		刀祢とは、延喜式祝詞之文義は	A-3-11(890)書	続紙
下田幸大夫	羽倉斎様	(享保12).閏正.9	閏月が正月なのは享保12年		仮名装束抄・御家蔵西宮記北山抄借用依頼	A-3-11(890)書	続紙
師古		(享保12).5.11	『神道大系論説編』p573.641.643	旧年松平権之助殿より貴様御書入之令義解三冊為持被遣請取申候(享保11.霜.14松平権之助書状中に近日中に下田氏へ遣す旨の記述あり)	政事要略所持巻数報告依頼、令義解和解出来候哉、名目抄不審坏明、延喜式祝詞出来候由	A-3-11(890)書	続紙
幸大夫	斎様	(享保12).8.9	享保12.5.11師古書状の続きでは		延喜式祝詞巻和解下書大概出来	A-3-11(890)書	続紙
師古	斎様	(享保12).9.9	『神道大系論説編』p690、享保12.10.20春満書状		雑令・延喜式雑式…歩の変化について教えを乞う	A-3-11(890)書	続紙
(下田幸大夫)		(享保12.11.)	『神道大系論説編』P649.650.689享保12.7.、享保12.10.20春満書状		職原抄追加書入、政事要略巻81請取、同63書写中、名目抄不審条々につき出来次第、肩宛図	A-3-11(890)書	続紙
杉浦信濃守国(花押)	春満先生玉案下	(享保9).10.8	芝崎主税勤学中で杉浦信濃守である10月8日は享保9・10であるが、10月9日書状が享保10年である事から	柳屋手代平六登る、春満の墨跡を平六へ渡してほしい、堂上方書き捨ての斡旋依頼、主税無事勤学	書物代・奉書代を大和の平六方から受取ってほしい	A-1-2-157(559)伊	折紙
杉浦信濃守国(花押)	春満先生玉案下	(享保10).3.5	森民部当正月御年礼…黒田豊前殿願之筋御尋、享保10.正.黒田豊前守月番	柳屋小左衛門上京するがよろしく、七右衛門カ番役となり2月21日江戸へ、森民部当年礼で在府中、黒田豊前守正月月番、関東出府となるかも知れず柳屋と一緒に行けない、去秋依頼した春満墨跡と堂上筆の世話を願う	今以御公用御座候哉	A-1-2-157(559)伊	折紙
杉浦信濃守国(花押)	羽倉春満先生玉案下	(享保10).10.9	享保10.7.7快存藤沢山入山藤沢世代継承(『遊行藤沢歴代上人史—時宗七百年史』1989補宜田修然・高野修著、)	柳屋小左衛門の養子左兵衛京用で登る、伏見稲荷で蹴鞠、杉浦式部は留学準備に儒書の大方・文選・延喜式神祇十巻・日本紀を読む、堂上公家筆跡の斡旋を依頼、教興寺が今秋又藤沢上人になる、主税留学中	浜松教興寺に古い歌書が数多ある	A-1-2-157(559)伊	折紙
杉浦修理亮	春満先生玉案下	(享保12).正.21	享保11.2.諏訪社殿修覆願出、同12.4.諏訪社殿見分実行、同12.7.修覆金500両下渡(『杉浦国頭の生涯』)	極月23日御暇被下、晦日江戸発足、正月5日帰宅、願之儀は追而案内次第出府仕候様申渡、民部今春年礼番在府中、根本氏病気すぐれず、式部は社の事が済んでからお願いしたい	世上困窮沙汰不絶候得共学文は日々繁盛、式部儒書之会読和歌無油断はげむ、詠草添削に感謝、閏月の題を御目にかける	A-1-2-159(562)伊	折紙
杉浦修理亮国(花押)	春満先生玉案下	(享保12).7.21	享保11.2.諏訪社殿修覆願出、同12.4.諏訪社殿見分実行、同12.7.修覆金500両下渡(『杉浦国頭の生涯』)	諏訪社見分のため4月江戸より帰国、5月中より6月上旬迄見分相済、御礼のため森民部7月6日に江戸へ、修理亮7月祭礼で一時帰国7月晦日江戸へ、春秋之物入神領旱魃、今年は春中旅客、堂上筆を頼	式部唐詩会無油断相勤	A-1-2-157(559)伊	折紙

(杉浦)国頭	東万侶先生玉机下	(享保12).10.11	享保13.5.式部は春満のもとにある(『杉浦国頭の生涯』)	式部儀20日発足と心掛、25日着、24日大津泊、修行之内ニ候之間絹衣類一切遣不申	柳屋手代藤七登候任幸便先西宮抄3巻進	A-1-2-56(893)万	切続紙
(杉浦)まさき	東丸様人々申上	(享保12).む月.23	(享保12).正.12芝崎氏書状に修理亮殿12月末帰国記事	修理亮江戸表大晦日に出立旅行つつがなく正月5日着、足袋進上	来月兼題詠草加筆を願う	A-1-2-159(562)伊	折紙
鈴木七衛門重(花押)	斎様足下	.正.15		惣左衛門につき私より御祝義申上候、私当年も江戸2月中出府		A-1-2-159(562)伊	折紙
曽祢崎隠士宗寿(花押)	東丸様□□	.霜.25		19日四条道場平瀬四郎左衛門入道又玄入来近衛様へは変わらず御出入、近藤父子から今大路殿へ頼事、貸し金が滞りにつき伊賀守殿の不興	森民部殿より御用達した諷本外題付2冊…、	A-1-2-157(559)伊	折紙
宗寿	信盛様	(享保6).10.2	享保6.松浦勘解由死去、根本大炊胤満が松島稲荷を預る	勝見に縁のある最勝院去夏鳥居類焼、大炊殿官職拝受、勘解由殿此度不慮の事松浦家相続可然、牡丹の事に付、大炊殿遠州へ御立		A-1-2-157(559)伊	折紙
高(花押)(多賀道員高惟)		.臘.19		方金100疋歳暮の御祝義の印まで		A-1-2-159(562)伊	竪紙
竹垣弥左衛門則純(花押)雨宮新兵衛正房(花押)九里磯大夫頼久(花押)	羽倉斎様人々御中	.正.15		啓年の御慶、駿河守無異、鮭進上		A-1-2-159(562)伊	折紙
武田采女恒名(花押)	羽斎様参人々御中	.2.4		数度書状差上たが御返事がない、私は3・4月参上するかもしれない		A-1-2-159(562)伊	折紙
武田采女恒名(花押)	羽斎様参人々御中	.8.25		先頃は御世話になったが無事に下着、来春上京し御礼を申しあげたい		A-1-2-159(562)伊	折紙
橘源蔵喜悦(花押)	羽斎様参人々御中	.7.3		去年霜月中在所にて婚儀、急に江戸詰めになる、吉田助六郎在所で快気に、春満が当9月出府と旦那から聞く		A-1-2-157(559)伊	折紙
橘興兆	羽倉斎様	.12.17		左門を自照院の養子に貰いたい		A-1-2-159(562)伊	折紙
正恒(花押)(田中孫左衛門)	羽倉斎様人々御中	.正.11		御祝詞のため先日は御出に預かり忝けない		A-1-2-159(562)伊	竪紙
玉置治右衛門直之(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保4以前).正.12	享保4.正.22荷田貝子卒	松浦氏から御老母様が達者と聞いている、玉置は毎日勤ている		A-1-2-159(562)伊	折紙
寺□や治右衛門直之	羽倉斎様貴報人々御中へ	.応鐘7		御用松茸献上当月4日に済み大慶に存じます、松茸の代りの見事なしめじ下され御礼		A-1-2-156(558)伊	折紙
柘植伝左衛門知清(花押)	羽倉斎貴酬	(享保4).正.16	来亥(享保4か)年夏上京	芝崎・木村・甫喜山などより御名を聞いていた、春満が先年江戸に下った時柘植は大坂に、今は江戸から伏見へ書状で教えを乞いたい、来亥年夏上京		A-1-2-159(562)伊	折紙
柘植伝左衛門知(柘氏の印文の印)	羽倉斎様	(享保11).如.11	延享元年柘植伝左衛門卒58歳	当年40歳に罷成、荷田の荷は何と訓しればよいか、深草の元政草山集にも荷田信詮の名がある	童蒙抄5冊拝借、旧事記の偽書再応再三お尋ね、流水抄4月迄御覧可被成、人丸歌不審，千載集、愚問賢注	A-1-2-159(562)伊	折紙
柘植知清	荷田春満公机下	(享保11).3.14	如月11日書状と内容が連続	信詮公の実名只今はノブノリと唱え、信名をマサと唱えるのであれば信詮は如何読めばよいのか草山集をよむ参考の為	観応の百首の事は後人の書き置で春満家本は不明、江戸で見た物に頓阿和文の歌とある、童蒙抄3冊の内第1・2二冊借用、9・10両冊返進、ほのぼのとの歌につき教えてほしい	A-1-2-159(562)伊	折紙
(柘植伝左衛門知清)		(享保11.10.)	(享保11).10.28秋田民部が迎陽文集の返却を春満に催促		迎陽文集御取出しなされた由、迎陽文集の内頓阿没後五句の願文経賢僧都の事を見たい	A-1-2-159(562)伊	折紙
柘植伝左衛門知(花押)	羽倉斎様机下拝上	(享保12).正.6	妹婚礼調う	旧冬愚亭同居の妹の婚礼は整った、当年大坂在番に当たり秋登る	万葉古風の作風の歌を拝見したい、旧冬芝崎氏に頼み書状進上、歳旦歳暮の詠歌を見てほしい	A-1-2-159(562)伊	折紙

柘植伝左衛門平知(キ与の花押)	羽倉斎様机下拝上	(享保12).正.15	享保11.8.28芝崎氏書状に散木・百人一首抄を伝左衛門から春満へ送るよう依頼、享保11年中木村隼人上京	妹儀縁組願上たところ極月26日仰せ下さる、薬服用の状態なので尊答を延引	木村隼人も上京し久々に御会合…帰府の時節散木1冊百人一首抄2冊御送られたのを受取、春満の詠歌を拝見した	A-1-2-152(549)伊	折紙
柘植伝左衛門知清	羽倉斎様	(享保12).3.27	享保12.7.15童蒙抄4巻を返却	来月14日頃番代わり江戸へ下るので童蒙抄4巻は井出へ渡してほしい	童蒙抄1・2合冊3・5巻書写終わり返進、4巻が出たら遣してほしい、人丸ほのぼのとの歌一通承りたい、古今本文序悟りがたい	A-1-2-159(562)伊	折紙
柘植伝左衛門知清	羽倉斎様	(享保12).7.15	(享保12).4.29芝崎氏差し出しの書状に春満が4月13日に差し出した書状の記事	4月13日差出の春満の書状は5月に柘植氏に届いた	二条良基公百首は全部を良基公作とする事は出来ないのではないか、童蒙抄第四を1冊詞林採葉第五を1冊返進御受取の由、詞林採葉書写中	A-1-2-159(562)伊	折紙
柘植伝左衛門知(花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保13).極.朔	酉年は享保14年	来酉の春に登る、来秋摂陽在番かは計りがたい	万葉抄延引したが書写し終わったので返呈	A-1-2-155(557)伊	折紙
知清上		.11.朔			和歌の神はスサノオかイザナギか衣通姫か	A-1-2-155(557)伊	折紙
中井忠蔵誠久(花押)	羽倉斎様	.7.10		勝見氏への一封届けます、別書で申し上げる間違いは弟病廃や一家の存念からご推察下さい	吐懐篇2冊補翼8冊は受け取った、代匠記も近日中に返却なさる事は承知	A-1-2-155(557)伊	折紙
永田治大夫祝(花押)	羽倉斎様	.正.9		先頃は御祝儀のため早々御出下さり忝じけない		A-1-2-159(562)伊	竪紙
根本大炊頭治(胤の字の花押)	斎先生様貴下	.正.11		根本公儀勤できずに療治、扇子代少進上、要介は当分上せない		A-1-2-159(562)伊	折紙
蜂屋新右衛門(花押)・原将人事由井八九郎(花押)	羽倉斎様御報	(享保6).7.27	享保6年松浦勘解由卒	春満眼病・手疾、兄松浦勘解由急症で卒、近々養子を勘解由と改名名跡相続させるので宜敷御取計ください		A-3-4(950)書	折紙
富士中務少輔信(花押)	羽倉斎様呈座下	(享保8以降).12.12	芝崎主税が京へ留学した後	当暮は少々金子が入り返金したいが娚の年内婚礼のため殊の外物入が多く…、歳暮目録の通に進上、道員殿大学殿主税殿へも宜敷		A-1-2-157(559)伊	折紙
富士中務少輔信(花押)	羽倉斎様呈座下	(享保11).11.29	木村図書成従書状により参宮は享保11年	先比成従丈も参宮之序に上京と聞いたが拙者はその時は江戸にいる、終年の嘉義を申上ます	愚詠を神田迄送るようにいわれ送ったが添削してもらえなかった此手紙には返事を下さい	A-1-2-157(559)伊	折紙
富士中務少輔信(花押)	羽倉斎様呈座下	(享保11・12).正.17	春満が体調不良や忙しかった享保11・12年頃か	手紙を出しても返事が無いが、歳暮御祝儀、長野氏へもよろしく	当年の江戸兼題も進上するので御添削してください、忙しいので江戸会のみ詠むだけ	A-1-2-157(559)伊	折紙
富士中務少輔信(花押)	羽倉斎様呈貴机下	.正.7		旧冬2度手紙で伝えた通り牡丹を送ったが1本は折れ1本は芽を損なった、秋田氏とますます懇意になった、近年に悴蔵人を春満家に頼む為に上京	百首の春草・江戸会の詠添削依頼、当年の兼題は江戸の秋田氏から知らせが来た、春満と門弟の歳旦歳暮の写しがほしい	A-1-2-157(559)伊	折紙
藤森大膳大夫	羽倉斎様	(享保8以降).12.朔	芝崎主税留学中		日本紀神代巻2冊春満の書状と共に落手、主税殿へ日本紀次の巻は来春に願いたいと伝えてほしい	A-1-2-155(557)伊	折紙
牧野頼母正隣(花押)・山本勘右衛門政義(花押)	羽倉斎様	.正.23		駿河守への年賀状の返礼		A-1-2-159(562)伊	折紙
牧野頼母正隣(花押)	羽倉斎様	.2.5		駿河守への年賀状の返礼		A-1-2-156(558)伊	折紙
牧野駿河守忠辰(花押)	羽倉斎様	(享保4).2.21	享保4.正.22荷田貝子卒	春満の老母死去の見舞		A-3-2(970)書	折紙
牧野駿河守(花押)	羽倉斎様玉座下	.正.29		領地之一種書面之迎迄ニ令進入之候		A-3-3(891)書	折紙
牧野駿河守	春満					A-3-1(70)書	軸
松浦勘解由正(花押)	羽倉斎様拝状	(享保6).6.5	享保6年松浦勘解由卒	松浦勘解由体調不良、勘解由方への養子斡旋願		A-1-2-156(558)伊	折紙

松浦甚兵衛正懐(花押)	羽倉斎様再答	(享保6).7.26		松浦勘解由死去の為勘解由方への養子斡旋願		A-1-2-156(558)伊	折紙
松浦甚兵衛正懐(花押)	羽倉斎様	(享保6).後7.19	閏7月があるのは享保6年	松浦勘解由死去の為勘解由方への養子斡旋願		A-1-2-156(558)伊	折紙
松下久米右衛門(花押)	羽斎様貴報人々御中	(享保10～12).11.15	西条主馬が新式鉄炮を考案したころ	勝見氏西条氏上京の折松下家へ来たので春満宛に麁肴を差し上げた返礼に対する返礼	歌書お尋ねに付き松下も探している	A-1-2-155(557)伊	折紙
松下源助□(花押)	羽斎様参人々御中	.7.29		始而参上寛々得御意其上段々御饗応…右御礼		A-1-2-157(559)伊	折紙
(松平権之助)信允(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保7).正.14	享保6.8.25牧野忠辰隠居し、同7.8.6卒するまでの間に出された書状	中条対馬守は拙老悴舅、故実のわけについては知らない事もある、御用も様子よく勤めたいということだがそれにつき貴様の御噂をした、若堂上方で滞ったなら貴様へ相談するように話した、上司屋敷へ来てほしいと対馬守方より言って来たなら出かけてほしい	此節は上にも故実御尋、近頃は日本の書籍御尋の書付等が出された、此節は何としても江戸にいた方がよい、令集解抔も御尋なので前方から調置此度指し上げた、御尋の書物を御所持なら御上げなされたほうがよい	A-1-2-157(559)伊	折紙
松平権之助信(花押)	羽倉斎様座下	(享保7).2.16	(享保7)正.14の書状を読んだ春満の返書に対して出したのでは	年初の御嘉詞下され浅からず思う、中条大和守への御状は届けた		A-1-2-157(559)伊	折紙
信允(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保8.5.以後).8.18	享保8.5.頃春満帰京以後	書き置した儀共を存出し又は書留等も折々見るれば事の外心持足りには成るが…只今の通りでは一生達道はできない(出府を促している)	御在府中に神教共に情を出し御伝受をうけるべきであったと今更後悔している	A-1-2-158(562)伊	折紙
松平権之助信富(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保9).4.28	享保9.4.朔　大坂町松平孫大夫赴任の暇たまはり叙爵して日向守と称す(『徳川実紀』)	根本大炊頭と私宅であう、勝見杢之介の事を松平日向へ依頼、日向大坂在勤のため爰元発足	下田氏御文段々候哉、何とそ古書御差出被成候得	A-3-5(886-1)書	折紙
松平権之助信富(花押)	羽倉斎様御報	(享保10).4.29	芝崎・木村両氏書状により享保10.4.に古今伝授書が送られた事が分る	眼気未然と無之由、根本願之義も貴様思召之通具申	御秘蔵之古今伝来の書(古今和歌集伝授書写本23冊)写本被成遣御心入忝、この伝東野州末流、下田幸大夫へ見廻…不絶御用有之珍重	A-3-10(889)書	折紙
松平権之助信(花押)	羽倉斎様御再報	(享保10).10.13	享保10.9.12肥前国風土記一冊御小納戸ヨリ渡る『幕府書物方日記三』	地黄丸調合出来次第指上る、三里灸は眼気にもよい、図書度々参る、円やうも参る、大坂にて安右衛門無事被仰聞も此方へは書状不参	西瓜音之儀被仰聞、本所学問所内証向不調之沙汰、先頃下田氏へ肥前国風土記真紀被差越重畳御仕合、御伝筆外へは無沙汰可仕旨相心得、詠草御加筆	A-1-2-157(559)伊	折紙
松平権之助信(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保11).9.26	木村図書書状により参宮は河内守発病の翌年享保11年	木村図書が参宮のあと御見廻のためにそちらへ立寄と言う事である、勝見杢之介事此度首尾よく行くようにと思う、未だ明き伺は済でいない、図書神田祭礼後改名		A-1-2-157(559)伊	折紙
松平権之助信富(花押)	羽倉先生様御再報	(享保11).霜.14	木村図書書状により参宮は河内守発病の翌年享保11年	食養生肝要、地黄丸の調合は橘隆庵に依頼、出来次第送る、隆庵娘婚礼取込、木村隼人当月6日帰る、松茸不作は隼人から聞き了承	歌道の儀は行々は隼人へ残らず御伝なされ、古今集一部の伝は折あらば下田氏へ、古書の儀は下田氏へ、令義解一冊は下田方へ近日から其元から上げると言っていた	A-3-7(886-5)書	折紙
権之助	先生様人々御中	(享保11.12).14	深尾多仲と改名(11).12.2芝崎氏書状記事	本願と養生のため出府をうながす、下田氏よりの御用筋・奥向きの用事もある、門人・御家人も多くなった、深尾左源次は用人になり多仲と改名、大学の母儀は気の毒		A-3-9(886-3)書	折紙
松平権之助信富(花押)	羽倉河内守様人々御中	(享保11).12.24	霜月14日地黄丸の続き	同氏斎方へ約束した地黄丸を町便で遣すので御届下さい		A-1-2-159(562)伊	折紙
松平権之助信富	羽倉斎様人々御中	(享保12).正.3	享保12.正.6かたがたに御使たてらる、京には高家中条大和守信実(『徳川実紀』)	旧冬被仰聞候地黄丸橘隆庵へ申談調合出来指上候ハヽ御服用可被成、隆庵娘婚礼取込、中条大和守当月15・16日頃爰元発足、為養生本願御下向可被思召立		A-3-8(886-4)書	折紙
松平権之助信富(花押)	羽倉斎様人々御中	(享保12).正.14	享保12.正.6かたがたに御使たてらる、京には高家中条大和守信実(『徳川実紀』)	中条大和守明15日爰元発足京着4・5日逗留、御会い成され御用等御勤めの話しをしてはどうか、当月5日深尾佐源次に城外見廻りの時に会った	訓点書物ができたなら指下してほしい、去月大和守へ遣わされた装束の書物を写し置いた	A-3-6(886-2)書	折紙
松平右門信就(花押)	羽倉斎様	(享保12).12.23	元禄5.14歳、寛延3年正月14日72歳死去、50歳になるのは享保13年	権之助義来年五十歳ニ罷成候来秋九月比年賀祝可申と存候貴様御出題頼入存…四十之賀之節は中院家より	木村隼人益懇意罷成近キ比は拙者義も和歌之直しをも請申候而段々心入不浅致大慶候	A-1-2-159(562)伊	折紙
為(花押)(松本築後為絢)	羽倉先生様	.7.13		魚三枚素麺拾把中元之御祝詞申上候		A-1-2-159(562)伊	竪紙

為(花押)(松本築後為絢)	斎先生	.12.28		先日以後は打絶不得貴慮、鱈二尾歳末之御祝詞旁進上	何角家用御座候ニ付御会江も久々御断申出座不仕	A-1-2-159(562)伊	竪紙
豊義(花押)(宮城弥右衛門)	羽倉斎様人々御中	.正.11		為御祝詞早々預御出忝奉存候		A-1-2-159(562)伊	竪紙
三宅政之進□(花押)	羽斎様・羽民部少輔様参人々御中	.弥.13		当社中の武田氏が春満の門弟に成りたいと考えている	神書については初学であるので御指南を願いたい、神書は日本記の素読をしている	A-1-2-157(559)伊	折紙
村井久右衛門政方(花押)	羽倉斎尊師	(享保10).10.6	(享保11).1128春満は残り8冊を村井氏へ送る『神道大系論説篇』P631		兼ねて願望の伝授下され15冊たしかに請取	A-1-2-159(562)伊	折紙
村井久右衛門政方(花押)	□□□尊師	(享保10).12.7	(享保11).1128春満は残り8冊を村井氏へ送る『神道大系論説篇』P632	在京中は御世話になり鮭一筒進上	古今残りの分は手代の武兵衛へ遣わしてほしい、春中緩々詠草	A-1-2-159(562)伊	折紙
(森)暉昌(花押)	羽倉先生足下	(享保11).3.2	芝崎氏書状により年礼から引き続き江戸長期逗留は享保11年と推定	杉浦修理亮殿も御年礼より直に願之儀で在府、段々様子もよい、表嘉儀迄、芝崎主税殿は今年も在京か		A-1-2-157(559)伊	折紙
柳瀬小左衛門方塾(花押)	羽斎様玉案下	(享保11).6.2	(享保11.)勝見杢之介書状に大学むずかしき病	4月久々に参上、大学殿気分は如何、本郷いせや吉兵衛信州様に3・4日滞留		A-3-14(958)書	折紙
柳瀬小左衛門	羽斎様	(享保12).3.29	(享保12).孟夏.22芝崎氏書状に春満の歌会に柳瀬氏出席記事	折々参上御馳走になるが迎えが来た為御礼に行けず酒代進上	27日歌会出席、古今集逐一被仰聞	A-1-2-157(559)伊	折紙
柳瀬小左衛門	羽斎様玉机下	(享保13).2.7	(享保12).4.諏訪社殿見分、同12.7.修覆費500両下渡	諏訪社中普請に取懸、当春式部上京、近所に芝崎氏住居町内にむずかしき義出来	唐歌三体詩式部朋明から代銀、会始の和歌延引、2月兼題の添削を願う、年内立春感吟	A-1-2-56(893)万	切続紙
柳瀬小左衛門	羽斎様玉案下	(享保13).2.12	(享保13).2.7町内にむずかしい事ができ	一類中之内にかなわざる義あり、町内に入くみ事できる		A-1-2-56(893)万	切続紙
柳や小左衛門	羽斎様貴酬	(享保13).3.25	享保13.4.将軍日光社参	春満胸痛、姪娘悴婚礼相済出京しようとしたが将軍の日光社参がすむまでは他国への移動は禁止		A-1-2-56(893)万	切続紙
柳瀬小左衛門方塾(花押)	羽斎様玉案下	.正.24		白銀百包進上	去冬の兼題正月の兼題の加筆を願う	A-1-2-159(562)伊	折紙
山口寿斎正義(花押)	呈羽倉先生几下	(享保12).8.5	秋田氏四十賀であれば享保12年	老母からもよろしく	来月の月次会・去る御方四十之賀詠草添削依頼、松に有歓声との出題	A-1-2-159(562)伊	折紙
山口寿斎正義(花押)	羽倉先生玉几下	.正.15		年始の祝詞を申上るため御肴1種進上、老母も無事	詠草添削依頼、隙があれば会席へ出たい	A-1-2-157(559)伊	折紙
山口寿斎正義(花押)	羽倉先生玉几下	.正.15		年始の祝詞を申上るため御肴1種進、老母旧冬より病気回復せず		A-1-2-157(559)伊	折紙
山口寿斎正義(花押)	呈羽倉先生几下	.8.28		6・7月雷雨多く本所大出水	詠草添削に感謝	A-1-2-155(557)伊	折紙
山本平太夫広満(花押)	羽倉斎宮様貴下	巳(正徳3か享保10).10.晦	巳年は正徳3年、享保10年	御神幣一本当年中に手に入れられるよう大宮通屋敷役人村田一左衛門へ渡してほしい	御門弟にしてほしい、誓約文御差図にする、御伝授は御書物で教授してほしい、書面で難解な所は黒田正足へ尋ねる	A-1-2-157(559)伊	折紙
山村源八	羽倉斎様	.12.24			今日七つ時までの約束で借り受けた弘仁式は可然本であろうか	A-3-17(974)書	切紙
吉田天台良	羽斎様	.11.15		同苗助六郎去月28日城から帰宅後急死、春満が江戸へ下った時約束した老母霊号を付けてほしい	助六郎は門弟が多く落命まで1ヶ月に6度づつ講釈していた	A-1-2-157(559)伊	折紙
吉田助六郎倫(雄の字の花押)	羽倉斎様参人々御中	(享保4.正.23以前).6.14	春満9月に帰京当春早々上京、母貝子存命中	春満去9月帰京した事を知らず竹垣弥左衛門から当春早々上京と聞く、助六郎は仙台へ行き去4月下旬在所へ帰った、留守中娘散々相煩、御母公様始主膳殿源六殿御家内御別条なく	駿河守も去冬に病中より神代の巻拝聞上巻大方済ませたと今日橘源蔵方より言ってきた、何卒来年中も御在府してください、来夏は共として登るので神代巻所々を直接請たい	A-1-2-157(559)伊	折紙
吉田助六郎倫(雄の字の花押)	羽斎様	.2.3		深尾源六殿真田伊豆守の御手医者の薬で回復わしの羽は在所の者へ頼む	神書・和語の工夫を心掛けている、国号伝は神代巻の内だけでも相伝してほしい、今泉岡右衛門から、相伝されてない日本紀中の歌を伝授されているが分らない所がある	A-1-2-159(562)伊	折紙
吉田助六郎倫(雄の字の花押)	羽斎様	.卯.25		駿河守参勤も近々になったが助六郎は共にならない、旦那の浄衣ができ満足している		A-1-2-159(562)伊	折紙

為(胤の字の花押)	羽倉斎様	.7.14		一籠十節中元の御祝儀		A-1-2-157(559)伊	竪紙
重規	羽倉斎様足下	(享保11～12).正.9	河内守、享保10.12.発病→同12.10.朔快復	河内守殿ご気分はいかがであろうか	詠草御一覧下されか、当月22日兼題の懐紙と出座は忙しいためやめる	A-1-2-159(562)伊	折紙
親芳	羽倉斎様	.2.24			公宴御会始の写し進上、10日差出の愚詠添削依頼	A-1-2-156(558)伊	折紙
桃庵	羽斎様	.臘.21		春満先日腹痛、最前お借りした方金今日まで延引段々困究	題違の短冊を送ってしまったが春来改めて差上ます	A-1-2-159(562)伊	折紙
連久	羽倉斎様	(宝永2).7.5	天竜川大洪水を伝えた書状の前に差し出したものであれば宝永2年	岡部氏系図 肩の痛みは回復したか、8月御下向と聞いた、煎茶一袋進上、17日天竜川洪水夏作物一円無之、先所にも申した通り城主伯耆守に奉公の為賀茂道久の様に家系図をしたためた		A-3-1(879)書	続紙
(連久か)		(宝永2.8.)	宝永2.8.17の天竜川大洪水であろうか			A-1-2-157(559)伊	折紙
信舎	東麿先生	.11.6			四条経師から打紙三帖請取出州へ本と一所に渡し新写を申付けた	A-1-2-159(562)伊	折紙
信章	東丸雅公	(享保11).正.7	芝崎・木村書状		和歌添削依頼 「露暖梅開」	A-1-2-155(557)伊	折紙
(荷田貝子)	(荷田春満)					A-1-3-20(34)詠	続紙
(荷田貝子)	(荷田春満)					A-1-3-20(34)詠	続紙
(荷田貝子)	(荷田春満)					A-1-3-20(34)詠	続紙
めうしん	はくらいつき様	.5.11				A-1-3-20(34)詠	続紙
めうしん院	斎殿	.12.朔				A-1-3-20(34)詠	続紙
(荷田貝子)	(荷田春満)					A-1-2-50(962-2)万	折紙
母	はくらいつき様	.7.15				A-1-2-50(962-1)万	折紙
妙寿院	はくらいつき殿参人々御中					A-1-2-157(559)伊	折紙
凡俗	御叔父様	.6.28				A-2-115(980-3)書	切続紙
しんせういん	羽倉いつき様	.3.28				A-1-2-159(562)伊	折紙
しんせういん	はくらいつき様	.5.24				A-1-2-159(562)伊	折紙
しんせう院	はくらいつき様恐々申之	.8.27		きわめ札のほせ申候ニ付よろしく御頼あけまいらせ候		A-1-2-157(559)伊	折紙
しんせう院	はくらいつき様	.12.5				A-1-2-155(557)伊	折紙
しんせういん	はぐらいつき様					A-1-2-159(562)伊	折紙
しんせういん	はくらいつきさま参人々御中					A-1-2-151(548)伊	折紙
しんせう院	はくらいつき様					A-1-2-155(557)伊	折紙

七七　享保十三年十二月一日　柘植伝左衛門知清書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五五(五五七)

尚々、以別紙申上候事／御覧被成御賢慮承度／奉頼候、尤馳走ニ及不／申所存ニ御座候、一紙ノ才芸／仕度承合申候、以上、

一筆致啓上候、弥／御別条無御座厳／寒御座候得共無御障／御堅固被成御座候哉／承度奉存候、芝崎殿／と折々御出会御噂／申出候、万葉抄一冊／乍延引返呈仕候、／御請取可被下候、御願ニ而／写留申候、大悦仕候、此跡／段々可進上仕候、何角／其以後御無音申上候儀／御免可被下候、

一来秋は摂陽在番／罷登申候順ニ相当候、／如何決定可罷登候哉／否ハ難量人世ニ候へ共、／来秋不罷登候ともとかく／来ル酉ノ春中とも罷越／可申候、御近城之儀折々／以書簡可得御意候、／猶期後音之時候、恐惶謹言、

柘植伝左衛門

極月朔日　　知（花押）

羽倉斎様

人々御中

蹴鞠之書物御望候由被仰越候、私も／今少暖ニ成候ハヽ筑後守殿へ罷出可申／と奉存候、其刻参上積事共可得／貴意候、以上、

七六　享保十三年正月二十一日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙二紙　A・一・二・一五九(五六二)

尚以、余寒未強御座候へ共弥以／御堅勝御勤被成候哉承度奉存候、／将又愚息主税儀御深志之思召／被仰聞忝奉存候、左ニ申候通之了賢ニ候間／左様思召可被下候、諸事弥宜奉頼候、且又／歳旦歳暮之御詠其内被仰聞可被下候、愚詠／懸御目候間乍御六ヶ敷御添削可被下候、扨〳〵／歌よまれ不申難儀仕候心事期重便之時候、／手前愚妻も主税段々御世話ニ罷成忝由／可申進旨申候、已上、

去ル三日之貴翰同十三日ニ相達／致拝見候、如仰改年之御慶何国／も御同前重畳申納候、弥其許御／家内御揃御堅固御越年被成候由承／珍重不斜奉存候、同名主税儀も無／恙致加年候旨被仰聞忝致大慶候、／何角と御世話之上旧臘貴家御／学文所又々御借被下引移申候由、／重々忝奉存候御礼可申謝様／無御座候、先以当春之会詠旧臘／為差登候処御事多節委細／御添削被下別而忝奉存候、当月／廿五日私宅ニ而致興行候存之外／早ク御下被下忝奉存候、私宅ニ而も／何も無異儀致重年候、併何／角と取込其上十五日之晩より野子／余寒ニ中り、年始御祝儀申進候／義も及延引御不音非本意候、将又／年始御祝儀之印迄目録之通／弐百疋致進上候、

一柘植伝左衛門殿江被遣御状早速相／達申候、

一杉浦修理亮殿江被遣候御状も修理殿／飛脚被越候而則差遣申候、被仰聞候通／御年礼ニ当春修理亮殿御出府可／有候処、肩ニ腫物出来旅行難被成候／由、就夫寺社奉行所へ之御断野子方へ／御頼候故、其段奉行所へ申候へハ首尾能／御断相済申候、右腫物無御心許候処／段々御快気之由被仰聞候間、御気遣／被成間敷候、野子抔も年来之御名染ニ御座候へは腫物無御心許候、／御快由承御同前致大悦候、式部殿／其許ニて御聞噂々御気遣可被成候、／乍去御快段は浜松より御聞可被成候、／且又当春は其許も元日雨／降余寒強御座候段、当地も元日／雨降申候而于今余寒甚人々中り／申者多御座候、

一東湖和尚会詠御添削被遣相達申候、／忝由被申候、并愚息一学詠草も／御添削被下忝奉存候、一学へ相渡候／得は忝由宜申進旨申候、／一旧臘廿五日之貴翰当月九日相／達致拝見候、其節西東中務方へ／御状被遣早速相届申候、扨又主税／其許ニ留学仕候儀当年秋時分迄／罷在、夫より下申候由申遣候儀主税／咄御聞被成候旨、就夫杉浦式部殿も／九年御留学候間、主税儀も九年／致留学候様思召候由、左様差置候／儀成申間敷候ハヽ今一両年も差／置候へ之由、貴家ニ式部殿致御同宿候／得ハ物入も別宅仕候よりハ減少之義、／僕無之候而も不苦候間、平生之事ハ／少も気遣申間敷旨御懇情ニ／委細被仰聞、別而〳〵忝奉存候、左候ハヽ／来年中ハ留学仕候様差置／可申候、乍去無僕之儀ハ難仕候間、／乍慮外僕下シ候儀は致用捨候様／被為仰聞可被下候、弥宜奉頼候、猶期／後喜之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

正月廿一日　好（花押）

羽倉斎様

羽倉斎様

机下

七四　享保十二年十一月二十二日　喜多埜隠士(勝見杢之介)正景書状

「万葉童子問」紙背　切続紙　A・一・二・五六(八九三)

尚々、此紙包壱／大学殿へ御届方奉頼上候、／文ハ跡より上せ可申候、以上、

久松寺被仰伝被致／登京候付幸便之／呈一簡候、御病後／無御滞も御堅栄／被成御座段、去ル十九日／藤七殿より被仰聞珍重ニ／奉安堵候、当方無異／暮申候、風土記弥／偽書ニ付藤七殿より御／戻し入手仕候、一菅家万葉集と申／真な書所持候仁有之候、／珍書之由ニ而候、万一御／用とも候ハヽかり候而／進し可申候哉、且又／不珍候得共能便故／萩箸一包進上仕候、／此儀藤七殿へ御届／させ可被下候、今日も／還屋敷普請場ニ罷／有候故早々申上候也、

喜多埜隠士

陽月廿二日　正景（花押）

信盛様

参人々御中

七五　享保十三年正月五日　勝見杢之介正景書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚々、御堅歳可被成御座／目出度奉存候、岩橋藤七殿可為御無事／存候、古代□袋之写所持人米倉只右衛門方／先日用事有之手紙越申候、端書ニ／□袋之事ニ付相談申度義有之由／申来候得共、藤七殿御望之節早卒／手引□申候ニ付、返報ニ取敢不申候趣ニ／申遣、其後表只右衛門へ逢不申候、右紙面／貴公様迄懸御目申候、且亦平岡社家／水走右京権太夫所持歌書之事、旧冬／生玉松下掃部迄返答ニ書本ハ一部も／無之悉板本之由申来候ニ付、外題書取／可進不申候、九昌院書物多持被申候ニ付、向ニ／居申候町組与力ヲ以申遣候所大火ニ焼失申候由、／残候分書付参候右為歌書抔御用ニも可有／御座哉、其余ハ御用ニ立間敷候へ共、先書付并只右衛門／之儀共ニ懸御目申候、以上、

青陽之御祝詞不可有／尽期御坐候、貴□始所々／御家門中弥御安泰御加齢／可被成珍重奉察悦候、／旧臘御飛冊被下則廻鳳／并白山吹二本立一株進上／仕候、厥吉不得書慮奉／御無音候私宅息災迎年／仕候、御安慮可被下候、随而／如何鋪御坐候得共竹紙一包／備高覧候、猶期永春暖候、／恐惶謹言、

勝見杢之介

正月五日　正景（花押）

羽倉斎様

参人々御中

追而、北山季庵へ能序の御座候ニ付／日外之類聚国史之事尋候而は／町奉行所へ御尋候節指出、／其後御返「　」／処大火之砌焼亡、一冊も当時／所持不仕候由挨拶ニ而御座候間、／此段藤七殿へいつニても御咄被遊／可被下候、扨旧冬森民部少殿／より預御状、貴公様江御無沙汰／可申候能相心得申上呉候へと被申／越候、

ニ御座候、
一北山季庵事藤七殿よりも被仰越候付／覃承候段及御報ニ候、米倉手紙／被及御返候ニて断被遣御丁寧御事／奉存候、季庵大坂西本町二丁目北側居住、
一猪飼士頼藤七殿迄進候愚冊相達／御披覧被下由、被入御念御紙面承知、／御手ニ入候而安堵仕候、根本氏へ御報も御預り／置被下候由、乍御世話いつニ而も御序ニ御届させ／奉頼候、
一進藤源之丞殿貴宅へ御出候而、白山吹／葉薄藍色ノ色かほり候へ共白根見へ候付、／指木ニ而も根おろし証之強キ物故若芽／出可申と思召候由、御滞留中ニハ分明ニ知／可申由御咄候旨、弥枯候ハヽ可被仰遣候／のほセ可申候、エニスタノ事被仰下候、／御心頭被御労被下間敷候、
一南都興福寺勧化候義ニ付、御触未／貴辺ニ而御沙汰無之由被仰下候故写／懸御目ニ候、勿論御覧候上反古ニ被成／可被下候、先年　一門様江之御出入ニ／引候付申内、浅田九郎右衛門・近藤佐右衛門（平三郎事）／追々病死往旨存出候、佐右衛門ハ其元様ニも／御聞及候モノニ而御坐候、
一乍筆未河州公・民部少輔殿へ可然／御心得可被下候、於尊候御病気弥／被致御快復候や、乍憚御心得奉頼候、／先日道員公へも冷気御見舞ニ文進候、／定而可相届と奉存候私もかね〳〵／申上候通、本多筑後守殿へ参上仕度／心懸候へ共、留守人亦ハ供ニ召連候侍／之心当等且彼是当用被妨一日ニ被／及延引申候、其内不斗罷登可申と／奉存候、
恐惶謹言、

勝見杢之介

十月十二日　正景（花押）

羽倉斎様

御再報

七三　享保十二年十月十八日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五二（五四九）

尚々、御同名河内守殿へ／宜御心得可被下候、以別紙可／得御意候へ共却而御六ヶ敷も可有／御座と差扣申候、且又杉浦修理亮殿／御嫡式部殿も当月中旬御上京之由、／修理亮殿より被仰聞候、最早御上着ニ／可有御座候、主税も御同様ニ相勤大悦／可仕候、呉々主税儀宜奉頼候、已上、

折角取込書中無正躰候条御免可被下候、已上、

時分柄次第冷気募候へ共、弥以／御堅勝御勤被成候由致承知／珍重不少奉存候、私宅無異儀／罷在候間御心安思召可被下候、／先以母霊号之儀先達而主税／迄申遣候ニ付、霊号考主税へ／御伝授被下忝奉存候、就夫／今度六品主税と御相談被下／御考被下候由、主税方より差下し／一覧仕別而〳〵忝奉存候、／右之内ニ而相極メ可申と致／大慶候、愚息儀も祖母之／霊号之儀ニ御座候へハ本望成／儀御座候、御勤繁御中ニ／御考被添被下候而忝奉存候、先／為御礼呈愚冊候月並之御／添削も追付御下シ可被下と／忝奉存候、当月は西東直定／会亭ニ而御坐候、直定より委細／先達而申進祝儀之御詠も申／請候段致承知候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

十月十八日　好（花押）

当地叶坊上京候幸便／啓上仕候、残暑于今／不易候得共弥御堅躰／御暮、御一類中弥御安全／之御事御座候哉承度／奉存候、拙者嘉例之／無性御座候而久敷以書状／御安否不承御無音／罷有候、爰許私宅／并七右衛門方其外一類共／不残無難罷有候、／拙者儀も願之御見分／被仰付候故、四月下旬／自江戸帰国、五月中より／六月上旬迄首尾／能御見分相済申候、／大悦此事罷在候、／右為御礼民部事七月／六日ニ致江戸下向候、／拙者儀ハ今月祭礼／御座候ニ付来晦日ニ此元／発足仕候、来月中ハ／又々江戸在府可仕と／奉存候、多年之願相調／大悦仕外無御座候得共、／春秋之物入神領／旱跋、彼是今年ハ／勝而草臥罷在候、猶／重而可得貴慮候、恐惶／謹言、

杉浦修理亮

七月廿一日　国（花押）

春満先生

玉案下

七一　享保十二年十月十一日　杉浦修理亮国頭書状

「万葉童子問」紙背　切続紙　A・一・二・五六（八九三）

柳屋手代藤七登候／任幸便先西宮抄／三巻進申候、御請取可／被下候、弥式部儀廿日／発足と心掛申候、もめん／衣服せんたく物夫迄／出来可申候、大方／廿五日着可仕奉存候、／廿四日大津泊りと存候、／将又修学之内ニ候之間／絹衣服一切遣不申候間、／吉田へ見廻之事／当分ハいたさせ申間鋪候間、／芝崎吉田ニ而沙汰／無之様ニ御咄可被下候、／随分びんぼう成さま／ニ而学文情出候様ニと／申付遣可申候間、兼而／左様御心得可被下候、追而／民部登候節可申上候、以上、

十月十一日　国頭

東万侶先生

玉机下

七二　享保十二年十月十二日　勝見杢之介正景書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、御封印無相違候ハヽ／御返しニおよひ不申由畏入、今度も／火中へ投入申候、将又錣り込巻／御世話忝奉存候、御苦労かけ申／も迷惑御座候間七分ニ被成可／被下候、事すミ申義ハ省略／にて御再報不申上候、鎮西書籍／弓書之御内意得貴意申候、乍貴報去ル六日之貴章忝致／拝見候、御自分様御病気御快復被成、／御家門中御平安被成御坐目出度奉存候、

一源氏物語林岷江之有所承合申／進候所、珠城筋之事ハ最早万端御／捨被成候間、御取返し被成間敷由奉／得其意候、深キ御意味有之段も難／計候付兎角不及讃談筆止候、書付／二通御戻し候入手、一通ハ源六へ渡候、御伝書／詳ニ申達候承知被仕旨被申候、

一大学殿・藤七殿御状両封御届忝存候、／大学殿へ御報上セ候間御序ニ被遣可被下候、／藤七殿より被進候御切紙被下一覧之上／返進仕候、風土記之事ニ付御別簡被下候、／岷好年号虫喰等之義大方被仰遣趣ニ／相聞候得共、又如尊命万一真偽混乱／ニてハ残候義ニも存、折角かり置ニ付／今度四十巻共ニのぼセ申候、御覧之上ニ／御用ニ達候義候ハヽ早卒御写さセ御返シ／可被下候、指置先年御触候砌新写／仕候由

候哉、兼好ハ観応／元年ニ卒去ニて候、其上それより数年／過申候て嘉元ノ百首御座候、嘉元仙洞百首／トテ世上ニ流布仕候、百首部類ノ内ニも入申候、／此嘉元ノ百首ノ内モ右点取り百首ノ歌二十首余／御座候、右点取ノ百首ノ歌候已後ノ／撰集ニ入候ハ新後拾遺ニ入候、これニハ／詞書ニ百首歌奉之時分御座候而、嘉元トモ無之候、／新続古今江入申候ニハ詞書嘉元百首ノ歌／奉之時ト御座候、毎歌如此／御座候、左候へハ右点取ノ歌ノ内ヲ又々観応已後ニ／年来過二十首計も、嘉元ノ比ニ至り／仙洞江上ケ被申候百首ニ半も交ニ候ハン事／イカヽと被存候、右嘉元ノ百首ノ内ニ／二十首余も見江申候、残り六十余首ハ／嘉元ニモ無之代々ノ集ニモ入不申候へハ、／イカヽ実ニ二条殿歌ニて御座候トも難計候、／良基公御家ノ集ハ無之物にて候哉、世ニ残り候て／只今ノ二条殿ノ御家なとニも御座候哉、此段手筋も有之候ハヽ／承度事ニ御座候、已上、

当四月九日一封相認置候、為／貴酬関東迄同十三日之貴札／被下忝奉存候、端午ニ右之御返／冊芝崎氏より相届忝拝見／仕候、貴報ニ付再貴報も不申上候、／御平安之段承知大悦奉存候、／御胸痛今以御全快無御座候由／御痰にて御坐候哉、能々御保／護専要ニ奉存候、罷登候節／童蒙抄ノ第四一冊・詞林／採葉之第五一冊、右両冊／返進申候節御受取被成候由、／被仰下亦悦仕候、／

一詞林採葉今以書写相済不申、／当用彼是多ほか写物も／不仕候まゝ延々ニ罷成候、童便／一冊二冊も返収可仕候、

一ほのくとノ歌ノ事被仰下、已後／罷下り紀氏折紙ヲ見候へハ万々／不審出来仕候、万葉集第三ニ／入有之人丸、ものゝふの／やそうち河のあしろ木にノ／歌一首入候、万葉ニたしかに／人丸ニ御座候、弘仁ヨリ延長／マテノ歌にてハ決而無御座候、／不審ニ奉存候、序ニ弘仁／已来歌ニ御座候へ共其内／一首ニて、二首ハ弘仁已前ノ／歌も御座候哉、貫之古今集序千歌／古今まてニ候へハ千九十首余入候、／同序ニわつかにひとりふゆたり也と／書替申入候ても、六人ノ歌人ヲ／書しるし被申候、左候へハ新撰も／弘仁已来と候へ共万葉ノ歌も／一首入申候、左候へハほか義歌も／又々不審ニ奉存候、

一すへて人丸と申候人ハ、いつれノ国史記／ニも公卿補任ニも入不申候儀、／古来有之人にハ候哉承／度奉存候、

右之外ニ認重而又々可得貴意候、／不能詳候、恐惶謹言、

七月十五日　柘植伝左衛門
知清

羽倉斎様

七〇　享保十二年七月二十一日　杉浦修理亮国頭書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚々、御堅固御勤珍重／奉存候、乍慮外竈家／目代家芝崎氏其外／御心得可被下候、当春／之御返書到来大井川／之歌御たのミ可被下／之由忝奉存候、弥乍／御世話堂上筆／たのミ上申候、今年ハ／春中ハ旅客と／罷成、夏中ハ見分／進行祭礼、彼是一円／無心隙罷在候、例之／古き茄子ひ汁をたへ／申候て先今日迄于今／無事罷在候、女共は／先日比少々暑気／障申候得共此間ハ／全快申候、式部事／唐詩之会説有之候、／無油断相勤申候、／左重而可申上候、

意奉頼候、手前女共も／宜申進旨申候、已上、

去ル十三日之貴翰同廿日ニ相達／致拝見候、先以貴様御歯之御痛／此節御快気被成候旨被仰聞／珍重不斜奉存候、当年は／不勝之時候故当地なとも病人／多御座候、其上二三日已来／俄向暑気申候、野子なとも／左之肩腕痛致難儀候、併／気分ニ障候儀は少も無御座候、／其外家内無難罷在候間／御心安思召被下候、然は当月之／会詠為差登候処委細御／添削被下、并秋田氏四十賀／愚詠も御添削被下忝奉存候、／近比ハ愚息兵吉詠草も度々／懸御目、御面当成儀御添削／被下別而忝致大悦候、いまた／無十方者之儀御座候へ共、杉浦氏／御すゝめ被成候而詠候而可懸御目／なとゝ大慶仕候、数多之詠草／之内兵吉詠草迄御添削／被下忝奉存候、去ル廿五日ニ／興津氏亭ニ而当月会如例／相済致大慶候、又々来月之兼題／当座詠草掛御目候間乍／御六ヶ敷御添削可被下候奉頼候、／且又柘植伝左衛門殿御返状／被遣則相達申候、蔵田又左へも／御伝書も可申通候委細得／芳意申度候へ共、御覧も御六ヶ／敷と早々如斯御座候、猶期／後音之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

四月廿九日　好（花押）

羽倉斎様

貴酬

六八　享保十二年七月四日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五二（五四九）

尚々、御同氏河内守殿へ／宜御心得可被下候、将又先日被仰聞候／村田忠庵と被申御医師衆之事／知承申候、村田長庵と申ハ御座候、此長庵／忠庵之子息ニ而も御座候哉、少々存寄候／方御座候間長庵之方を承見可申候、以上、

追啓、主税方へ申進候通、野子母／霊号乍御六ヶ敷御考可被下候奉頼候、已上、

未残暑甚候得共其許／御家内御揃御堅固御勤／被成候哉承度奉存候、此間／当月之詠草為差登申候、／相達申候ハヽ御添削被成候而／如例御下シ可被下候、然は為／中元之御祝儀御肴代金／弐百疋致進上候、聊御祝詞之／品迄御座候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

七月四日　好（花押）

羽倉斎様

机下

六九　享保十二年七月十五日　柘植伝左衛門知清書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、二条良基公百首事京都ニてハ／取紛しかとも不申上す、江戸ニある方ノ稀本ニ／点取（トリ）類聚ト申候御座候、大部ナルものニて／後鳥羽院御点取ヲはじめて近代三条西／公条公点取まて御記候、冊数も大分御座候／ものニ御座候、その中ニも右二条殿頓慶兼ノ／三人ノ入点事流布ノ通ニ書入有之候へハ、右二条殿ノ／点取一冊もよほと久敷事と被存候、然共右之／百首観応三年ニ御座

頼候、／此紙包一ツ書状一封伝左衛門殿より／参候間御届申候、猶期後音之時候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

四月三日　好（花押）

羽倉斎様

六六　享保十二年四月二十二日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七（五五九）

尚々、御同名河内守殿弥／御快方之由珍重奉存候、然は／東湖和尚・大進方へ被入御念之御伝書／申達候、忝由可申進由申候、大進義／被仰聞候通又々支配下之者出入企候、／御奉行所ニ而御吟味候処大進段々様子宜／御座候、併御裁許無御座候間此方ニ致／逗留罷在候、先以其許ニ而申候月次之／御会弥主税方より差越致一覧候、／柳瀬氏も出席之由珍重存候、先頃より／杉浦修理殿柳瀬事御噂ニ而至極之／歌数寄之由承候、当地ニ而も／会徒すゝめのため左様成数寄様申度候、／扨又野子年賀来月十五日時分ニ／致興行候様ニと大進催申候、／就夫野子も挨拶なから一首仕候、／御覧可被下候、御添削奉頼候、手前妻／方へ被入御念預候、御伝書申聞候へは忝由／能々可申進旨申候、已上、

去ル十三日之貴翰昨廿一日相／達致拝見候、弥御家内無御別条／貴様御堅勝御勤被成候由珍重／奉存候、先日は御不快御胸痛／被成候旨曽而不

〔存ヒ〕

□候而、以愚冊／御容躰承不申御不音仕候、／併今程御快然之旨被仰聞／珍重奉存候、主税義も不快ニ／罷在候処快気仕候由致大慶候、／然は当月之会詠其外此度は／歌数多懸御目候処、御丁寧ニ／御添削被下別而忝奉存候、／何もへ御添削共相達申候、当月は／内々興津正辰亭ニ而興行／被申度由ニ而、何も興津氏之／亭へ出席申筈ニ候処、昨日／断ニ而、主人真田伊豆守殿此間参府／屋敷取込申故、拙宅ニ而勤／くれ候様ニとの事故、当月は私／宅ニ而致興行候、将又柘植／伝左衛門殿へ之御状・中井図書へ之／御状も相達可申候、杉浦修理殿へ／之御状も相達可申候、内々之願ニ付／御見分可被　仰付候間、可罷帰と／御奉行所ニ而被仰渡候而、此間帰国／被申珍重之御義ニ候、委細近日／以愚冊可得貴意、恐惶謹言

芝崎宮内少輔

孟夏廿二日　好（花押）

羽倉斎様

貴酬

六七　享保十二年四月二十九日　芝崎宮内少輔好高書状

「万葉童子問」紙背　切続紙　A・一・二・五六（八九三）

尚々、弥御堅勝ニ御勤被成候由／珍重奉存候、杉浦修理亮殿御儀／被仰聞候通、又々御出府御太儀成御事ニ候、／乍去野子なと度々得御意歌も／すゝめ、様々之義ともよミ候而致大慶候、／益友ニて御座候、御内方様御佳作共も粗／承候而驚入致感心候、且又杉浦氏御状／東湖より之一封・兵吉一封差登せ申候、／将又先達而懸御目候処々見解申候、／愚詠之義委曲被仰聞忝奉存候、／被仰下候趣得其

勝見杢之介

三月十八日　　正景（花押）

羽倉斎様

拝上

六四　享保十二年三月二十七日　柘植伝左衛門知清書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、童蒙抄一ノ二ノ合巻一冊／三四ノ巻合三巻返進仕候／儀計り申上候、御願申上候人丸ノ／ほの〳〵との歌の事、一通り之／大概にても承置度候、たとへ罷下り候ても／以書中可申上候、然共早々ニハ御願申候ても／御ゆるしハ御座有ましくと奉存候、／右以書中御願可申上候、古今ノ本文ノ／序文ノ心なと考申候ても、しかと／悟かたく奉存候、／取込申候て早々申上候、御免可被下候、／当番所ニ而認申候おつて申上候、

先比委細以書中申上候／節童蒙抄九十返進仕／候、其時分御受取可被下と奉／存候、然共外へ頼遣候間若／いまた御落掌不被成候ハヽ早々／御左右可被仰下候、相認候方へ／承尋可申候、

一其以後第一第二ノ合巻／第三第五御かし被下候、随分／いそき不残写取候、右之／分返却仕候、第四ノ巻／出候ハヽ被遣可被下候、若来月／十日比迄ニ御見出し不被成候ハヽ、／来月十四日比ニ御番代仕／罷下り候まゝ、荷物も十日比／ニ仕廻申候まゝ、十日過ニ至り被遣／被下候儀は御無用被成候様ニ／奉頼候、出井半兵も／来月罷登り可被申候まゝ、／半兵へ御頼被成置被下候へハ／江戸へ下候□（節）、又ハ当地／にて写申候とも致し給候／様ニ頼可申置候

一詞林采葉も写切可申存候へ共、／扨々下り前ニ至而御城内／種々御用事、其上江戸へもひしと／書便有之取込申候、相番／去年より中気相煩候仁／今以少し快方ニ御座候所、／とかく快無御座候まゝ昨朝／為養生支配江願申候て罷下り申候、／此儀ニ付旅粧之用事其外／何角病人之儀故ニ、私共／寄り合世話仕候儀日々ニ彼是／取込申候て、写物も難成候まゝ／延引仕候、是ハ残り候所江戸へ／三四冊も借用仕可申候、／左様被思召可被下候今日右之／用事故外之用事ハ不申上候、／已上、

三月廿七日　　柘植伝左衛門

羽倉斎様

六五　享保十二年四月三日　芝崎宮内少輔好高書状

「万葉童子問」紙背　切紙　A・一・二・五六（八九三）

尚々、御歯之御痛無御心許／奉存候、今程御快気被成候哉／承度奉存候、先状ニ申進候当月会ハ／今泉正組亭廿九日ニ被頼勤候、来月ハ／いつもの通り廿五日ニ興津正辰亭ニ而／可勤由ニ候、且又愚息主税義／弥宜奉頼候、愚妻儀も可然可申／進旨申候、已上、

任幸便一筆致啓上候、時分柄／及暖気候へ共未折々冷申候、／弥御家内無御別条御歯之御痛／御快御坐候哉無心許御様子承度／奉存候、将又来月之会詠共先／月晦日ニ為差登申候、御痛も／御快節御添削可被下候奉

貴酬

六二　享保十二年二月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状

「万葉童子問」紙背　切続紙　A・一・二・五六(八九三)

尚々、来月之会詠も／為指登候間乍御六ヶ敷御添削／可被下候奉頼候、何角と取込候書中／無正躰段御免可被下候、／且又旧臘私宅之会之節百首題ニ而／よミ申候歌とも懸御目申候、是も御手／透之時分御添削奉頼候、稽古之／ため二て候間御添削申請度奉頼候、已上、

此節漸及暖気候、御家内／御揃御堅勝御座候哉承度奉存候、／先月七日当月之会詠御添削／被下乍毎度忝奉存候、去ル／廿五日ニ西東直定亭ニ而如例／首尾能興行致大慶候、此度より／当座題百首題をよミつき／申筈ニて詠申候、依之御添削ニ／歌数多御面当なから三四首／程ツヽよミ申候、興津正辰ハ不快／御座候而出席無之候、無双之歌すきニ候／得共当春ハ余寒故にや、度々／闕座候而気之毒ニ御座候、乍然／兼題ハ詠出し被申候、扨又秋田氏／当年四十算賀先比八日ニ／被催候而、兼題ハ出席之方心次第ニ／無題にてよミ出し候へと被望候而／よミ申候、是も御やかましなから／別紙ニ認懸御目候間御添削／奉頼候、此間吉田之使者登之節／愚息かた迄以書状得貴意候、／相達可申候、主税義弥奉頼候、／何角と取込罷在候故早々如斯候、／心事期後音之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

二月廿八日　　好（花押）

羽倉斎様

机下

六三　享保十二年三月十八日　勝見杢之介正景書状

「万葉童子問」紙背　切紙　A・一・二・五六(八九三)

尚々、大目付彦坂／壱岐守殿先日中風被成御引／籠候由申来候、仍て鈴木／飛騨守殿大御目付へ御役／かへも可被成やと下説仕候、／左も候ハヽ爰元町御奉行へ／丹羽遠江守殿御息丹羽五左衛門殿／か、扨は松野八郎兵衛殿ニても可有御座／哉と下々申候、奈良仮御奉行も／被成候故大方ハ丹羽五左衛門殿ニ而も／候半と申候、且又此珍肴一尾／折節貰候間懸御目ニ申候、風味／如何無心元奉存候へ共先上申候、

私宅へ出入仕候喜助と申者／今夕登京仕候付幸便と／一簡啓上仕候、貴公様御安泰／御家族方御堅躰被成御座候や／承度奉存候、愚亭何も無／恙暮申候、庭前之牡丹当／年は苞形大振ニ出来仕候、／入高覧度御床敷奉存候、二月／十日委細相認同昼便ニ上せ／申候、茶碗被下候御礼も申上候、

一信富公へ旧臘七日向寒御見／廻指上候小簡之為尊答、閏／正月七日御書二月二日ニ渡辺／備中守殿用人中より入手を拝見候、／御機嫌宜被成御坐奉恐悦候、／干菓子一箱進上仕候御賞味／被為下由被仰下大慶仕候、正月／三日年頭御嘉祥奉申上候、／深尾多仲殿迄御無心申進候、／御届可被下と奉存候へ共今ニ／信富公より尊報不為返、多仲殿より／は閏廿一日御報被下御堅躰ニ／御勤、殊又御加恩御拝受候由／被仰聞、扨々御手柄抔重私迄／悦申候、俄ニ便承其上太融寺／参詣帰候得ハ客取込候付余事／申止候、恐惶謹言、

可申候、愚息義も此間／風邪ニ中り申候由流行之風ニ而／追付快気可仕候、／何かと御心添共忝奉存候、如仰／伝治下り事厥ニハ可有御座候へ共、／修行之ため左様成不自由も／いたし候、能候と奉存候、御世話のうへなから／弥御心被添可被下候奉頼候、且又被仰聞候／富士大宮司帰国ニて、杉浦修理亮殿へハ／いまた出府無御座候、森民部于今／在府ニ御座候、杉浦氏もやかて出府／可被申哉之由森氏被申候、已上、

幸便之条一筆致啓上候、／弥御家内無御別条貴様／御病も御快然之由承珍重／不少奉存候、此表無恙罷／在候先日は吉田使ニ代／匠記二冊、秋田氏方江被遣／紙包之書物御状一通、并／木村隼人方へ被遣候紙包／書物、主税かたより差下申候間／致落手、何も相達申候、／且又主税方之伝治差下／申候ニ付何角と御心添、御餞別も／被成被下候由申聞忝奉存候、／愚息主税義長逗留仕候ニハ、／人数御座候へ而ハいたしかたく候故／伝治呼下申候、弥愚息方／人すくなニ罷成候間御心被添／可被下候奉頼候、将又白絹／一端浅草のり一包任幸便／致進上候、御見舞之印迄／御座候、何も期後音之時候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

二月廿日　好（花押）

羽倉斎様

六一　享保十二年二月二十三日　芝崎宮内少輔好高書状

「芝崎宮内少輔書状」折紙　A・一・三・一三(八八八)

尚々、当月之会詠／御添削早速御下シ被下候而／当廿日相達致拝見候、此儀ハ吉田之／使発足之時分御礼申進候へキ、明／後廿五日ニ芝西東氏ニて会亭候間、／如例致会衆又来月之会詠共／可懸御目候、左之通兵吉方【より】（江）／思召寄法帖被懸御意忝奉存候、／吉田使発足之砌取込御礼書落／麁相成義共可蒙高免候、已上、

追啓、先頃当地本所火事之義／被仰聞候、よほとの大火ニ御座候へキ、／御察被通此辺ハ程遠／無別条致大慶候、本所ニ罷在候／縁者共之事無別条候哉と御尋／忝奉存候、縁者共近所／迄ハ類焼ニ御座候へ共縁者方ハ／別条無御座候、此間ハ漸暖気ニ成候へ共、／ひたと風立端々火事沙汰度々ニ而／気遣仕事ニ候、以上、

去月十九日之貴翰、去ル四日／吉田より之使罷下候節主税方より／相達致拝見候、先頃は少々／風邪之御気味之旨承無／御心許御座候処、弥御快御座候由／珍重奉存候、此表無異儀／罷在候、先以練不老法帖／一冊御到来之由ニて兵吉方へ／被懸御意思召寄忝奉存候、／則兵吉江見セ候へハ別而／忝段能々御礼可申進旨申候、／右之法帖頃日当御地ニ而も／とりはやし、兵吉も内々／望御座候処被遣被下忝由／申候、且又柘植伝左衛門殿へ／被遣候御返札相達申候、

一禁裏先月之御当座始之／うつし被遣被下忝奉存候、／将又秋田氏へ被遣候、迎陽／文集并御帖も封侭相達申候、／代匠記弐冊も主税方より／遣致落手候、右之趣当廿日／吉田之使発足之節書落候故／如斯御座候、追々自是可得／芳意候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

二月廿三日　好（花押）

羽倉斎様

人々申上

正月廿八日　好（花押）

羽倉斎様

閣下

五八　享保十二年正月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状

「万葉童子問」紙背　切続紙　A-一-二-五六（八九三）

尚々、当地ハ昨日も少々／雪降余寒甚御座候、其／御地ハ如何御座候哉、且又主税旅宿／御届伏見御奉行江首尾能御届／可申と被存候、嘸御世話と忝奉存候、已上、

追啓、私宅何も無事罷在候、／此趣主税へハ御達可被下候、先日／状遣申候間此度ハ状遣不申候、東湖より之／書状一封も御届可被下候、已上、

未余寒御座候得共貴家御揃／御堅固御座被成候哉承度／奉存候、先日は当月之会詠／御添削被下乍毎度忝奉存候、／御報は此間主税方迄遣申候／相達可申候、当月之会去ル／廿五日ニ於私宅会始首尾／能致興行致大慶候、如例／何も出席ニ而御座候、興津氏ハ／故障御座候而出席無御座候、／森民部少輔丈旧臘より当地／滞留故出座ニ而、披講助／韻なといたされ致大悦候、／将又来月之兼題当座之／愚詠懸御目候間、乍御六ヶ敷／御添削可被下候奉頼候、愚息／次男兵吉も旧臘網代之／詠仕候儀を、御褒美被仰聞／被下候段申聞候へハ忝大慶仕候、／依之当月之兼題当座も／よませ申候、隼人なと致相談候哉／懸御目度と申候間書せ候而／遣申候、是又乍御六ヶ敷御添削／奉頼候、其外東湖より之一封／山口寿斎より之一封も御届／申候、余ハ隼人方より可申上候、／尚期後音之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

五九　享保十二年閏正月九日　下田幸大夫師古書状

「下田幸大夫書状」続紙　A-三-一一（八九〇）

弥御別事無御座御気分／御快御座候哉承度奉存候、／拙宅相変儀無御座候、／然は日外致恩借置候／假名装束抄二冊、今度／致返進候、永々差置忝／次第存候、将亦御家蔵之／西宮記・北山抄之内当分／御入用ニ無御座候方少々御借シ／被下候様ニ仕度候、於恩借は／可忝候、是ハ久敷ハ留置／申間敷候間左様御心得／被成可被下候、以上、

閏正月九日　下田幸大夫

羽倉斎様

六〇　享保十二年二月二十日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A-一-二-一五九（五六二）

尚々、如斯書状認候処ニ／去ル十三日之貴翰到来／致落手致拝見候、貴様御事風邪之／御痛御座候而御不快之由、千万無御心許／奉存候、併御胸痛之気味ハかるく／御座候旨先は致安堵候、当地ニても／風邪流行、一通りつゝハ皆引風を／いたし、先以会詠懸御目候処御勝／不被成候砌、歌数御添削被下別而〳〵／忝奉存候、殊口端千尋なとの義御尋／申候所逐一被仰聞忝奉存候、被遣候御状共／皆々相達

しとけ申候、／去末ニハ少々歌に成候事も／可有之と存候、是故皆々／かり催し候間当年もつゝき／可申かと存候、将又根元氏／病気とかくすくれ不申候御義ニ聞え申候、／正月十六日比ニ出府申候筈申来候儀いかゝと／被存候、年若成仁笑止成事ニ御座候、

正月十七日出候御状同十九日／相届忝致拝見候、先以／其御地御拾饒貴館御安全／御越年被成候之由承知／珍重之御事御座候、御／年頭御祝詞迄茶代／百疋進上仕候、爰許／家内不残無異加年／仕候、拙者江戸表之様子／越年も可申かと存居候／之処、極月廿三日急ニ御暇／被下候故、私用も漸仕廻／晦日ニ江戸発足五日ニ／帰宅仕候、願之儀ハ追而／御案内次第ニ出府仕候／様ニと旧臘之申渡ニ御座候而／如何様春中又々出府／可仕かと被存候、民部事ハ／今春御年礼番役猶／逗留仕候、拙者儀去年中ハ／漸在所ニハ八十日余罷在候、／大方江戸暮申候、去年／両度之下向今年も又／下り可申候と被存候、度々之／旅行内外難儀仕候、／式部儀為に也候様被仰／下忝奉存候へ共、とかく社之／儀片付不申候間ハ内証／之力つゝきかね可申候之間、／此度仕廻候而為登可申と／存候、如何様ニも春中ニハ／被仰出可有之候様子ニ見江申候、／猶更春万慶可得貴慮候、／恐惶謹言、

杉浦修理亮

正月廿一日

春満先生

玉案下

五七　享保十二年正月二十三日　杉浦まさき消息

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九(五六二)

返々冬としハ少し／寒風ニ御障りあそハし、／御持病気御さ候ハヽ／段々御快、春をも御機けんよく／御むかへあそハし候よし、／承悦まいらせ候、御五もしさまも御息災の御事ニてにき〳〵敷／春御待被成候半と、かす〳〵／よろこひまいらせ候、さてハ／例ニまかせはま松足袋二／進上いたしまいらせ候、／相かハらすいく久しく／との事まてニ御坐候と、／此一つゝミ折にし江戸より／もらゐまいらせ候まゝ、／五もしさまへ進しられ／かしと、折文すく／上まいらせ候かと／又申上候、当月の／懐紙したゝめ上申候、／御出し可被下候、以上、

春の御ことふき／いつちも同し御事ニ／いわい納まいらせ候、弥／御機嫌よく御とし／かさねさせられ、一家中／いつれも御無事ニ／春ニ御うつり被成候よし、／此中修理かたへの／御状ニ承、御めてたく／よろこひまいらせ候、こゝもとニも／いつれも無事ニとしかさね／まいらせ候、修理事も／江戸おもて大晦日ニ／出立いたし、旅行／つゝかなく正月五日ニ／着いたしまいらせ候、留主ニも／何事なくまちうけ／まいらせ候、御心やすく覚し召／可被下候、冬とし／懸御目まいらせ候詠草とも／御覧被下、早々御越／あそハし被下、かたしけなく／そんしまいらせ候、又此度／来月兼題詠草／あけまいらせ候、よろしく／御加筆あそハし可被下候、／何とそ当年の歌そこ之程／兼題とも打つゝきよみ／まいらせ候て、おひ〳〵御めにかけ／まいらせ候様ニ、いたしたくそんしまいらせ候、めてたくかしく、

む月廿三日　　まさき

東丸様

被遣候ヲ写取置候間、外と違／左源次事候間借申候、／左様御心得可被成候、以上、

新年之慶賀不可有之／尽期候、愈御無事御重年／可有之珍重存候、手前／何も息才致加年候、／然は中條大和守義／年初之御使被／仰付、明十五日爰元／発足来ル廿六日比／致京着候、四五日は／可致逗留候、其中／御出京御逢御用等／御勤之義も委細／御咄被成置候様存申候、／将又旧臘ハ如何／御内証拝領物ハ無之哉、／末様子不承之候、／扨又先書被仰聞候／訓点書物共一通も／出来御著下之義候哉、／何角御心遣奉察候、／今程ハ御口中可為／御快然察申候、猶／期永日之時候、恐惶／謹言、

松平権之助

正月十四日　信冨（花押）

羽倉斎様

人々御中

五五　享保十二年正月十五日　柘植伝左衛門知清書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五二（五四九）

尚々、旧冬何角以書中も／不申上背本意奉存候、御免被成／可被下候、其上拙者家内手前ニ／罷有候妹儀縁組願上候処、／極月廿六日被仰付候、当春ハ早々／婚礼相調可申と心掛故之用／多取込罷有候、／江戸紅葉之出合も疎遠ニ罷有候、／和歌之□□懈怠仕候、已上、

陽春之御吉慶／際限不可有御座候、益御／勇健被成御座珍重奉存候、／御揃御清福御越年可／被成目出度奉存候、改年之／御佳儀申上度捧愚札候、／東武不相替致迎春候、／神田社中御堅固御座候、／私方無恙加年仕候御心安／思召可被下候、且又去年中／木村隼人も致上京候而／久々ニ而御言合珍重奉存候、／其時分帰府之時節／散木一冊・百人首抄二冊／御返被成御座受取候、御会之／御詠拝見忝奉存候、乍憚／御調被成候御詠歌と奉存候、／春来逐々御歌も承／度奉存候、且又紀氏願張ノ／降来再被仰下忝奉存候、／私儀早々貴答も可申上候処、／去秋中より痰差発不出申／勝不申故貴答も延引仕候、／抛筆硯も候而写物まて暫／延々ニ罷成薬服用仕候故／尊答延引仕候、永日万々／可申上候、私儀も当正月ハ／少々快気仕候、旧冬極月廿一日より／致出勤候、先年首御礼儀／可申上如此御座候、恐惶謹言、

正月十五日　柘植伝左衛門

平知（花押）

羽倉斎様

机下拝上

五六　享保十二年正月二十一日　杉浦修理亮国頭書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、御堅固珍重奉存候、／早春之兼題当座御加筆／忝奉存候、此懐紙ハ江戸へ遣し／可申候、此度又閏月之題／弥入御覧候、御加筆可被下候、／如来命世上困窮沙汰不絶／候得共、学文ハ日々に繁昌御座候、／京・江戸ハ其苦御座候迄此辺／同会までも学文はけむ時節ニ／罷成候、式部も儒書之／会読和歌無油断はけミ／申候、歌作候連中之会／今年も初会当月十六日ニ／仕候、いか様にも会をいた

詠草よりハ／いつれも出来申候由被仰聞致大悦候、何も／会徒中へも
咄候へハ喜悦申候義御座候、／乍御六ヶ敷其内御添削被成可被下候、
／当月詠草御添削も廿五日前ニ御下シ／可被下旨忝奉存候、弥廿五日
前ニなり候様／奉頼候、当年月次之兼題も為／差登候処宜題之由被仰
聞致大慶候、／杉浦修理亮殿も旧臘及月迫先帰国／申候様ニ、寺社御
奉行黒田豊前守殿より／被仰渡候而、旧臘晦日ニ浜松へ帰国ニて御座
候、／又々当二三月時分ハ出府可有由申候、／将又愚息兵吉義杉浦修
理亮殿／御世話ニ而歌詞なと御書被遣候、旧臘之／会ニも網代を読申
候故、是を入候而／可懸御目由修理殿被申候故、書入候而／御目ニか
け候、御褒美被仰下候故申聞候へハ／殊之外忝かり悦申候、私ニ而ハ
折々／よませ可懸御目候間御添削被成可被下候、／当時為致素読申候、
少々才能も／御座候へかしと願申事ニ候、
一為年頭之御祝儀御肴代弐百疋／致進上候、聊佳儀之験迄御座候、／当
春早々以書状も御祝詞可申／述之処、社用私用自由なから／何ヶと取
込及延引候、御同名河内守殿へ／年始御祝詞以書状可申述候へ共、／
御報も御六ヶ敷可有御座候故差扣／申候、宜様御心得可被下候、猶期
永日之／時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

正月十二日　好（花押）

羽倉斎様

閣下

五三　享保十二年正月十三日　西条主馬書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

改暦之御吉慶猶更／不可有尽期重畳申弘候、／御一家中様弥御堅勝ニ／
可被成御越年と目出度／奉存候、当方相替申儀も／無御座加年仕候、旧
臘押詰／勝見性御来駕被下、東武／御便委曲被仰聞忝仕儀ニ／奉存候、
被入御念被仰進被下候故、／武州ニて之御思召入も能様ニ／相見へ本望
之至ニ奉存候、／其節歳暮之御祝詞旁／以書中申上候相達可申と／奉存
候、今年早々武州御／返答も被遣可被下由承知／仕候、最早御通達も被
成／下候哉と奉存候事ニ御座候、私／成来り書無之ニ相調候て／勝見性
迄進上仕候、御覧／可被下と奉存候、彼是御六ヶ敷／儀御世話被成被下
候段御礼／難申尽忝仕合奉存候、右／御様子も承知仕度年始／御祝詞得
貴慮度以飛札／如此御座候、仍而本分之至ニ／御座候得共雁壱書中之／
印迄ニ進上仕候、猶期永日／之時候、恐惶謹言、

西条主馬

正月十三日　□（花押）

羽倉斎様

参人々御中

五四　享保十二年正月十四日　松平権之助信富（信允）書状

「松平権之助書状」　折紙　A・二・六（八八六・二）

尚々、愈相替義／無之哉、手前無異義候、／当月五日土佐渡□へ登
／城外見廻之節深尾／左源次逢申候、是書状／可被遣候御用へ取込
と計／聞伝ニて具成申候、承知／不得由尋ニ付而不断／御用等御勤
首尾好由申聞候、／且又装束之書物望ニ付而／去年中大和守方へ／

／折節隆庵方ニて／息女婚礼被相調、／何角執込ニて出来／遅々心外存候、乍去／未寒中余寒も／可有之候間其中ハ／御用可被成候、御病所も／今程ハ御快候哉御状／承度存候、猶永日可申／入候、恐惶謹言、

松平権之助

正月三日　信冨

羽倉斎様

人々御中

五二　享保十二年正月十二日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙二紙　A・一・二・一五二(五四九)

尚々、当春は累年より寒気／甚御座候、其辺ハ如何御座候哉、御／持病ニ御障も無御座候哉承度奉存候、／当地ハ旧臘廿七日・廿八日より大雪降にて雪消／不申候故殊之外寒申候、将又御歳旦御歳暮／之御詠御見可被下候、野子歳暮歳旦之／詠草懸御目候間御添削可被下候、去年は／杉浦修理亮殿当地ニ緩々御逗留度々／御出合、歌御すゝめ参会候度毎ニ読申候而／悦申候、愚息共迄御進メ致大慶候、就夫／当年御下向待申事ニ候、扨又主税義／弥以奉頼候、余り長逗留もいたさせ／かたく候へ共、少成とも罷下り御口まねを／いたし候様ニ仕度候、下田幸大夫殿始皆々／其元ニ罷在候義被存候間、罷下り候而も／間ニ合候様奉頼候、愚妻も宜申進旨申候、已上、

新年之御慶不可有際限候、／弥御家内御揃御堅固御越年／可被成と珍重奉存候、私宅無難／致加年候間御心安思召可被下候、／然は旧臘廿三日之日付之貴翰／同廿九日ニ相達致拝見候、其節／及月迫候故御返答不仕候、先以主税／旅宿之儀ニ付何角と御世話ニ被成、／北条遠江守殿へ内意之義舟越殿／かたより之義御心被付被下候故、松平／権之助殿へ頼候へハ早速五郎右衛門殿へ／御頼候故、五郎右衛門殿より北条殿へ右状参候、／右之北条殿より五郎右衛門殿へ之返礼も、／旧臘参候を野子方へ御見せ候、／主税旅宿之義松平権之助殿御頼候／由致承知候、申付置候、未主税届ニ／出不申候一通り之断ニ而相済候由之／文言ニ而御座候へキ、貴様も旧臘／廿二日ニ北条遠江守殿江御用之義ニ付／御越被成候節、公用人田中孫左衛門へ／御逢委細被仰談候処、請口宜候而／先達而松平権之助殿へ御頼之由ニ而、舟越殿より／被仰遣、野子口上書も参り請取置／被申候旨、北条殿も委細御承知ニ候間／其内主税年寄家主引連御断／出候様ニと被申候段、十日・廿日延引ニ而も不苦候故、／当春主税御断ニ出申候様ニ被仰含被／下候由、扨々御世話之義にて忝く奉存候、／此節最早御断ニ可罷出哉と被存候、弥／可然様奉頼候、

一松平権之助殿より之御状三通御請取被成候由、／御報ハ御不快故私ニ而可被遣由、其趣／参会之節可申伸候、木村隼人近日／彼方へ参候節可申達旨申含候、／右主税旅宿御世話之義も此間年始之礼ニ参候節申置候、且又貴様当地へ／御下向之義、権之助殿殊之外被懸／心底候而拙者方へもひたと被申越候、／御病身故御下向被成間敷旨御書面之／趣権之助殿へ可申達候、其内何とそ／思召立候様可被成候、

一旧臘私宅ニ而和歌月次会之節、数歌／百首題ニ而読懸御目候処、例之

談被成候へは、／京諸司代御組与力一人明キ／有之間、取組申人京ニ而之／召抱筈ト御申之由御芳簡被下、／又御面談ニも被仰聞候、右御手紙／写御蔵奉行ニも不及御返ニ候、／尚秋中御諸司与力一人明キ／候へ共、町与力木村何某義被召／抱候哉伝承仕候、其外ニ候や／但其後又アキ申候や、何とそ／其元様御手筋も候ハヽ御尋可被下候、／奉頼度候、御蔵奉行筒井主税殿／其外より之間弥アキ有之候ハヽ／御申込可被下由被申候、勿論□／其元様御手より□候ハヽ先々仰込／可被下候奉頼候、大方ハ当秋中／明キ申事ニ而候半と奉存候、／恐惶謹言、

十二月二日　喜多埜隠士

上封（黒印）

東丸先生

五〇　享保十一年十二月十四日　松平権之助信富(信允)書状

「松平権之助書状」　折紙　A・三・九(八八六・三)

尚々、大学事被仰下／隼人も具承之／何とも気之毒存候、／然共可成様無之候／母儀事候へハ大学も／心外可有之存候、扨又／深尾左源次事／先比用人罷成／多仲と名改被申候、／御悦可被成存候、尤／御承知とハ存候へ共／申入候、そろりと／逢候て御噂可申／上候、

以上、

以別紙申入候、御本願／之儀も時節可有之候／御事御待可被成候、乍然／其元御隠人ニても／手懸りも無之とも／不被申候得共、同敷ハ／江戸表へ御出府程ニ／不被存候、今以下田氏よりも／御用筋御文明又／奥向ニても不絶有之様／承伝候、春ニも至候ハヽ／御出府被成候様仕度存候、／其上ニてハ御本願之儀も／相調安被存候、日外／御出府之節首尾好／候へハ春中御出府被成候ハヽ、／前々此表逗留中／とハ違御門人も／御家人も多可被成候、／幸夏中より御不快／候へハ右為御養生春／御出府可被成、下田へも御不快／為御養生御下向／之儀進メ候旨ハ／逢次第可申聞置候、／河州・民部へも宜御相談／可被成候、已上、

十四日　権之助

先生様

人々御中

五一　享保十二年正月三日　松平権之助信富(信允)書状

「松平権之助書状」　折紙　A・三・八(八八六・四)

尚々、旧臘御下向／之義申進候、未／御報不参候、定而／御同苗方御相談／可有之存候、第一ハ／為養生二ツにハ／御本願旁々御下向／可被思召立候、御進メ／申段中條大和守へも／咄申候、大和守も当春／京都御使被仰付／当月十五六日頃／爰元発足之事候、／御出京御逢可被成候、／下田へも春中／逢候ハヽ御下向之義／申進メ候之段／咄可申候、且又芝崎／主税へも年始之／祝義宜御心得／可被下候、以上、

追而、大和守京都逗留中／不図御見廻ニ而ハ他行も難計候、／前日御案内被成御出候様存候、以上、

新年之慶賀／重畳申納候、／御無事御越年／可被成珍重存候、手前／無異儀加年仕候、／然は旧冬被仰聞候／地黄丸橘隆庵へ／申談調合出来、／指上候ハヽ御服用／可被成候、何とそ寒前ニも／指遣申度存候得共、

越被申候間／御届申候、就夫貴様度々／御持病御再発被成、権之助殿も／殊之外無心許由被申候、来春ハ／江戸へ御出御養生被成候様ニと／被申候、何とそ思召立被成候而／同氏主税被召連御下り可被成候、／公辺之義ハ権之助殿随分と／精出し可申候間、野子方よりも／此段可申進由被申候、御門弟中も／何も願之事共御座候、来／春何とそ思召立可被成候、

一愚息主税旅宿御届之義、北条遠州へ可届之儀共迄／段々御世話ニ被成忝奉存候、／定而御知らせ被成候と相見へ、／舟越五郎右衛門殿御頼申義主税より／申越候間、松平権之助殿江御頼申候処、／早速五郎右衛門殿へ御頼候而、当／二日ニ北条殿へ五郎右衛門殿より／状参候、此状当十一日あたり／(異筆)「天地玄黄」(後筆)／相達可申由ニ候、此上伏見へ／(異筆)「天地玄黄」／御届之候義宜奉頼候、且又／来年中之月並会之／兼題之義、此間杉浦修理殿／なと致相談相定申候間／懸御目候、当月之会ハ拙宅ニ而／相勤申候、明三日致興行候、／当座題ハ数歌ニいたし可然なと／秋田氏被申候、兎角近日／自是以愚冊可得芳意候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

十二月二日　好（花押）

羽倉斎様

四九　享保十一年十二月二日　喜多埜隠士（勝見杢之介正景）書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、松平浅五郎殿御早世／御家断絶、新規ニ伯父御松平／兵庫殿トヤラニ五万石被下置候／儀、山城地御預之由、姫路榊原／式部太輔殿ニも御遠行ヤニ候、／御嫡遠江守殿と申有之間／所かへハ有之ましくと申候、／扨又先月八日深尾多仲殿より／被遷宮号御神祭被下悦申候、／其元様御余光と忝奉存候、／乍憚御序ニよく□□被仰／進可被下候、□より進候／諸司与力弥アキ有之や、／はやく御聞合被遊可被下候、／今日同□□得客心候□／一入筆も廻りよく申候、／御了察可被下候、以上、

去ル廿八日ノ花簡翌夕／天満屋太兵衛より届忝拝見／仕候、御自分様御痰気御胸疼／二三日御快復、御家門御安全／被仰聞珍重奉存候、爰元／変事無之候、先月十五日／進候愚冊御披見候由致／承達候、中井方へ代匠記之事／ニ而一包被遣昨朔日朝為持／遣候、余材抄候之事も申越候／所、代匠記と一緒ニ上セヘキ申由／申来候、愚簡入高覧ニ／勿論被聞合被遊可被下候、／芥川古書いまた高槻より／兎角之事不申越候、先日小島／出坂候砌、御主君近々鹿狩／御出可被遊趣沙汰ニ遣申候、左候ハヽ／自分も供達ニ罷出可申様ニ／申候、左様之事ニ取込候間／返詞延引仕候、紅寒菊又／一枝可指為登候由畏入候、覆／不仕候故霜ニ癈漸小枝ニ／見能花葉候故今度進上／仕候、有馬禅総寺什物其外／書込候一冊春ニ至御返可被下／奉得其意候、武家盛衰／記欠本御聞合可被下由／忝御序ニ奉頼候、且又戸田／大隅守殿与力万年源左衛門と／申仕跡月廿五日乱心妻ヲ／切殺申候、大方潰レ可申と／風聞ニ付、御鉄炮奉行石野市左衛門殿／又々御心還ニ而、大隅守殿御縁者御代官平岡彦平へ殿へ／昨日御参会之砌、当夏アキ／申候菅沼清三郎跡は江戸より／隠岐万太郎被遣候、今度亦万年／跡弥潰候ハヽ私事大隅守殿へ／又々願込可被仰下、内

霜月十四日　　信冨（花押）

羽倉先生様

御座下

四八　享保十一年十二月二日　芝崎宮内少輔好高書状

「万葉童子問」紙背　切続紙　A・一・二・五六（八九三）

尚々、弥御痰痛御快候哉／承度奉存候、木村隼人へ被入／御念候而御加筆被成申聞候へハ忝由／申候、将又深尾左源治殿ニも弥／御無事ニ勤段々御様子宜候而／御用人ニ被仰付候而、公用ニも御懸り之由／承候、御名も多仲殿と御改候段珍重之／御儀ニ而、定而御聞可被成候、御同氏／河内守殿弥御無事ニ御肥立可被成と／珍重奉存候、宜御心得可被下候、貴様／御下向之義何とそ御相談被成候而／思召立可被成候、已上、

先月十二日之貴札同廿日相達／致拝見候、時分柄次第及／寒気候、貴様御胸痛向／寒気候而御再発被成候由被／仰聞、千万無心元奉存候、／併当春来之御心痛とハ／違候而御痰痛候間、気遣成義ニハ／無之由医師衆も被申候段／被仰聞致安心候、申進無之候／へ共折角御保養可被下候、先以／当月之会詠并賀歌／共御添削被下、乍毎度／御心六ヶ敷も可被成御座候処、／委細御添削被下忝奉存候、／去月廿五日ニ興津氏亭ニ而／首尾能興行致大慶候、／又々外翁水谷も出席ニ而／御座候へキ、隼人義も先頃／道中無事罷下致出座候、／蔵田又左も上京候而珍敷／御対面被成候由、又左帰府／已後致参会候而御噂承候、／将又権之助殿へ被遣候御状／相達申候、権之助殿よりも／今度御状三通一部之／伝ハ御伝候事候へハ気遣／なく承、世上へも弘リ／折も候ハヽ下田氏へも引付／候様被仰下、御紙面之通／得貴意度候、且又蔵田事／被仰下、成徳又右衛門知人ニて／兼而様子も存知候、／乍然古書之儀抔承届ケ／候へ迄候、下田へ噂可申候、／隼人咄ニても有増ハ／承申候、

一自是申進候儀共御失念／無之候得共、御不快／彼是ニて延引之由／御尤存候、走ニも至／日長之節御書付可被下候／頼存候、御所持之令／義解ハ日外被仰下候通、／下田方へ近日可遣之候／一冊、其元上せし旨申遣候、／御用時候ハヽ其元より／下田方へ可被遣候、内々／令御心かけ被下候由隼人／申聞忝存候、是ハ／とかく手間取可申存候、

三

一勝見杢之助事被仰下候通／致承知候、杢之助事ハ日外／以来被頼付而心かけ候へ共、／相応之儀も無之候、／此度京橋ハ与力／明何とそ首尾候様存候、／穴早間も有之候間／江戸表窺済可申候、／吟味之内ニも候哉、戸田／隅州方へも方々より申込／多抔及承之、渡辺／備中守方へも心安出入／被致候杢之助事候へハ、／先調安も存候、近比ハ／杢之助方よりいなやも不承候、／備中守方へハ再三頼／遣置候、若此度調／不申候ハヽ、重而京橋・玉造／之内与力明キ候節ハ、／是非〳〵と隅州備中方へも／可申遣候と存罷候、／何とそ其中吉左右／待申候、

一松茸之事被仰聞候通／又御念御事存候、中條／大和守へも咄可申候、丹州／笹山も当年ハ少由及承候、／隼人咄ニて委細承候、／出来物の事候へハ／可被成様無之御事、恐惶／謹言、

松平権之助

／致大悦候、

一柘植氏より御借被成候百人一首抄・散木集／、此度木村隼人へ御頼御返進被成候由／是又致承知候、筆末なから御同氏／河内守殿御心へ可被下候、段々之御快候へ共いまた／御出勤ハ不被成候由無心元奉存候、折角／御保養可被成候、愚妻義も主税段々／御世話ニ罷成忝由能々可申進旨／申候、心事宜く可得御意候、已上、

去月廿五日之貴翰木村隼人／当六日ニ致帰府相達致拝見候、／追日及寒冷候へ共御家内無／御別条、貴様胸痛も弥以／御快候段承珍重不斜奉存候、／如示教之隼人罷下り委細御様子／致承知候、得御意候、同意致／大慶候、愚息主税永々／在京日夜御世話御指南被下候由／難申謝忝奉存候、乍御世話／宜奉頼候、将又内々大望之／百人一首之御書入本中巻／今度御下シ被下忝奉存候、／致書写候ハヽ自是可致返進候、一柘植氏亭ニ而先月一会被催候、／会席之歓主税方迄遣懸／御目候様ニと申遣候処、御覧被成候而／愚詠残菊上句御添削被下／忝奉存候、被仰聞候趣御尤御座、／且又東湖へ之御状則相達申候、／将又此方当月来月之兼題／当座詠共先比為差登申候、／相達御添削可被下と忝奉存候、／其節申進候通来年之此方／兼題ハ、乍御六ヶ敷其許より御出題／被成可被下候奉頼候、何とそ少も早ク／奉頼候、猶期後音之時候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

十一月八日　好（花押）

羽倉斎様

御報

四七　享保十一年十一月十四日　松平権之助信富(信允)書状

「松平権之助書状」　折紙三紙　A・三・七(八八六・五)

一

尚々、隼人罷帰具御左右承／致大慶候、此方弥替儀／無之下拙無事勤／申候、可易御心候、以上、

先月廿五日之御返札／拝見、先以御不快段々／御快候之由珍重存候、為／御養生的被成候由、一段御／心及申候得共食養生／肝要存候、隆庵抔之申候ハ／食事ハ少足り候程／用、過食無之様ニとの咄申候、／袋抔へ何そ入候に一はひに／入候へハ、張入候物出候跡ニても／袋しハなとも有之候、／袋へ一はひに物を不／入候へハ出候とても袋も／しハも無之候、右之通ニて／過食ハ悪敷由、遠方／御成之御供被上候とても、／先ニて食事不自由とて／多食ハ不被致由申候、／至極尤御事候、為養生／申進候地黄丸之事／被仰聞、安御事ニて則／隆庵へ頼申候、出来／次第町便上セ可申候、／此節隆庵も娘婚礼／執込申候、何とそ寒前ニも／上せ可申候、

一木村【図書】（隼人）事当月六日／罷帰同十二日私宅へ参、／寛々語申候も其元之義／具承、御不快御快候由も／致承知候、卯年御下向／之節少も相替儀

二

無之、御堅固相見へ候由／御不快も為指儀ニも不存と／申聞、何より以大慶仕候、／いヶ様御病所久々之儀／候へハ催候儀候ハヽ滞可申候、／段々御快候へハ為指御事とも／不被察候、逗留中ハ御応情共／隼人も忝かり申候、歌道／之儀行々不残隼人へ／御伝へ可被成候、古今集

仰聞忝致大慶候、先以毎度なから／会詠御添削被下殊今度は／早ク御下被成候而別而忝奉存候、／去ル廿五日今泉氏亭ニて興行之／申合候処、故障出来断故私宅／にて相勤申候、興津氏出席／難成様子ニ候処、至極之歌数寄故／勤方くり合セ被申候、廿五日ニ／出席之秋田氏も出座、杉浦修理殿も／出席、東湖も被出候而賑敷候而／致大悦候、今沢大進も出候へ共今度／出入之義十分ニ理運共成、廿六日ニ／在所へ罷帰候故支度ニ取込当座之歌ハ／よミ不申候、書状一封進候様／申候故御届申候、当年中ニハ／又々大進江戸へ罷出候義御座候、／爰元来月十五日祭礼ニ付／社頭之御畳表替寺社奉行衆へ／願申候処、一昨日より昨日迄ニ右之／御畳大勢職人参致出来致大慶候／段御察可被下候、将又松平権之助殿へ／被遣候御状ハ図書方へ遣候而相達／申候、且又来月之会詠懸御目候、／乍御六ヶ敷御添削奉頼候、恐惶／謹言

芝崎宮内少輔

八月廿八日　好（花押）

羽倉斎様

四五　享保十一年九月二十六日　松平権之助信富(信允)書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A-一-二-一五七(五五九)

尚々、図書儀も此度／道中ハ私家来分ニ／罷成度由候、外と違／申候間任其意申候、扨又／本所ニて秋田図書と申／異人有之、木村も神田／罷在、世人取転候間／名改候様書中江／申談候、神田社祭礼後／名改候筈ニて、今日迄ハ／改名不承申候間前名ニて／申入候、爰元之儀共も／御聞可被成候、無程其元／之儀も図書罷帰可承候、已上、

幸便致啓上候、段々向／冷気候得共愈御無事／可有之珍事存候、手前／無異儀候、然は今度／木村図書無拠儀ニ而／致参宮候間、夫より／其元へ為御見廻立寄申候、／浦山敷御さ候、伝書／申上候通最前より／申進候品共御透次第／被仰聞可被下候頼度候、一先達而書状申入候、／勝見杢之助事何とそ／此度首尾調候様存申候、／未明キ伺済不申候由／頃日渡辺備中守方より／申聞候、手前抱罷成／候ハヽ吟味之内杢之助／入候筈之由ニ候、左候ハヽ／右大願相済ニも可有之ト／兼而貴様御苦労／被成候間、此度相調候へと／存候、相替儀無之間／早々申入候、此方御用／向候ハヽ図書罷帰候節／可被仰下候、扨々御六ヶ敷／奉存候、恐惶謹言、

松平権之助

九月廿六日　信（花押）

羽倉斎様

人々御中

四六　享保十一年十一月八日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A-一-二-一五五(五五七)

尚以、木村隼人其許逗留中ハ／何かと御世話御饗応被成被下候由、／於拙者忝奉存候、能時分罷登候而、／御会双林寺ニて御興行之節致出席候／旨申聞仕合御座候、承候而扨々／浦山敷存計ニ御座候、当座題ハ／柘植氏亭ニ而先会被出候、当座題之／通被成候由致承知候、一昨日隼人罷下り／いまた委曽不申候、段々曽可承と

可然御執／計奉頼候、
一忠蔵副書私迄被遣故披覧候段／沙汰仕間敷由奉得其意候、姉へ／卒度見せ申迄ニ而外見も不仕御／返進仕候得キ、
一今朝急ニ幸便久松寺より夜前為／知ニ付、灯下ニ而家内打より枝今度／秋小菊別書之通、并千日紅大振成／花咲申候ニ付其内ニ而小ヲ一株／進し申候、損枯不申届候得かしと／奉存候、恐惶謹言、

勝見杢之介

六月廿七日朝　　正景（花押）

羽斎様

貴酬

四三　享保十一年六月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状

「万葉童子問」紙背　切紙　A・一・二・五六（八九三）

尚々、当夏ハ土用明候而却而／残暑甚致難儀候、弥御安全ニ而珍重／奉存候、折角御堅勝ニ残暑御凌可被成候、将又／愚息主税儀弥宜奉頼候、兵吉儀今度も／詠草懸御目度由申候間遣申候、御面当なから／御添削可被下候、杉浦修理亮殿もいまた御在府ニて／度々御出会得御意致大慶候、併長之御在府／御願之義も様子いつれとも埒明かね御逗留も／御太儀ニ存候、来月は御在所ニて神事御座候由／近日先御帰国可有旨被申候、何事も其内／自是可得御意候、手前妻も能々可申進旨／申事ニ候、已上、

残暑罷成別而甚難凌御座候、／弥御家内御揃御堅勝御坐候哉承度／奉存候、私宅無異変罷在候間御心安／思召可被下候、当月此方会先日申／進候通、西東直定亭興行ニ而相／勤申候、当座数歌十六首つゝ詠／申候、懸御目度候へ共数多之歌御面当／成御儀故差扣申候、是もいつそ懸御／目申度申候事ニ御座候、将又来月之／兼題当座之歌掛御目候、乍御六ヶ敷／御添削被成可被下候奉頼候、御添削被下候ハヽ／例之通御下シ可被下候、且又先日被仰聞候／村田忠庵老儀聢と相知レ不申候、隼人へも／申付置候、様子相知レ候ハヽ委細可申進候、／猶期後音之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

六月廿八日　　好（花押）

羽倉斎様

四四　享保十一年八月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七（五五九）

尚以、弥御家内御堅固御坐候哉／承度奉存候、被仰聞候通先日は／道中罷出申候由承候、柘植伝左衛門殿へ／被遣候御状則相届申候、其許へ越被申候／書物、百人一首之抄弐冊・散木和歌集／書状差添被申とくニ越被申候、／便次第御届申候様ニと被申越候書物封なく／参候間、両方ニ而百人一首写申候間／左様御心得可被下候、委細ハ別紙ニ／申進候、已上、

追啓、東湖之会詠も一所ニ遣候間御添削／被遣可被下候、已上、／去ル十三日之貴翰同十九日ニ相／達致拝見候、未昼之内は残暑／御座候而俄ニ涼敷も成不勝ニ御座候／得共、弥御胸痛御快□□被成候由、／河内守殿ニも追日御快然之由珍重／奉存候、愚息主税も無事勤候旨／被

候処、／不審迷盲として分明無御座候、／御影にて承届申度候、尤他見他聞／ゆるし申ましく候、古今序ノ小注并／部立之内ノ左注ヲ除見申候ても、／ほの〳〵との歌の義論見江不申候、／可罷成儀ニ御座候ハヽ御示諭奉頼候、／不明之下愚ノ質ニ御座候へハ、日々ニ／是ニ限不申不審而已ニ候へ共、おもふ事／いハて只にやゝミぬへきと申古／歌の心ヲ吟案仕候外無御座候、／此道ノ執心ハ御磨詞ハ過分ニ奉存候へ共、／是ハ吾国ノ習俗にて、是ヲ翫不／申候ハヽ何事をかたのしひ可申候哉／と奉存候、外他事無御座候、ほの〳〵とノ／歌ノ事返す〳〵承置度奉存候、世上ニて／披露仕ましく候、

一観応之比二条良基公百首／御詠ニ頓慶兼ノ三点被越候事／被仰下、忝奉存候へ共、是ハ正しく／後人ノ妄作と奉存候、良基公百首ニ／頓阿点かけ被申候事ハ実正ニ御座候と、／定而慶兼両歌人も点ヲ合被申候哉、／是ハ実トモ虚とも後人の定／難申候、只今証拠無御座候、頓阿／点かけ被申候て奥ニ和歌ヲ書／添被申候事ハ実正也、則其歌／草庵集ニ入申候得共、右之二条殿／独吟百首只今流布不仕候、惜キ事ニ／御座候、此頓阿歌草庵集ノ詞書ニ／彼百首頓阿点被致事有之ニ付、／後輩好事ノ作出也而、百首にて／たしかニ正書ニ無御座候、此事ハ／私草庵集抄物後篇ニ別ニ附録／仕候て、或問ノ様ニ論仕候事ニ御座候／得共、其草本爰元ニ無御座候、／尚重而可申上候、恐惶謹言、

三月十四日　　柘植知清

荷田春満公

机下

四二　享保十一年六月二十七日　勝見本之介正景書状

尚々、信富公御安否久々不察／聞由、私方へも年頭之尊報今ニ／不被下西条主馬鉄炮書付等／指上候、尊報も不被為下候、煙草／御好被遊段被仰下忝承達仕候、／全躰茄子出来候由私方ニハ鶏たへ／候て一本もはへ不申候、サンゴジュ／十膾ニも用酢漬ニ仕給申候、乍／御せわ青山大膳亮殿伯父御青山／秀岡殿と申候隠者五条ニ御居住／被成候、是江御報入候小かミ包ニて長野殿へ／二包御序次第御届させ可被下候、／貴公様へも不珍萩箸一包懸御目ニ／申候、

忠蔵も今月十九日より／はりま二下り申よし、

廿日ニ尼崎一右衛門七右衛門見候而咄承申候、／契沖作書之御挨拶御丁寧之御事、／則いつそや忠蔵へ申きかせ候／知人之内所持候仁候故、安キ御事／之由申候、以上、

去ル三日御書翌晩忠蔵より届／忝拝見仕候、御手前様御腹病／弥御快復被成候由大慶仕候、土用ニ／増々残暑ニ而廿五日已来凌兼申候、／益御肥達御家門御安泰御座被成／候哉承度奉存候、私未全快不仕／進藤氏御報さへ難□記延引□背／本慮申候、家内ハ無異別暮申候、

一真照院より次女之義御断申上、長／女事申上候得共再三御すゝめ／難被成候由御尤千万奉存候、二女／義真照院了簡相改得心ニ候ハヽ／向方心底御聞糺も可被下候旨、／御病苦之中御愍憐不浅忝／奉存候、漸真照院合点頃日至候而／自参り申由ニ而、次女事相談／可申旨以文申上候由申候、其／節私事就中不快故不呈小簡候、／真照院文ハ同日也より先達而／御入手可被下と奉存候、右之通ニ／御座候間御思案被加

四〇　享保十一年二月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚々、河内守殿御見舞書中ニ而／得御意申度候へ共、御披見も御／六ヶ敷と差扣申候、宜御心得可被下候、且主税／儀弥宜様奉頼候、
已上、

去ル十三日之貴翰相達致／拝見候、如仰当春は未余寒／御坐候へ共弥御堅勝之由承珍重奉存候、／御同氏河内守殿御気分御快御坐候哉／承度奉存候、当方野子無異／儀罷在候、先以当月之会詠／乍毎度御添削被下忝奉存候、／廿五日西東氏亭首尾能興行／相済申候、興津氏東湖ニも出席／杉浦修理亮殿も在府ニて御出席、／野子・図書も罷出候、秋田氏ハ故障／不参御坐候、将又来月之会詠／如例懸御目候間乍御六ヶ敷御添削／可被下候奉頼候、此間主税方迄／書状遣候節以愚冊可得御意候処、／其節何角御取込不能其儀致／御無音候、今沢大進も致在府候て廿五日ニ／可致出席候処、最早在所へ罷帰候、／又々来月は致出府候筈ニ御坐候、／併来月之月並会迄は致逗留／間鋪哉と被存候、如例年伝奏方／御参向去ル廿四日ニ御発駕、来月／七日ニ江戸御表と承候、就夫吉田之／使者も来月六日ニハ私宅へ参候、／猶期後章候時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

二月廿八日　好（花押）

羽倉斎様

四一　享保十一年三月十四日　柘植伝左衛門知清書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九(五六二)

尚々、委細申上度候へ共毎々永々敷申上候は／尊答も辛労ニ可有御座候と奉存候、／其儀省略仕候、将又御賢父様／信詮公ノ御実名只今迄ハノブノリト／唱へ来、草山集ヲよミ習候が此度承候、／河内守殿信名ヲマサト御唱候上ハ、／詮も如何御よミ被成候哉と奉存候、／被仰聞可被下候、無益之事と可被思召候へ共／草山集をよミ候節ノ一助と仕候、／且又本書ニ申上候観応ノ百首ノ事ハ、後人ノ書置候／ものニ御座候、貴様御家本ハ不明候へ共、江戸ニ而／見候ニ末ニ頓阿和文ト歌ト御座候百首ニて、／頓慶兼ノ三点有之候へハ相違無御座、同書事と奉存候、／左候へハ実ノ作ニ無御座候、世上一同ニ用／来候事也、松平薩摩守殿家中田浦／倹校と申候も年来ノ歌人にて、中院／通茂公より只今通躬卿迄ノ御門弟ニ御座候が、／随分巧者ノ歌よミ候へ共、此百首ヲ用申候て／取りはやし、拙者方へ見せ申候へ共、／此偽作之考ハ別ニ一巻ニしるし出被申候も御座候而、／是ヲ必□京江戸より可入御覧候、右百首ノ事計／ヶ条書ぬき差上可申候、只今空(ソラ)にて／書付申候て万一相違も無覚束候、／とくと書うつし可入賢覧候半、／ほの〳〵とノ事千年忌トテ当代御沙汰御座候ニハ／構不申候、
万々古人ノかの詠歌ニ向ひ候拠り／所之事書にて候、
此間は為貴君御懇書到来／忝拝見仕候、童蒙抄三冊内第一／第二合巻有御借被下忝受取申候、先達而／致借用候九十ノ両巻返進仕候、／御請取可被下候、随分墨付不申／念入写取申候、
一ほの〳〵との儀御紙上ニ付、亦々流布ノ／古今集取出しくり返し見申

一又申上候千載集恋臨期恋儀を以、／杣川の浅からすこそ替しと／なと此くれを引たかふらん、／拾遺ニ冬唐嶋枝に、一村／のこれる秋の形かへをたゝめハ／なるへし、／新古今ニ夏水辺月秋深、すゝしさは／秋やかへりてはつセ河ふる／川の人の杉の下陰、／

此三首ハ秀句と古来より／抄物ニ申伝候趣ニハ／少々意味かハり申候歟、／作者ノ工夫と只今ノ／抄意と違出来候故ニ／歎息にて候、惣而古歌を／見候ニも容易に見過し／捨置も御座候、又／盤斎説などいりくミ而／見過し候、無益ニ勘へ／いりくミ候注ヲ付候も／如何にて候、此ノ間を／宜敷見取候事肝要と／奉存候、

一愚問賢注ニ二条摂政／藤良基公ノ頓阿ニ／問セ給候御詞ニ、／和歌ハ周詩ヨリ起ル／と御座候、是ハ愚問賢注ノ／第一ノ詞にて候、其段ノ／如此有之候て、／下ノヶ条ニ三十一字ハ／素盞烏ノ尊ノ八雲／出雲ノ詠ニはしまると／同書ニ御記し被成候、／此所ハ愚問賢注ノ／一部ノ大意ヲ呑込申候てハ／分明ニしれ申候、中院殿／御門弟松井幸隆老人／愚問賢注六窓抄ヲ／書記し被申候へ共、右之段／すミ不申候故ニ所々／相違之儀御座候、／

幸隆抄ニ而見習被申候ハヽ／末学ノ人ハ愚問賢／注ノ意味了簡仕兼可申候、／左候へハ注尺も／大切成ル物と存候、／此外近代東野州聞書／改正ノ校本とて出申候にも、／釣月ト申僧是も／京ノ人にて江戸へも参候ものにて候、／東野州聞書古板ヲ用／それヲ校正添削／致被申候ニも、私意ヲ／用被申候所へ見江申候、／是ハ何そ手筋ヲ以／相改申度候事ニ／御座候、官家之御手ヲ／かり候ても（而）改可申候、／愚問賢注ノ問ノ末ニ／至りテ、／暁と云歌ニ有明／寝覚とも詠候、／首夏ト云歌に更衣／新樹とよミ候て、／題ニ相叶可申候哉／否ヤト御問被成候ニ、／頓阿　無【相違】（子細）候歟／と答被申候処ヲ、／幸隆ハあさ〳〵と見過し／被申候て、幸隆注ニ云、／此段問答ともニ／無子細候、分明申候由計り／注し被申候、残念成事御座候、／

末学ノ容（各）ニ成候事／見付候てそのまゝ置候事／残念奉存候、何とそ他日／相改可申候、尤東野州／聞書五冊ノ内一二ヶ条／にて候文字、古板ノ／まゝニてハあしき所ヲ／釣月善本ヲ以／改正添削有之由、／序ニ見江申候、右之／改正之処之過半／いかにも宜奉存候へ共、／又其意候ヲ一々と／吟味見申候へト、殊之外／釣月私意ヲ用被申候、／為氏ト古板ニ有来り／候処ヲ為相ト改可申候、／為【氏】（相）如何書被申候所も／相見江甚以如何にて候、／是於後人ノ歌学ニ／志し無御座候後輩江／改正ノまゝニ見請可申候哉、／左候へハ為氏為相／相違成儀ニ御座候、／其元にても右聞書（東野州）／近年改正之候本御覧／可被成候、

以上、

如月十一日　柘植伝左衛門　印

（印文「柘氏」）

羽倉斎様

愚詠ニ　　知清（トモキヨ）

おしめとも年ハとまりて／くれ竹のよそちと／いハん春そ近つく

如此よミ申候へキ、然共／関東にて歌もはやり候へ共、／詠歌ノ会一通り計にて／古へノ道ノ吟味無御座候、／古今序ニも其にいにしへ／のことをも歌をもしれる人／よむ人おほからずと有之、ことことく／上代より歌学と詠出之／少し別レ有之候歟、／正治・建仁ノ比も俊成・／定家・家隆卿ノ事ハ／格別、大躰在之其外ハ／歌よミも歌学もさのミ／詮ニ致不被申候、又／歌学も委キ人も詠歌／堪能ニ無之も有之、／ましてや末代ノ只今／両得兼備ハ有ましく候、／左候へハとて詠歌ハ／此国ノ習にて候へ共、／我等式只今何様ニ案入／熟吟候ニも、歌らしき事ニ／無御座候歟と存候も、尤／かやうニ申候へハ孟子ノ／

白楽天琵琶行ノ古事

一此内混陽ノ頃ヲおもひ出／源都督流（ゲムトトクナカレ）を習ふ、此源都督（ゲムトトク）ノ／事方丈記山岡三隣／一冊ノ首書書ニ、盤斎（ニはん）抄／同大和田氏ノ詞説ニも／三抄ともニ皆々西安左右と／高明公ト有之候、是ハ／的当ニ無御座候、此源都督／源大納言経信卿にて可有／御座候と愚意ニ存候へ共、／此儀愚意ニ存出し候已後、／十ヶ年計過候已後ニ、／此植嶋氏ノ抄物出し被申候、／愚意ノ【事】（ことく）此抄ニ申候源都督ノ／事源経信卿ノ由御座候、／暗ニ愚意と符号致大悦候、／但し管見ニハ今少し／自ノ棄自ノ暴ニ類ニ候へ共、／とかく只今一首もよミ出し／候事、私式ニ無之儀ニ存候まゝ、／古来ノ妙意なと勘へ／古人意味ヲ探り見候ヨリ／外ハ楽（タノシ）無之奉存候、

一植嶋孫八方丈記流水抄／二巻ヲ、手前ニ而合巻一冊／幸爰元へ取よセ置候、／御覧入候、古来ヨリ／方丈記抄ト号ス／盤斎抄三冊　其外／方丈記詞説大和田気求ニ冊／御座候得共、植嶋氏作／面白奉存候、／此内一ヶ条私愚意ニ／叶不申候処へ首書ヲ書入申候、／任御心安そのまゝ進上仕候、／

此ノ流水抄ニ源都督経信卿ト／御座候説発明的当にて／御座候、此儀ハ此抄証拠／外ニも少し証文見出置申候、／此抄と古抄今違候益／此等之事にて候、

一乍次而申上候、我ヲワレトワガト／歌とよミ候、少し差別／御座候ト御覚悟被成御覧／可被下候、私工夫仕候、／古来より沙汰無事にて候／ワレワガ／少しノ意味違候、尤／二ツともニ自己ヲ指候／詞にて候、

吾レモ我モ／文字ニ拘（カヽハ）リハ不仕候、／只今世話ニ他ノ事ヲ／呼申候節、ワガト申候事も／是より出申候事にて、先々／他ノ事ヲ呼候事ハ／指置キ申候、是【故俗語ニ】（はしハらく）／用申候、今申上候ハ／俗語ノ事にてハ無御座候、／たとへハ

われ世中にあらん限ハ／われならて又たれかミるへき

これらノわれと

わか衣手に雪ハふりつゝ／わか身よにふる詠せしまに

これらノわかノ事にて候、

分迄逗留ニ候ハヽ／出席可申との儀ニ御坐候、／御伝書之趣可申達候、猶期／後音之時候、恐惶謹言、

初春十六日　好（花押）

羽倉斎様

貴報

三九　享保十一年二月十一日　柘植伝左衛門知清書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙七紙　A-一-二-一五九(五六二)

尚々、流水抄四月初迄も／御覧可被成候、出井氏も／登り被申候まゝ、拙も帰府／已後五六月ノ比ニ成、／半兵衛へ御返し／可被下候ても能御座候、昨今／関東書状之内外殊ノ外／数十通書状認候、筆硯ニ／常倦仕候まゝ早筆わけ／御覧いかゝ奉存候、

先頃之貴答御細簡致／拝見忝、殊童蒙抄五冊／拝借忝奉存候、早々写掛可申候、

一初午之御神事家御用御／取込可被成奉存候、態初午過ニ／一冊貴亭申上候、依之童蒙抄／御礼延引申候、

一出井氏御伝書承知仕候、／便ニて可申遣候、出井氏／書四月在番相寄り申候、／上京被申候河内守殿へ此旨／被仰達可被下候、

一御氏荷田氏と申候由御／示教致承知候、荷田ノ／荷ノ字如何訓候哉承度候、／御再諭奉頼候、先達而／深草ノ元政草山集ニも／荷田信詮と申候、御名／見江申候歟と覚申候、十年／計に於草山集致窺候、／聢と覚不申候へ共与風／此間御書面ニ付存出し申候、／荷田ノ字如何訓候哉承知／仕度存候、

一旧事記ノ偽書再応御示／慥ニ承知仕候、達而も承届／申度候へ共再三御尋申候も／道ノ恐ニ御座候、先々帰府／已後旧事記取出し／熟見仕候て、弥以不分明ニ／御座候ハヽ他日御宿問可／申上候、御示教可被下候、長々／自己ノ工夫ニ参兼申候、

一ほの〳〵とノ歌事弥以承／度候、御紙中表驚入存候、／

珍敷儀承候、何様とも／ほの〳〵とノ歌万葉集ニ入不／申候、すへて古今集ニ人丸／歌とて入候、七首ノ歌ハ／皆々万葉歌ニ無御座候、／拾遺集へ入候左の如く候、／こぬ夜あまたに成ぬれハ、／此歌ハ万葉古今ニも入不申候／歌にて、始而拾遺ニ人丸と／入申候、拾遺ノ事ハ書違も／多ク御座候由、契沖も／とにかくにほの〳〵とあかしの／浦ノ儀古来より無御座、／御発明愚意乍恐感得候事候へ共、／其証拠未見申候内ハ／暫ク不審相掛候、只し／他言仕ましく候、此一ヶ条を／御書付御ミセ可被下候間／返上可仕、自己ノ／益ヲ得候事珍重／至極存候、此段可罷成と／再会仕御愛顧候へ共／成かね候、上京も七年／過不申候へは、登り不申候／条迄御馴染も不申上候ニ、／麁忽ノ懇望御顧も／如何と存候へ共奉願上候、／ほの〳〵とノ歌人丸詠ニ無御座候／証拠も御座候哉承度候、／すへて人丸ノ事日本記／并公卿補任等ニも見江不申候、人ニ／御座候へ共昔より信用来、／明石ノ歌一首御発明ノ／証拠定而分明ニ奉存候、／

私儀十三歳より歌を／好よミ習申候、当年漸々／四十歳ニ罷成候、依之／旧首ノ歳暮ニも、

去ル八日之貴翰昨十四日ニ／相達致拝見候、如示教之／新年之御慶賀千里同風／申納候、弥御家内無御別条／貴様御堅勝御超歳被成候由／珍重不少奉存候、主税義も／無事致越年候旨被仰聞／致大悦候、長々其許罷在候而／諸事御懇志之趣忝奉存候、／御礼難申謝候、私宅ニ而も／何も無難致加年候間／御心安思召可被下候、先以／月並会詠共御閙敷節／早々御添削御下シ忝奉存候、／何も方へ相達可申候、／東湖并大進会詠も／御添削相達候間忝旨宜／申進候へと之儀ニ御座候、殊更／大進義被入御念被仰聞忝奉存候、／此便急キ申候間御返答迄ニ／早々如此御座候、猶期永日之／時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

正月十五日　好（花押）

羽倉斎様

三八　享保十一年正月十六日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙二紙　A・一・二・一五五（五五七）

尚以、愚息主税儀／御懇情忝奉存候、愚妻も／忝段能々可申進旨申候、将又／当年は野子六十歳ニ罷成候、就夫／大進存寄主税賀仕くれ候由兼／題御頼申候へハ、竹契齢之御出題／被下候旨忝奉存候、

一東湖并大進方へ御伝書可申達候、／此間大進国元へ罷帰候、又々来月初ニハ／御当地へ罷出候筈ニ候、将又愚息／兵吉手跡存不寄、奥坊主衆／成島道筑と申者東湖と懇意ニ而、／愚息手跡持参候而達／上聞難有奉存候、被懸御心／候、祝詞被仰下忝奉存候、已上、

追啓、松平権之助殿より一封参候間御届申候、已上、

去月廿九日之貴翰昨十五日ニ／相達致拝見候、未余寒御坐候へ共／御家内無御別条御堅勝之由／珍重不少奉存候、然は御同名／河内守殿病気次第御快方／御座候由目出度奉存候、併近々／御全快之御様子ニも無御坐候故、／貴様御学文所ニ而御保養可／被成との御儀ニ付、主税江其趣／被仰聞、主税致旅宿候旨／御尤ニ御座候、就夫旅宿之儀／家具迄之儀、其上裏入口／御明通候に程近候様被仰聞被下由／承、別而〻忝奉存候、万端／御恩志之儀共難尽筆紙／忝奉存候、河内守殿御全快／御本宅江御帰候ハヽ、又々主税へ／御学文所御借可被下旨被入／御念忝奉存候、且又歳旦／歳暮之詠西東氏勧進之／詠草懸御目候処、御添削／被下殊御用繁御中ニ委細／御別紙之御示教忝く奉存候、／月並会は先比為差登候、／御添削可被下と奉存候、呉々／河内守殿御様躰無心許候、／

打続御快方ニ御坐候哉承度奉存候、／以別紙得御意度候へ共／御披見も御六ヶ敷と差扣申候、／宜御心得可被下候、且松平／権之助殿より之書物入候紙包／一ツ先日為差登候処御落手、／今度御報之由御状被遣、則図書より／早速相達申候、西東氏へ之／御状其外要介へ之御状も相届／可申候、

一山田大助親父山田宗円老／此間私宅江被参御噂ニ而御座候、／篠崎金吾貴様御門弟ニ被成候由／弥宜御頼申候、大助同然ニ／思召御指南被下候様御頼申／くれ候へと精々被申候、

一杉浦修理亮殿未在府ニ而／御座候、御修覆願ニ付逗留ニ而候、／先月廿五日私宅月並会ニも／被致出席候、当月西東ニ而／興行申候、其時

日ニ自是以愚／冊得御意候、相達可申と被存候、／時分柄及月迫御取込可被成候、／当方何角と取込申候儀ニ候、／此間書中ニ申進候通来年／正月之会詠兼題露暖／梅開之題詠為差登候間、乍／御六ヶ敷御添削可被下候奉頼候、／来正月廿五日ニ私宅ニ而雅会／興行仕候筈ニ申合候、先状ニ／申進候通当年中も／無異儀月並雅会相勤／大慶不少奉存候、且又同氏／主税儀弥宜奉頼候、当年／貴亭ニ致逗留朝暮之／御厚志難尽筆紙忝奉存候、／年内最早余日無御座候間／来陽万喜可得芳意候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

十二月廿四日　好（花押）

羽倉斎様

三六　享保十一年正月十二日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七（五五九）

尚々、年明候へ而も余寒／甚御座候、愈御堅固御勤／被成候哉承度奉存候、且又御歳旦／歳暮御座候ハヽ被仰聞可被下候、／旧臘より何角と世用繁多ニ而、／歳暮歳旦之詠も出来かね／申候、乍去祝義迄仕候間懸／御目乍御六ヶ敷御添削可被下候、／西東中務夢想勧進之歌も／懸御目候、是又御添削可被下候、／当月会詠は旧臘為差登申候、／相届可申候、如例御添削奉願上候、／当月廿五日ニ私宅ニ而致興行候／筈ニ申合候、且又同氏主税義／弥以宜奉願候、已上、

追啓、此紙包之書物一封、此間／松平権之助殿江被頼候間為差登申候、／御請届可被下候、已上、

新年之瑞祥千里同風／重畳申納候、弥御家内無御／別条貴様御安全御超歳／可被成と珍重奉存候、拙宅／無異儀致加年候間御心安／思召可被下候、然は為年頭之／御祝儀御樽代弐百疋致／進上候、聊表嘉儀印迄／御坐候、旧臘廿五日ニは被入御念／為御報預貴翰忝致拝見、／其節旧臘晦日ニ御状相／達申候故、其後不及御再報候ハヽ、／御書中ニ河内守殿御不快之由／被仰聞無御心許奉存候、／併段々御快方之由珍重奉存候、／此節御全快之御儀と被存候、／早々以愚冊御祝詞申述／度候へ共、年始之勤ニ取込／乍延引如此御座候、猶期／永日之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

正月十二日　好（花押）

羽倉斎様

三七　享保十一年正月十五日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七（五五九）

尚々、未余寒強候へ共／弥御安全御勤被成候哉承度／奉存候、当地此間余寒甚／今日は昼より雪降出シ終日降／旧年之様積り申候、今日例年／御本丸江御年礼ニ罷出首尾能／御　目見仕致大悦候、杉浦信濃守殿／も御年礼番ニて出府候間是又／首尾能勤被申候、一両日已前ニ／出府早速私宅被参御噂被申候、／寺社御奉行小出信濃守殿当月／月番ニ而名差合申由、杉浦／修理と改被申候、心事重而可／申述候、已上、

追啓、筆末なから貴様御歳暮／御歳旦之御詠重便ニ御見セ可被下候、／一覧仕度候、已上、

貴様へ大和守方より［　］／返事不指遣候、此度紀伊守／京都之留主居方より相届ケ／申様此状遣候、勿論河州方へも／宜御心得可被下候、

一図書度々参心入共も宜御心得／可被下候、円やうも参候へ共是又／はかとり不申候、大坂ニて安左衛門も／無事之由及御聞と被仰聞も、／此方へハ書状も不参候間先頃／家来方江状遣候、于今／返事不参候、已上、

当月五日之御自簡／乍貴答拝見、時分柄／寒冷候得共弥御無事／御眼気も御快候之由／珍重奉存候、然は下田氏より／段々御用之義被成、／先頃肥前国風土記／真紀御求出下田氏迄／被指越候付而、別書一通／被越文言御写被遣遂／拝見候、誠重畳御仕合ニて／大和守へハ可致物語候、其外／御伝筆近々逢次第／可申達候、右別書外へハ／無沙汰可仕之旨相心得申候、

一詠草御加筆忝存候、いつも／同様成御事ニて何とそ今少／合点仕度御事候、兼題郷の／落字之事扣何といたし候哉／落字有之候、郷書加入／懐紙出し可申候、来月之／兼題詠草月次之便／可指上候、

一伏見奉行所江之通達之義、／至只今而ハ貴様御為ニハ／御勝手之宜候由委細致／承知候、大和守へも可申聞候、／猶期後便候、恐惶／謹言、

松平権之助

十月十三日　信富

羽倉斎様

御再報

三四　享保十年十二月七日　村井久右衛門政方書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、急便早々申上候、／在所着ハ先月十一日着／仕候得共、右之仕合故早速／書状に仰上不申候、春中／緩々詠草共指上可申候、／書中印迄ニ鮭子一筒／進上仕候、御賞味可被下候／可忝奉存候、

一筆啓上仕候、愈／御機嫌可被為遊／御坐珍重奉存候、／此元野拙義不相変／罷在候、先以在京／節何角御心易／被成下難有奉存候、／罷下早々書状／以御礼可申上所ニ、／道中より風邪ニ而／乍恐遅成背／本意奉存候、／且古今相残候分／今程手代武兵へ／方迄可被下置奉存候、／最早雪中故／道中滞々仕、／此書状も年中ニハ／相届申間敷奉存候、／将又罷下候節ハ／俄ニ御坐候故御門弟様／方へも御暇乞不申上候、／乍軽御序宜／御一伝奉頼上候、／恐惶謹言、

村井久右衛門

十二月七日　政（花押）

［　］尊師

三五　享保十年十二月二十四日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七（五五九）

尚々、同名河内守殿江／宜御心得可被下候、私宅無／別条罷在候間御心安思召可被下候、／東湖和尚も以別紙可得芳意候へ共／、御取込之内却而御六ヶ敷可有御座と／存不能其儀、会詠之御添削可被下／由能々可申進旨被申候、已上、

追日厳寒御座候得共弥以／御堅固御勤被成候哉承度／奉存候、此間十一

十月六日　　政方（花押）

羽倉斎尊師

追啓、通日如仰御借／被下度候、以上、

三二　享保十年十月九日　杉浦信濃守国頭書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚々、御無異珍重奉存候、／主税殿弥御堅固御勤学／可被成と存候、御同意御心得／可被下候、貴公様于今江戸／御用筋御座候哉、如何／と奉存候、当春申上候／不審之儀とも何とそ／御書付御下し奉憑候、／将又御存之教興寺／去冬江州へ被参候、当秋又／藤沢上人ニ成被下候、彼寺ハ／古キ歌書数多有之処ニ／御座候、官御用之儀も／有之候哉と奉存候、若／書物之儀御用御座候□□／御通達可被成候、／乍末筆河内守殿民部殿／大学殿御心得可被下候、／追而森民部無事之御事ニて／此間未た娘病気ニ候間／以書状可申上候、私より宜申／上度との事ニ御座候、

柳屋小左衛門養子左兵衛京用ニ／罷登候間任幸便致啓上候、／其已後は打絶不能書音／御疎遠之至罷過候、先日民部方／御加筆忝奉存候、其御地弥御／安全貴公様御堅固御暮／被成候哉、御一類中何も御無異にて／珍重奉存候、此間は社中衆／何も鞠ヲ被成候由籠屋清兵衛／物語共候、拙者共久敷鞠中絶／此度清兵衛すゝめ申候得とも／罷成不申候、何とそ式部／読書すゝませ申度候而／夫のミ之世話ニ罷在候、依之／儒書大方よミ文選も近日／よミ仕廻申候、延喜式神祇十巻／読書為仕候、近日より日本紀／よミ始申候、読書ともかた附／申候は貴公様御達者之内ニ／為登御世話憑上申度奉存候、／爰許一類中惣而無異儀／罷在候、将又前方ニ憑上申候／堂上筆跡柳や便ニ被遣被下／忝奉存候、相残り申候方を何／とそ乍御世話御調御下シ奉憑候、／貴公様御筆御調被下候之間／彼願人へ遣し申候処、殊之外／之悦御座候、御手前へ礼ニ被参候、／右贈答別紙懸御目申候、／又々貴公御筆十枚程御認／此便ニ被遣可被下候奉憑上候、／猶重而万々願申上候、恐惶／謹言、

杉浦信濃守

十月九日　　国（花押）

羽倉春満先生

玉案下

三三　享保十年十月十三日　松平権之助信富(信允)書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚々、西瓜音之義被仰聞／被入御念御事候、最早届キ可申候芋之義／被仰聞致承知候、成程年功有之物ニ候、

一地黄丸も今以御用可成存候、／押付序候之間調合出来次第／可指上候、三里灸ハ如何眼気ニも／可然候、二三度灸治被成候へハ左程／苦労ニも無之物ニ候、本所学問所／之義委細相知候ハヽ図書方より／可申進由、昨夕私宅へ参候間／［　］最初之沙汰程ニハ無之及承候と／図書申候、大炊頭出府後来年ハ／京へ可仕由御相談可有之旨／尤之事候、とかく内証向御手当ニも／無之候而ハ調不申御事、返々／本所学問所も内証向不調之さた二候、

一月次便有之候へ共数通故扣／［　］御同苗河州へ之／再注文ハ

正景拝

九月廿九日

春満公

三〇　享保十年九月二十九日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五二(五四九)

尚以、作庭記致書写為差／登候処相達候段被入御念候御書中ニ／御座候、御自筆ニて御写可被成之旨／御労煩之御事ニ候、緩々御手透次第ニ／御書留可被成候、来春吉田より之使者／下り候時分成共御返し可被下候、／当時令義解集解之会毎日被成／被下候間御太儀成御儀ニ候、御影故主税／令をも承別而忝致大悦候、兎角宜／奉頼候、且又物部氏之神書之儀及／承候様覚申候、其内承合候而様子／相知候ハヽ可申進候、只今之寺社奉行／黒田豊前守殿内証は大成経者候ニて候、／此手筋なとよりハ出不申候哉と被存候、扨又／東湖へ之御添削被遣候相達申候、御事多／御中ニ委細之御返答殊関絡秋暮之／歌ニ御褒美之御筆被添候由、／殊之外之悦御座候忝由、能々可申進と／被申候、

一此書状認かゝり候所へ、去ル廿二日之貴札到来／致拝見候、弥以御堅固珍重奉存候、且又蔵田／又左衛門書状為差登候処、御落手被成候由／被入御念候御紙上ニ御座候、御再報御下シ／被成次第相達可申候、又左いまた病気ニ而／引籠出勤も不被申候、此度も作庭記之事／被仰聞被入御念候御儀ニ候、已上、

去ル十四日之貴翰同廿二日ニ／相達致拝見候、時候次第及／冷気候へ共弥御堅勝之由珍重奉存候、／愚息主税儀も無事罷在候旨／被仰聞忝致大慶候、野子義／家内共無難罷在候、先以当／月詠草御添削被成被下、殊／兵吉詠草迄御添削被下／別而忝奉存候、当会は秋田氏／触穢明候而、昨廿八日ニ於私宅又々／相勤申候、秋田氏出席其外珍敷／今泉外翁出座ニて致大慶候、／八九郎・庄三郎は主人用ニ而不参／西東中務も社用ニ而闕座ニ／東湖も出席ニて候、何角と故障共ニて／出座人すくなにて御座候へ共、併／無怠慢月並会致興行本望／奉存候、又々来月之兼題当座／詠草懸御目候、毎度乍御六ヶ敷御／添削可被下候、此度ハ会日／延引故詠草遅為差登申候、／乍御面当宜御添削奉頼候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

九月廿九日　好（花押）

羽倉斎様

貴酬

三一　享保十年十月六日　村井久右衛門政方書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九(五六二)

御報翰拝見仕候、／愈御機嫌好被遊御坐珍重奉存候、拙者／兼而願望之御伝受／被成下扨々難有／仕合奉存候、十五冊／慥請取頂戴仕候、／相残候義急々候故／出来かね候由別而御苦労／被成下候半、気毒ニ奉存候、／殊ニ見事柿一籠／被懸貴慮不打置／賞味仕候、下向も／近日ニ罷成候故／今日は得御礼ニ／伺公不仕候、明後八日／貴顔ニ万端御礼／可申上候、恐惶謹言、

村井久右衛門

り無沙汰も候付、大井／杖ニすがり与五平次江罷／越尋候へは、いかにも自／備中守殿遠江守殿江被／仰遣候由挨拶ニ而も旨、使へ／三次郎口上ニ而も申越候、三次郎／自筆之返書并甚右衛門／自筆之来簡ニも荒増見へ／申候、猶今夕明朝迄ニ大井／本多安藤へ罷越面談／申候ハヽ微細可相知候、／備中守殿江御礼ニ罷出／可申と奉存候、扨御約諾／仕候落華生と不ル珍も不奉／存候得共、白ノ高麗菊／ノ種千日紅之種進上仕候、／通辞候間幸便次第上セ／可申候、お嶋殿御病苦御快／方ニ而御座候哉無心元奉存候、／今月十三日被下貴簡ニ御／封印持参仕候得共失念、

一信富公より御自分様へ被進候／八月廿一日御書之内、御切抜／被遣拝見仕候、段々御懇情之／御紙面忝仕合奉存候、／大隅守殿より七十郎殿江／御挨拶如何被仰候哉、且又／備州公より御返簡之御趣／等、従信富公御自分様へ／御沙汰御坐候ハヽ被仰／知可被下候、承知仕度／奉存候、

一信富公御紙面之内ニ、戸田／山城守殿御家士之内ニ私／入魂之者有之段、具ニ／七十郎殿迄被仰進被下旨ニ／御座候、山城守殿御家来／懇ヲかうニき申様に、／大隅守殿万一被思召上／候てハ還而妨ニ可罷成哉／と奉存候、兎角外之／訳ニ御かゝハり不被遊、一筋ニ／信富公厚ク御苦労ニ被／為思召候段、御頼被下候様ニ／仕度奉存候、最初ハ兎／も角も此上右之通ニ被／仰遣被下候様ニ願度奉存候、／猶被加賢慮苦間敷候ハヽ／御取繕被仰上可被下候、

一今ニ御入人御抱候訳／江戸より御沙汰無御座由ニ／御座候、

一信富公へ被成下御書御／請一通、備中守殿公用人／安藤へ甚右衛門頼ニ指上候、其／後右之御礼申上度一通／相認置、山城守殿御家士／取次役松浦忠左衛門迄、九／月五日之便ニ指上呉候様ニと／頼遣候、追々相届可申と奉存候、

一山城守殿往事被成下御／懇御出入仕切り御馬拝／借稽古仕、当時公用人仕候／堀藤助別懇借申候、且私所／持候【水青】（紅梅月毛大長）ノ馬差上申候、／八九年前迄勝見月毛／とも間ニハ御感呼被成候由／松浦抔より申越候、今ニ折々／御機嫌相尋候得共、久々／爰元ニ罷有候付御目／通之御出不申候、

一信富公御当御役ニ而は炮術／御巧者ニ可被遊御坐恐察／仕候、御組之内御鍛錬之御方／多可有御座と奉存候、私近来／小筒執行仕度少々承候所、／他ニ無之流儀中々面白随分／万事ニ心ヲ付手錬、縦ハ火鉄ニ／物中り候ても曽而化落不仕候、／火蓋ヲ切不申其儘ニ而引かねヲ／挽候へは、火鉄落申節自ラ火／ぶた開キ候故、雨降候而も口薬／濡不申右皿へ雨入不申候、勿論／火鉄ヲ扇ニ而強扣キ候而も中々／落不申候故化落無御座候、／櫓等よりハ速ニ打出し筒先／下り候而も曽而玉ころひ／落不申候、竪物筒ノ用方／兎角不被申候、鴨雁群申所へ／打候得は一放ニ十一二羽迄も／中り申候、日比御自分様武／術御好故別書一冊御慰ニ懸／御目申候、私師匠西条／主馬と申父代より工夫／鍛錬仕候付、責而一品ニ而も／関東御用ニ差上度念／願ニ候得共、宜手筋無之／内次第及老年残念成事／御座候、御鉄（炮）奉行石野殿へ／工夫ノ筒入御覧流儀少々／御咄仕候処、筒不浅感心／数百挺御預り被成候得共、／如此之筒ハ曽而無之由／流儀好母敷思召候得共、／於江戸田付四郎兵衛殿御／次第ニ御成候付、急速ニ流／儀ハ替難被成由ニ御坐候、／実長文ニ罷成御退屈と／筆止候、以上、

御自分様／より被仰下候御事ニ候間、無御安在承／合候様ニ可仕候、
紀伊様爰許御／屋敷御留守居猪飼忠右衛門ハ私も久敷／知人ニ而御座
候得共、参会ハ希ニ／御座候、近藤源之丞殿御事時節候／得は急申候、
彼是御丁寧之御紙面／病入申候御事共ニ御座候、申上度事／如山如海
御座候得共、例之悪筆廻り／不申候前後成文法御推見可被下候、／恐
惶謹言、

喜多埜隠士

八月廿五日　　正景（花押）

信盛様

二九　享保十年九月二十九日　勝見杢之介正景書状

「万葉童子問」紙背　切続紙　A・一・二・五六（八九三）

尚々、大方先達而御／吟味候五人之内ニ而決定／可有御座と奉
存候、卒共／残念無御座候、宰王カ尊／トヤラン向後之幸ヲ御
心ニ／かけさせられ下さるへく候、／併備中守殿より被仰遣候
砌、／遠州公御報ニ未申迄も／無之と被仰遣候而ハ気ノ／毒御
座候、郡司殿へ此程ヲ／御頼置事済候義ハ、二段／不都合ニ無
之様ニ仕度奉存候、／与力中より申込候段備中殿へ／申達候得
と、間違無之御報／被下候様ニ仕度奉存候、得宥／□は逸々不
申候、御推見／可被下候、以上、

遠州殿不達御聴ニ津田／□□計閒捨ニいたし／ヲカレ候て、備
中守殿へ／御返報間違可申と奉存候／付如此御座候、以上、

以町飛脚呈一束候、／頃日参上仕久々ニ而得／賢話大慶段々御饗応、
／畤昔伏見迄御光臨被下／于今不始応の御厚情／千万辱次第奉存候、
於旅／宿煎茶さへ上ケ不申／意外之至奉存候、御帰／館以後益御安泰
可被成／御坐目出奉察悦候、／河内守殿御口中弥御快、／御家門中御
異別御座／有間鋪珍幸奉存候、／大学殿・民部少輔殿江／乍憚宜御心
得被遊可被下候／然は私義昨日帰還ニ／高槻へ蒐歩筑後守殿／より
遠江守殿江被仰遣／被下様ニ、関一学迄可申／談旨申上候得共、此間
残／暑ニも病候ニ付、伏見／舟場ニ而右一件書状ニ／認関治部右衛
門・小嶋十右衛門へ／連紙ニ申遣候、高槻へ拾八丁／有之前嶋邑江ふ
ねヲ付召連候者／揚候而、昨夜豊前ニ遣之候、／早卒右両士より一学
江／演達可申と奉存候、如何／御手間入候哉、夫々モノ未／帰り不申
候、然は渡辺殿／与力大井三次郎より留守見／舞ニ人煩候、乍礼先時
／手簡遣候所、従基綱殿・／氏朝殿江御状ヲ以私義／御頼被遊被為下
筈之由申／来候、三次郎紙面并備中守殿／用人安藤甚右手紙共ニ／今
般備高覧ニ候、此甚右衛門／と申用人中年来私入／魂ニ付、三次郎覃
内談ニ度／候得共痛所有之引籠／罷有候故、頭之用人中組／屋敷へ扣
候先例も不及／承参ニ遠慮候得共、指／急キ候付不得已前扣手／紙遣
候へは、当節別而宜敷／候得共、私身上向候用事／格別之義□候間可
罷／越と申来、去ル十九日大井へ／安藤入来内談之上、表向／家老鈴
木左門ヲ以願可然候、／甚右と小林三右衛門左門同役家老安藤シフト也／両人ニ
テ、随分基綱殿江執／合可申候旨請合帰候、然共／三次郎病所有之御
番／引候付左門へ難参、因茲／本多与五平次と申同心支配／仕候、基
綱公与力私心安キ／因縁ニ付、右事申入召御頭江／両人之願ニ仕申込
呉候筈／御坐候而、当月廿一日左門迄／本多罷出申伸候由、其後／来

入、春情事／御自分様へ御引合秘書共御渡し被遣候／よし、偖々難心得義期察ニ、春情爰／元引退申事ニ付小子取捌不届／不埒之由、珠城・武川両人道員公へ咄／申ニ付真直ニ御聞請候而、其元様へ／春情ヲくるしからぬ人品候モノと／思召御引付候や、且春情へ対し私／仕方不埒と道員殿御下墨候段は、／時節ヲ以微□物語申候ハヽ御聞済／可有之候へ共、惣躰宜者と思召御手前様へ／御手引被成候段、かね〳〵御懇ニ被成下候／其元様御事故、間違も有之候而は／御事共ニ成間敷と、是耳一筋ニ／きのとくニ存御面談ニも其趣少しハ／申上候得共、猶春情作病不恙候訳共／慥成珠城母子武川等紙面可入御／覧と存、勿論進候も無益之事ニ／候得共、廿四通懸御目ニ候由先書ニ申上候と／覚申候、扨道員殿御報可懸御目ニ／御約束不申上段被仰下候、私ハ日本／尊神慥ニ道員老御報重而指上セ可／懸御目ニと申上候と覚候得共、数年／御存候麁相忘、殊其前夜子ノ刻／迄高槻ニ而夜話少休息、八ツ過ニ出歩／伏見へ翌辰中刻参着、夜半残／暑ニ病貴亭へ伺上候而も不快ニ付／御勝手へ申述、召連候モノニ据薬い／□させ服用仕候躰、別而不口上ユへ／ヒキク候て不入御聴ニ候様ニ奉存候、／中々微塵も□言申かけ仕候意と

三

心底無之、第一其元様数年来御懇／情被下候故、猶又カザリケ間敷事も／不申上所存ニ而候処、右御報之義ニ付／御約束故上セ申段申上候得は、約束ハ／不被遊旨被仰下ハ、いつわりモノト御／思召候段面目も無之仕合赤面／汗顔不少候得共、何ヲ証拠ニ可申／分ケ様も無之当惑仕候、扨又右之珠城・／武川・日月・鎮西・富野等へ文共上セ候故、／一両通ハ御披覧被遊候得共、元来御存／無之事故一ツも御合点不参、是ハ／其元様御一見可被成義ニ無之故／早速御返し可被成候得共、大切成／文共と思召候故、町飛脚御遠慮／被成重而日月や便ニ可被遣よし／被仰下候ハ、御丁寧成御事奉存候、私一／分へ対し曽而春情ニ意趣遺恨無之、／手前かくや逐電同然ニて月迫／及上京其跡へ諸方より金銀始種々出入／申来、暫く内面倒仕候と申はかりニ而候、／今度町飛脚ニ而被下候十四日ノ御紙面ニ、／△道員送状御約束と被仰御登御見セ被成候、／私御約束ハ不仕候、定而道員不届候段／御とかめ故、急度其段道員へ申達候様ニ／思召、返状御見セ被成ものニ奉察候、／其上大学殿右之御紙面自然落／散候ハヽ御約も不仕不実申進、其上／心外成事候ハヽ御直談可申所、／御連枝之内又候実子江申遣候／段キタナキ仕方ト批判可有之哉、／是ハ畢竟申而見くるしきニて無／詮御事御坐候、其表逐電へ南／□峰殿可被仰義も無之御聞被成候／御事も無之由被仰下候、千言万語／最早御再会不被成候得は、尚伴不／恙候作思申上候ニ不及御事ニて、母浄覚ヲ／松下も両度爰元ニ而見かけ、春情も／書物ヲ持方候、爰元徘徊候由風聞仕候、／是共ニ委申上も不入事と筆止候、

一紀州　御家士岩橋藤七殿と申御方、／御書物御用之義ニ付毎年暫時御／在京ニ而、去年已来御宅へ御越御心／安御出会被成候、今度大坂表旧書所持ノ／方有之候ニ付、若大坂表御自分様御／懇意之者無之哉と御尋ニ付、私事／兄弟同事被遊候段被仰談候所ニ御逢／被成候而、尚伴之事共少御聞合御頼可／被成由被仰、廿日過ニ御出坂愚亭へ／御被来臨可被下間、可得御意候由奉得／其意候、　紀州様御用ニ而方々／旧書等御尋被成候御方、吉野辺へ御越／着候ハヽ御帰先キより爰元へ御出津／被成筈之由被仰下承知仕候、得貴／意候うへニ随身之御用は

／御参会ヲ楽ニ存候計ニ候、外ニハ指テ望／無之残念□ハ不存候、松下源助へ御報／被遣御丁寧之御事早卒届申候、／春情事ニ付当春多賀御氏より被下候／御報、御約束故指上セ申候所、御約諾ハ／不被成候段被仰下、定而道員殿ハ不届ヲ／相とかめ候て、急度道員老へ其段／被仰達候様ニと存、右御状入御覧ニ候と／御察被成候由也、大学殿へも御懸御目ニ／被下候へと申進候得共、先日大学殿へ御／参会之刻大学殿御咄ニ、御連名之／愚冊ヲ道員殿御見せ無之候、不届之／至と御噂有之候由、然所ニ右へ御報ヲ／大学殿へ懸ケ御目ニ度由申進候ハ、／至極拙夫立腹仕候而再三大学殿侘言／被仰聞候□キとハ存間敷候得共、御実父／御不届ヲ御息様へ御身ニ成候而ハ、御胸ヲ／割ことくニも思召候ものニ付、道員老／御報不被懸御目ニ愚簡計為持被遣、則／御返書迄御届被下由忝入手仕候、

一道員殿被成かた至極私立腹ニ付、／道員老御報大学殿へ入御覧ニ候との御／紙面進仕間違ニ御座候、難捨置心外之／義ニ候ハヽ其元様大学殿へ可得其意筈ニ而／無之、不移時刻道員老へ罷越御直談ニ其／訳ヲ糺し可申候、世上ニハ用事申遣候而も／其文ヲ請取さへ不指越仁余多有之由、／道員殿ニハ乍延引御自筆之御報答被下申候、／春情事近衛御所ニ召仕候御女中ヲ御／一名御そへ被下筈ニ而、旧臘廿六日夜舟ニ而出／京、一両日中女中召供下り可申迚のほり／候所ニ、急病大切候由武川采女より春情母／浄覚尼へ文到来候由候間、□候上私路銭／取替進候、浄覚陸地登京可申候跡ニ半季／居ノ老女一人差置可申所、方々より貫還銀／預ケ物出入等数十ヶ所より申来候得共、下女請答／不埒ニ付家主役迚届ニ来当惑仕候、弥／近衛様妾ヲ被下置候ハヽ待合可申候、廉言ニ／候ハヽ家請人へ春情下女初銭置候雑道／具渡し遣候歟、采女呼下候共可仕候／間近衛様御奥方へハ御縁有之様ニ／及承候間、大学様御聞合□実ニ仰

二

知被下候ハヽ千万可忝由、御両所様／御無心申上候、御聴合ニ御手間入候、可程／隔り道員公御一名ニ而御報被下之／春情・采女格別御入魂故ニ候や、私右／白地ニ御返書不被遣候様ニ被御頼候由／御文躰にて候、夫共是非承度存／候ハヽ再三申上候へ可被仰遣候よしニ／候へ共、指急候故外へ申遣、大概承合／候故珠城一件爰許公辺ノ不及沙／汰ニ届断有之、先々へも得心いたさせ／家主ノ請込節ニ不罷成様ニ取計事済候故、／再往不及御頼ニ候、畢竟手前よりハ一通り／近衛殿御方ヲ御聞合御頼申上ル迄にて、／春情よりハ重ク御頼申上候付不被得／止事ヲ入御覧候、返々御報被下候物と／存候得は差而述懐ニ不存候、然所ニ／伏見へ罷越候付大学殿へ御見舞申候、／先日御扇子被下候御礼詞申置一二丁／北ノ方へ道員之所御人御出し、御在／宿御用も候間御逢可被成旨御懇ニ／被仰聞候付、立帰り相積事共アラヽニ／取交得御意候節、当三月年始之貴簡／特ニ扇子□下忝、従是も道員公迄御頼／御祝詞申上、并道員公御連名ニ副状も／進候、因茲貴酬も一日ニて及延引／申候由申述候所ニ、曽而御存無之との／御挨拶故、麁相成事申上候と御下墨も／きのとくニ奉存候、其申わけノため／連名之書状届候との道員殿御報ヲ／入御覧度ばかり之心底ニ而、神八幡／無化念候、毛頭道員老へ之遺恨ヲ／大学殿へ申上候悪敷底意ハ無之候、／扨貴亭ニ而春情事道員老御引／合七月迄御出会被成候而ハ、大切成／御写物被仰付との御咄故、私則座ニ／心付候ハ春情行跡不都合共ヲ初／春ニ承合候事ニ付申進候所、采女春情ニ／御頼レ候迚追而御報被下加

ニ而ときもつくり／不申候、来二月比ハときも作り／可申候、幸便次第のほせ可申候哉、御／決談不仕候付御尋申上候、扨進藤／源直殿剣術御巧者東都ニ而名高／御人殊ニ貞実成御方故、御別懇ニ／被成候付、私事も御咄被成候間御引合／可被下由忝、得時節候ハヽ御参会／仕度候、藤井安左并珠城等ニコリ／候故、爰元ニ而もめたと出会不申候／得共、御手前様御入魂之御方ニ候へは御／床敷奉存候、アミスタ草白河骨／終ニ不及かね、伏見井手士跡も去ル廿七／日惣仲ヶ間中願ニ而横田彦三次男ヲ／被召出候由風説仕候、氏朝殿より基綱公へ／八朔昼迄ハ御報無之由用人中より／申来不審仕候、其後基綱公御／家士之通路不仕候、大井安藤夫共／四通御返し入手仕候、猶期後音之／時候、恐惶不宣、／御印返上、

（御印返上の上張紙）「印

七月廿」

勝見杢之介

八月八日　正景（花押）

羽倉斎様

参人々御中

二八　享保十年八月二十五日　喜多埜隠士（勝見杢之介正景）書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙三紙　A・一・二・一五一（五四八）

一

尚々、御勇壮被成御座奉／珍悦候、庭之白萩咲白萩・紅萩／草藤当時さかりにて候、少／入御覧度奉存候、将又九巻毛利／御両家喧嘩、酒井同氏落着書、／金蔵とのへ御写させ被遣忝奉存候、／御世わ被下相見へ候、とくニ合候てハ見事なる御手跡／驚入申候、御浦山敷奉存候、よしなき春情／事よりお帰り候て何角と御心ニ不応事共、／将又私も御下墨ヲうけきのとく奉存候、／其元様御入魂被下候御余光ゆへニ河内守殿・／大学殿・森・杉浦御両所迄御懇情ニ被成被下候／御事ニ候得共、中々通意有之候而申進候／わけニ無之候ニ付、□□取合質物百めニ遣申候、／桔梗や庄兵衛并真下や両人へ近衛関白殿／御内武川采女と申文ヲ付進やう、ね／たり事当夏申来候よし、庄兵衛手後へ／未庄兵衛江ハ手紙不申候、近日面談申筈ニ御座候、／悪筆廻り不申麁末ノ紙而御免〳〵／御封印進上仕候、私印可被遣入手申ント仕候、

去ル十四日貴冊翌十五日届忝／拝見仕候、益御堅栄御一門方／御安泰被成御座珍重奉存候、一粒／金丹残二粒相達候付被入御念御紙面／御座候、能書御返し落掌仕候、少間／有之候ハヽ調剤人へ所望も又可申／遣候、二粒御用御快方ニ候ハヽ無御心遣可／被仰遣候、白山吹弥みこと候間幸便ニ／可差登哉、得其意奉上候、次第ニ此節／宜成候間便宜求進上可仕候、返辞候間／一番弥御望ニ思召候ハヽ進し可申旨／申上候得共、猫御所持ニ付御片付候て其／后可被仰遣候由、然共外ニ望候仁／御座候ハヽ夫へ遣し可申旨御楮面／畏入申候、典薬頭原雲庵法印之／子息之由近来京より爰元へ下向／被致住居候、原泰庵鶏頭数寄ニ而／先日入来候上、サノミ御自分様ニ御／望ニ不思召候ハヽ貰度よし被申候、猫／外へ被遣候ハヽ鼠徘徊御書物御道具／瑕付可申候間、時々ニ鳴申迄ニ而／猫ニ益ハ劣り可申候、旁故泰庵江／送り申候迄付雛出生可申候間、／其砌御用ニ候ハヽ取よせ進可申候、／一井手士跡之事ニ付御懇書忝奉存候、／御自分様御近所ニ住居候て折々

候へ共、御家内無／御別条貴様御堅勝御勤被成候哉／承度奉存候、去ル廿二日芦田／平内致下着弥御清福之由／承珍重不斜奉存候、愚息主税／儀段々御懇情神書会ニも御丁／寧ニ被仰聞候旨致承知、別而忝／奉存候、乍御世話弥宜奉頼候、／将又平内義も罷在候内御懇意、／殊ニ発足仕候砌為御餞別御目録／被下候由申聞於拙者忝奉存候、／平内儀も右之御礼等忝段、拙者／方よりも能々申進くれ候様ニと申／忝なかり申候、同廿六日ニ国元江／罷帰候、老父病気も途中ニ而／在所之者ニ逢承候処、段々／快方ニ御座候由承候旨申悦罷／帰候、

一定家卿之明月記は当時存／在之書数何冊程御座候ものニ御座候哉、／被仰聞可被下候、払本ニ全部五十冊／ほと御座候由承候間御尋申候、委細／期後音之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

四月晦日　好（花押）

羽倉斎様

二七　享保十年八月八日　勝見杢之介正景書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五一（五四八）

尚々、松下源介被致推参御馳／走忝、今度以書中御礼奉申上候得共、宜／相心得申上候得と被申候、源助又上せ／申候、将亦御約束故道員公御報今度／上せ申候、大学様へも被入御覧可被下候、／外ニ珠城一件文共都合廿四通上せ申候、／事済候故無詮事ニ候得共、万一此文之内／御心得ニ可成御事も可有之や、御披見ノ／御障妨と奉存候へ共先上せ申候、／下向候而珠城母ヲ源介両度見かけ／申由ニ御座候、無僕ニ而見くるしキ／躰ニ而、源介まへヲ通り又途中ニ而も／見申由ニ御座候、南氏も爰元へ耳／ハ申上候と申事ニ御座候、万能□両々／惜キ事と奉存候、先月廿八日水野／隼人正殿於殿中ニ毛利主水正殿ヲ／抜討ニ而打、長田三右衛門殿被組候よし、主水殿／其夜御死去、栗崎道有療治ニも叶／不申由、隼人殿ハ秋元伊賀守殿／被預ケ同晦日ニ御切腹之由、信州先／比より地震不相止候由風聞仕候、委事／とく御聞可被遊と奉存候、余ハ期後音／時候、以上、

去ル念八夜ノ□□乍貴報忝／拝覧仕候、御自分様御堅栄／河州公御口中御快復、御家門／無御異別目出安堵仕候、前嶋殿／御病苦六ヶ敷由道員公被請指図ノ／灸治多ク被成候旨、且亦一粒金丹／御用可被成間残候ハヽ一二粒のぼセ／可申由畏入、姪江尋候所漸両丸／有之と申候ニ付、今度用服書付／添候而進上仕候、此書付ハ御返し／可被下候、爰元京町堀五丁目／としより役并大名衆御内用／達候雑賀や七兵衛調合仕候ニ付、被存／心安御坐候故所望申、姪江給させ候／全快仕候、先日十五粒貰無間も／其元殊外秘蔵之由ニ付無心／難申、先有合候ヲ乍纔進申候、

一白高麗菊春秋彼岸両度共ニ／咲申候、秋蒔候得は二月比より／華開キ申候、千日紅ハ春彼岸ニ／蒔申候、落花生ハ　日まへ中り／暖ニ湿無之、又強乾不申候地ニ四／月頃種おうく申候、寒ヲ嫌／申候、山吹茎葉共ニ常ニ違不申、／咲出しハ少黄ノ移候得共花／盛ニハ白成申候、幸かへり華／カヂケサキニ開候付葉茎共ニ手／折懸御目ニ候、四本立一株所持仕候、／御用次第進し可申候、併当時分へ／ハ枯可申哉、其内幸便候ハヽ上せ可／申候、且又薄御約議仕候通辞鳥／一対いまた鶏

貴酬

二五　享保十年四月二十九日　松平権之助信富(信允)書状

「松平権之助書状」　折紙二紙　A・三・一〇(八八九)

尚々、御秘蔵之古今／伝来之書写本被成遣／御心入忝存候、尤秘蔵／仕可申候、猶御所見之／歌道伝受願候御事候、

追而、頃日下田幸太へ見廻暫申談／御噂申候、不絶御用有之珍重存候、／乍去御心遣共察申候、学文之／咄抔も出申候、木村事も尋被申候而／宜挨拶仕置候、根本願之義も／貴様思召之通具申達呑込被申候、／先ハ根本一方之願ニハ聞へ申候間、／少ハ相ましハり候様ニも気味相／有之候而ハ如何候間、其段大炊へも／当春具申聞置候、大炊も／兎角気色会快とハ不相聞候、／頃日も為養生出府とハ及成候、／此方抔へハ無沙汰候願之義／急ニハ調かたき御事候、何とそ／時節到来相待計候、以上、

追而、此御報も同氏方より御届ケ可申候、／何時も京都家来方迄御状被遣可／相届候間右様御心得可被成候、以上、

先月朔日貴札拝見／弥御無事之由珍重存候、／乍然御眼気未然と無之由／不及申候得共、無御油断／御保養肝要御事候、御気色も／御快候之由、左候へハ追而御眼気／可被得御快気候、下拙事も／無異義相勤何も息災／候之間可易御心候、然ニ内々／致御約束候古今和歌集／伝受書写本相調合二十／三冊被提下御心入忝存候、／東野州伝御先祖伝来／御秘蔵之事被成来候之間、／妄ニ他人江相伝申間敷由／得其意存候、芝崎宮内少へも／今度被遣之候、書写筆も／混雑もいかゝ之故一単は／御調させ候付而、何かと故障／延引之由入御念候趣致／承知候、此伝東野州末流ニ候、／今ハ残り不申様に御承知／被成候、猶承合可申由儀誠珍書／写本被成下忝奉存候、秘蔵／可仕候、御別紙被遣被仰下／候之通承知いたし候、木村方へ／追而可申談候右様思召／可被成候、右古今伝授／［　］密本之義候得共［　　］／歌道之義御物語承之、／百人一首伝受抔も／承之上ハ人々尊仰／仕候様ニハ致一覧候而も不及候、／習合附会之事共相見へ申候、／非存候ハヽ御所見之歌道／伝所希候、定而御仕立被成置／候半と存候、木村抔ハ［　　］／古今伝［　　］／承之［　　］／上覧有之様［　　］／是非ハ書面相見可申候、少／存寄候之間心かけ可申候、猶／期後音之時候、恐惶謹言、

松平権之助

四月廿九日　　信富（花押）

羽倉斎様

御報

二六　享保十年四月三十日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚以、来月之会詠差登懸／御目候間、毎度乍御六ヶ敷御添削／可被下候奉頼候、来月は吉田慎斎老／亭ニ而興行之筈候、当月は廿五日ニ／首尾能私宅ニ而相勤致大慶候、／折節何角と取込候儀故早々如斯／御座候、已上、

此間吉田之使者帰京之／便ニ以愚冊得芳意候、頃日は／不勝空ニ御座

月／例之通御年礼致出府候／処、黒田豊前殿御新役故に／願之筋御尋被成候而、其已後／暇出不申于今致在府候、若／御沙汰ニも及候儀も可有之哉／如何と罷在候、此度ハ柳屋参候而／能つれ故上京と心掛候得共、／万一関東出府之儀も可／有之哉と遠境へハ、難罷出／様子見合罷在候、相替／儀無之不能多□候、恐惶／謹言、

杉浦信濃守

三月五日　　国（花押）

春満先生

玉案下

二三　享保十年三月七日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二一・一五七(五五九)

尚々、愚息主税弥／宜奉頼候、已上、

此間以愚冊得御意候、相達可／申候、弥御家内御揃御堅固／御勤被成候哉承度奉存候、／私宅無別条罷在候間御心安／思召可被下、先状ニ当月之会／詠懸御目候毎度乍御六ヶ敷御／添削可被下候奉頼候、且又東湖／詠草懸御目くれ候様被頼候間／為差登申候、一同ニ何とそ御添削／被成被遣可被下候、当地ひたと／風立火事沙汰しけく、去月／廿九日ニも湯島天神下板倉／讃岐守殿屋敷より出火近所迄／致類焼、当所も致気遣候処／無異儀致大悦候、将又昨日／吉田慎斎亭ニ而臨事会／被致興行、芥川小野寺へ出合／日暮迄語申候、其節之／愚詠懸御目候間是又御添削／可被下候、余事期後音之時候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

三月七日　　好（花押）

羽倉斎様

二四　享保十年四月二十二日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二一・一五七(五五九)

尚々、芦田平内替りニ／御山伝治と申若年者／為差登申候、御世話御座可／被成候へ共奉頼候、将又愚妻かたより／伝書申進候へハ被入御念御伝書／被仰聞、委細申聞候へハ忝由／能々可申進旨申候、且又此糊入／紙壱束并浅草のり書中之／印迄致進上候、取込罷在候間／早々申残候、已上、

去ル七日之貴翰同十八日ニ／相達致拝見候、時分漸及／暖気申候、弥御家内無御別／条御勤被成候由珍重不斜／奉存候、先日は数年懇望ニ及候／古今御伝授書御下シ被下候而／忝奉存候、其節書物御入被遣候／箱此度致返進候、御請取可／被下候、鎰は主税書中ニ封入／遣申候、先以当月之会詠并／芥川氏亭ニ而之兼題歌之／詠草懸御目候処、御用事繁御／中ニ早速御添削御下シ被下／別而忝奉存候、廿二日芥川亭／会、廿三日ニ吉田之使私宅／発足申返翰何かと取込／罷在候故断申、廿九日ニ参候／筈ニて当月会も私宅ニ而／廿五日ニ興行仕候筈ニ候、且又／芦田平内道中無事ニ今日／爰元迄着仕委細御様子／承珍重奉存候、猶期後／音之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

四月廿二日　　好（花押）

羽倉斎様

状遣くれ候様ニとの／書状一封御届申候、且又主税／かたへ被遣候は□
□少々雑用方頼／遣候間、遅而も不苦候条御勝手／次第ニ少宛被遣可被
下候、右之趣／早速為申進如此御座候、猶／期後音之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔
二月八日　好（花押）
羽倉斎様

二一　享保十年三月三日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚々、弥無御別条御勤／被成候哉承度奉存候、手前先比／より吉田
客逗留、其上先夜之出火ニ／取込今奉行衆へも礼ニ出不申候、／詠
草も別而御苦労ニ御座候へ共／乍御苦労御添削可被下候奉頼候、当
／春雨遠く度々風立火事沙汰／しけく致気遣候、然は手前無別条／
罷在候間御心安思召可被下候、已上、

弥其許御家内御揃御堅固ニ／御勤可被成と珍重奉存候、此／表私宅無異
儀罷在候間御心安／思召可被下候、然は先月爰元ニ而／之月並和歌会、
兼而秋田氏之／亭ニ而興行可被申との儀ニ候処、／慎斎病気快気ニ而為
保養之／未出勤も不申居候間、慎斎亭ニ而／勤被申度との儀ニ而、秋田
氏も／被任其意候而、去月廿六日ニ吉田氏／亭ニ而首尾能被勤候、就夫
／今月秋田氏ニ而被勤候筈ニ候、／新宅之儀ニ候間兼題二首／題ニいた
し度由、花下送日之／題被出候而祝儀を含くれ候様ニと／之儀ニ御坐候、
則詠草懸／御目候、いつもなから御添削可被下候／奉頼候、且又先月廿
九日之夜ニ／近所湯島天神下板倉讃岐守殿／屋敷より出火、北風強近所
藤枝／若狭守殿屋敷なとも致類焼候／程之儀故、当社内もあやうく被存
候ニ／不思儀ニ社内私宅共無別条、／致大慶候段御察可被下候、就夫土
／蔵穴蔵いまた道具入置候躰故／取込、今日漸詠草為差登申候、／未出
来不申方ハ追而出来次第／為差登可申候、猶期後音之時候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔
三月三日　好（花押）
羽倉斎様
机下

二二　享保十年三月五日　杉浦信濃守国頭書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚々、御堅固御勤学今以／御公用御座候哉承度奉存候、／去秋御憑
申上候貴公様御／墨跡、此度柳屋下向之／節色々御下し可被下候、
奉憑候、／其外堂上之筆とも／何とそ御世話奉憑候、／まちかね申
候、小左衛門ニも四月／下旬迄ハ京大坂堺之内逗留ニ／御座候、其
間何とそ折節／参上申候而御清話申度／願御座候、若参候は／和歌
殊之外熱心ニ御座候間／御相談被成被遣可被下候、猶／重而得其意
候、以上、

柳屋小左衛門上京ニ付／任幸便啓上仕候、弥御堅固／御勤被成候哉承度
奉存候、／正月以書状申上候相届可／申奉存候、仍御年玉百疋／進上仕
候、其御地統而相／替御事も無御座候哉、竈家・／目代家定而御安全致
／推察候、爰許無異儀／罷在候、七右衛門も当春役替／被申付候而、カ
番役罷成候故、／供役ニ付二月廿四日江戸へ／致下向候、、森民部当正

と奉察候へ共宜奉頼候、

一同氏主税儀御懇情ニ被仰聞別而〳〵／忝奉存候、宜〳〵奉頼候、且又御書物／百人一首緩々可致書写旨被仰聞／忝奉存候、年始より于今社用多／取込申義ニ候、今日は初午ニ而其元／さそ〳〵賑敷可有御坐と目出度／奉存候、余事期後音之時候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

二月朔日　好（花押）

羽倉斎様

一九　享保十年二月三日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一　五七（五五九）

猶々、富士中務今日迄ハ／出府之沙汰不承候、出府ニ而／致対面候て左申趣委細致承知候、／今度中務出入之義支配下之／義ニ付同役之出入ニ罷成候、／此間同役之咄ちくと承候、内証ニ／事済候様いたし度候、未公辺之／儀ハしかと知不申候、其内／様子承候て可申進候、右之金子／之義主税へも御咄被成候由申越候、／且又吉田慎斎不快之義、此間申進候／通去月廿六日慎斎宅ニ而之／興行ニて席へハ出不被申候、夫より御座候て／見廻ニ使遣承候へハ、／労役之由ニて一日ニ人参四匁程も／用被申候由、気遣成事ニ而ハ／なくとハ承候へ共、何とそ早速／本復いたされ候へかしと願申候／御儀ニ候、已上、

去月廿四日之貴翰相達／致拝見候、未余寒御座候／得共弥御堅固御勤被成候由承／珍重奉存候、賤息儀も／無異変罷在御懇志之段／忝奉存候、将又歳暮歳旦申候／愚詠懸御目候処早速御添削／被下忝奉存候、正月之／会詠も先達而御添削被成／御下シ被下、先月廿六日慎斎ニ而／当年之会始致興行致／大悦候、当期は当月之会詠も／為差登申候、相届申候ハヽ／乍御六ヶ敷御添削可被下候、

一御別紙ニ被仰聞候富士中務少輔江／被遣候金子五両、今度中務／致出府候て主税方へ遣之、／金子とかはセニいたし遣候様／中務より其許江申進候段被／仰聞委細致承知候、中務出／府致対面候ハヽ右之五両成程／此方ニて相渡し可申候間可被御心安候、／主税方へハ夏中迄ニ其許ニ而／被遣可被下候、右之貴翰昨日／相届候間早々御報申進度如此／御座候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

二月三日　好（花押）

羽倉斎様

二〇　享保十年二月八日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一　五七（五五九）

尚々、弥御堅固御勤／被成候哉承度奉存候、将又／此間当月之会詠為差登申候、／毎度御苦労なから御添削／可被下候、同名儀弥以奉頼候、吉田より之／使者未逗留ニ而何角と取込早々／如此御座候、次第及暖気候、其許御家内／弥御堅固可被成御坐と珍重／奉存候、此表無別条罷在候、／御心安思召可被下候、然は先頃／被仰聞候富士中務江被遣候／一物之儀、今度中務出府ニ而／昨七日ニ私宅江被参被仰聞候通、／委細申談今日又々被参候間／右之金五両相渡シ申候、就夫／其許江書

面、弥惣左衛門／方より御返答申進候義迄／委被仰下、入御念候
御事／存候、則在所へ申遣候、／以上、

正月廿日　之真（花押）

羽倉東丸様

御報

一七　享保十年正月二十日　稲垣太郎左衛門之真書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、除夜之御佳作／為御見被成忝致拝覧候、／乍不及二色なるとの／御趣向新敷と申候て可在／御座哉、さて〳〵面白／御事と感心仕候、／歳暮御歳旦はさのミ／御珍しき事も無御座候故、／為御見不被成候由残念／御座候、いつれニも其内御書付／可被下候、其地は定而／秀逸とも御耳にも／触可申候、是等宜と／申詠吟共御書付為御見／可被下候奉頼候、以上、

御別簡致拝見候、如仰／改暦之御慶千里／同風無尽期申納候、／貴丈御堅固御迎年／被成之旨珍重御事／御座候、然は旧冬／申進候今泉八九郎へ／御伝受候徒然草、／世上伝受と申説ニ而／御座候、望ニ候ハヽ八九郎／方より可承之旨忝奉／存候、貴丈御家伝ニ而は／無之世間流布之／一伝全御秘事と／申程之事ニ而は無／御座由、ヶ様之類／強而正義ニ心得候而は／為害事も数多／在之、別而神書歌書ニは／邪説流布致候間／兼而其心得可仕旨、／御細書之趣忝次第／御座候、且又旦那旧年／御　預地被　仰付候段／申進候、何方を御預／被　仰付候哉御聞被成／度之由、則越後之内／六万四千石余被／　仰付候、結構成筋ニハ／候得共中々事多／物入も御座候而心遣／仕事ニ御座候、万々／永日可得御意候、恐惶／謹言、

稲垣太郎左衛門

一八　享保十年二月一日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七（五五九）

尚々、未余寒甚御座候へ共／弥御堅勝御勤被成候哉承度／奉存候、扨又東湖へ之御伝書委曲申達候、／忝由宜〳〵可申進旨申候、今度も／会詠、拙者かたより一所ニ懸御目くれ候様ニと／越被申候間為差登申候、御添削被成／被遣可被下候、題之春之字黄ニ書違／参候、是又御直し被遣可被下候、東湖障／なき儀ニ而漸会詠も読被申候、已上、

去月十一日之貴翰同十八日ニ相達／致拝見候、如仰新年之瑞祥迎日／重畳申納候、御家内御揃御堅固／御超歳之由珍重奉存候、私宅／無異儀致加年候間御心安思召可被下候、／先達而年始之御慶以愚冊申進候、／相届可申候、先以正月之会詠旧臘／為差登候処、御取込之時分委細御／添削被下毎度なから忝奉存候、／則去月廿六日吉田慎斎亭ニ而／致興行首尾好相勤致大慶申候、／毎度私宅ニて相勤可申段申進候処、／当会俄吉田使到来申候故、右之通／慎斎江頼致興行候、慎斎当分／之儀ニ可有御座候へ共、廿六日不快ニ而／出座も不致残念ニ御座候、何も／参り懸り承候躰御座候、将又／来月之兼題当座之詠為差／登候間、乍御六ヶ敷御添削可被下候、／年始之社用私用何かと取込／漸今日為差登申候、別而御添削／御面当ニ思召

松平権之助

四月廿八日　信冨（花押）

羽倉斎様

人々御中

一五　享保九年十月八日　杉浦信濃守国頭書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七（五五九）

尚々、御無事御勤可被成／珍重奉存候、御憑申上候／貴公様御筆跡ハ此便ニ／御下し奉憑候、堂上方／の書なにとそ出来候様／奉憑候、以上、

柳屋手代平六登候ニ付／幸便申上候、弥御堅躰／御勤学可被成と珍重ニ／奉存候、先比町飛脚／便御返書申上候、定而／相届可申推察仕候、／御書物共為登申候、堂上／方書捨之儀申上候、乍／御世話御調奉憑候、其内／貴公御筆之儀ハ何とそ／早御認被下此柳屋便ニ／御下奉憑候、必無御失念／奉憑上候、其節申上候／前方之書物代平蔵／書付致候之通代銭／此便為登申候、たそ／此書付御もたせ大和迄／被遣候、平六方より請取／申候様ニ奉憑候、尤奉書／紙之代も一所に御引取／可被下候、芝崎氏無事／御勤学と存候、宜御心得／可被下候、爰許何も／何替儀無御座罷在候、／猶重而万々可得／貴慮候、恐惶謹言、

杉浦信濃守

十月八日　国（花押）

春満先生

玉案下

一六　享保九年十一月十二日　稲垣太郎左衛門之真書状

「万葉童子問」紙背　切続紙　A・一・二・五六（八九三）

九月十五日・同廿九日之／薫章此間永原氏より／相届致拝見候、先以／御堅安御暮被成候由／珍重之御事存候、不相替／御尋之儀も御座候由／御本望之至存候、依之／又来年ニも御出府は／被成間敷候哉、何とそ今一度／得貴意度願申候、且又／駿河守より成□より被／精進候通合力金指進／申候付、委曲之御紙面／入御念候御事、則在所へ／申遣候、兼而御約束之／百人一首抄中巻為／御見被下、遠境一入之／御懇情と忝奉存候、／追而写候而返進可致候、／八九郎方へ御一封早速／届申候、八九郎申候ハ、徒然草／之御伝書ニ而拙者へも／伝候様ニと被仰下候由、弥／左様之思召ニ候ハヽ八九郎より／可致伝承候哉、是は／願候ても承度義幸ニ／右之思召迄八九郎申／聞候ニ付申進候、詠歌之／義は久々存絶罷在候、／当年は駿河守は御預地／被　仰付初年故歟殊之外／用事多得手透不申候、／夫ともニ何とそ心掛申候而／数とも綴り申候へ共、追而／可入高覧候、御帰京以後も／芝崎氏ニ而は御門友之／衆中月次会も無／間断候間、其内詠草とも／指出し候様被仰下相心得／□□彼是両通之／御細書忝存候、猶期／后音之時候、恐惶謹言、

稲垣太郎左衛門

十一月十二日　之真（花押）

羽倉東丸様

御報

尚々、駿河守方より／不相替金子指進候、御礼之義／委細之御紙

尚々、御同氏河内守殿へ宜御心得可／被下候、将又愚息主税儀弥奉
頼候、／且又秋田氏より三河のいけの橋はしら之由／被致秘蔵を少
送給候間、愚詠送り申度候而／つゝり申候間懸御目候、乍御六ヶ敷
御添削可被下候／奉頼候、已上、

未余寒御座候得共弥御家内御揃／御堅固御務被成候哉承度奉存候、／
此表愚亭無異儀罷在候、御心安思召／可被下候、先日は当月之会詠共
／為差登申候、御覧御添削可被下と奉存候、／先状ニ申進候通当月は
私宅ニ而／会致興行候筈ニ申合候、就夫東湖／詠草遅り御座候へ共、
懸御目御加筆／御座候様申進候様ニと被頼候間認懸／御目候、御加筆
被成被遣可被下候、愚子／次男頃日大字致修行候故東湖／度々被参候
而致御噂申候、手跡門弟／段々繁多罷成隙無御座候へ共、／和歌之会
ニハ何とそ出席申度／との儀ニ御坐候、且又秋田氏より此状／一封御
届申様ニと此間も被申候間／為差登申候、御請取可被下候、扨又／一
両日已前今泉八九郎へ見舞申、／在宿ニ而其節外翁へも始而知人ニ成
／致御噂候、八九郎も何かと主用多御座候間、／駿河守殿四月御在所
へ御越候已後ならてハ、／月並会ニも難致出席由ニ御座候、／今程ハ
出席人数次第ニ減申候而／気之毒ニ御座候、

一去年被仰聞候古今集之御伝授書／御かゝせ可被下由、弥御かゝせ被下
候哉、何とそ／今年中ニも埒明候様奉頼候、筆紙／料之儀先達而差遣
可然候ハヽ可被仰下候、／扨又当地御逗留之内被仰聞候百人／一首之
抄物之儀、御下シ御借可被成由／被仰聞候間、何とそ一生到来之大望
ニ可／致書写候間、何とそ〳〵御借可被下候、若／御手放被成かたく
候ハヽ何とそ御書セ可被下候、／奉頼候、猶期後音之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

二月十一日　好（花押）

羽倉斎様

人々御中

一四　享保九年四月二十八日　松平権之助信富（信允）書状

「松平権之助書状」　折紙　A・三・五（八八六・一）

尚々、勝見杢之助事／松平日州へ朝倉甚十郎を以／頼申候、定而
大坂ニて／杢之助方よりも願も／出可申御事候、ほとなく／相調
候得と存候、熱／之由気之毒事候、／日州も御暇ニて爰元／発足
此節大坂／可為在勤候、

追而、御用等も不絶下田氏／御文段々候哉、当春／勅使参向之節
去春中／御尋之義共書付持参／被上候抔承及候、如何／其義抔ハ
下田氏より／沙汰無之哉、日外／被仰聞候木嶋手筋／調書ハ実録
候哉、何とそ／古書御取出被成候得と／存御事候、且又／下拙無
異儀勤候、可易／御心候、以上、

先月御状拝見愈／御堅固珍重奉拝候、／月岡頼馬も帰府／御無事之段
も承之候、／然は愚歌共御加筆／殊数多進候処委細／被仰聞忝次第御
座候、／よくなをし重而／可進候、此度ハ月並／計進候、御同姓河州
／和歌へ書付被下忝存候、／宜御意得可被計下候、

一去ル比根本大炊頭／私宅へ預尋久々ニて／逢申候、御噂申出候、兼々
／願も為立被申候由申候、／委細承届ケ其以後／下田幸太夫へ知人／
いたし、猶遂内談／願書も出申様可仕候、／此節ハ用事ニて在所へ／
帰候、出府次第可申談候、／追々可申聞候、恐惶／謹言、

同氏主税かたへ之一封御届可被下候奉頼候、以上、

自是以愚冊可得御意と相認候処／去ル十日之貴翰今日到来致／拝見候、時分柄厳寒ニ御座候へ共、弥／御家内御揃御堅固御勤被成候由珍重／不斜奉存候、先比は少々御不快御座候処／此間は御快気被成候段承大悦仕候、／甚寒之節御座候間折角御養保／可被成候、先以当月之会詠兼題／当座之題并点取為差登候処、／委細御加筆御添削被下別而く／忝奉存候、当月は明日慎斎老へ寄合／申筈ニ御座候、就夫此御添削之／御返事いつもよりは遅御座候間、／如何と無御心許今晩書状為差登／御安否承可申と認懸り候処へ、飛脚や／貴翰相届致拝見御堅固之由／承珍重奉存候、将又同名主税義／弥無事ニ罷在候間、気遣仕間敷由／被仰聞申忝致大慶候、緩々逗留もいたして／学文一切立候様被成可被下由御深志／之至忝奉存候、兎角宜奉頼候、／岡嶋氏も未貴亭ニ寄宿故毎夜／文字訳文之会も被成候而、愚息致／出席候旨致大悦候、且又令集解之義／同名手ニ入候様被成置候由忝奉存候、其外／野子所持之和書之外ハ主税へ御写させ／可被下候旨忝奉存候、春ニ成所持之分／書付可懸御目候、只今ハ続日本紀之会／一六二七之日大学殿ニて被成主税も罷出、／済不申所共ハ貴宅ニ而被仰聞被下候段／承忝致大慶候、年内も最早及月迫／御取込可被成候、随而為歳末之御祝儀／金弐百疋致進上候、聊嘉儀之印迄御座候、／猶来陽万喜可得芳意候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

臘月十七日　好（花押）

羽倉斎様

貴酬

一二　享保九年正月三日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、未寒気甚御座候へ共／弥御堅勝御勤被成候哉承度奉存候、／且又歳旦歳暮之愚詠懸御目候、是又乍御六ヶ／敷御添削可被下候、

并書状共御届可被下候奉頼候、已上、

春陽之瑞祥不可有際限候、／弥御家内御堅固御越年可被成と／珍重奉存候、野子義無異儀／致加年候、御心安思召可被下候、／旧臘は当会之月並之会詠為／差登申候、相達可申候、毎度乍／御六ヶ敷御添削可被下候、其節申／進候通当月は廿五日ニ秋田氏亭ニ而／会興行之筈ニ申合候、其内ニ／詠草御添削御下シ可被下候、然は／為年頭之御祝儀御樽代百疋／致進上候、聊表嘉儀験迄ニ／御座候、当地当春は朔日より雨／強降申候而御静謐之御儀ニ而／致大悦候、先以同名主税其御／地ニ而致加年大慶不過之候、諸／事御指南御世話等御礼難申尽／忝奉存候、其御地致相応候哉、／同名無事ニ罷在候由承致安堵候、／長野大学殿ニ而も弥御世話被下候由／忝奉存候、宜御心得可被下候、先為／年始之御祝儀如斯御座候、／猶期永日之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

正月三日　好（花押）

羽倉斉様

一三　享保九年二月十一日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

将又西東中務かたへ御伝書被仰聞、此間出合候間／委細申達候、忝由先は宜申進由ニ候、何かと／当年ハ不幸之義ニて未小屋も聢と懸ケ不申候由／申候、呉々御同氏河内守殿へ宜御心得可被下候、／以別紙可得御意候へハ、御報も御六ヶ敷可有御座／御座(衍)可被成かと差扣申候、其内自是以愚冊／可得御意候、何角と諸用取込候、早々如此御座候、已上、

去月十四日之貴翰同名召連候、下部／両人罷下り去月廿五日ニ致到着候而／相達致拝見候、次第向寒気候へ共弥／御家内無御別条御堅固御勤被成候由承、／珍重不斜奉存候、当方無異儀候間／御心安思召可被下候、同名主税義吉田／首尾能相断申候ニ付、貴亭江去月／十日ニ引越申候由大慶不少候、殊更／御学文所御借被下、其上被入御念御掃除／御畳之表替等迄被仰付被下候由、別而／忝奉存候、併御心安預御世話候義ニ御座候処／御丁寧成御儀被仰付、御心遣之御事と／却而痛入申御儀ニ候、愚息儀二三年も／在京為仕候覚悟ニ御座候間、近比乍／御世話宜様奉頼候、御同氏河内守殿御父子／長野大学殿御懇情之由承忝奉存候、／宜御心得可被下候、其許ニ同名罷在候へハ／愚子安心不過之候、貴様今以／御用繁御隙無御座由御尤之御儀／御労健御事と奉存候、就夫大学殿へ／被仰渡被下候六史会ニ主税も御入／可被下候由、先続日本紀之会去月十七日より／大学殿亭ニ而御始、愚息も罷出候様／被成被下候段別而忝大悦仕候、河内守殿／御息方ニも御出席被成候由良敷と致安／心候、二三年も致在京候ハヽ愚息学問一切／立候様被成可被下候思召之段、殊御所持之／御秘書も御借可被下由何にても承及候、／当座ニて可申進由御丁寧ニ被仰聞／御深志之趣忝奉存候、類聚国史之／文部之一冊同名致返進候由被入御念候而／被仰聞候、国史御所持之分ハ御借可／被下旨段々御懇情之義可謝処不知候、／兎角愚息義御影ニ而関東ニ而目も／明候志もいたし度念願計ニ御座候、／宜奉頼候、且又下田幸大夫殿御書物／奉行ニ役替被　仰付、学問料なとも拝領／之様及承結構儀御座候、其許ニ而も御悦／可被成候、猶期後章之時候、恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

十二月朔日　　好安（花押）

羽倉斎様

貴酬

一一　享保八年十二月十七日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、弥御堅躰之由承安堵珍重／奉存候、主税義其許ニ被差置候而御／深志之段御礼難筆紙謝忝奉存候、且又／来正月より十二月迄之会兼題図書方より／懸御目候処、可然思召候由致大慶候、左候ハヽ弥此／題ニ而読立可懸御目候、扨又雅経百首題之／よミ様後便ニかな御付御下し可被成旨／忝奉存候、時節から何角と取込候、早々／及御報候、御同氏河内守殿・大学殿へも能々／御心へ可被下候、将又中井図書方江之御返事、／御取込故いつかたへも御断被成候間、今度ハ御返事／不被遣候由御尤之御儀ニ候、御書面書付此へ可申達候、／西東中務へ之御伝書も猶又可申通候、東湖／かたへ之御伝書も委細可申達候、此間は次男／大字稽古仕候故度々被参候間可申達候、／御一封も相届可申候、已上、

くたしめ申候段／御推量可被下候、若キ時ハ／憂も一旦のミニて散し／やすく御さ候が、／もはや老の初と成り／申候故か、此度ハ殊之外／いたミ申候而于今心持も／勝不申候、先早々得御意候、／御旅中之御詠玉共も／可在御座候承度存候、

一筆致啓上候、雖／暑気之節候貴様／道中無御障／御上京可被成珍重／奉存候、御滞府中ハ／御寸隙も無御座処ニ／御光来、御指南／被下不浅忝奉／存候、御当地御規模／之御事ニ而首尾好／御暇白銀御拝領／御帰洛之義、千万／目出度我々共迄／大慶此御事候、／暑気之御安否／為可承如此御座候、／猶期后音之時候、／恐惶謹言、

稲垣太郎左衛門

六月廿三日　之真（花押）

羽倉斎様

人々御中

追而、足代此より之壱封／御届申候、以上、

九　享保八年九月二十三日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、御同名河内守殿江も／能々御心得可被下候、已上、

一筆致啓上候、時分柄追日及／冷気候へ共弥御堅固御勤被成候哉／承度奉存候、私宅無異儀罷在候間／御心安思召可被下候、乍毎度会詠為／差登候処御六ヶ敷儀御添削被下、殊更／点取詠草懸御目候処、委細御加筆／被下忝奉存候、殊之外稽古ニ罷成候而／連衆致大慶候、先以御用向之儀／其許江段々申参り御達被成候由珍重／奉存候、且又貴様御眼病之由被仰聞／千万無御心許御座候、今程御快御座候由／承度奉存候、申迄無之候へ共折角／御保養可被成候、爰元月次之会も／当月は十八日ニ瑞泉院亭ニ而いつ／ものことく相勤致大慶候、次第／人すくなニ罷成是耳気之毒ニ／御座候、兎角月並之会一人成共／連衆あつまり候ハヽ相勤可申由、／吉田慎斎老・瑞泉院とハ申合候、／然は世悴主税儀先達而申進候通／此度致上京候間弥奉頼候、先吉田江／数年之名染故遣申候、段々其元へ／可参候、兎角は其許へ之志ニ候間／宜〳〵奉頼候、当夏木村図書へ御咄、／世悴罷登候ハヽ遊山ニ心を寄不申候様／相勤候様ニと之思召之程、図書へ御咄候由、此／砌申聞御深志別而忝奉存候、

一令集解之儀先頃被仰聞御心付／忝奉存候、右集解料物金六両／主税へ遣候間、御調被成候而世悴へ御渡し／可被下候奉頼候、世悴発足ニ付何角と／取込書中無正躰候、猶期後音之時候、／恐惶謹言、

芝崎宮内少輔

九月廿三日　好（花押）

羽倉斎様

机下

一〇　享保八年十二月一日　芝崎宮内少輔好高書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五九（五六二）

尚々、当月之会詠草先達而為／差登申候、相達御添削可被下と奉存候、／御隙無御座候処毎度会詠御添削／被下忝奉存候、先書ニ申進候通明年之月次／兼題も図書方より可申進候、御指図可被下候、／

「下田幸大夫書状」続紙　A-三-一一(八九〇)

昨夜ハ被入御念貴報／被遣被下忝致拝上候、然ハ／今日登城仕雲平殿江／対話仕候処、先日弓具／の鞆の事御物語被成候由、／右鞆の図等書載候書籍／之名被致失念候間、私懸／御目候ハヽ承置可申旨ニ／御座候、

一貴様御事御暇乞御礼旁／雲平殿江御越可被成と御申候由／咄申候処、それ計の義ニ／御座候ハヽ必御無用ニ御坐候、／何そ外ニ御申立被成度事／御座候ハヽ各別ニ候旨相達／候之様ニと御申候間御通達申候、／猶近日以参上御暇乞旁可／得貴意候、拙宅江又々御出／可被下由昨夜被仰下候得共、／御取込ニ而も可有御座候間／御暇乞一通之儀ニ而御坐候ハヽ／必御出御無用ニ被成可被下候、／已上、

五月十七日

六　享保八年五月十七日　下田幸大夫師古書状

「下田幸大夫書状」続紙　A-三-一一(八九〇)

為先刻之貴報書状／忝致拝上候、鞆之義ニ付而／被仰聞候趣承知仕候、／明日雲平殿へ御越被成／候ハヽ、右之訳且又御出／之儀被留候事も御咄／可被成候、若明日御逢不／被成候ハヽ明晩御しらせ／可被下候、明後日登／城仕候間鞆之儀も可／申達候、

一近日御出可被下旨忝奉／存候、乍然御私用御取込／たるへく候間必御無用／御座候、以上、

五月十七日

七　享保八年六月十五日　芝崎主税好寛書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙二紙　A-一-二-一五九(五六二)

猶々、恩借仕候御書物共／大方写申候得共手前／用事取紛、其上顔ニ腫物／出来候而様々此間快然／罷成候故写出来不申候、／写仕舞次第追而返進／可仕候、已上、

一筆致啓上候、暑気／之節御座候得共道中／無御別条御帰京、弥以／御清堅可被成御座／珍重奉存候、御逗留中は／何角御用多御坐候処／預御世話別而忝奉存候、／拙者儀何とそ当秋中／致上京可得貴意奉存候、／其節は又々御世話／被成被下候ハヽ可忝候、／御上着以後御左右／不承候間如此御座候、／猶重而以愚札可申上候、／恐惶謹言、

芝崎主税

六月十五日　好寛（花押）

羽倉斎様

（異筆）「倉斎様」

八　享保八年六月二十三日　稲垣太郎左衛門之真書状

「稲垣太郎左衛門之真書状」　折紙　A-三-四(九五〇)

猶々、私義も先頃申／進候通病人御座候而、／御発足之砌も御見廻も／不申残念ニ存候、被仰置候／御状箱相達御添作も／被下別而忝次第存候、／当十八日会ニ而御座候へ共／右之病人終不相叶、／十七日ニ及不幸候故懐紙も／不差遣候、最愛之妻故／一入胸ヲ

／候得ハ若品ニより知／不申儀も可在之哉、何とそ／御用も様子よく勤／候様ニ仕度存候、就夫／貴様御噂申達、若／堂上方ニて滞儀にて／貴様へ懸御目承候様ニ／申談候、不計　／上使屋敷へ御出候様ニ、／対馬守方より申進候儀／可在之哉、左候ハヽ／御出可被遣候、私用／之儀ニ無之候間故実／相尋候て御通伝、／何様於拙者仕度存候、／御用之品ハ咄不申／装束抔之儀と計申候、／其中鎧ひたゝれを／見候哉と相尋候、此儀も／御尋候ヶ条の内と／察申候、前々御尋も／御座候而達／上聞候儀も有之候へ共、／得と不相聞候間、此度／対馬守承合、　／上へも御得心在之様／可仕候旨申候、旁々／首尾好御用済／候様ニ仕度儀御座候、

一貴様御下向思召立／

如何可被成候哉、先年／御在府申候、此節は／上ニも　故実御尋／近頃ハ日本之書籍／御尋之御書付抔出申候、／此時節何とそ御参府／御在合候様願申候、左候ハヽ／御一分の御身上計／無之、御先祖御兄弟／社の為ニも可然存事候、／令集解抔も／御尋ニ而前方調置／書物此度指上ケ候、／尤心かけ仕候、御同姓／主膳正方へも御尋、／書物之儀触可相廻／之候間御承知可被成／存候、御尋之内之／書物御所持候ハヽ御上ケ／被成候様存候、断絶之儀／気之毒思召候ハヽ其段／御願被成候て、残り御所持／候様へも可罷成候、只今迄も／御内々ニ而ハ御尋在之／候へ共、此度ハ表立／急度相触候歟、以上、／恐惶謹言、

正月十四日　　信允（花押）

羽倉斎様

人々御中

三　享保七年二月十六日　松平権之助信允書状

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七（五五九）

尚々、余寒候得共／弥御無事珍重／存候、中条大和之方江／御状相届申候、已上、

先月廿八日之一札忝／致拝見候、弥御無事／御重年珍重御坐候、／手前無異儀加年仕候、／御事多中年初／御嘉詞被仰下不浅／存候、猶別紙及仕／候之間早々、恐惶謹言、

松平権之助

二月十六日　信（花押）

羽倉斎様

□□

四　享保八年四月十二日　下田幸大夫師古書状

「下田幸大夫書状」続紙　A・三・一一（八九〇）

昨日は伺候仕御指南／忝奉存候、其上種々預／御馳走奉痛入候、弥明日は／例之時分御出被下候様／仕度奉存候、且昨日罷帰／候節雨降出し申候ニ付／御傘為持被下忝奉存候、／則返進仕候、已上、

四月十二日

五　享保八年五月十七日　下田幸大夫師古書状

一　**享保六年七月十日　勝見杢之介正景書状**

「伊勢物語童子問」紙背　折紙　A・一・二・一五七(五五九)

尚々、おしまとのへも／御心得頼上候、根本殿ニも御堅固／御深宜有之、浜松ニ而も御無事ニ／御入候や承度奉存候、猶別紙御覧／可被下候、将亦喜多坊駿河より紅／寒菊今ニ越不申不苦ニ哉、／尚々思召も迷惑仕候、

一毫啓上仕候、日外比ハ無晴間も／霖雨湿深□□照続今以難／堪強残暑御坐候、如何貴公様弥／御堅剛御凌所に、御家門中御／安泰被成御座候や承度、片心ニ差／還二・三月中被蒙仰候紅寒菊／南京より参次第東都へ直ニ御下し／被成候様ニ、土付仮植いたさセ進／申砌、可呈愚簡と見合及／遅滞、四・五月ハ長屋ニ差番候／事ニ付世話取込候而無音、先／月よりハ暑ニ病候故か例之／痞ニ而物六ヶ敷、別而筆廻り／不申意外之御疎遠御懐敷／奉存候、遅き事ニ而ハ無之候得共姪／長病申段段ニ快復、家内／息災暮申候、乍貴報正廿八日／御書翌日近藤より届拝見／仕候、備後表河州公ニも御望ニ候／間、大宮司殿より被仰遣候砌御一緒ニ／取よせ可進候由、□キ御事爰／元阿部伊勢守殿御留守居／江坂宗左へ頼置候間、何時ニ而も／可被仰下候、家老側ニ勤候者杉采女／よりも用事候ハヽ申遣候へと折々／申来候、此仁小子佐州方ニ勤申候／節之同役之甥ニ而心安通路／仕候、此等之内へ頼可申候、無御心／置可被仰下候、筆末成申候ニ管城／三対被恵下不浅忝祝納用／達仕候、旧冬ハ小林洞庵老預尋ニ／呉候、御噂仕候関口杢左金龍より／宜相心得申上候へと、春中文ニ／ニ申越候、姉へ御伝簡申聞候、／忝奉存候、宜御礼申上候得と／申候、且又長野大学殿より六月十／八日・四月九日別章特ニ五明扇一箱／被還御意御心入忝奉存候、□□／被仰演可被下候、猶期後音之時候、／恐惶不宜、

勝見杢之介

七月十日　　正景（花押）

羽倉斎様

参人々御中

二　**享保七年正月十四日　松平権之助信允書状**

「松平権之助書状」　折紙三紙　A・一・二一・一五七(五五九)

猶々、誠ニ〳〵久々御左右／不承之御遠々敷存候、／何とそ春中ハ御下向の／思召立抔も有之様存候、／乍然御暮しの儀／御心当抔無之而ハ罷成間敷／存候、其儀ニ付而ハいヶ様共／御相談も及心力候程ハ／可仕候、定而牧野／駿河守殿より于今／御通路も可在之存候、／今程ハ隠居ニて子息／駿河守改被申候、猶重而以上、

新春之御慶／重畳申納候、弥／御息才御重年／可被成珍重存候、手前／無異儀致加年候、／旧冬京都ニ罷在／同姓紀伊守家来方迄／相届ケ候様書状／遣候、其前共両度／指越候得共、御状于今／不来久々御左右も／不承候、若御眼病／御不出来ニ候哉無心元、／当春横井源八方迄／承合候処、今程御眼病／御快御無事候段／承之珍重存候、

一今度京都江／年始之為御使中条／対馬守罷登候処ニ、／御内用被仰付候、対馬守ハ／拙老怜舅ニて／御座候、夫故御内用／之わけも承候へハ、装束／之儀抔堂上方へ／承合候様ニ被仰付候、／尤堂上方ニ而も相済／可申候へ共、故実之わけニ

四六　享保十一年十一月八日　芝崎宮内少輔好高書状

四七　享保十一年十一月十四日　松平権之助信富(信允)書状

四八　享保十一年十二月二日　芝崎宮内少輔好高書状

四九　享保十一年十二月二日　喜多埜隠士（勝見杢之介正景）書状

五〇　享保十一年十二月十四日　松平権之助信富(信允)書状

五一　享保十二年正月三日　松平権之助信富(信允)書状

五二　享保十二年正月十二日　芝崎宮内少輔好高書状

五三　享保十二年正月十三日　西条主馬書状

五四　享保十二年正月十四日　松平権之助信富(信允)書状

五五　享保十二年正月十五日　柘植伝左衛門知清書状

五六　享保十二年正月二十一日　杉浦修理亮国頭書状

五七　享保十二年正月二十三日　杉浦まさき消息

五八　享保十二年正月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状

五九　享保十二年閏正月九日　下田幸大夫師古書状

六〇　享保十二年二月二十日　芝崎宮内少輔好高書状

六一　享保十二年二月二十三日　芝崎宮内少輔好高書状

六二　享保十二年二月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状

六三　享保十二年三月十八日　勝見杢之介正景書状

六四　享保十二年三月二十七日　柘植伝左衛門知清書状

六五　享保十二年四月三日　芝崎宮内少輔好高書状

六六　享保十二年四月二十二日　芝崎宮内少輔好高書状

六七　享保十二年四月二十九日　芝崎宮内少輔好高書状

六八　享保十二年七月四日　芝崎宮内少輔好高書状

六九　享保十二年七月十五日　柘植伝左衛門知清書状

七〇　享保十二年七月二十一日　杉浦修理亮国頭書状

七一　享保十二年十月十一日　杉浦修理亮国頭書状

七二　享保十二年十月十二日　勝見杢之介正景書状

七三　享保十二年十月十八日　芝崎宮内少輔好高書状

七四　享保十二年十一月二十二日　喜多埜隠士(勝見杢之介)正景書状

七五　享保十三年正月五日　勝見杢之介正景書状

七六　享保十三年正月二十一日　芝崎宮内少輔好高書状

七七　享保十三年十二月一日　柘植伝左衛門知清書状

目次

一　享保六年七月十日　勝見杢之介正景書状
二　享保七年正月十四日　松平権之助信允書状
三　享保七年二月十六日　松平権之助信允書状
四　享保八年四月十二日　下田幸大夫師古書状
五　享保八年五月十七日　下田幸大夫師古書状
六　享保八年五月十七日　下田幸大夫師古書状
七　享保八年六月十五日　芝崎主税好寛書状
八　享保八年六月二十三日　稲垣太郎左衛門之真書状
九　享保八年九月二十三日　芝崎宮内少輔好高書状
一〇　享保八年十二月一日　芝崎宮内少輔好高書状
一一　享保八年十二月十七日　芝崎宮内少輔好高書状
一二　享保九年正月三日　芝崎宮内少輔好高書状
一三　享保九年二月十一日　芝崎宮内少輔好高書状
一四　享保九年四月二十八日　松平権之助信富(信允)書状
一五　享保九年十月八日　杉浦信濃守国頭書状
一六　享保九年十一月十二日　稲垣太郎左衛門之真書状
一七　享保十年正月二十日　稲垣太郎左衛門之真書状
一八　享保十年二月一日　芝崎宮内少輔好高書状
一九　享保十年二月三日　芝崎宮内少輔好高書状
二〇　享保十年二月八日　芝崎宮内少輔好高書状
二一　享保十年三月三日　芝崎宮内少輔好高書状
二二　享保十年三月五日　杉浦信濃守国頭書状
二三　享保十年三月七日　芝崎宮内少輔好高書状
二四　享保十年四月二十二日　芝崎宮内少輔好高書状
二五　享保十年四月二十九日　松平権之助信富(信允)書状
二六　享保十年四月三十日　芝崎宮内少輔好高書状
二七　享保十年八月八日　勝見杢之介正景書状
二八　享保十年八月二十五日　喜多埜隠士（勝見杢之介正景）書状
二九　享保十年九月二十九日　勝見杢之介正景書状
三〇　享保十年九月二十九日　芝崎宮内少輔好高書状
三一　享保十年十月六日　村井久右衛門政方書状
三二　享保十年十月九日　杉浦信濃守国頭書状
三三　享保十年十月十三日　松平権之助信富(信允)書状
三四　享保十年十二月七日　村井久右衛門政方書状
三五　享保十年十二月二十四日　芝崎宮内少輔好高書状
三六　享保十一年正月十二日　芝崎宮内少輔好高書状
三七　享保十一年正月十五日　芝崎宮内少輔好高書状
三八　享保十一年正月十六日　芝崎宮内少輔好高書状
三九　享保十一年二月十一日　柘植伝左衛門知清書状
四〇　享保十一年二月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状
四一　享保十一年三月十四日　柘植伝左衛門知清書状
四二　享保十一年六月二十七日　勝見杢之介正景書状
四三　享保十一年六月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状
四四　享保十一年八月二十八日　芝崎宮内少輔好高書状
四五　享保十一年九月二十六日　松平権之助信富(信允)書状

礎を作った人物として知られているが、元禄十六年に芝崎好高の縁で春満に入門した。また、春満の姪まさきを娶り、賀茂真淵を春満に逢わせた逸話も知られている。芝崎好高の書状の中には、杉浦が年頭に江戸城に参賀し、引き続き諏訪社殿修復願のために江戸に滞在している様子が窺えるが、杉浦は多忙ながらも書状によって春満から国学の指導を受けている。

杉浦まさきは、春満の妹茂子(伏見稲荷社目代西羽倉信元の妻)の娘で、杉浦国頭の妻となった。掲載した消息は、年頭の挨拶と杉浦が出府した浜松の様子を春満に報告したものである。

稲垣太郎左衛門之真は、越後長岡藩主牧野駿河守忠辰の家老である。牧野自身が春満の門人として神道伝授を受け、春満を招聘しようとしたと伝えられており、家臣の中にも門人が多かった。稲垣の書状には、門人として、また牧野の家老としての二つの立場が示されている。

勝見杢之介正景は、浪人で春満の縁者に当たるらしいが、出自や経歴は不明な人物である。ただ大坂・京都などを往来し、豊富な古典の知識を持って春満の書籍収集の手足となり、さまざまな知人を介して情報収集に当たっている。かつ植物に興味を持ち、萩や菊などの珍しい品種を春満に贈る趣味人でもある。一方で西条主馬に砲術を学び、仕官を望んで活動し、松平権之助が周旋を試みるなど、勝見の書状からは、春満の周辺で従来知られないさまざまなネットワークの存在を浮かび上がらせている。

村井久右衛門政方は、出羽秋田能代の商人であり、春満の弟子の一人である。

西条主馬は素性が明らかではないが、勝見杢之介の砲術の師である。新型の鉄炮を考案して、幕府に採用されるようにと勝見を介して仲介を依頼してきた。ただ採用はされなかった様子である。

掲載した書状はごく一部ではあるが、享保期の学問・社会・政治の中でほとんど知られていない荷田春満の活躍と多様な業績を、世に問う史料となると確信する。

史料翻刻に当たっては近世一般の史料集に準じて、以下のようにした。

一　漢字は常用漢字を基本とし、その他の漢字は旧字とした。平仮名・片仮名はそのままとし、変体仮名は平仮名に改めた。ただし助詞の江・而は、漢字で示した。合字は現行の仮名に直した。

二　近世慣用の文字はそのままとし、誤字・脱字などは該当の文字の右傍に( )でその旨を示した。

三　欠字は一字あけ、平出は二字あけた。

四　虫損などで文字が不明な場合、字数を□で示し、不明な箇所は「　」で示した。

五　抹消・訂正は、抹消部分を【　】で括り、その下に訂正の文字を( )で示した。

六　異筆などは「　」で括り、その上に(異筆)などと注記した。

七　段落の切れ目に／を入れ、折紙の料紙が二紙以上にわたるものは、料紙の切れ目を一行あけた。

掲載史料は、芝崎好高の書状を中心に本研究会で翻刻し検討したものを、石岡康子氏が校正しその他の史料を翻刻した。

ここに収録した史料は、享保六年から十三年にかけて門人などから荷田春満の元に届いた書状の一部である。春満は、この時期享保七年七月から翌八年五月まで江戸にあり、歌会などによって門人の指導に当たるとともに、書物奉行下田幸大夫師古などを通じて、幕府から古典・故実などの諮問を受け書物蒐集を依頼されていた。門人との交流や幕府の御用は、伏見に帰郷してからも続いた。掲載した書状は、以上のような春満の活動を示すものが多い。春満は、門人などの書状の裏を綴ったり貼付したりして自身の著作の草稿に利用した。「万葉童子問」〔A・一・二・一五一(五四八)〕・「伊勢物語童子問」〔A・一・二・一五二(五四九)〕・「伊勢物語童子問」〔A・一・二・一五五(五五七)〕・「伊勢物語童子問」〔A・一・二・一五七(五五九)〕・「伊勢物語童子問」〔A・一・二・一五九(五六二)〕は、その紙背が門人たちの書状になっている。ただ、表裏の墨が互いに滲み、表裏ともに判読しにくい史料であり、虫損・欠損などとも重なり、判読不能な箇所も多く存在する。その他、草稿の紙背には使われていない書状も多数存在する。

ここでは、松平権之助信富・下田幸大夫師古・柘植伝左衛門知清・芝崎宮内少輔好高・芝崎主税好寛・杉浦信濃守国頭・杉浦まさき・稲垣太郎左衛門之真・勝見杢之介正景・村井久右衛門政方・西条主馬の書状を掲載した。

松平権之助信富(信允)は、二千石の旗本であり、『寛政重修諸家譜』には「信綿」と記される。徒頭・先手弓頭を経て享保五年持筒頭、同十年西丸付、同十六年西丸新番頭、さらに西丸小性組番頭、西丸書院番頭を歴任し、寛延三年正月に没した。従来彼が国学に関係していたことは知られていないが、和歌や古書の知識も豊富で幕府内において高家中条大和守や書物奉行下田師古などと春満を支援し、春満の幕府出仕を願っていたことが、書状から窺える。

下田幸大夫師古は、二百俵の旗本で、先手組与力から表右筆、享保元年奥右筆に進み、書物収集の任に当たって享保改革の文化政策に関わり、享保八年書物奉行に転じた。書物収集を春満に依頼し、古典や故実につき春満に質問を重ねている様子は、書状に詳細である。ただし『神道大系』収録の書状は、紙幅の関係から掲載しなかった。師古は享保十三年に三十七歳で死去している。

柘植伝左衛門知清は、五百三十石の旗本で大番組に属し、延享元年五十八歳で死去した人物である。従来国学上の業績は全く知られていないが、春満に書状で鋭い質問を繰り返しており、とくに歌学の造詣が深かった様子である。

芝崎宮内少輔好高は、江戸神田明神の神職であり、春満の江戸の門人の中心となった人物である。書状には「好安」と署名され、花押も「やす」の仮名を図案化しているが、知られている「好高」で統一した。春満の帰郷後も江戸の歌会の中心となり、詠草を春満に送って添削を請い、子息の好寛を伏見の春満の元に送って修学させている様子は書状に詳しい。彼の書状は、「伊勢物語童子問」などの紙背に利用された門人の書状の中では最も多い。彼の書状は他の書状の年代推定の史料ともなりうるものであるので、現存するすべての書状を掲載した。

芝崎主税好寛は、好高の子息であり、彼の伏見遊学中の様子は、父の書状の中に詳細である。

杉浦信濃守国頭は、遠江浜松諏訪社の大祝であり、遠州国学発展の基

史料 荷田春満宛書状

平成15年度～18年度　科学研究費補助金
基盤研究（B）（2）研究成果報告書
課題番号15320086

近世国学の展開と荷田春満の史料的研究

平成19年（2007年）3月31日発行

研究代表者　根岸茂夫（國學院大學文学部教授）
発　　行　國學院大學文学部
〒150－8440
東京都渋谷区東4丁目10番28号
印　　刷　株式会社　東プリ